

静岡県富士郡芝川町

# 大鹿窪遺跡 窪B遺跡

一県営中山間地域総合整備事業柚野の里ほ場整備に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書一

(遺物編)

2006年  
芝川町教育委員会



大鹿窪遺跡 3-1 調査区 1号竖穴状遺構出土石器



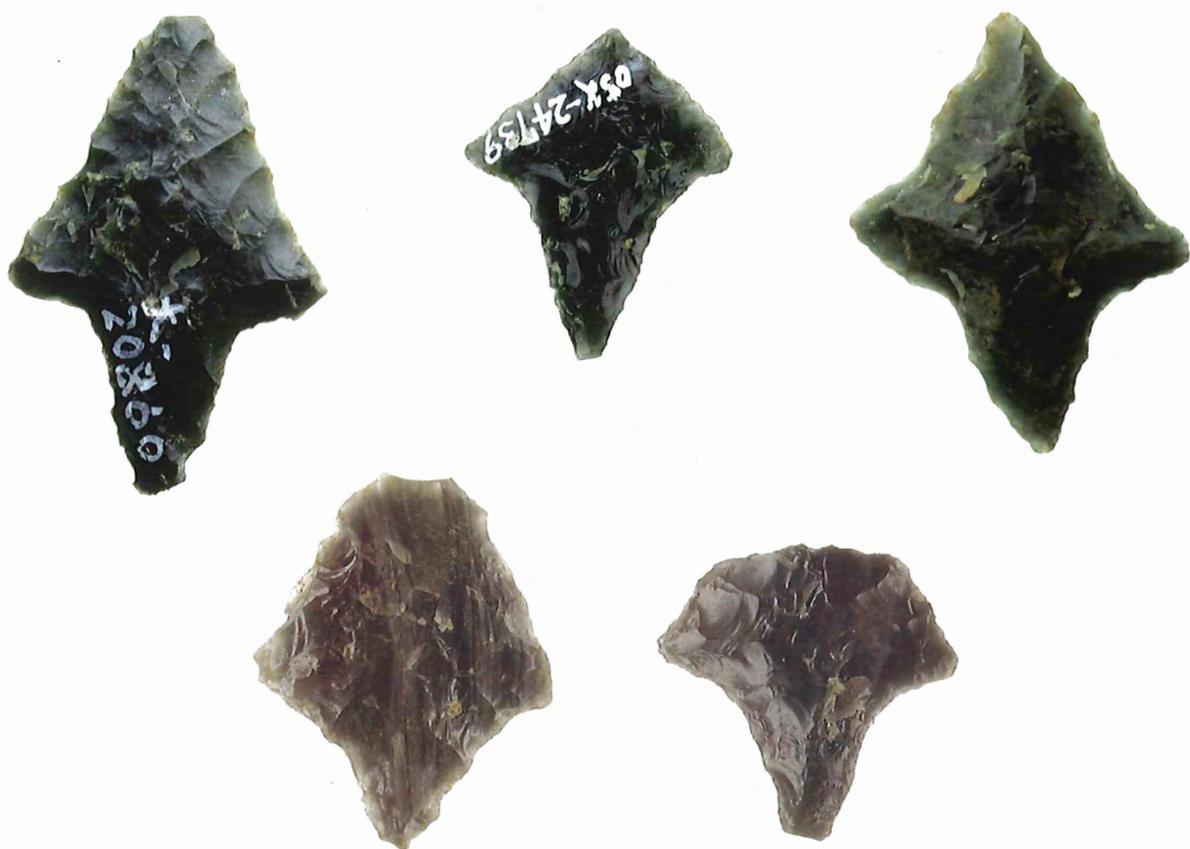
大鹿窪遺跡 3-1 調査区 1号竖穴状遺構出土押压縄文土器



大鹿窪遺跡 3-1 調査区 52号土坑出土隆線文土器



大鹿窪遺跡 3-3 C 調査区 10号竪穴状遺構出土微隆起線文土器



大鹿窪遺跡 3-3C調査区 10号竪穴状遺構出土小形有舌尖頭器



大鹿窪遺跡 3-3C調査区 10号竪穴状遺構出土石鏃



大鹿窪遺跡 3-3E調査区 8号竖穴状遺構出土尖頭器①



大鹿窪遺跡 3-3E調査区 8号竖穴状遺構出土尖頭器②

# 例 言

1. 本書は静岡県富士郡芝川町大鹿窪に所在する大鹿窪遺跡・窪B遺跡の発掘調査報告書（遺物編）である。

2. 本書に係わる調査は、平成13年10月27日から平成14年3月22日まで大鹿窪遺跡・窪B遺跡の発掘調査を実施した。

整理事業として発掘調査報告書（遺構編）は平成14年9月27日から平成15年3月17日まで実施して刊行された。

発掘調査報告書（遺物編）は平成16年度事業として平成16年9月27日から平成17年3月20日、平成17年度事業として平成17年9月5日から平成18年3月17日まで実施した。

3. 整理事業にあたっては芝川町教育委員会が主体者となり、事業を進めた。

調査主体者	芝川町教育委員会	教育長	佐野 實
		事務局長	遠藤 明男
		主 幹	政野 勝樹
		担 当	保竹 貴幸

事業主体者	静岡県富士農林事務所
指導機関	静岡県教育委員会文化課
実施機関	(株)東日文化財調査室

4. 整理事業は芝川町教育委員会委託のもと、株式会社東日文化財調査室が実施した。

資料整理参加者 小金澤保雄・小金澤彩可・瀬川裕市郎・渡邊恩・長谷川順子・  
秋山富士子・井倉洋子・田中洋子・成岡直美・南雲淳子・影島大地  
小谷亮二・高橋章・佐藤保子・芳村鈴子・芳村竜也・赤井とし子・  
山本和美・内山良美・山下和美  
森島富士夫・伊藤恒彦・角張淳一・(株)アルカ

附編の原稿執筆は以下の通りである。

「大鹿窪遺跡出土黒曜石の原産地推定」 池谷信之  
「大鹿窪遺跡出土土器の産地について 胎土の重鉱物組成と元素組成から見た」 増島淳  
「静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物のC14年代測定」 小林謙一

5. 報告書作成においては、次の方々にご指導・ご助言を賜った。（敬称略）

植松章八・大塚達朗・岡村道雄・加藤勝仁・金子直行・金子浩之・小崎晋・小林謙一・小林達郎・  
坂井秀弥・笹原芳郎・佐野五十三・白石浩之・杉山宏夫・鈴木敏中・鈴木正博・鈴木保彦・  
高尾良之・鶴田晴徳・富樫孝志・戸田哲也・中川律子・中嶋郁夫・長野康敏・馬飼野行雄・  
町田勝則・松本一男・宮崎朝雄・向坂鋼二・守屋豊人・渡井英誉

6. 本書に係わる発掘調査の記録と遺物は、芝川町教育委員会で保管している。

# 凡 例

1. 基準点測量については以下である。

グリッド・遺物等で使用している公共測量値は旧日本測地系第8系である。

2. 土器拓影図実測図の表記については以下である。

輪積等による接合があるもの一部を別実測図で表記する。

3. 石器実測図の表記については以下である。

磨面はスクリーントーンで表記する。

磨面の範囲は 直線 で表記する。

敲面の範囲は 破線 で表記する。

着柄等による摩滅等はスクリーントーンで表記する。

4. 土器観察表の表記については以下である。

(外) 外面、(内) 内面を意味する。

# 目次

例言

凡例

大鹿窪遺跡

1 遺物

(1) はじめに	3
(2) 土器の群・類・種	3
(3) 調査区の遺物	7
2-2 調査区	7
2-3 調査区	7
2-4 調査区	7
2-5 調査区	10
3-1 調査区	18
3-2 A・B 調査区	144
3-3 A 調査区	155
3-3 C 調査区	158
3-3 D・E 調査区	169
3-4 調査区	176

2 小 結 180

窪B遺跡 189

1 遺物 191

(1) 調査区の遺物 191

参考・引用文献 215

報告書抄録 218

附 編

「大鹿窪遺跡出土黒曜石の原産地推定」 池谷信之 265

「大鹿窪遺跡出土土器の産地について—胎土の重鉱物組成と元素組成から見た—」 増島淳 278

「静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物のC14年代測定」 小林謙一 295

## 挿図目次

図1-1	大鹿窪遺跡と窪B遺跡の調査区とグリッド配置	4
図1-2	3-1調査区 縄文時代草創期 遺構全体図	5
図2-1	2-2調査区 縄文時代 遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図	7
図3-1	2-3調査区 弥生時代以降 グリッド出土 石器分布図	8
図3-2	2-3調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図	13
図4-1	2-4調査区 縄文時代 グリッド出土 遺物分布図	9
図4-2	2-4調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図	13
図4-3	2-4調査区 中世 遺構出土 陶磁器分布図	10
図4-4	2-4調査区 中世 34号土坑出土 陶磁器実測図	14
図5-1	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図	11
図5-2	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図	14
図5-3	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図	12
図5-4	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図	15
図5-5	2-5調査区 中世 1号土壇墓出土 銭貨分布図	16
図5-6	2-5調査区 中世 1号土壇墓出土 銭貨拓影図	16
図6-1	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 土器分布図	19
図6-2	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	20
図6-3	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	21
図6-4	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器実測図①～⑧	22～29
図7-1	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器分布図	33
図7-2	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	34
図7-3	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	35
図7-4	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器実測図①～⑧	36～43
図8-1	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器分布図	45
図8-2	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	46
図8-3	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	47
図8-4	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器実測図	48
図9-1	3-1調査区 縄文時代草創期 4・5号竪穴状遺構出土 土器分布図	51
図9-2	3-1調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	52
図9-3	3-1調査区 縄文時代草創期 4・5号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	53
図9-4	3-1調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器実測図①～④	54～57
図10-1	3-1調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	60
図10-2	3-1調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 石器実測図①～③	61～63
図11-1	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器分布図	66
図11-2	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	67
図11-3	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	68
図11-4	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 石器実測図①～④	69～72
図12-1	3-1調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 土器分布図	75

図12-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図①~②	76~77
図12-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	79
図12-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	石器実測図①~⑤	80~84
図13-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	土器分布図	87
図13-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	88
図13-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	88
図13-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	石器実測図	89
図14-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	土器分布図	92
図14-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	92
図14-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	93
図14-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	石器実測図①~⑤	93~97
図15-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	土器分布図	99
図15-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	99
図15-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	100
図15-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	石器実測図	100
図16-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	14号竪穴状遺構・53号土坑出土	遺物分布図	101
図16-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	14号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	102
図17-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	51・52号土坑出土	遺物分布図	103
図17-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	51号土坑出土	土器拓影・実測図	104
図18-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	52号土坑出土	土器拓影・実測図	105
図19-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	土器拓影・実測図	106
図19-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	石器実測図	106
図20-1	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図①~④	108~111
図20-2	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図①~⑨	113~121
図20-3	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器・剥片他分布図①~④	125~128
図20-4	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図①~⑬	130~142
図21-1	3-2 A・B 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図	145
図21-2	3-2 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図①~②	146~147
図21-3	3-2 A・B 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器・剥片他分布図①~②	149~150
図21-4	3-2 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図①~④	151~154
図22-1	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図	155
図22-2	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	156
図22-3	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器・剥片他分布図	157
図22-4	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図	157
図23-1	3-3 C 調査区	縄文時代	10号竪穴状遺構・グリッド出土	土器分布図	159
図23-2	3-3 C 調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	160
図23-3	3-3 C 調査区	縄文時代	10号竪穴状遺構・グリッド出土	石器・剥片他分布図①~②	161~162
図23-4	3-3 C 調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	石器実測図①~③	163~165
図24-1	3-3 C 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	166
図24-2	3-3 C 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図	167
図25-1	3-3 D・E 調査区	縄文時代	8号竪穴状遺構・グリッド出土	石器・剥片他分布図	170

図25-2	3-3 E調査区	縄文時代草創期	8号竪穴状遺構出土	石器実測図①~③	171~173
図26-1	3-3 E調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図	174
図26-2	3-3 E調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	173
図27-1	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	遺物分布図	176
図27-2	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	177
図27-3	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図	178
図28-1	大鹿窪遺跡	縄文時代草創期	隆線文土器		180
図28-2	大鹿窪遺跡	縄文時代草創期	押圧縄文土器		181
図28-3	大鹿窪遺跡	縄文時代草創期	石器①~④		183~186

## 表目次

表1	調査区出土	土器観察表	195
表2	調査区出土	石器観察表	209

## 写真図版目次

巻頭カラー01	大鹿窪遺跡	3-1調査区	1号竪穴状遺構出土石器		
巻頭カラー02	大鹿窪遺跡	3-1調査区	1号竪穴状遺構出土押圧縄文土器		
巻頭カラー03	大鹿窪遺跡	3-1調査区	52号土坑出土隆線文土器		
巻頭カラー04	大鹿窪遺跡	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構微隆起線文土器		
巻頭カラー05	大鹿窪遺跡	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構出土小形有舌尖頭器		
巻頭カラー06	大鹿窪遺跡	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構出土石鏃		
巻頭カラー07	大鹿窪遺跡	3-3 E調査区	8号竪穴状遺構出土尖頭器①		
巻頭カラー08	大鹿窪遺跡	3-3 E調査区	8号竪穴状遺構出土尖頭器②		
写真1-1	2-3調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	221
写真2-1	2-4調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	221
写真2-2	2-4調査区	中世	34号土坑出土	陶磁器	221
写真3-1	2-5調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	222
写真3-2	2-5調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	222
写真3-3	2-5調査区	中世	1号土墳墓出土	銭貨	222
写真4-1	3-1調査区	縄文時代草創期	1号竪穴状遺構出土	土器	223
写真4-2	3-1調査区	縄文時代草創期	1号竪穴状遺構出土	石器①~③	224
写真5-1	3-1調査区	縄文時代草創期	2号竪穴状遺構出土	土器①~②	226
写真5-2	3-1調査区	縄文時代草創期	2号竪穴状遺構出土	石器①~②	228
写真6-1	3-1調査区	縄文時代草創期	3号竪穴状遺構出土	土器①~②	229
写真6-2	3-1調査区	縄文時代草創期	3号竪穴状遺構出土	石器	230
写真7-1	3-1調査区	縄文時代草創期	4号竪穴状遺構出土	土器	231
写真7-2	3-1調査区	縄文時代草創期	4号竪穴状遺構出土	石器①~②	231
写真8-1	3-1調査区	縄文時代草創期	5号竪穴状遺構出土	土器①~②	232
写真8-2	3-1調査区	縄文時代草創期	5号竪穴状遺構出土	石器	234

写真9-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	6号竪穴状遺構出土	土器	235
写真9-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	6号竪穴状遺構出土	石器	236
写真10-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	土器①～②	237
写真10-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	石器①～③	238
写真11-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	土器	241
写真11-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	石器	241
写真12-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	土器	242
写真12-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	石器	242
写真13-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	土器	243
写真13-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	石器	243
写真14-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	14号竪穴状遺構出土	土器	243
写真15-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	51号土坑出土	土器	244
写真16-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	52号土坑出土	土器	244
写真17-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	土器	245
写真17-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	石器	245
写真18-1	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器①～⑧	245
写真18-2	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器①～③	252
写真19-1	3-2 A調査区	縄文時代	グリッド出土	土器①～②	255
写真19-2	3-2 A調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	256
写真20-1	3-3 A調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	257
写真21-1	3-3 C調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	土器①～②	257
写真21-2	3-3 C調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	石器①～②	259
写真22-1	3-3 C調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	260
写真22-2	3-3 C調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	260
写真23-1	3-3 E調査区	縄文時代草創期	8号竪穴状遺構出土	石器	261
写真24-1	3-3 E調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	262
写真25-1	3-4 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	262

写真25-2 3-4調査区 縄文時代 グリッド出土 石器……………262  
窪B遺跡

## 図版目次

図1-1 窪B遺跡 縄文時代 遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図……………192

# 大鹿窪遺跡

# 1 遺物

## (1)はじめに

大鹿窪遺跡の西側には新第三紀の標高 400～450 mの天守山地、その山裾には芝川がともに南北に走り、東側には古富士火山によって形成された標高 300 mの羽鮒丘陵があり、西・南・東を囲まれるように所在しているため、冬季昼間は、季節風が強く吹くことが極めて少なく体感温度が温かく感じられる。また遺跡内には、新富士火山初期の活発な火山活動期に形成されたと推定されている芝川溶岩流を諸所に見ることができ、遺跡内の地形に変化を与えている。このような自然環境と、発掘調査時の調査区が細長く東西約2700m、南北約1950mと広範囲に渡っているため、調査区ごとの遺構確認面の地形は一様でなく変化が認められた。それは縄文時代草創期の生活面そのものが窪みの埋没谷と小さな壁の溶岩流、その間のほぼ平坦な地形にあり、遺跡全体の景観はこれら埋没谷と溶岩流がほぼ南北方向に併行し、全体に交互に発達するという起伏に富んだ景観を呈していたことが調査によって明らかになった。当時の人々にとっての生活領域もその地形から制約を受けていたと推定される。他方、こうした地形を積極的に利用することによって生活が成り立っていたことも推定される。

3-1 調査区は縄文時代草創期の隆線文土器・爪形文土器・押圧縄文土器等が竪穴状遺構から出土する集落跡が検出された調査区である。調査区の西には2-5 調査区に向かってやや急に傾斜して下がる1号埋没谷がある。1号埋没谷の最も低い場所の標高は約171mで、集落跡が分布する縄文時代草創期の検出面から約2 m程低まっている。北西から南東方向にかけては芝川溶岩流が比高約1 m程の高さをもって地形を区切っている。これらの地形に挟まれた、東から西に向かって標高を極めて緩やかにさげる傾斜面に、11基の竪穴状遺構をはじめとする配石遺構・集石遺構・土坑が広場を囲むようにもみえる配置で分布している。さらに竪穴状遺構は富士山の方向を仰ぎ見るように馬蹄形に配置されているかのように形成されている。隆線文土器から押圧縄文土器にかけての、炭化物C14年代測定によって得られた11,380～10,890年前の約500年間は、急激な温暖化と寒冷化による気候の変化と富士山の火山活動が活発な時期とあいまって厳しい自然環境が想像されるが、出土土器の量や大量に出土する磨石・石皿からみてこの時期が植物採集生活では豊かなものであったことを物語っている。

3-3 C 調査区の、微隆起線文土器に小型の花見山型有舌尖頭器(白石浩之 1989)が伴って出土する一時期の竪穴状遺構は、東側にのびる埋没谷の西側急斜面を住居の壁として利用するかのように立地している。3-3 E 調査区では、主だった土器を伴わないホルンフェルス製を主体にした尖頭器が30点以上纏まって出土した地点は、溶岩流に囲まれて出来たホール状の竪穴状遺構であった。

これらのことから本報告書では調査区ごとの地形環境に留意しながら時期別に遺物を記載し、調査区ごとの特色を記述することに努めた。

## (2)土器の群・類・種

本書では大鹿窪遺跡から出土した土器を、以下の分類に従って記述している。まず群は第1～12群に分類しほぼ土器様式に相当するものとした(小林達雄 2002)。草創期の土器を第1～4群の4群、早期の土器を第5～11群の6群、前期の土器を第12群として分類した。次に群をほぼ土器型式に沿って類に分類、例えば第1群の隆線文系土器は第1類太隆線文を施文する土器から第4類の微隆起線文を施文する土器に分類した。さらに類を土器の主に施文方法＝文様もしくは胎土・色調・焼成等によって種に分類した。

### 縄文時代草創期の土器

草創期の第1～4群の土器は3-1・3-3 C 調査区の遺構から出土したものを基準資料として分類

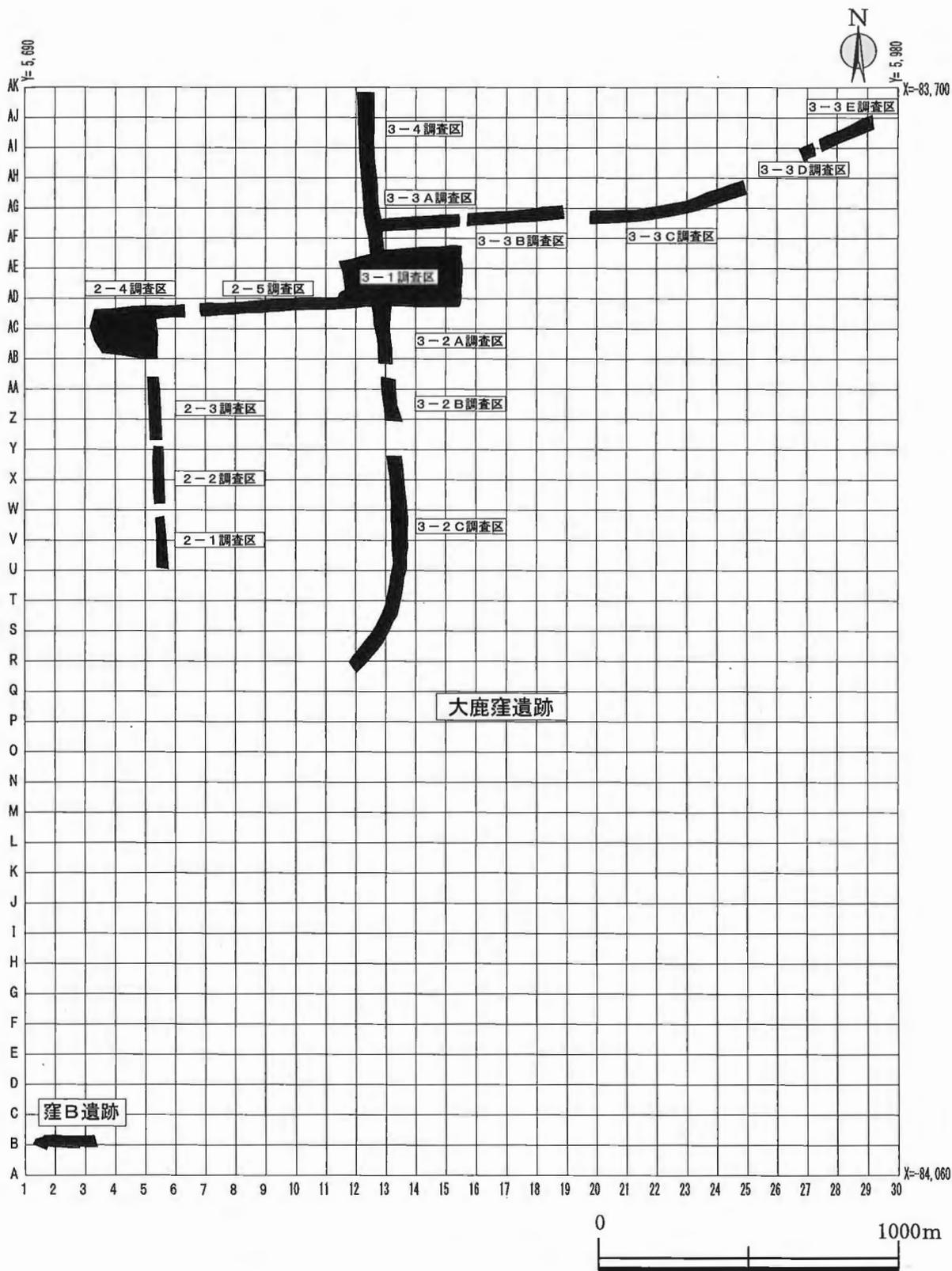


図 1-1 大鹿窪遺跡と窪B遺跡の調査区とグリッド配置

の基礎資料とした。最も多く出土した土器は3-1 調査区では第3群の押圧縄文系土器、3-3 C 調査区では第1群隆線文系土器の第4類微隆起線文土器である。3-1 調査区では第1群隆線文系土器第1~3類と第2群爪形文系土器第1~2種が、少量ながら遺構とグリッドから一定量出土する。第3群

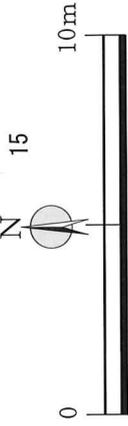
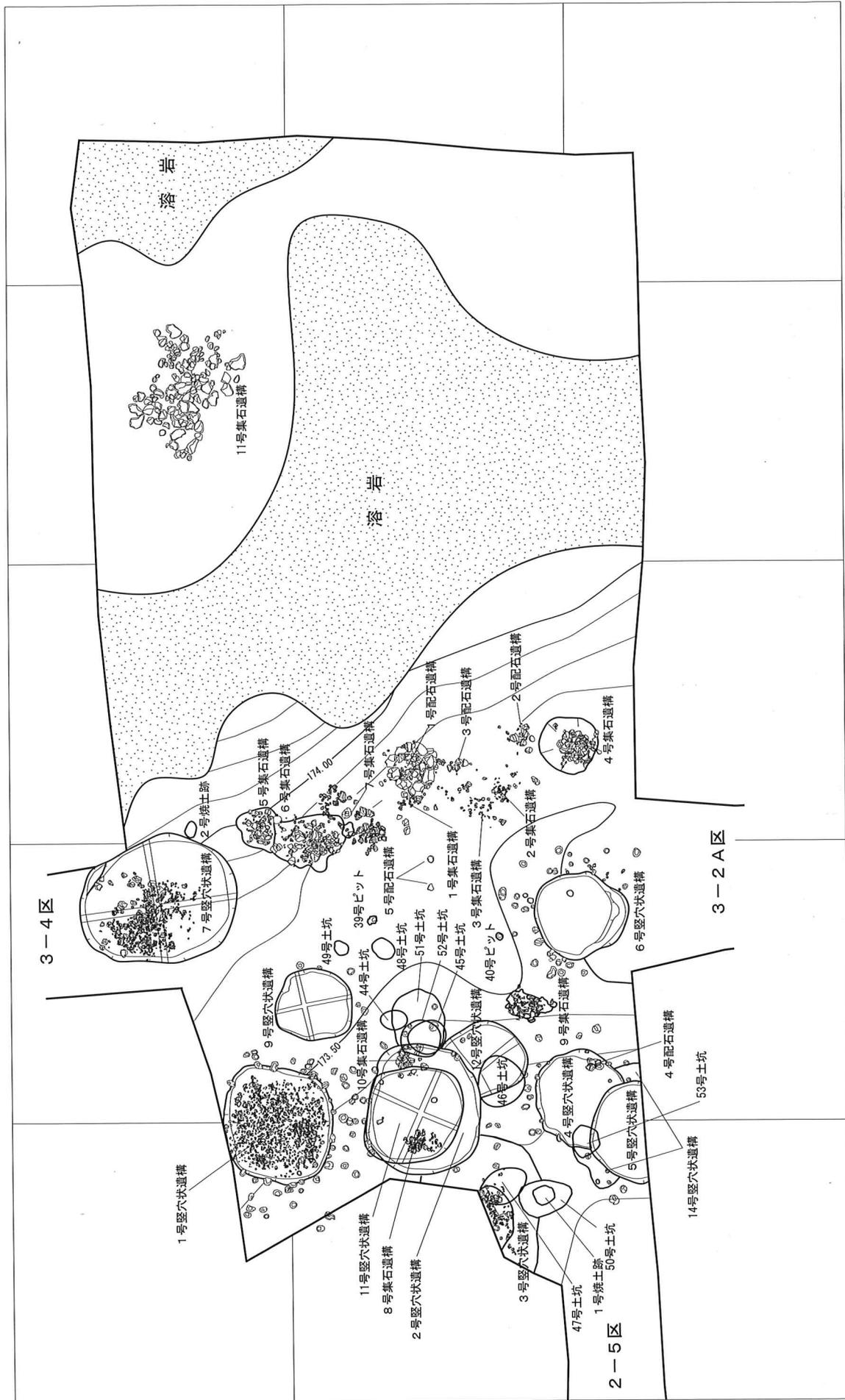


図 1-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 遺構全体図

AE

AD

AC

押圧縄文土器は色調・胎土・調整によって第1～3種に分類した。また原体である絡条体の縄巻き間隔は密（6巻き以上/1.0cm）・狭い（5巻き/1.0cm）・やや狭い（4巻き/1.0cm）・やや広い（3巻き/1.0cm）・広い（2巻き/1.0cm）と表現した。絡条体の縄の表現は佐原眞（2005）によった。また3-1調査区では押圧縄文土器に伴って隆線文系土器・爪形文系土器と同様に遺構とグリッドから少量ながら一定量の無文・条痕文系・沈線文系土器が出土していることから、これらを第4群として取り扱った。これらの土器が関東地方・中部地方においても主体あるいは客体として出土することが指摘されていることによった（麻生優・白石浩之 2000）。

#### 縄文時代草創期

##### 第1群 隆線文系土器

- 第1類 太隆線文を施文
- 第2類 短隆線文（豆粒状）を施文
- 第3類 細隆線文を施文
- 第4類 微隆起線文を施文

##### 第2群 爪形文系土器

- 第1種 「ハ」の字文を縦位に施文
- 第2種 列状・単独に施文

##### 第3群 押圧縄文系土器

- 第1種 色調は暗く、胎土に砂粒を多く含み、外面が平滑調整で爪形文土器に似る
- 第2種 色調はやや明るく、胎土に金雲母を多く含み、調整は光沢がある
- 第3種 色調は暗く、胎土に金雲母を多く含み、調整は内面の指頭痕が顕著である

##### 第4群 無文・条痕文系・沈線文系土器

- 第1類 無文土器
- 第2類 条痕文系土器
- 第3類 沈線文系土器

#### 縄文時代早期の土器

##### 第5群 押型文系土器

- 第1種 山形押型文
- 第2種 楕円形押型文

##### 第6群 撚糸文系土器

##### 第7群 沈線文系土器

- 第1類 野島式土器
- 第2類 その他

##### 第8群 条痕文系土器

- 第1類 鶴ヶ島台式土器
- 第2類 その他

##### 第9群 薄手土器

- 第1類 木島式土器

#### 縄文時代前期

##### 第9群 竹管文系土器

- 第1類 諸磯b式土器

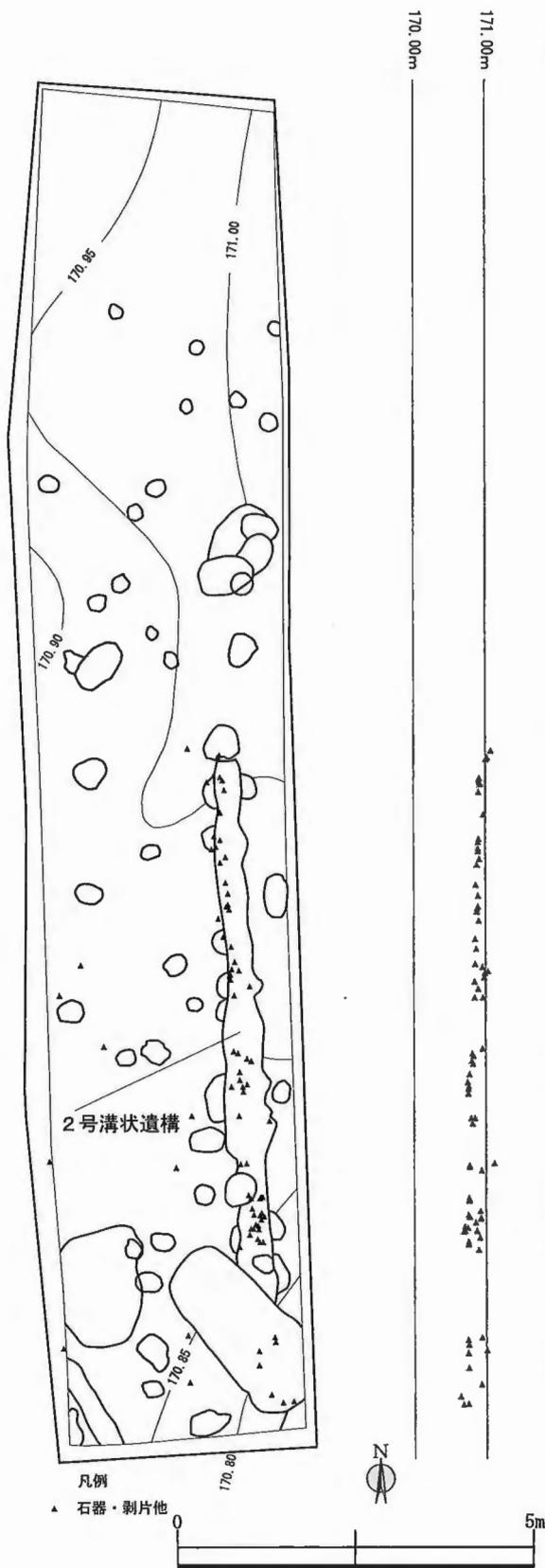


図 2-1 2-2 調査区 縄文時代 遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図

### (3)調査区の遺物

#### 2-2 調査区

本調査区の縄文時代遺構確認面は 2-1・2-3 調査区内をほぼ南北方向に流下する 2 条の溶岩流に挟まれるほぼ平坦な地形の標高 170.8 ~ 171.0 m に位置する。本調査区からは縄文時代に属する遺構とグリッド（包含層）から計 82 点の遺物が出土した。遺物は調査区南半に位置する遺構の 2 号溝状遺構を中心に標高 170.6 ~ 171.2 m から出土した。

#### 縄文時代

##### 遺構

調査区にほぼ沿って南北方向に検出された縄文時代の 2 号溝状遺構からは礫・剥片他が 52 点、調査区南側の 1 号土坑からは礫・剥片他が 7 点、調査区中央の 28 号ピットは礫・剥片他が 1 点出土した。

##### グリッド

包含層からは 22 点が出土した。内訳は石器が磨石 2 点に礫・剥片他が 19 点である。

#### 2-3 調査区

本調査区の縄文時代遺構確認面は、北側は溶岩流が南に流下し、北東から南西にかけて傾斜する地形で、標高 170.8 ~ 171.2 m に位置する。本調査区南端からは弥生時代以降の遺構から縄文時代に属する遺物が 2 点出土した。

#### 縄文時代

調査区南側の弥生時代以降の遺構である 1 号柱穴列跡 P 2 から礫石器の斑糲岩製の磨石が 1 点、20 号土坑から剥片石器の黒曜石製の石鏃破損品が 1 点出土した。

#### 石器

図 3-2-01 (546) は敲石・磨石の複合石器である。平面形態が楕円形の礫を半割したもので、割れ口面を敲面、裏表面を磨り面としている。関東地方縄文時代早期前半撚糸文式土器形式期のスタンプ型石器と呼ばれる石器と同様の形態と機能を有している。

#### 2-4 調査区

本調査区の縄文時代遺構確認面は、ほぼ東から西にかけて緩やかに傾斜する地形で、標高 171.1 ~ 171.8 m に位置する。本調査区中央から東側に向け

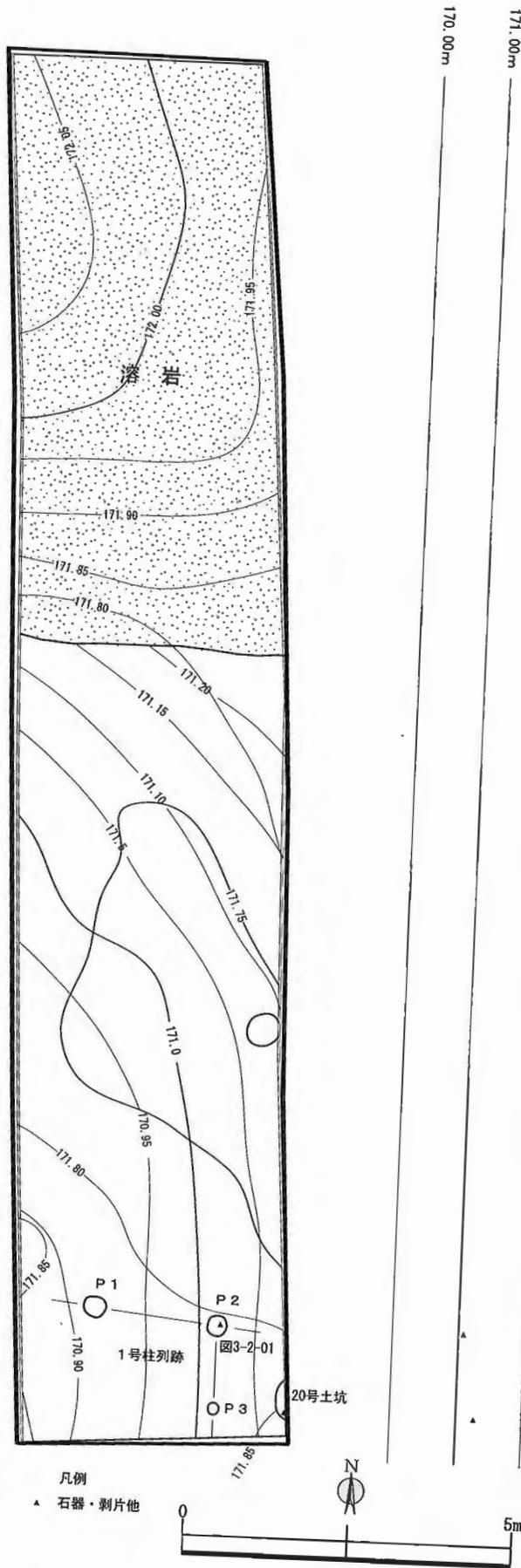


図3-1 2-3調査区 弥生時代以降 グリッド出土 石器分布図

172.00m  
171.00m  
170.00m

てからは縄文時代に属するグリッド(包含層)から79点、弥生時代以降の遺構から2点の計81点が出土した。

### 縄文時代

#### 遺構

土器は弥生時代以降の31号土坑から縄文土器が1点出土した。

#### グリッド

6層から79点が出土した。内訳は土器1点、石器・剥片他が78点の計79点である。

#### 石器

##### 打製石斧

図4-2-01 (1015) は5層から出土した頁岩製の打製石斧である。平面形態は長方形をした短冊形、側面は僅かに「S」字状に湾曲状を呈している。両側縁は両面から比較的丁寧に直接打撃の刃潰し加工のある典型的な打製石斧である。先端部は使用によると思われる剥離が残されている。基部の表面周辺に自然面を残している。

##### 敲石・磨石

図4-2-02 (1016) は敲・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形、断面形態は表面が平坦となる不整形な楕円形を呈し、先端部を敲、表面を磨り面としている。図4-2-03 (2990) は磨石で、平面・断面形態ともに楕円形と推定される破損品である。表面を磨り面としている。

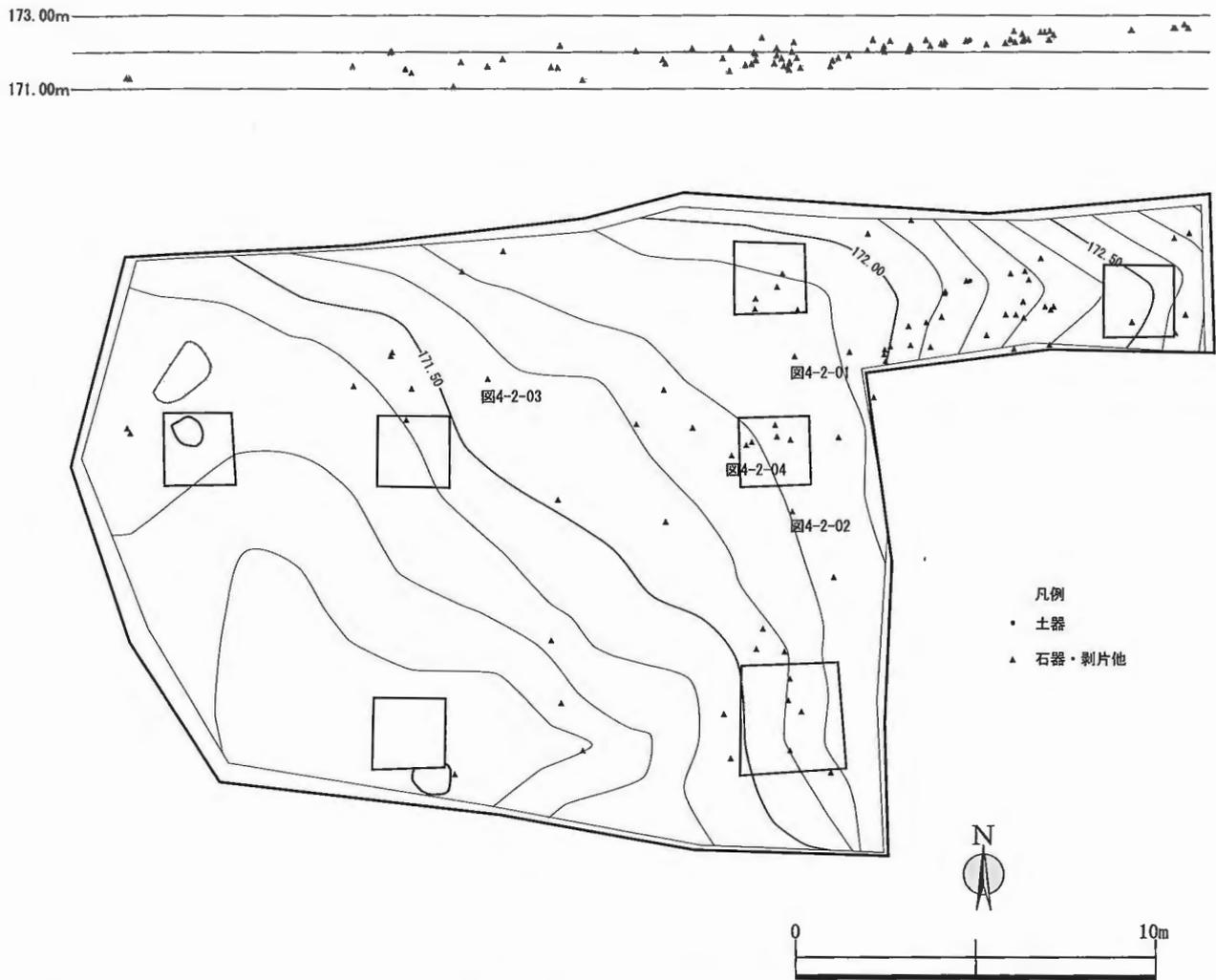


図 4-1 2-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 遺物分布図

#### 石皿

図 4-2-04 (1599) は石皿の破損品である。平面形態は楕円形と推定、断面形態は裏表が平坦面となる形を呈し、裏表面を磨り面とするほかに表面と側面の一部を敲としている。

#### 中世

34号土坑から陶磁器が1点出土した。

#### 34号土坑

##### 陶磁器

図 4-4-01 (547) は34号土坑から出土した鎬蓮弁文青磁碗と推定される胴部小破片である。胴部は緩やかに内湾して開いて立ち上がる。外面は鎬と推定される縦位弧状の陵があり、内外面共に美しい貫入があり釉も均一で胎土も精製される等全体に丁寧な製作技法である。産地は中国からの貿易陶磁器で時期は中世に属すると推定される。

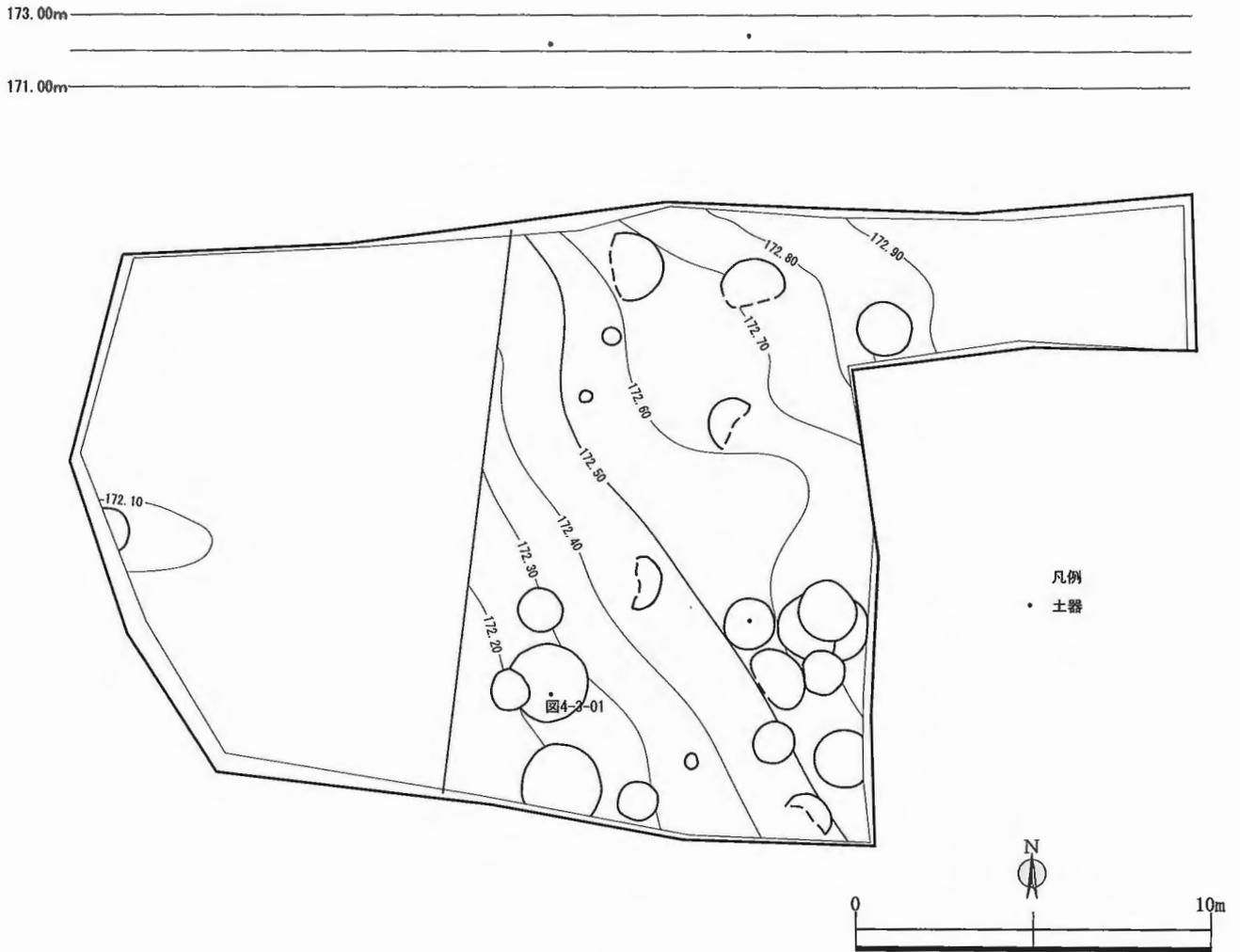


図 4-3 2-4 調査区 中世 遺構出土 陶磁器分布図

### 2-5 調査区

本調査区からは縄文時代に属する遺構とグリッドから計1617点、中世の遺構から4点の計1621点の遺物が出土した。土器は45点出土した。調査区のほぼ中央には1号埋没谷が形成されており、その埋没谷の東側に位置する3-1調査区の遺物の一部が流下していることを示すように傾斜面から底にかけて遺物が分布している。出土した土器には縄文時代草創期の隆線文土器や押圧縄文土器、石器には石鏃・磨石等が出土した。

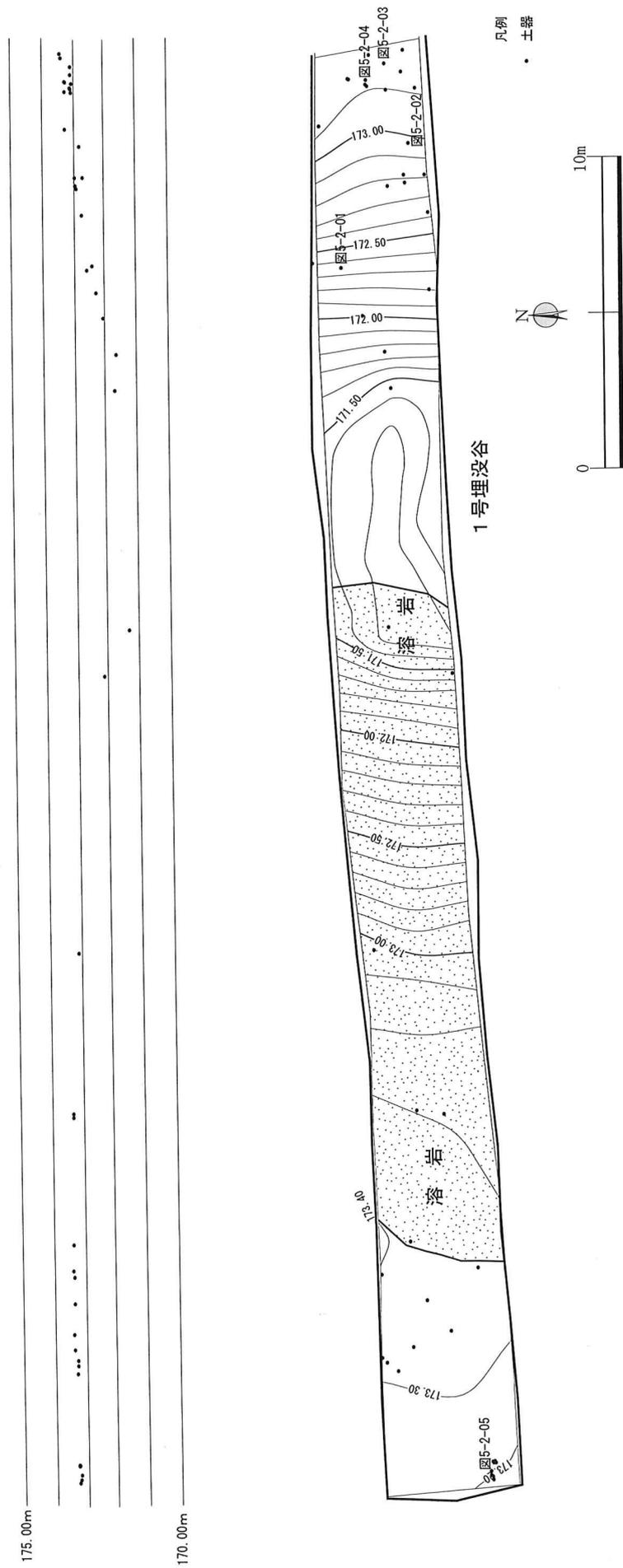
縄文時代

グリッド

土器

隆線文土器

図 5-2-01 (1369) は5層から出土した隆線文土器の胴部片でほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面は横・斜位の擦痕に横位の幅約6mmの扁平で極めて薄い粘土紐を貼付けて隆線上を押し潰している。内面は指頭痕に棒状具によって条痕文状ヨコナデ調整が施される。硬質で胎土に砂粒を多く含み、器厚は7~8mmである。図 5-2-02 (16282) は7層から出土した無文であるが調整・胎土・色調から第1群第1類隆線文土器の胴部片で図 5-2-01 と同一固体と推定される。ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面は斜位の擦痕、内面は指頭痕に棒状具状調整具による条痕文状ヨコナデ調整が施される。硬質で胎土に砂粒を多く含み、器厚は10mmである。



1号埋没谷

図 5-1 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

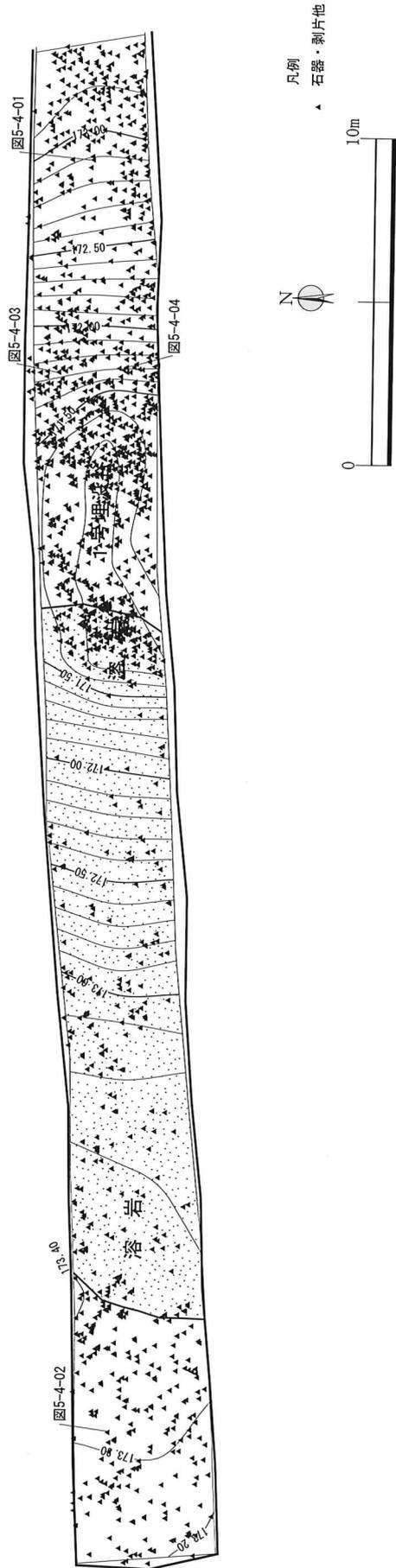
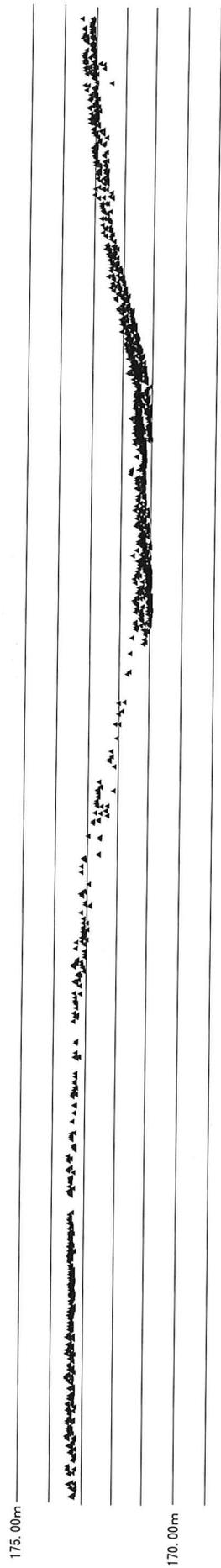


図 5-3 2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図

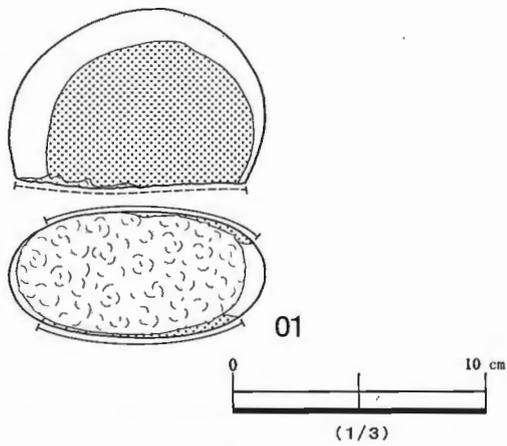


図 3-2 2-3 調査区  
縄文時代 グリッド出土  
石器実測図

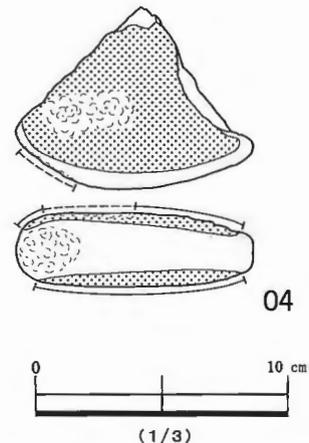
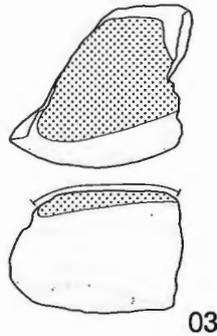
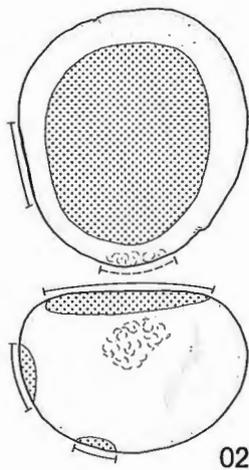
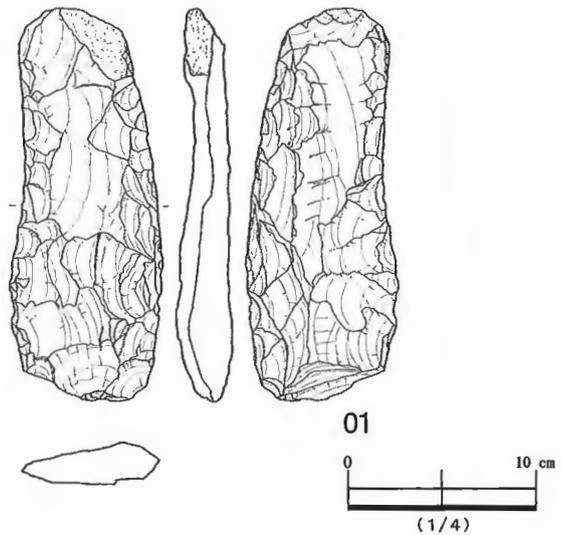


図 4-2 2-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

### 押圧縄文土器

図 5-2-03 (10457) は 7 層から出土した押圧縄文土器の胴部片でほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な 1 段の縄 R を細く間隔狭く密に左巻き付けた絡条体で横位に押圧縄文を施文、内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に金雲母・砂粒を多く含み、器厚は 7 mm である。図 5-2-04 (16272) は 7 層から出土した第 3 群第 2 種押圧縄文土器の胴部下半片で僅かに内湾して開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な 1 段の縄 R を間隔広く右巻き付けた絡条体で斜・縦位に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は 6～8 mm である。

### 無文土器

図 5-2-05 (1381) は 6 層から出土した無文土器の胴部片で僅かに外反気味にやや開いて立ち上がる。外面は擦痕状のヨコナデ、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒・雲母に獣毛繊維を含み、器厚は 7～8 mm である。

### 石器

#### 石鏃

図 5-4-01 (1798) は 6 層から出土した黒曜石製の石鏃で、平面形態は左右非対称な二等辺三角に近く、

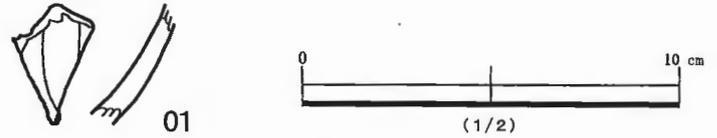


図 4-4 2-4 調査区 中世 34号土坑出土 陶磁器実測図

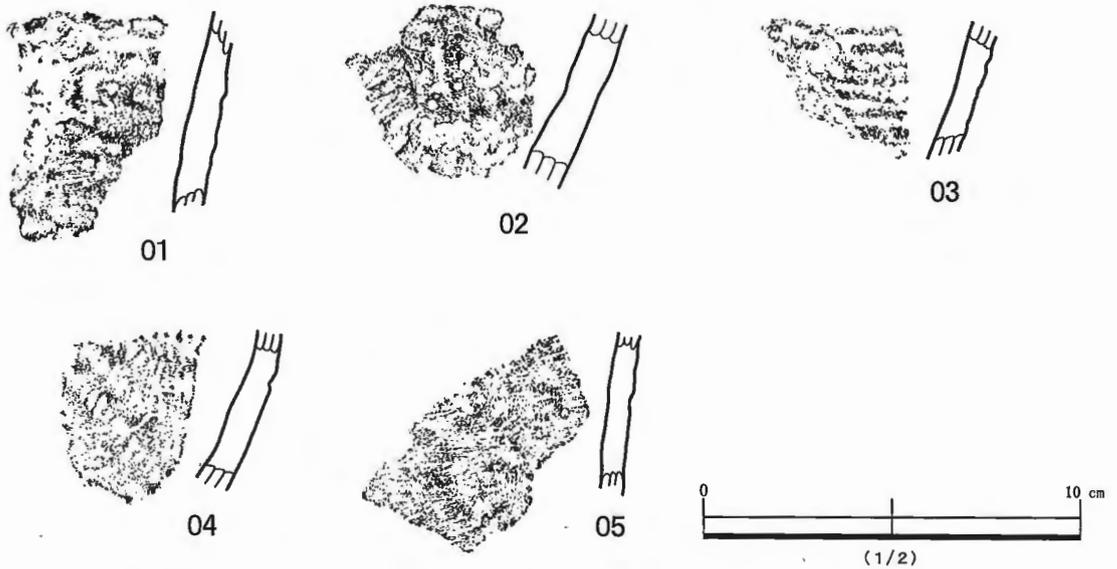


図 5-2 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

左脚部の先端部を僅かに欠損しているやや抉りの深い凹基である。断面形態はやや薄い凸状レンズを呈し、両面加工で両側縁に調整が施される。

#### スクレイパー類

図 5-4-02 (1737) は 6 層から出土した刃部加工のある剥片石器で搔器として利用されたと推定、平面形態は長方形に近く、両面ともに素材面を残し左側縁から先端部にかけてやや粗い調整によって刃部としている。

#### 敲石・磨石・凹石

図 5-4-03 (1545) は細礫岩製の凹石の敲石・凹石・磨石の複合石器で約 1/5 が欠損、平面形態は楕円形、表面には磨り面と凹、裏面に凹、側面に敲面がある。図 5-4-04 (1575) は輝石安山岩製の敲石・凹石・磨石の複合石器の完形品で、平面形態は楕円形、表面には磨り面と凹、裏面に凹、右側面に敲面がある。

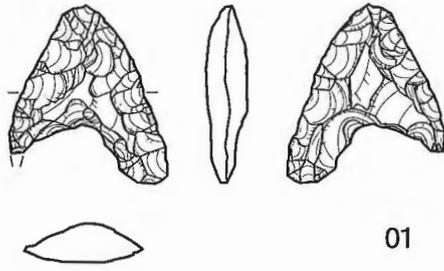
#### 中世

中世後半に属する 1 号土壌墓から銭貨が 4 地点から 6 枚出土した。

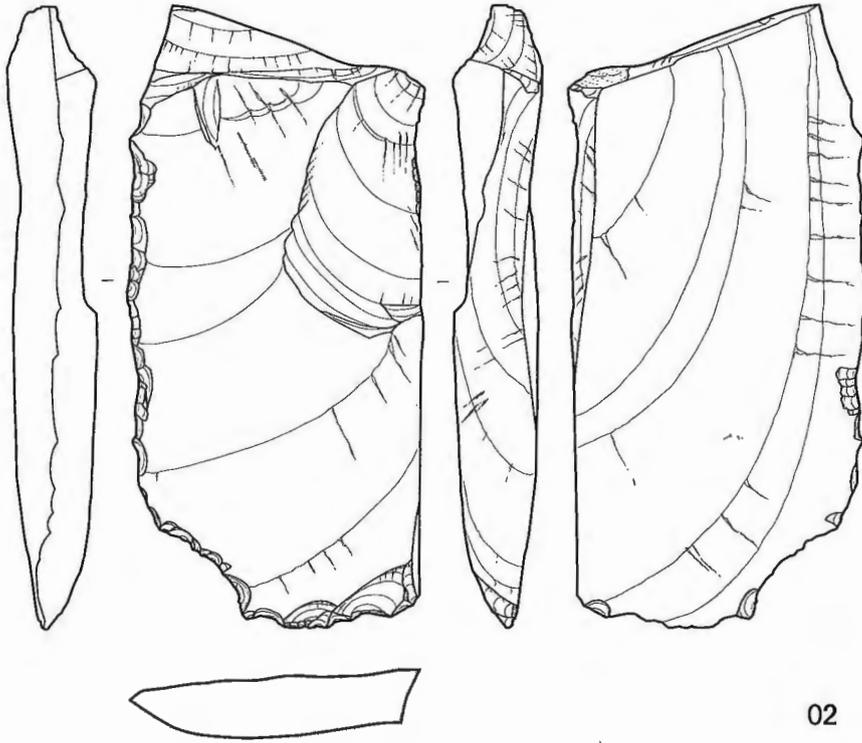
#### 1 号土壌墓

#### 銭貨

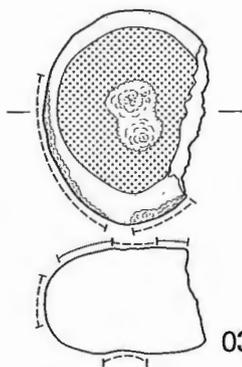
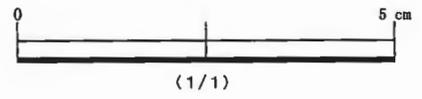
銭貨は全て中国から輸入された渡来銭で、出土地点が集中しており、いわゆる「六道銭」として埋納したものと考えられる。「近世初期 17 世紀の出土状況から、本来「六道銭」は「布ないし紙に包まれるか、小さな頭陀袋のようなものに納められ、遺体の胸元ないし、胸の所に組み合わせた手のひらの中に



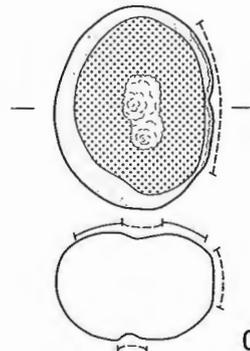
01



02



03



04

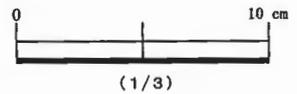


図5-4 2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

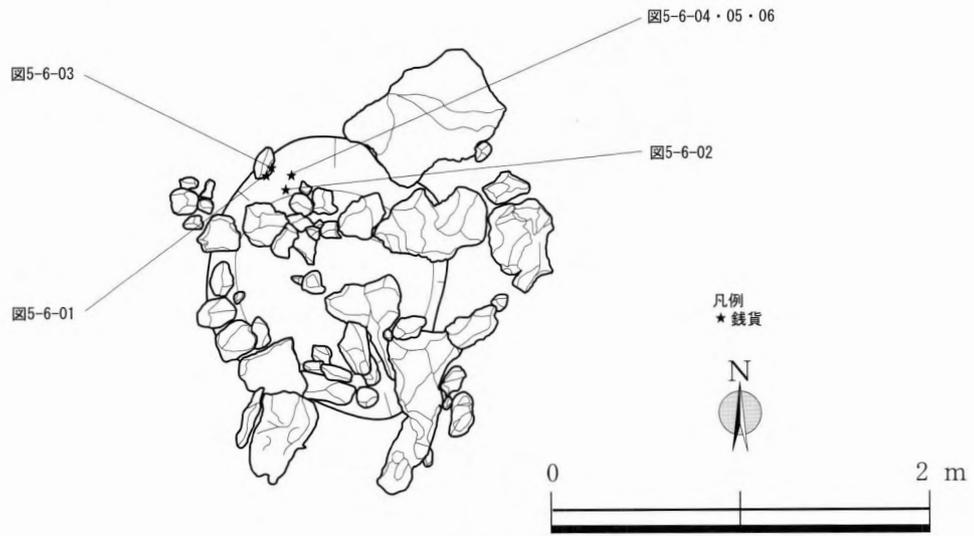


图 5-5 2-5 調査区 中世 1号土壙墓出土 錢貨分布図

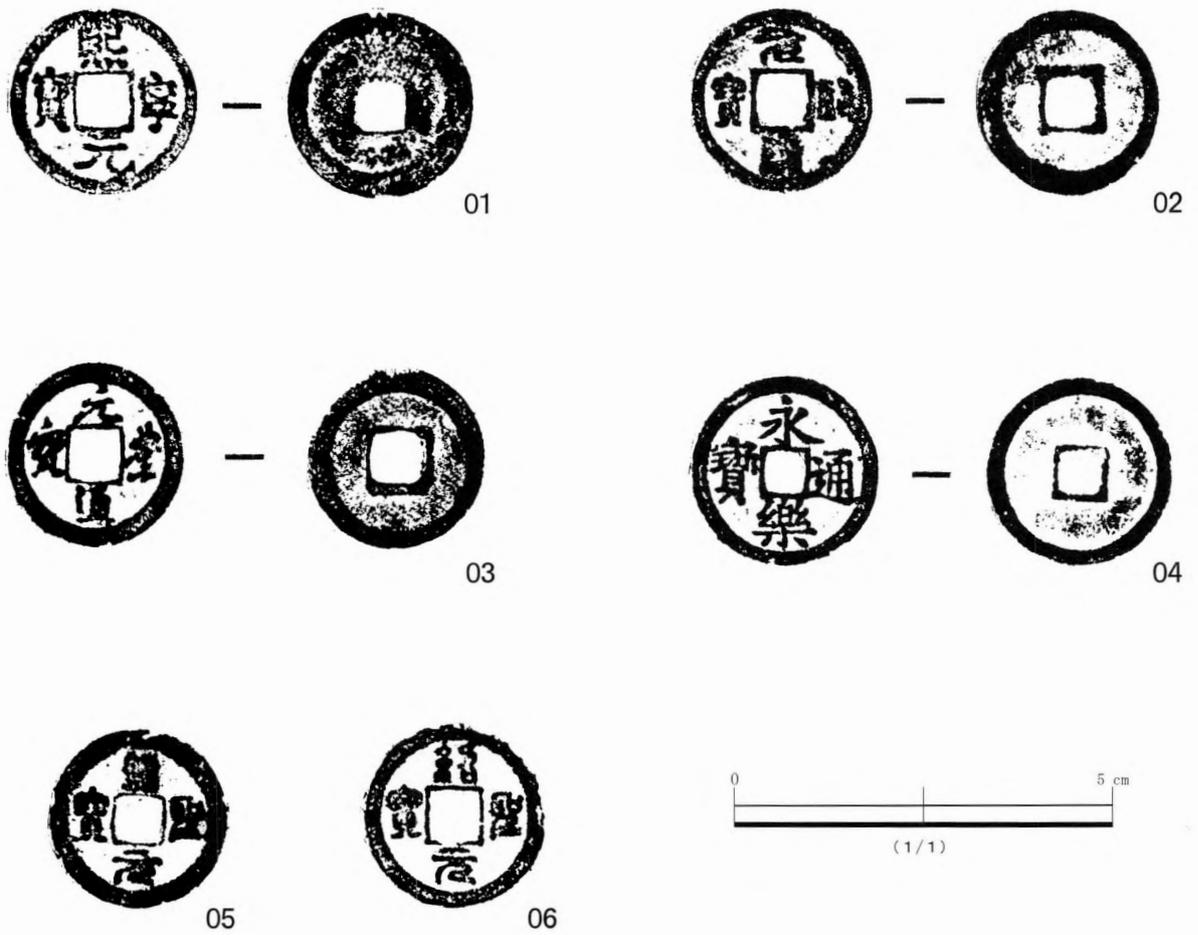


图 5-6 2-5 調査区 中世 1号土壙墓出土 錢貨拓影図

持たせるようにしていた」(鈴木公雄 2002) ことを参考にすると、出土位置が土壌墓内の北北西に集中していることから遺体が北枕で埋葬されていたと考えられる。

図 5-6-04(17)・図 5-6-05(17)・図 5-6-06(17) の 3 枚は出土時に青錆によって張り合わさった状況であった。整理段階で図 5-6-04 は分離できたが、図 5-6-05・図 5-6-06 は分離できなかったことから裏面がともに張り合わさったまま記載した。図 5-6-01 (14) は北宋 (960 ~ 1127年) の「元寧通宝」真書で、六代神宗 (1068 ~ 1085) は、治平四年に熙寧と改元し、熙寧元年 (1068 年) に、真書、篆書の二書体で改鑄した。使用に摩滅がやや認められる。図 5-6-02 (15) は北宋の「元符通宝」篆書である。七代哲宗 (1086 ~ 1101) は、紹聖五年に年号を元符と改め、元符元年 (西暦1098年) に篆書・行書・真書の三書体を発行した。使用による摩滅が認められる。図 5-6-03 (16) は北宋の「元豊通宝」篆書で、六代神宗によって1078年に発行された。使用に摩滅があまり認められない。図 5-6-04 (17) は明の「永楽通寶」で、明の第 3 代皇帝成祖永楽帝 (洪武帝の 4 男) である燕王が、皇位を勝ち取り、都を南京から北京に遷して即位した1403年に発行された。日本は明とも勘合貿易によって多くの明銭が国内に流入をし、輸出専用の銭貨との説がある。16世紀以降の備蓄銭の割合は16%であったが、その他の銭貨に対して4~7倍の価値があったことから戦国期から近世初期にかけて最も好まれた銭貨であった (鈴木公雄 2002)。文字も使用による摩滅が認められないしっかりした鑄造である。図 5-6-05・06 はともに北宋の「紹聖元寶」篆書である。哲宗は、元祐九年に紹聖と改元し、紹聖元年 (1094 年) に紹聖元寶、紹聖通寶の二銭を鑄造した。元寶銭に行書、篆書の二書体がある。図 5-6-05 に使用による摩滅が認められる。

### 3-1 調査区

#### 縄文時代草創期の遺構と遺物

本調査区では遺構内覆土から土器・石器等が纏まって遺物が出土し、土器と石器の共伴関係や石器組成を知ることができたことが大きな成果であった。遺物が出土した主な遺構には1・2・3・4・5・6・7・9・11・12・14号竪穴状遺構、51・52・53号土坑等がある。これらの遺構からは押圧縄文土器や隆線文土器に所属する時期の遺物が出土した。

#### 1号竪穴状遺構 (SB3001)

本遺構からは遺物が1164点、内土器が185点、石器・礫・剥片他が979点出土した。平面分布は遺構内の炉跡より東側を中心とした地点からやや多くの遺物が出土した。垂直分布は標高約172.9～173.7 mにかけての標高173.0 m前後にある床面から約10 cmの厚さ、また標高173.5 m前後の覆土上位層にも遺物がやや集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 隆線文土器

図6-2-01 (16021) は遺構中央の覆土上位から出土した隆線文土器の胴部片である。外面は荒れているが横位に長さ約6 mmの豆粒状の短い粘土紐を1ヵ所貼付施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。表面内部の色調が明るく、胎土に白色砂粒を多く含む特徴があり、器厚は7～9 mmである。

##### 爪形文土器

図6-2-02 (14865) は遺構中央の覆土上位から出土した爪形文土器の口縁部片で僅かに外反気味に立ち上がり、口唇部は扁平に仕上げている。外面は縦位に「ハ」の字の爪形文を施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は全体に暗く、胎土に金雲母・砂粒・繊維を含む特徴があり、器厚は5～7 mmである。

##### 押圧縄文土器

図6-2-03 (25164) は遺構中央の床面から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部にキザミ状に押圧縄文が連続施文される。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔狭く密に右巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きい砂粒を含み、器厚は5～6 mmである。図6-2-04 (24289) は遺構東南隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部が僅かに肥厚し丸く仕上げている。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。図6-2-03と器面の質は似ており色調は暗く胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は5～6 mmである。図6-2-05 (14867) は押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕に擦痕状が施される。03 (25164) と器面の質は似ており色調は暗く胎土に金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は6～8 mmである。上下が接合部で割れたことによって上部に擬口縁の丸い凸面、下部に丸い凹面が明瞭に認められることから接合部に技法の一端を知ることができる資料である。図6-2-06 (13088) は遺構東隅床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で横・斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は雲母・砂粒を含み、器厚は6～7 mmである。図6-2-07 (21973) は遺構東隅床面から出土した押圧縄文土器の口縁部付近片で胴部から緩やかに「S」字状に立ち上がる。外面から内面にかけて約10 mmの円孔が穿かれている。外面の施文原体は直線的で不明瞭な1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。図6-2-03と器面の質は似ており色調は暗く胎土は砂粒を含み、器厚は5～6 mmである。図6-2-08 (15205・15206・18290) は遺構中央の覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片

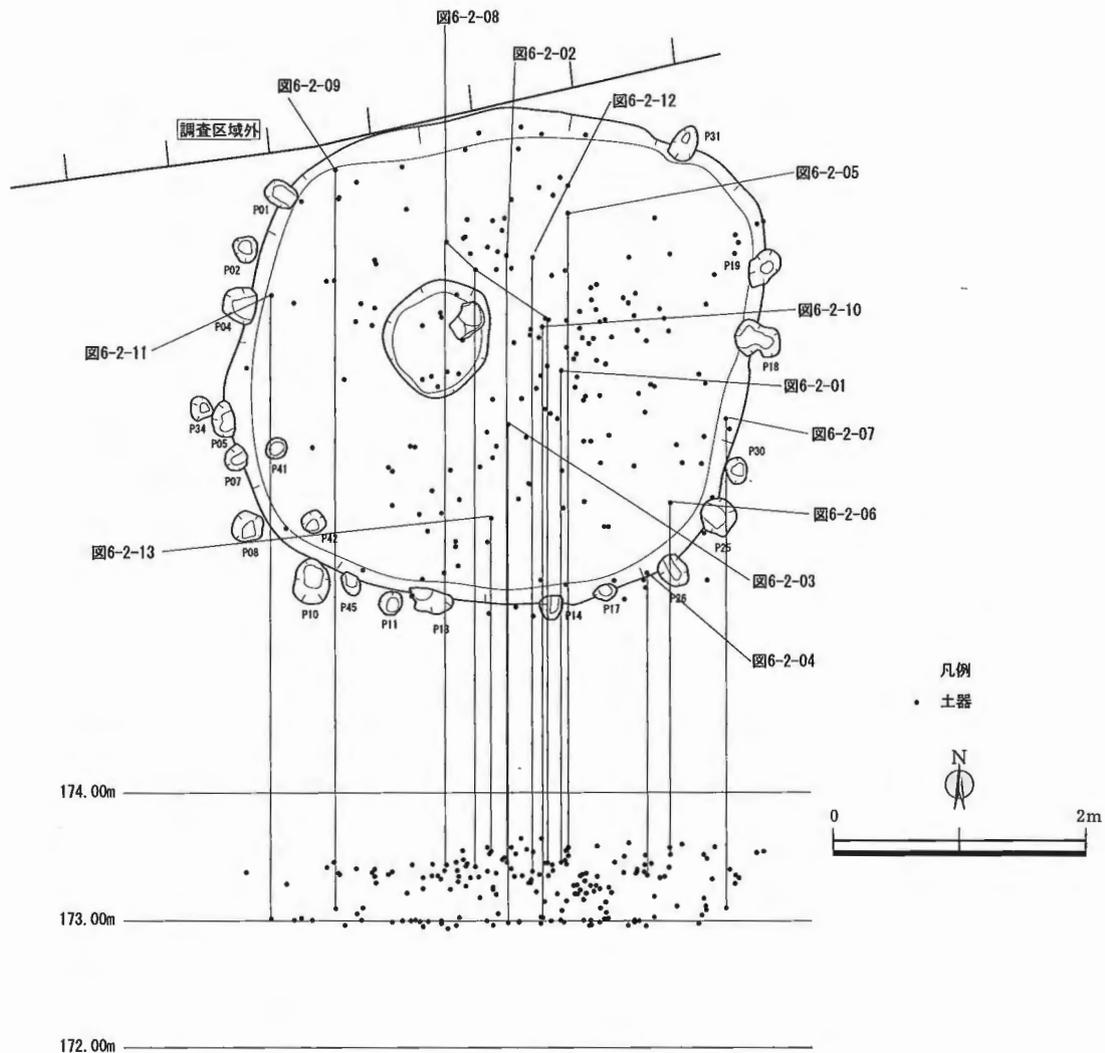


図 6-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 土器分布図

である。外面の施文原体は僅かに曲線を呈する1段の縄Lを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で縦～斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕調整が施される。03 (25164) と器面の質は似ており色調は暗く胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に雲母・繊維を含み、器厚は5～8mmである。図6-2-09 (21972) は遺構北西隅床面から出土した押圧縄文土器の胴部下半片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面の施文原体は、直線的で不明瞭な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で斜位に押圧縄文が羽状に2施文帯をもって施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は淡色でやや明るくテカリがあり胎土に金雲母を多く含む硬質、器厚は7～8mmである。推定胴部径が最大で約17cmである。10 (24543)・11 (24544) と同一固体と推定されるが10 (24543) の内面だけが丁寧なヨコナデ調整されており違いがある。図6-2-10 (24543) は遺構中央床面から出土した押圧縄文土器の胴部下半片である。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く巻き付けた絡条体で斜位に押圧縄文が羽状に2施文帯をもって施文、内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は淡色でやや明るくテカリがあり胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み硬質、器厚は7～8mmである。図6-2-11 (24544) は遺構西隅床面から出土した押圧縄文土器の底部付近片で開いて直線的に立ち上がる。外面は縦位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。底部に近い部分に爪形文に似る押圧施文が見られる。色調は淡色でやや明るくテカリがあり胎土に金雲母を多く含む。他に繊維を含み硬質、器厚は8～10mmである。

押圧縄文土器を本遺構から器面の色調・調整、胎土等から大きく2類に分けることが出来る。一つは

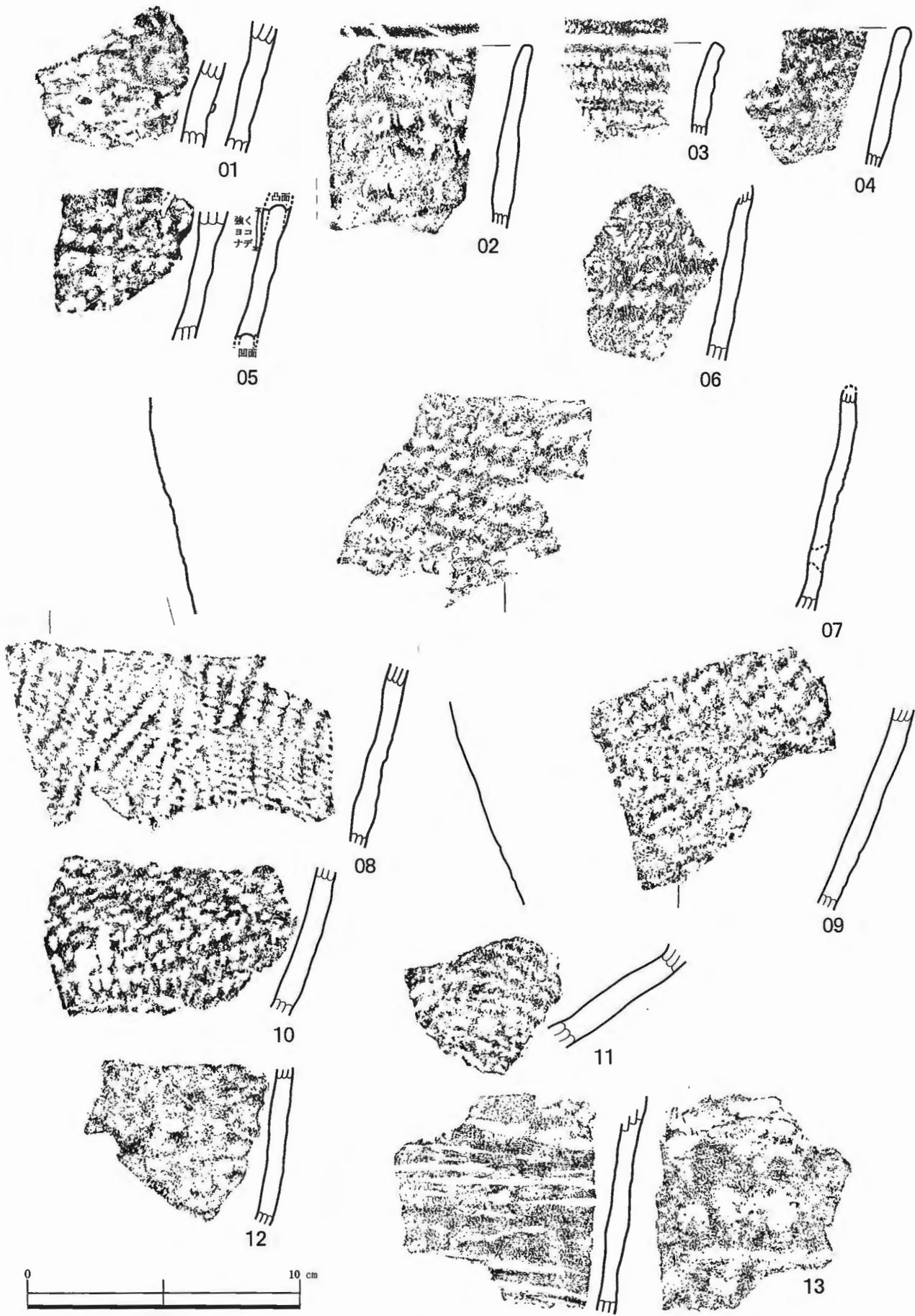


图 6-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

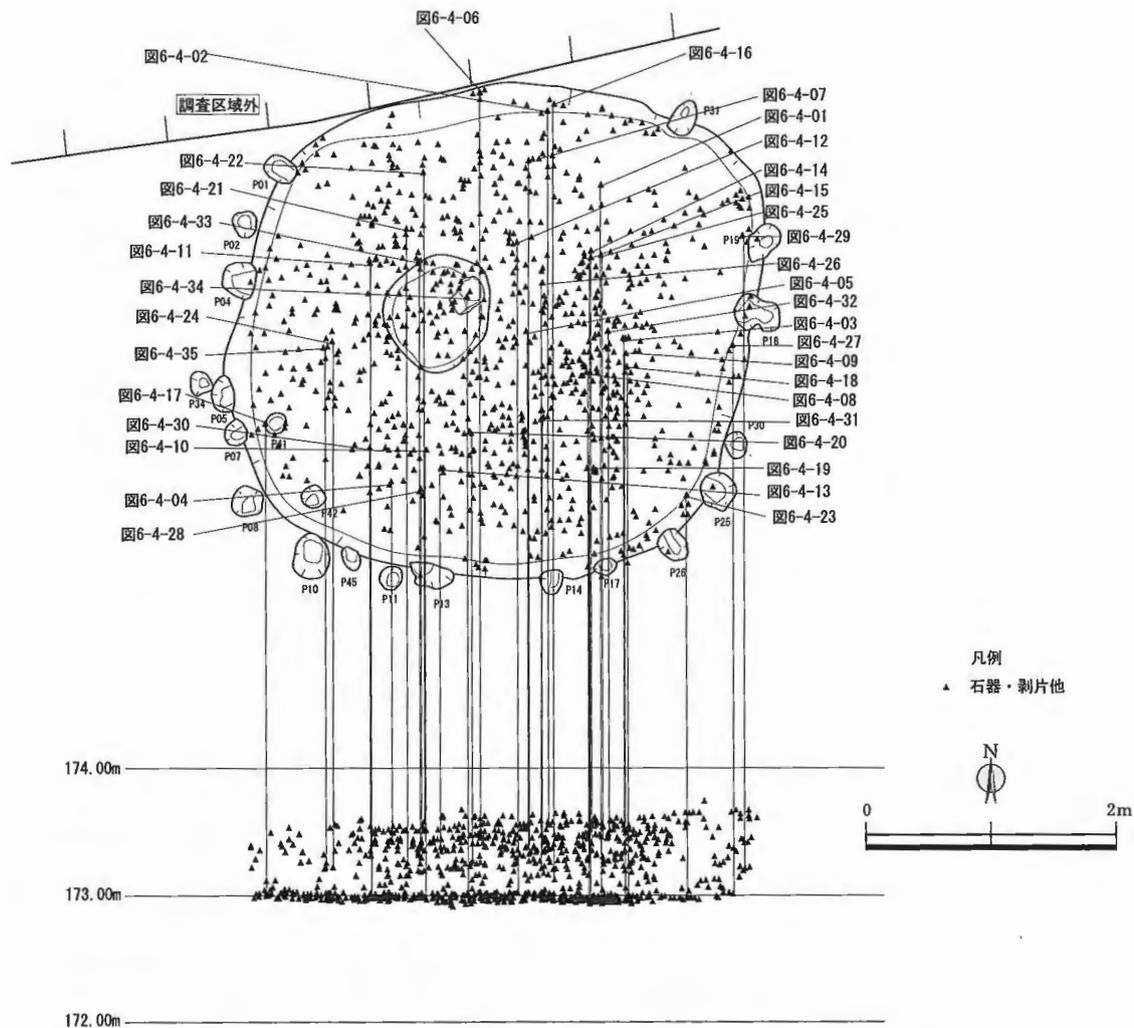


図 6-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

図 6-2-09 を代表とする色調が淡色でやや明るく、内面の調整が丁寧で指頭痕調整が目立たなく硬質な第 1 種と、図 6-2-03 を代表とする色調が暗く、内面の指頭痕調整が目立ちやや器厚が薄い第 2 種である。第 1 種が出土位置から推定すると床面および直上から出土することや色調・調整が隆線文土器や一部の爪形文土器に似ることを理由として第 1 種→第 2 種の変遷を 1 号竖穴状遺構では推定する。

#### 無文土器

図 6-2-12 (19071) は中央北寄覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面は器面が荒れておりやや不詳、内面は指頭痕調整が施される。胎土は金雲母・砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は 6～7 mm である。

図 6-2-13 (14622) は西側覆土上位から出土した無文土器・沈線文の胴部片である。割れ口に接合による儀口縁が残されている。外面は棒状具による横位の沈線文が粗く施文され器面全体に光沢あり、第 1 群第 4 類微隆起線文土器の器面に似ている。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土は雲母・砂粒を含み、器厚は 5～8 mm である。

#### 石器

##### 石鏃

図 6-4-01 (25364) はホルンフェルス製の石鏃で左側基部の一部が欠損している無基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、両側縁は微細な押圧剥離によって僅かに丸みをもって調整される。図

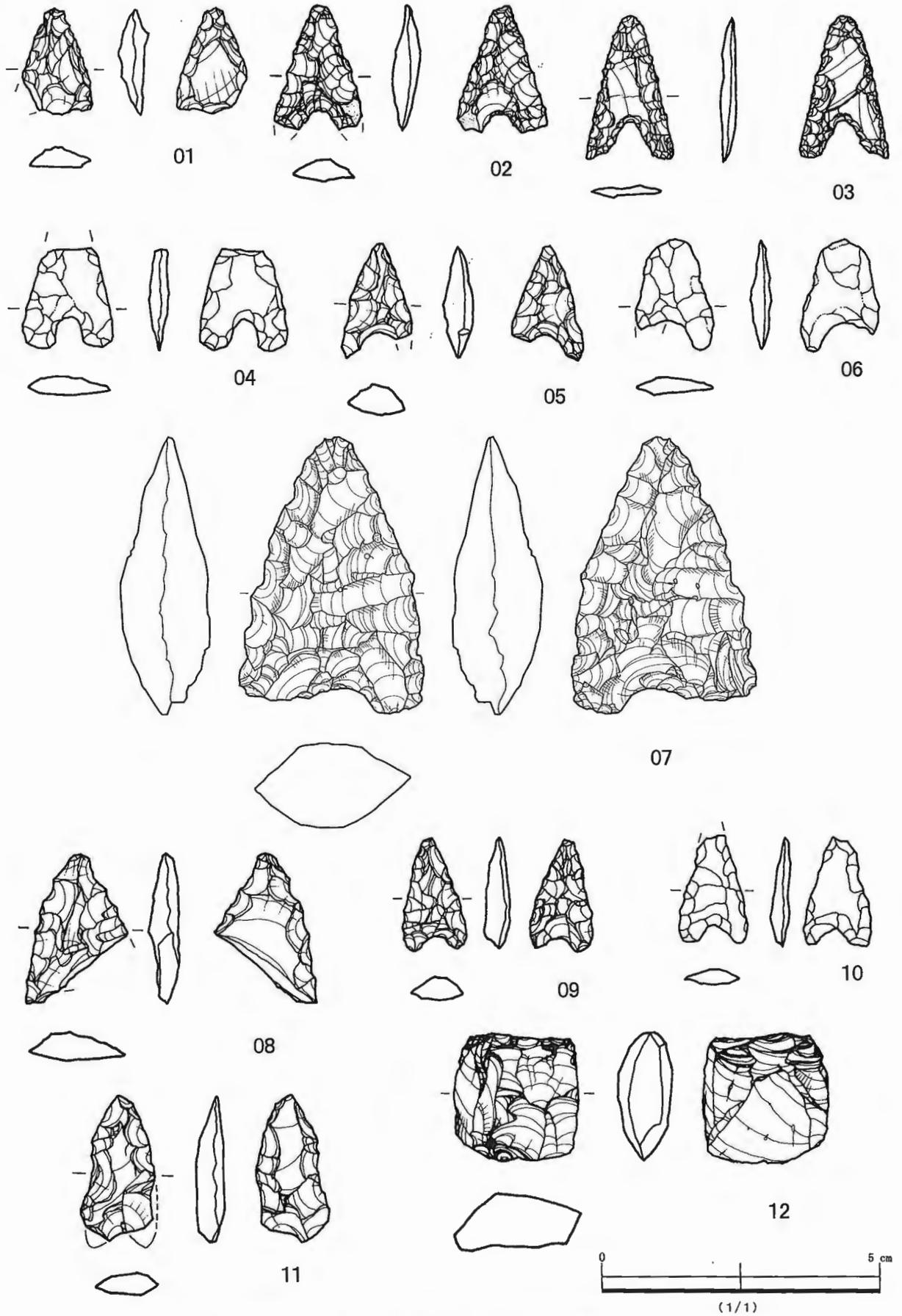


图 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測図①

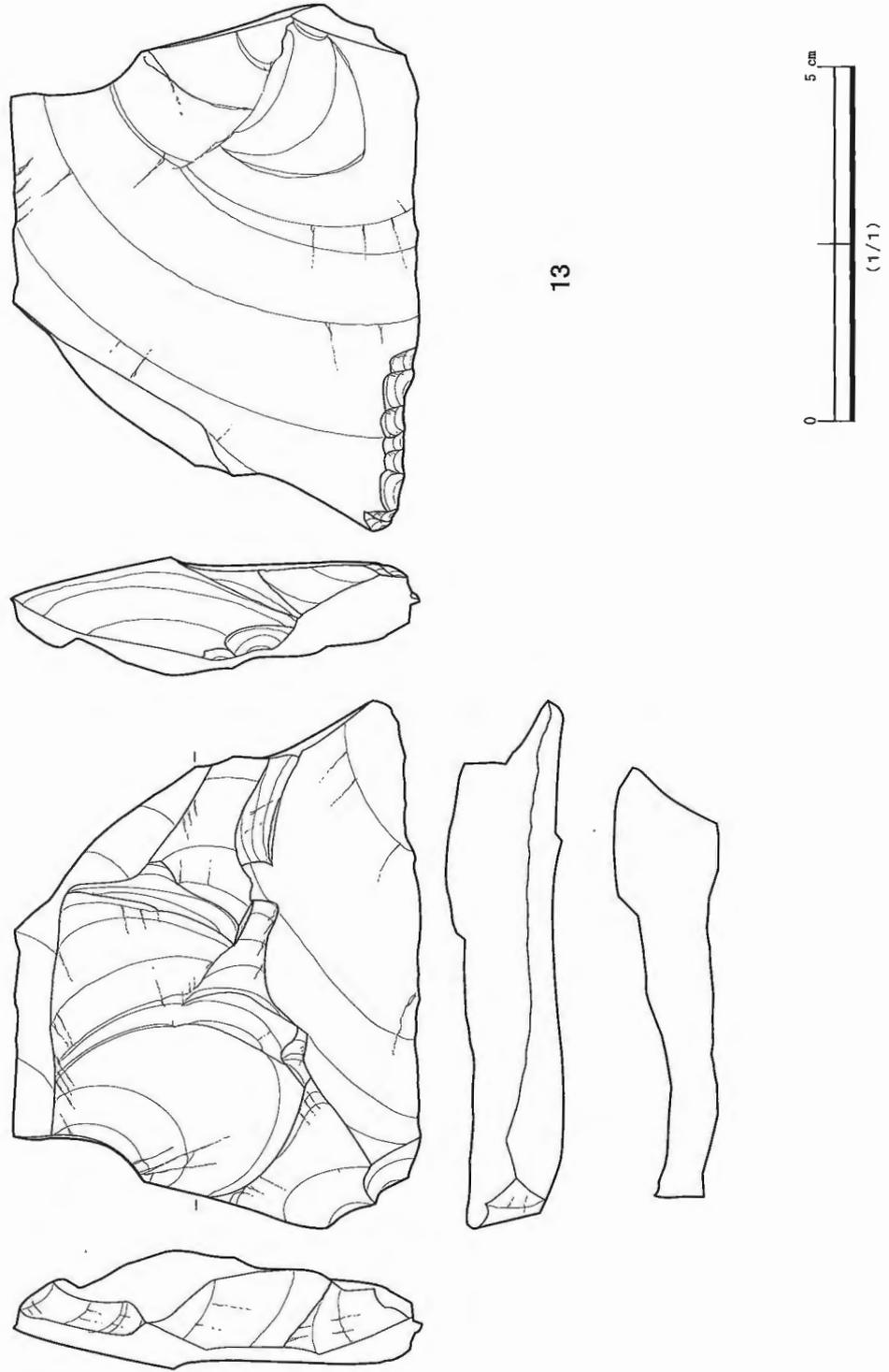
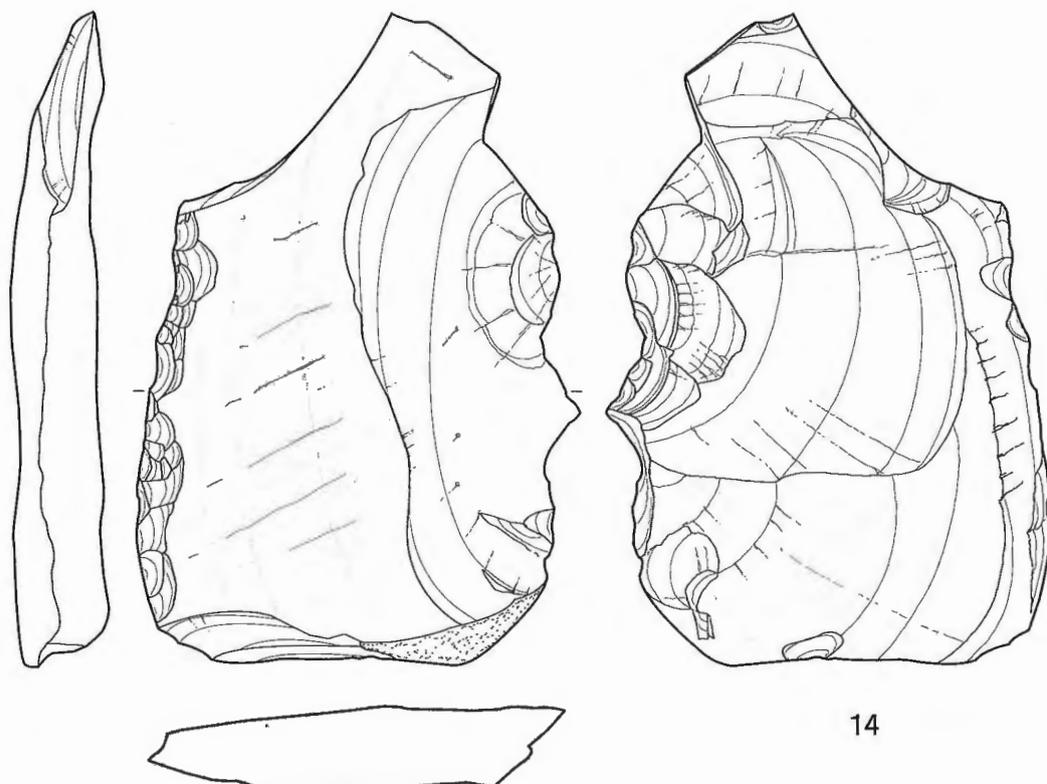
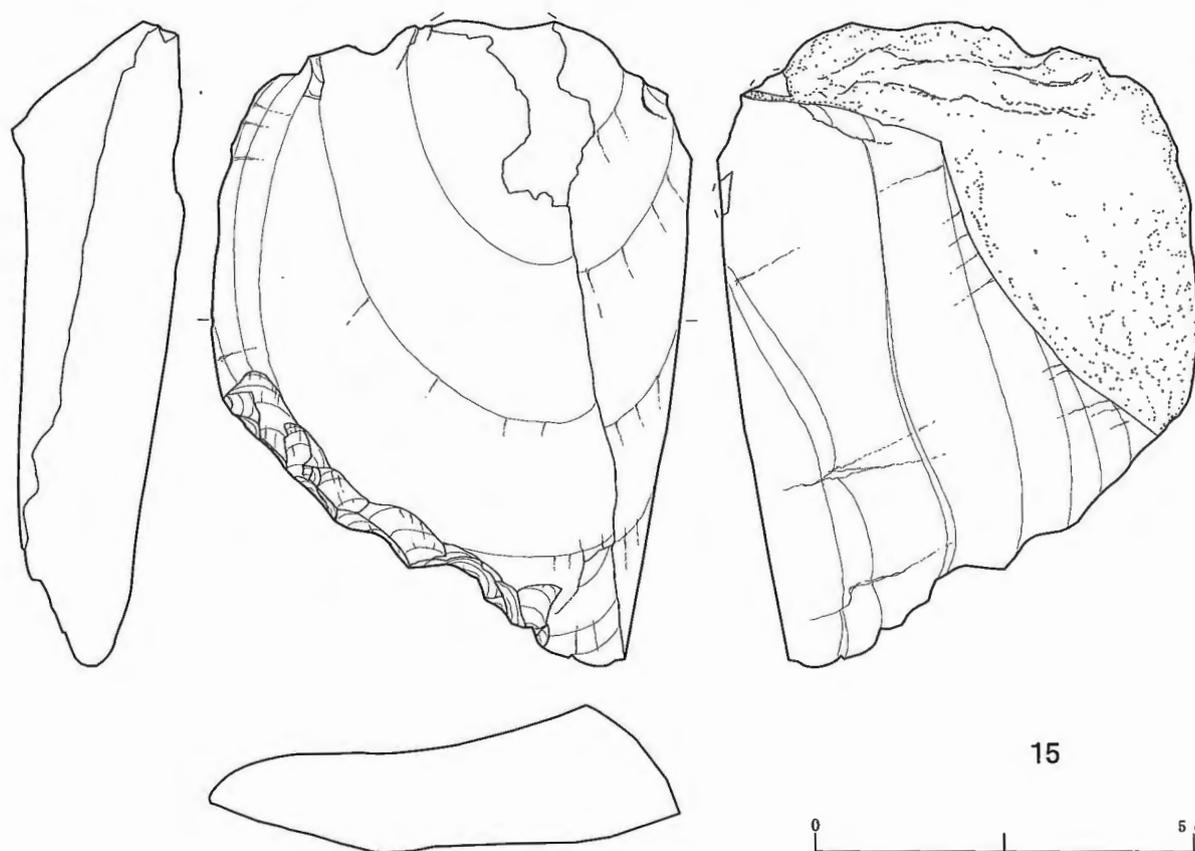


图 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測図②



14



15



(1/1)

图 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測图③

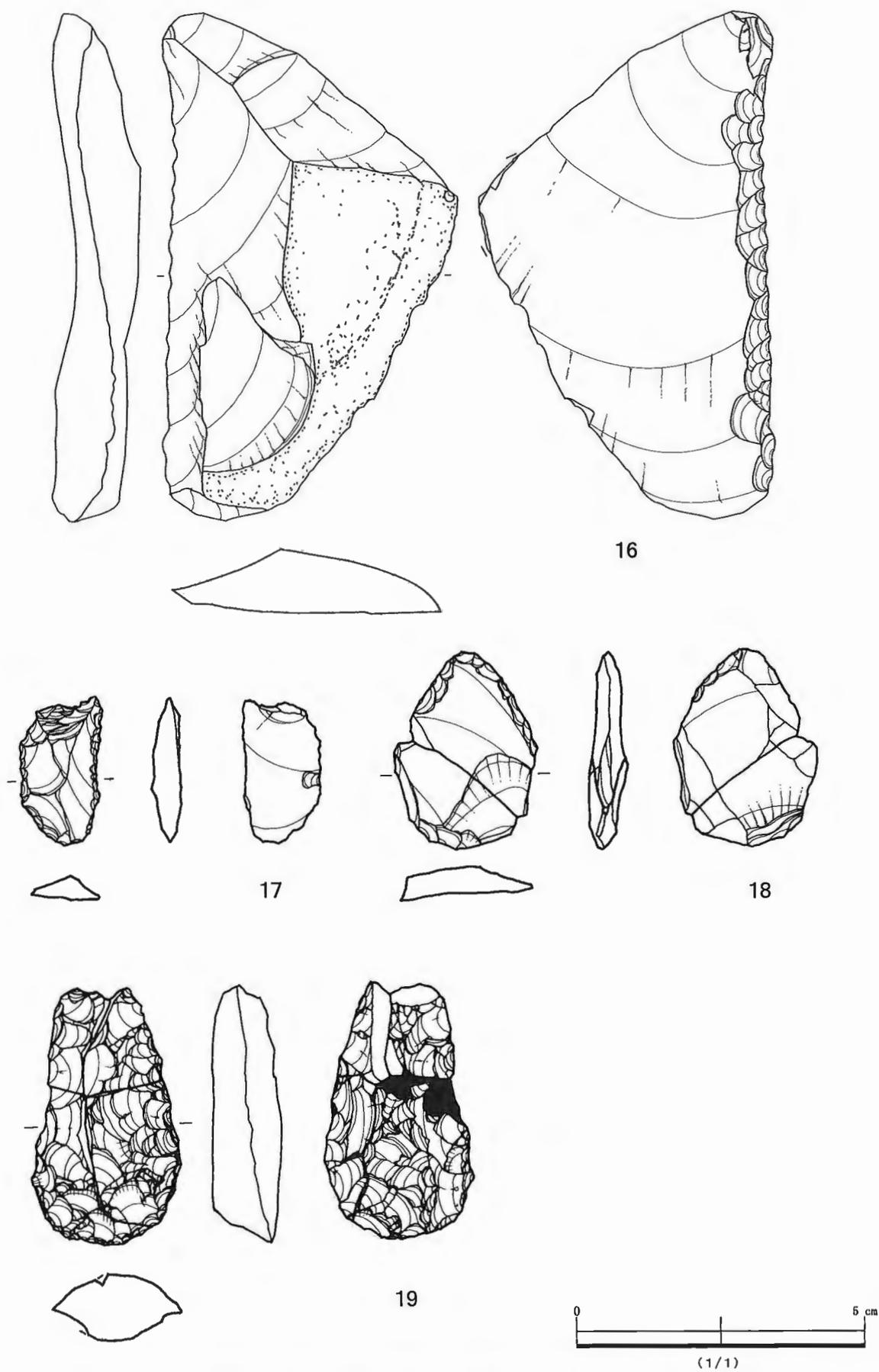


图6-4 3-1调查区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測图④

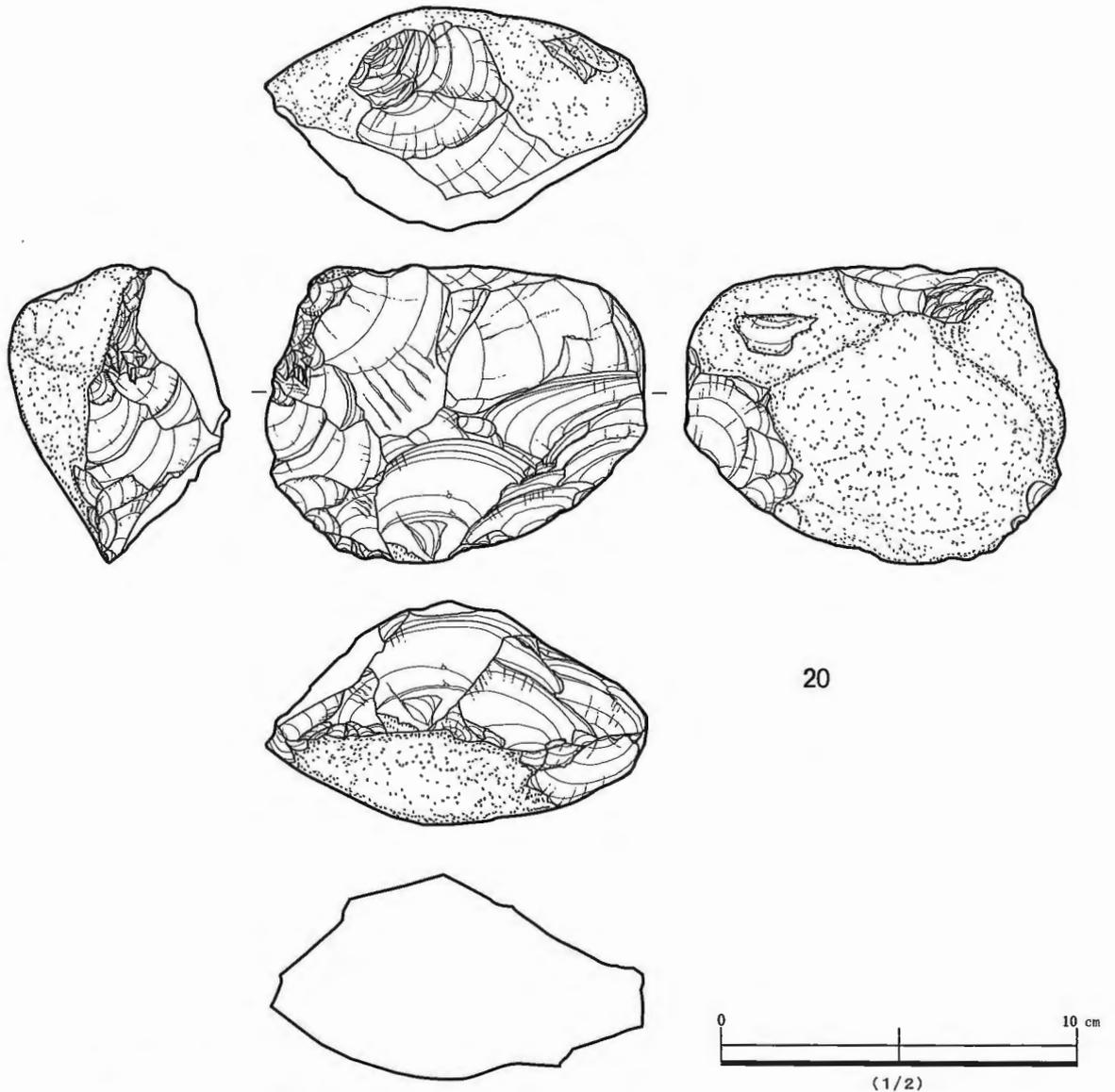
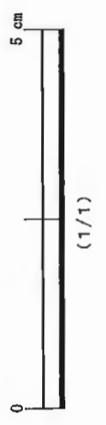
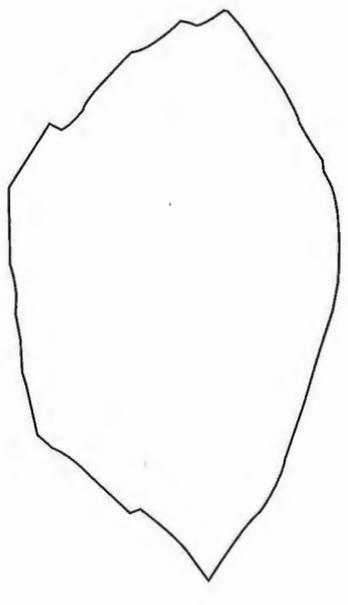
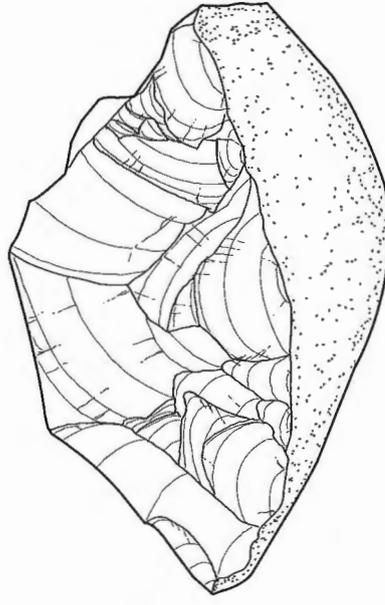
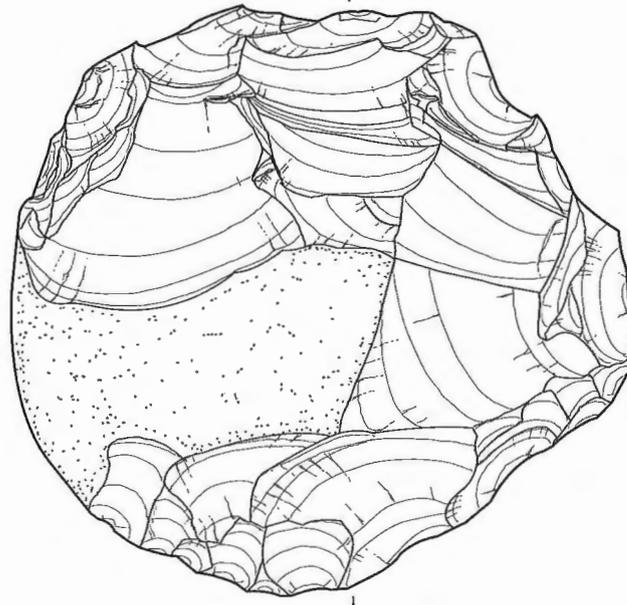
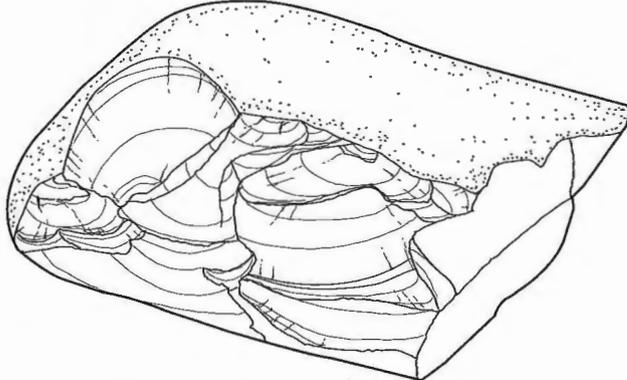
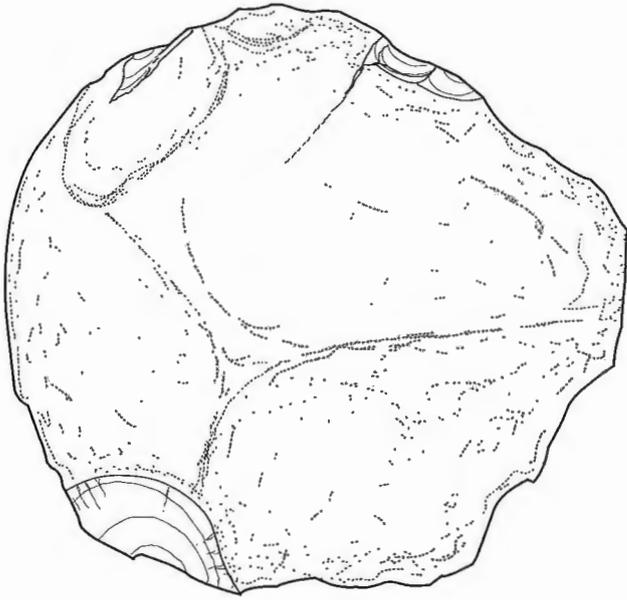


図 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器実測図⑤

6-4-02 (14856) は黒曜石製の石鏃で左右脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され右側脚部の一部に自然面が僅かに残され、両側縁は微細な押圧剥離によって直線的に調整される。図 6-4-03 (14857) はチャート製の石鏃の完形品で挟りのやや深い凹基の均整とれた二等辺三角形を呈する。両面に素材面を残し、先端部はやや丸く、両側縁は直線的に微細な押圧剥離によって調整される。図 6-4-04 (15184) はホルンフェルス製の石鏃で先端部が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面に素材面を残し、両側縁は僅かに丸みに調整される。図 6-4-05 (16029) は黒曜石製の石鏃で右脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され、両側縁は微細な押圧剥離によって僅かに丸み調整される。図 6-4-06 (16055) はホルンフェルス製の石鏃で左脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、先端部は小さく丸く、両側縁は僅かな凹凸をもって丸みに調整される。図 6-4-07 (18252) は黒曜石製の両面加工石器で平面形態が石鏃に似ており全長 5.0 cm のやや大形な完形品である。挟りのやや浅い凹基の左右脚部が不均整となる左右非対称な二等辺三角形を呈する。ソフトハンマーの直接打撃と、押圧剥離で成形される両面調整され先端部は小さく丸く、両側縁はやや丸く押圧剥離される。特に左側縁はさらに微細な剥離調整がされる。非対称な平面形態から表面を 90 度左回転させると



21

图 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測図⑥

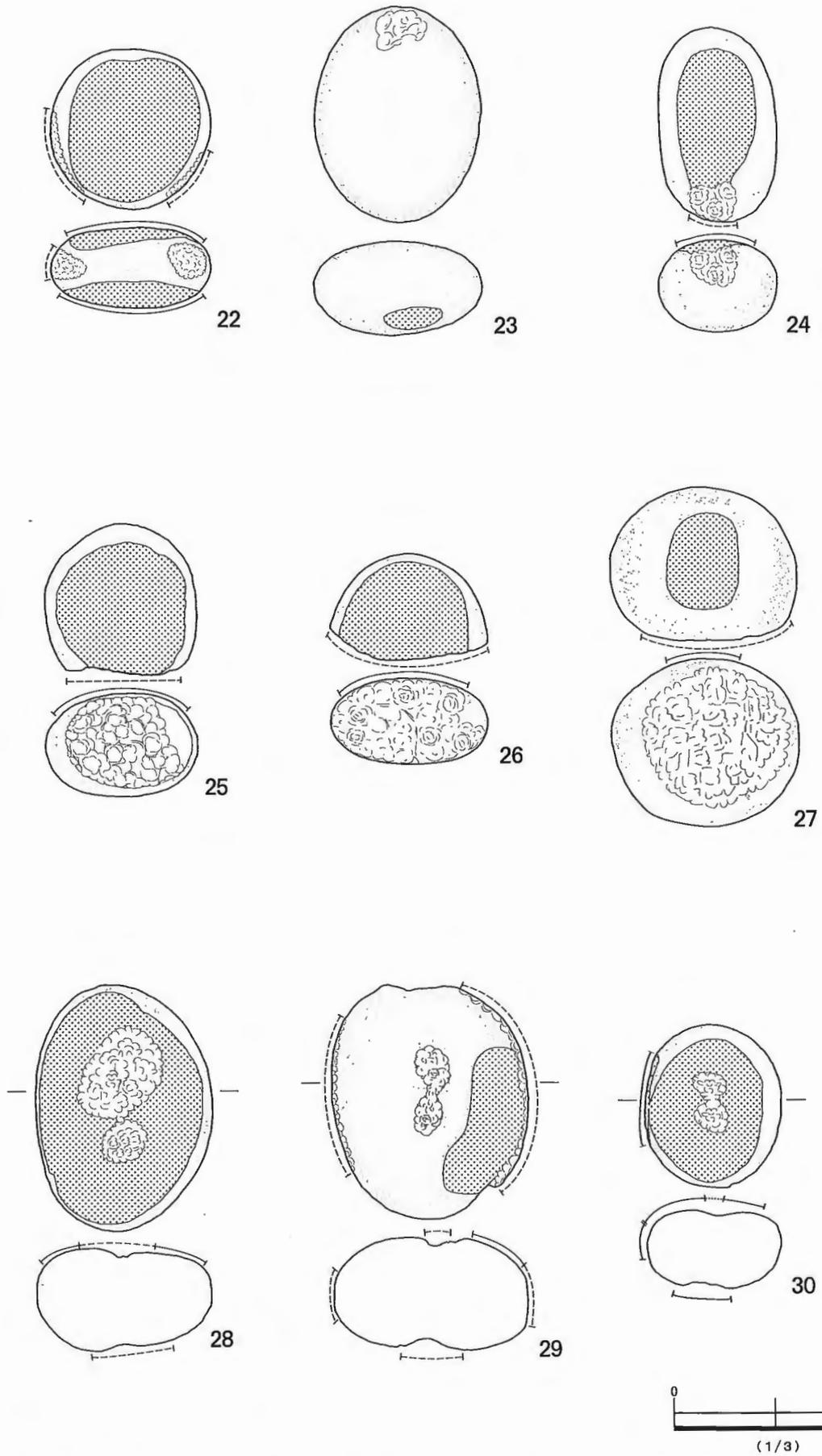


图6-4 3-1调查区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測图⑦

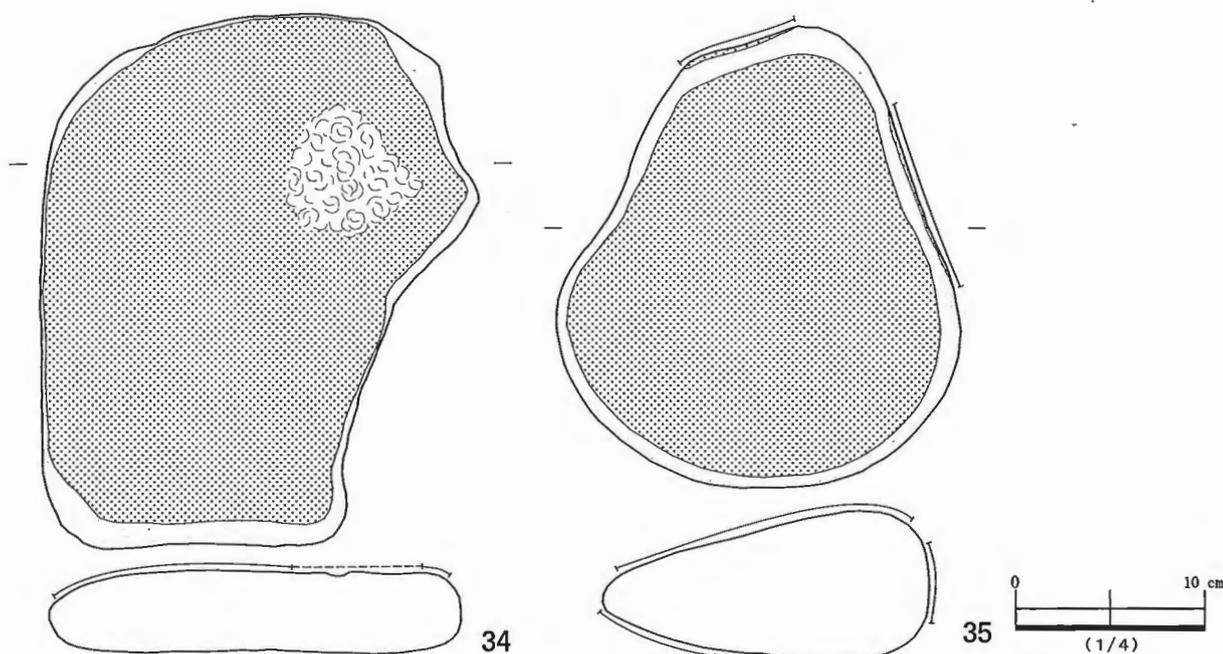
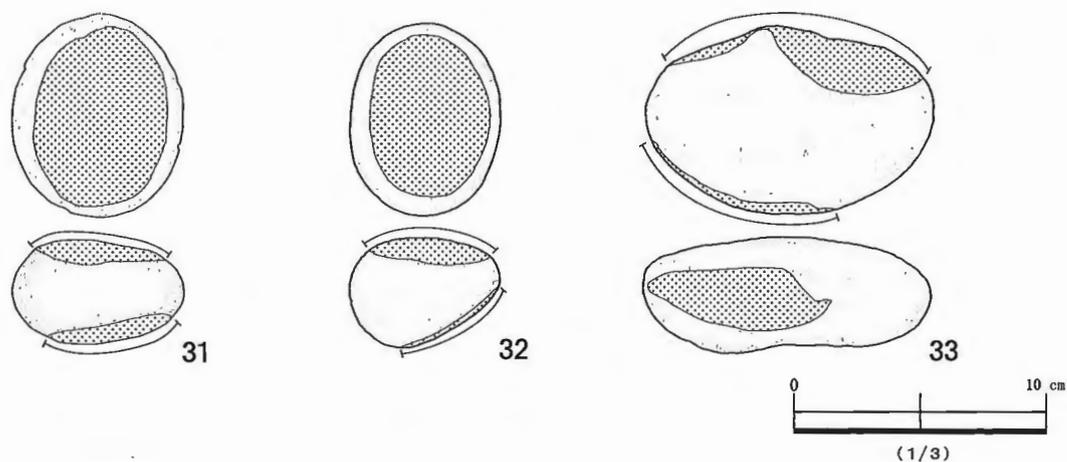


図 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器実測図⑧

左側縁の剥離調整部分を刃部、右脚部をツマミと推定すると石匙の形態と機能を示す可能性が考えられる。図 6-4-08 (25044) はガラス質黒色安山岩製の石鏃で右脚部が欠損している挟りの幅が広い凹基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、両側縁は微細な押圧剥離によって丸みに調整される。図 6-4-09 (25554) はチャート製の石鏃で完形品である。挟りのやや浅い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され、両側縁は僅かに丸みに押圧剥離によって調整される。図 6-4-10 (25594) はホルンフェルス製の石鏃で先端部が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、両側縁は僅かな凹凸をもって丸みに調整される。図 6-4-11 (25580) は流紋岩製の石鏃で左右脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され、両側縁は押圧剥離によって僅かな凹凸をもって調整される。

#### 両極石器（楔形石器）

図 6-4-12 (24462) は黒曜石製の両極石器（楔形石器）である。平面形態が正方形を呈し裏面に素材面を残し、端部は加撃を受けた直線的な縁辺部で対辺に向かって剥離があり、縦断面形態は凸レンズ状となる。

## スクレイパー

図 6-4-13 (15189) は頁岩製の削器である。平面形態は不定形な台形を呈し、縦長剥片の側縁を刃部にしてしている。刃部加工は風化で溶けて不明瞭であるが鋸歯縁の押圧剥離と考えられる。図 6-4-14 (21782) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形は不定形な台形を呈し、一部に自然面を残し、横長剥片素材に末端縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。図 6-4-15 (25238) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な台形に近い形を呈し、一部に自然面を残し、縦折を生じた縦長剥片の側縁に急角度の間接打撃で鋸歯状の刃部を形成している。図 6-4-16 (25699) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な三角形に近い形を呈し、一部に自然面を残し、垂直打撃で生じた縦長剥片の側縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。図 6-4-17 (23607) は頁岩製の不定形な小形の鋸歯縁削器である。裏面は素材面を残し両側縁に押圧剥離調整が施される。図 6-4-18 (25049) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。平面形態は二等辺三角形に近く、両側縁から先端部にかけてと基部の一部に押圧剥離調整が施される。

## 篋状石器

図 6-4-19 (21796) は黒曜石製の篋状石器・搔器である。平面形態は尖頭器の尖塔部が欠損した形に近く、刃部は円形に近い形を呈し、両面・両側縁加工が施される。刃部は微細な急角度の押圧剥離調整が施され搔器と同様の調整が施されている。

## 石核・礫器

図 6-4-20 (19043) は頁岩製の円盤状の石核である。末端縁が蝶番剥離になる矩形剥片を剥離している。

図 6-4-21 (21805) は頁岩製の片刃礫器である。円礫の一端にハードハンマーの直接打撃で粗い刃部を形成している。片面全体と一部に自然面を残している。

## 敲・凹・磨石

図 6-4-22 (14602) は細礫岩製敲・磨石の複合石器である。平面形態は円形に近く断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面を磨り面、側面を敲面として利用している。図 6-4-23 (19276) は中粒砂岩製の敲石である。平面形態は楕円形で断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、端部を敲面として利用している。図 6-4-24 (19050) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器である。平面形態は扁平の強い楕円形で断面形態はやや扁平の弱い楕円形を呈し、片面を磨り面、端部を敲面として利用している。図 6-4-25 (14873) はアプライト製の敲・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形の礫を約 1/3 を割り、断面形態は楕円形を呈し、片面を磨り面、割れ口を敲面として利用している。平坦な割れ口を敲面として利用していることから縄文時代早期撚糸文土器型式期に盛行する「スタンプ形」石器に似た形状と機能を有していると考えられ、また敲面は平滑で光沢がみられることから植物繊維等の比較的柔らかなものを敲いていたと推定される。図 6-4-26 (21783) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形の礫を約 1/2 に割り、断面形態は楕円形を呈し、片面を磨り面、割れ口を敲面として利用しており、30 と同様「スタンプ形」石器に似た形状と機能を有している。図 6-4-27 (24903) は凝灰岩製の敲・磨石の複合石器である。平面形態・断面形態ともに扁平の強い球形の約 1/4 を割り、片面を磨り面、平坦な割れ口を敲面として利用する「スタンプ形」石器と同様である。図 6-4-28 (15220) は粗粒砂岩製の凹・磨石の複合石器である。平面形態は扁平な楕円形で断面形態はやや扁平の強い楕円形を呈し、両面に 2 ヶ所の敲による凹があり、全体を磨り面としている。図 6-4-29 (25767) は輝石安山岩製の凹・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形で断面形態はやや扁平の強い楕円形を呈し、両面に敲による 2 ヶ所の凹、側面にも敲、磨り面としている。図 6-4-30 (15186) は粗粒砂岩製の凹・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形で断面形態はやや扁平の強い楕円形を呈し、両面に敲による 2 ヶ所の凹、側面を磨り面としている。図 6-4-31 (21812) は閃緑岩製の磨石である。平面形態は楕円形で断面形態はやや扁平の強い

楕円形を呈し、両面を磨り面としている。図 6-4-32 (14870) は角閃石安山岩製の磨石である。平面形態は楕円形で断面形態は卵状の楕円形を呈し、両面を磨り面としている。図 6-4-33 (21798) は閃緑岩製の磨石である。平面形態・断面形態ともにやや扁平の強い楕円形を呈し、両側面を磨り面としている。

#### 石皿

図 6-4-34 (22250) は床面中央炉跡脇から出土した輝石安山岩製の石皿である。平面形態は台形に近い不整形で断面形態は中央部が僅かに凹む極めて扁平な形で全体に板状を呈する。平坦部全体を磨り面とし張り出した部分に敲痕が認められる。図 6-4-35 (19051) は閃緑岩製の石皿である。平面形態は洋梨状で断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、表裏面の緩やかな曲面と側面を磨り面としている。

## 2号竪穴状遺構 (SB3002)

本遺構からは遺物が932点、内土器が170点、石器・礫・剥片他が762点出土した。平面分布は遺構内のほぼ全体から遺物が出土した。垂直分布は標高約 172.8 ~ 173.6 m にかけての標高 173.0 m 前後にある床面から約20cmの厚さの層と標高 173.5 m 前後の覆土上位層にもやや集中する 2層がみられた。

### 土器

#### 隆線文土器

図 7-2-01 (22185) は遺構東隅床面から出土した隆線文土器で、口唇部がやや尖る口縁部片である。外面は斜位の幅約 6 mm の扁平で薄い粘土紐貼付けが剥離しており、隆線上を爪形状に押圧する。内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に金雲母を少量含み、器厚は 4 ~ 5 mm である。図 7-2-02 (15160) は遺構西側覆土から出土した隆線文土器の胴部片である。外面は斜位に幅約 3 mm の丸みのある粘土紐を貼付け隆線上をヘラ状具でキザミ状に連続押圧し、器面は内面ともにヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きい砂粒を多く含み、器厚は 6 ~ 12 mm である。

#### 爪形文土器

図 7-2-03 (18158) は遺構北西側覆土中位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に「ハ」の字の爪形文が連続施文される。内面は指頭痕に条痕状調整が施される。胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み、器厚は 4 ~ 7 mm である。

#### 押圧縄文土器

図 7-2-04 (21823) は遺構北東隅覆土下位から出土した押圧縄文土器で爪形文に近似する施文の胴部片である。外面は横位に施文原体が 1 段の縄 R 左巻きで「ハ」の字に近似する爪形文状が連続施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は 9 ~ 10 mm で他の爪形文土器の焼成・色調・胎土と共通する。図 7-2-05 (16082) は遺構中央押覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に特徴があり折返し状に肥厚させキザミ状押圧が施文される。外面の施文原体が直線的な棒状で 1 段の縄 R を間隔狭く右巻き付けた施文具（絡条体）で横位から斜位の押圧縄文が 2 施文帯をもって施文、器面はヨコナデに調整される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は 4 ~ 5 mm である。図 7-2-06 (21970) は遺構北東側床面から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に特徴がありやや強く外反し丸く納められる。外面の施文原体が直線的な 1 段の縄 R を間隔やや広く右巻き付けた施文具（絡条体）で斜位の押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調が明るく胎土は粒の大きな砂粒と金雲母を少量含み、器厚は 4 ~ 5 mm と薄手である。図 7-2-07 (21439) は遺構西側隅覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片で外反を強めて立ち上がる。外面の施文原体が直線的な 1 段の縄 R を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）では斜位~横位の押圧縄文が 3 施文帯をもって施文、内面は指頭痕が目立ち強いヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む他に砂粒・繊維を含み、器厚は 5 ~ 8 mm である。図 7-2-08 (18146) は遺構南東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片でやや外反して立ち上がり口唇部を平坦気味に仕上げている。外面の施文原体が直線的な 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は黄色をやや強く胎土に金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は 5 ~ 6 mm である。図 7-2-09 (21958) は遺構中央床面から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部をやや肥厚させキザミ状押圧が施文される。外面の施文原体が直線的な 1 段の縄 R を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で上位から下位にかけて横・斜位に押圧縄文が 2 施文帯をもって施文、内面は指頭痕が目立ちヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きい砂粒を多く含み、器厚は 6 ~ 10 mm である。内面に輪積みによる接合部の肥厚が明瞭に認められる。図 7-2-10 (19018) は遺構西側隅覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片

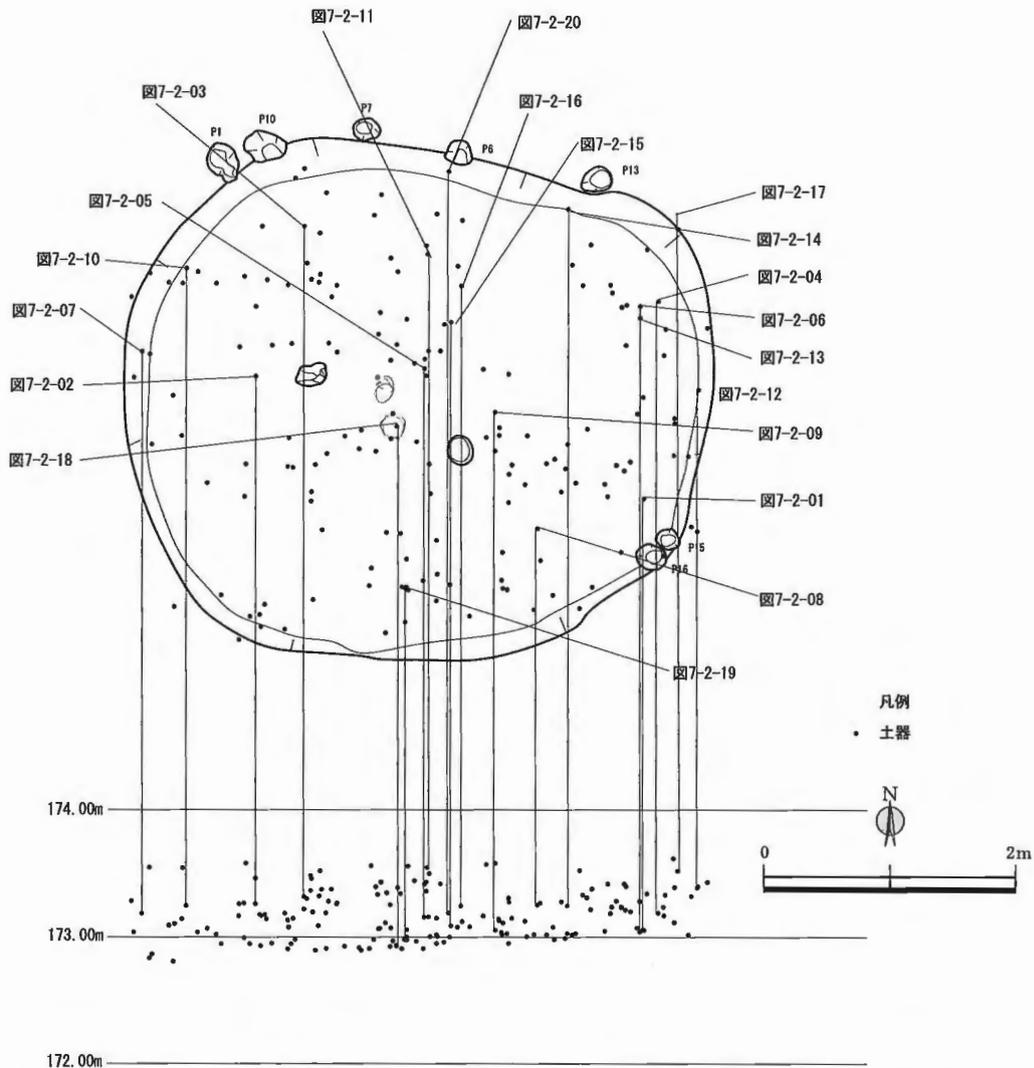


図 7-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器分布図

で口唇部を丸く仕上げている。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が丁寧に施される。また輪積による接合部の肥厚が顕著である。色調は暗く胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み、器厚は5～10mmである。推定口径は約18cmである。図7-2-11（11206）は遺構北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部を細く丸く仕上げ小さな波状に押圧している。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が丁寧に施される。また接合部の凹が認められる。色調は淡色で胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は3～9mmである。図7-2-12（14000）は遺構東側隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横・斜位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕が顕著でヨコナデ調整が丁寧に施される。色調は暗く胎土に金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は7～10mmである。図7-2-13（21831）は遺構北東側隅覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜・横位の押圧縄文が2施文帯をもって施文、内面は指頭痕調整が施される。色調はやや暗く硬質で胎土は粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は7～8mmである。図7-2-14（21818）は遺構北東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横・斜位に押圧縄文が施文される。内面は指頭

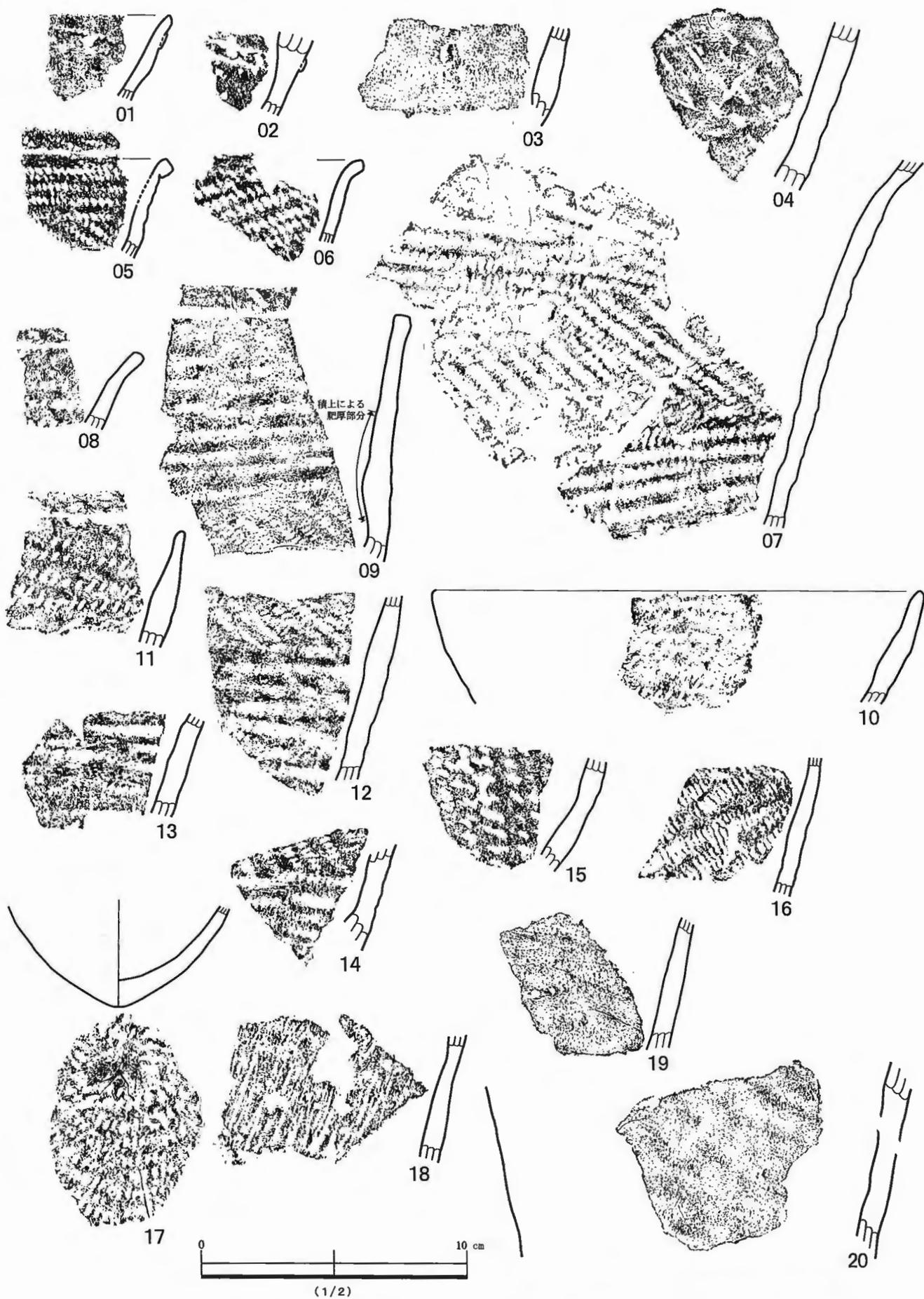


図 7-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

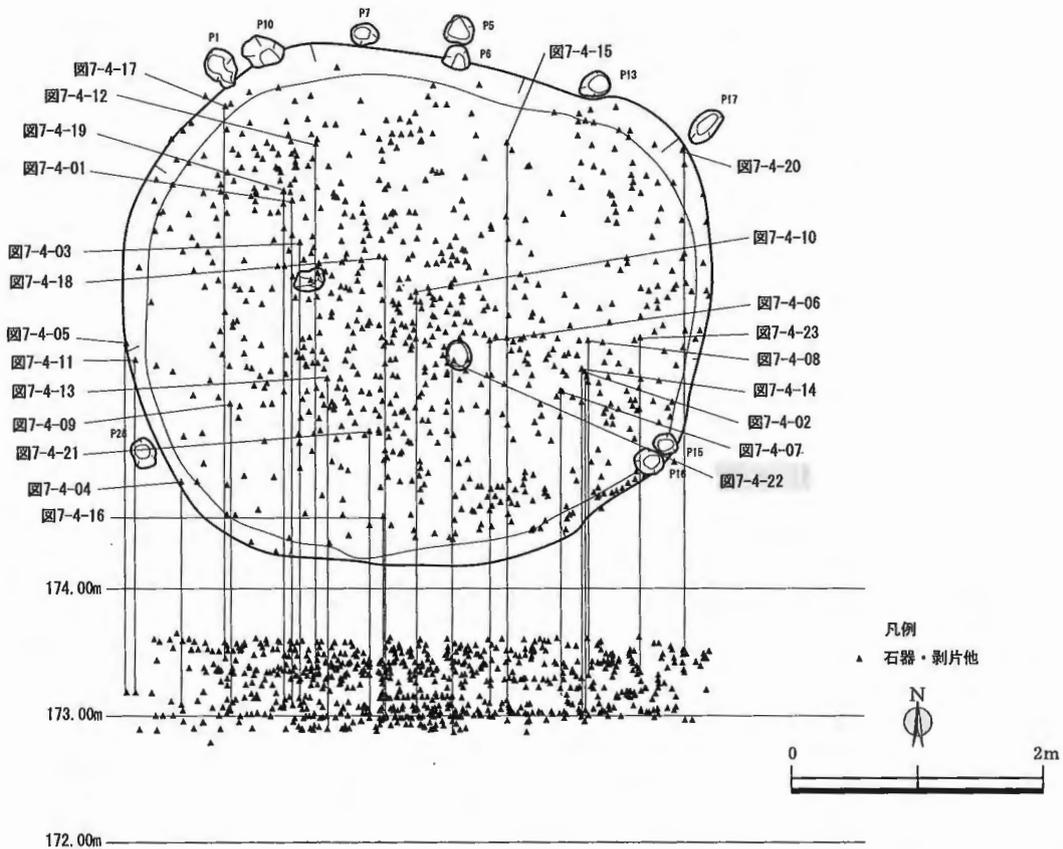


図 7-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

痕が顕著でナデ調整が施される。色調はやや暗く硬質で胎土は粒の大きな砂粒に繊維を含み、器厚は7～10mmとやや厚手で、爪形文土器に似た色調・胎土等である。図7-2-15(16084)は遺構中央覆土下位から出土した押圧縄文土器の底部付近片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Lを間隔広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は金雲母・砂粒を少量含み、器厚は6～10mmである。図7-2-16(19265)は遺構中央北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕に条痕文状調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は金雲母を多く含む他に粒の大きな砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図7-2-17(13642)は遺構北東隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の尖底部片で乳房状である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で斜位の押圧縄文が施文、内面は丁寧なナデ調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は金雲母・砂粒を含み、器厚は4～10mmと尖底部としては薄手である。

#### 条痕文系土器

図7-2-18(22205)は遺構中央床面から出土した条痕文系の胴部片である。外面は縦位の条痕文調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母が多く含まれる。他に砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図7-2-19(21886)は遺構南側床面から出土した無文の胴部片である。外

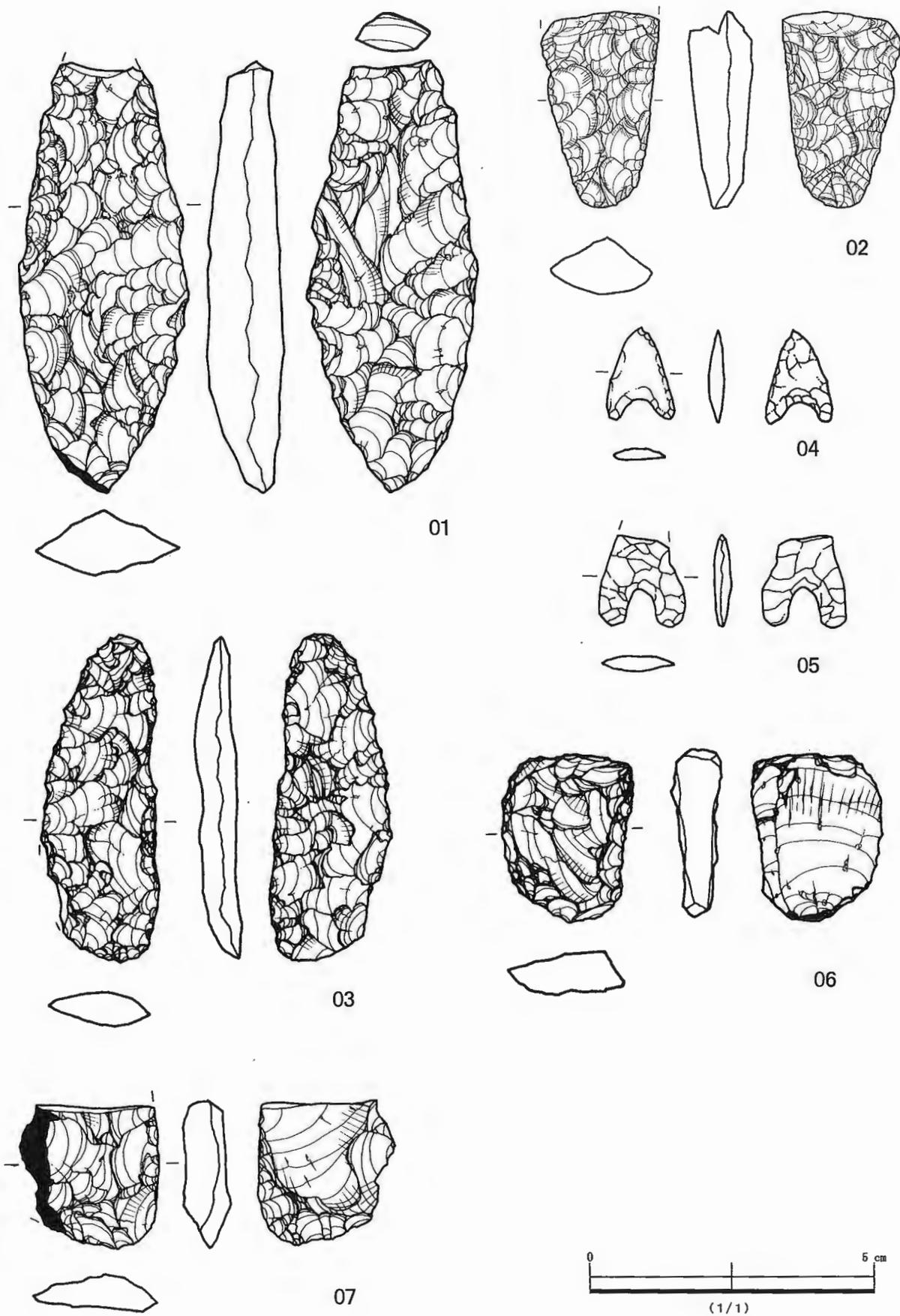


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測图①

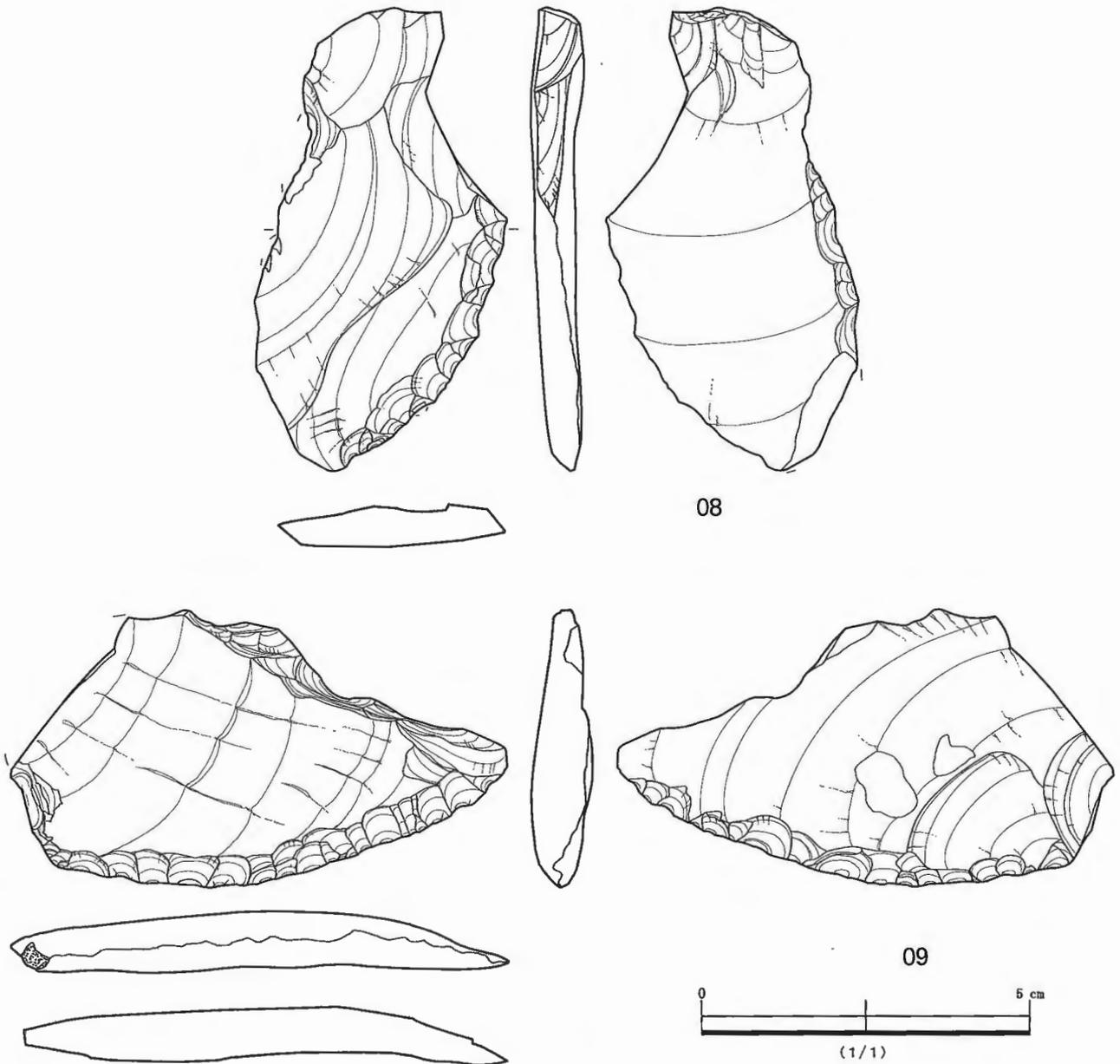


図7-4 3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器実測図②

面は斜位方向に僅かに稜が走り条痕・擦痕調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は砂粒・赤色粒を含み、器厚は5～8mmである。図7-2-20(21971)は遺構北側隅覆土下位から出土した無文の胴部片である。外面は斜位方向に僅かに稜が走り器面は丁寧なナデ調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は砂粒を少量含み、器厚は8～10mmで、隆線文土器の胴部と推定される。

## 石器

### 尖頭器

図7-4-01(19266)は黒曜石製の尖頭器で先頭部が欠損している。長さが推定で9cm前後の中形、身部の厚さは1.4cmとやや厚手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部の下半にあり、そこからやや強く基部に向かって細くなり尖基を呈する。両面調整に側縁にはソフトハンマーの直接打撃による微細な剥離調整が施される。図7-4-02(22372)は黒曜石製の尖頭器で身部上半が欠損している。10cm未満の中形と推定され、身部の厚さは1.1cm、平面形態はほぼ左右対称の柳葉形で基部に向かって

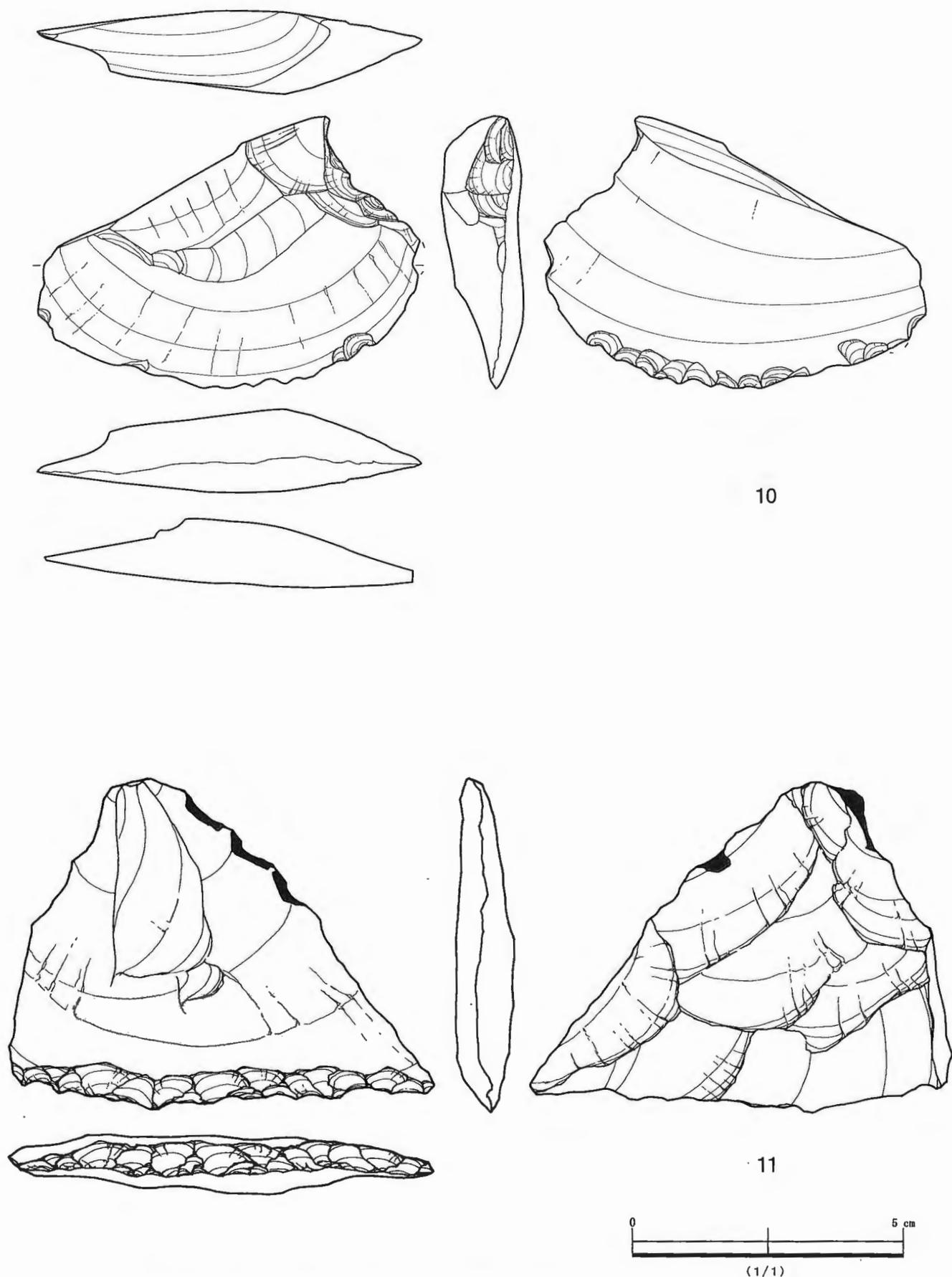
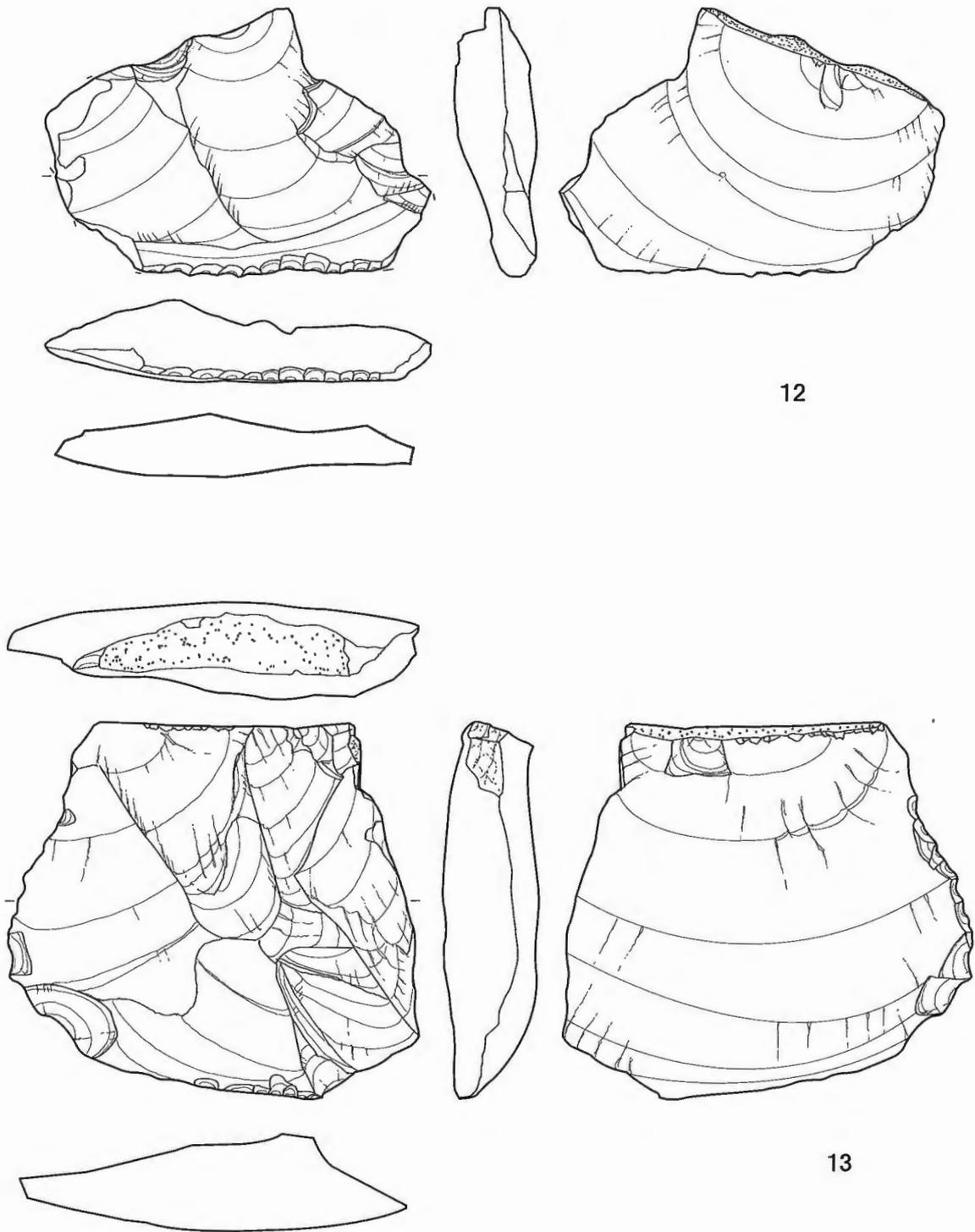


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図③



12

13

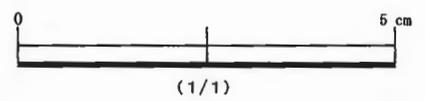


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図④

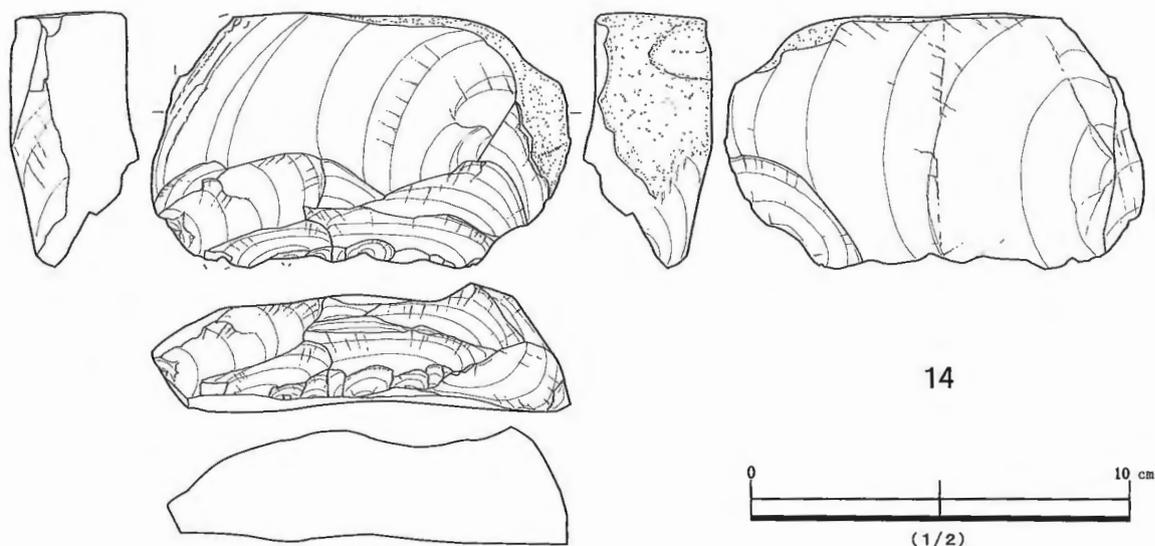


図 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑤

細くなりやや細い円基を呈する。両面調整に側縁の一部に押圧剥離による微細な剥離調整が施される。

#### 半月形石器

図 7-4-03 (17606) は黒曜石製で両面加工が施され、平面形態が左右非対称で半月状を呈することから半月形石器とする。長さが 5.8 cm の中形、身部の厚さは 0.7 cm と薄手、最大幅が身部下半にあり、先頭部・基部は共に円基を呈する。両面調整に側縁には押圧剥離による微細な剥離調整が施される。

#### 石鏃

図 7-4-04 (21412) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で抉りのやや深い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形を呈する。両面に素材面を残し、左側縁は直線的であるが右側縁は僅かに丸みをもって片面が細かく調整される。図 7-4-05 (21909) はホルンフェルス製の石鏃で先端部が欠損するが抉りのやや深い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形を呈すると推定される。左側縁は直線的であるが右側縁は外湾気味に丸みをもって調整される。

#### スクレイパー

図 7-4-06 (19262) は黒曜石製の不定形な鋸歯縁削器である。裏面に素材面を残す片面調整、表面の右側縁が僅かに内湾気味以外は外湾気味に押圧剥離調整され、加撃を受け対辺に向う剥離面がある。図 7-4-07 (19039) は黒曜石製の不定形な鋸歯縁削器である。裏面に素材面を残し、両面の先端部と表面基部には加撃を受け対辺に向う剥離面がある。加撃による剥離面から楔形石器としての利用が考えられる。

図 7-4-08 (16080) は頁岩製の削器、平面形態は縦型石匙状を呈する。切子打面の縦長剥片素材の材面を多く残り全体に粗製で右側縁は外湾気味の刃部がソフトハンマーによる押圧剥離調整によって作り出される。基部近くの左側縁には抉り状の剥離が施され石匙とすることが可能である。図 7-4-09 (21416) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器で、横長剥片素材で、末端縁に急角度の押圧剥離状の刃部を形成している。基部近くの側縁に浅い抉り状の剥離が施される。このことから石匙とするも可能である。図 7-4-10 (22376) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器で、両面に素材面を残す粗製で丸く外湾する刃部は急角度の押圧剥離による片面調整される。基部右側縁に抉りによる剥離が施されることから石匙とすることが可能である。図 7-4-11 (21908) はホルンフェルス製の鋸歯縁削器である。平面形態は三角形を呈し、表面は素材面を残し全体に粗製である。刃部はほぼ直線的に片面調整の押圧剥離調整が施される。図 7-4-12

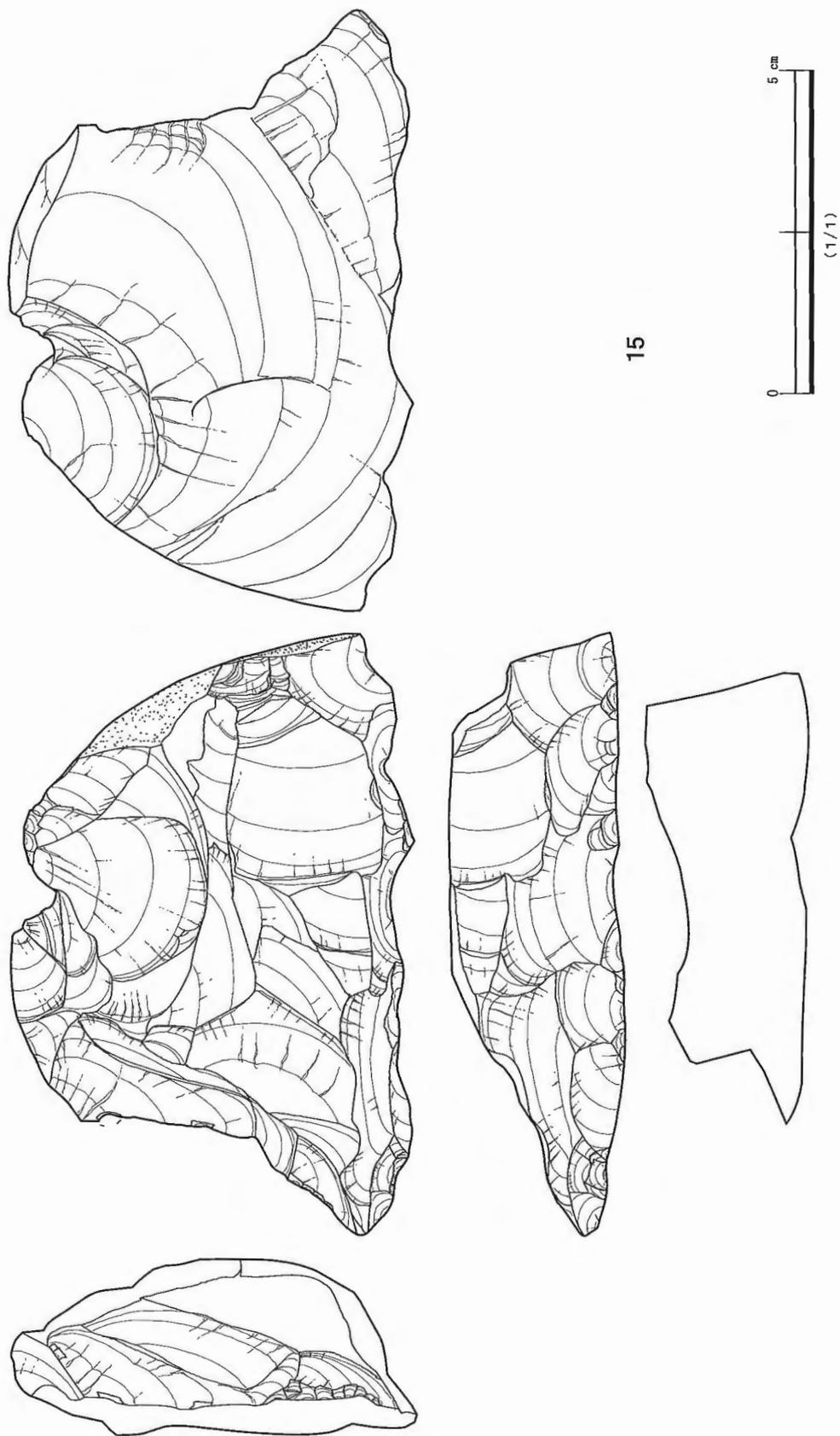


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑥

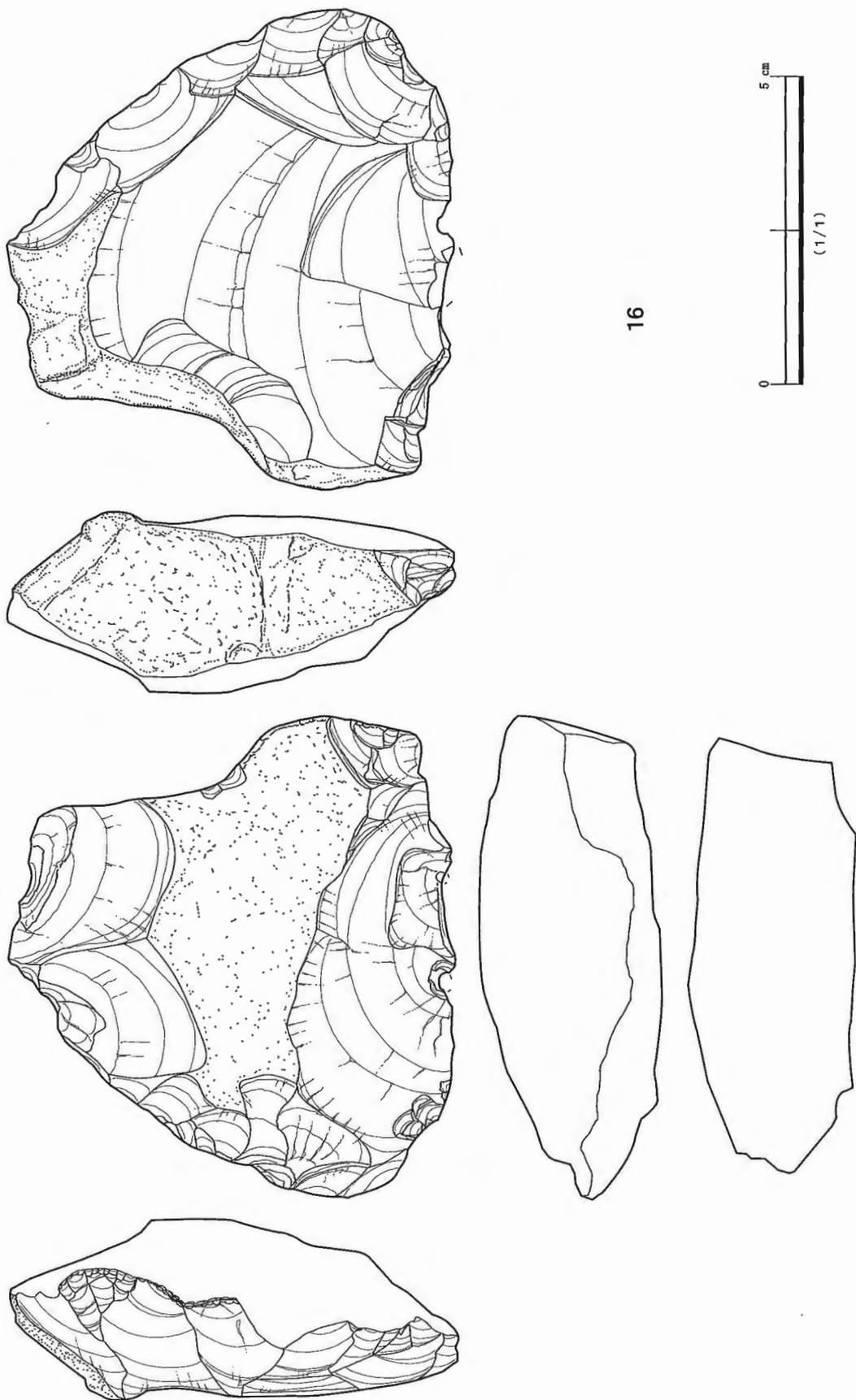


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑦

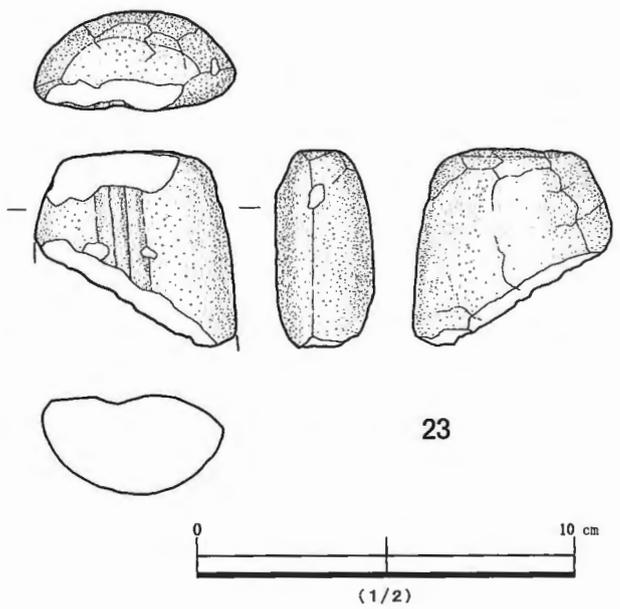
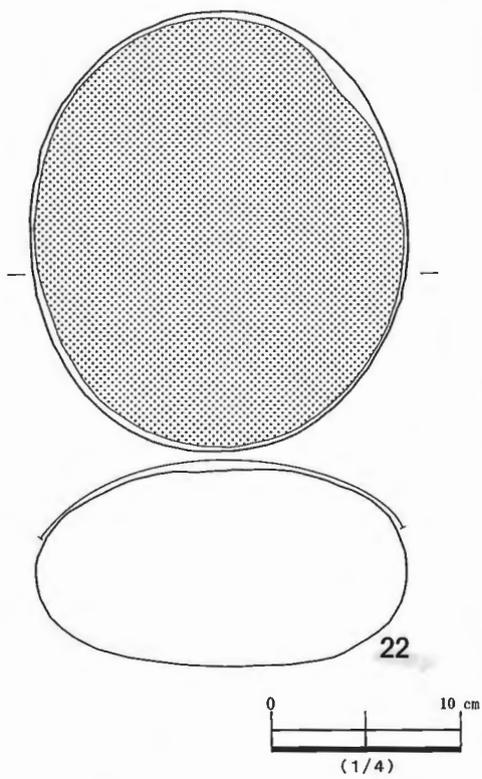
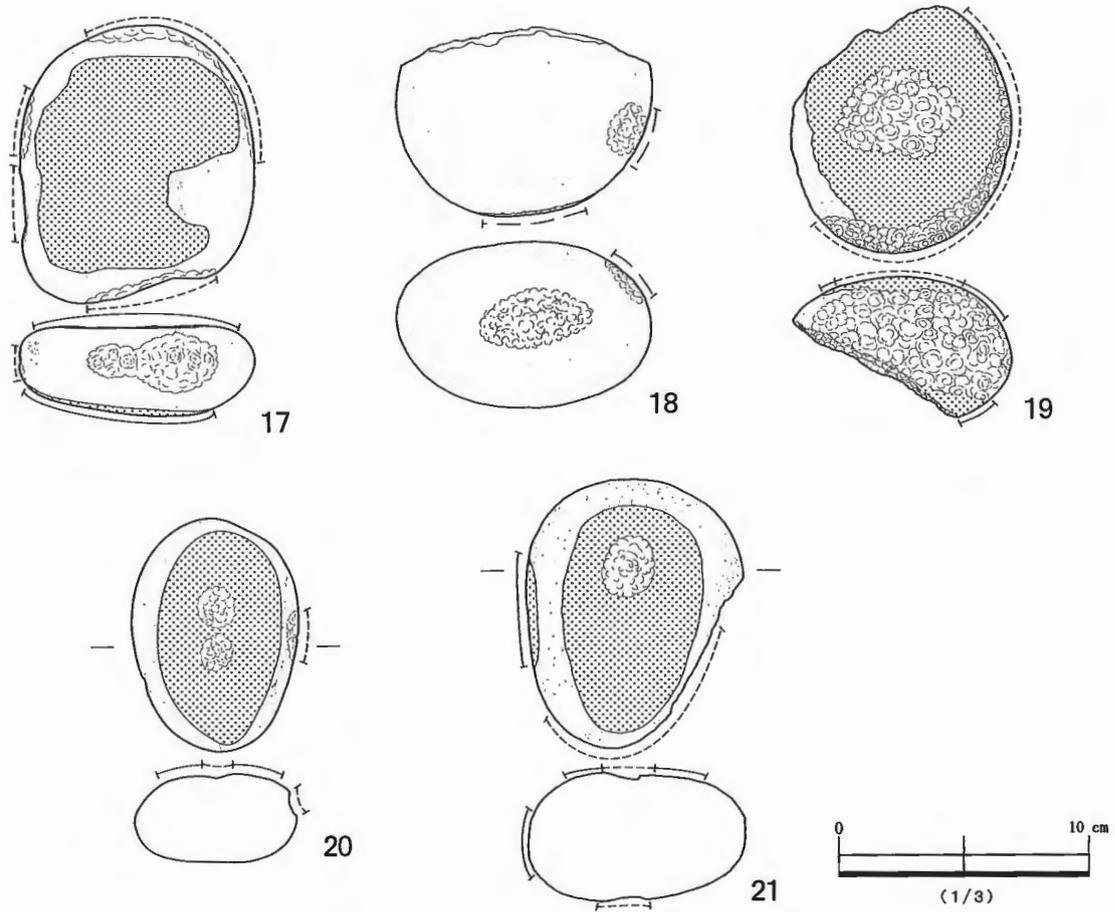


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑧

(18156) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。両面に素材面を残し調整は全体に粗製である。刃部は片面調整で急角度の鋸歯状の細かな押圧剥離調整が施される。図 7-4-13 (22219) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。自然面と裏面は素材面を残し粗製で、刃部として利用された末端部には急角度の押圧剥離が施される。

#### 石核・礫器

図 7-4-14 (22186) は頁岩製の片刃石核石器で、分厚い剥片を素材にした鋸歯縁の鈍器である。加工調整はハードハンマーの直接打撃によっている。図 7-4-15 (19037) は頁岩製の鋸歯縁石器である。分厚い横長剥片の末端縁にコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で刃部を形成している。図 7-4-16 (21893) は頁岩製の両刃石核石器である。分厚い剥片を素材にしたチョッピングツール状の鈍器である。刃先は潰れておりハードハンマーによる直接打撃調整である。

#### 敲・凹・磨石

図 7-4-17 (11220) は中粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形の張りの少なく断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面に磨り面、両端部に敲面がある。図 7-4-18 (21392) はアプライト製の敲石で、平面形態は楕円形と推定され断面形態は扁平する楕円形を呈し、側面と両端部に敲面がある。図 7-4-19 (22464) はアプライト製の敲・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈し、両面に磨り面、表面と側面に敲面がある。図 7-4-20 (10641) は流紋岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともにやや扁平な楕円形を呈し、表面のみに敲による 2ヶ所の凹と磨り面に右側面に敲痕がある。図 7-4-21 (22377) は閃緑岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともにやや扁平な楕円形で平面の右側面下半に抉れを呈し、端部を中心とした側面に敲痕と裏表面に敲による凹と表面に磨り面がある。

#### 石皿・台石

図 7-4-22 (22222) はアプライト製の石皿で、平面は均整のとれた楕円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、滑らかに張る表面全体が磨り面となる。

#### 有溝砥石

図 7-4-23 (15318) は中粒砂岩製の有溝砥石で矢柄研磨器と呼ばれるものの欠損品である。平面形態は細長い胴張りの長方形と推定、断面形態はやや扁平な半円形で全体にかまぼこ形に近い形を呈している。有溝部分は径 1.2cm で浅い半円形に近い断面形態となる。

### 3号竪穴状遺構 (SB3003)

本遺構は調査区外が遺構全体の約 1/2 を占めていること、2・11号竪穴状遺構と50号土坑によって切り合い関係にあること、さらに遺跡保存のため範囲確認と一部をサブトレンチによる精査のため遺物は375点、内土器が89点、石器・礫・剥片他が286点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約 172.8 ~ 173.6 m にかけての標高 172.9 ~ 173.2 m の層に集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図 8-2-01 (22279) は遺構南西覆土から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部をやや細く丸く仕上げている。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜・縦位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕に条痕状調整が丁寧に施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は4~6mmである。推定口径は約18cmである。図 8-2-02 (25753) は遺構南側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面の施文原体が直線的で不明瞭な縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜・縦位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナ

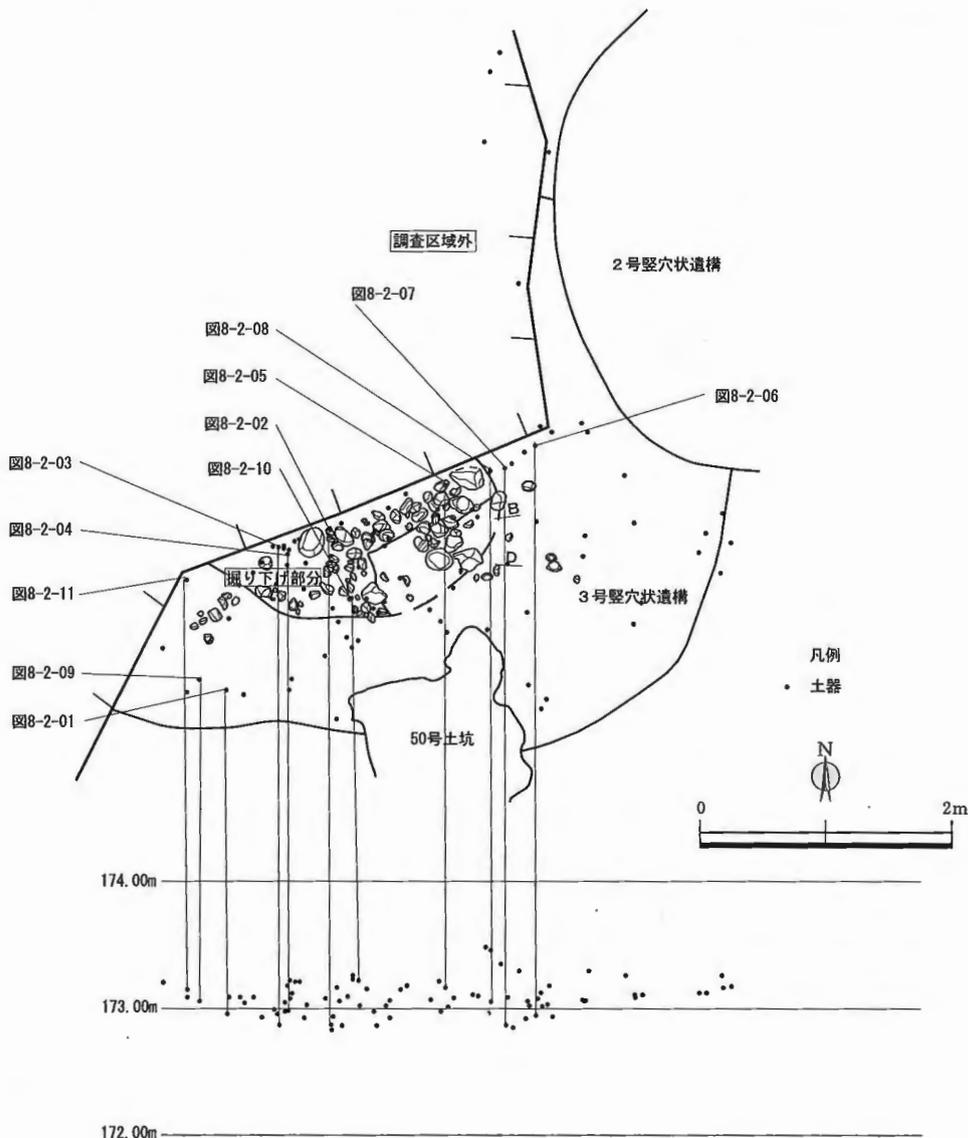


図 8-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器分布図

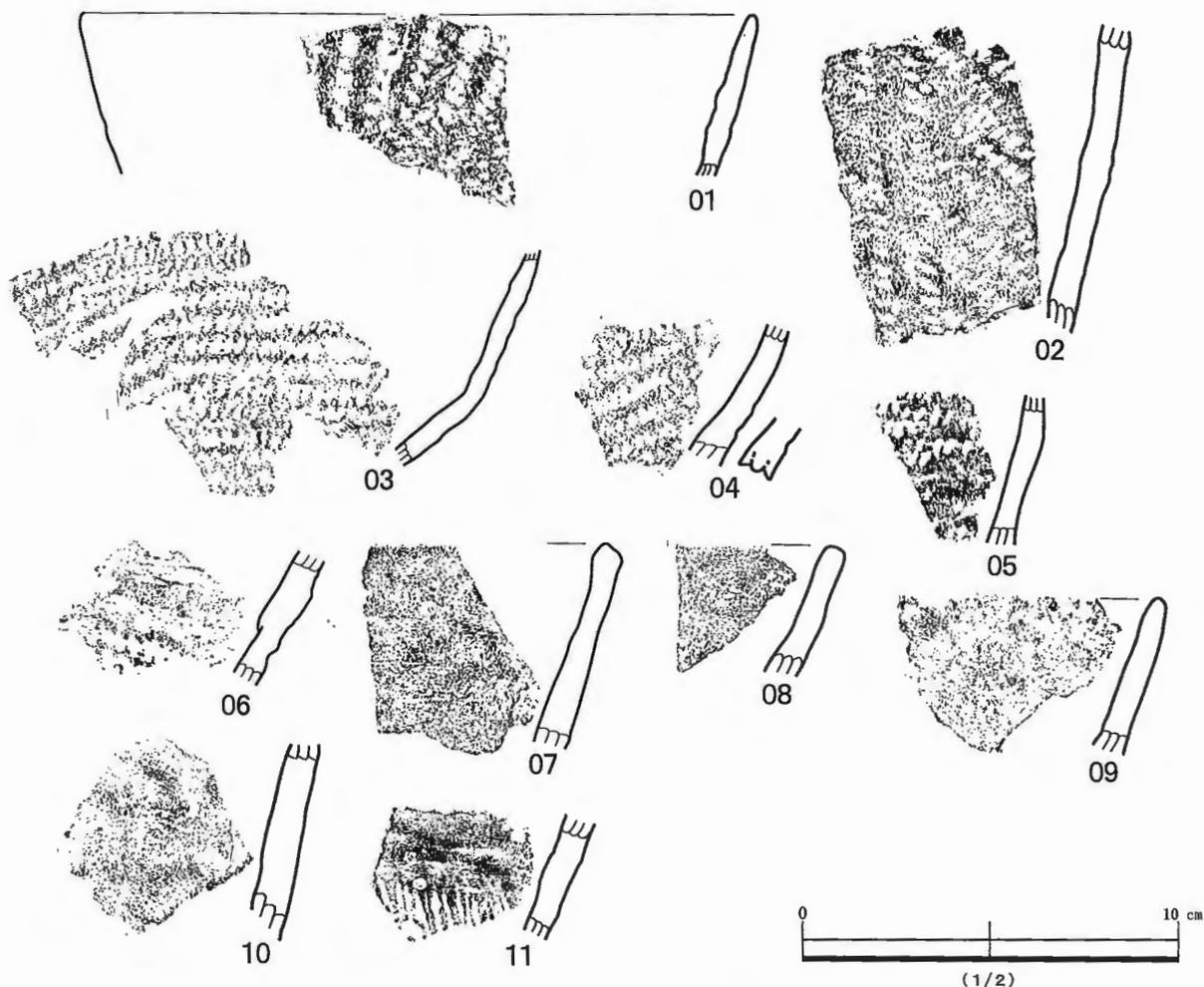


図8-2 3-1調査区 縄文時代草創期 3号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

デ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み、器厚は7mmである。図8-2-03 (25740) は遺構南側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや屈曲部を持って開いて立ち上がる。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文が施文、内面は器面が荒れて不詳である。また左右・上下の接合痕が残されている点が特徴である。色調はやや明るく胎土に金雲母に白色粒を多く含み、器厚は4~5mmで薄手で小形である。図8-2-04 (22280) は遺構南側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや内湾して立ち上がる。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。接合による肥厚と凹が残されている。色調はやや明るく胎土に金雲母に砂粒を多く含み、器厚は4~8mmである。図8-2-05 (21998) は遺構中央南側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。また接合部の凹が認められる。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5~6mmである。図8-2-06 (25709) は遺構中央東側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面の施文原体は直線的な棒状で不明瞭縄の間隔をやや広く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。また輪積による接合部の肥厚が顕著である。胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は5~8mmである。

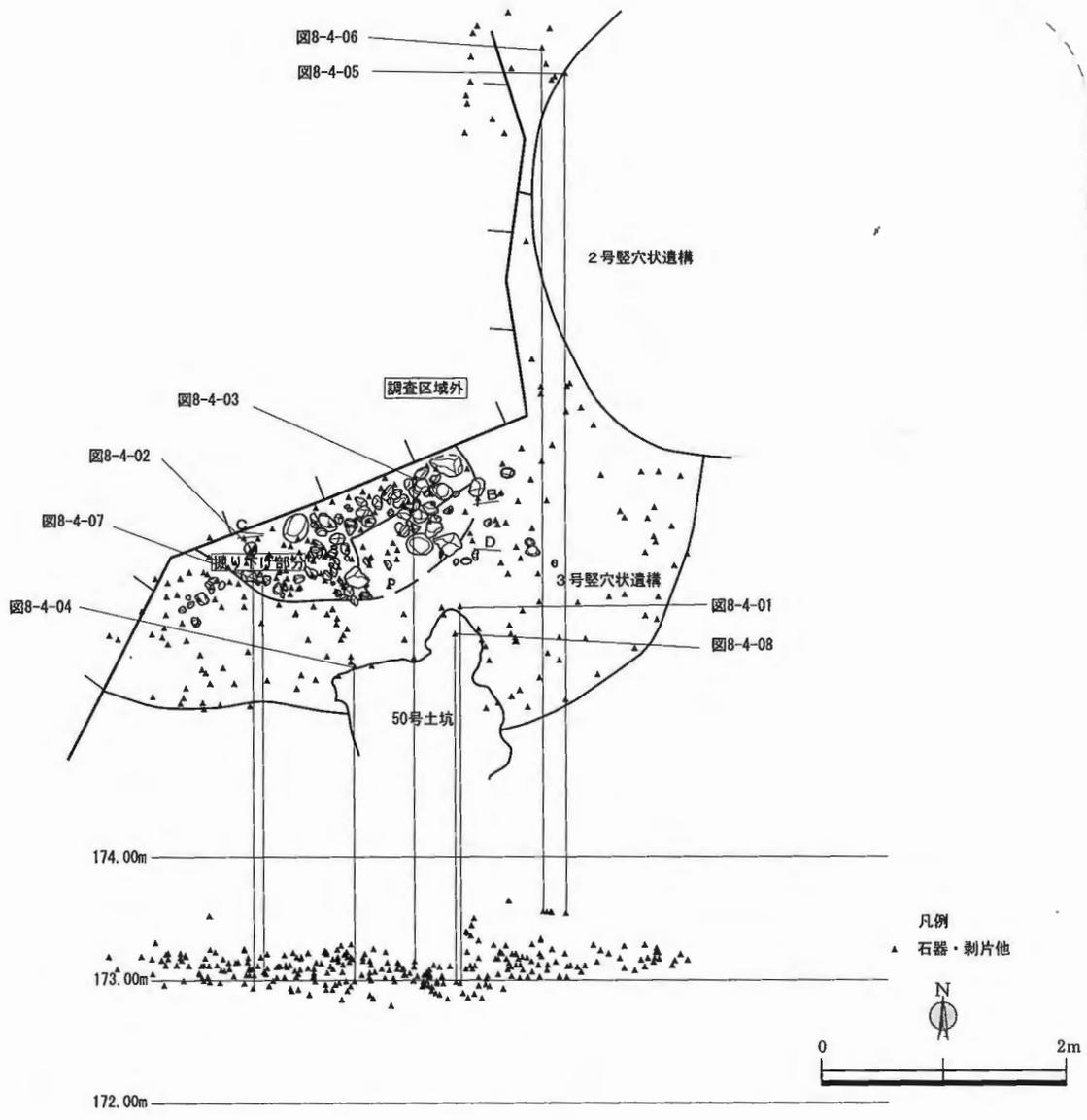


図 8-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

### 無文土器

図 8-2-07 (25712) は遺構中央東側覆土下位から出土した無文土器の口縁部片で口唇部を僅かに肥厚させて仕上げています。内外面共に指頭痕にヨコナデが条線状調整される。胎土は砂粒が多く含む他に金雲母・繊維を含み、器厚は6～7mmである。図 8-2-08 (25714) は遺構中央東側覆土から出土した図 8-2-07 と同一固体の口縁部片であるが接合しないものである。図 8-2-09 (17152) は遺構南西側覆土から出土した無文土器の口縁部片で口唇部を細く丸く仕上げています。外面は丁寧にナデ調整され、内面は指頭痕にヨコナデ調整される。色調は暗く胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は6～7mmである。図 8-2-10 (11084) は遺構南側覆土から出土した無文土器の胴部片である。内外面ともに丁寧に指頭痕にナデ調整される。色調はやや明るく胎土は砂粒を多く含む、器厚は7～10mmである。図 8-2-11 (25736) は遺構南西側覆土から出土した無文土器の胴部片である。外面は集合沈線文と推定される施文が施される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土は砂粒が含まれ他に金雲母を微量含む、器厚は6～8mmである。

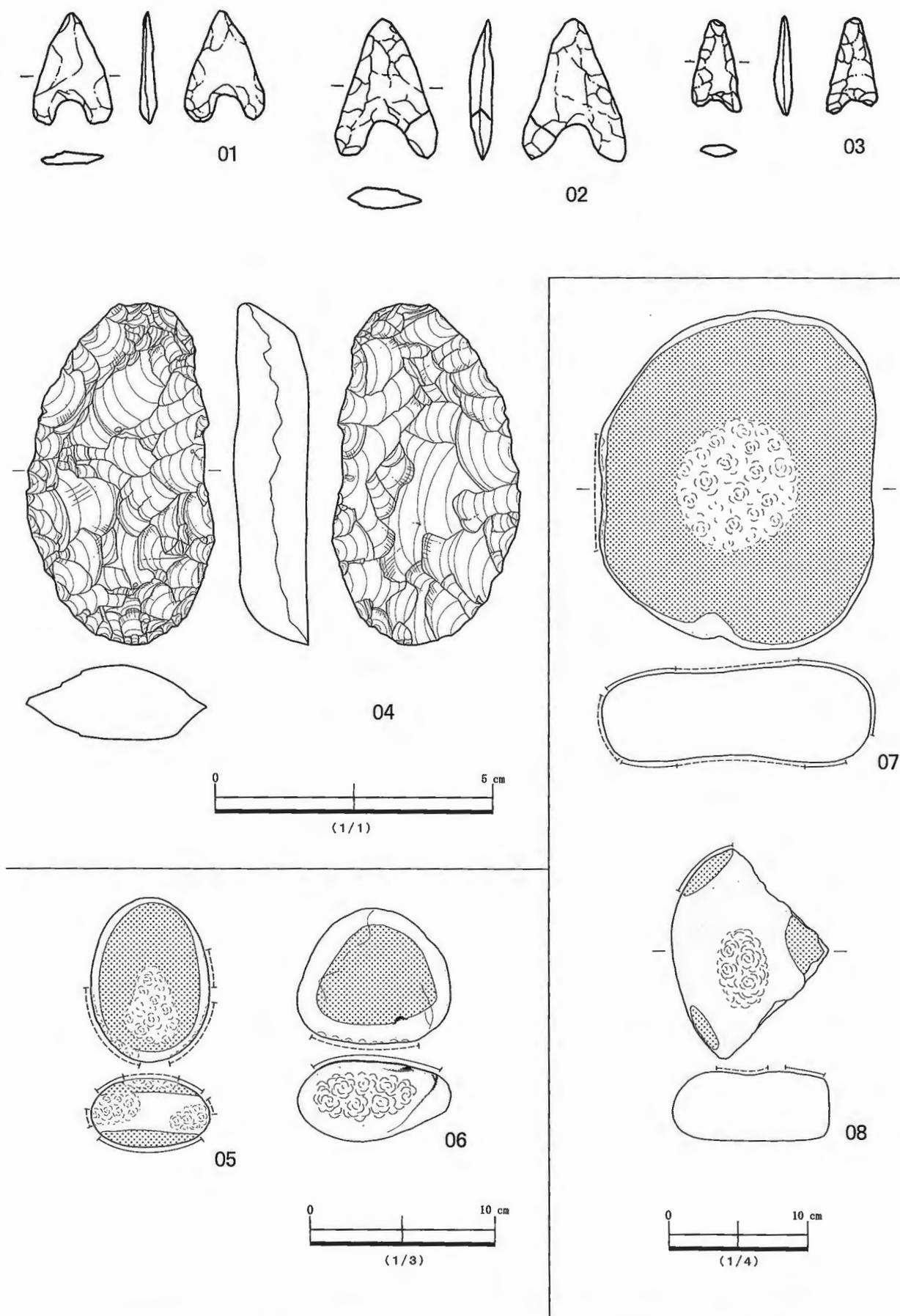


图 8-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竖穴状遺構出土 石器実測図

## 石器

### 石鏃

図 8-4-01 (24155) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で基部の抉りのやや深い凹基の左右対称の二等辺三角形を呈し、厚さが 3 mm と薄手である。両面に素材面を残し、両側縁ともに僅かに丸みをもっている。全体に調整が不明瞭である。図 8-4-02 (25752) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で基部の抉りのやや深い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両側縁ともにほぼ直線的な調整加工されるが、全体に調整が不明瞭である。図 8-4-03 (23629) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で基部の抉りのやや浅い凹基の左右非対称の二等辺三角形を呈し、長さが 1.8 cm の小形である。両側縁ともにほぼ直線的な調整加工されるが、全体に調整が不明瞭である。

### 筥状石器

図 8-4-04 (22295) は黒曜石製の筥状石器である。平面形態は半月形石器に近い形、断面形態は凸レンズ状を呈している。両面調整加工で両端部が刃部となる。刃部はコンタクトエリアの小さなソフトハンマーの直接打撃で片刃に形成される。

### 敲・磨石

図 8-4-05 (13427) は輝石安山岩製の敲・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈する。磨り面は両面全体にあり敲痕は表面と側面にある。図 8-4-06 (13425) は細礫岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は隅丸の三角形、断面形態は扁平の強い楕円形を呈する。表面に磨り面があり側面に敲痕がある。

### 石皿

図 8-4-07 (12225) は斑糲岩製の石皿で平面形態は隅丸の台形に近く、断面形態は隅丸で中央がやや括れる板状を呈している。磨り面が両面全体にあり敲痕は両面中央の括れ部分にある。図 8-4-08 (22294) は輝石安山岩製の石皿の破損品で平面形態は楕円形と推定され約 1/4 が残存する。断面形態は隅丸で中央がやや括れる板状を呈している。磨り面が表面と側面にあり敲痕は表面中央付近の括れ部分にある。

#### 4号竪穴状遺構 (SB3004)

本遺構は5・14号竪穴状遺構と53号土坑と切り合い関係にあり遺物は486点、内土器が98点、石器・礫・剥片他が388点の出土である。平面分布は遺構内西側がやや少ないがほぼ全体から遺物が出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6 mにかけての標高173.0 m前後にある約40 cmの厚さの層に集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 爪形文土器

図9-2-01 (16207) は遺構北側覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は「ハ」の字と推定される施文、内面は器面が荒れて不詳である。接合部に儀口縁が残されている。色調はやや明るく胎土に砂粒、獣毛状繊維を含み、器厚は9 mmである。

##### 押圧縄文土器

図9-2-02 (16212) は遺構中央覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片である。口唇部は丸棒状具によるキザミ状押圧が施文される。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にナゲ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は5 mmである。図9-2-03 (18883) は遺構中央床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は直線的な棒状で不明瞭な縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で縦～斜位に施文、内面は指頭痕にヨコナゲ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は6～7 mmである。図9-2-04 (22832) は遺構東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナゲ調整が施される。また接合による重ねとミガキ調整が顕著である。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み他に砂粒を含み、器厚は6～7 mmである。図9-2-05 (21995) は遺構北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナゲ調整が施される。また接合による重ねが顕著である。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～7 mmである。

##### 無文土器

図9-2-06 (18886) は遺構北側隅覆土下位から出土した無文土器の胴部下半片である。外面は横位の沈線文調整、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナゲ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図9-2-07 (16200) は遺構南側隅覆土下位から出土した無文土器の胴部下半片である。外面は斜位の条痕文調整、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナゲ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒・白色粒を含んでいる。図9-2-08 (13327) は遺構北側隅覆土中位から出土した無文土器の胴部片である。外面はヨコナゲに縦位の擦痕調整、内面は指頭痕にヨコナゲ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒を多く含んでいる。図9-2-09 (11938) は遺構中央覆土上位から出土した施文不詳土器の胴部片である。内面は指頭痕にヨコナゲ調整される。色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒の他に金雲母・赤色粒を含んでいる。接合による肥厚と儀口縁が認められる。

#### 石器

##### 尖頭器

図9-4-01 (10530) は黒曜石製の尖頭器で身部下半が欠損している。長さが推定で10 cm以上の大形と推定、身部の厚さはやや薄出、平面形態はほぼ左右対称の木葉形と推定される。両面調整に側縁にはソフトハンマーの直接打撃とコンタクトエリアの小さなソフトハンマーの2種類が使用されている。後者

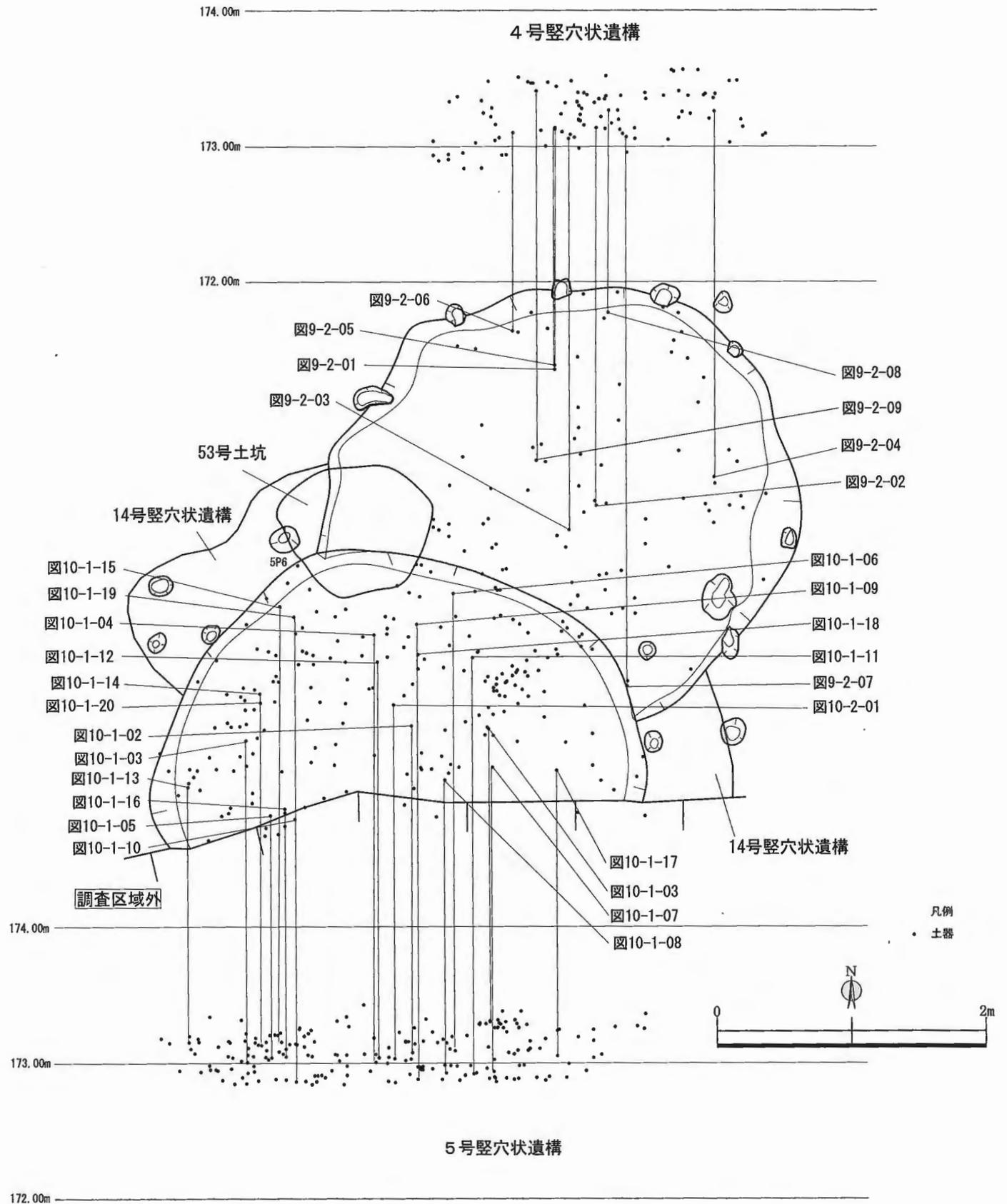


図9-1 3-1調査区 縄文時代草創期 4・5号竖穴状遺構出土 土器分布図

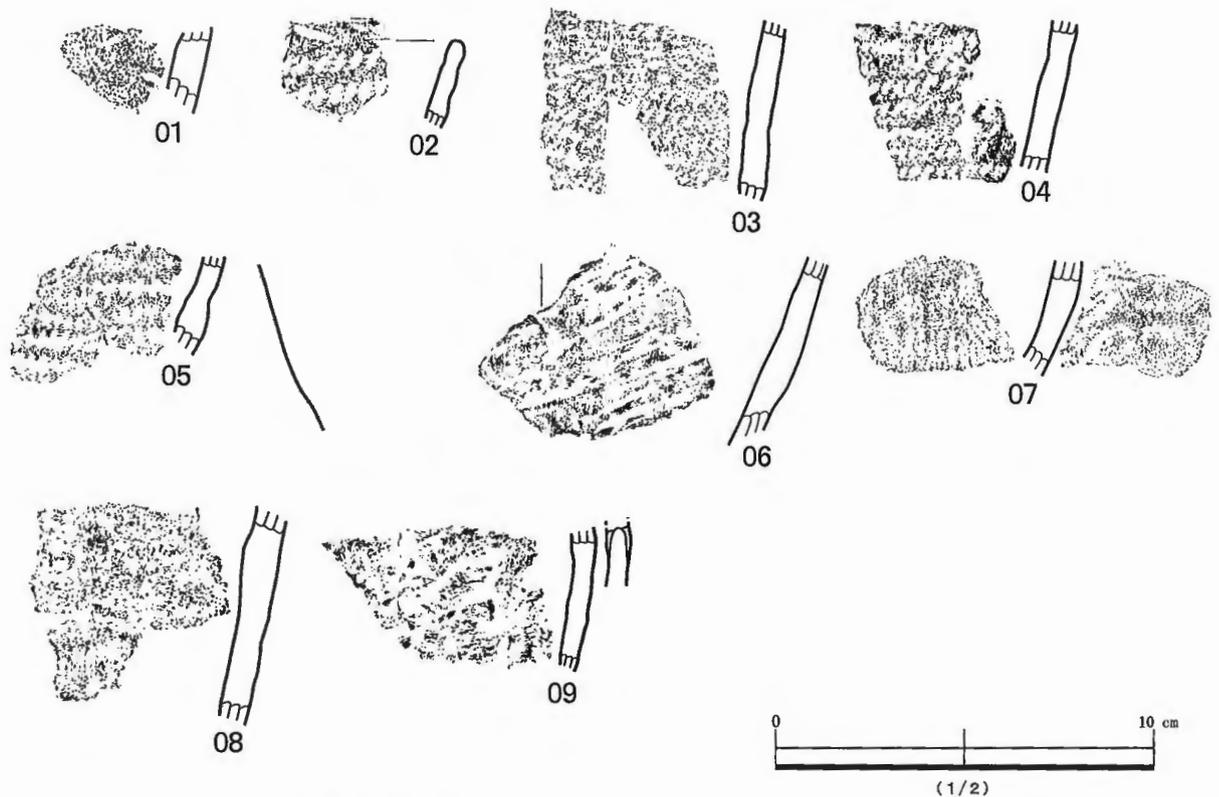


図9-2 3-1調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図

のソフトハンマーは変形度が小さいので、ハードハンマーの剥離面様相特徴を兼ねている細かな剥離調整が施される。

#### 石鏃

図9-4-02 (25609) はホルンフェルス製の石鏃で左脚部先端が欠損している。平面形態はほぼ左右対称の二等辺三角形で基部は括れのやや深い凹基、断面形態は薄手の凸レンズ状を呈する。調整加工は側縁の一部に押圧剥離による細かな剥離調整が施されるが全体に不鮮明である。

#### 両極石器（楔形石器）

図9-4-03 (22831) は頁岩製の両極石器（楔形石器）である。平面形態が台形、上端部に自然面が残る打面の剥片素材である。上端縁表面には加撃による剥離を受け対辺に向う剥離面がある。

#### スクレイパー

図9-4-04 (18884) は頁岩製の不定形な剥片石器である。厚手の横長剥片で両面に素材面を残し、末端縁に急角度のハードハンマーによる直接打撃の正方向と反方向に連続させて二次加工されている。

#### 石核・礫器

図9-4-05 (22243) は頁岩製の石核である。平面形態が三角形を呈し、半割り面以外は自然面を残し、基部には調整加工による剥離、左側縁には加工調整と使用によるやや粗い剥離面がある円盤状石核の変異形態である。図9-4-06 (22241) は頁岩製の石核である。平面形態が台形を呈し、打割り面と使用面以外は自然面を残し、半割した礫面を作業面にした円盤状石核の変異形態である。

#### 敲・凹・磨石

図9-4-07 (11755) は中粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈する。

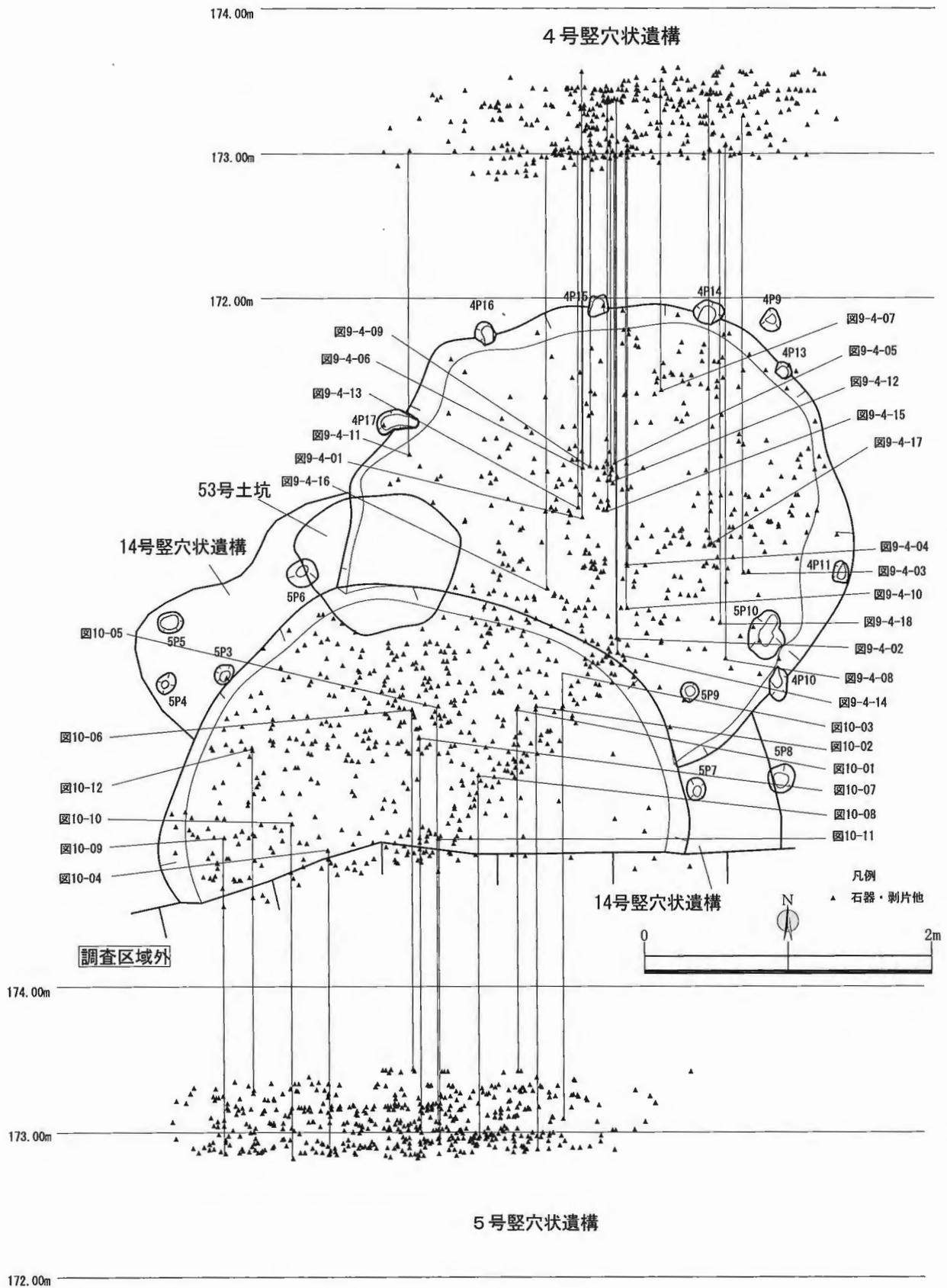


图 9-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 4・5号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

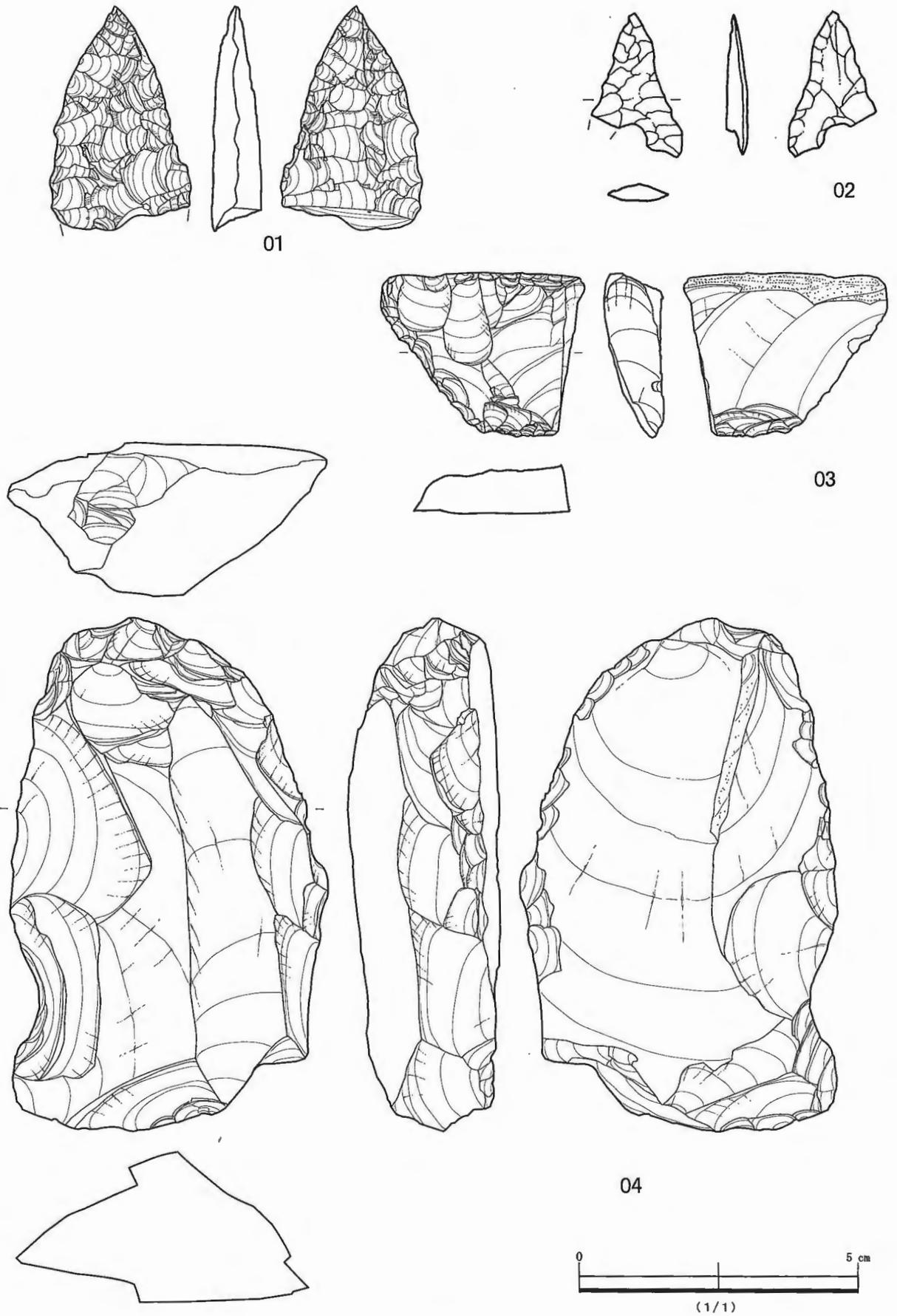


図9-4 3-1調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器実測図①

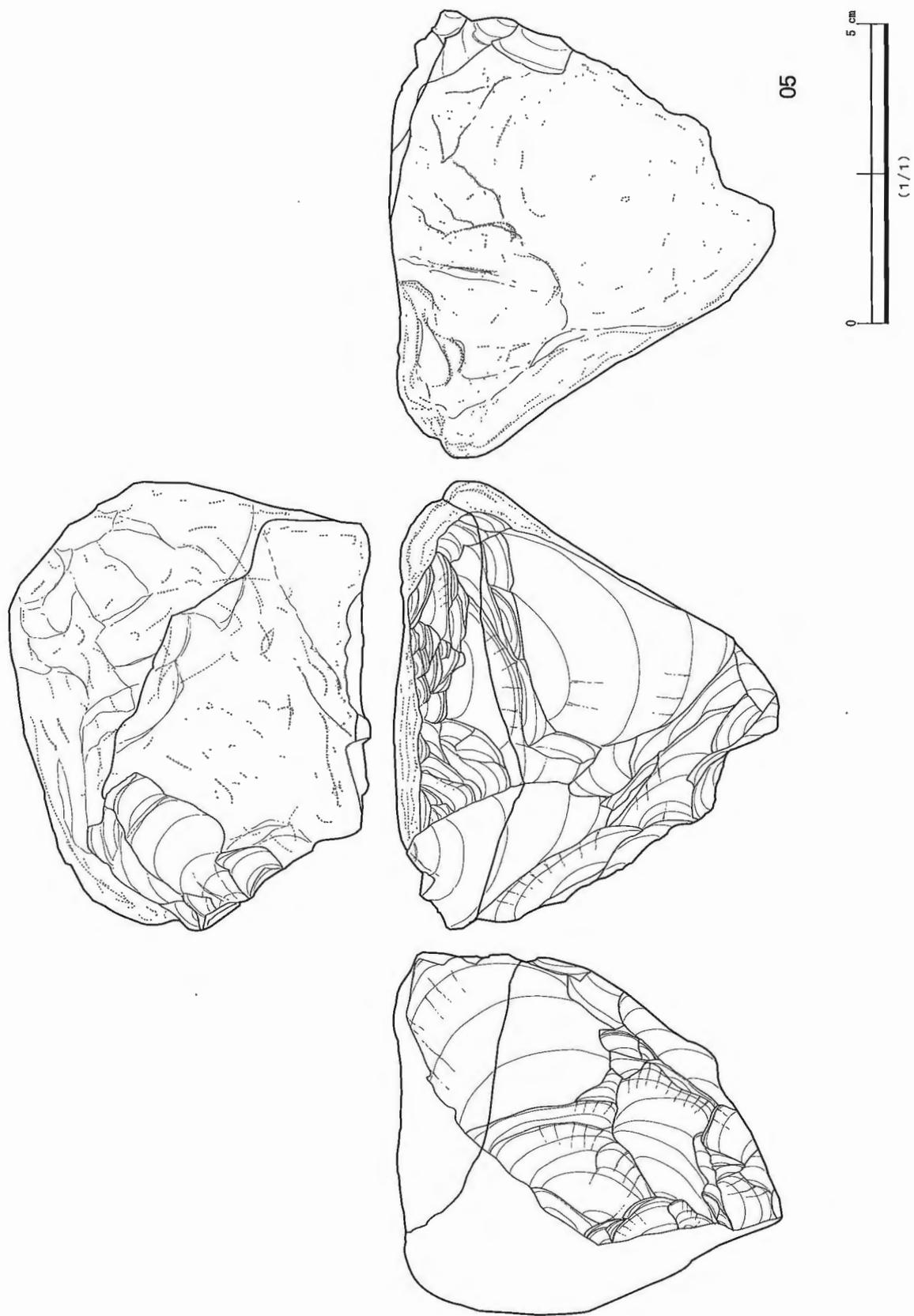
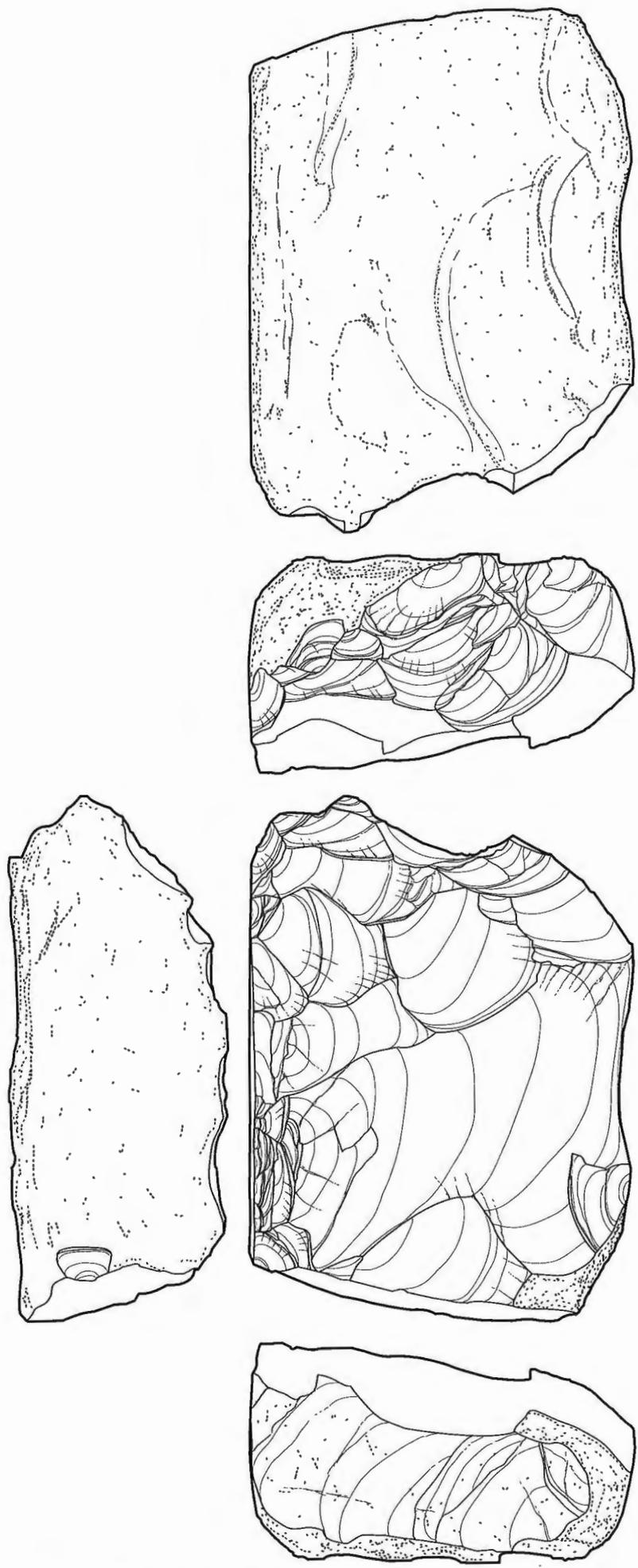


図 9-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器実測図②



06

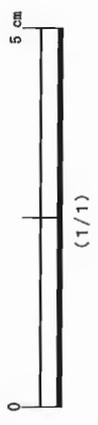


图9-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 石器実測図③

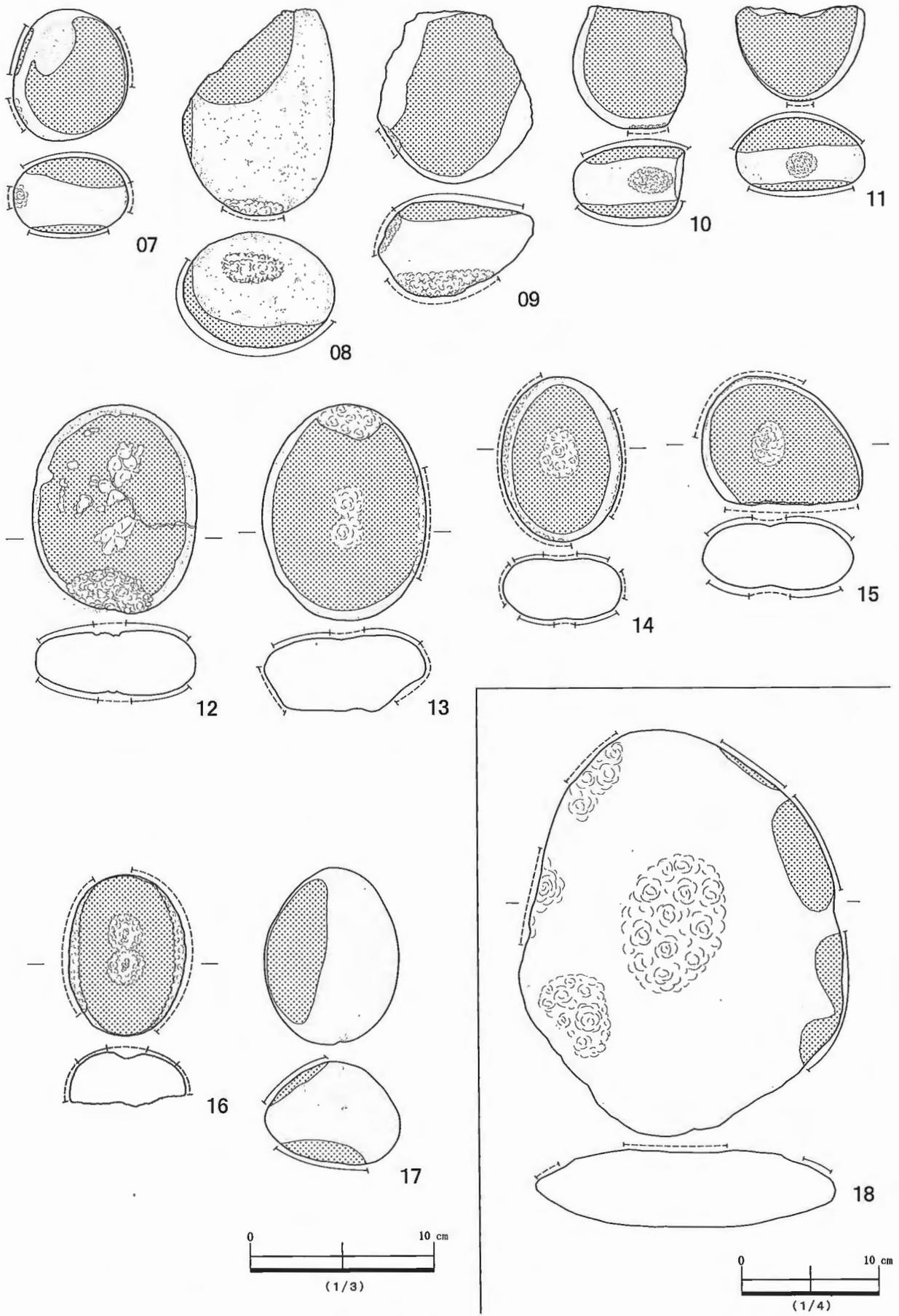


图 9-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 石器実測図④

磨り面は両面にあり敲痕は両側面にある。図 9-4-08 (25899) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態は楕円形を呈する。両面と側面に磨り面があり端部に敲痕がある。図 9-4-09 (18875) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態は隅丸三角形を呈する。表面に磨り面と裏面に側面に敲痕がある。図 9-4-10 (24495) は輝石安山岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態も扁平な楕円形を呈する。両面に磨り面があり端部に敲痕がある。図 9-4-11 (25991) は細粒斑礫岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/2 が欠損、断面形態は楕円形を呈する。両面に磨り面があり端部に敲痕がある。図 9-4-12 (18874) は中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに扁平な楕円形を呈する。両面に凹みと磨り面があり敲痕は端部にある。図 9-4-13 (18880) は輝石安山岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形を呈する。表面に凹と磨り面があり側面と端部に敲痕がある。図 9-4-14 (22520) は中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに扁平な楕円形を呈する。両面に凹と磨り面、敲痕は両側面にある。図 9-4-15 (13701) は中粒砂岩製の敲石・磨石・凹石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈する。半割して割れ口を敲面としている「スタンプ形」石器と同様である。図 9-4-16 (25985) は中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、1/2 残存し平面・断面形態はともに楕円形を呈すると推定される。凹と磨り面は表面にあり敲痕は両側面にある。図 9-4-17 (22548) は細礫岩製磨石で、平面形態は楕円形を呈する。断面形態が隅丸三角形に近く磨り面は両面にある。

#### 石皿

図 9-4-18 (25900) は輝石安山岩製の石皿で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態は楕円形を呈する。両面と側面に磨り面があり端部に敲痕がある。

## 5号竪穴状遺構 (SB3005)

本遺構は調査区南西の1号埋没谷に隣接する地点に所在し4・14号竪穴状遺構と53号土坑と切り合い関係にある。遺物は701点、内土器が201点、石器・礫・剥片他が500点の出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

### 土器

#### 爪形文土器

図10-1-01 (18049) は遺構中央覆土中位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は「ハ」の字が施文、内面は器面が荒れて不詳である。色調はやや明るく胎土に砂粒に獣毛状繊維を含んでいる。

図10-1-02 (16224) は遺構中央覆土中位から出土した爪形文土器の胴部片で、01 (18049) と同一固体であるが接合しない。図10-1-03 (22489) は遺構中央東覆土上位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に2条の連続する爪形文を施文、内面はやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～7mmである。図10-1-04 (17322) は遺構中央北覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に1条の連続する爪形文を施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に砂粒を多く含み、器厚は6～7mmである。

#### 押圧縄文土器

図10-1-05 (16228・21954) は遺構南西覆土中位と下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部を丸く仕上げている。外面の施文原体は0段の縄と推定される間隔を広い左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に爪形文状に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く器面調整・胎土は微隆起線文土器に似て光沢があり僅かに砂粒を含み、器厚は6～10mmである。図10-1-06 (15231) は遺構中央北覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部を細く丸く仕上げている。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母を含み、器厚は5mmである。図10-1-07 (21276) は遺構北東隅覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は擦痕調整に施文原体0段と推定される縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で縦～斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。接合部の肥厚が顕著である。色調はやや暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は5mmである。図10-1-08 (22805) は遺構中央南床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。接合部の凹が残される。色調はやや暗く胎土は細かな金雲母を多く含み、器厚は4～5mmである。図10-1-09 (18077) は遺構北側床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕に丁寧なナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は4～7mmである。図10-1-10 (24210) は遺構南床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は細かな金雲母を多く含み、器厚は4～7mmである。図10-1-11 (18083) は遺構南西床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母に粒の大きな砂粒を含み、器厚は5～6mmである。図10-1-12 (18993) は遺構中央覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に浅く施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は雲母に砂粒を含み、器厚は5mmである。図10-1-13 (16242) は遺構南西隅覆土上位から出土した押圧縄文土器

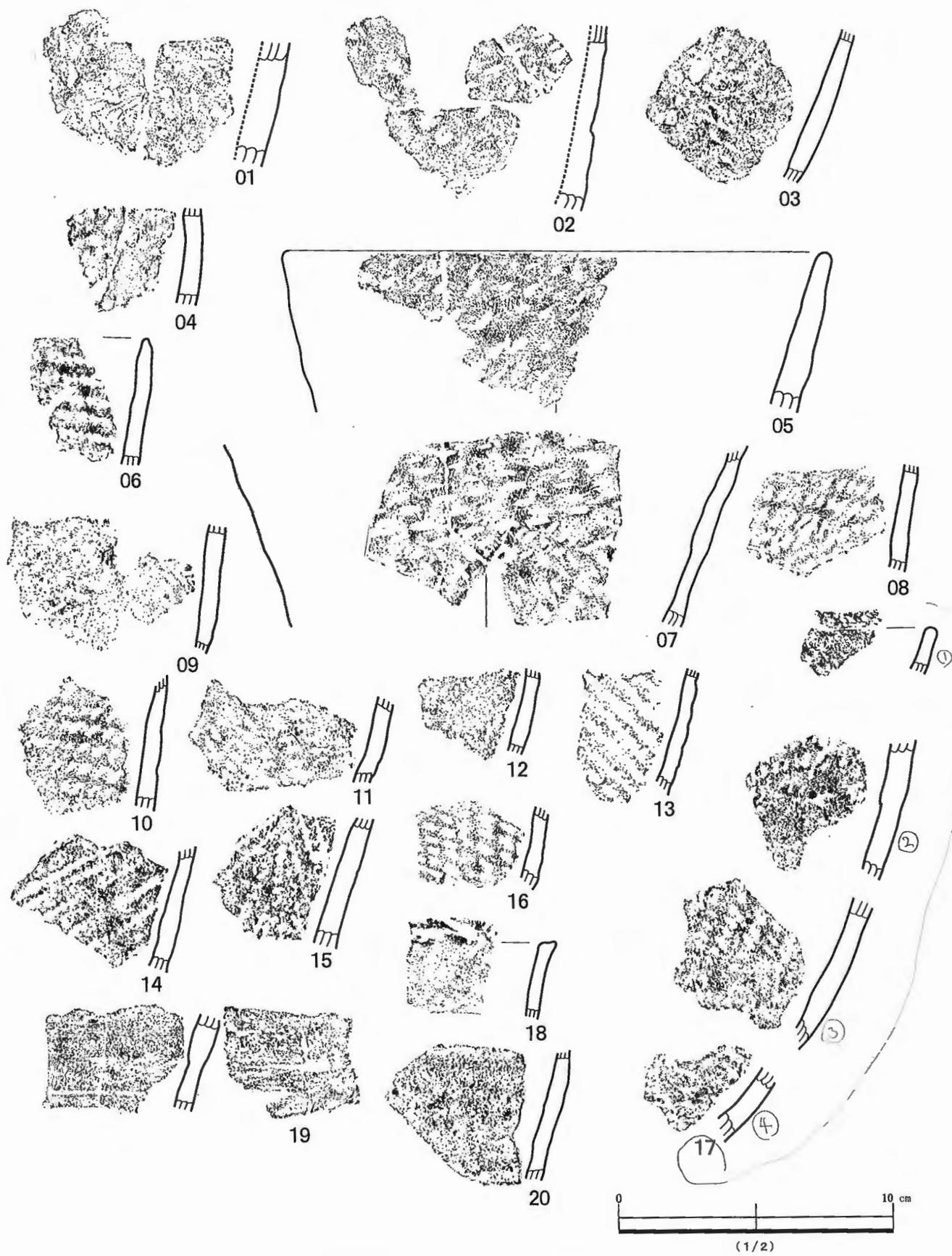


图 10-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

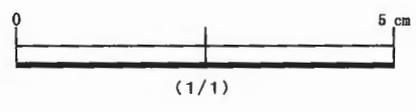
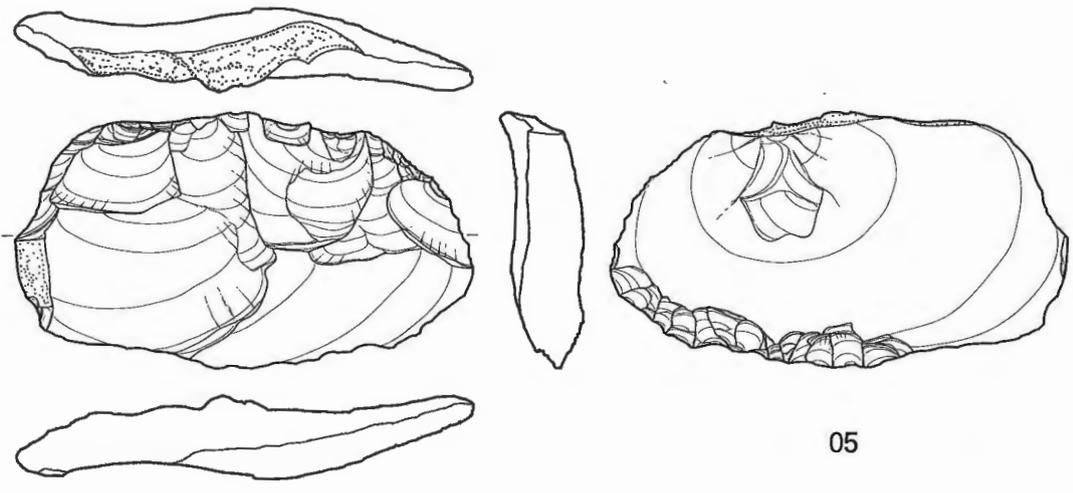
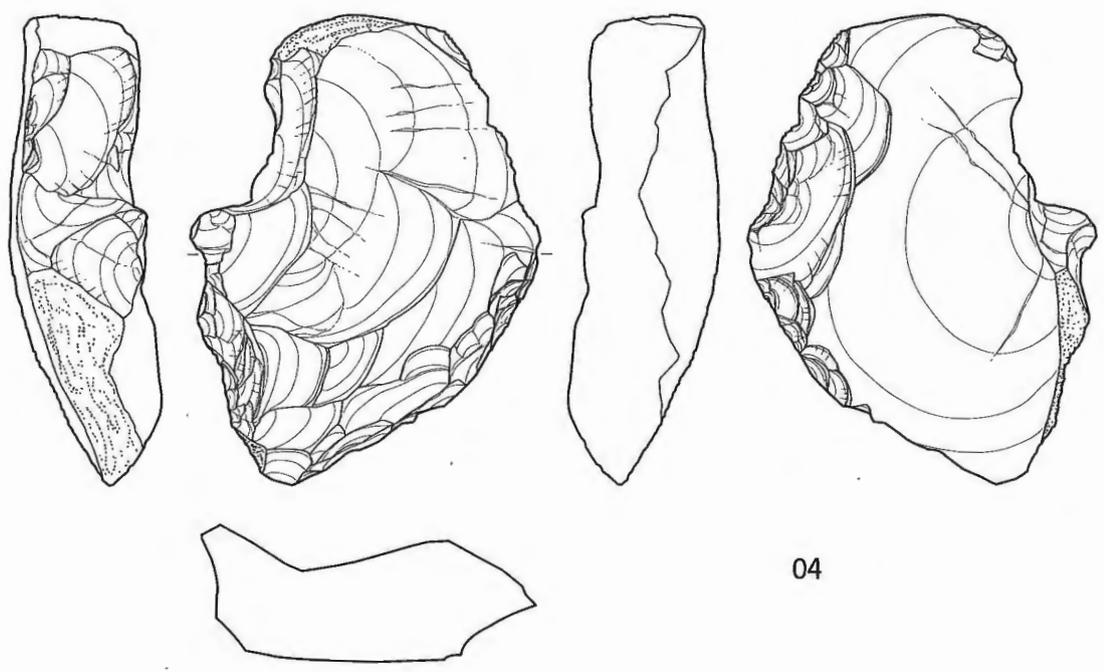
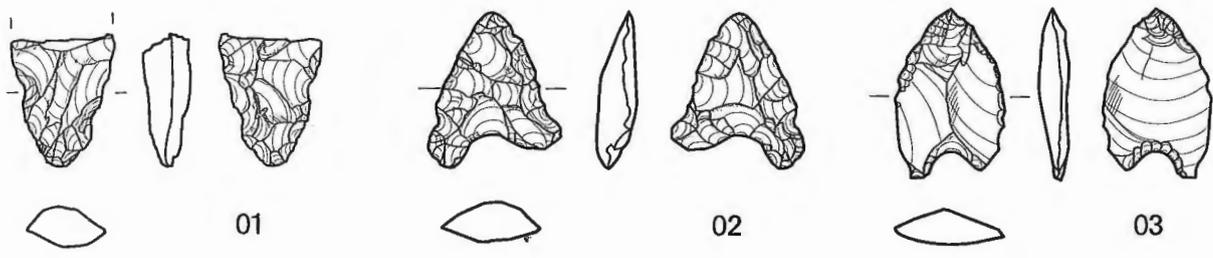


图 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竖穴状遺構出土 石器実測図①

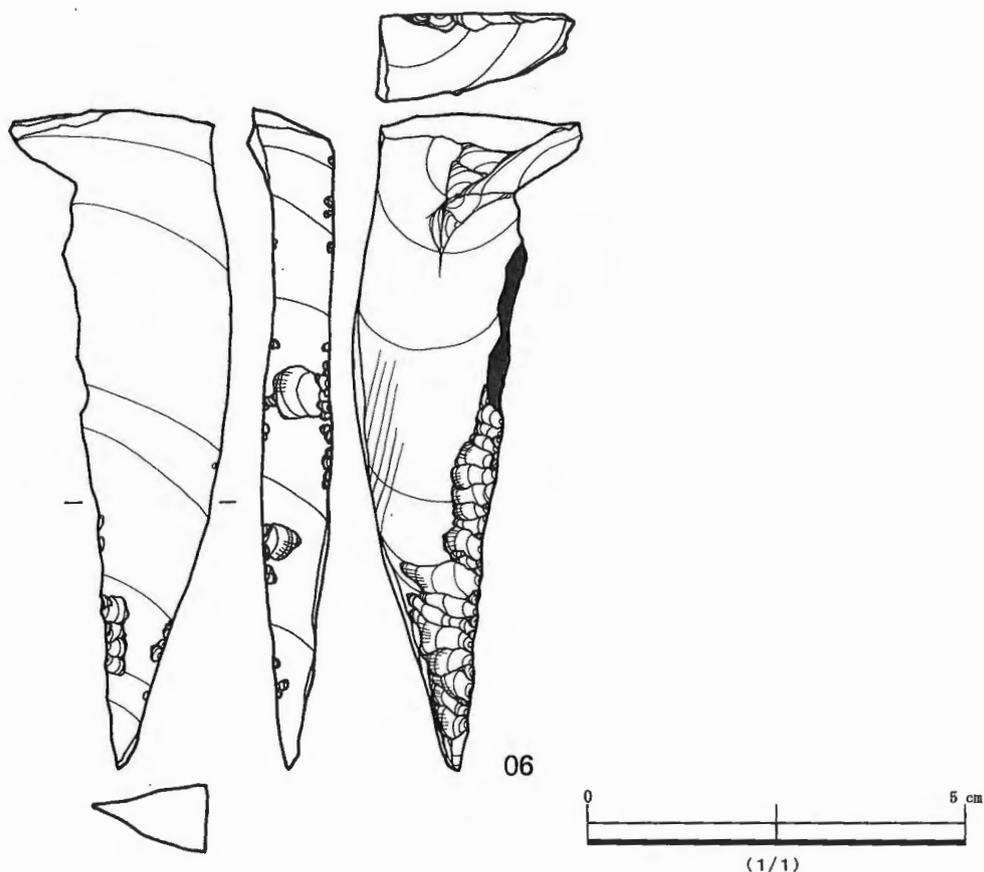


図 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竖穴状遺構出土 石器実測図②

の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は4～5mmである。図 10-1-14 (15503) は遺構西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母を含み、器厚は5～6mmである。図 10-1-15 (13764) は遺構北西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く右巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は5～7mmである。図 10-1-16 (16227) は遺構南西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な0段の縄を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は5～6mmである。図 10-1-17 (20001) は遺構東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部から底部付近にかけてである。外面は施文原体1段の縄を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で縦～斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母を多く含み、器厚は5～8mmである。

#### 無文土器

図 10-1-18 (18075) は遺構中央覆土下位から出土した無文土器の口縁部片で口唇部に丸棒状具でやや深くキザミが施文される。内外面ともに指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は細かな白色粒を含み、器厚は4～6mmである。図 10-1-19 (13765) は遺構北西側覆土上位から出土した無文土器沈線文の胴部片である。外面は棒状具による横位の沈線文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。

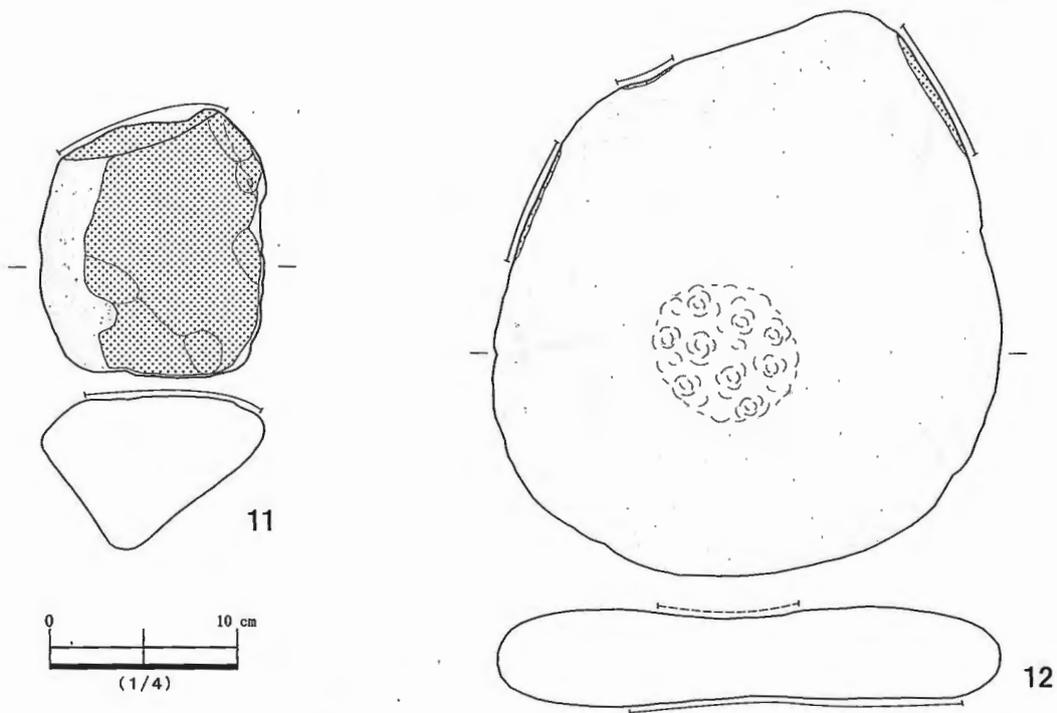
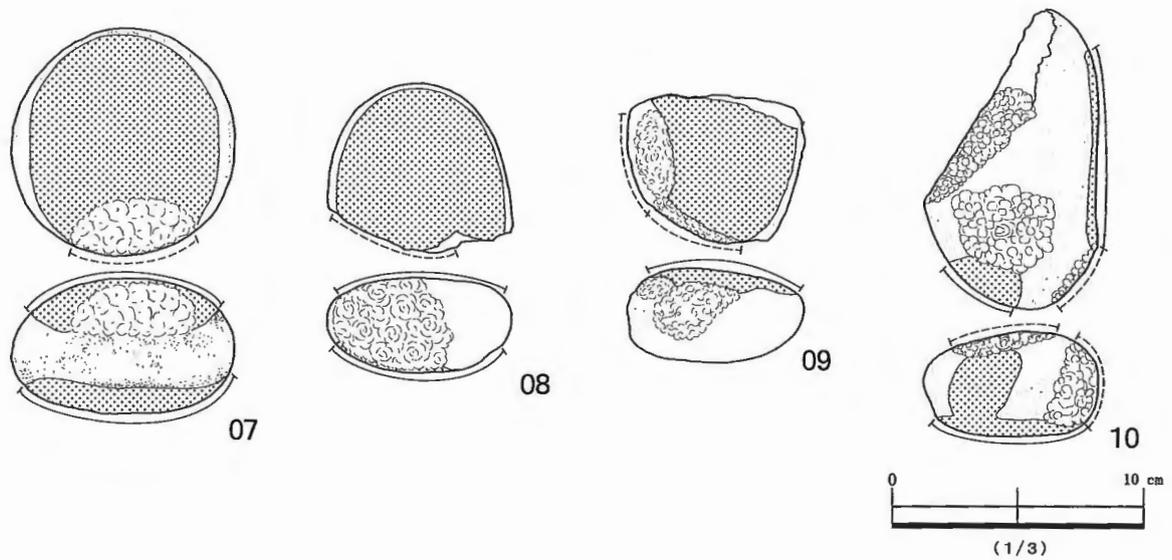


図10-2 3-1調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 石器実測図③

色調は暗く胎土は粒の大きな砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図10-1-20(15506)は遺構西側覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面はやや丁寧なナデ調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は細かな金雲母・砂粒を含み、器厚は4～7mmである。

#### 石器

##### 尖頭器

図10-2-01(10516)は黒曜石製の尖頭器の破損品で基部部分である。平面形態はやや細身の柳葉形と推定され、断面形態は凸レンズ状、基部は尖基を呈する。両面加工され両側縁は細かな剥離調整される。

##### 石鏃

図10-2-02(22897)は凝灰岩製の石鏃の完形品である。平面形態は左右非対称、断面形態は凸レンズ状である。ハードハンマーの押圧剥離で形態形成したものである。図10-2-03(22710)は黒曜石製の石鏃で、

垂直打撃で生じた縦長剥片を素材として、不規則な押圧剥離で形成したものである。

#### スクレイパー

図 10-2-04 (22006) は頁岩製の不定形な剥片石器で分厚い横長剥片の末端辺に、ハードハンマーの直接打撃で正方向と反方向を連続させて二次加工をしている石器である。刃部は不明である。図 10-2-05 (16221) は頁岩製の鋸歯縁削器で横長剥片を素材として、末端辺に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。図 10-2-06 (11787) は黒曜石製の片面加工剥片石器で、細長い三角形を呈している。両面とも素材面を残し、左側縁の身分の中央から先端部にかけて細かな押圧剥離調整によって刃部としている。

#### 敲・凹・磨石

図 10-2-07 (18997) は斑糲岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態はやや扁平な円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、両面に磨り面と端部に敲痕がある。図 10-2-08 (22748) は輝石安山岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態はやや楕円形の礫を約 1/2 に半割り、断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面に磨り面と割れ口面に敲痕がある。早期撚糸文土器に共存するスタンプ形石器に近い形態と機能を有している。図 10-2-09 (22906) は細粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は角に張る不整形な楕円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、表面に磨り面と端部に敲痕がある。図 10-2-10 (18989) は細粒斑糲岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は細長い楕円形の約 2/3 残存、断面形態は扁平な楕円形を呈し、裏面に磨り面と表面・端部・割れ口に敲痕がある。スタンプ形石器に近いものである。

#### 台・石皿

図 10-2-11 (22900) は輝石安山岩製の台・石皿として利用されたと考えられ、平面形態は隅丸方形、断面形態は逆三角形を呈し、緩やかに張る表面と端部の一部に磨り面がある。図 10-2-12 (15101) は斑糲岩製の石皿である。平面形態は端部がやや尖る不整形な楕円形、断面は裏表の両面が内側にやや括れる極めて扁平で角が隅丸板状を呈している。裏面に磨り面と表面中央に敲痕がある。1号竪穴状遺構から出土した石皿と形態が似ることから、この押圧縄文土器型式の石皿の特徴を示していると考えられる。

## 6号竪穴状遺構 (SB3006)

本遺構は調査区外が遺構全体の約1/2を占めていること、2・11号竪穴状遺構と50号土坑によって切り合い関係にあること、さらに遺跡保存のため範囲確認と一部をサブトレンチによる精査のため遺物は375点、内土器が89点、石器・礫・剥片他が286点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

### 土器

#### 爪形文土器

図11-2-01 (13960)は遺構中央覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は連続した爪形文が横位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒を含み、器厚は10mmである。

#### 押圧縄文土器

図11-2-02 (11567)は遺構南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で外反して立ち上がり、口唇部にキザミを押圧させて丸く仕上げている。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや広い左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は6～7mmである。図11-2-03 (22914)は遺構南西端覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で、口唇部にヘラ上具による鋭いキザミを施文させて丸く仕上げている。外面の施文原体は不明瞭な縄を間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む、器厚は3～7mmである。図11-2-04 (21952)は遺構中央西側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は不明瞭な縄を間隔やや広い左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜～横位に3施文帯、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む、器厚は6～9mmである。図11-2-05 (13924)は遺構中央北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片で内湾して立ち上がる。外面の施文原体は不明瞭な縄を間隔密(7巻/1cm)に左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む、器厚は5mmである。図11-2-06 (22502)は遺構中央側覆土中上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや広い右巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は明るく器面に光沢があり胎土は砂粒を含み、器厚は5mmである。

図11-2-07 (22696)は遺構南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや広い左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は明るく器面に光沢があり胎土は粒の大きな砂粒を含み、器厚は5cmである。

#### 無文土器

図11-2-08 (11567・13341・13481)は遺構南側覆土中位から出土した無文土器の胴部片である。外面はナデ、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は明るく胎土は砂粒を多く含む、内面には煤が付着、器厚は5～13mmである。尖底部は、外面はナデ、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は明るく胎土は砂粒・雲母・長石・繊維を含み、器厚は9～14mmである。

### 石器

#### 尖頭器

図11-4-01 (12404)は黒曜石製の尖頭器の完形品である。平面形態はやや細身の柳葉形、断面形態はやや厚みある凸レンズ状、最大幅は身部中央よりやや下にあり、基部はやや円形に近い尖基を呈する。右側縁の最大幅のある部分から基部にかけて細身で僅かに抉り気味の調整加工される。側縁を両面加工

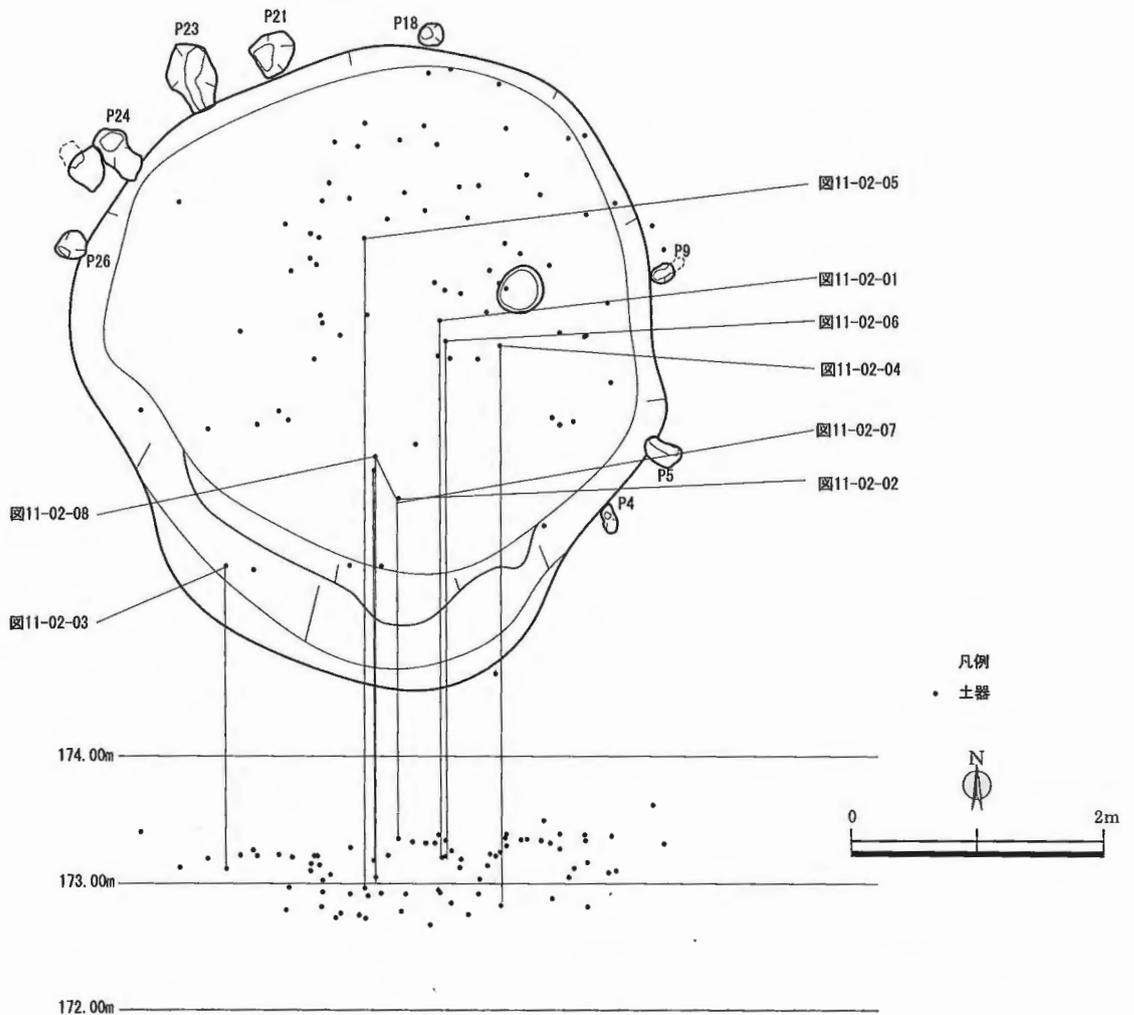


図 11-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 土器分布図

され両側縁は細かな剥離調整される。図 11-4-02 (17176) は黒曜石製の尖頭器の完形品である。平面形態はやや左右非対称で細身の柳葉形、断面形態は厚みある凸レンズ状、最大幅は身上半にあり、基部はやや円形に近い尖基を呈する。両面加工が施され、右側縁の最大幅のある部分から先端部にかけて細身で直線的な調整加工されている。両側縁は両面加工の細かな剥離調整される。

#### 石鏃

図 11-4-03 (13947) はホルンフェルス製の石鏃で右脚部先端が欠損、基部は挟りの浅い凹基の左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はやや張りのある僅かに丸みをもって調整加工される。図 11-4-04 (21951) は黒曜石製の両面加工石器で石鏃の凹基の平面形態を呈する。調整加工はソフトハンマーの直接打撃で加工されている。石鏃の形態にもみえるが、脚が不揃いで、尖頭部がないことから、横形石匙の可能性もあるものである。図 11-4-05 (22443) はホルンフェルス製の石鏃で右脚部先端が欠損、基部の挟りのやや深い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い剥片状を呈する。裏面に素材面を残し、右側縁は僅かに張りのある丸みをもって細かな調整加工される。

#### スクレイパー

図 11-4-06 (17175) は黒曜石製の石匙と考えられるもので先端部と摘み部分が欠損する。断面形態は凸レンズ状を呈している。両面に細かな剥離調整、さらに刃部は微細な押圧剥離が施される。摘みを作

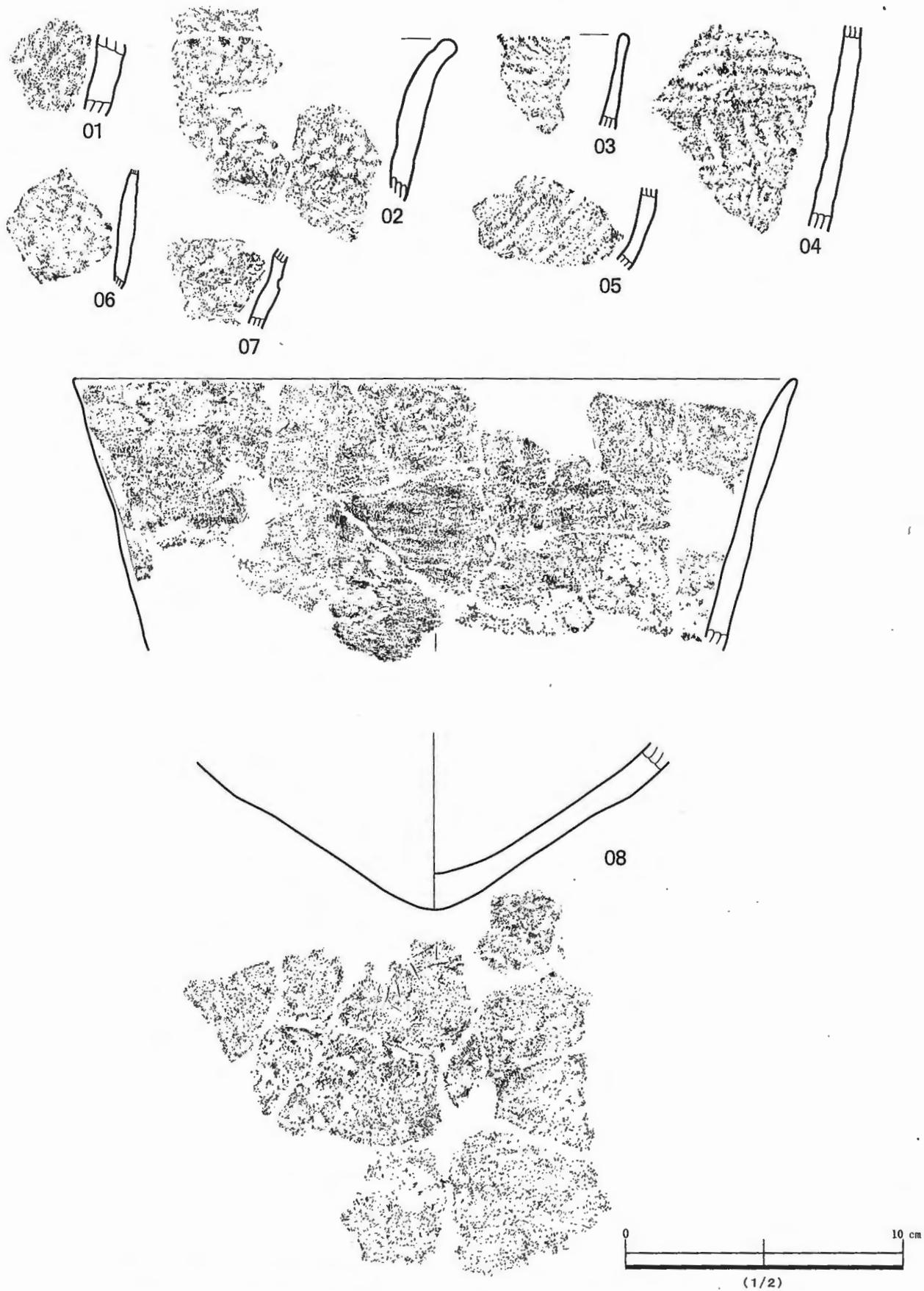


图 11-2 3-1 调查区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

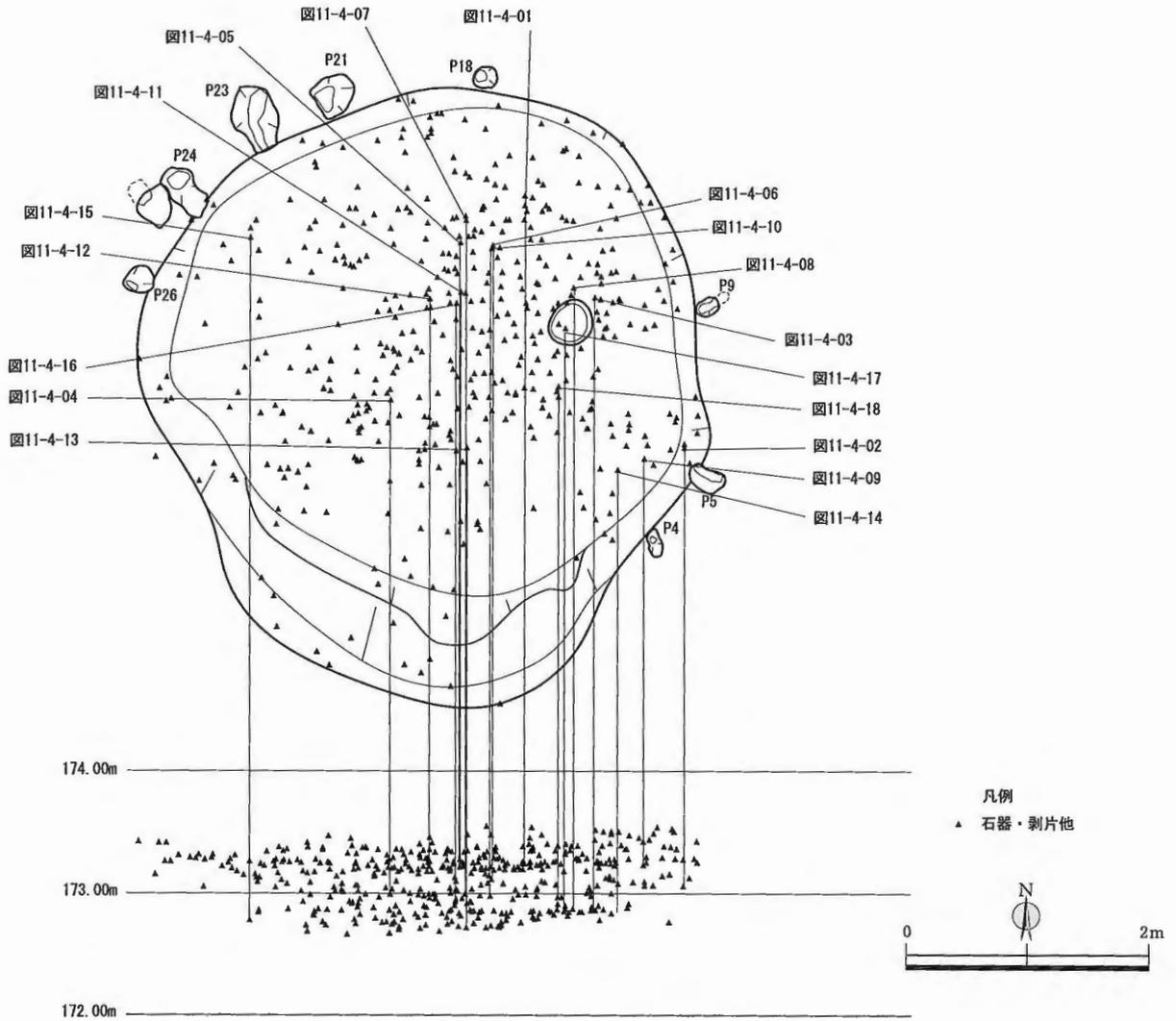


図 11-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

り出すための袢り剥離調整がされる。非対称な平面形態から刃部、つまみとすることができることから石匙の形態と機能を示すと考えられる。図 11-4-07 (22537) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。横長剥片素材を使用し、末端縁に鋸歯状の刃部を形成している。二次加工面は風化で溶けているため不明瞭である。図 11-4-08 (13950) は頁岩製の搔器である。大形の縦長剥片の末端縁に、押圧剥離の急角度刃潰し加工で、鈍い刃部を形成したものである。図 11-4-09 (13995) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な矩形剥片素材で、末端辺に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成しているものである。

#### 筥状石器

図 11-4-10 (13935) は黒曜石製の筥状石器である。平面形態は先端部が細くなる木葉形に近い形、断面形態は凸レンズ状を呈している。素材は両面加工体で、尖頭器の可能性のあるものである。素材加工の技術はソフトハンマーの直接打撃による。刃部はソフトハンマーの押圧剥離。裏面に摩耗痕がみられ、使用痕とも推定される。図 11-4-11 (12122) は黒曜石製の筥状石器である。平面形態は丸みのある木葉形に近い形で刃部の一部が欠損、断面形態は凸レンズ状を呈し、両面・両側縁加工が施される。ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で片刃に成形されている。

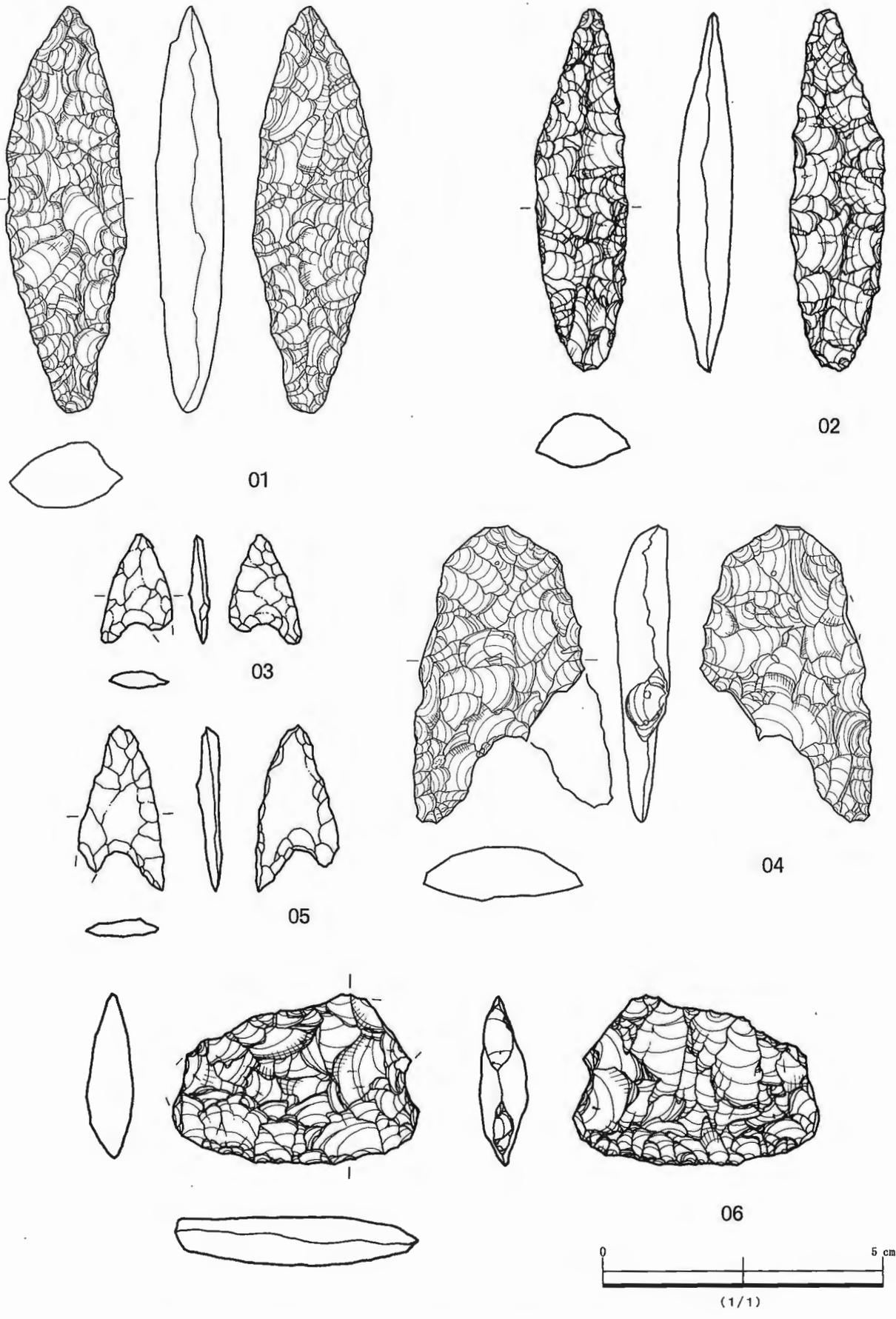
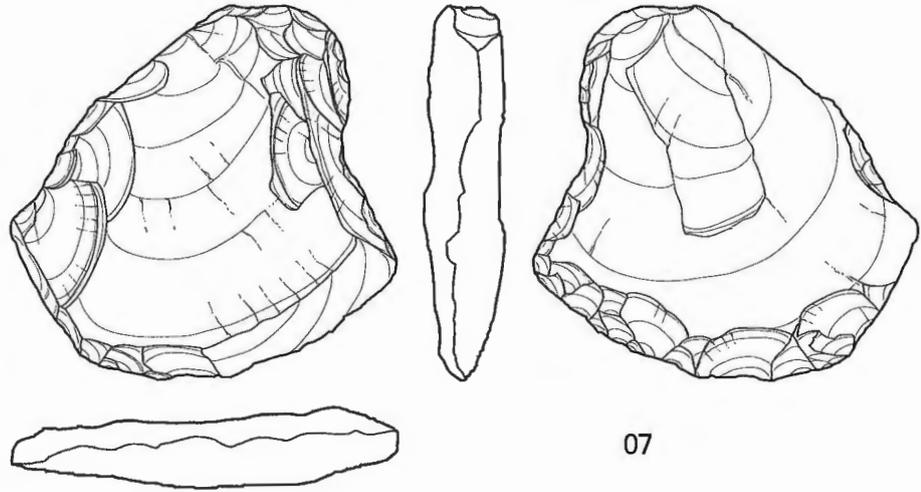
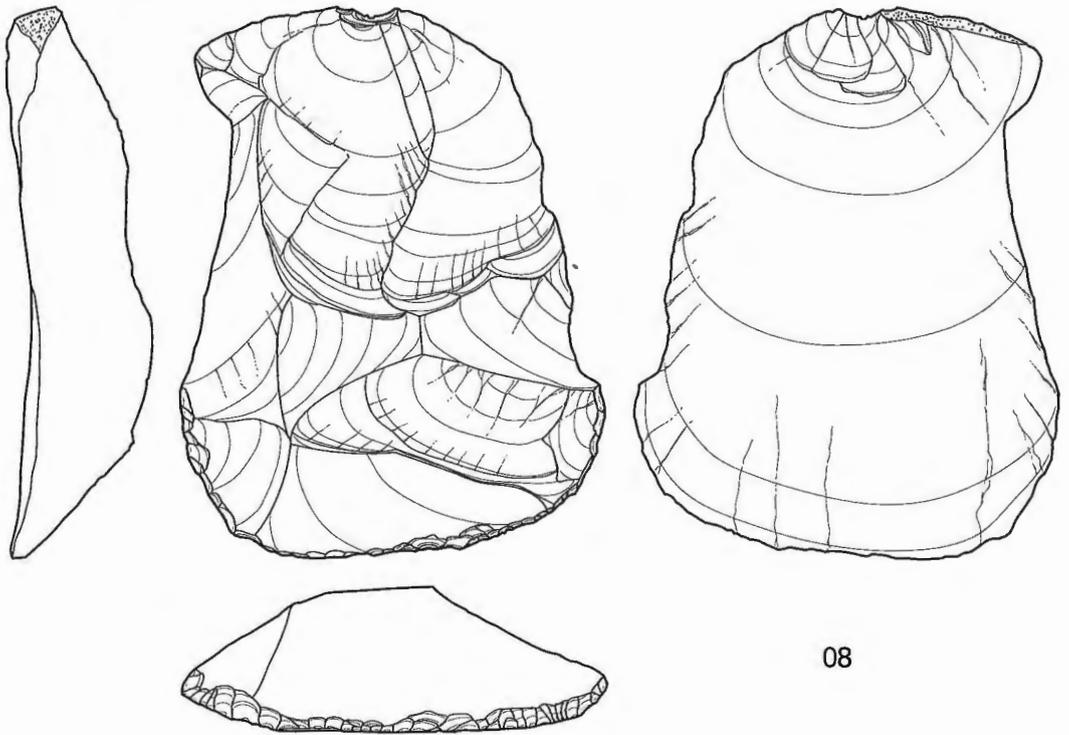


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 石器実測図①



07



08

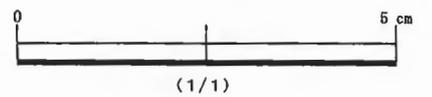


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 石器実測図②

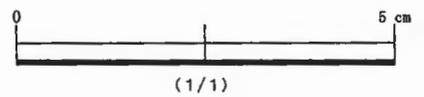
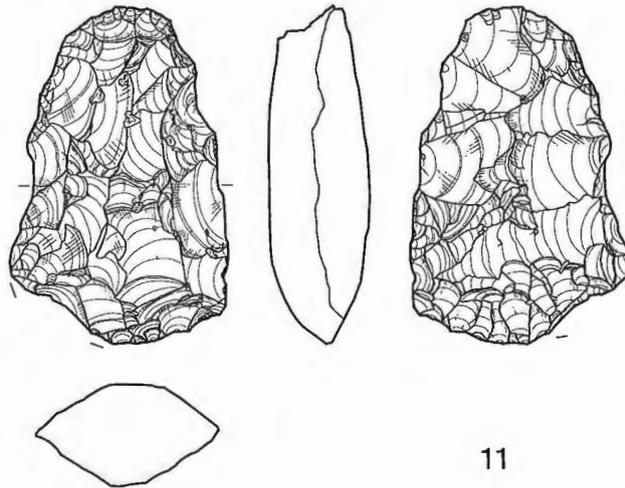
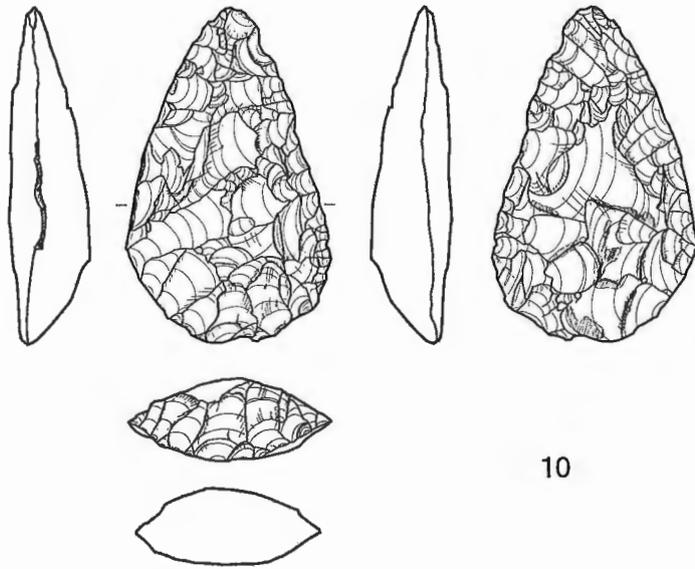
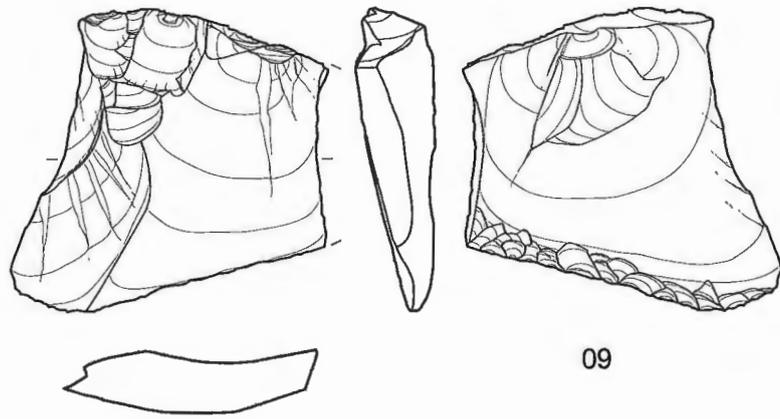


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 石器実測図③

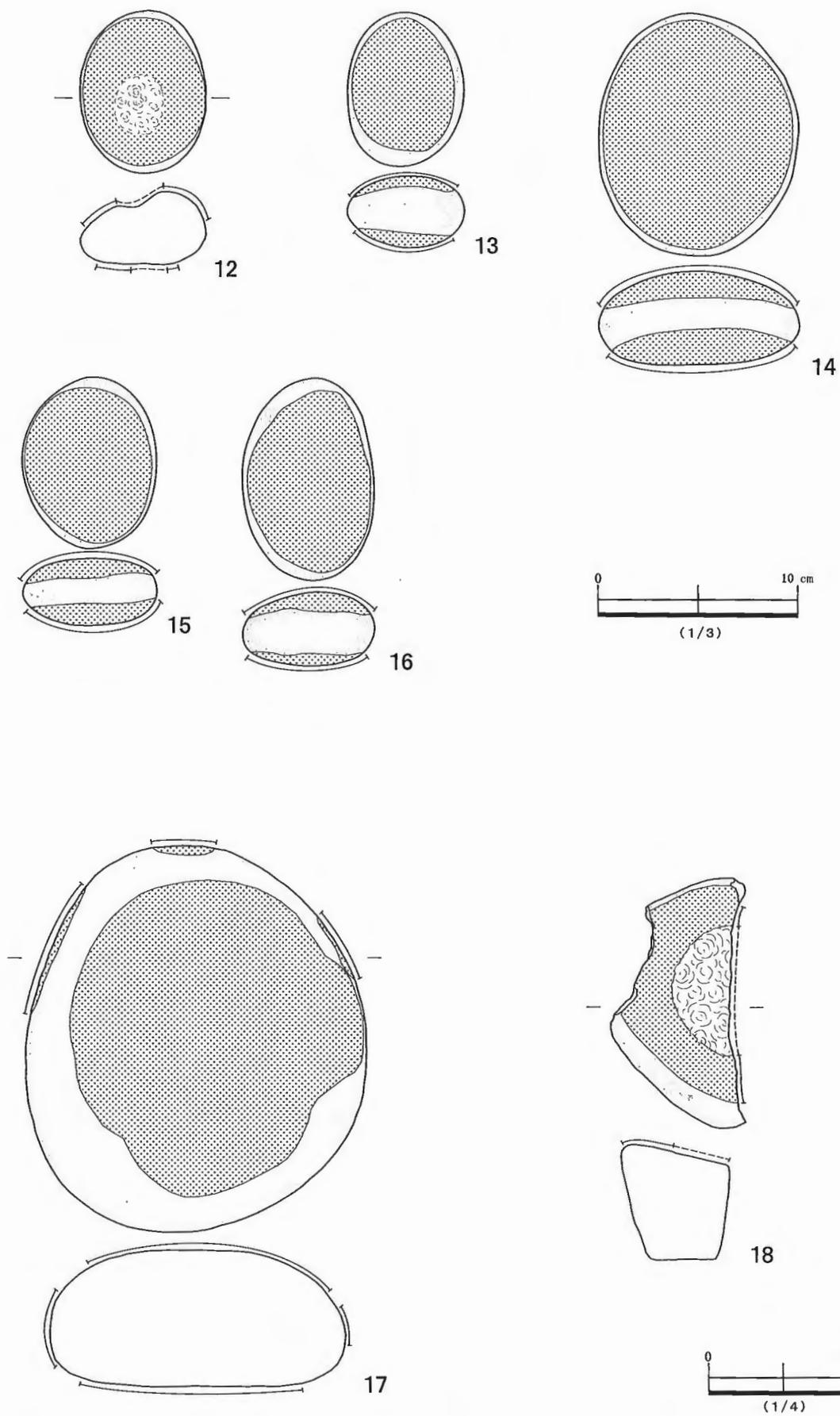


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 石器実測図④

### 凹石・磨石

図 11-4-12 (11682) は細粒斑糲岩製の凹・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形、断面形態はやや不整で扁平な楕円形を呈し、両面に敲による凹と磨り面がある。図 11-4-13 (22360)・14 (22455)・15 (22418)・16 (17180) は磨石である。ともに平面形態は楕円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、両面に磨り面がある。

### 石皿

図 11-4-17 (22236) は角閃石安山岩製の石皿で平面形態は円形に近い楕円形、断面形態は強い扁平な楕円形で裏面は平坦を呈し、表面ほぼ全体に磨り面である。図 11-4-18 (12404) は閃緑岩製の石皿で平面形態は楕円形と推定され、断面形態は厚みある扁平で平坦を呈し、表面ほぼ全体に磨り面と中央に敲痕がある。

## 7号竪穴状遺構 (SB3007)

本遺構は調査区北側の中央付近に単独で所在し、北側には溶岩流が隣接して検出された。遺跡保存と将来の検証のためセクションベルトを残し精査していない。遺物は2560点、内土器が213点、石器・礫・剥片他が2347点検出され、3-1調査区竪穴状遺構のなかで最も多くの遺物が出土した。

平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6 mにかけての標高172.9～173.2 mの層に集中する傾向がみられた。

### 土器

#### 隆線文土器

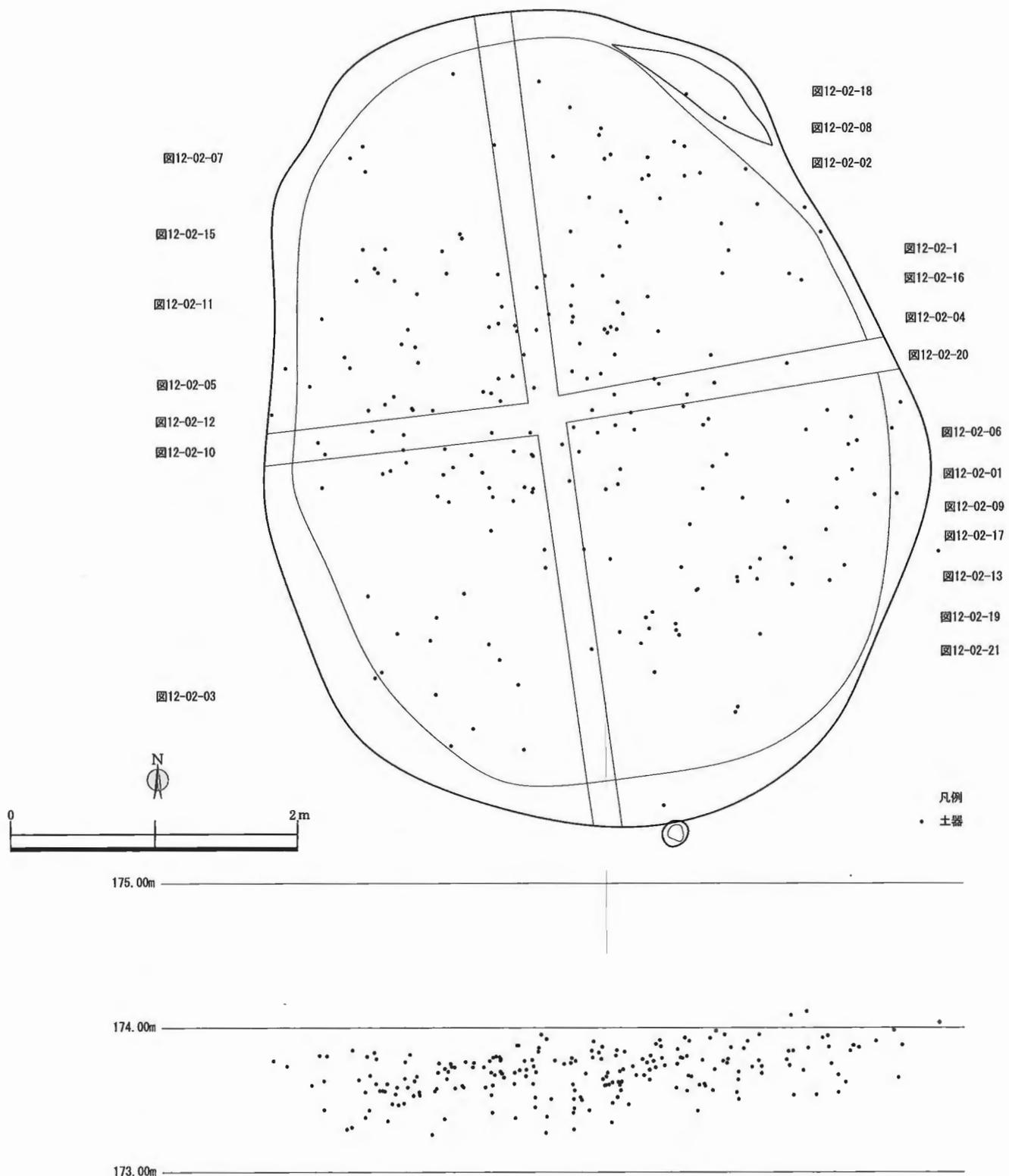
図12-2-01 (21291) は遺構中央覆土下位から出土した隆線文土器の口縁部片で、やや外反気味に立ち上がり口唇部を薄く平坦に外反して仕上げている。外面は横位に幅約5 mmの隆線文が「クランク」状に貼付施文され、隆線文上をヘラ状具に連続的押圧によって押し潰している。内面は指頭痕に強いナデ調整が施される。無文部の色調はやや暗く光沢があり微隆起線文土器の器面に似る。胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に雲母・赤色粒を含み、器厚は6～8 mmである。

#### 爪形文土器

図12-2-02 (24329) は遺構北側覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に幅9 mmの爪形文が横位に連続施文され、無文部は擦痕調整、内面は指頭痕に強い棒状具によるヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く光沢があり胎土に砂粒を含み、器厚は7～8 mmである。図12-2-03 (24019) は遺構南西隅覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は爪形文が1ヵ所単独施文される。内面は指頭痕に条痕状にナデ調整が施される。胎土に砂粒・赤色粒・繊維を含み、器厚は9～10 mmである。

#### 押圧縄文土器

図12-2-04 (21368・21998) は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部にキザミ状押圧縄文が連続して施文され、肥厚させて強く外反する。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具（絡条体）で横～斜位に3施文帯をもって羽状に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母を含み、器厚は5～6 mmである。図12-2-05 (25407) は遺構中央覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部にキザミ状押圧縄文が連続して施文、僅かに肥厚させ外反させる。外面は施文原体やや不明瞭な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。外面から内面に径が10×14の楕円形の孔が穿かれている。胎土に金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は5～6 mmである。図12-2-06 (24542) は遺構西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で外反を強めながら立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。推定口径は約21 cmを測る。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く金運雲母を多く含み、器厚は5～7 mmである。図12-2-07 (20494) は遺構北西隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で僅かに外反気味に開いて立ち上がり口唇部をやや丸く仕上げている。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜～横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は5～7 mmである。図12-2-08 (25817) は遺構北東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含む他に砂粒・繊維を含み、器厚は6～8 mmである。図12-2-09 (21001) は遺構中央南側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて内湾気味に立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で浅く横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。輪積痕の接合部の肥厚と段が明瞭に認



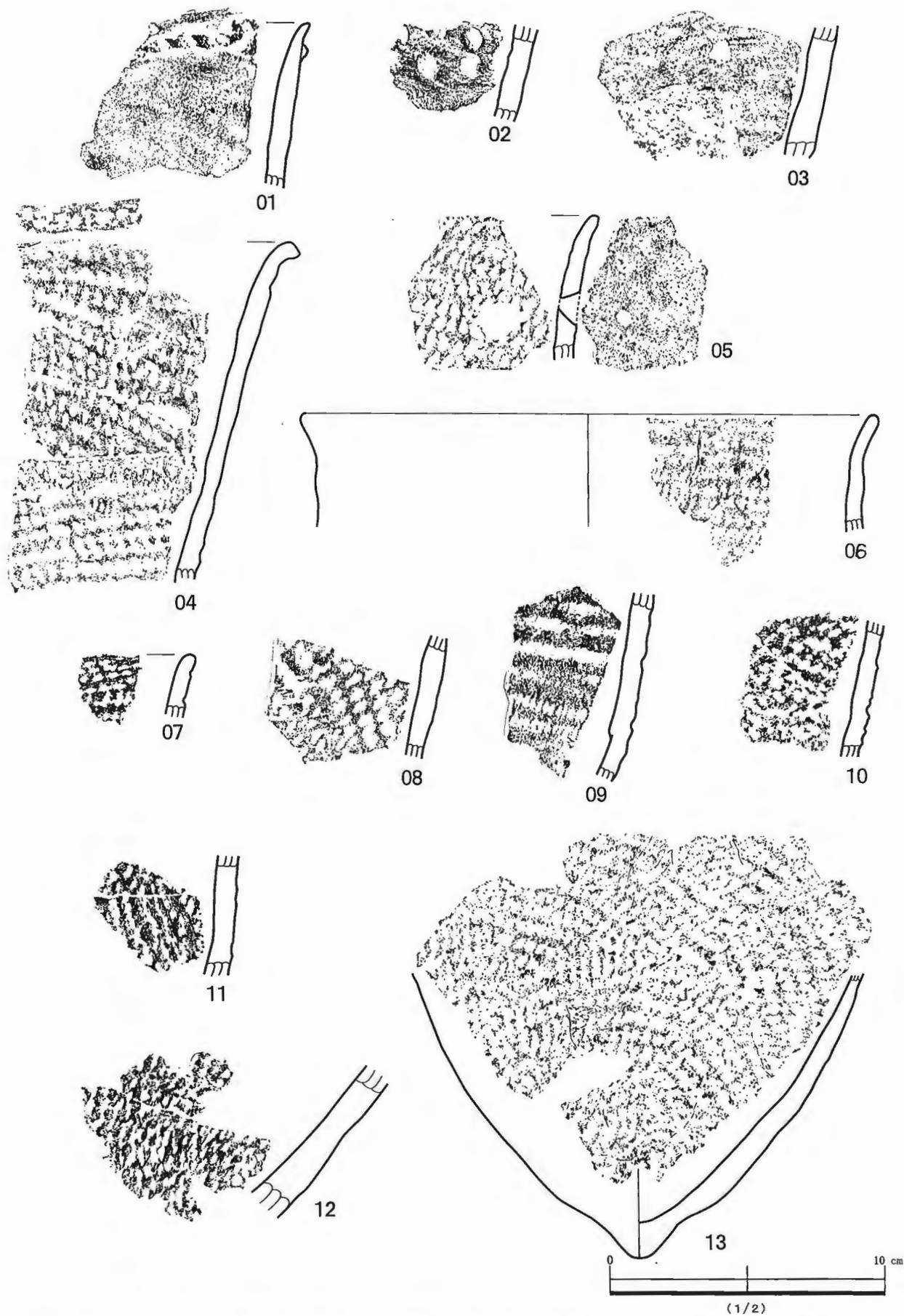


图 12-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図①

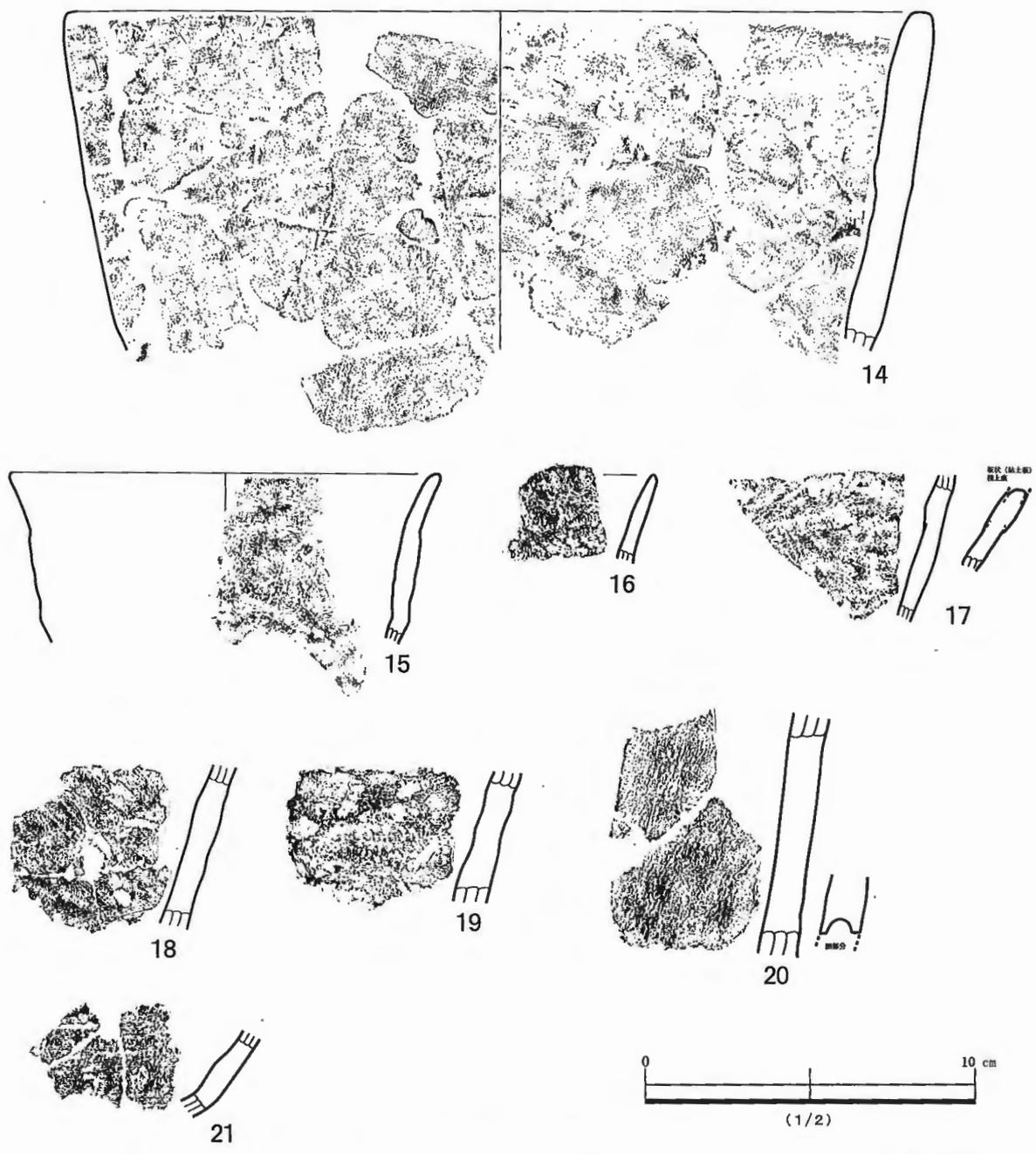


図 12-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測・拓影図②

められる。色調は暗く胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に金雲母・繊維を含み、器厚は6～8mmである。図 12-2-10 (17647・17648) は遺構西側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で浅く横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は明るく胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は5～7mmである。図 12-2-11 (21352) は遺構北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は施文原体が不明瞭縄を間隔やや狭く右巻き付けた施文具（絡条体）で撚糸文状に縦位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に粒の大き

な砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は6～8mmである。図12-2-12(20990)は遺構西側覆土下位から出土した押圧縄文土器の尖底部付近片で大きく開いて僅かに内湾気味に立ち上がる。外面は施文原体が不明瞭縄Lを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面はナデ調整が施される。色調はやや明るく器面は爪形文土器に似ており、胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は10～13mmである。図12-2-13(24401)遺構南東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の尖底部で内湾して大きく開いて立ち上がり、器形は乳房状である。外面は施文原体が1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～8mmである。

#### 無文土器

図12-2-14(22160)は遺構北東側覆土下位から出土した無文土器の口縁部片でやや開いて直線的に立ち上がり、口唇部は扁平が強く丸く仕上げている。推定口径は約26cmを測る。外面は指頭痕に条痕・擦痕状調整、内面は指頭痕に条痕状調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は10～12mmで厚みがある。図12-2-15(22155)は遺構北西側覆土下位から出土した無文土器の口縁部片でやや外反して立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。推定口径は約13cmを測る小形品である。外面は不明瞭な爪形状刺突と推定される沈線文があるが不詳、丁寧なヨコナデにミガキ状調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。器面は暗く光沢が有り胎土に砂粒を少量含み、器厚は4～7mmである。図12-2-16(25099)は遺構北東隅覆土中位から出土した無文土器の口縁部片でやや開いて直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖るように仕上げている。外面はナデ、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は3～5mmで薄手である。図12-2-17(21652)は遺構中央覆土下位から出土した無文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面は横～斜位に擦痕状調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は5～7mmである。接合部の擬口縁と肥厚が明瞭に認められる。図12-2-18(25881)は遺構北東隅覆土下位から出土した無文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面は横～斜位に条痕文・擦痕状調整、内面はやや丁寧な擦痕状ナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は7～8mmである。図12-2-19(19731)は遺構南側覆土中位から出土した無文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面はやや器面が荒れておりヨコナデ調整、内面は条痕・擦痕状調整が施される。色調はやや明るく隆線文土器の無文部と指定され胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は9～10mmである。図12-2-20(21267・21268)は遺構中央覆土下位から出土した胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は縦位に擦痕調整、内面は擦痕調整が施される。色調はやや明るく胎土に粒の大きな砂粒・繊維を含み、器厚は6～11mmである。割れ口に接合部の丸い凹が認められる。図12-2-21(17614)は遺構南側覆土中位から出土した無文土器の尖底部付近片で大きく開いて内湾して立ち上がる。外面はナデ、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。器面やや明るく胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は6～7mmである。

#### 石器

##### 尖頭器

図12-4-01(21767)は黒曜石製の尖頭器である。平面形態はやや細身の柳葉形と推定、断面形態はやや厚みある凸レンズ状、基部はやや不整であるが無基を呈する。両面加工で基部にかけて細身で直線的な調整加工されている。側縁を両面加工され両側縁は細かな剥離調整される。図12-4-02(25802)は黒曜石製の尖頭器の基部である。基部は尖基を呈し、素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃とコンタクトエリアの小さなソフトハンマー押圧剥離で加工されている。

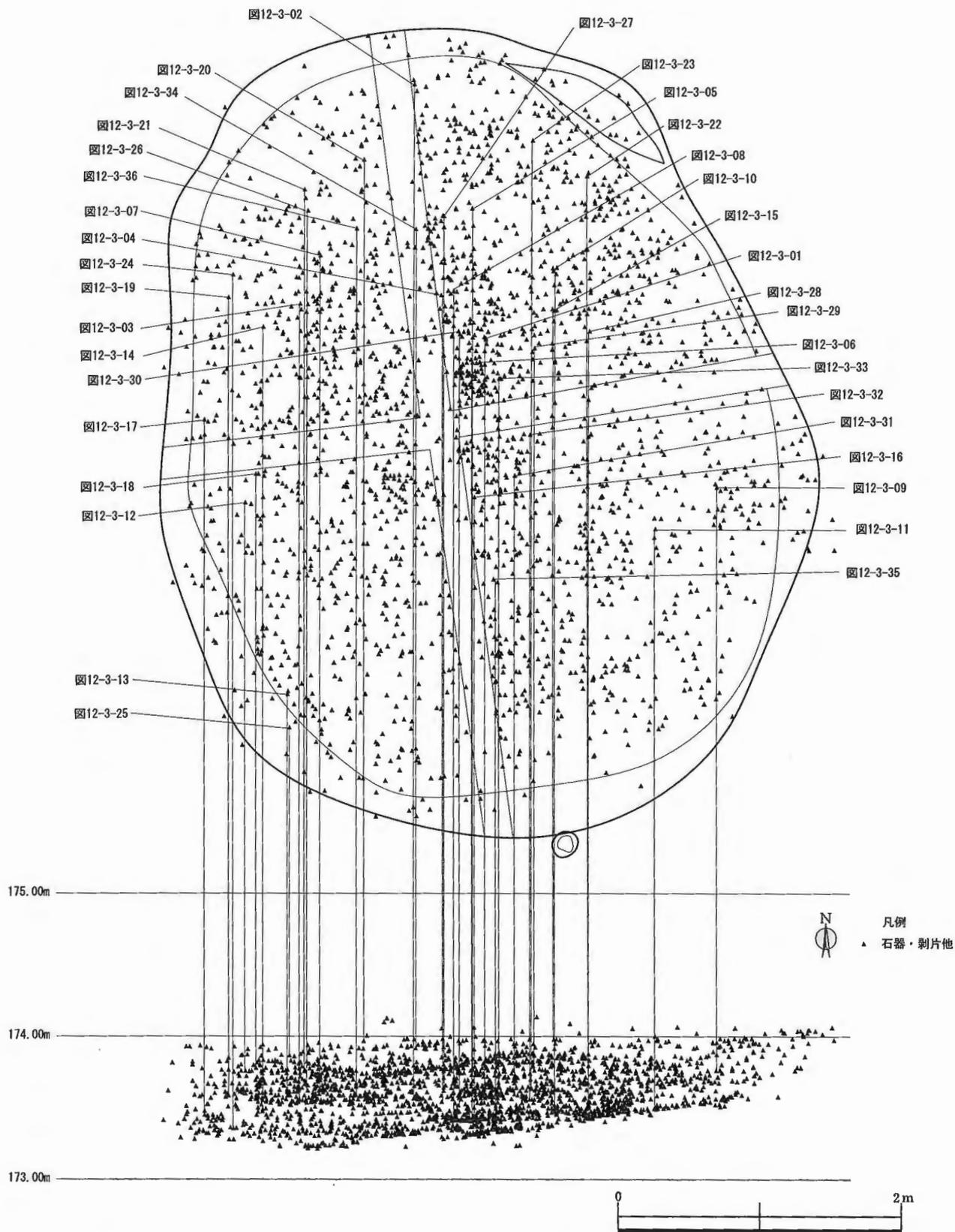


图 12-3 3-1 调查区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布图

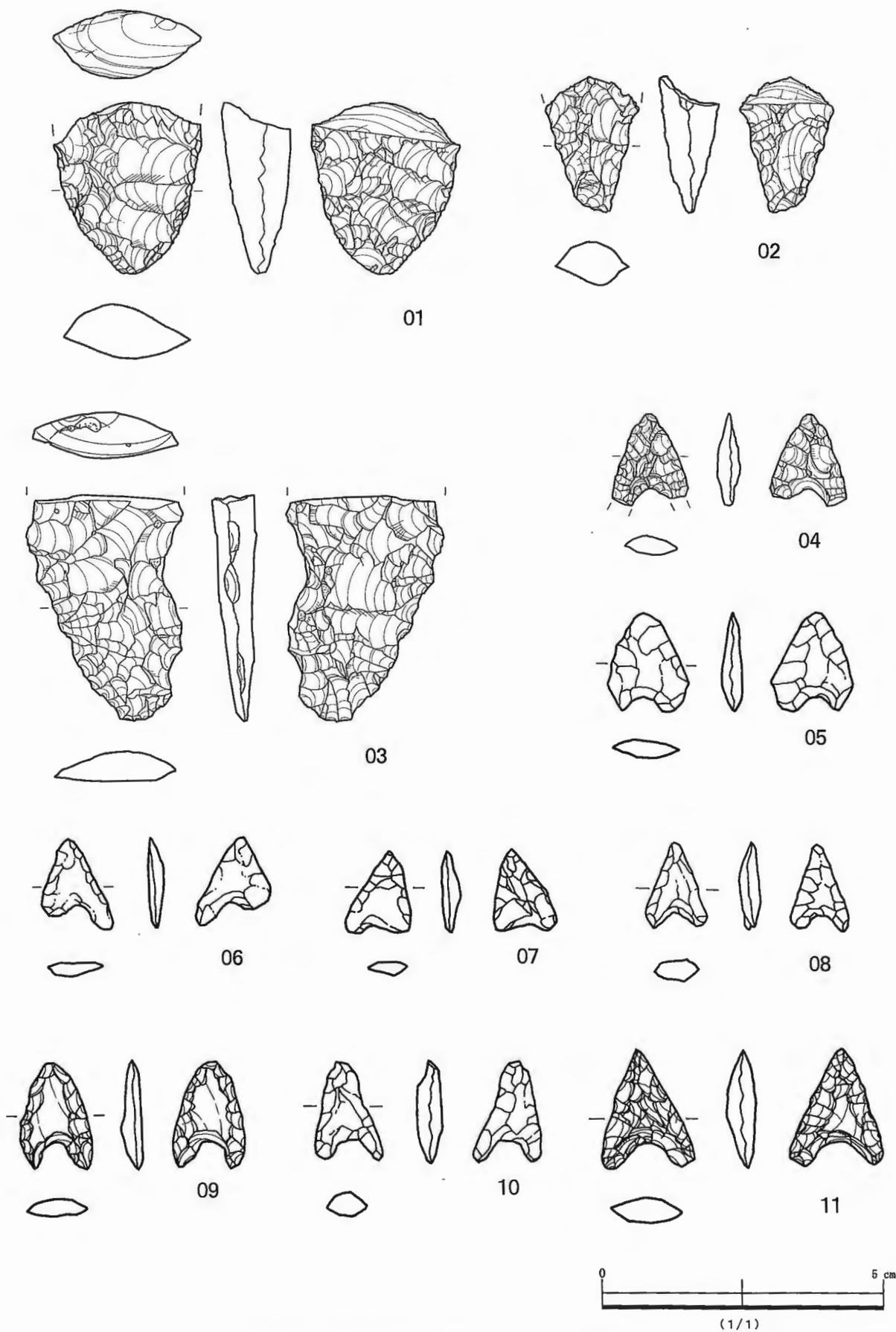


图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 石器実測図①

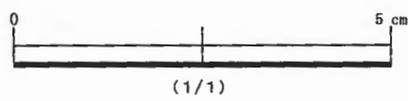
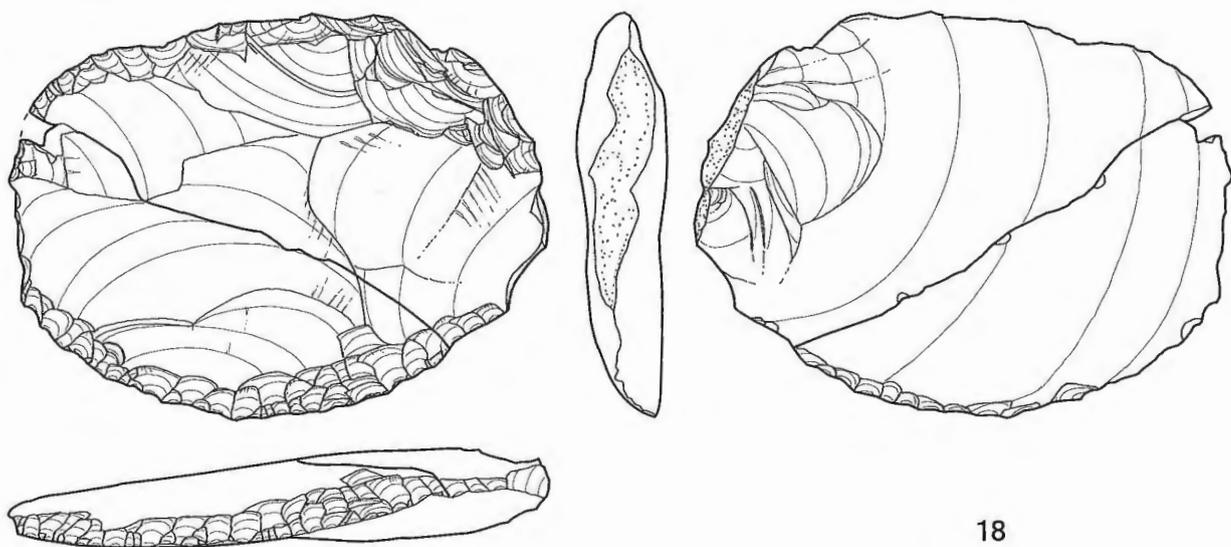
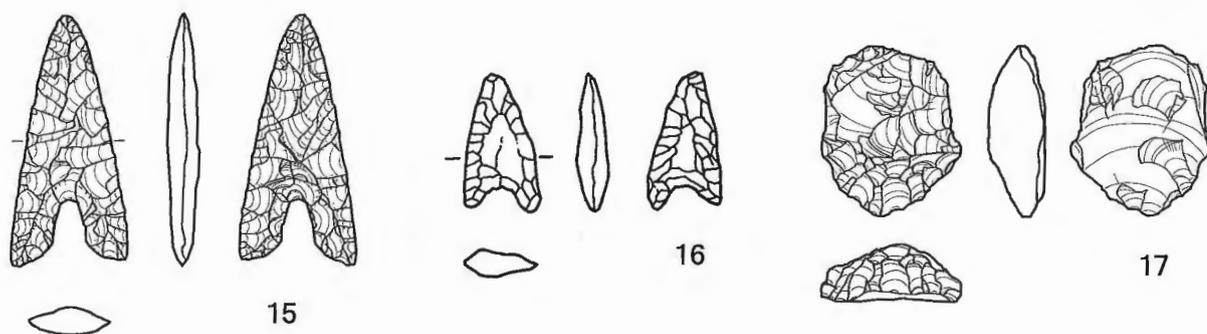
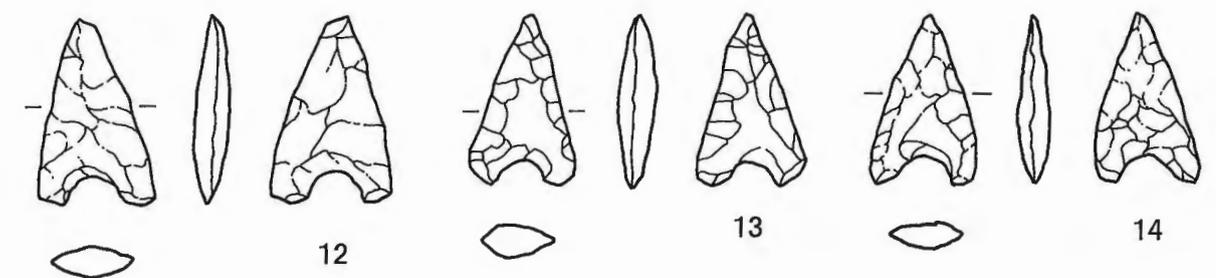
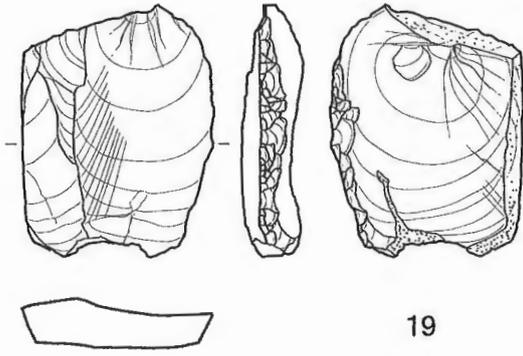
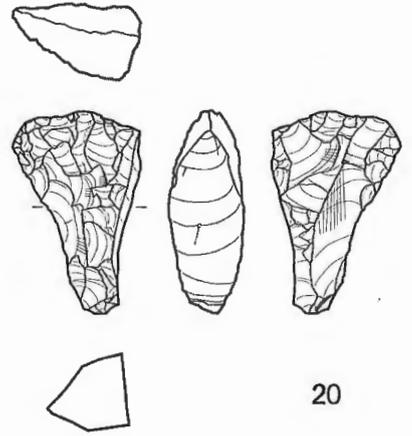


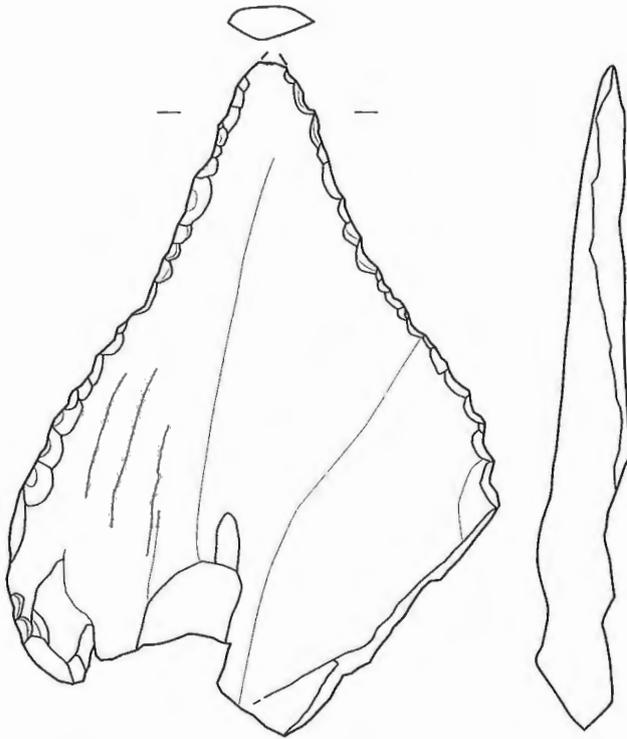
图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図②



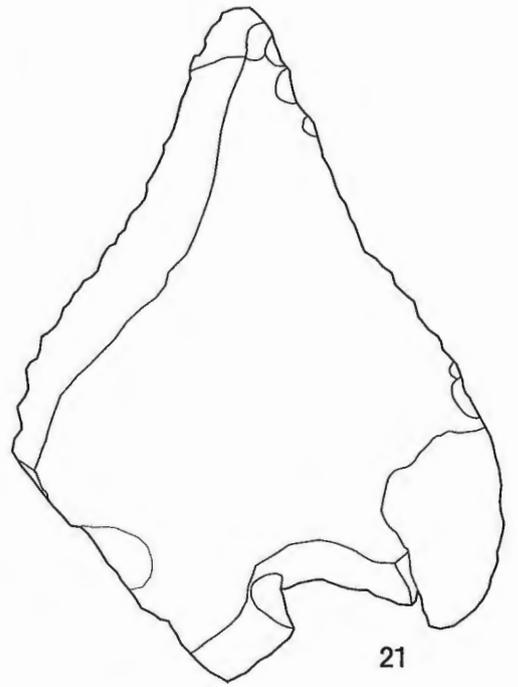
19



20



22



21

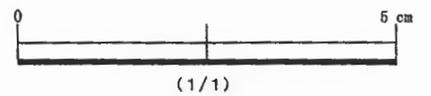
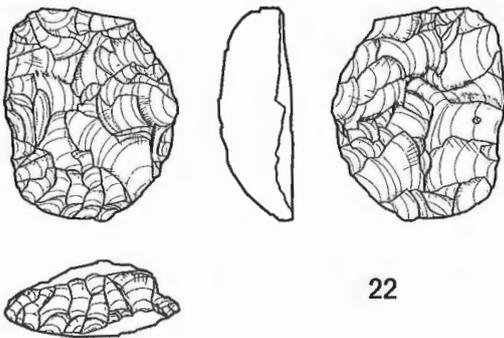


图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図③

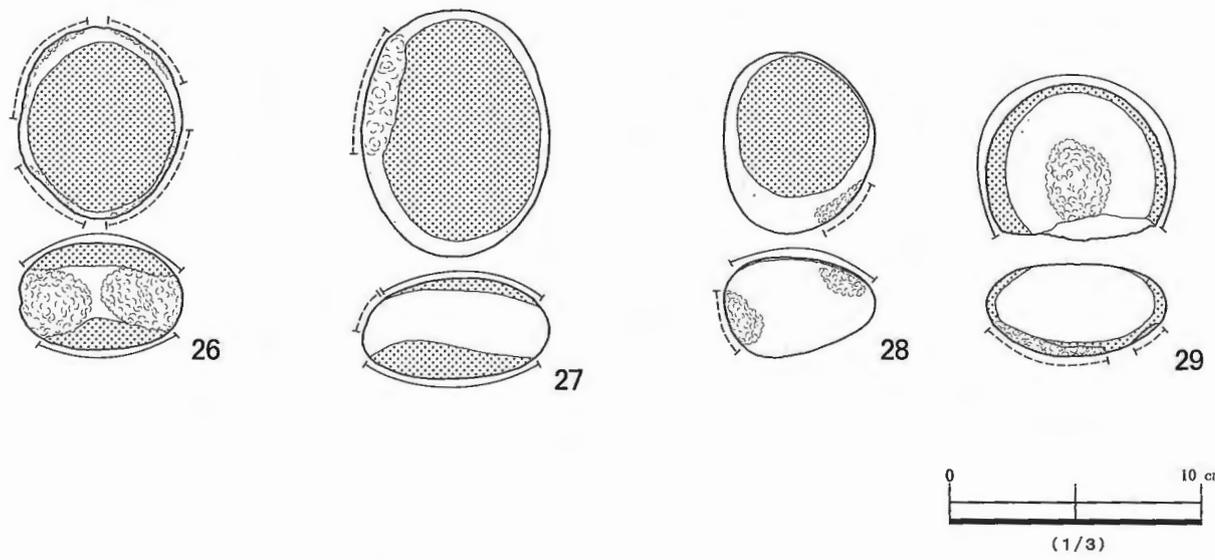
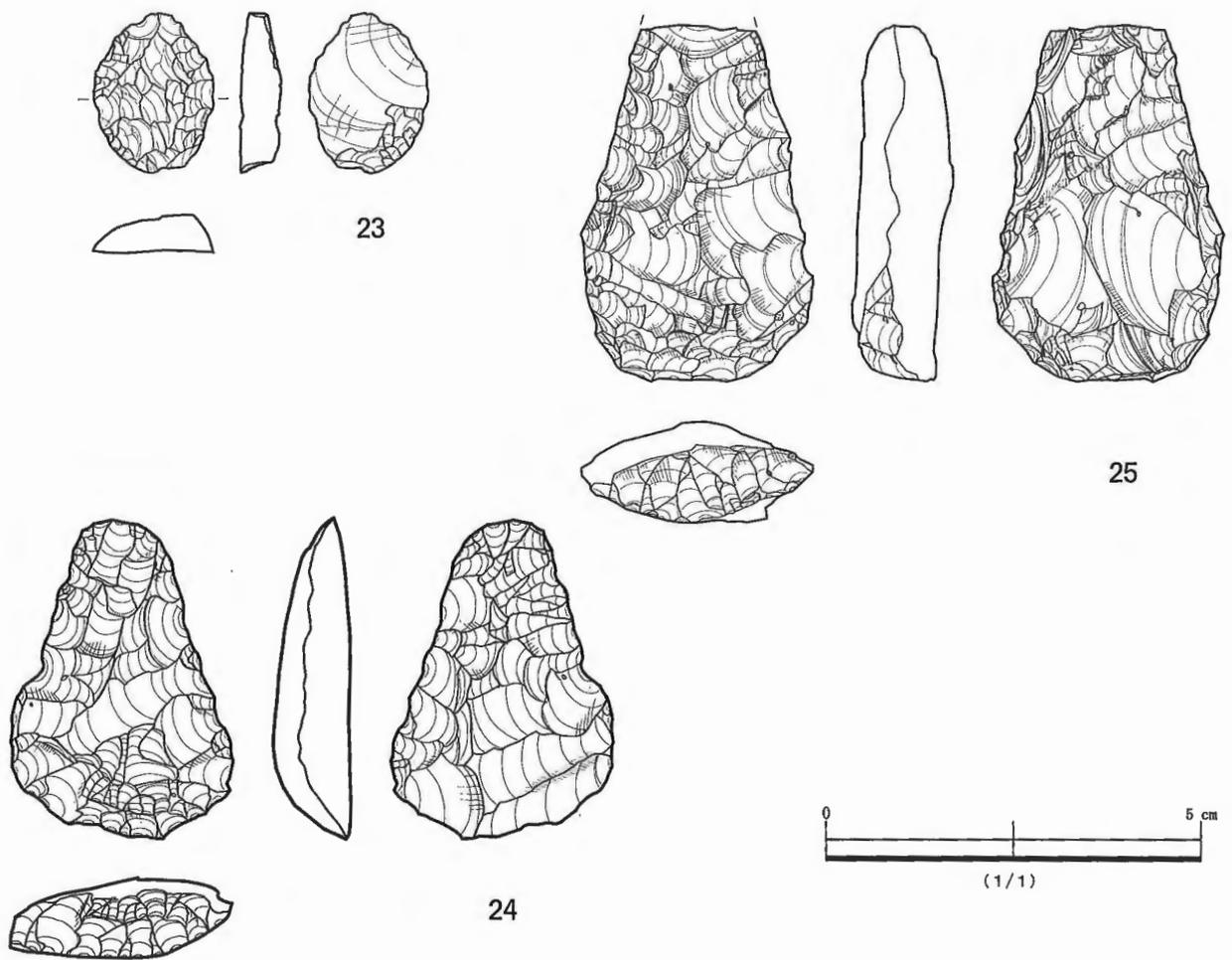
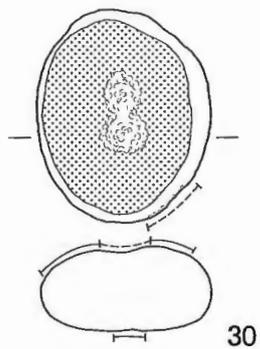
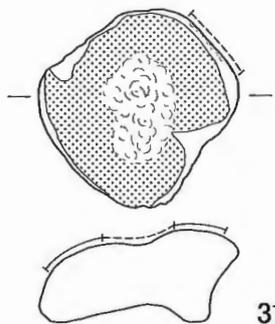


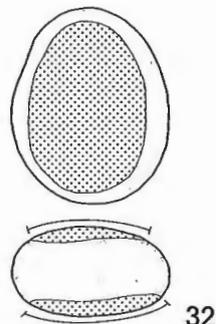
图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図④



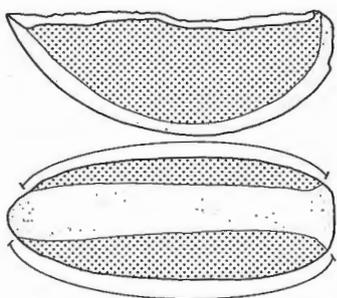
30



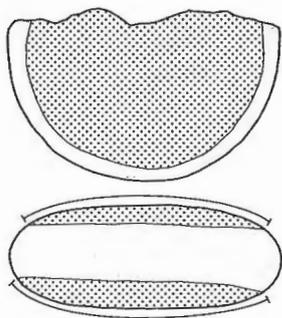
31



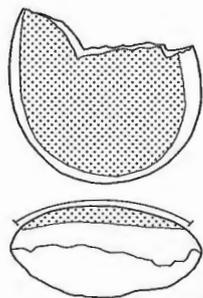
32



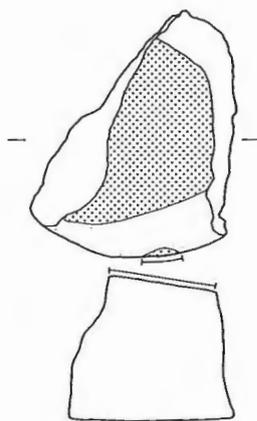
33



34



35



36

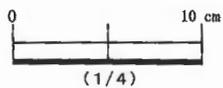


図12-4 3-1調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図⑤

## 半月形石器

図 12-4-03 (21691) は黒曜石製で約 1/2 残存、平面形態が左右非対称で半月形状を呈すると推定される。身体は薄い凸レンズ状を呈し、基部は円基に近い形を呈する。両面調整加工に側縁にはソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。

## 石鏃

図 12-4-04 (21753) は黒曜石製の石鏃で両脚部先端が欠損、基部は抉りのやや深い凹基の左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はやや張りのある僅かに丸みをもって細長い規則的な四角形の剥離面調整加工がされる。図 12-4-05 (23576) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや浅い凹基の左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はやや張りのある僅かに丸みをもって調整加工がされる。図 12-4-06 (23071) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基の左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い不整な凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な調整加工される。図 12-4-07 (21359) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの浅い凹基の左右非対称の不整な二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、左側縁はほぼ直線的、右側縁は屈折する調整加工がされる。図 12-4-08 (23205) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態はやや角張る凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な調整加工がされる。図 12-4-09 (24302) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの深い凹基のやや左右非対称の鋏形に近く、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面に素材面を残し、両側縁は弧状に細かな調整加工される。図 12-4-10 (24523) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基の左右非対称の二等辺三角形、断面形態はやや厚い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、右側縁はほぼ直線的、左側縁は僅かに凹状の調整加工がされる。図 12-4-11 (24624) は頁岩製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。細かな両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な微細な調整加工がされる。図 12-4-12 (17646) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや浅い凹基のやや左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁は僅かに張りのある不明瞭な調整加工がされる。図 12-4-13 (24022) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや浅い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な調整加工がされる。図 12-4-14 (21741) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの浅い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い不整な凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁は張りのある調整加工がされる。図 12-4-15 (17655) は玉随質の珪質頁岩製の石鏃で完形品である。基部は抉りの深い凹基の左右対称の細長い二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。細かな両面加工が施され、両側縁は直線的で細長い規則的な四角形の剥離面をもつ微細な調整加工がされる。図 12-4-16 (22872) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの浅い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い不整な凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁は僅かに張りのある細かな調整加工がされる。

## スクレイパー

図 12-4-17 (23128) は黒曜石製の剥片石器で搔器の機能を有するものである。平面形態はやや不整形で角張る楕円形、断面形態は扁平で角が丸い五角形を呈する。加工調整はソフトハンマーの直接打撃である。図 12-4-18 (19668) は頁岩製の削器である。平面形態は扁平なやや不整な楕円形を呈し、加工調整はハードハンマーによるの直接打撃の縦長剥片の側辺に、押圧剥離で弧状の刃部を形成したものであ

る。図 12-4-19 (21700) は黒曜石製の削器である。平面形態は不定型な五角形を呈し、縦長剥片の側辺を刃部にしており、刃部加工は押圧剥離調整である。図 12-4-20 (16418) は黒曜石製の石錐である。垂直打撃の剥片を素材にし、押圧剥離で形態形成と刃部形成を行っている。刃部は急角度の押圧剥離でノッチをつくり、小尖頭部をつくりだしている。図 12-4-21 (21722) はホルンフェルス製の鋸歯縁削器と石錐の機能を有しているものである。平面形態は不定型な菱形状を呈し、2側縁の刃部は剥離調整によって内湾気味に尖らせている。図 12-4-22 (25876) は黒曜石製の搔器・ヘラ状石器である。平面形態は不整な五角形を呈し、素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなソフトハンマーの直接打撃で片刃に成形されている。裏面に摩耗痕がみられる。図 12-4-23 (25745) は黒曜石製の剥片石器で搔器の機能を有するものである。平面形態はやや不整形な楕円形を呈し、加工調整はソフトハンマーの直接打撃で刃部を弧状に調整加工して形成している。

#### 筥状石器

図 12-4-24 (23830) は黒曜石製の筥状石器である。平面形態は撥形を呈し、ソフトハンマーの直接打撃と間接打撃で形態・刃部を形成している。素材は両面加工体の可能性があるものである。

図 12-4-25 (14740) は黒曜石製の筥状石器である。平面形態は先端部が欠損するが刃部に向けて楕円形に近い形、断面形態はやや厚い凸レンズ状を呈し、尖頭器と共通する形態を有している。両面・両側縁加工はともに細かな調整が施される。刃部は半円形で細かな押圧剥離調整が施され搔器の刃部と同様の調整加工が施されている。

#### 敲・凹・磨石

図 12-4-26 (21709)・27 (22594)・28 (23827)・29 (21265) は平面形態がともに楕円形を呈する敲・磨石の複合石器の完形品約 2/3 残存品である。表面を磨り面、主に側面を敲き面としているが 29 は表面を凹石と同様の敲痕としている。図 12-4-30 (21754)・31 (21216) は凹・磨石の複合石器で、楕円形を呈している。30 は両面に凹痕が見られる。図 12-4-32 (21926)・33 (21262)・34 (20569)・35 (22656) は磨石である。平面形態はいずれも楕円形を呈すると推定されるものである。表裏面全体に磨り面をもつものである。

#### 石皿

図 12-4-36 (22170) は石皿の破損品で、楕円形を呈すると推定されるものである。表面は磨り面で使用による摩滅で平坦面となっている。

### 9号縦穴状遺構 (SB3009)

本遺構は調査区外が遺構全体の約 1/2 を占めていること、2・11号縦穴状遺構と50号土坑によって切り合い関係にあること、さらに遺跡保存のため範囲確認と一部をサブトレンチによる精査のため遺物は375点、内土器が89点、石器・礫・剥片他が286点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図13-2-01 (21974・22232・22328) は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に丸棒上のキザミが施文される。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕が顕著でヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きい砂粒、金雲母・繊維を含み、器厚は7～10mmである。図13-2-02 (22328) は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に丸棒上のキザミが施文される。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～8mmである。図13-2-03 (22233) は遺構中央北側床面から出土した押圧縄文土器の胴部片で直線的にやや開いて立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕が顕著でナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に砂粒を多く含む他に雲母を含み、器厚は5～8mmである。図13-2-04 (22234)

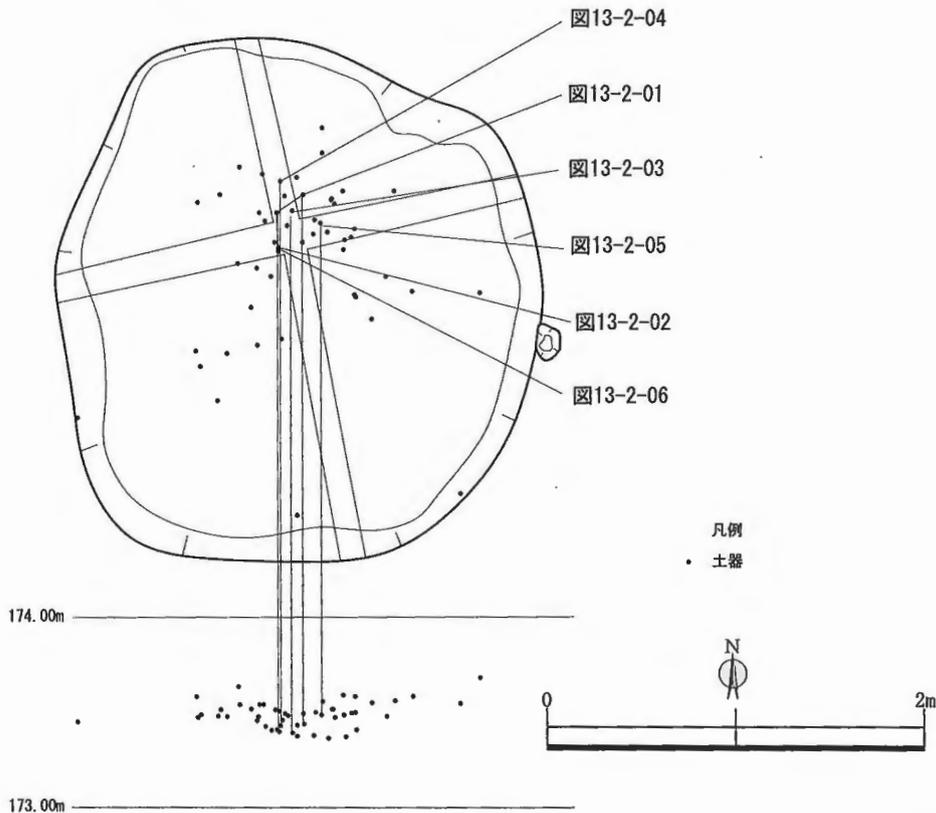


図13-1 3-1調査区 縄文時代草創期 9号縦穴状遺構出土 土器分布図

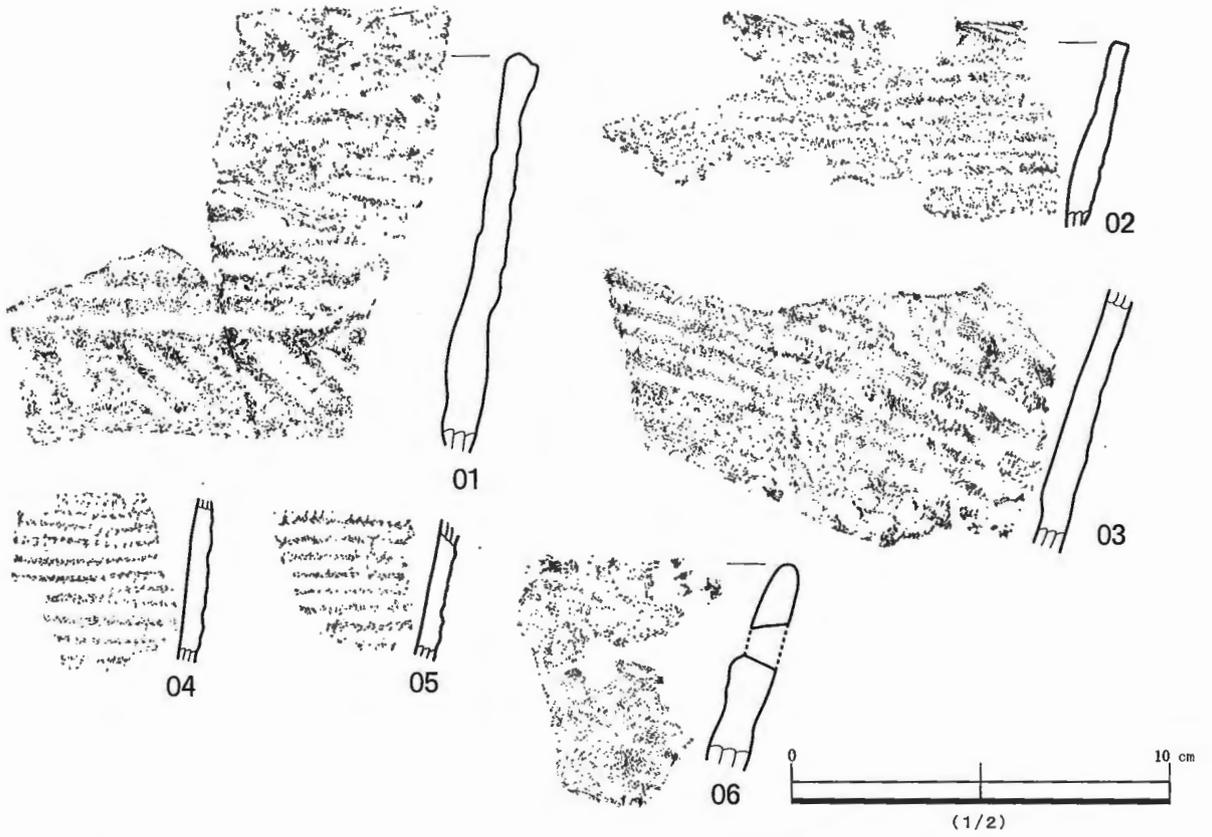


图 13-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

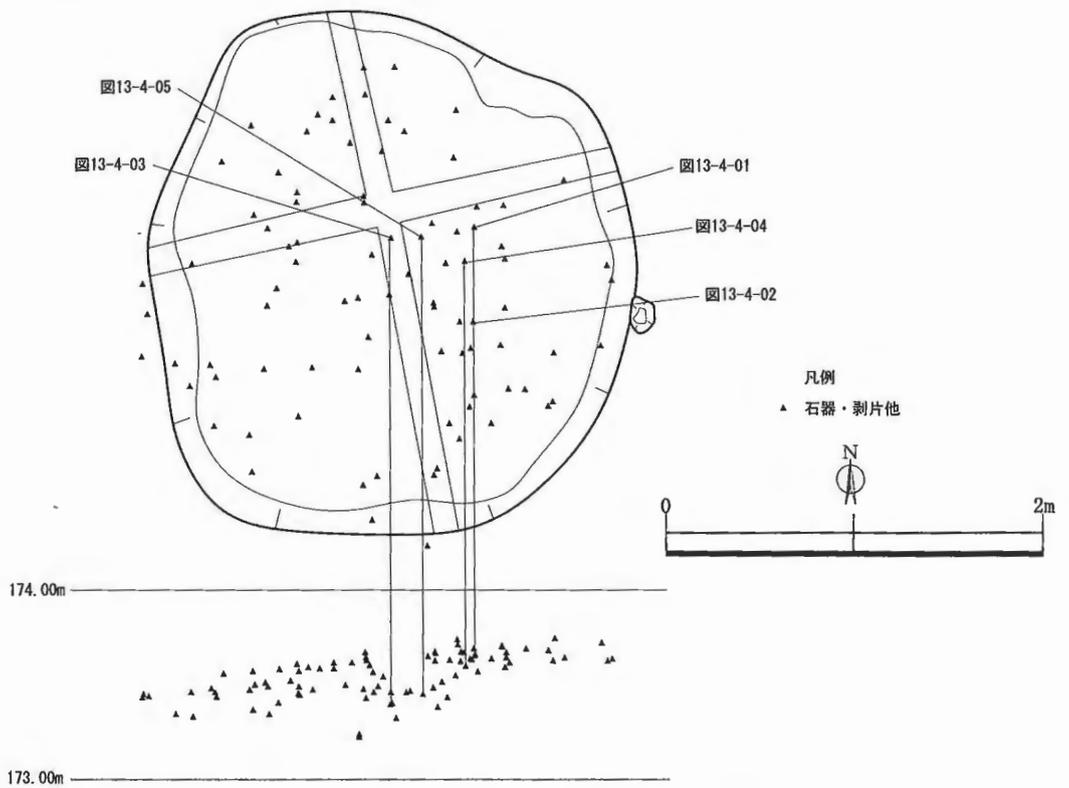


图 13-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

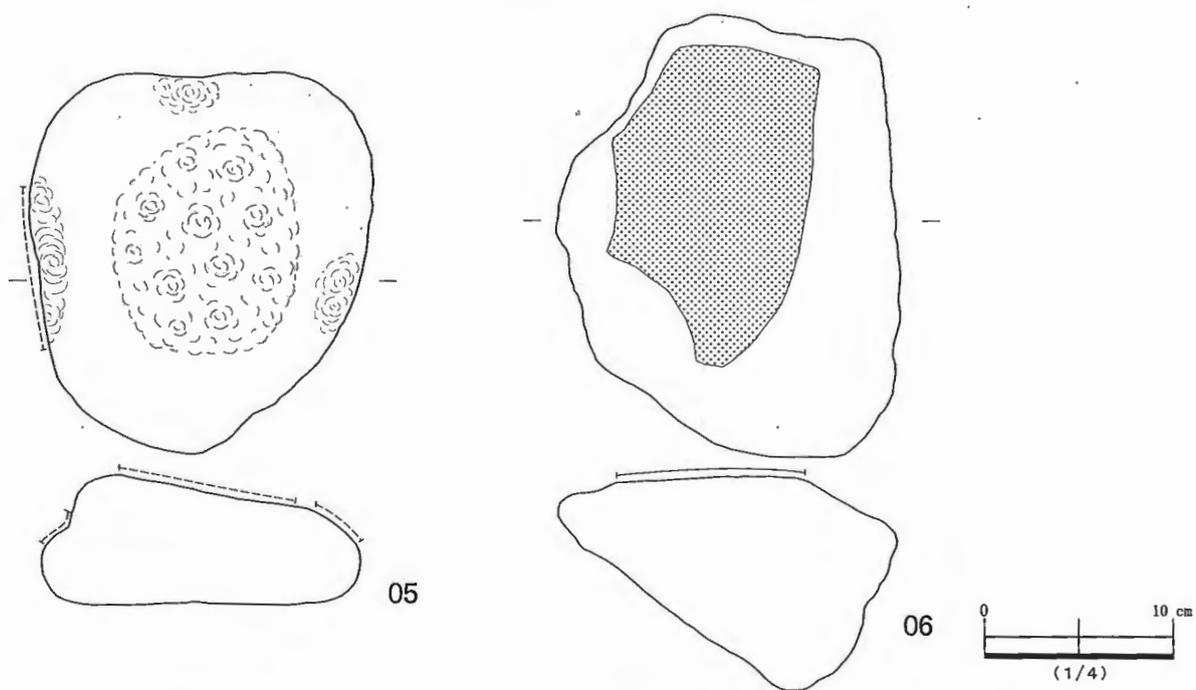
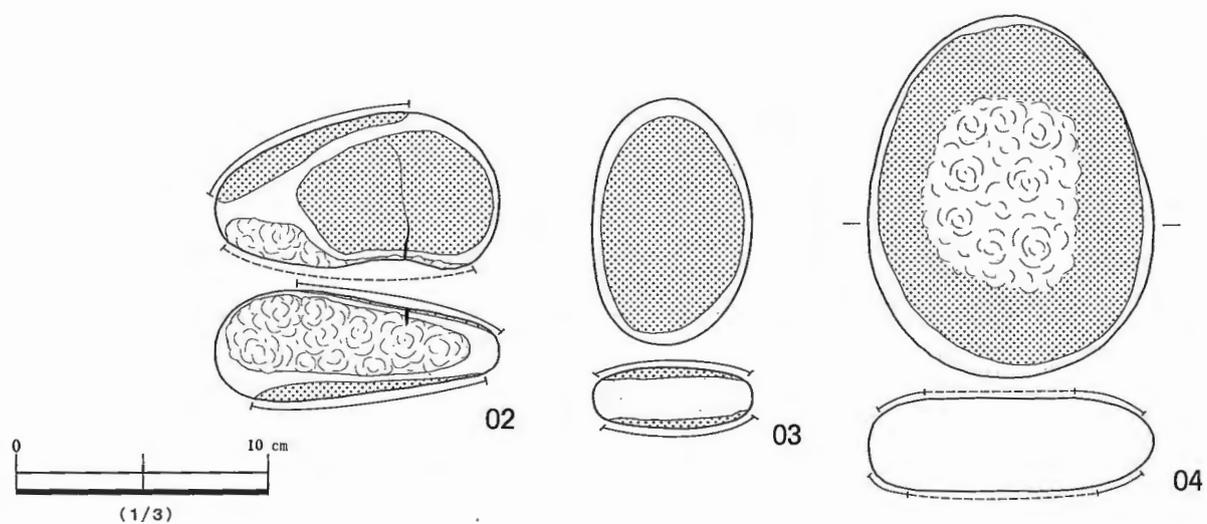
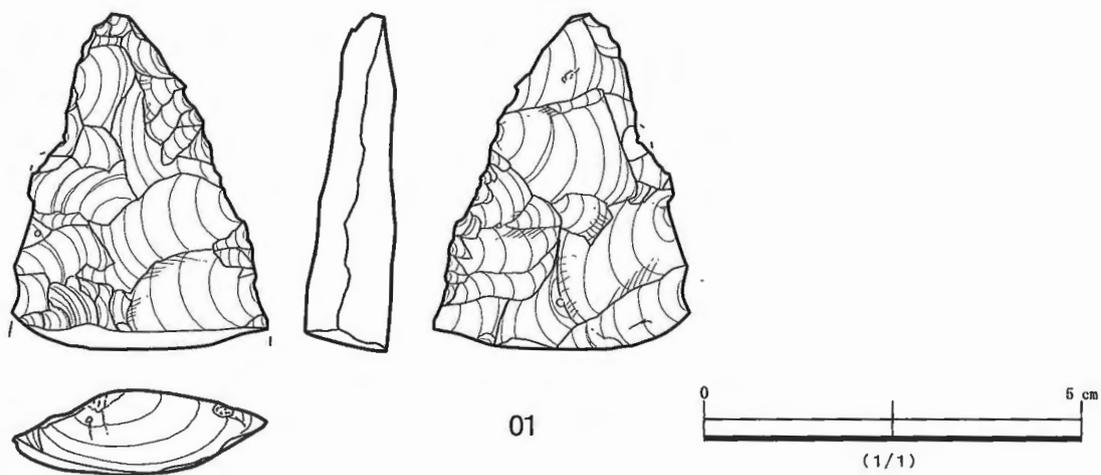


图 13-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竖穴状遺構出土 石器実測図

は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片で内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔密に左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕に丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく器面に光沢があり胎土に細かな金雲母を多く含み、器厚は5mmである。05（19166）と同一固体と推定される。図13-2-05（19166）は遺構中央北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片で内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔密に左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕に丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく器面に光沢があり胎土に細かな金雲母を多く含み、器厚は5mmである。

#### 無文土器

図13-2-06（22231）は遺構中央北側床面から出土した無文土器の口縁部片で外反気味にやや開いて立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。外面から内面へと13×8mmの楕円孔が穿かれている。外面はヨコナデ、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に砂粒を僅かに含み、器厚は10～11mmである。

#### 石器

##### 尖頭器

図13-4-01（14171）は黒曜石製の尖頭器の尖頭部片である。断面形態は凸レンズ状を呈し、両面調整加工はソフトハンマーの直接打撃が行われている。

##### 敲・凹・磨石

図13-4-02（10092）は敲・磨石の複合石器の完形品で、平面形態は横長の片面が内湾する礫を両面に磨り面、下側面を敲き面としている。図13-4-03（22329）は中粒砂岩製の磨石の完形品で、平面・断面形態ともに扁平の強い楕円形を呈し、両面を磨り面としている。図13-4-04（14301）は粗粒砂岩製の凹・磨石の複合石器で、大形の完形品である。平面形態は楕円形、断面形態は扁平が強く隅丸の板状である。両面に磨り面と敲による凹が認められる。法量は重さが2.14kgを計ることや板状の形態から据え置いて利用する石皿とも考えられるものである。

##### 台・石皿

図13-4-05（20002）は輝石安山岩製の石皿の完形品で、平面形態は不整形な隅丸の五角形を呈し、断面形態は扁平の強く中央が僅かに窪んでいる。重量は3.615kgを計る。表面と3側面に敲痕が認められる。図13-4-06は玄武岩製の台・石皿として利用されたと考えられる不定型な礫で、重量は6.18kgを計り重さがある。断面形態は三角形に近く、平坦部を磨り面としている。

## 11号竪穴状遺構（SB3011）

本遺構は調査区西側にあり2-5調査区1号埋没谷に向かう緩斜面に位置する。2・3・12号竪穴状遺構、51・52号土坑と重複関係にあり、52号土坑・12号竪穴状遺構→11号竪穴状遺構→2号竪穴状遺構の新旧関係となる。

本遺構からは遺物が524点出土した。内訳は土器片が28点、石器・礫・石材他が496点である。図示した土器は押圧縄文土器・無文土器、石器は石鏃・スクレイパー・石核・石皿等である。

### 土器

#### 押圧縄文土器

図14-2-01（25176）は遺構北東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に細かな金雲母・砂粒を含み、器厚は6mmである。

#### 無文土器

図14-2-02（23398）は遺構中央覆土下位から出土した無文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。外面は縦位に条線調整、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母と粒の大きい砂粒を含み、器厚は5～9mmである。

### 石器

#### 石鏃

図14-4-01（23636）は黒曜石製石鏃の先端部破損品で、平面形態は二等辺三角形と推定される無基の三角鏃である。表面に細かな押圧剥離調整が施され、裏面の一部に素材面が残されている。

図14-4-02（25617）・03（24204）はともにホルンフェルス製の石鏃である。02は左脚部を欠損、03は先端部を欠損するものである。平面形態は二等辺三角形の凹基で、02は細長く、03は正三角形に近い形態である。

#### スクレイパー

図14-4-04（24584）・05（24585）はともに頁岩製の円形に近い不定型な搔器である。素材面を残し、弧状の刃部を直接打撃によって形成している。図14-4-06（23378）は黒曜石製の両面加工石器である。平面形態は右側縁に小さな突起が形成されている。調整加工はソフトハンマーの直接打撃と、コンタクトエリアの狭いソフトハンマーの押圧剥離の2種類が認められる。後者のハンマーは変形度が小さいので、ハードハンマーの剥離面様相の特徴も兼ね備えている。小突起を摘みとみると横形石匙の可能性があるが、破損が重度で器種・形態の特定ができない。図14-4-07（24471）・08（24474）はともに黒曜石製の不定形な剥片石器で、加撃による剥離面から剥片素材の両極石器と考えられる。

#### 石核・礫器

図14-4-09（23792）は頁岩製の石核である。自然面打面から矩形剥片を剥離する円盤状石核の変異形態である。剥離作業途上で折れているものである。図14-4-10（25898）は頁岩製の片刃礫器である。加工調整はハードハンマーの直接打撃で刃部のみを形成したものである。

#### 台・石皿

図14-4-01（24291）は玄武岩製の台・石皿である。平面・断面形態はともに長方形を呈し、表の平坦面を磨り面としている。

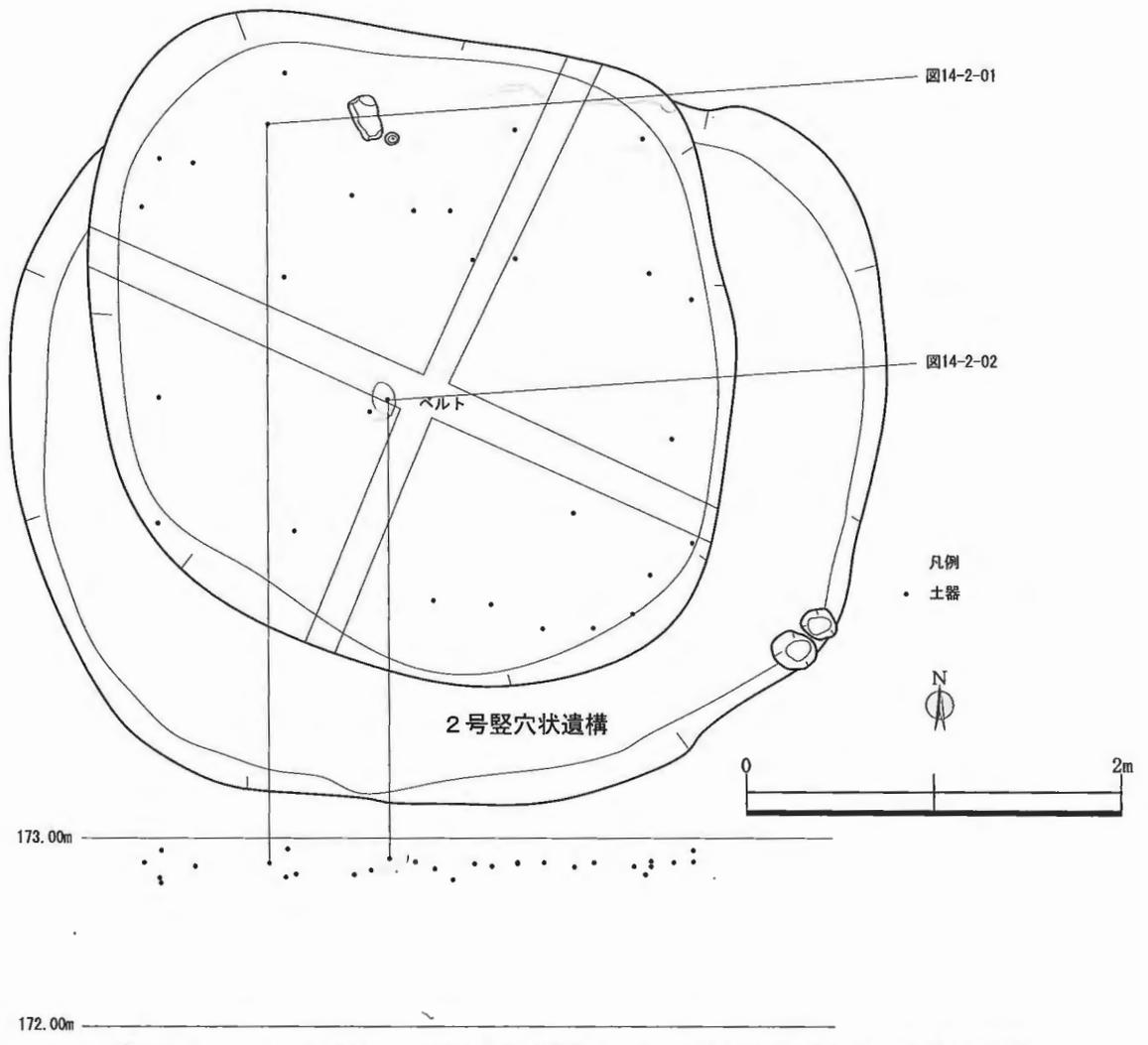


図 14-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 土器分布図

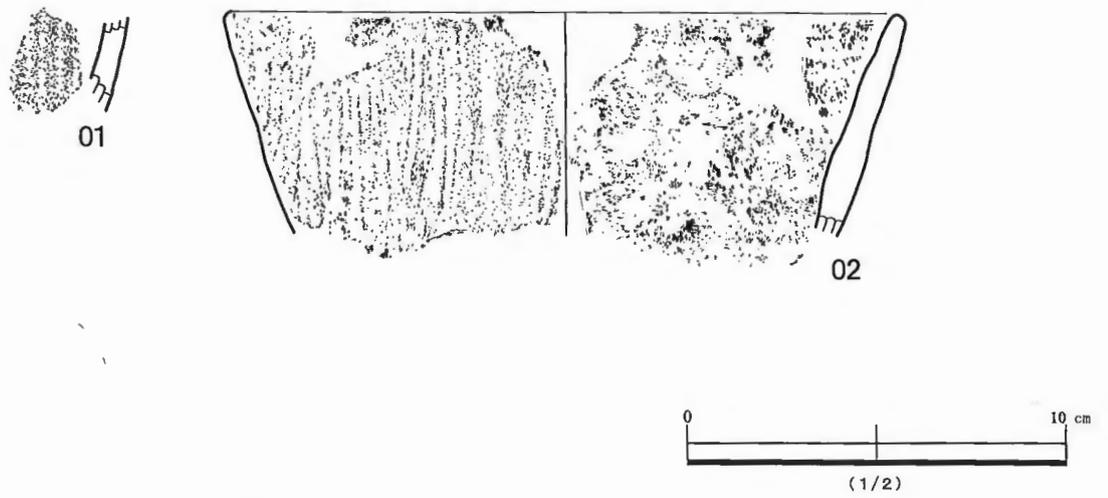


図 14-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

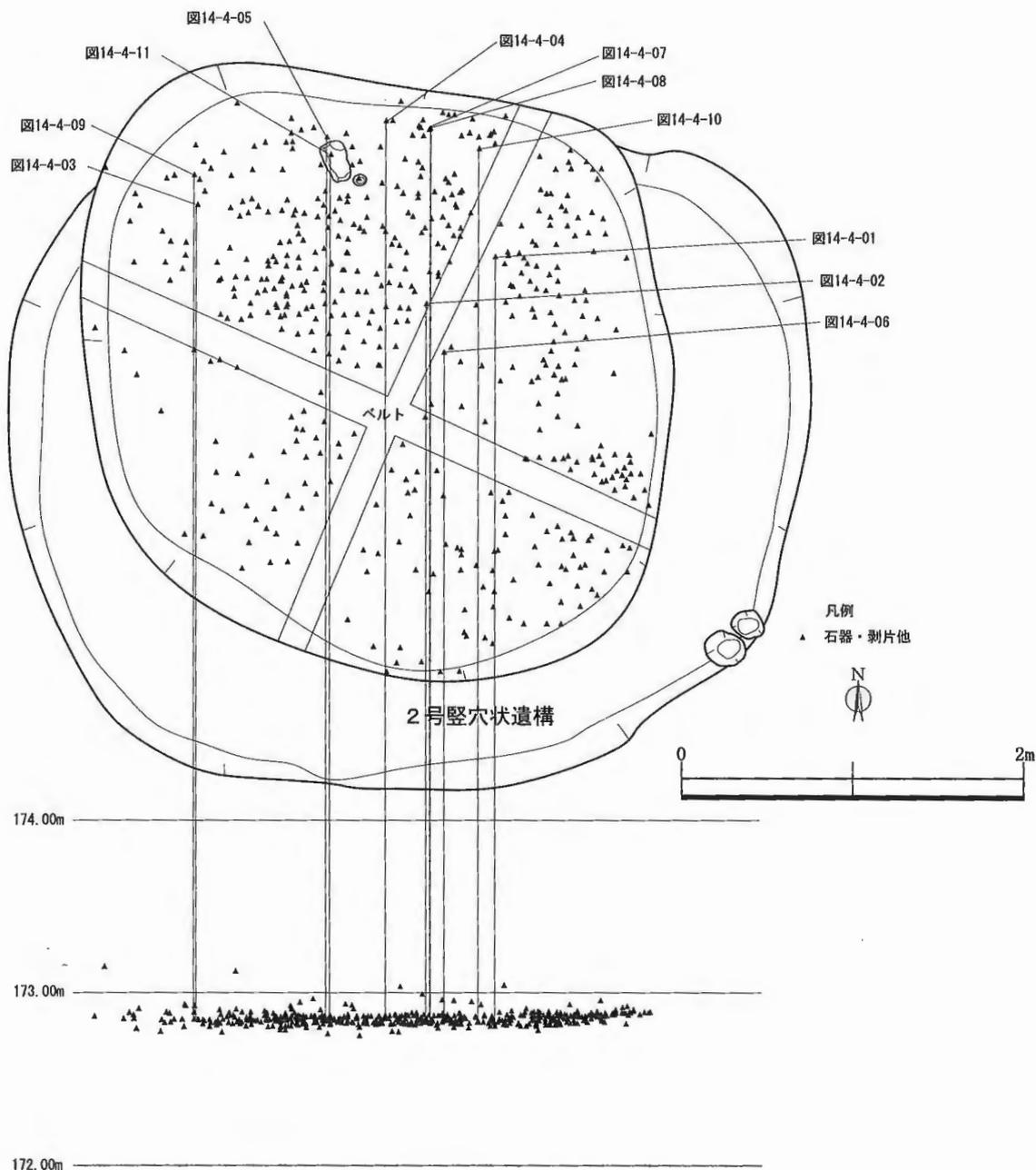


图 14-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

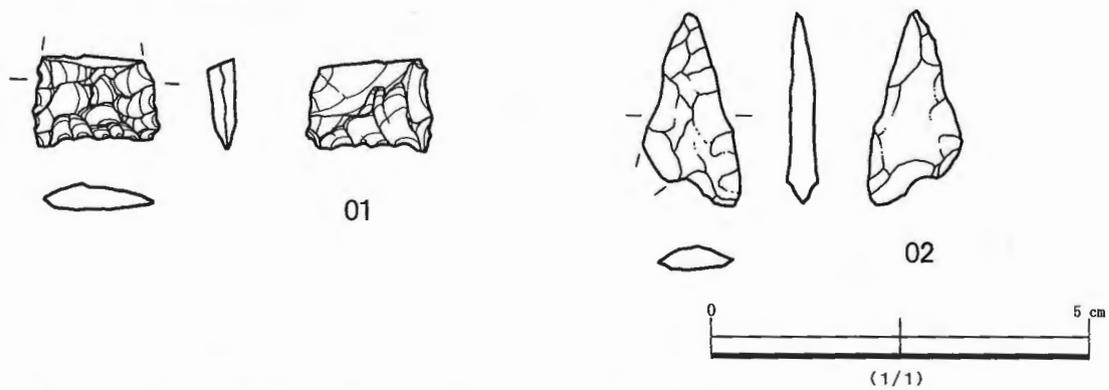


图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 石器実測図①

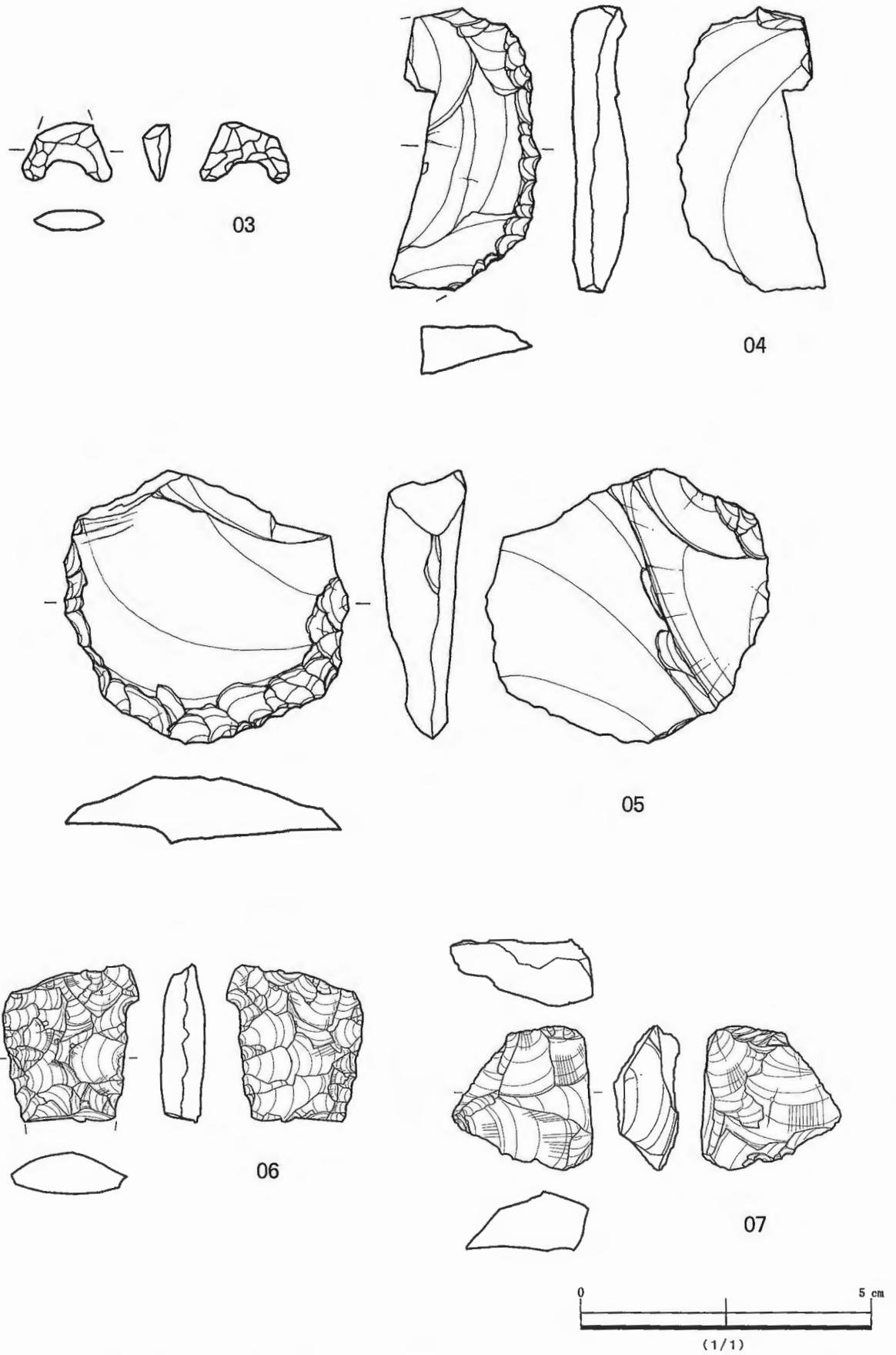
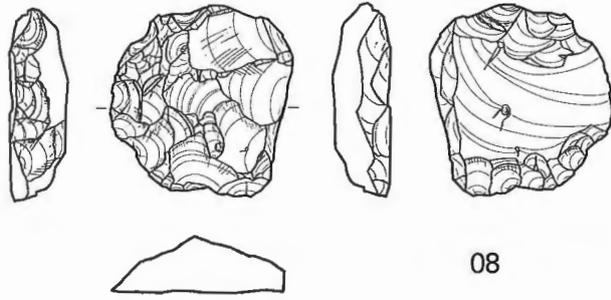
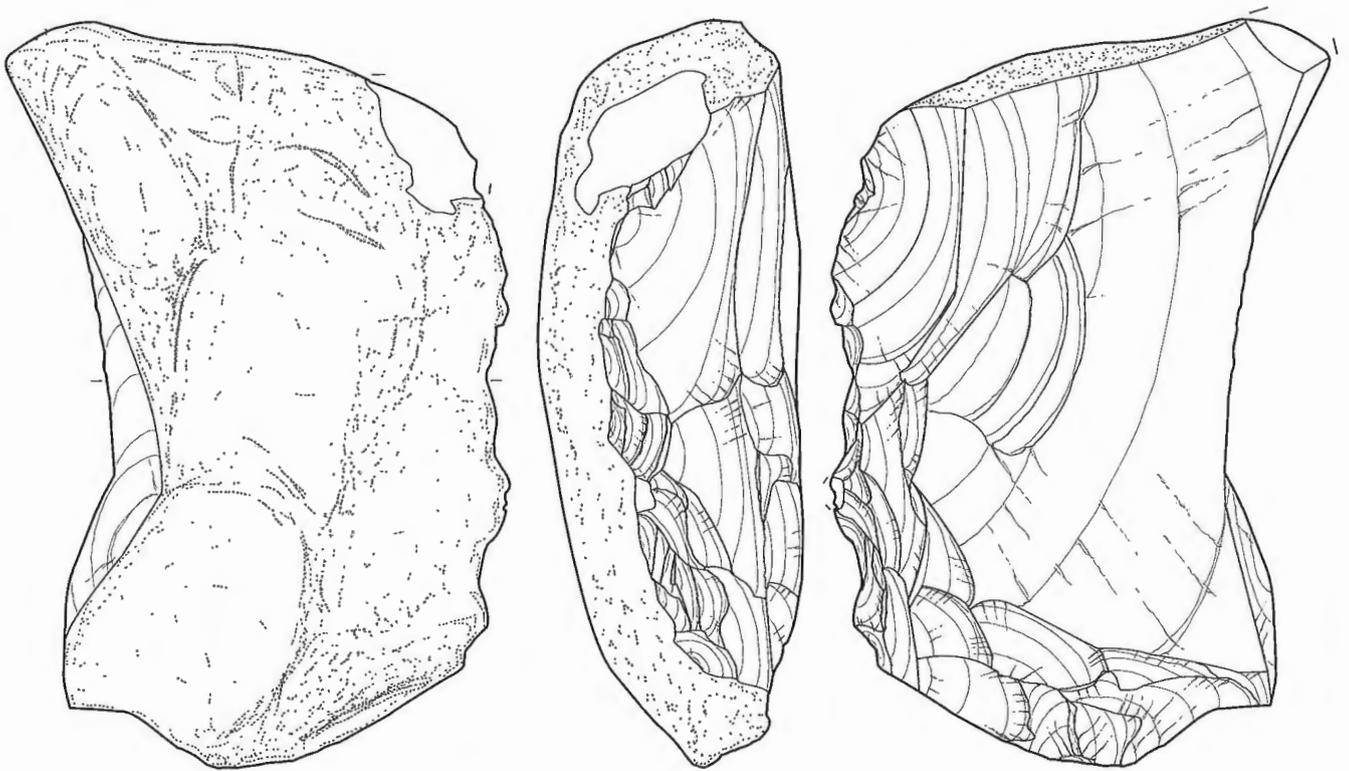


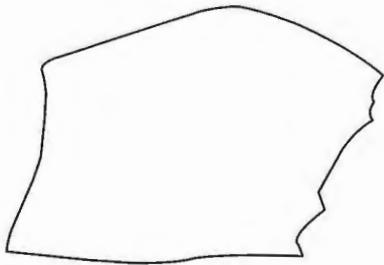
图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 石器実測図②



08



09



(1/1)

图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11 号竖穴状遺構出土 石器実測図③

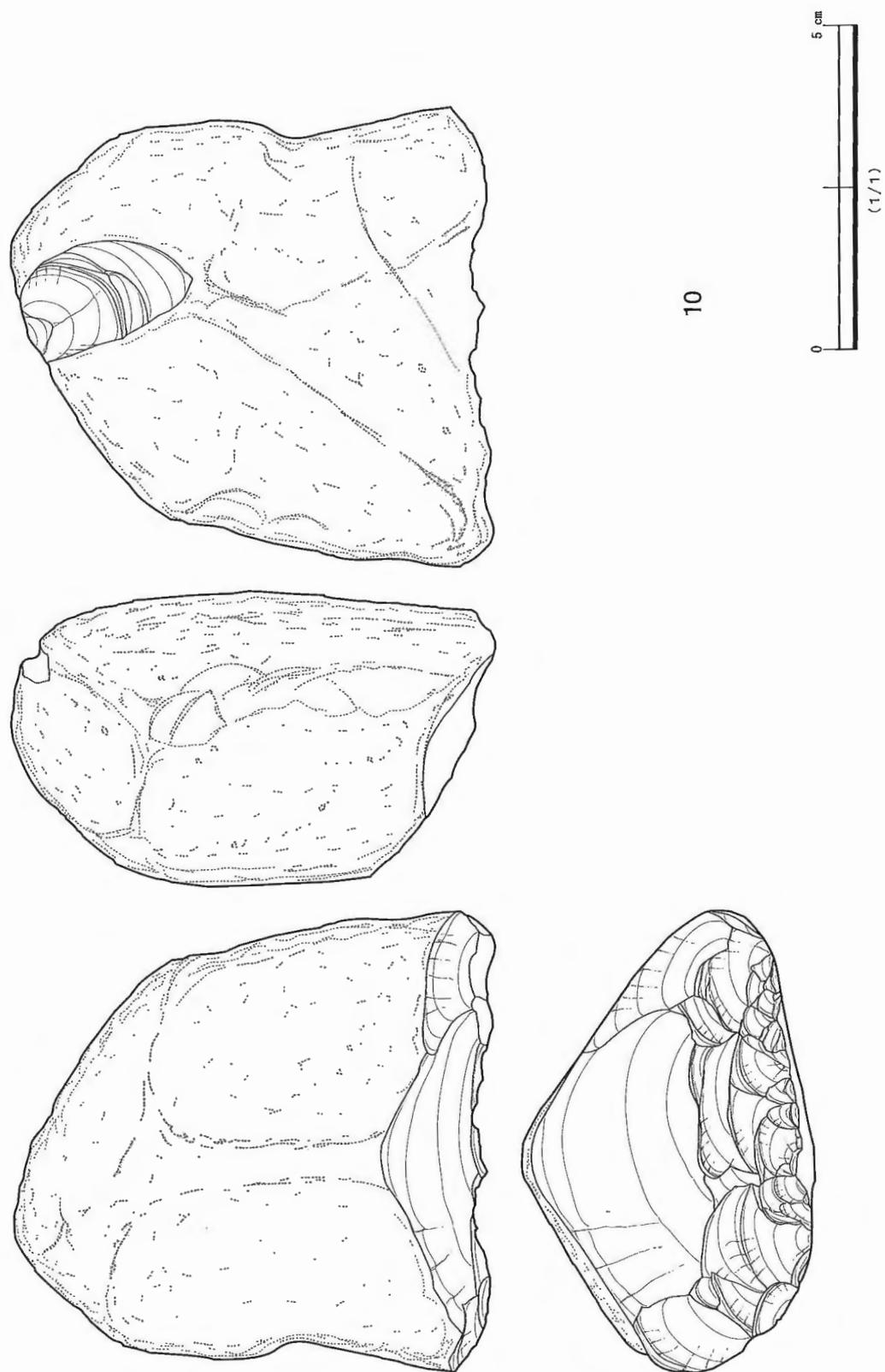


图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11 号竖穴状遺構出土 石器実測図④

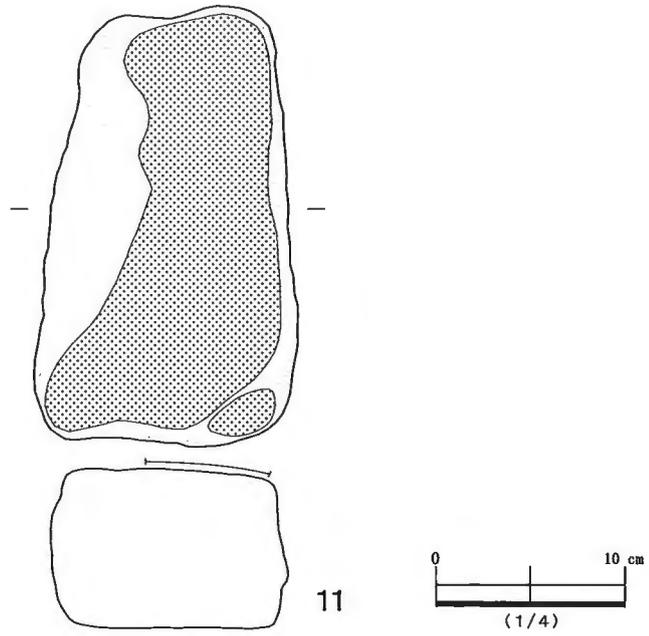


図 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竪穴状遺構出土 石器実測図⑤

## 12号竪穴状遺構 (SB3012)

本遺構は調査区西側2・11号竪穴状遺構と重複関係にあり、北西側が切られているため遺物は164点、内土器が28点、石器・礫・剥片他が136点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

図示した土器は押圧縄文土器・無文土器の5点、石器は石鏃、敲・凹・磨石等の2点である。

### 土器

#### 押圧縄文土器

図15-2-01 (13517) は遺構中央覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～6mmである。図15-2-02 (24591) は遺構中央南側床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔密に左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕調整が施される。接合部は儀口縁で、その部分に炭化物が付着しており破損後も使用した可能性がある。色調はやや明るく胎土に金雲母を微量含み、器厚は4mmである。

#### 無文土器

図15-2-03・04 (24391・25597) は遺構南東と東側の床面から出土した無文土器の口縁部片で口唇部は丸く仕上げている。外面は斜位の丸棒状具による沈線文が併行に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を含み、器厚は4～6mmである。図15-2-05 (24602) は遺構南東隅覆土下位から出土した無文土器の胴部片である。外面はナデ調整、内面は指頭痕以外に炭化物が付着しているため不詳である。色調はやや明るく粒の大きな砂粒・繊維を含み、器厚は5～6mmである。

### 石器

#### 石鏃

図15-4-01 (24592) は珪質頁岩製の石鏃で先端部を僅かに欠損してほぼ完形品である。平面形態は僅かに左右非対称な二等辺三角形にやや抉り深い凹基である。側縁調整はやや粗い押圧剥離によると考えられる。

#### 敲・凹・磨石

図15-4-02 (12854) は粗粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態は均整のとれた楕円形、断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面に凹・磨り面、側面に敲き痕が残されている。

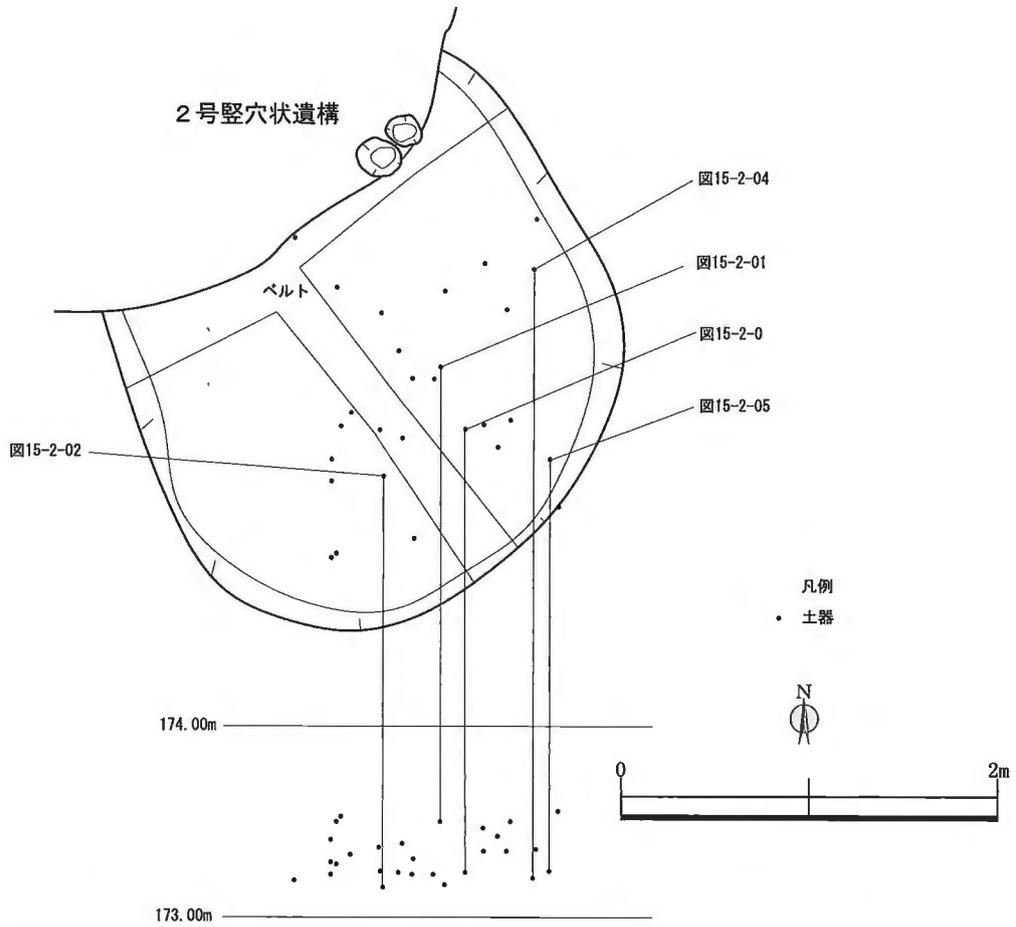


図 15-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 土器分布図

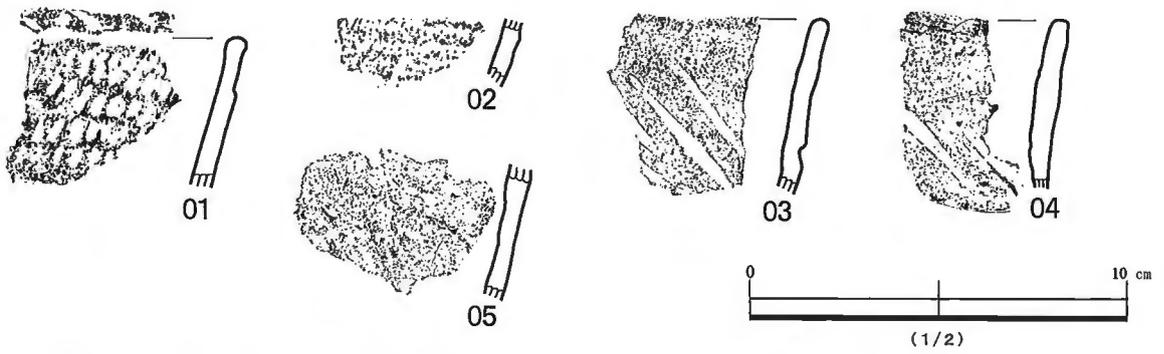


図 15-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

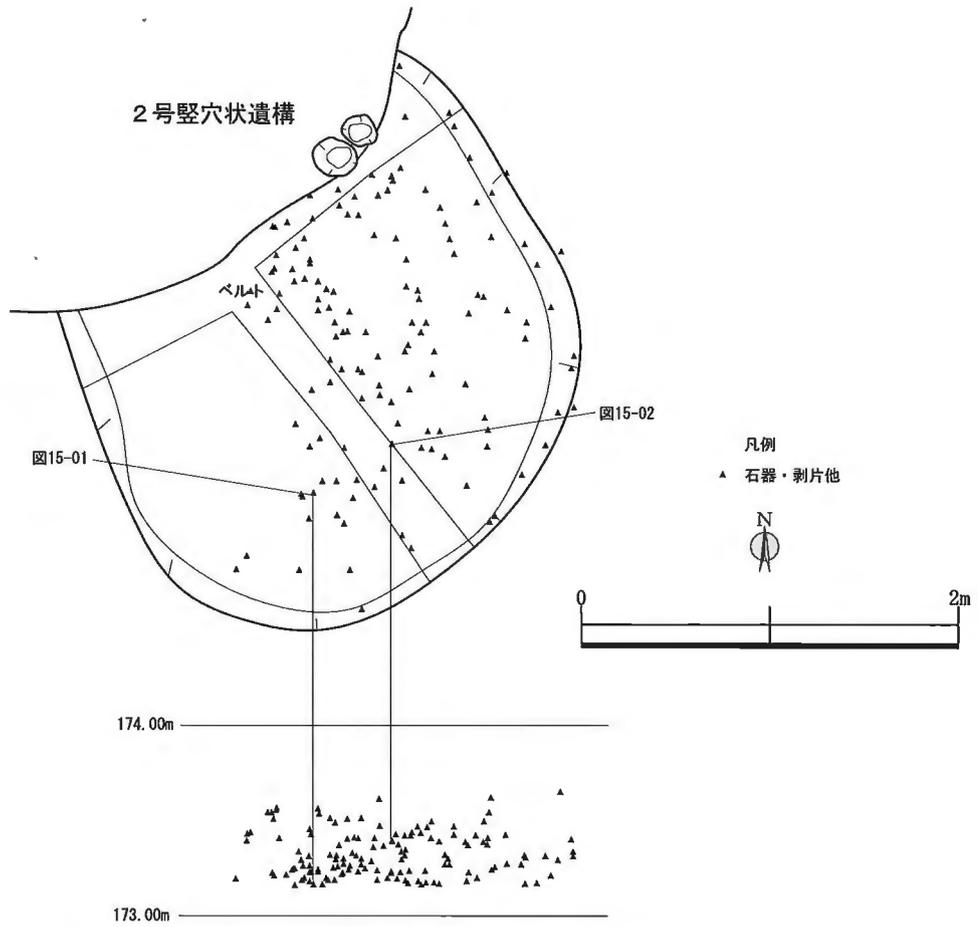


图 15-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

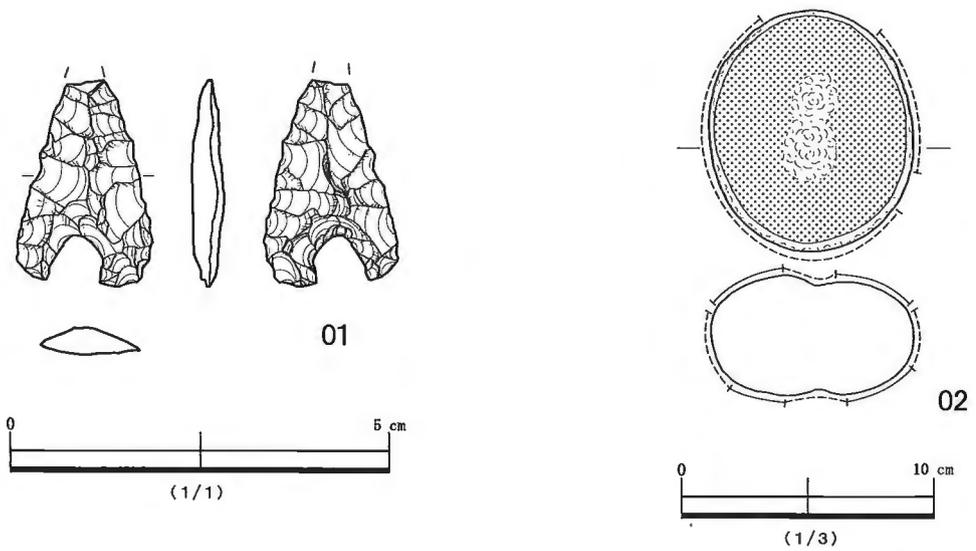


图 15-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 石器実測図

53号土坑

174.00m

173.00m

172.00m

14号竖穴状遺構

53号土坑

凡例

- 土器
- ▲ 石器・剥片他

图19-1-05

图19-1-03

图19-2-01

图19-1-01

图19-1-04

图19-1-02

图16-2-01

图16-2-02

4P16

4P15

4P14

4P9

4P13

4P11

4P10

14号竖穴状遺構

調査区域外

174.00m

173.00m

172.00m

14号竖穴状遺構



图 16-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 14号竖穴状遺構・53号土坑出土 遺物分布図

#### 14号縦穴状遺構 (SB3014)

本遺構は調査区南側4・5号縦穴状遺構、53号土坑と重複しており、14号縦穴状遺構→53号土坑→5号縦穴状遺構→4号縦穴状遺構の新旧関係となる。本遺構は遺跡保存のため範囲確認精査だけであったため遺物は26点、内土器が2点、石器・礫・剥片他が24点と少なめの出土であった。

図示した土器のみで押圧縄文土器・無文土器の2点である。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図16-2-01 (11201) は遺構東側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜～横位に3施文帯に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。接合による肥厚がある。色調はやや暗く胎土に砂粒を多く含み、器厚は4～7mmである。

##### 無文土器

図16-2-02 (11022) は遺構東側覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面は指頭痕に縦位ナデ調整、内面は指頭痕に条痕状ヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は7～10mmである。隆線文土器の無文と推定される。

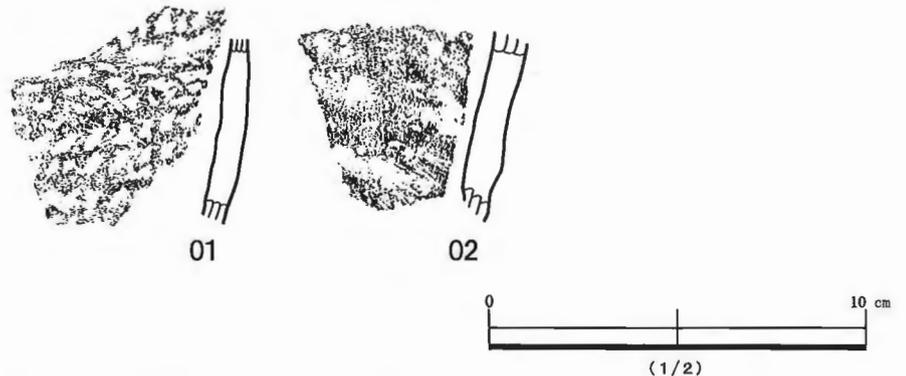


図16-2 3-1調査区 縄文時代草創期 14号縦穴状遺構出土 土器拓影・実測図

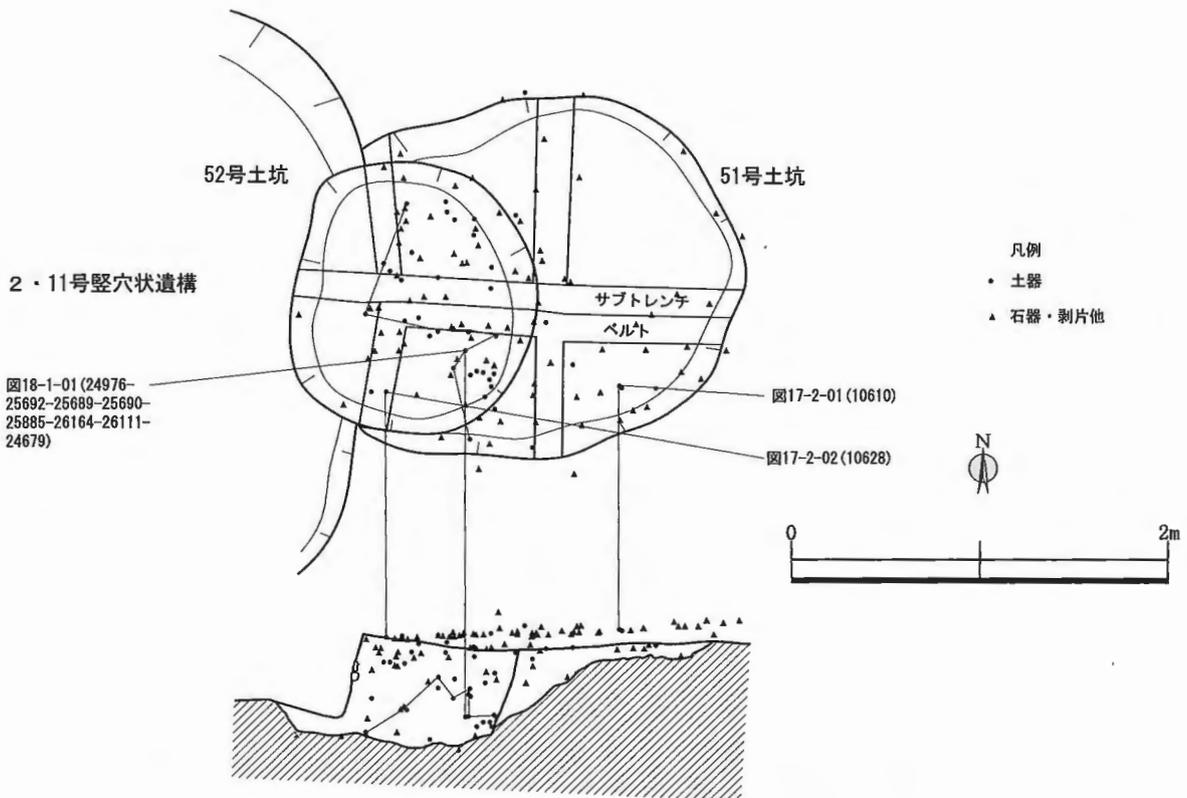


図 17-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 51・52 号土坑出土 遺物分布図

### 51 号土坑 (SK51)

本遺構は調査区中央に位置し、52 号土坑、2・11 号竪穴状遺構と重複関係にあり、52 号土坑→51 号土坑→2 号竪穴状遺構→11 号竪穴状遺構の新旧関係である。

本遺構から遺物は計 114 点、その内土器は 34 点、礫・剥片他は 80 点が出土した。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図 17-2-01 (10610) は遺構東南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔密に左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。接合による肥厚がある。色調はやや暗く胎土に砂粒・雲母を含み、器厚は 6～7 mm である。図 17-2-02 (10623) は遺構西南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の尖底部片で、乳房状を呈する。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で多高方向に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に砂粒を多く含み、器厚は 5～14 mm である。

### 52 号土坑 (SK52)

#### 土器

##### 隆線文土器

図 18-2-01 (24976 他) は隆線文土器の一括で口縁から底部片で、底部は平底である。外面は横位に幅約 6 mm の粘土紐が横位に 2 条貼付け、口唇部直下の隆線は途中で「クランク」状を呈し、その隆線上を爪形状施文具で連続押圧・押し潰し施文、外面は主に斜位にミガキ状に調整、内面は指頭痕に丁寧に斜位にヘラ状具による調整が施される。器面はやや明るく光沢があり胎土に細かい砂粒を含み、器厚は

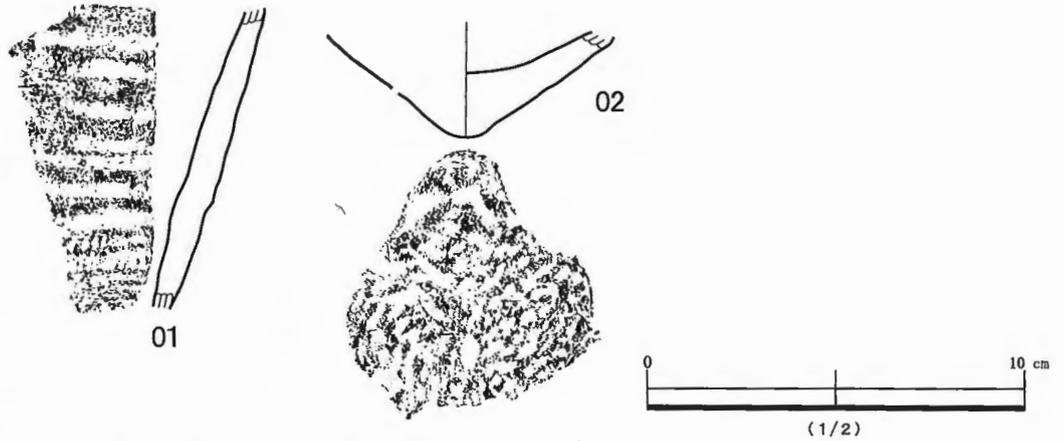


図 17-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 51号土坑出土 土器拓影・実測図

6～19 mmである。

### 53号土坑 (SK53)

本遺構は調査区南側に位置し、4・5・14号竪穴状遺構と重複関係にあり、14号竪穴状遺構→53号土坑→5号竪穴状遺構→4号竪穴状遺構の新旧関係である。

本遺構から遺物は計114点、その内土器は34点、礫・剥片他は80点が出土した。

### 土器

#### 押圧縄文土器

図 19-1-01 (14062) は遺構中央覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で内湾気味に立ち上がり口唇部を強く外反させている。外面は施文原体不明瞭縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に3施文帯に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は6～8 mmである。図 19-1-02 (25324) は遺構南東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。接合部の肥厚がみられる。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～7 mmである。図 19-1-03 (13742) は遺構中央西側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で縦～斜位に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。接合部の肥厚がみられる。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～6 mmである。

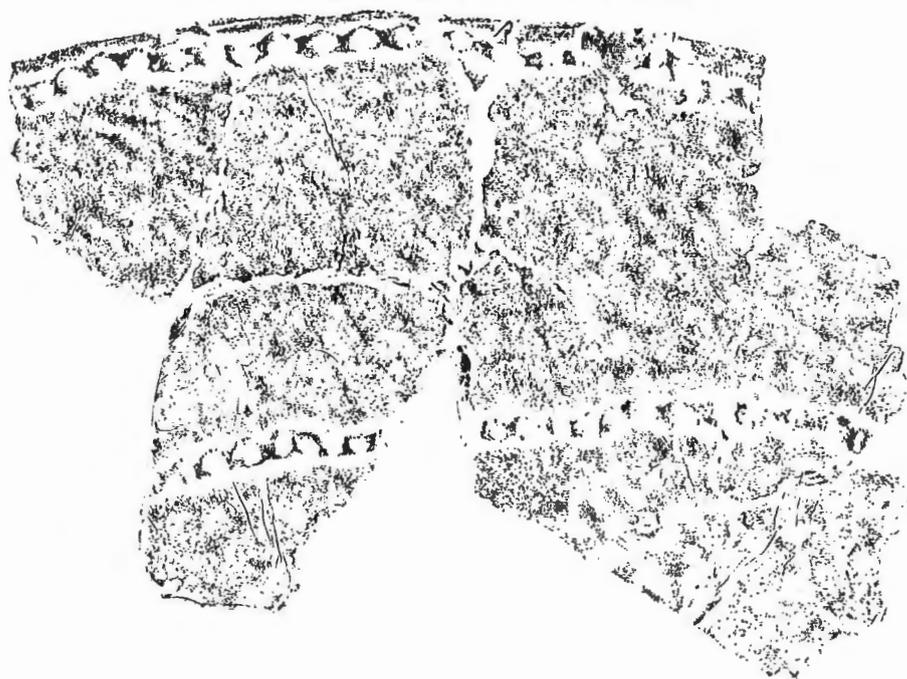
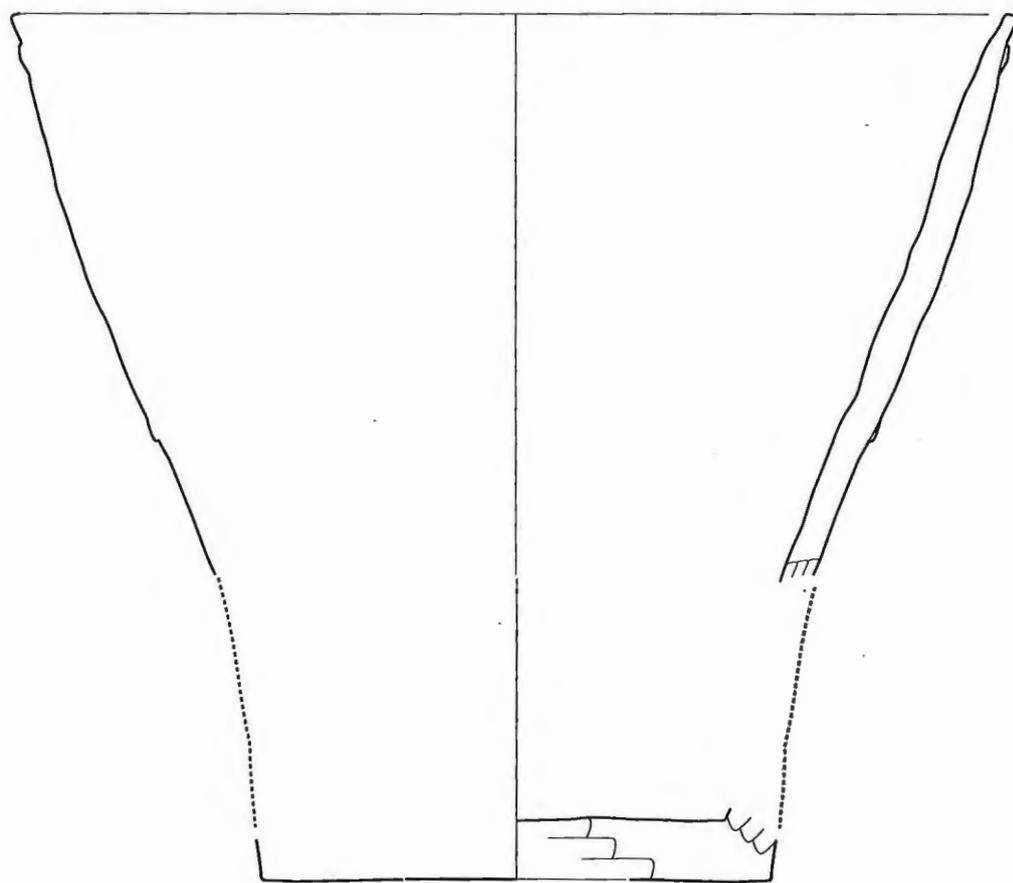
#### 無文土器

図 19-1-04 (12677) は遺構東端覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面は指頭痕にヨコナデ、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は6～7 mmである。図 19-1-05 (25605) は遺構中央北側覆土下位から出土した無文土器の胴部片である。外面は斜位に沈線状条痕、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は7～8 mmである。

### 石器

#### 石鏃

図 19-2-01 (14087) はチャート製の石鏃で先端部を僅かに欠損するほぼ完形品である。平面形態は二等辺三角形の抉りのやや深い凹基である。両面加工調整で側縁の押圧剥離は規則的な四角形の剥離面である。



01



(1/2)

图 18-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 52号土坑出土 土器拓影・実測図

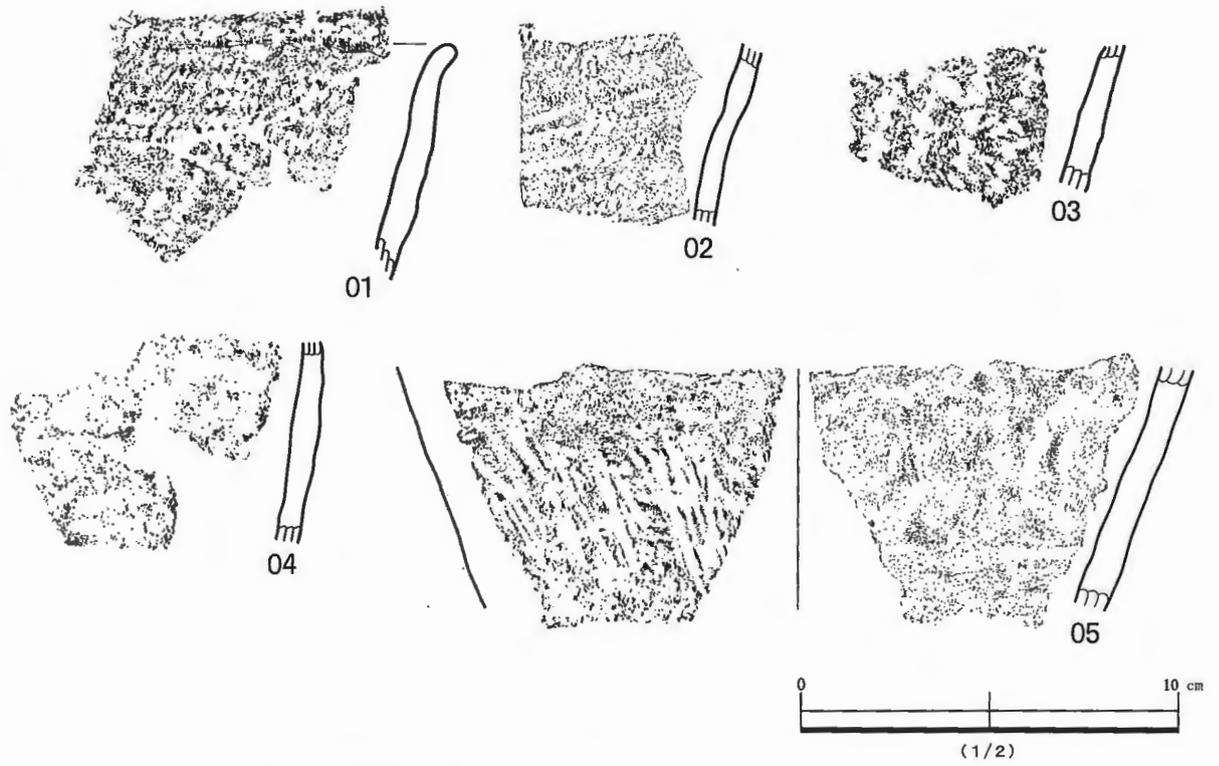


图 19-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 土器拓影・実測図

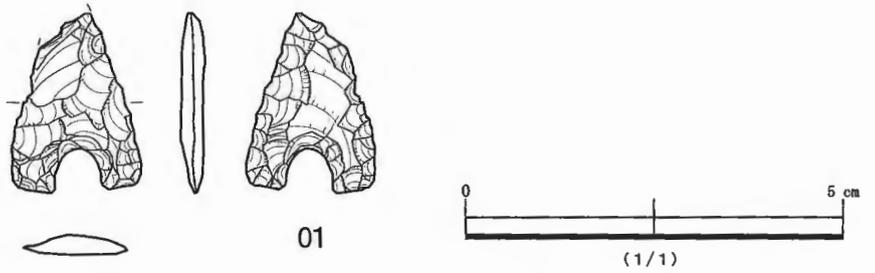


图 19-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 石器実測図

## グリッド

本調査区からは遺構以外のグリッドから合計 9958 点の遺物が出土して記録された。7 層から出土した遺物合計は 5482 点、そのうち土器が 747 点、礫・剥片その他が 4735 点である。6 層から出土した遺物合計は 4454 点、そのうち土器が 434 点、礫・剥片その他が 4020 点である。

本調査区から出土した主な時期の遺物は縄文時代草創期と早期である。土器は縄文時代草創期の押圧縄文土器を主体に隆線文土器・爪形文土器・無文土器が客体として出土した。早期では条痕文系土器を主体に押型文系土器・燃糸文系土器・沈線文系土器が客体として出土した。少量であるが早期末葉の薄手土器の木島式土器や前期の竹管文系土器の諸磯式土器が出土した。

石器は縄文時代草創期の尖頭器・石鏃・スクレイパー類・石錐・礫器・敲石・磨石・凹石・石皿が出土した。最も出土した剥片石器は石鏃・スクレイパー類であった。また礫石器では敲・磨石の複合石器が最も多く出土した。

少数ではあるが有溝砥石のうちの断面形態が半円形を呈する矢柄研磨器が静岡県内では初めて縄文時代草創期の包含層から出土した。

## 縄文時代

### 土器

#### 縄文時代草創期

##### 隆線文土器

図 20-2-01～09 は第 1 群第 1・3・4 類隆線文土器で出土層位は 7 層である。図 20-2-01 (トレンチ一括) は口縁部片で外面は口唇部直下 2 条 1 単位に併行して走る粘土紐を横位に貼付、その隆線文上をキザミ状押圧が施されている。内面はやや幅の広いヘラ状具による調整が顕著に施される。外面に 2 条 1 単位と考えられる隆線文の施文文様は 7 層から出土した図 20-2-05 (11020)、図 20-2-06 (11018)、図 20-2-07 (5754) においても行われるが、施文位置が図 20-2-01 に見られる口唇部直下でない点と図 20-2-05 (11020)・図 20-2-06 (11018) では隆線文が直線的でなく波状あるいは山形状の施文、さらに隆線文が薄い点が相違する。7 層から出土した図 20-2-04 (7801) は 1 条であるが同様に波状あるいは山形状の施文である。内面はやや幅の広いヘラ状具と思われる条痕状の調整は 52 号土坑出土の一括隆線文土器である図 18-2-01 においても同様の内面調整が施されていることから同時期であると考えられる。図 20-2-02 (7016)、7 層から出土した図 20-2-07 (5754)、図 20-2-08 (7757) は隆線文にヘラ状具によるキザミ状押圧や器面調整が丁寧である点が共通する。

施文された隆線文の幅を基準にした土器分類「第 1 群第 1 類太隆線文土器→第 1 群第 3 類細隆線文土器→第 1 群第 4 類微隆起線文土器」(麻生・白石 2000) に従えば、隆線文の幅が 6～8 mm の太隆線文土器は図 20-2-01 (トレンチ一括)、隆線文の幅が 3～5 mm の細隆線文土器は図 20-2-03 (トレンチ一括)・図 20-2-06 (11018) である。また微隆起線文土器は 3-3 C 調査区 10 号堅穴状遺構とその周辺のみから出土しており、隆線文の幅は 1～2 mm で 1 mm が主体である。出土したそれぞれの土器分類の特徴を概観すると太隆線文土器は外面無文部全体が擦痕状の調整、内面はヘラ状具による調整が顕著に施され、色調はやや明るく、胎土には白色粒を多く含み、器厚は 8～10 mm 前後である。細隆線文土器には隆線文がやや薄く、色調が明るく、胎土に白色粒を含み、器厚が 8 mm 前後のものと同様の器面調整が丁寧、色調が暗く暗褐色から黒褐色を呈し、器厚が 6～8 mm 前後とやや薄い 2 種類がある。微隆起線文土器は内外面の器面調整が黒光りするよう丁寧、色調が暗く黒褐色を呈し、器厚が 4～7 mm 前後とやや薄いのが特徴である。

##### 爪形文土器

図 20-2-10～12 は第 2 群第 1・2 種爪形文土器である。図 20-2-10 (グリッド一括) は口縁部片、7

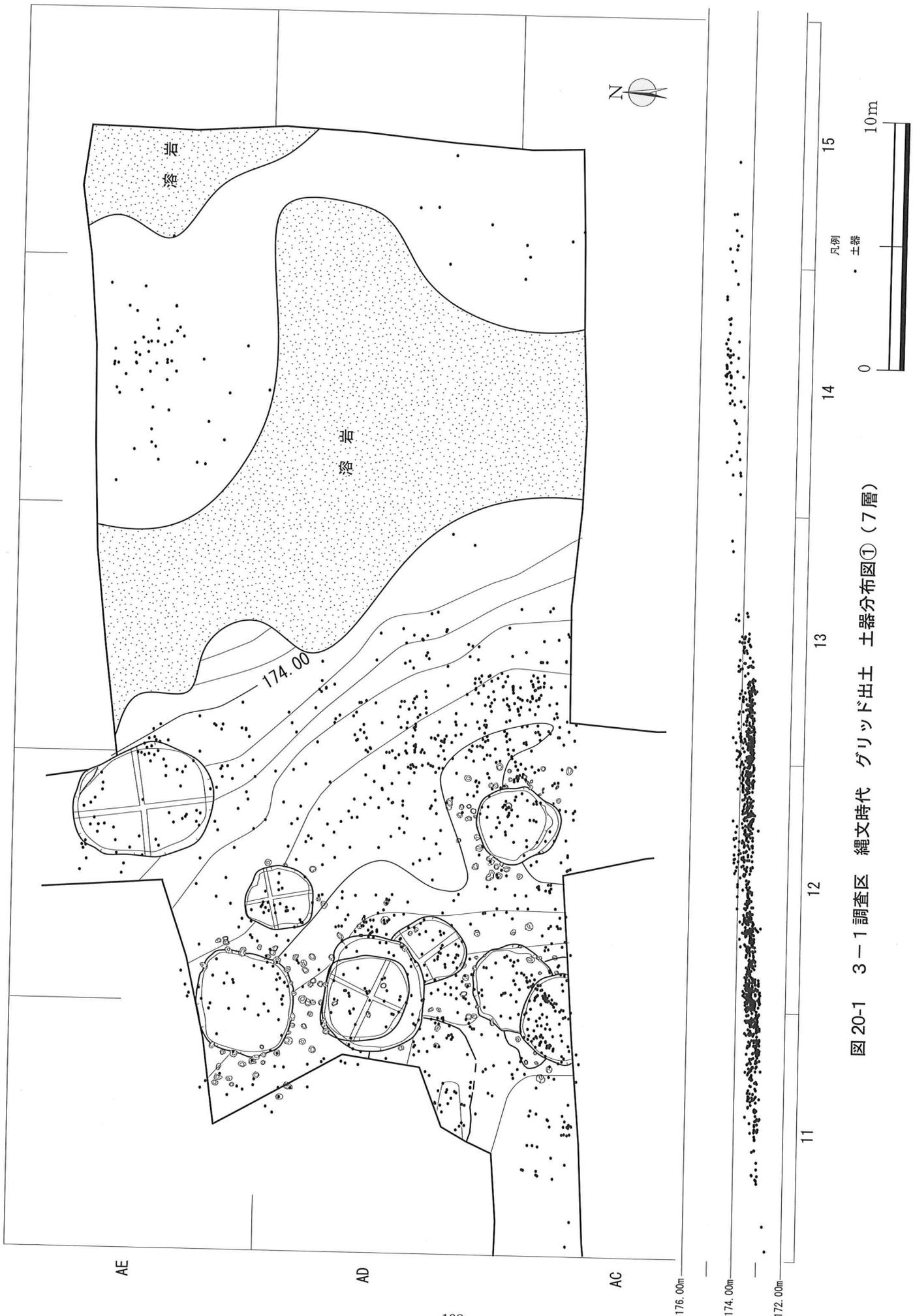


図 20-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図① (7層)

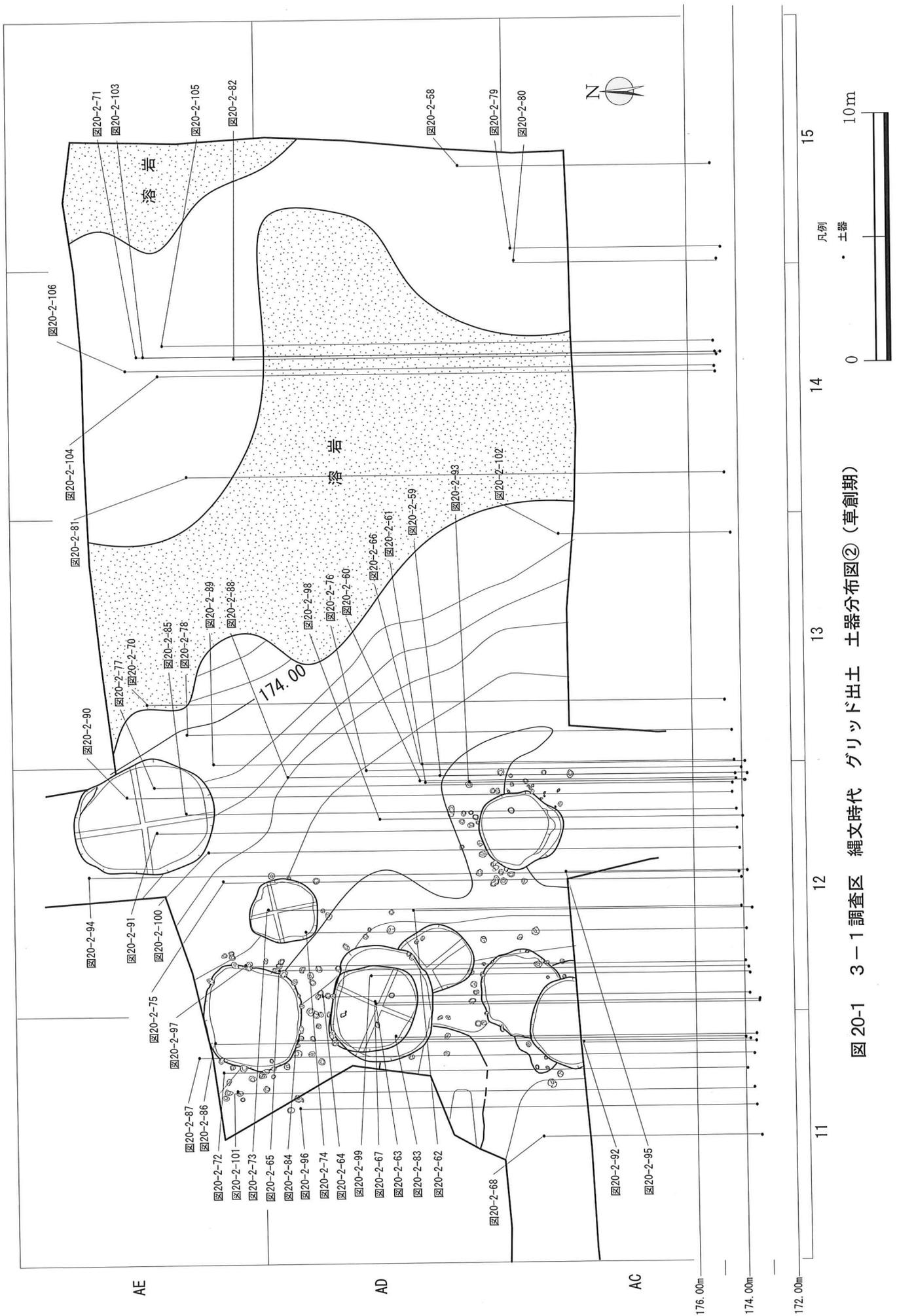


図 20-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図② (草創期)

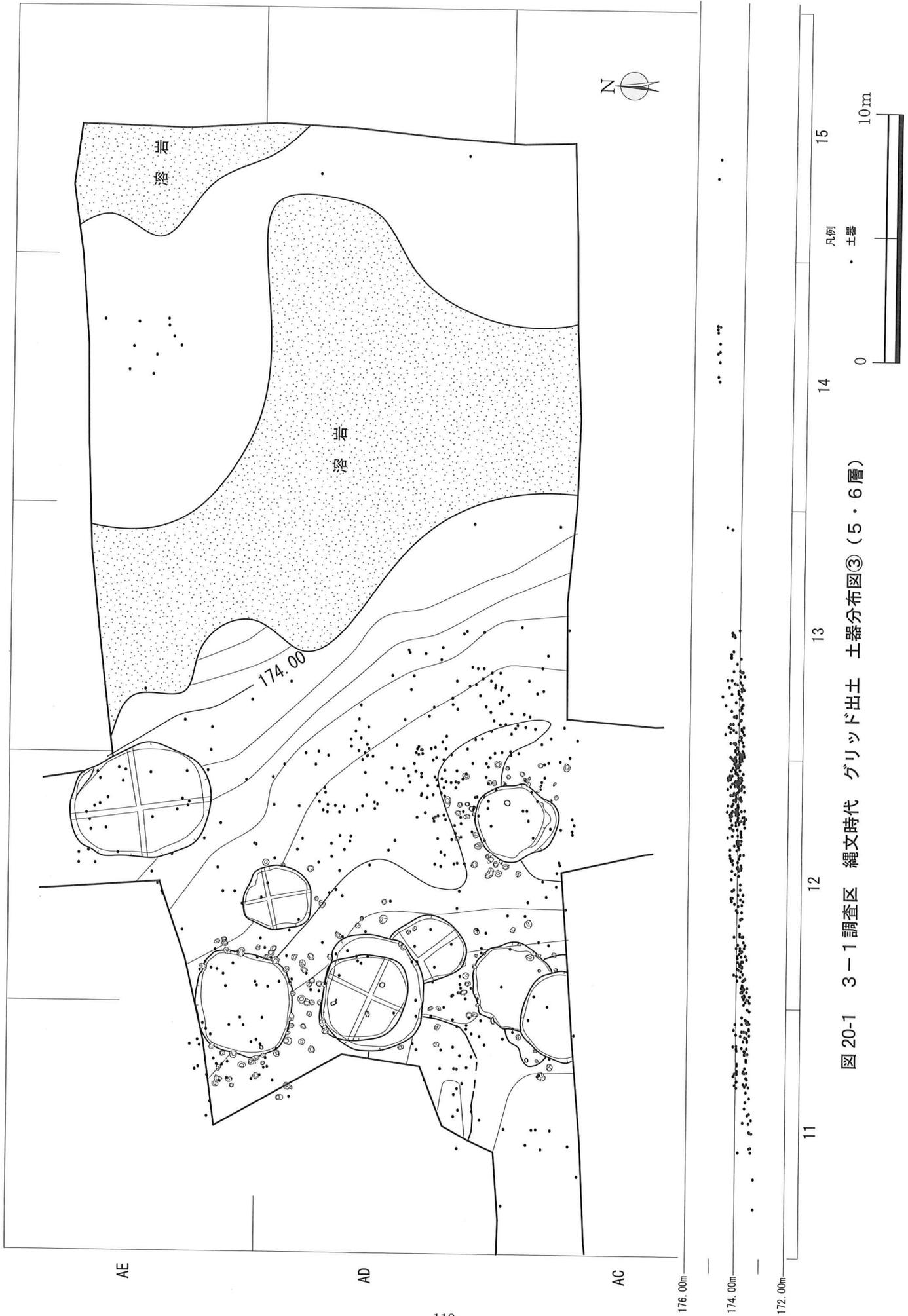


図 20-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図③ (5・6層)

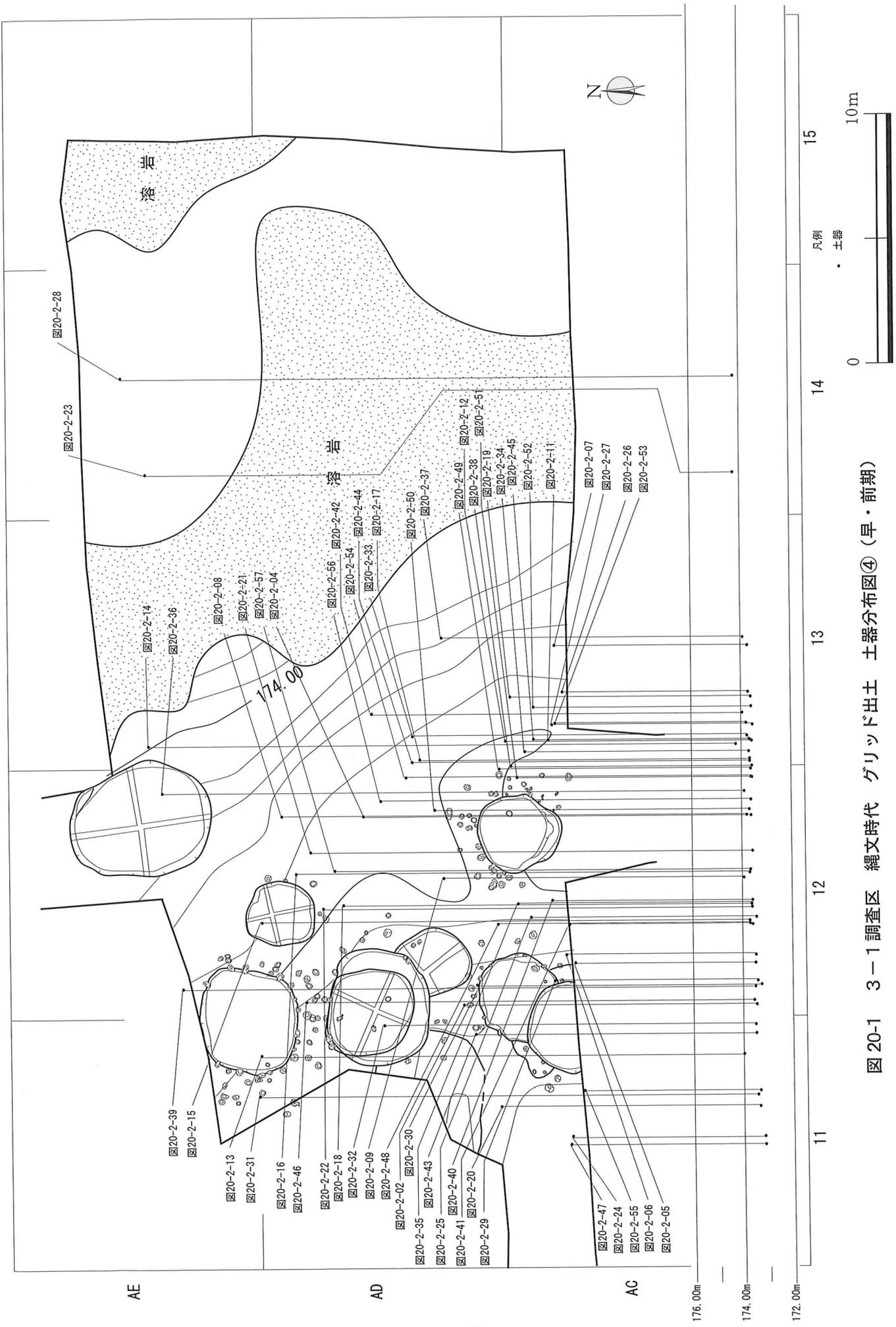


図 20-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図④ (早・前期)

層から出土した図 20-2-11 (11588) は胴部片であるが、ともに外面は縦位の「ハ」の字の爪形文が充填される。7層から出土した図 20-2-12 (11412) は外面に横位の爪形文が少なくとも2条連続施文される。

#### 押圧縄文土器

図 20-2-13 ~ 43 は第3群第1 ~ 3種押圧縄文土器である。図 20-2-13 (3693・3695) は6層から出土した口縁部片で口唇部が間隔を持って押圧され小さな波状を呈する。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、器面は硬質で光沢がある。接合部割れ口に凹がみられる。図 20-2-14 (15474) は7層から出土した口縁部片で図 20-2-13 と同様の口唇部成形がみられる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、器面は硬質で光沢がある。接合部に凹がみられる。図 20-2-15 (11151) は7層から出土した口縁部片で口唇部は平口縁である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具(絡条体)を斜位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-16 (10075) は7層から出土した口縁部片口唇部に押圧縄文のキザミが施文される。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、接合部に凹がみられる。図 20-2-17 (10839) は7層から出土した口縁部片口唇部に丸棒状具によるキザミが施文される。外面は施文原体1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、接合部に凹がみられる。

以下は胴部片である。図 20-2-18 (10170) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に無文帯をもって施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-19 (11598) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、胎土は粒の大きな砂粒を含んでいる。図 20-2-20 (11080) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を横~斜位に施文、接合による肥厚が見られる。図 20-2-21 (14029) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-22 (10139) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を斜~横位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-23 (22493) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや広く右巻き付けた施文具(絡条体)を横位に無文帯をもって施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に金雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-24 (20929) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Lを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を横~斜位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維等を含んでいる。図 20-2-25 (9672) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を横~斜位に施文、胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-26 (5849) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を斜位に羽状施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。図 20-2-31 (8276) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。接合部の肥厚と割れ口に儀口縁がみられる。図 20-2-27 (12992) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)を斜位に羽状施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。図 20-2-28 (20936) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具(絡条体)を横~斜位に羽状に似る施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-29 (11024) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔密に左巻き付けた施文具(絡条体)を横位に施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-30 (13329) は7層から出土した胴部片で、外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)を斜位に施文、胎土は金雲母を多く含ん

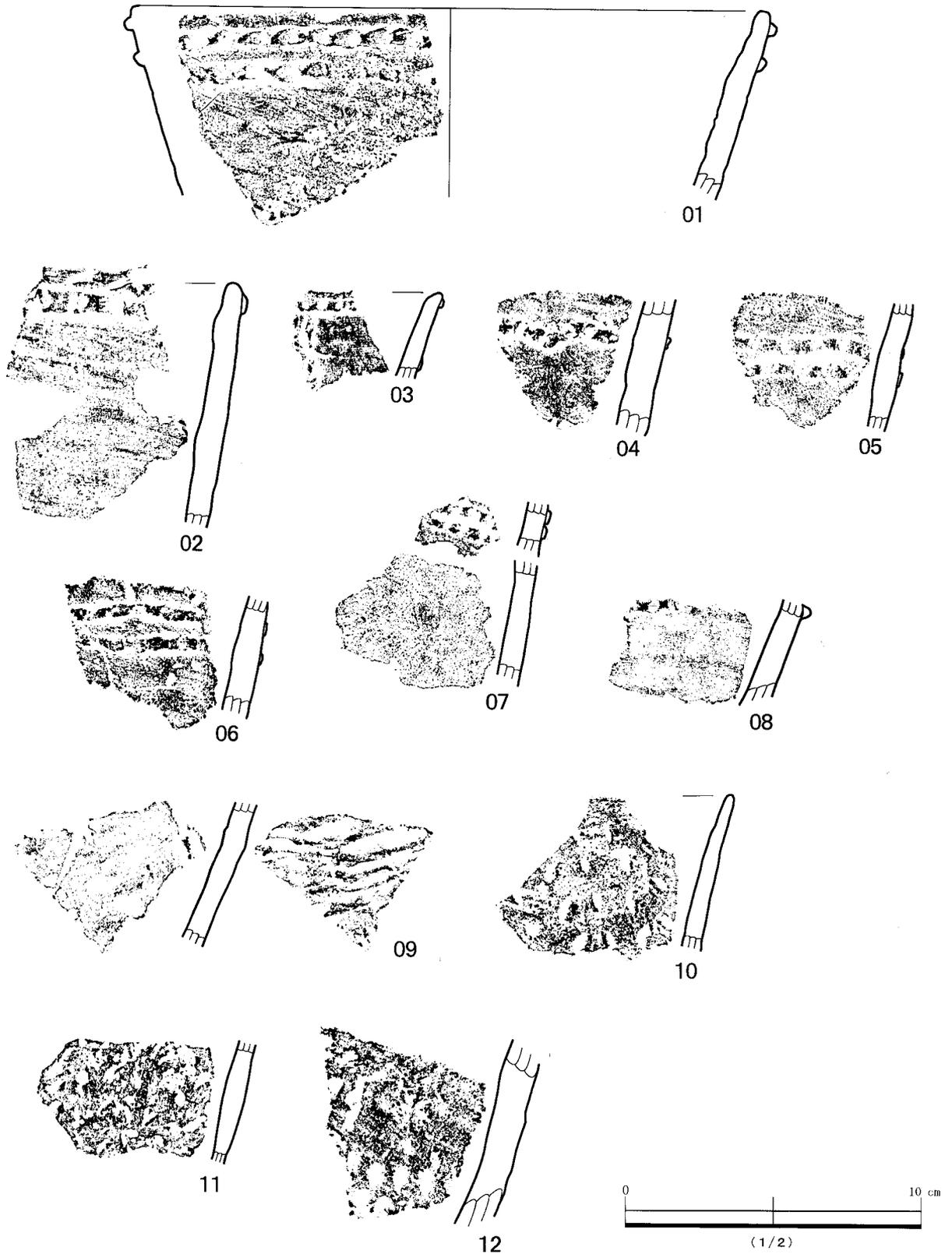


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図①

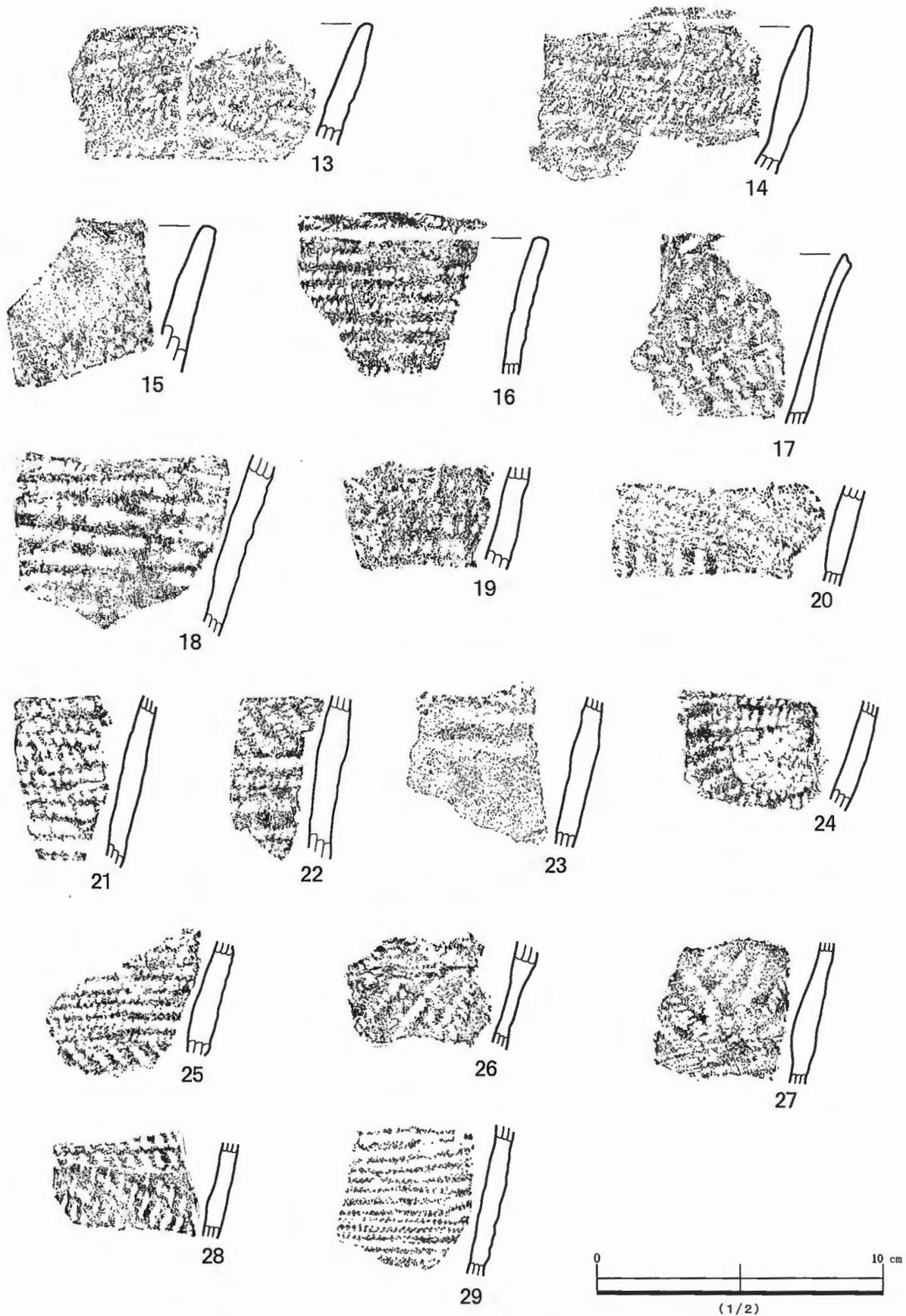


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図②

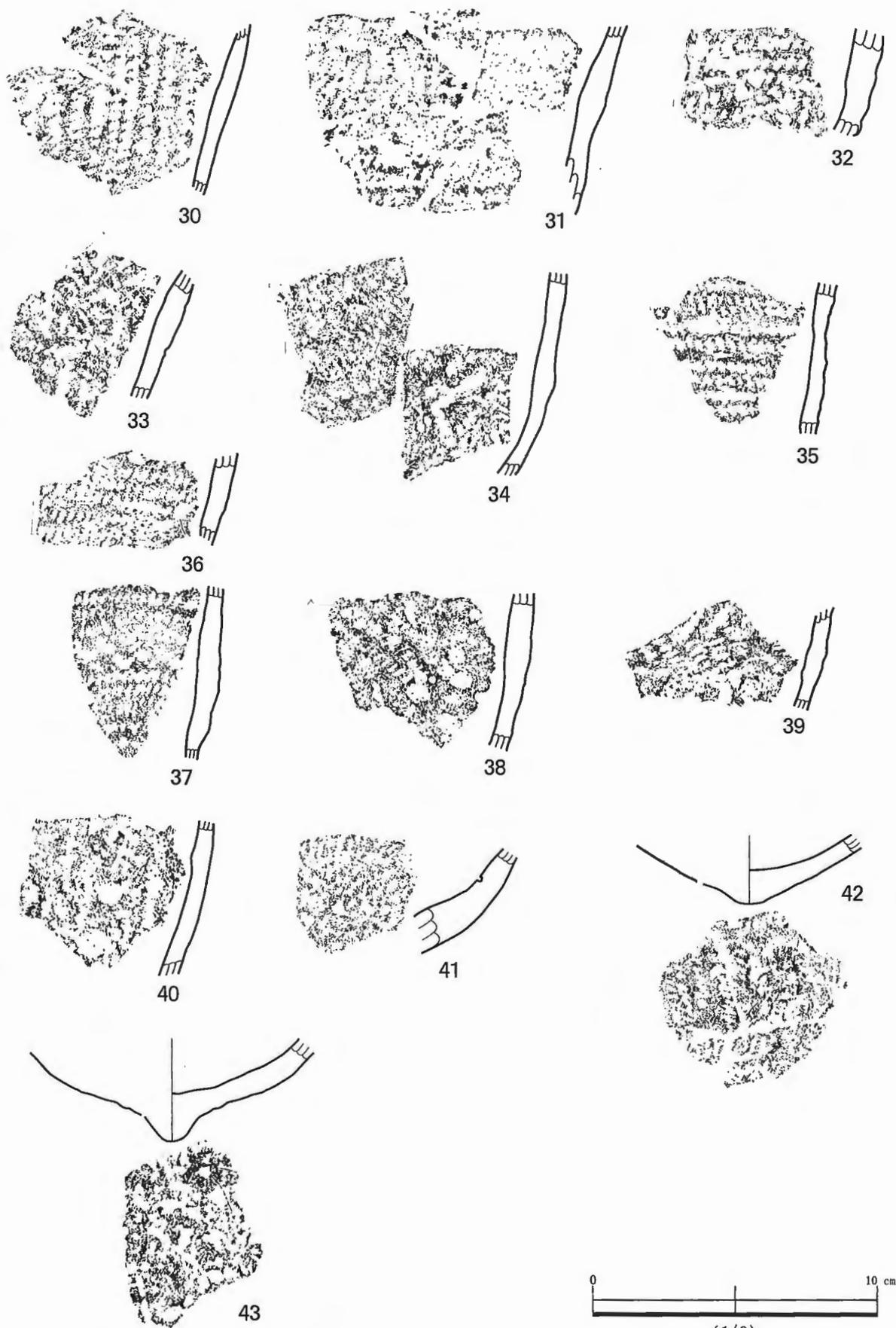


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図③

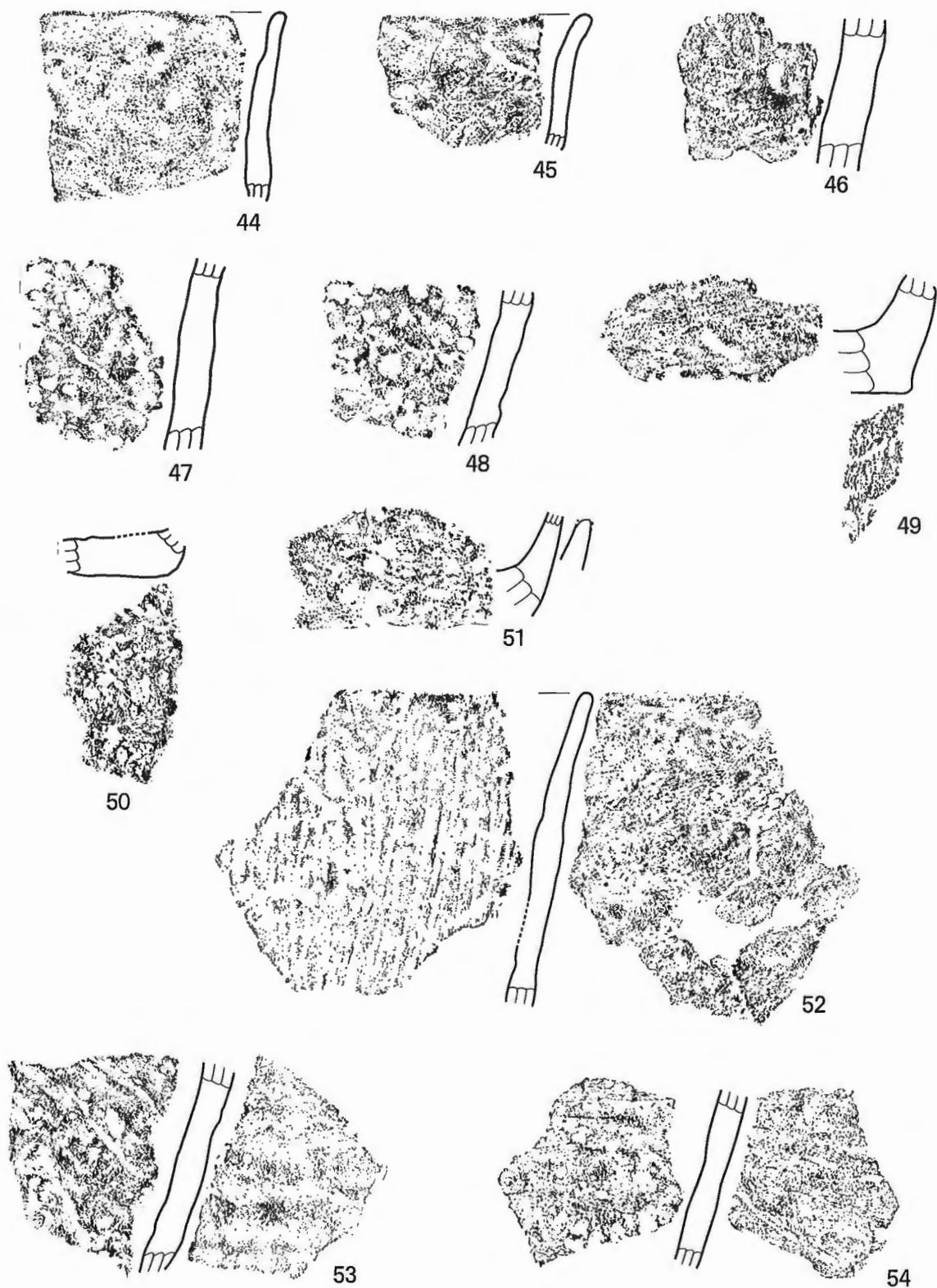


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図④

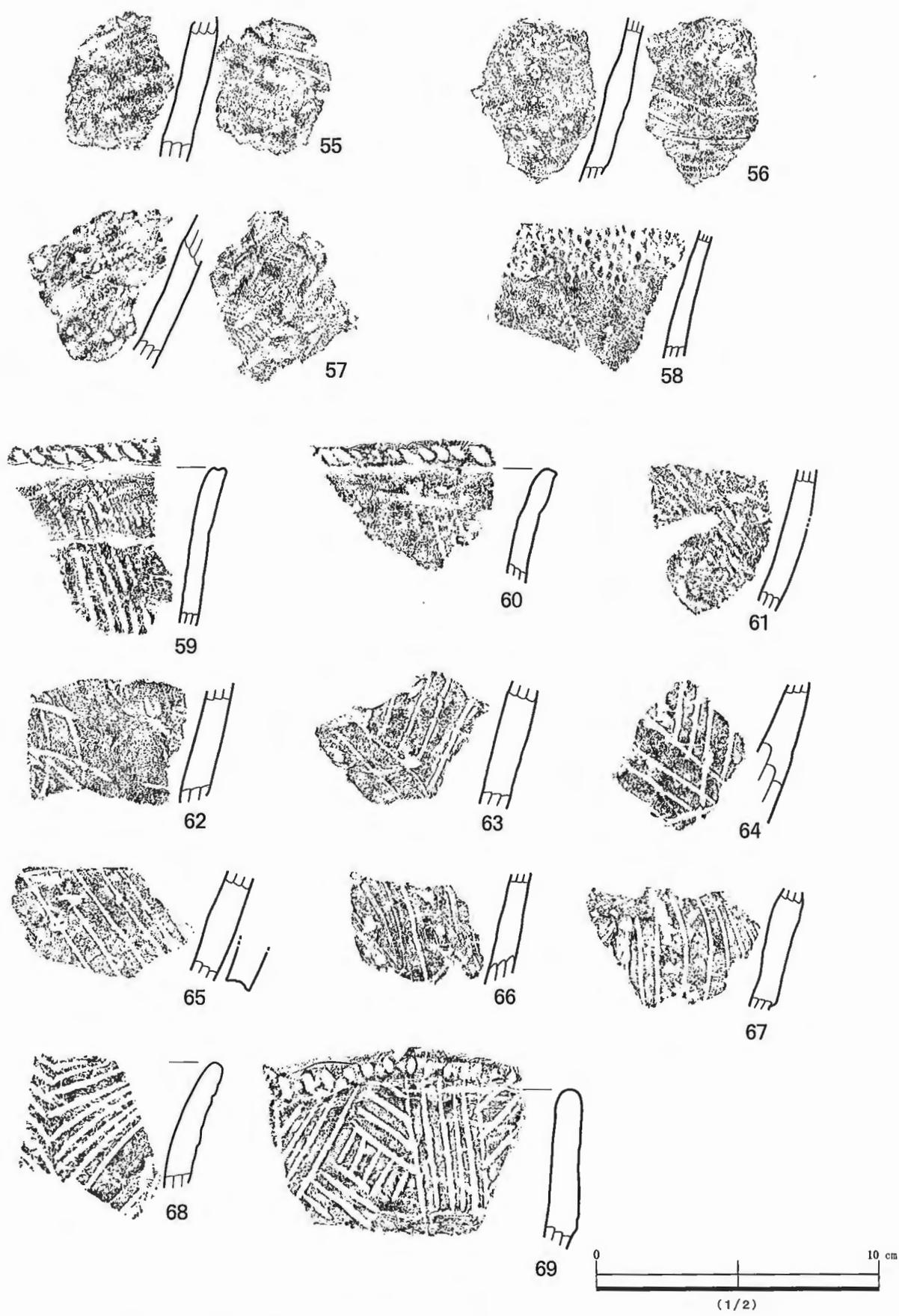


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑤

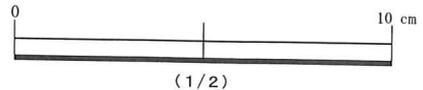
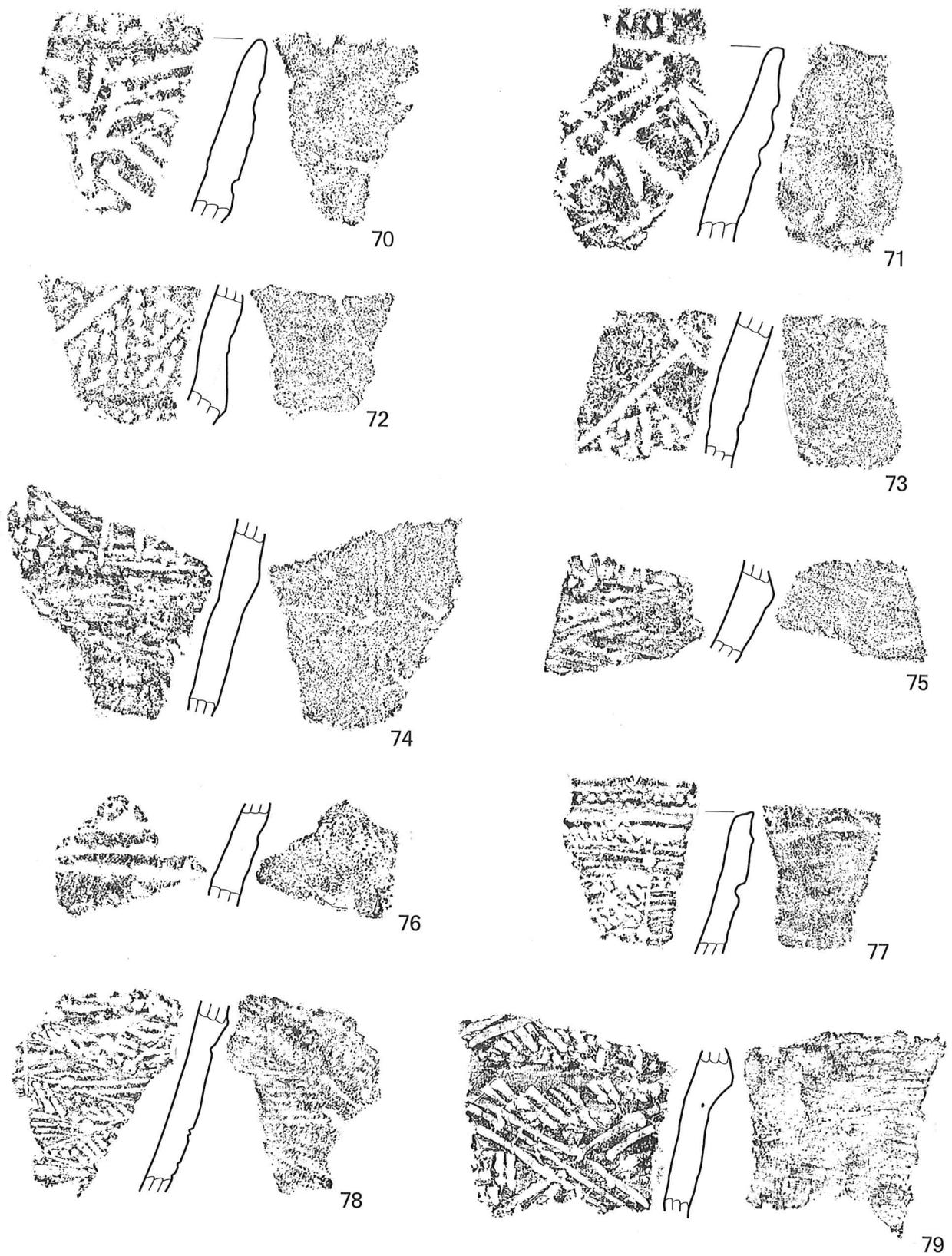


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑥

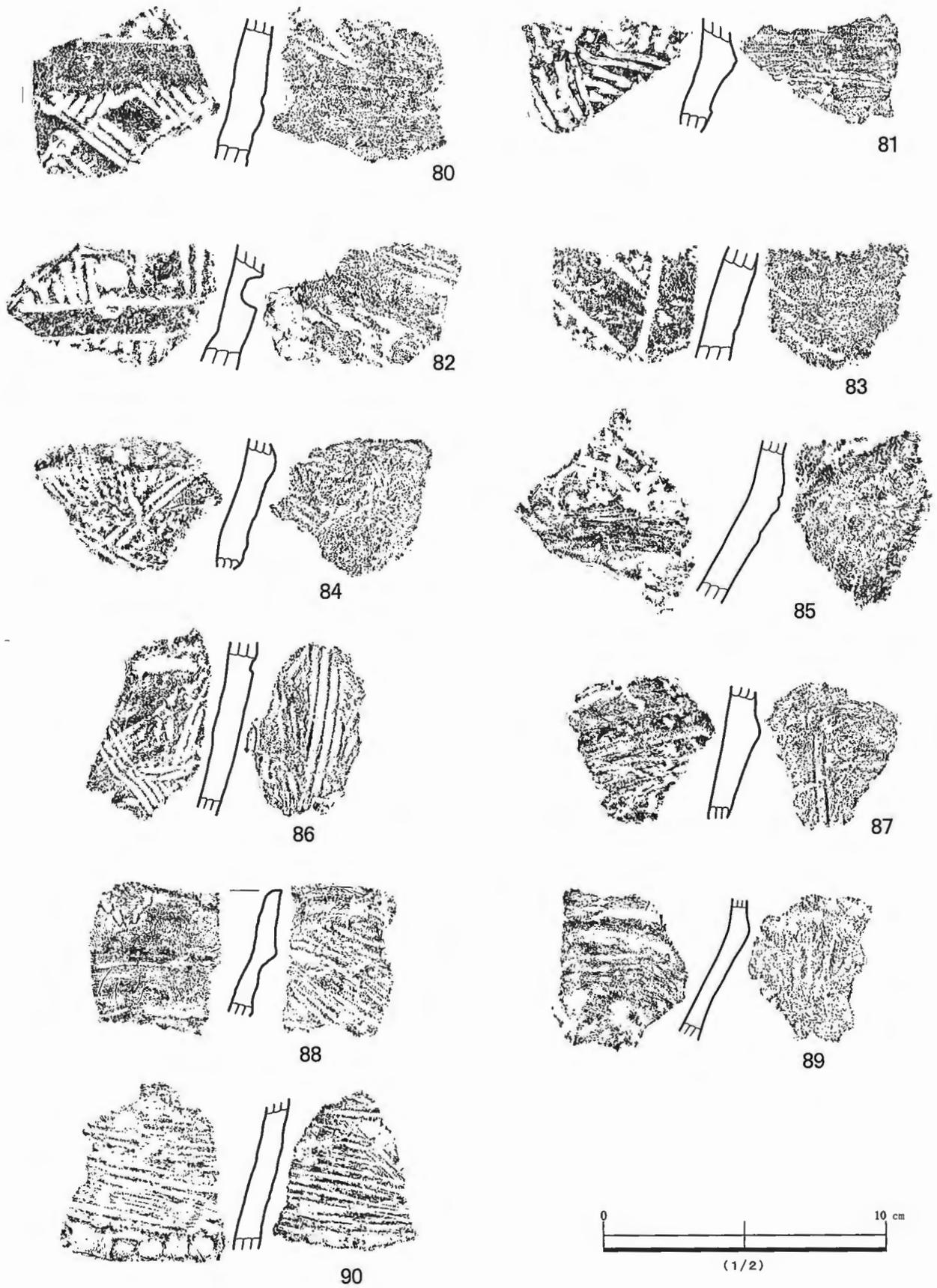
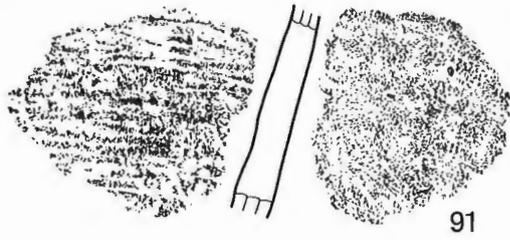
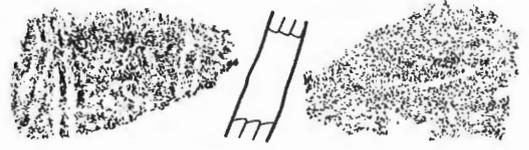


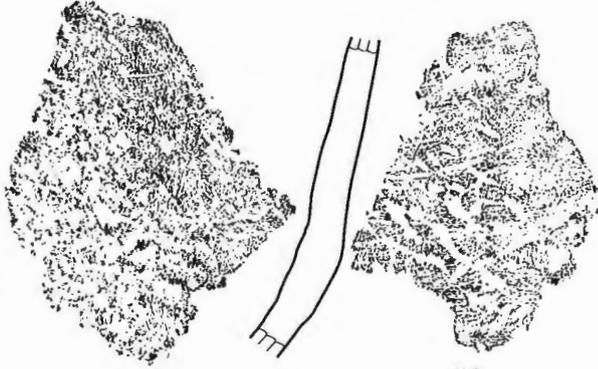
図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑦



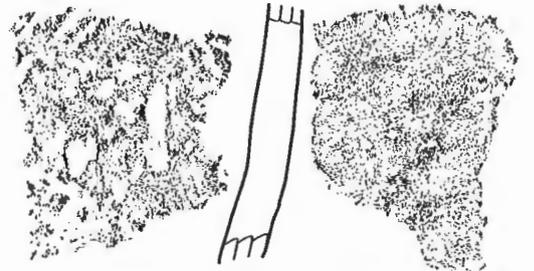
91



92



93



94



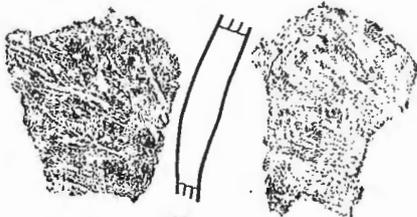
95



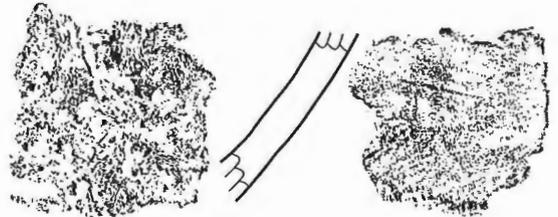
96



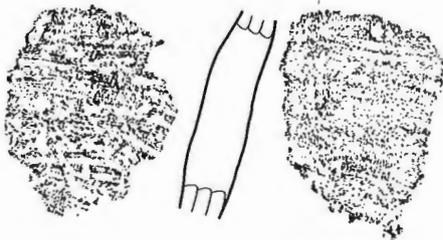
97



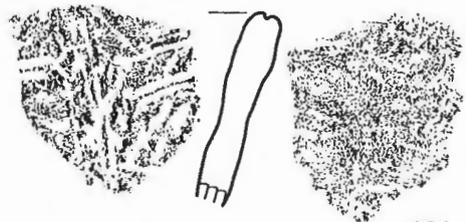
98



99



100



101

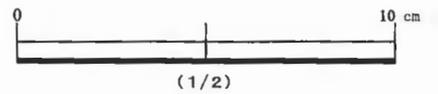


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑧

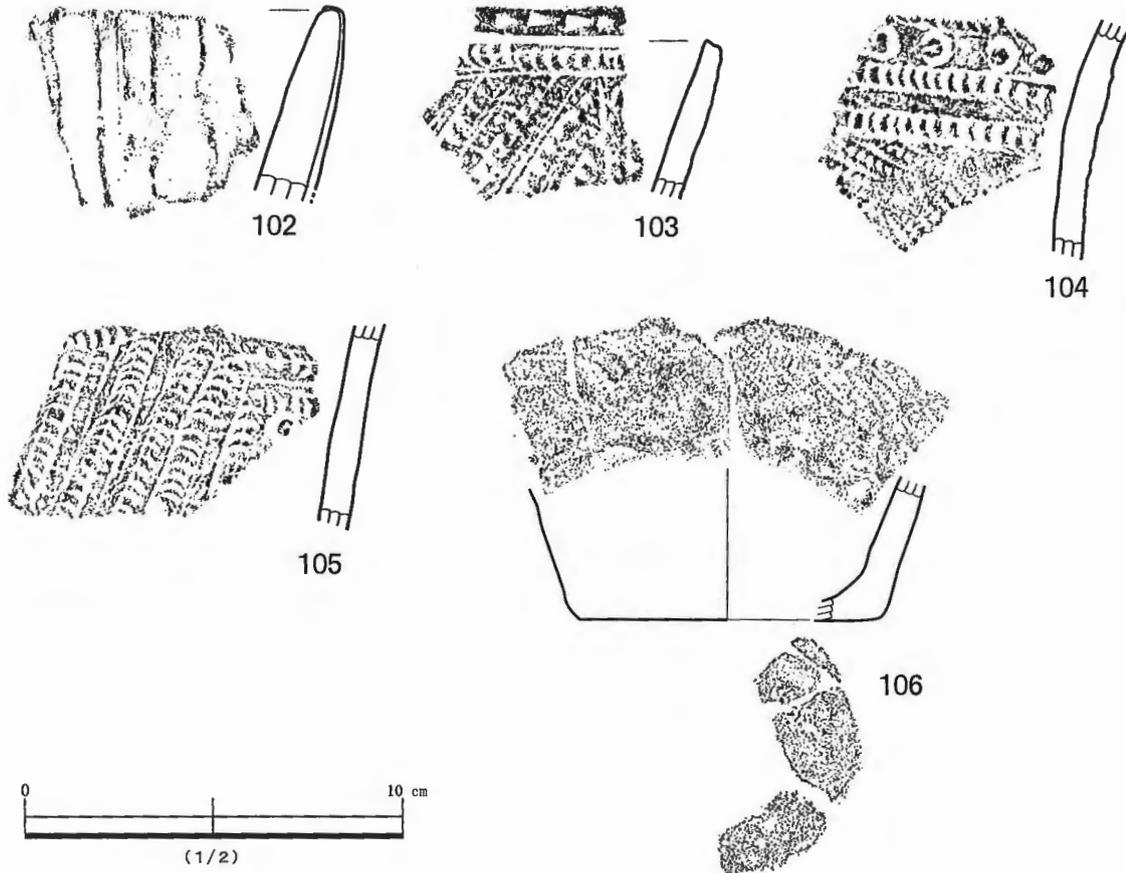


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑨

でいる。図 20-2-32 (13580) はグリッドから出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）を横位に施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。接合部の肥厚と割れ口に儀口縁がみられる。図 20-2-33 (9745) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に羽状施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。図 20-2-34 (10784) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を横位に施文、胎土は金雲母・繊維を含んでいる。接合部の割れ口に儀口縁がみられる。図 20-2-35 (10925) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く右巻き付けた施文具（絡条体）を横位に施文、内面はやや丁寧な調整、色調はやや明るく胎土は雲母・砂粒を含んでいる。接合部の肥厚が僅かにみられる。図 20-2-36 (15359) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に羽状施文、色調はやや明るく胎土は雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-37 (19976) は 7 層から出土した胴部片で内湾気味に立ち上がる。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を横～斜位に 3 施文帯で羽状施文、色調はやや明るく胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-38 (10777) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を浅く間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に施文、胎土は金雲母を含んでいる。接合部の肥厚がみられる。図 20-2-39 (26141) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。接合部の肥厚と段がみられる。図 20-2-40 (11830) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 L を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を縦位に施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。接合部の割れ口に儀口縁がみられる。

以下は尖底部とその付近片である。図 20-2-41 (11007) は 7 層から出土した尖底部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）を多方向に施文、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-42 (11516) は 7 層から出土した尖底部片で、乳房状を呈している。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を多方向に施文、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く、繊維も含んでいる。図 20-2-43 (9383) は 7 層から出土した尖底部片で、乳房状を呈している。外面は施文原体不明瞭な縄 R を施文具（絡条体）に施文、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く、金雲母も含んでいる。

#### 無文土器・条痕文土器

図 20-2-44 (10838) は 7 層から出土した無文土器の口縁部片で、緩やかに外反してやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。内外面ともに指頭痕にヨコナデ調整、色調は暗く胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。押圧縄文土器の器面に似る。図 20-2-45 (8757) は 7 層から出土した無文土器の口縁部片で、緩やかに「S」字状に立ち上がり口唇部をやや強く外反させて丸く仕上げている。内外面ともに指頭痕にヨコナデ調整に擦痕、色調は暗く胎土は粒の大きな砂粒が多く、繊維を含んでいる。図 20-2-46 (8129) は 7 層から出土した無文土器の胴部片で、直線的に立ち上がる。内外面ともに指頭痕にナデ調整に擦痕、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を含んでいる。器厚は 13 mm と厚手である。図 20-2-47 (9676) は 7 層から出土した無文土器の胴部片で、直線的に立ち上がる。内外面ともに指頭痕にやや丁寧なナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を含んでいる。器厚は 13 mm と厚手である。図 20-2-48 (9300) は 7 層から出土した無文土器の胴部片で、僅かに内湾気味に立ち上がる。内外面ともに指頭痕にナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒に繊維を含んでいる。

図 20-2-49 (10000) は 7 層から出土した無文土器の底部片で平底である。内外面ともに指頭痕にナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-50 (8640) は 7 層から出土した無文土器の底部片で平底である。外面はナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-51 (8753) は 7 層から出土した無文土器の小形品で平底からほぼ直線的に開いて立ち上がり口唇部を細く尖らせている。外面は指頭痕にナデ調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。極めて小形であることから祭祀用と推定される。

図 20-2-52 (12434) は 7 層から出土した条痕文系土器の口縁部片で、緩やかに外反してやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は縦位に沈線状の条痕調整、色調は暗く胎土は金雲母を多く含んでいる。押圧縄文土器の器面に似る。図 20-2-53 (7643) は 7 層から出土した条痕文系土器の胴部片で、内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は斜位にヘラ状具による条痕調整、色調はやや明るく胎土は砂粒を多く含んでいる。図 20-2-54 (11481) は 7 層から出土した条痕文系土器の胴部片で、外反気味にやや開いて立ち上がる。外面は横位にヘラ状具による条痕調整、色調はやや暗く胎土は砂粒を多く含んでいる。図 20-2-55 (9603)・56 (17370)・57 (7820) は 7 層から出土した条痕文系土器の胴部片で、同一個体であるが未接合である。ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。内面は指頭痕にヨコナデ、棒状・ヘラ状具による条痕調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。隆線文土器に似る。

#### 縄文時代早期

##### 押型文土器

図 20-2-58 (2067) は 6 層から出土した胴部片である。外面にはやや小さい楕円押型文が施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。細久保式土器型式に並行するものである。

##### 撚糸文土器

図 20-2-59 (8574)・60 (2585) は 7・6 層から出土した口縁部片で、同一個体であるが未接合である。口唇部は丸棒状具による連続キザミ、外面は原体 L の斜位撚糸文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・金雲母・長石・繊維を含んでいる。図 20-2-61 (6779) は 6 層から出土した胴部片である。外面は原体 L の斜位撚糸文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・金雲母・長石・繊維を含んでいる。図 20-2-62 (7923) は 7 層から出土した胴部片である。外面は幾何学的な撚糸文が施文される。

#### 沈線文系土器

第 7 群沈線文が施文される土器である。図 20-2-63 (13552)・64 (4892)・65 (5981) は 7・6 層から出土した胴部片である。外面はヘラ状具による横～斜の沈線文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-66 (7406) は 6 層から出土した口縁部片で口唇部は丸棒状具によるキザミ、外面はヘラ状具による綾杉状沈線文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-67 (13553) は 6 層から出土した胴部片である。外面はヘラ状具による縦位沈線文間に角棒状具・竹管文具による刺突文・押し引き文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-68 (7237) は胴部片で幾何学的な綾杉文が施文される。

図 20-2-69 (6404) は口縁部片で直立して立ち上がり口唇部を丸く仕上げ、連続的なキザミを施文している。外面は幾何学的な沈線文が施文される。野島式に平行するものである。

#### 条痕文系土器

図 20-2-70 (1921)・71 (17797) は同一個体と推定される口縁部片で口唇部はヘラ状具によるキザミ、外面は連続押引文による幾何学文様が施される。硬質で胎土に粒の大きな砂粒・雲母・繊維が目立つもので、厚手である。図 20-2-81・82・83 (20945・17830・2977) は胴部片で、外面は連続押引文や沈線文による幾何学文様が施文、内外面に条痕文調整が施される。硬質で胎土に粒の大きな砂粒・雲母・繊維が目立つもので、厚手である。図 20-2-72 (3699)・73 (4124)・74 (5996)・75 (5997)・76 (6264) は胴部片で、外面は沈線文による区画内に連続押引文を充填施文、内は条痕文か指頭痕にヨコナデ調整が施される。硬質で胎土に粒の大きな砂粒、金雲母か雲母、繊維が目立つもので厚手である。

図 20-2-77 (2773) は 6 層から出土した口縁部片で、口唇部に竹管文具による細かな連続のキザミが施文、外面は地文として条痕文調整に沈線文と連結部に竹管文具による円形刺突文・押し引き状刺突文や細い粘土紐による隆線文が施文される。内面はやや丁寧なヨコナデ調整が施される。胎土は砂粒・雲母・繊維が含まれる。図 20-2-78 (5033) は 6 層から出土した胴部片で、外面に段を有するもので外面・内面に地文として条痕文調整が施されるものである。図 20-2-79 (20945)・80 (17860)・81 (17830)・82 (17843)・83 (13446)・84 (3650)・85 (2977) は胴部片で段を有するもので、外面の文様は浅く幅広い襷沈線文や竹管文具による沈線文によって幾何学文様が施文されるものである。84 (3650) は器面が明るく胎土に繊維が目立つものであるが、他は器面の色調は全体にやや暗く胎土に砂粒・雲母が目立つものでやや厚手である。鶴ヶ島台式土器に平行するものである。

図 20-2-86 (4103) は外面に竹管文具による沈線文によって幾何学文様が施文されるものである。器面が明るく胎土に繊維が目立つものである。図 20-2-87 (5946) は外面に竹管文具による沈線文によって幾何学文様が施文されるものである。器面が明るく胎土に繊維が目立つものである。

図 20-2-88 (2758) は内外面に条痕文調整が行われる口縁部片で段を有するものである。図 20-2-89 (5038)・90 (2775)・91 (2781)・92 (2154)・93 (7600)・94 (11255)・95 (3573)・96 (4927)・

97 (3453)・98 (5567)・99 (5352)・100 (5270)・101 (4093) は内外面に条痕文調整が行われる胴部片である。いずれも胎土に粒に大きな砂粒と繊維を多く含んでいる。

図 20-2-102 (5431) は口縁部片でやや開いて立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。外面は縦位の半隆起状の隆帯が連続して施文される。

## 縄文時代前期

図 20-2-103 (17796) は竹管文系土器の口縁部片でほぼ直線的にやや開いて立ち上がり、口唇部を平坦に仕上げている。外面は半裁竹管状具による平行沈線文と連続爪形文が施文される。内面は丁寧なナデ調整がほどこされる。図 20-2-104 (17805)・105 (9694) は同じく竹管文系土器の胴部片である。図 20-2-106 (9696) は同じく竹管文系土器の平底部片である。共通して胎土は金雲母を多く含み、硬質である。

## 縄文時代

### 石器

#### 7層

#### 尖頭器

図 20-4-01 (14190) は黒曜石製の尖頭器で尖頭部と基部が僅かに欠損しているほぼ完形品である。両面加工の中型の木葉形で断面形態は凸レンズ状を呈している。図 20-4-02 (21197)・03 (11881)・09 (8520) は尖頭部あるいは基部のみが残存する尖頭器である。ともに推定で 10 cm を超える大型の製品と推定される。両面加工でソフトハンマーにより直接打撃で形成されている。

#### 石鏃

図 20-4-04 (9702) は黒曜石製の石鏃のほぼ完形品で、基部の挟りが深く側縁外湾する鋏形鏃である。押圧剥離は貝殻状の剥離面である。

#### 両極石器（楔形石器）

図 20-4-05 (6133) は黒曜石製の両極石器で、縦長剥片を加工した篋状石器を挟み撃ちにして形成したものである。左側縁には急角度の押圧剥離による刃部が残されている。

#### 石匙

図 20-4-06 (9426) は縦形石匙の未成品であると思われる。自然面と素材面を多く残し、基部に近い両側縁に挟りにより挟入状剥離成形が認められることから石匙としたが、不定形な部分を残すことから未成品とした。図 20-4-07 (16982) は横形石匙の小型完形品である。丁寧な両面加工によって形成されている。

#### スクレイパー

図 20-4-08 (7685)・10 (12298) は不定形な鋸歯縁削器である。08 (7685) は頁岩製の縦折を生じた縦長剥片の側辺に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成しているものである。図 20-4-11 (12984) もやや不定形な鋸歯縁削器あるいは搔器である。基部以外は左側縁に急角度の鋸歯状刃部が成形される。図 20-4-12 (8670) は黒曜石製の搔器あるいは篋状石器の破損品と考えられる。両面加工体が素材として、刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で形成している。図 20-4-13 (9604) は黒曜石製の搔器で、両端に刃部をもつ両刃ものである。刃部は直接打撃によって成形されている。素材は両面加工体で、素材には平坦剥離の加工がみられる。図 20-4-14 (8750) は黒曜石製の楕円形に成形された搔器である。刃部は急角度の押圧剥離によって成形される。図 20-4-15 (18848) は黒曜石製の搔器で、素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で急角度の片刃に成形されている。図 20-4-16 (16992) は黒曜石製の欠損品の石器である。凸レンズ状の断面形態や両面加工から尖頭器の可能性が考えられるものである。右側縁に挟入状剥離面がある。

#### 石錐

図 20-4-17 (7277) はチャート製の石錐である。両側縁を押圧剥離により挟るように先端部を細く尖らせている。

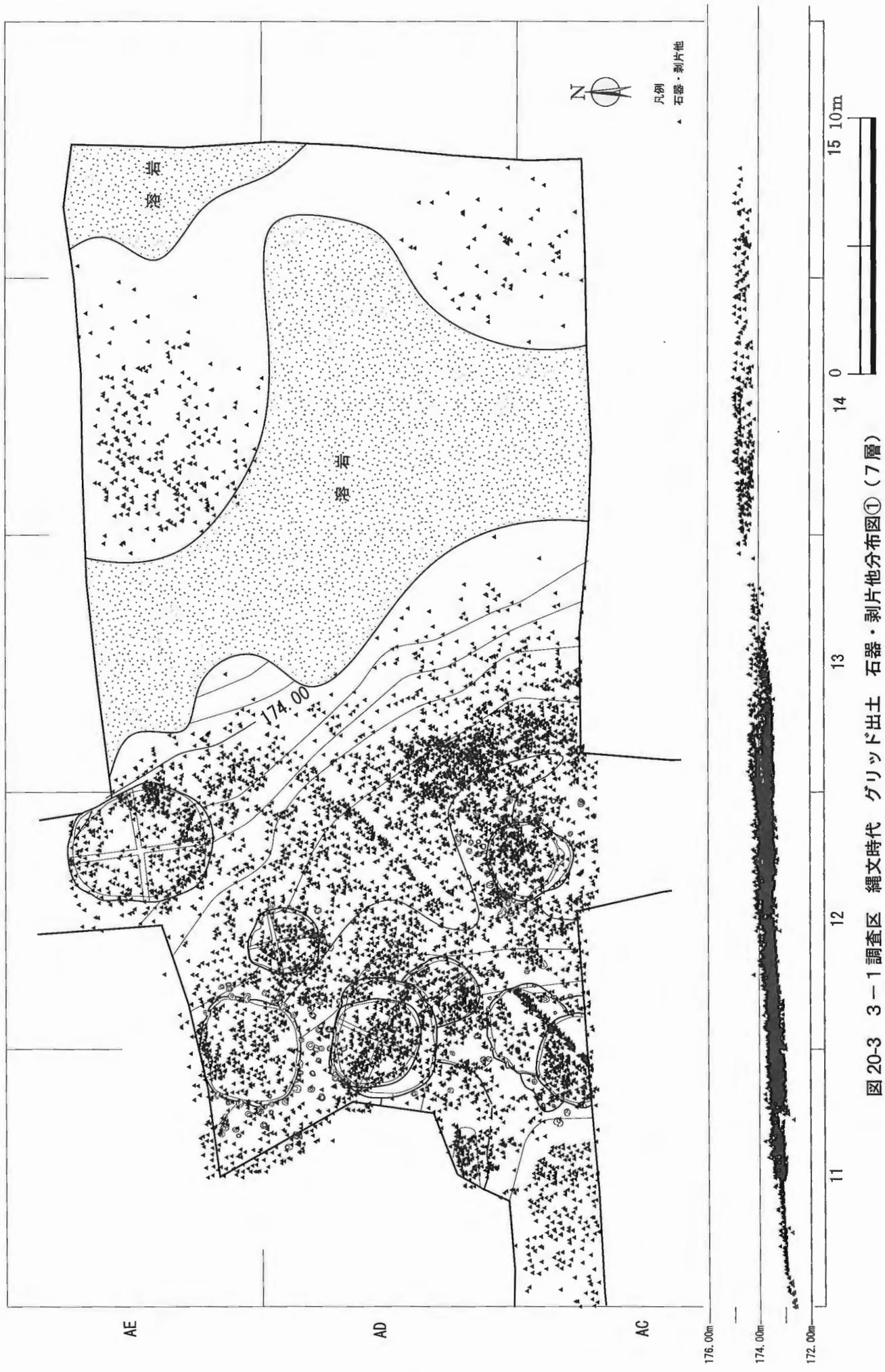


図 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図① (7層)

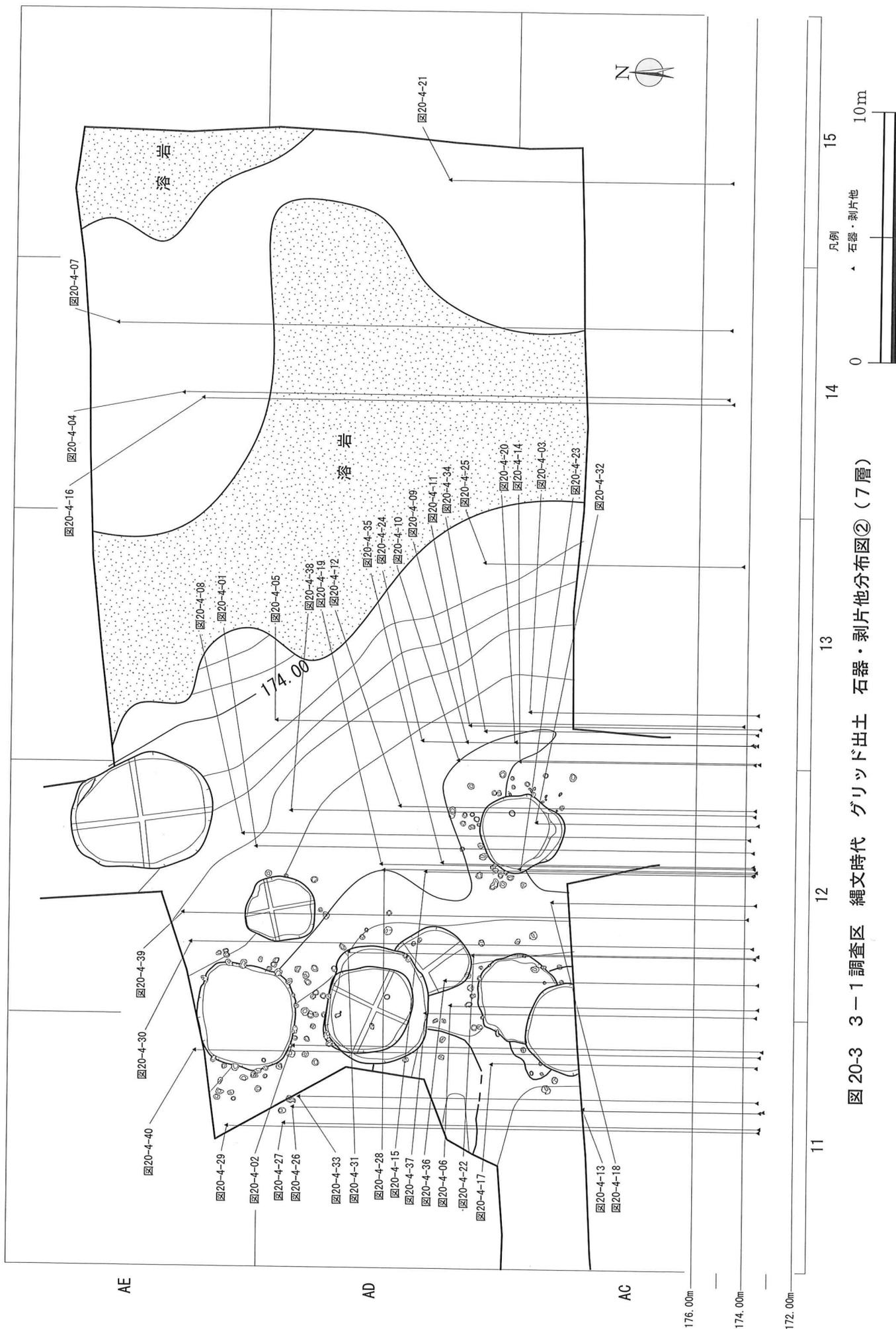


図 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図② (7層)

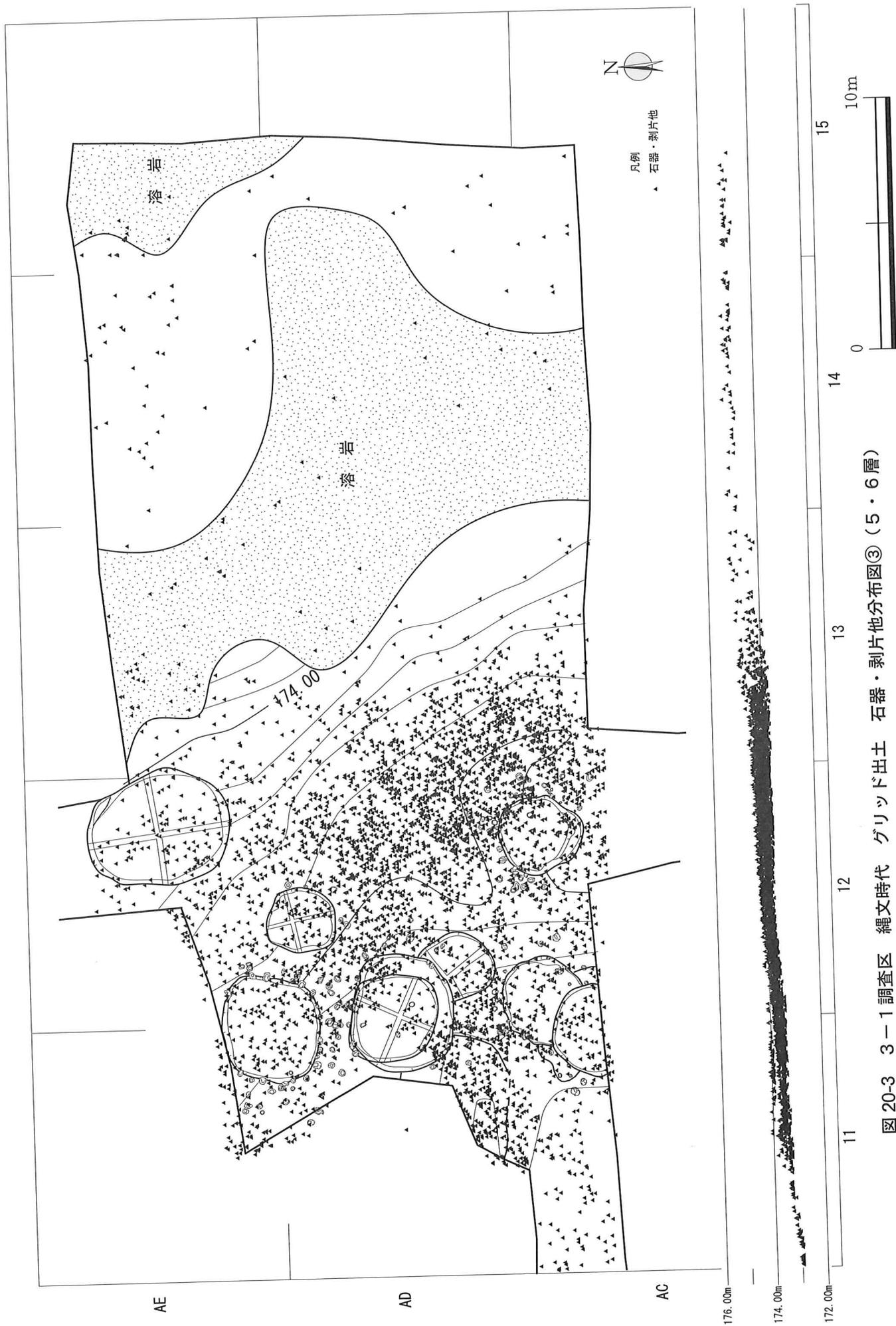


図 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図③ (5・6層)

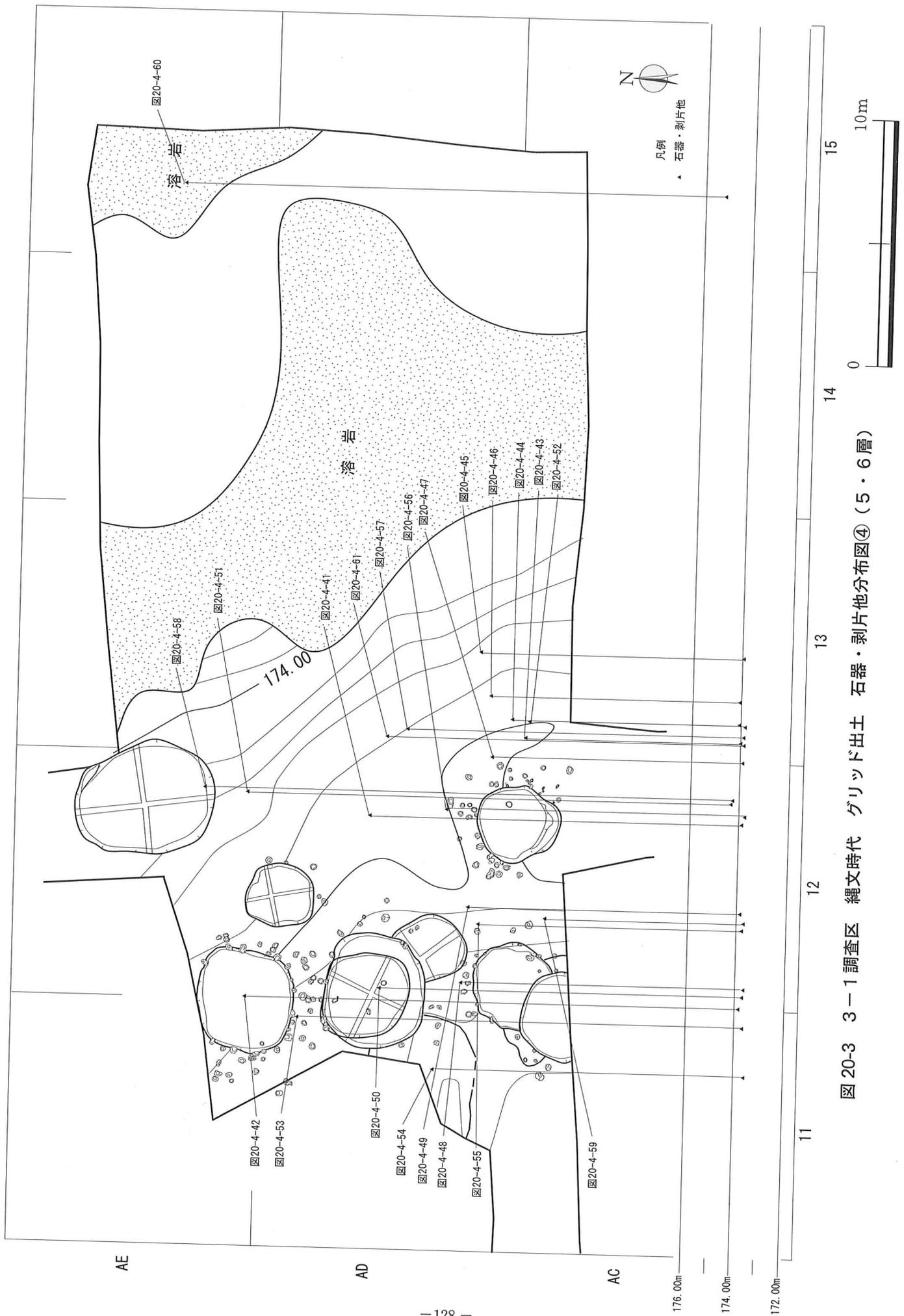


图 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布图④ (5・6層)

## 篋状石器

図 20-4-18 (10983) 黒曜石製の尖頭器状の平面形態を呈する篋状石器・搔器である。断面形態は厚みのある凸レンズ状を呈している。木葉形尖頭器の身上半を利用したと考えられる形態と調整加工が認められる。図 20-4-19 (7872) は黒曜石製の尖頭器から篋状石器・搔器として再利用されたものと考えられるものである。図 20-4-20 (12421) は黒曜石製の篋状石器・搔器である。素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で急角度の片刃に成形されている。これらの石器はいずれも尖頭器からの調整加工・リダクションによって成形された石器と考えられるもので、18 (10983) は尖頭部、19 (7872)・20 (12421) は基部のリダクションと考えられる。

## 打製石斧

図 20-4-21 (17857) は砂岩製の打製石斧である。平面形態は短冊形を呈し、両側縁に刃潰しのあるものである。図 20-4-22 (8916) はホルンフェルス製の両面加工石器の未製品である。平面形態は撥形を呈し、横長剥片を素材にして、ソフトハンマーの直接打撃で平坦加工を形成している。素材の裏面側の加工で終了していることから、未製品とした。

## 敲・凹・磨石

平面・断面形態から大きく円形・楕円形・丸棒形・球形に分類することができる。図 20-4-23 (10904) は楕円形敲・磨石の複合石器、図 20-4-24 (8535)・26 (13061) は円形に近い敲・凹・磨石の複合石器、図 20-4-25 (12008) は円形の半割形敲・凹・磨石の複合石器でスタンプ形石器に似るものである。図 20-4-27 (13484)・30 (13865)・31 (10641) は丸棒形敲・凹・磨石の複合石器、図 20-4-28 (7874) は楕円形敲・凹・磨石の複合石器、図 20-4-29 (8351) は丸棒形に近い敲・凹石の複合石器である。長径の法量はいずれも約 10～12 cm を測り手に持って使用することに適したものとなっている。

以下はいずれも磨石で、図 20-4-32 (10695) は円形、図 20-4-33 (13068)・34 (9896)・36 (12233) は楕円形、図 20-4-35 (10020)・37 (9439)・38 (14184)・39 (8042) は丸棒形に近いものである。長径の法量は約 7～11 cm を測り、敲・凹・磨石の複合石器に比較してやや小形である。

## 有溝砥石（矢柄研磨器）

図 20-4-40 (14585) は砂岩製の矢柄研磨器の破片で出土時には脆弱、全体は細身の蒲鉾形で断面形態が半円形を呈し、平坦面には断面形態が半円形に近い凹みが中央に直線的にある。2号竪穴状遺構のものも含めて4地点から出土しているがいずれも小破片で、同一個体と推定される。

## 6層

### 石鏃

図 20-4-41 (6257)・42 (3439) は黒曜石製の石鏃で、41 (6257) は平面形態は基部が無基で二等辺三角形のいわゆる三角鏃である。42 (3439) は断面形態が凸レンズ状の全長が約 4.3 cm と大形品で基部が僅かに挟まれる点と欠損部分を摘みとすると、両面加工石器の横形石匙の可能性のあるものである。図 20-4-43 (5184) は凝灰岩製の石鏃で平面形態は基部がやや深く挟まれる凹基、側縁が外湾することから鋏形鏃に近い形態である。側縁の調整加工は鋸歯状、剥離面は規則的な四角形となる。図 20-4-44 (5105) も凝灰岩製の石鏃で平面形態は二等辺三角形の基部が深く挟まれる凹基で側縁の調整加工は鋸歯状となる。図 20-4-45 (7351) は黒曜石製の石鏃で 44 (5105) と平面形態や調整加工は同様である。図 20-4-46 (6305) は小形で、平面形態が正三角形に近く基部の挟りが浅い凹基である。図 20-4-47 (6311) も平面形態はやや左右非対称な正三角形に近く基部は浅い凹基である。図 20-4-48 (4799) は平面形態が左右非対称で基部の挟りがやや深い凹基である。図 20-4-49 (4220) は平面形態が二等辺三角形で基部の挟りの深い凹基である。46～49 はホルンフェルス製で調整加工は不明瞭である。図 20-4-50 (4023) はチャー

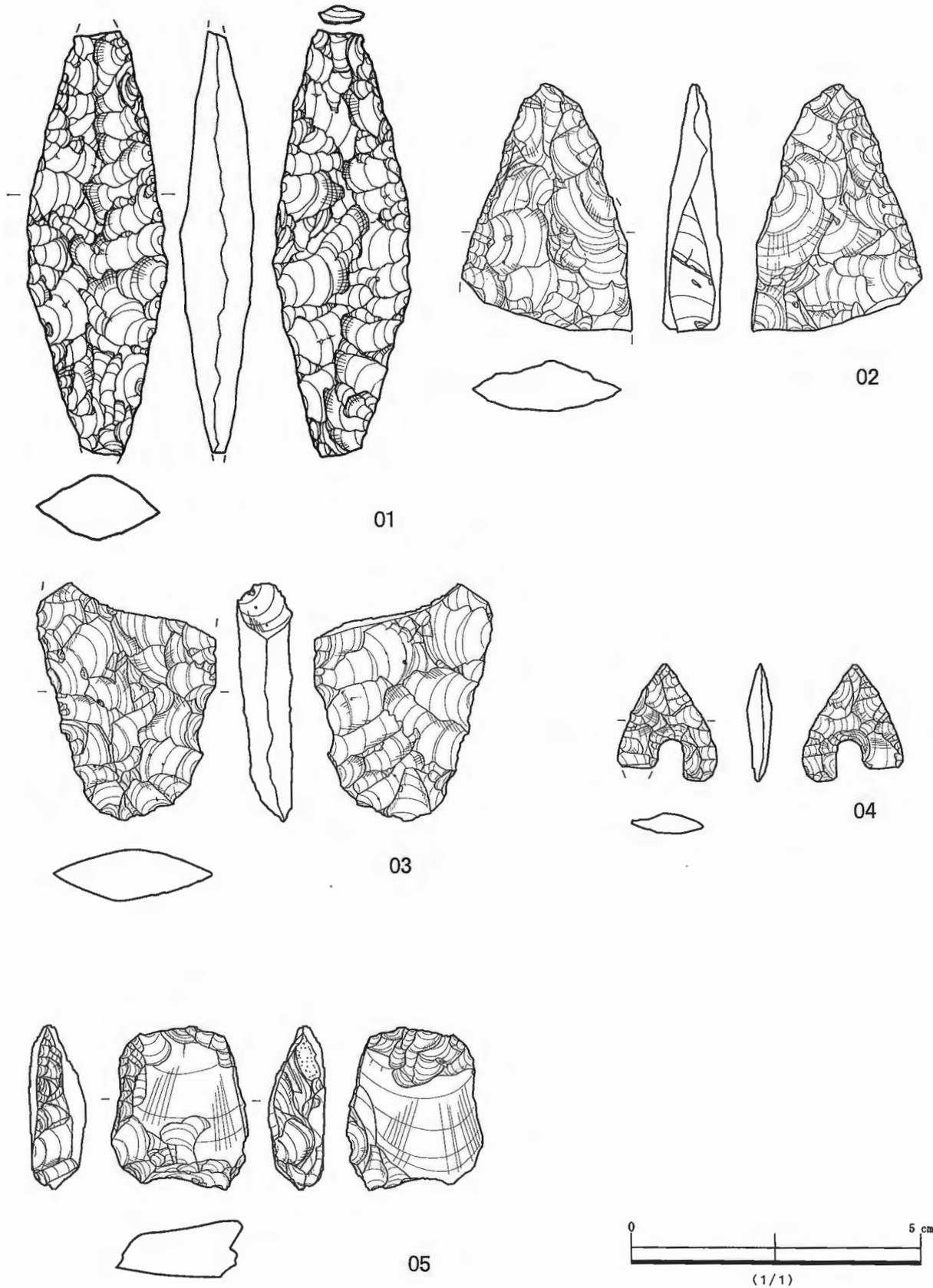


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図①

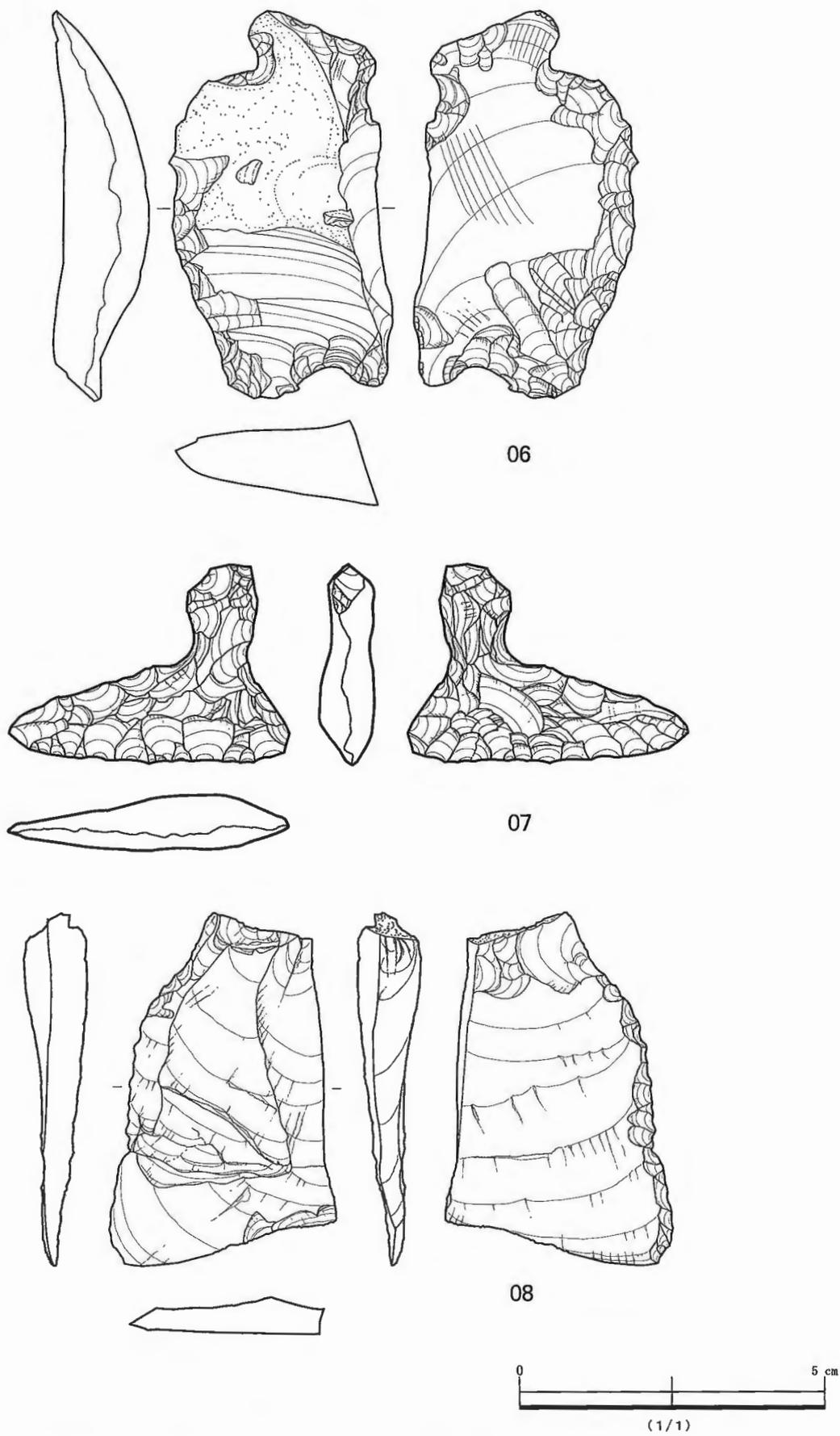
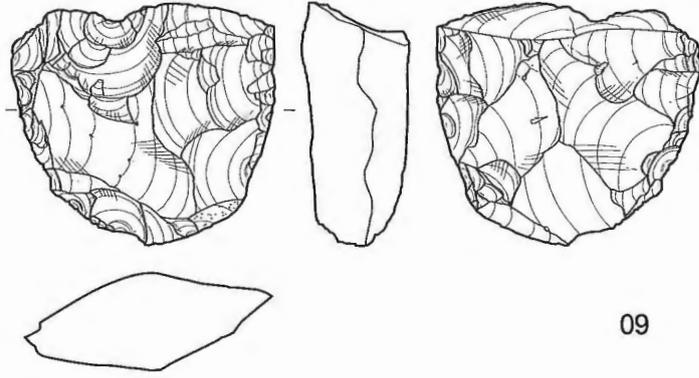
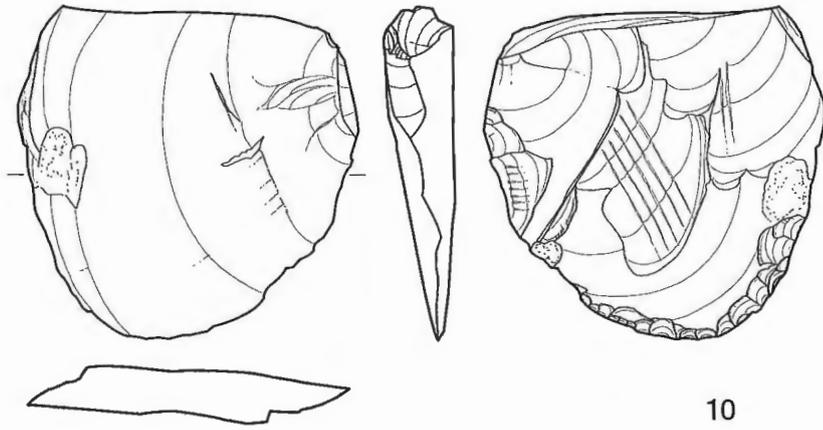


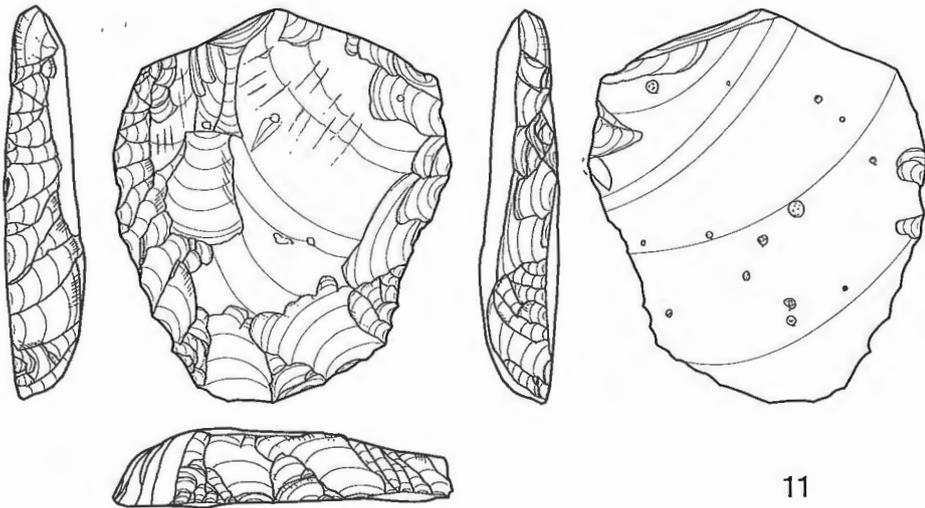
図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図②



09



10



11

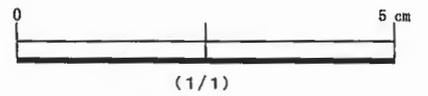


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図③

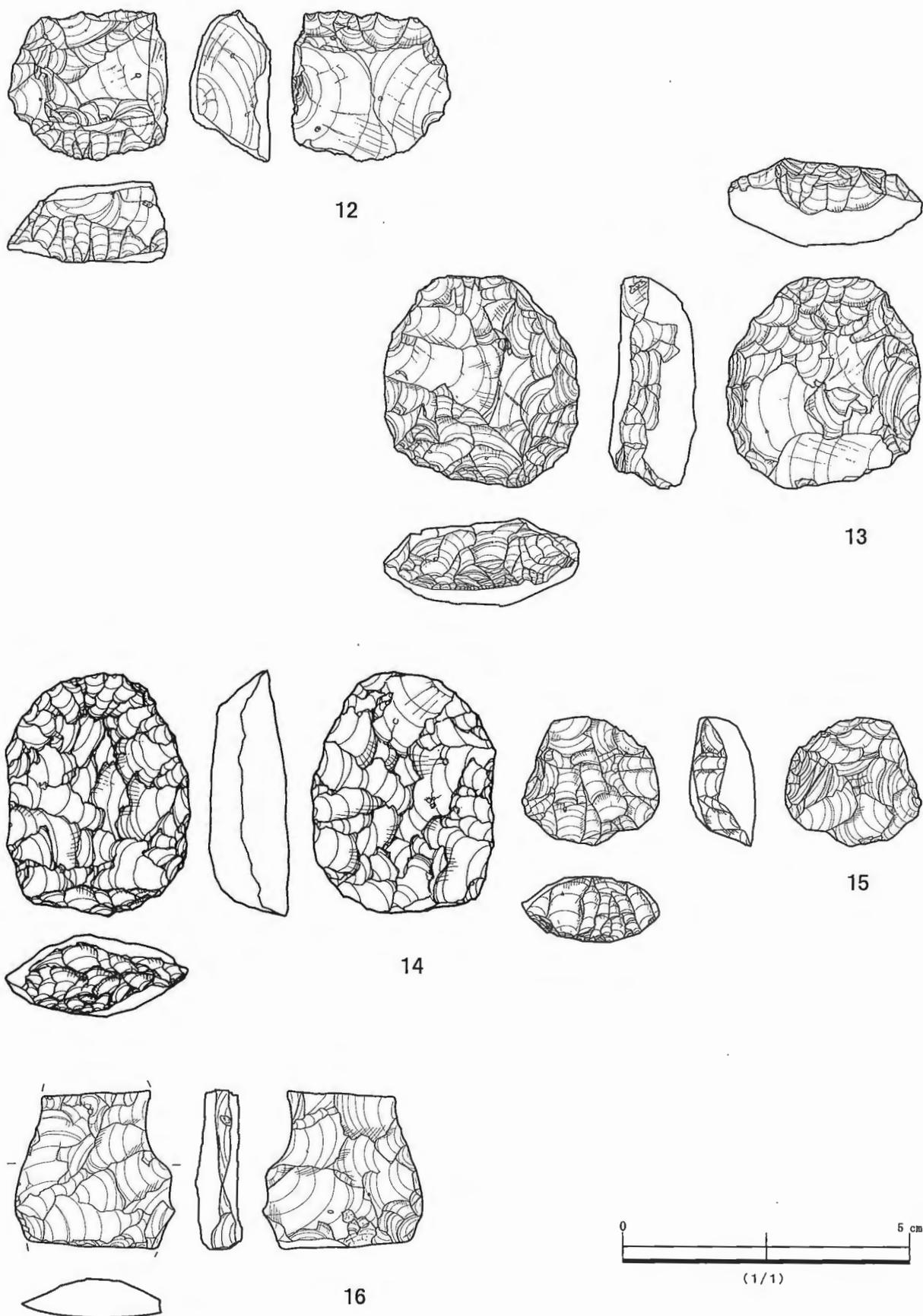
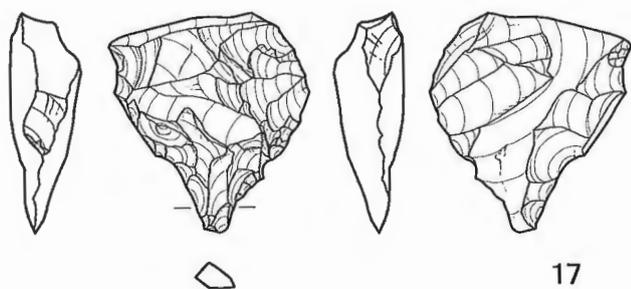
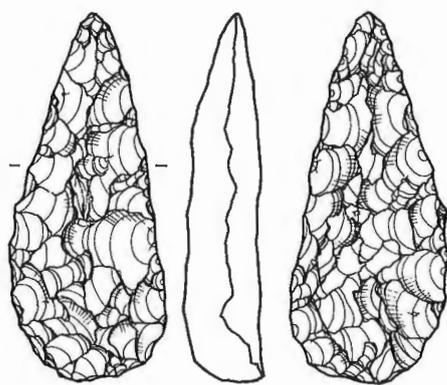


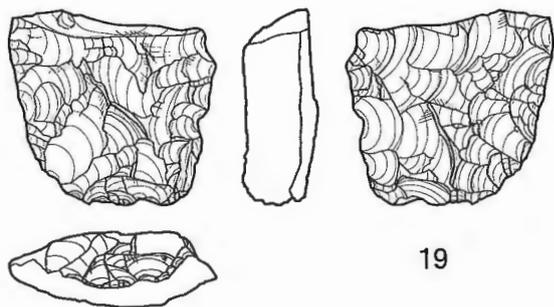
図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図④



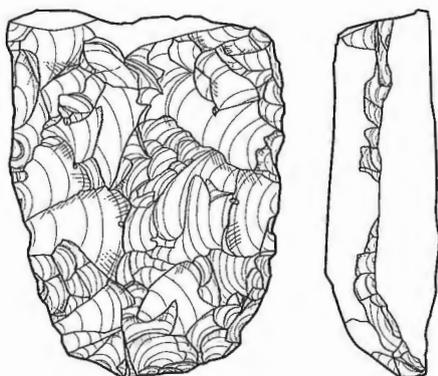
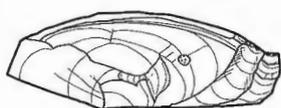
17



18



19



20



(1/1)

図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑤

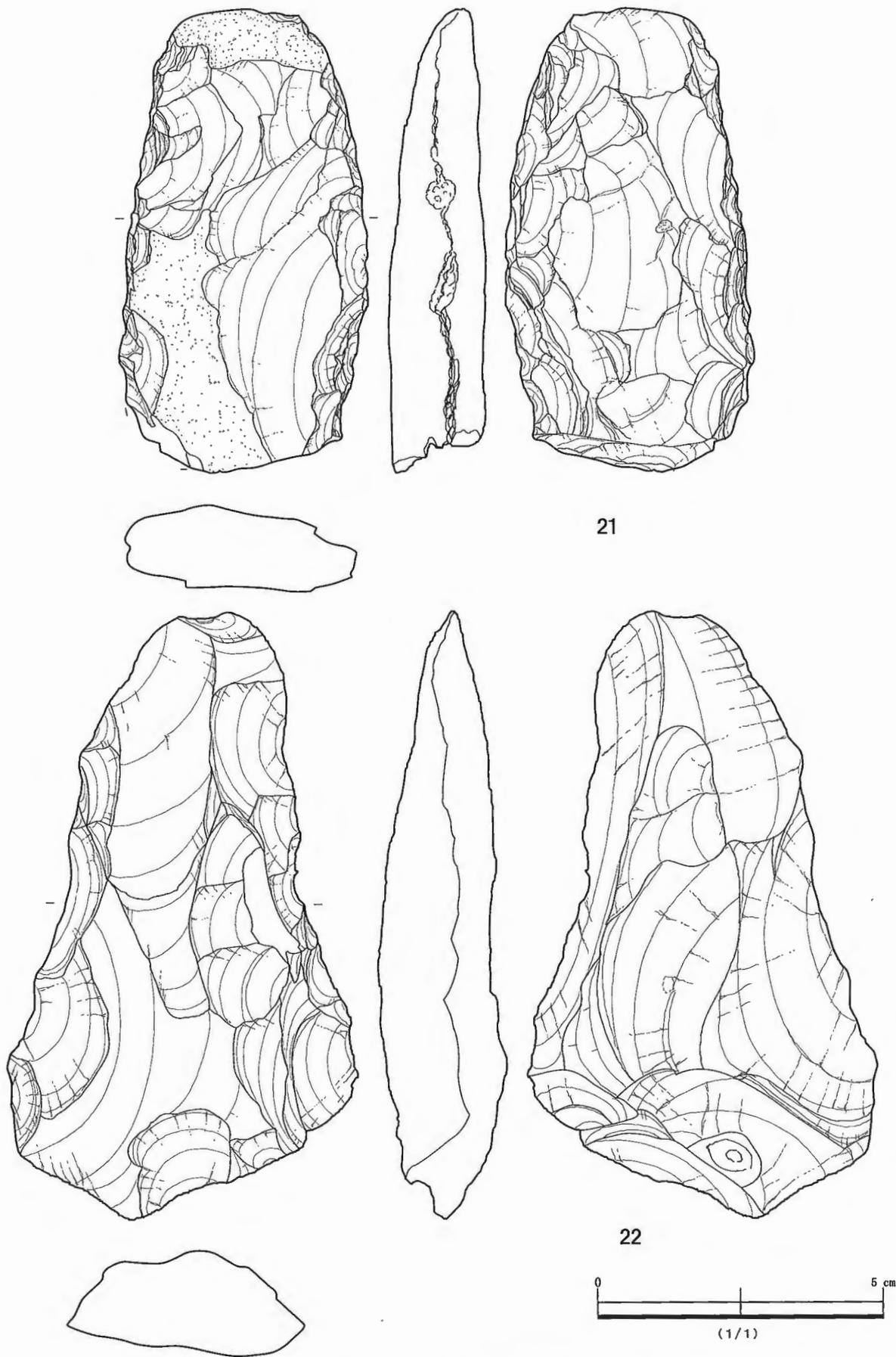


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑥

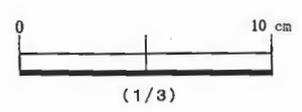
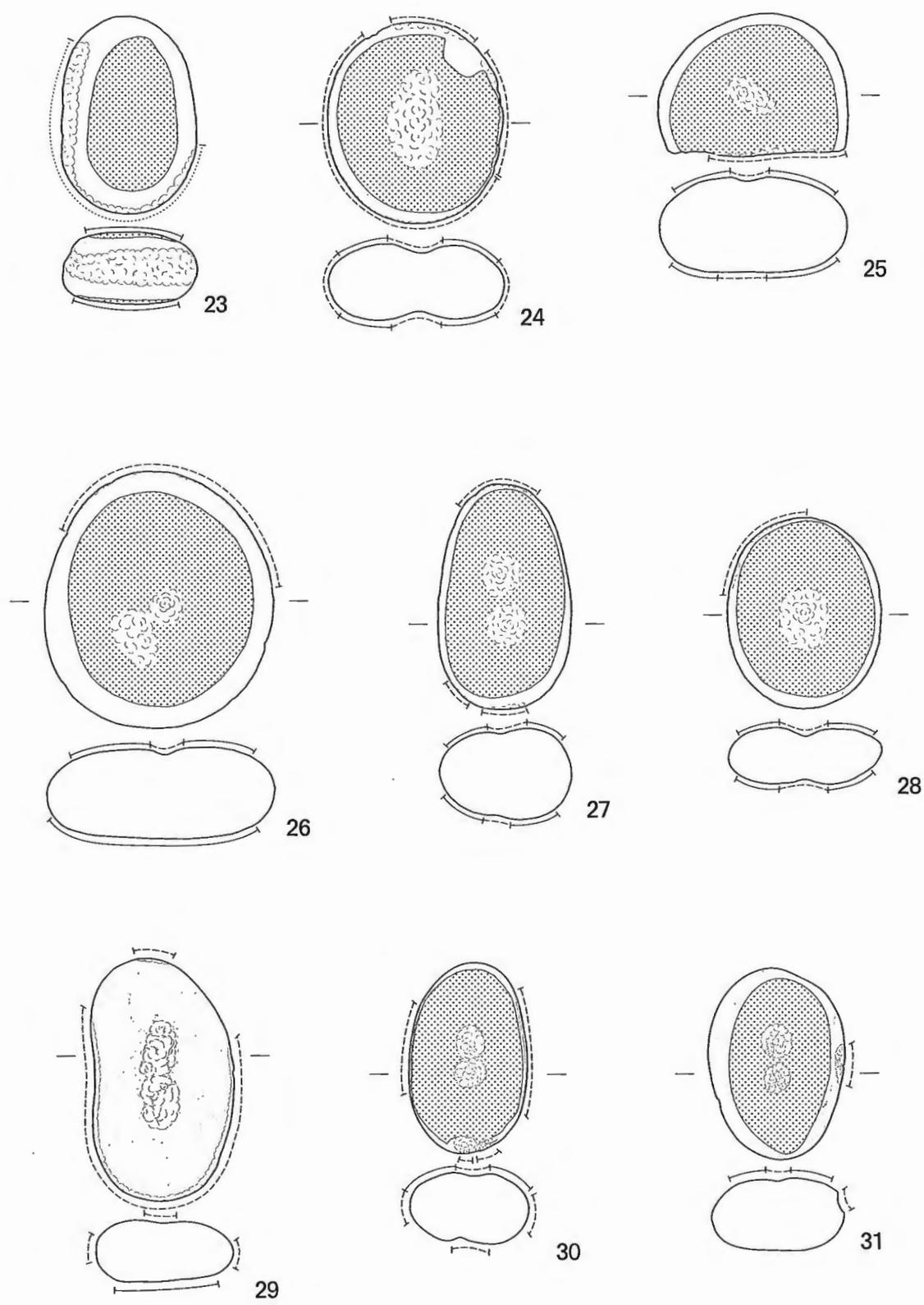


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑦

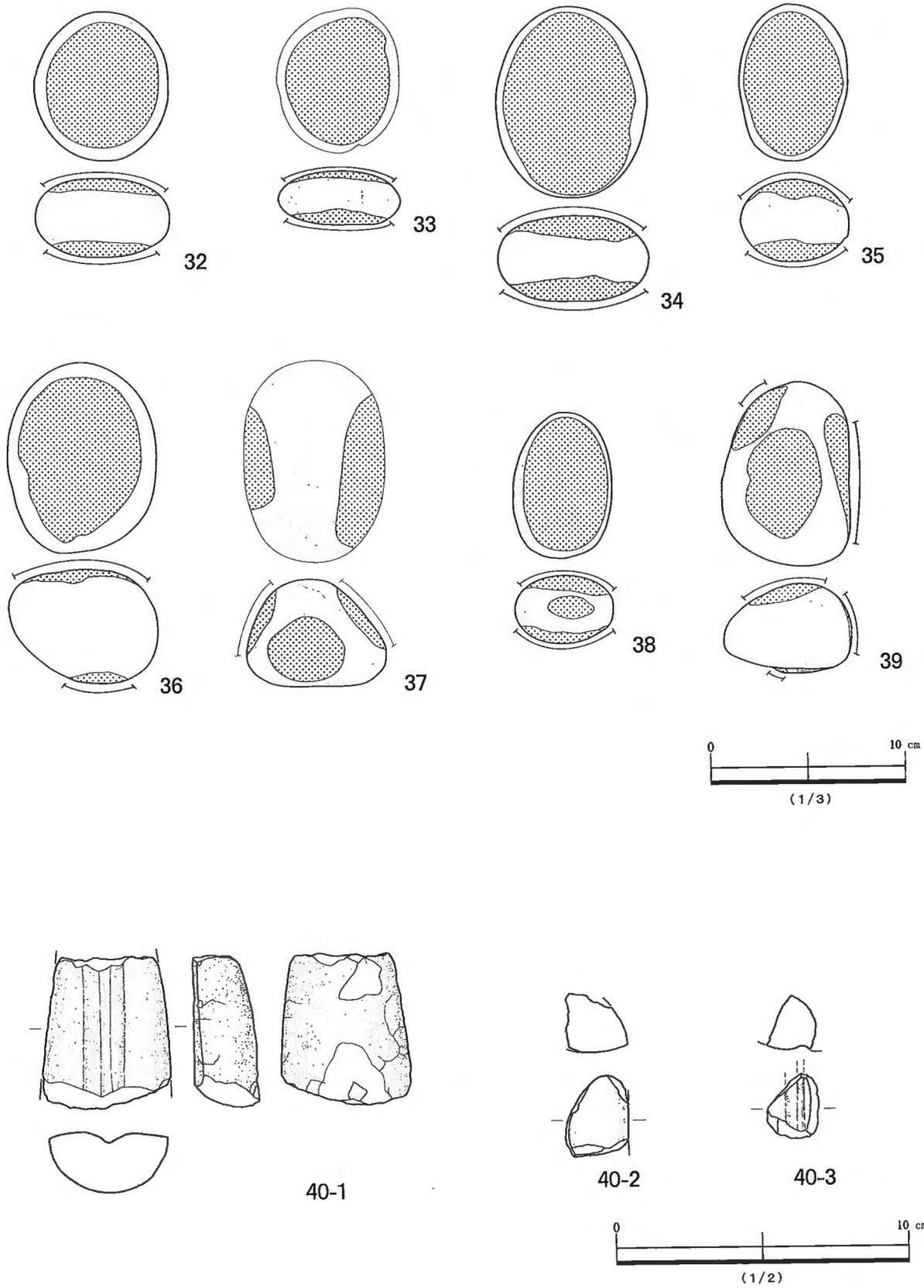


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑧

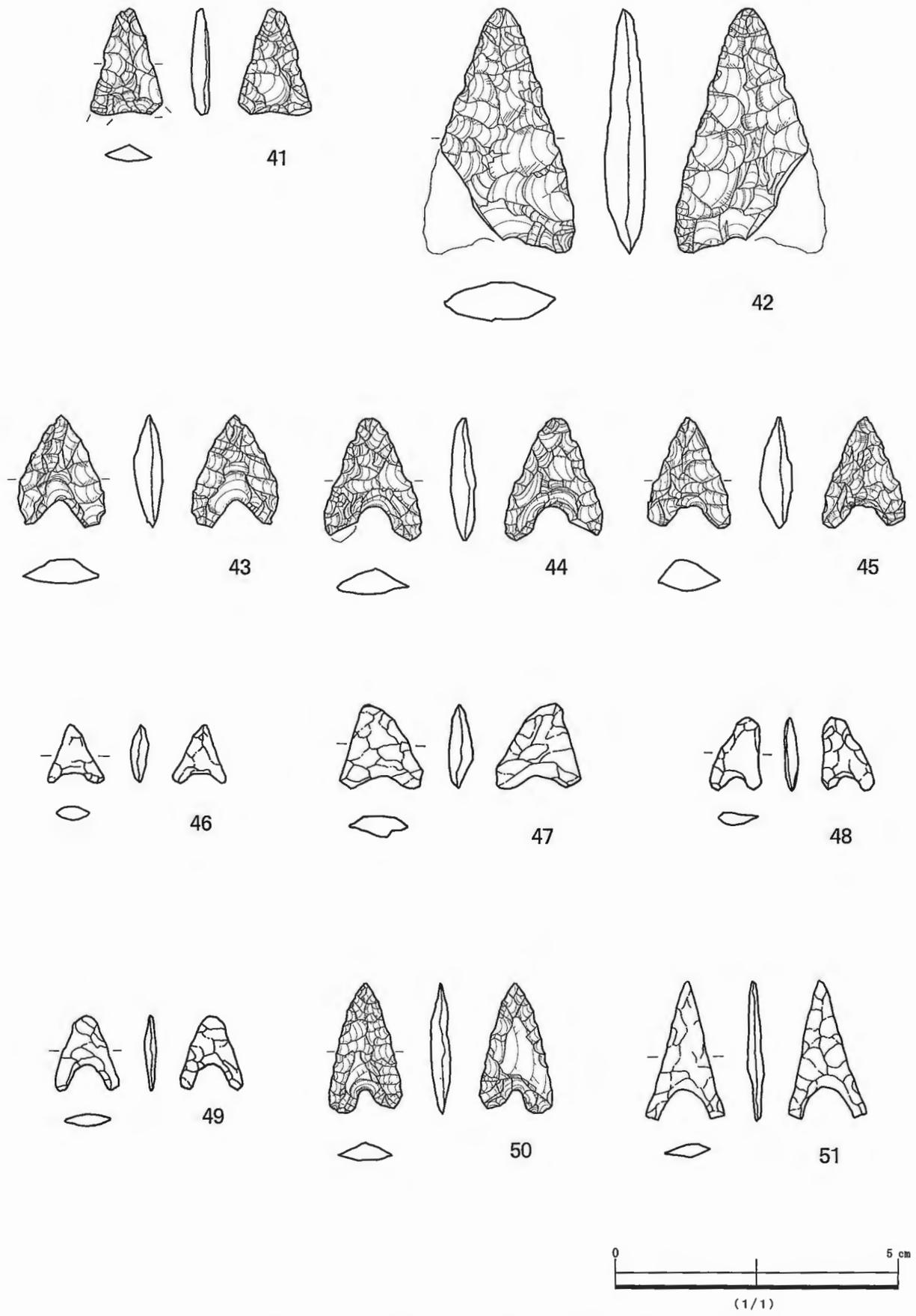
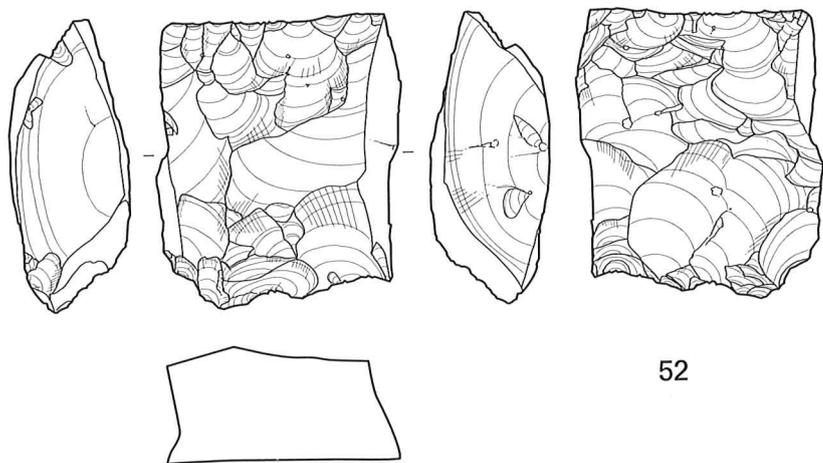
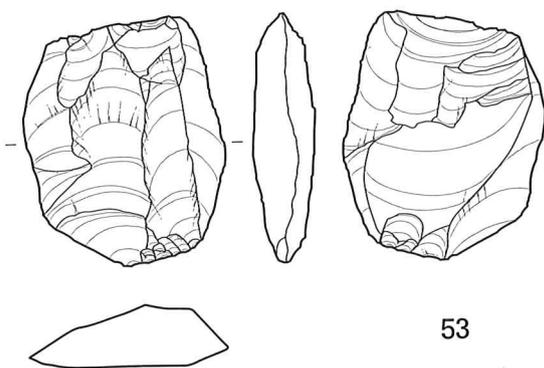


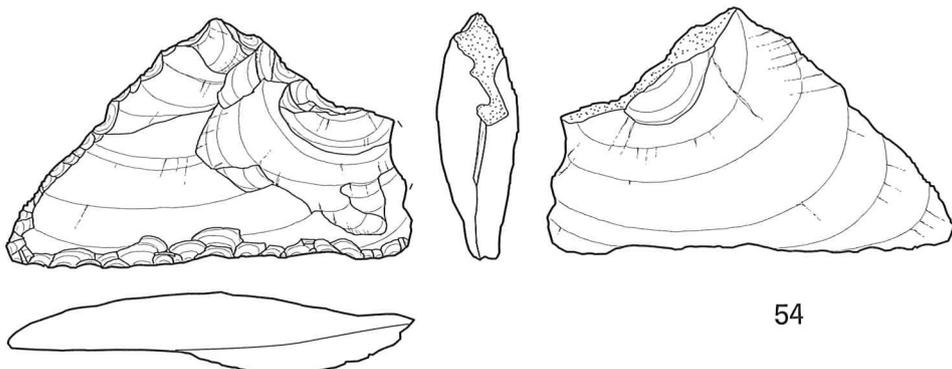
図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑨



52



53



54

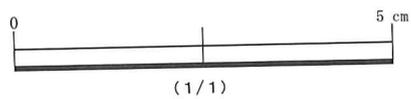


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑩

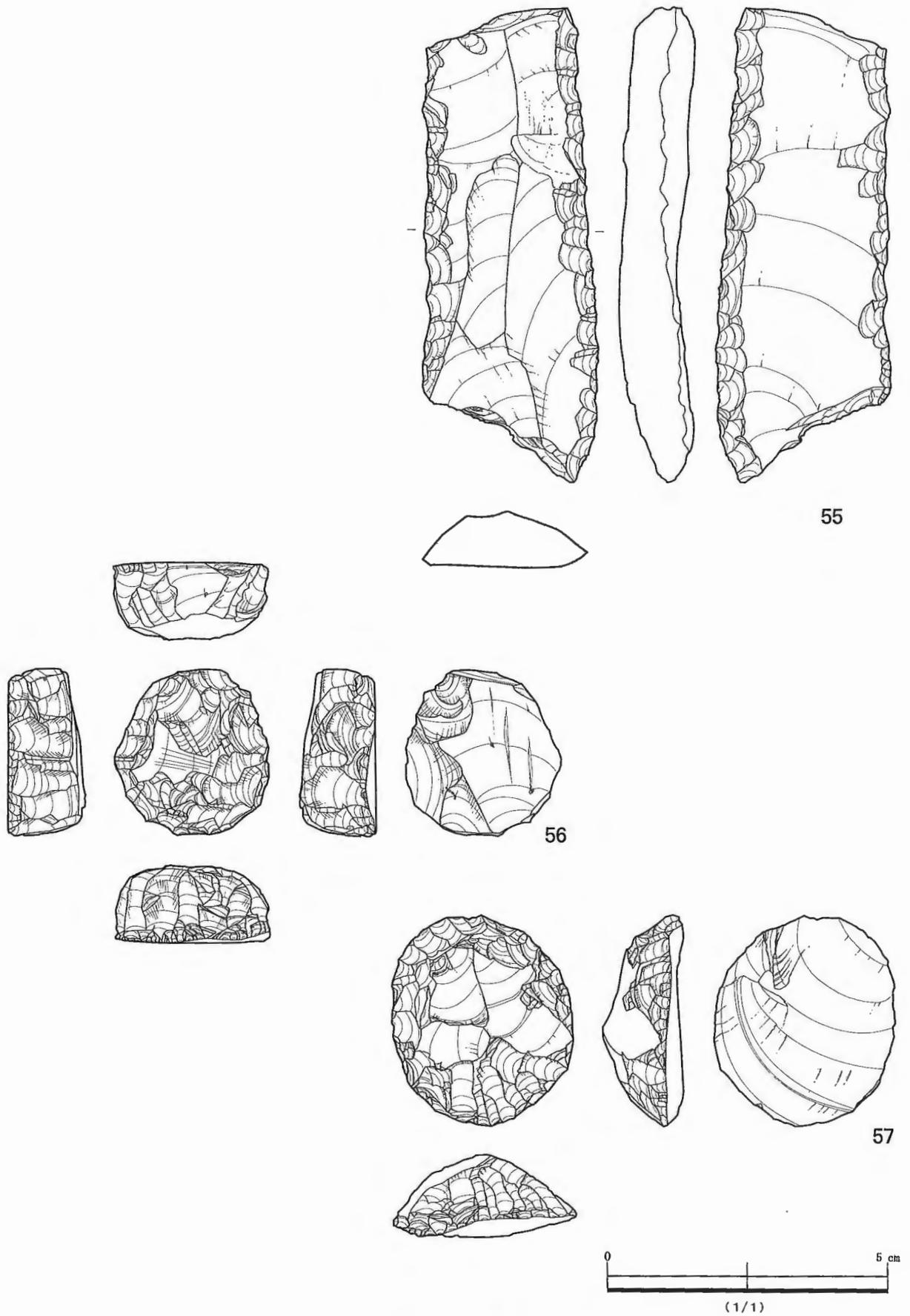


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図①

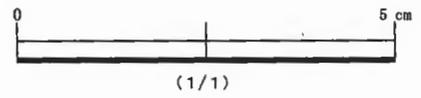
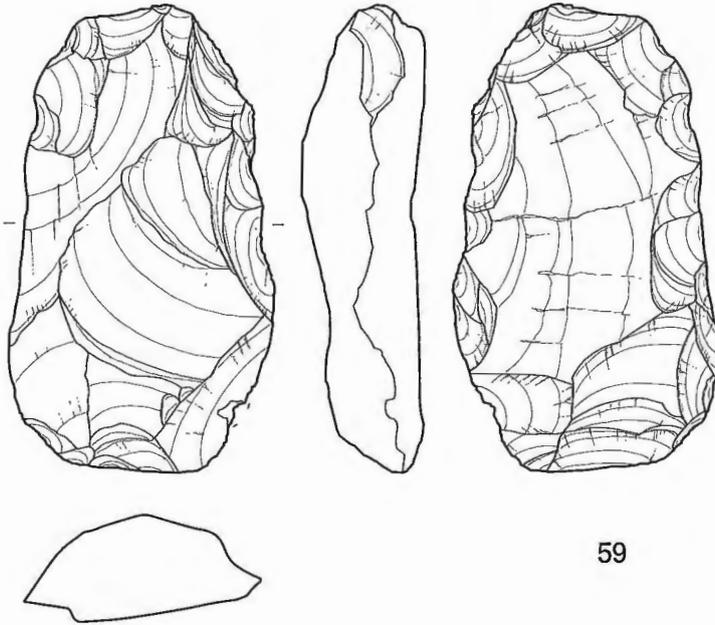
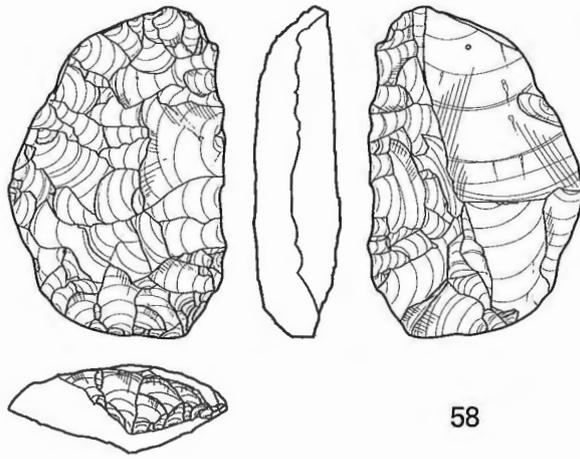


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑫

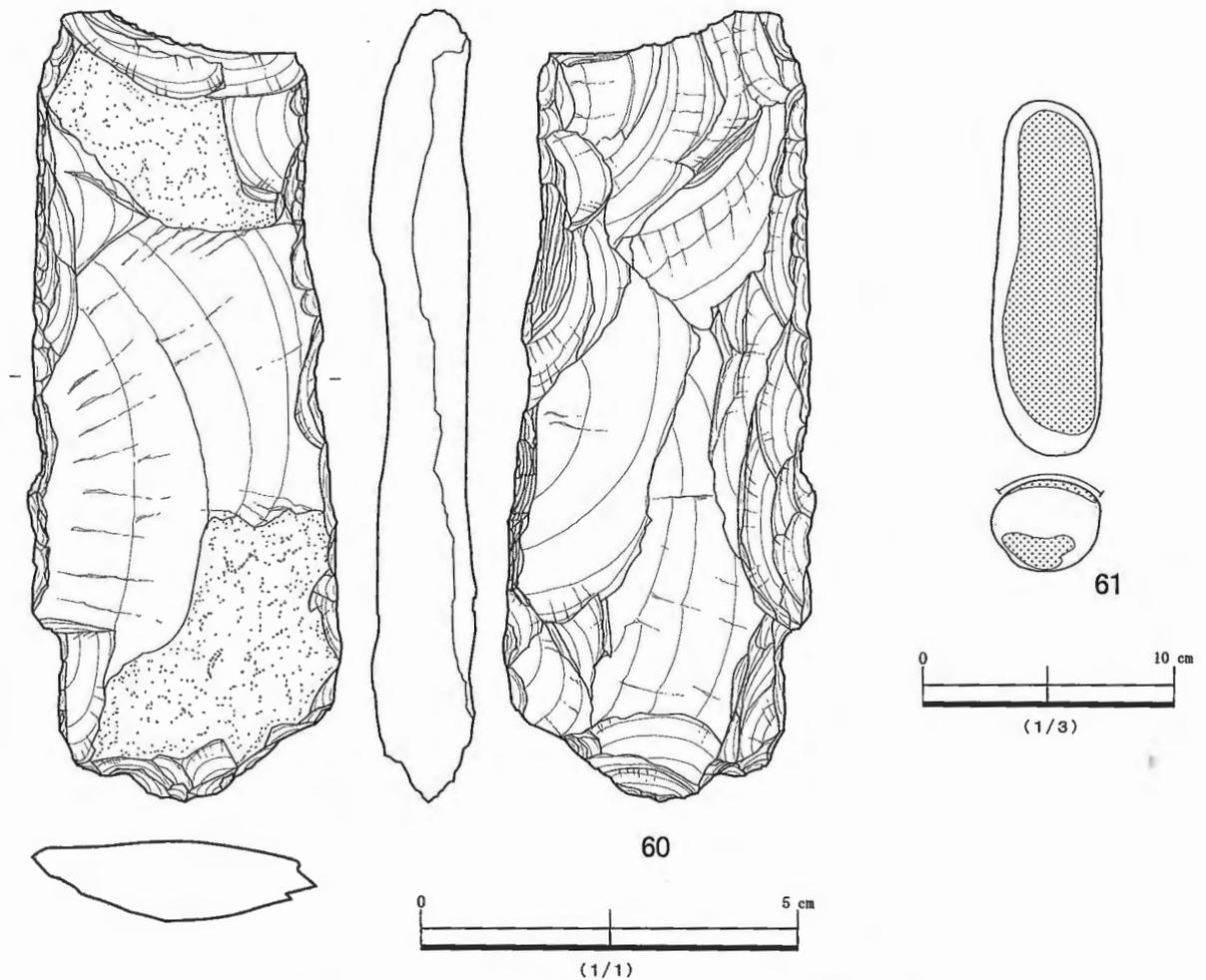


図 20-4 3-1 調査区 グリッド出土 石器実測図⑬

ト製の平面形態が縦長の二等辺三角形で基部の抉りの浅い凹基である。側縁の調整加工は鋸歯状で、押圧剥離面は規則的な四角形となる。図 20-4-51 (2477) は平面形態が均整のとれた細長い二等辺三角形で基部が大きく半円形に抉られる凹基である。

#### 両極石器（楔形石器）

図 20-4-52 (7494) は黒曜石製の両面加工石器、本来は尖頭器の破損品で断面形態は凸レンズ状を呈し、1側縁はソフトハンマーの直製打撃によって直線的、1側縁は鋸歯状である。09 (8520) と接合する資料である。

図 20-4-53 (4051) は凝灰岩製の剥片素材の両極石器である。

#### スクレイパー

図 20-4-54 (7058) は凝灰岩製の鋸歯縁削器で、不定型な横長剥片素材の末端縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成しているものである。図 20-4-55 (7001) は頁岩製の鋸歯縁削器で、縦長剥片の両側縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。また素材末端辺は、叩き折りで成形加工されている。

図 20-4-56 (7575) は黒曜石製の平面形態が円形の搔器で、素材は分厚い剥片を用いて、刃部は縁辺をこするような直接打撃によって成形、刃先角は直角に近く、刃部再生の頻度が高いと推定される。図 20-4-57 (6751) はチャート製の平面形態が円形の搔器で、貝殻状の厚い剥片素材を用いて、刃部は縁辺をこするような直接打撃によって成形される。基部は押圧剥離で成形されている。

図 20-4-58 (2603) は黒曜石製の両面加工石器・搔器で、両面加工体素材の篋状石器を挟み撃ちにして成形されたものである。

#### 打製石斧

図 20-4-59 (5209) は頁岩製の礫器で平面形態が短冊状を呈していることから、石斧としての機能が考えられるものである。図 20-4-60 (2010) も頁岩製の打製石斧で、平面形態が短冊形を呈し、両側縁に直接打撃の刃潰し加工のある典型的な打製石斧である。

#### 磨石

図 20-4-61 (6773) は丸棒状の極めて点数が少ない形態の磨石である。

### 3-2A・B調査区

本調査区は3-1調査区から南側にトレンチ状にのびる調査区である。標高は173.5 m前後の平坦な地形である。

本調査区からは遺物が合計1822点、7層からは計986点、そのうち土器が136点、石器・礫・剥片他が850点、6層からは計836点、そのうち土器が47点、石器・礫・剥片他が789点出土した。

#### グリッド

#### 土器

#### 縄文時代草創期

#### 隆線文土器

図21-2-01(18926)・02(12474)は隆線文土器の口縁部片で、ほぼ直線的に立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は2条の幅3mmの細隆起線文が直線・波状に横位に施文される。隆線文上には爪状のキザミが押圧縄される。内面は条痕状調整が施される。硬質で器面には光沢があり色調は暗褐色、胎土は雲母・砂粒が含まれ、器厚は7～8mmである。01と02は同一個体であるが接合せず、開きの傾きがやや異なる。

#### 押圧縄文土器

図21-2-03(12051)は押圧縄文土器の口縁部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がり口唇部にヘラ状具によるキザミが施文される。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗茶褐色、胎土に金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は6～9mmである。図21-2-04(9024)は押圧縄文土器の胴部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で斜位の羽状に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗茶褐色、胎土に雲母に粒の大きな砂粒を含み、器厚は6～8mmである。図21-2-05(19906)は押圧縄文土器の胴部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた絡条体で横～斜位の押圧縄文を2施文帯に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は茶褐色、胎土に金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は8～10mmである。図21-2-06(9236)は押圧縄文土器の胴部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。粘土接合による小さな段差がある。接合色調は橙褐色、胎土に金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は5～6mmである。図21-2-07(19893)は押圧縄文土器の胴部片で、内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的なやや太い1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ・条線状調整が施される。色調は淡茶褐色、胎土に雲母に粒の大きな砂粒や獣毛状繊維を含み、器厚は8～9mmである。図21-2-08(19882)は押圧縄文土器の尖底部片で、丸みのある尖底から内湾気味に開いて立ち上がる。小形品と思われる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Lを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で多方向の押圧縄文を施文、内面は丁寧な指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～11mmである。

#### 無文土器・沈線文土器

図21-2-09(8892)は無文土器の口縁部片で、直線的にやや開いて立ち上がる。内面は指頭痕にナデ調整が施される。硬質で色調は淡暗褐色、胎土は粒の大きな砂粒、器厚は7～11mmである。

#### 縄文時代早期

#### 条痕文系土器

図21-2-10(5588)・11(18416)・12(18416)・13(19871)・14(19915)・16(2361)は外面が無文、

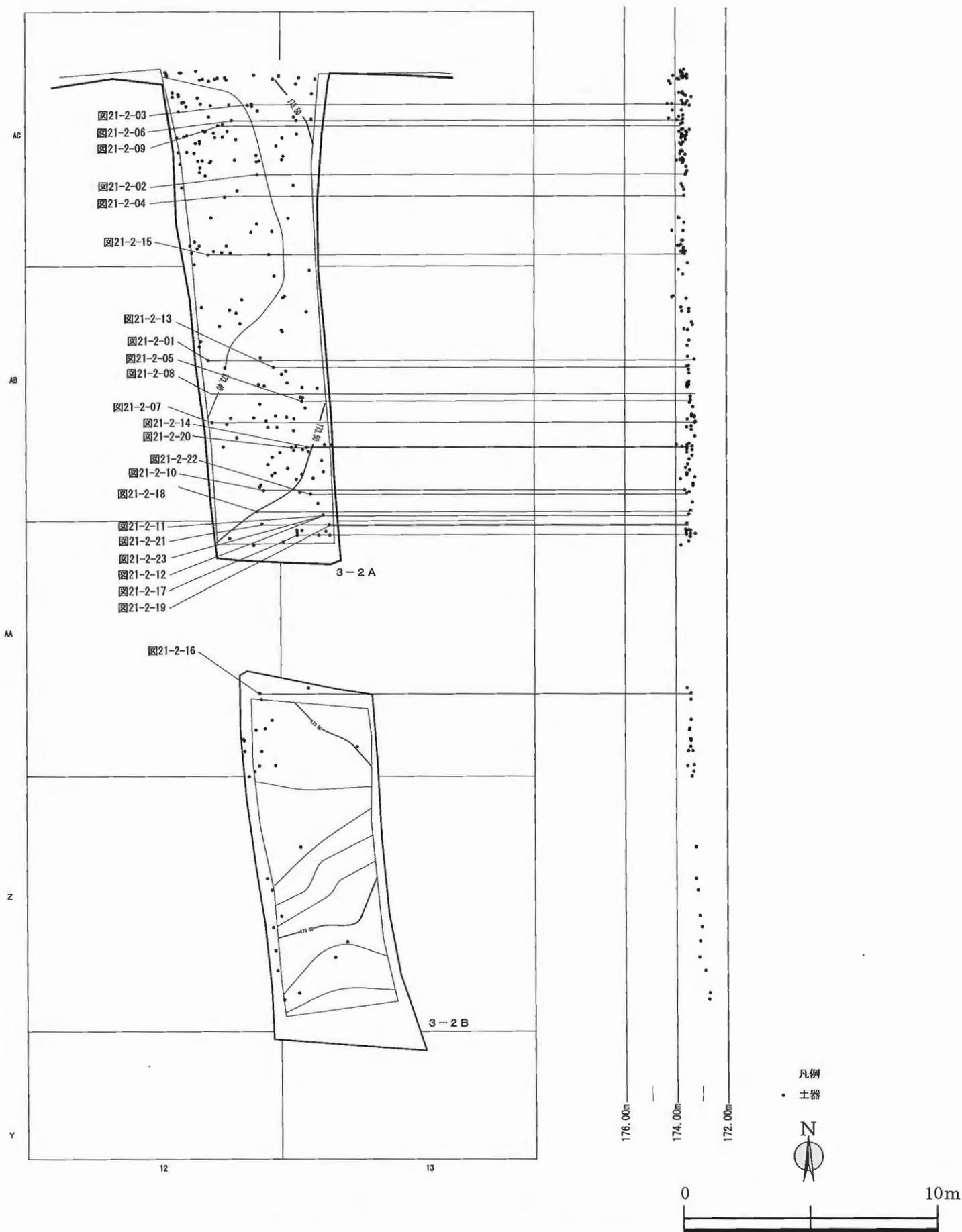


図 21-1 3-2 A・B調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

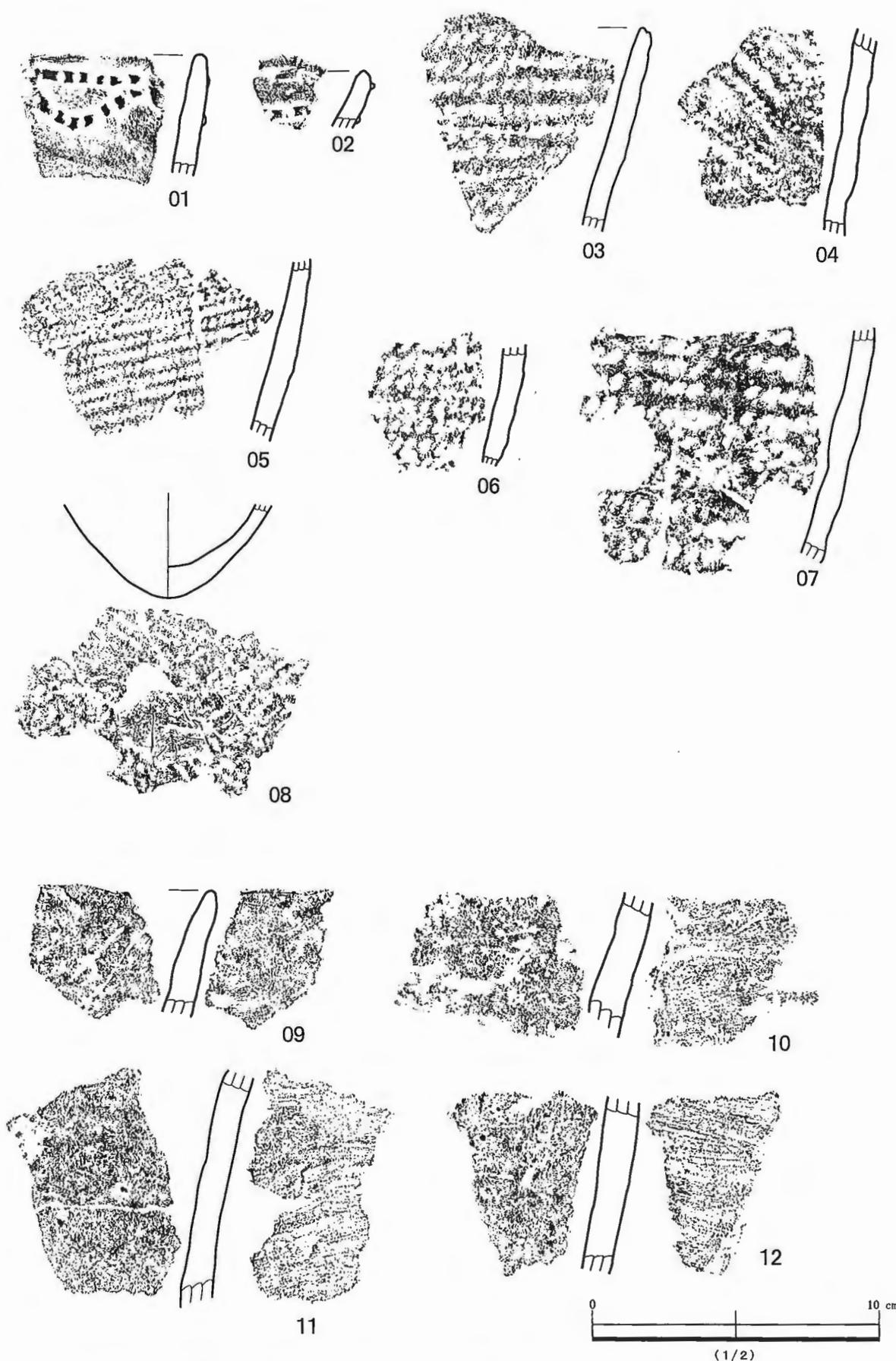


図 21-2 3-2 A 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図①

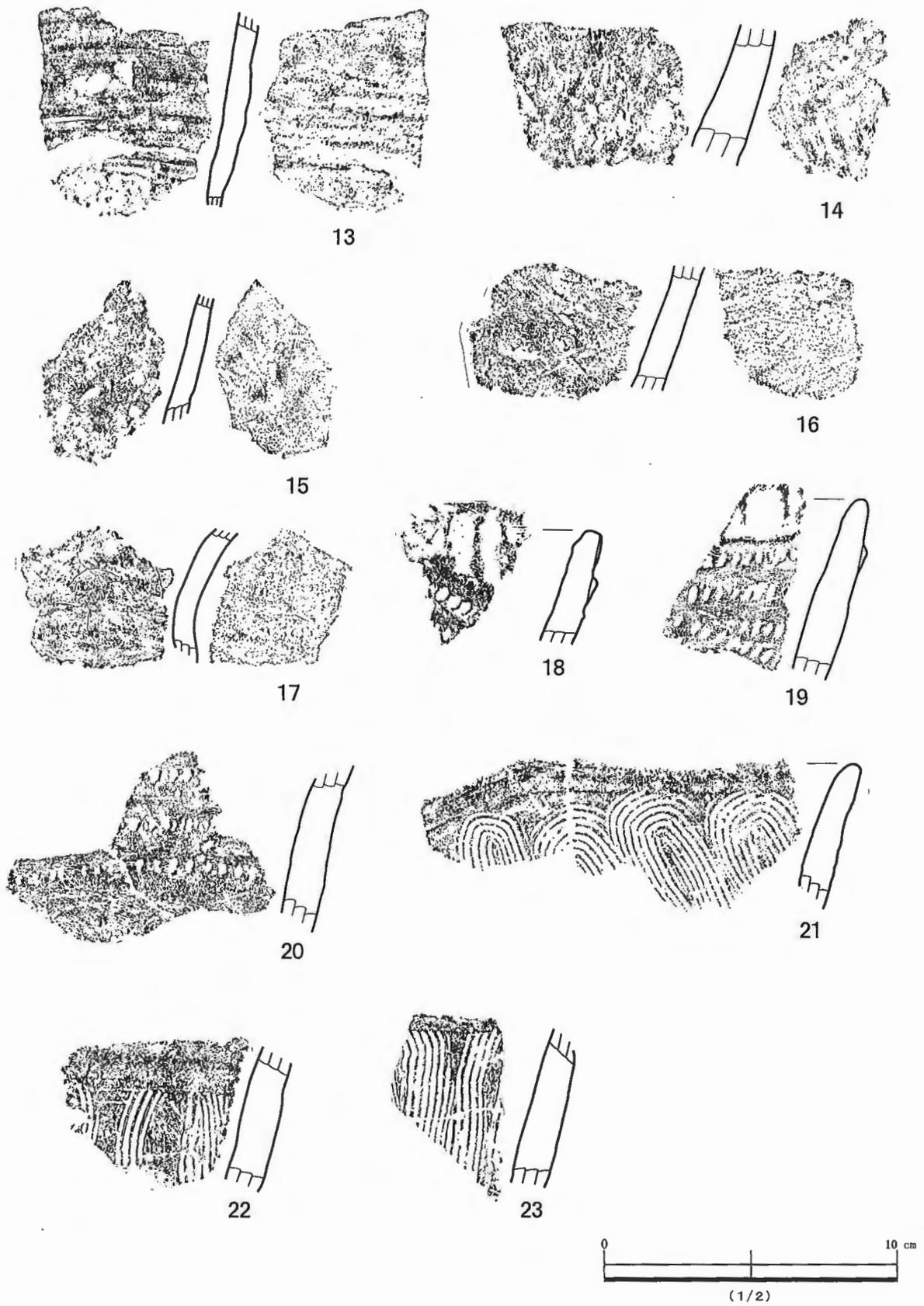


図 21-2 3-2 A 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図②

内面が条痕文調整される胴部片である。10は色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は12mmである。11は外面が丁寧な調整がされている。色調が暗褐色、胎土は雲母に粒の大きな砂粒や繊維を含み、器厚は11mmである。12も外面が丁寧な調整がされている。硬質で色調が暗橙褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は12mmである。13は外面に条痕文調整がされる。色調が淡橙褐色、胎土は砂粒を含み、器厚は12mmである。14は胴部下半の底部に近い破片で、色調が暗淡橙褐色、胎土は金雲母を多く他に砂粒・繊維を含み、器厚は12～18mmである。16は外面が丁寧な調整がされている。色調が暗橙色、胎土は雲母・砂粒に繊維が目立って含まれ、器厚は10mmである。

図21-2-15(9113)・17(6407)は内外面ともに無文で硬質である。15は胴部片で内面は指頭痕にヨコナデ調整される。色調が暗茶褐色、胎土は金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は6mmである。17は頸部片で外面は光沢があり丁寧な調整がされている。色調が茶褐色、胎土は砂粒・繊維を含み、器厚は7mmである。

図21-2-18(18407)・19(18415)・20(6401)は内面が条痕文調整、外面に文様が施文される。18・19はともに口縁部でやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は縦と横位に細い粘土紐の隆帯が貼り付けられ、横位の絡条体圧痕文が施文される。18は色調が暗茶褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は11mmである。19は色調が橙褐色、胎土は雲母に粒の大きな砂粒や繊維を含み、器厚は12mmである。20は胴部片で横位の絡条体圧痕文が3条施文される。色調が暗茶褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は12mmである。これらは清水柳E類土器である。

図21-2-21(5472)・22(6061)・23(18416)は内面が条痕文調整、外面に櫛描状沈線文が施文される。21はほぼ直線的にやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げ、緩やかな波頂を有する器形の口縁部である。外面は連続した多重弧文が施文される特徴的なものである。色調は橙褐色、胎土は雲母に粒の大きな砂粒や繊維を含み、器厚は13mmである。22・23はともに胴部片で、色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は11mmである。

## 石器

### 7層

#### 尖頭器

図21-4-01(12092)は黒曜石製の尖頭器で身下半が残存する。平面形態は木葉形、断面形態は凸レンズ状を呈する。現存長は4.9cmで大形の可能性がある。厚さは1.4cmとやや厚手である。調整加工は両面、側縁はソフトハンマーの直接打撃と間接打撃で成形されている。背面の規則正しい剥離面が間接打撃と推定される。図21-4-02(18904)は黒曜石製の尖頭器で基部のみ残存する。平面形態は不詳、断面形態は凸レンズ状<sup>4</sup>を呈する。両面調整加工で、側縁はソフトハンマーの直接打撃で成形されている。

#### 石鏃

図21-4-03(9204)・04(9014)はともにホルンフェルス製の石鏃の完形品である。ともに平面形態が左右非対象の二等辺三角形で基部に抉りのある凹基である。

#### 筧状石器

図21-4-05(8197)は玉髄質の珪質頁岩製の筧状石器・搔器である。調整加工は縦長剥片素材の末端に、ソフトハンマーで刃部を形成している。図21-4-06(8855)は黒曜石製の筧状石器である。平面形態から尖頭器に身上半の基部に刃部を成形、断面形態は凸レンズ状を呈している。調整加工は両面、側縁はソフトハンマーによる剥離調整、刃部は角度のある押圧剥離で成形されている。

#### 敲・凹・磨石

図21-4-07(18343)は細礫岩製の平面形態が円形の敲・磨石の複合石器である。両面に磨り面、表面に円形な敲痕が残されている。図21-4-08(8935)は中粒砂岩製の平面形態が円形の凹・磨石の複合石

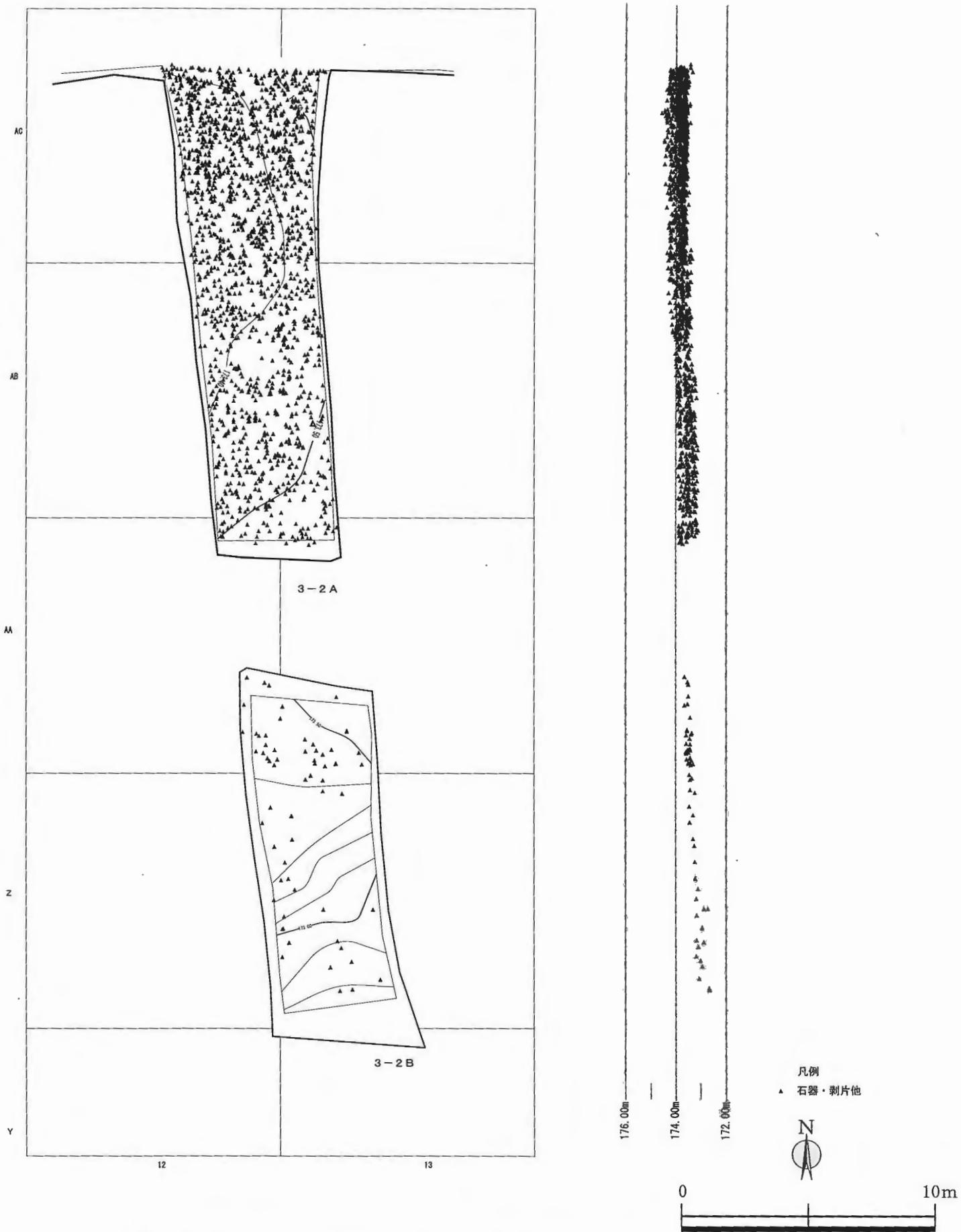


図 21-3 3-2 A・B調査区 縄文時代・グリッド出土 石器・剥片他分布図①

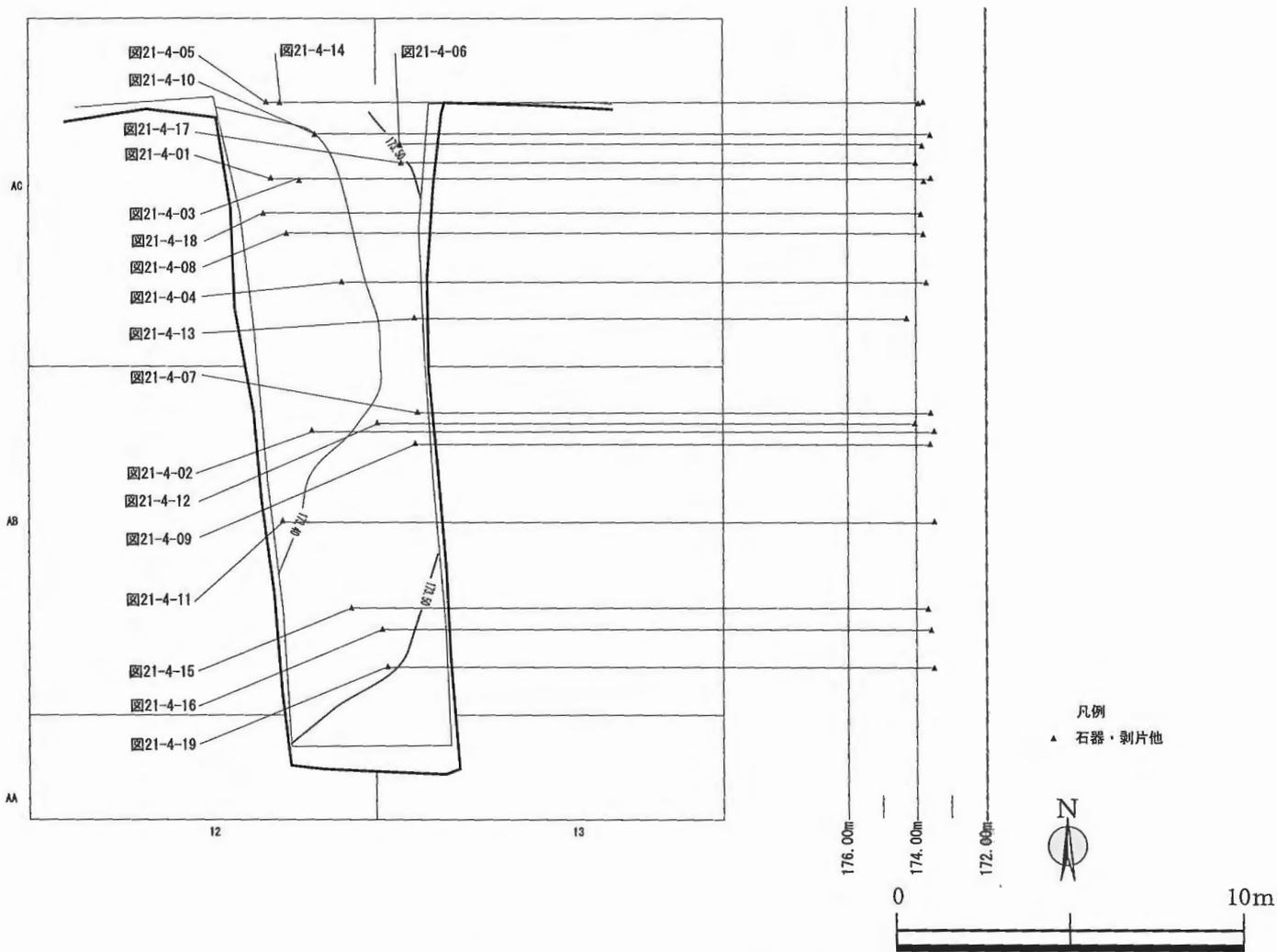


図 21-3 3-2A 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図②

器である。両面に凹痕が残されている。図 21-4-09 (18918)・10 (12050) は平面形態が楕円形の敲・凹・磨石の複合石器である。09 は閃緑岩製、10 は細粒斑輝岩製である。ともに両面に磨り面と凹痕が残されている。図 21-4-11 (18371) は粗粒砂岩製の平面形態が不整な楕円形の敲・磨石の複合石器である。

#### 6 層

##### 石鏃

図 21-4-13 (3725) は黒曜石製の石鏃の完形品である。平面形態が正三角形で抉りが深い凹基で鍬形鏃に近い形態である。調整加工は、押圧剥離はコンタクトエリアの小さなハードハンマーによる。

##### 石匙

図 21-4-14 (3803) は頁岩製で裏面を素材面とする片面調整加工の横形石匙である。調整加工はやや不鮮明であるが刃部は鋸歯状に形成される。

##### スクレイパー

図 21-4-12 (2876) は黒曜石製の両面加工石器で、平面形態が尖頭器の先頭部、断面形態は凸レンズ状を呈している。調整加工はソフトハンマーの直接打撃と押圧剥離で成形されている。稜線に摩耗が観察でき使用痕とも推定される。横形石匙の可能性もある。

図 21-4-15 (5585) は黒曜石製の搔器である。平面形態が円形に近く、断面形態は凸レンズ状を呈している。

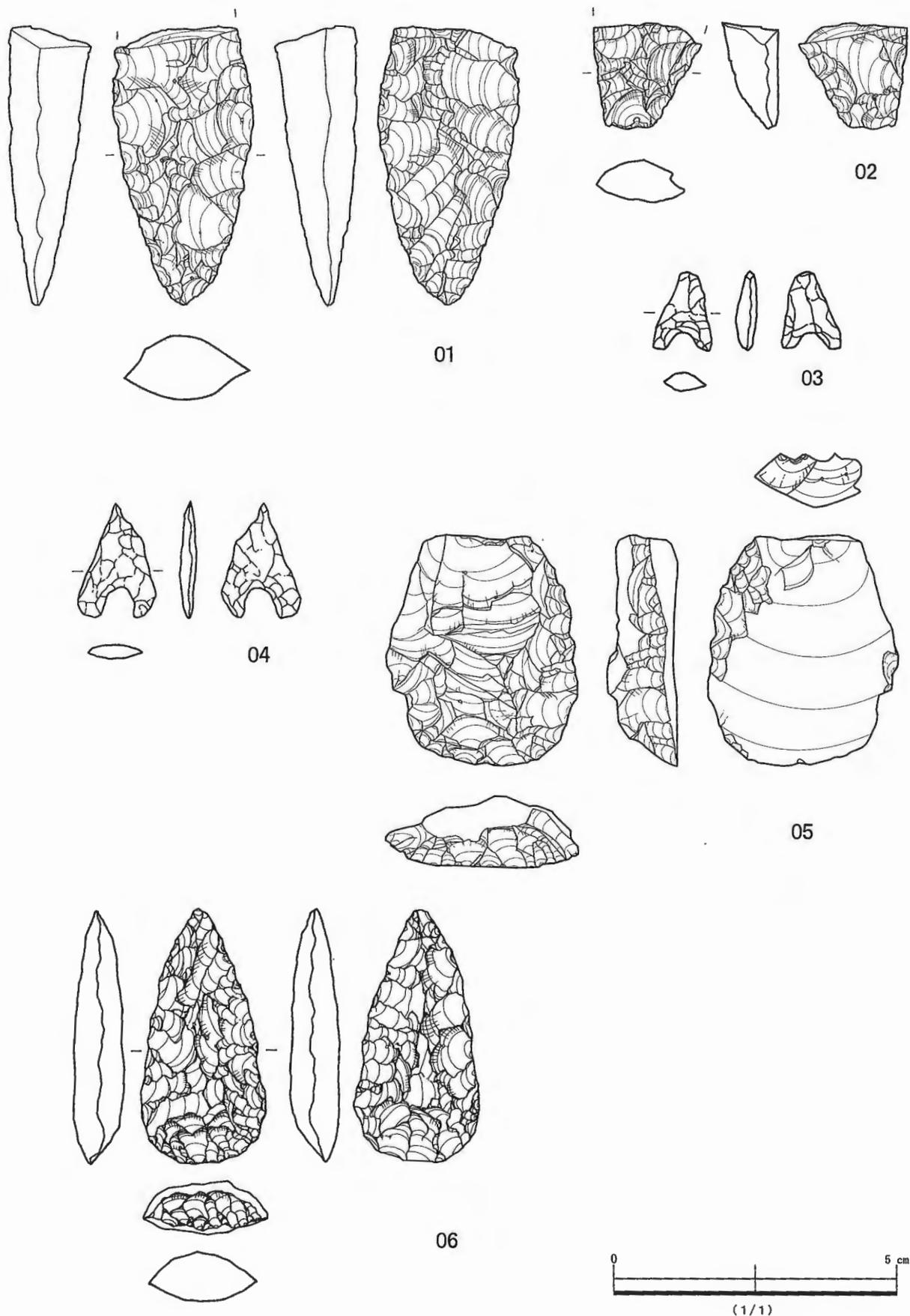


図 21-4 3-2 A 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図①

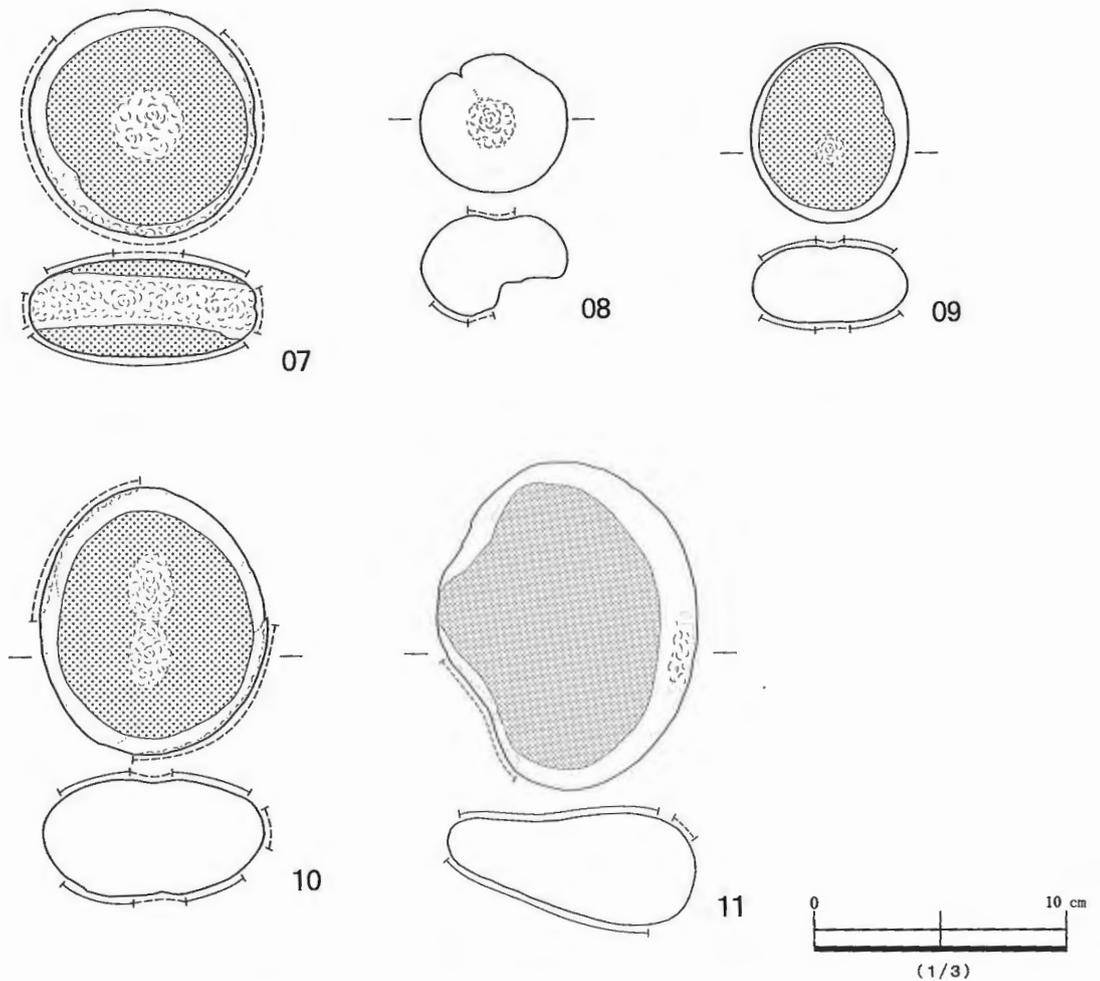
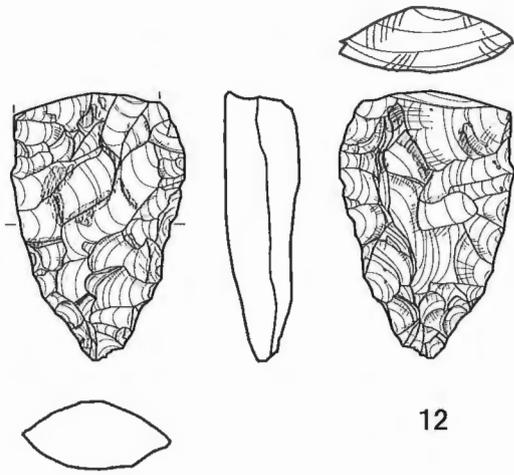


図 21-4 3-2A 調査区 グリッド出土 石器実測図②

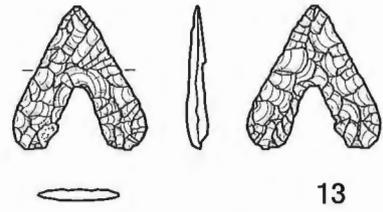
素材は両面加工体で、両面加工体と搔器の成形加工は、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で急角度の片刃に成形されている。刃部側に小さな抉りをいれて小突起が形成されている。

#### 敲・凹・磨石

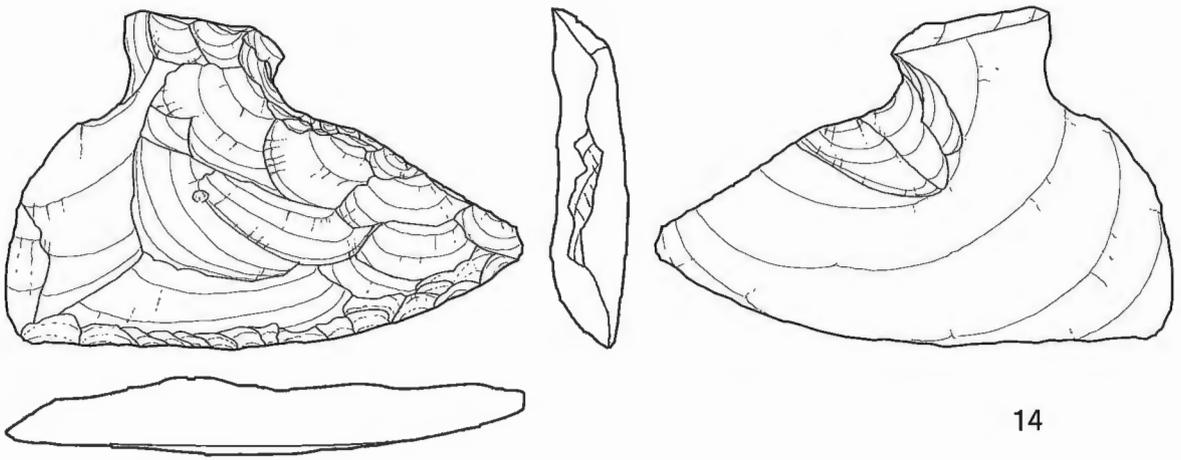
図 21-4-16 (6090)・18 (3617) はともに中粒砂岩製で平面形態が楕円形の敲・凹・磨石の複合石器である。16 は両面、18 は表面のみに凹痕が残される。図 21-4-17 (4149) は細粒砂岩製の隅丸三角形に近い敲・凹・磨石の複合石器である。両面に凹痕が残される。図 21-4-19 (6053) はアプライト製の楕円形の敲・磨石の複合石器である。



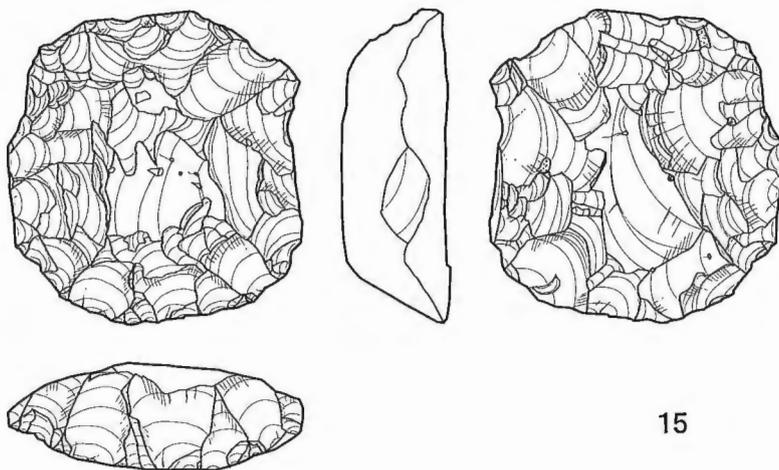
12



13



14



15

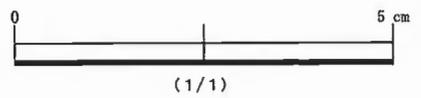


図 21-4 3-2 A 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図③

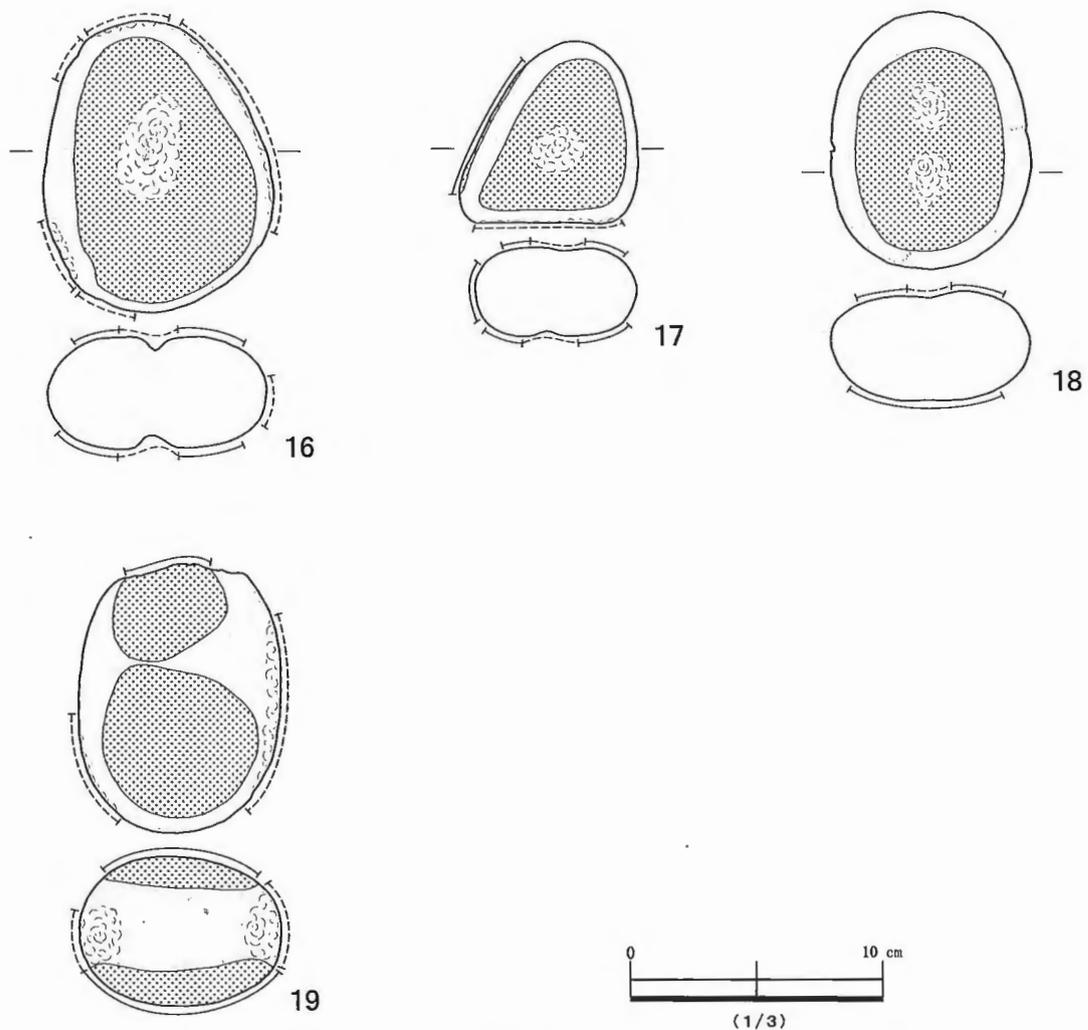


図 21-4 3-2 A 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図④

### 3-3A調査区

本調査区は3-1調査区北側に平行して長さ約26m、幅約4mの細長い形状である。3-1調査区で検出した熔岩帯が本調査区の約1/2を占めている。標高は東に向かって徐々に高くなる緩斜面で174.6～175.1を測る。

本調査区からは遺物が合計153点、7層からは計39点、その内土器は7点、石器・礫・剥片他は32点、6層からは計114点、その内土器は43点、石器・礫・剥片他は71点が出土した。

縄文時代

グリッド

土器

縄文時代早期

押型文土器

図22-2-01(11333)は押型文土器の胴部片でやや開いて立ち上がる。外面は横位の山形押型文が上位に丁寧に施文され、下位は無文となる。内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は淡茶褐色、胎土は細かな金雲母・繊維を含み、器厚は5mmである。図22-2-02(16380)は押型文土器の胴部片でやや開いて立ち上がる。外面は横・縦位の山形押型文が上位に施文された後にナデ調整が施され、下位は無文となる。色調は淡褐色、胎土は雲母・砂粒を含み、器厚は6mmである。

条痕文土器

図22-2-03(11327)は胴部片で、外面は丸棒状具による斜位の沈線文による区画文内に斜位方向の連続する刺突文が充填される。内面はナデ調整が施される。色調は淡褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維が含まれ、器厚は10～12mmである。図22-2-04(13230)・05(16400)・06(11341)・07(16401)はいずれも段を有する胴部片で、外面は条痕文調整に襷掛けの幅広の沈線文、円形刺突文に連続刺突文が施文される。内面は顕著な条痕文調整が施される。色調は暗橙褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維が含まれ、器厚は8～13mmである。鶺鴒ヶ島台式に平行するものである。

図22-2-08(13227)は内外面に条痕文調整される胴部片である。色調は暗褐色、胎土は雲母・砂粒・

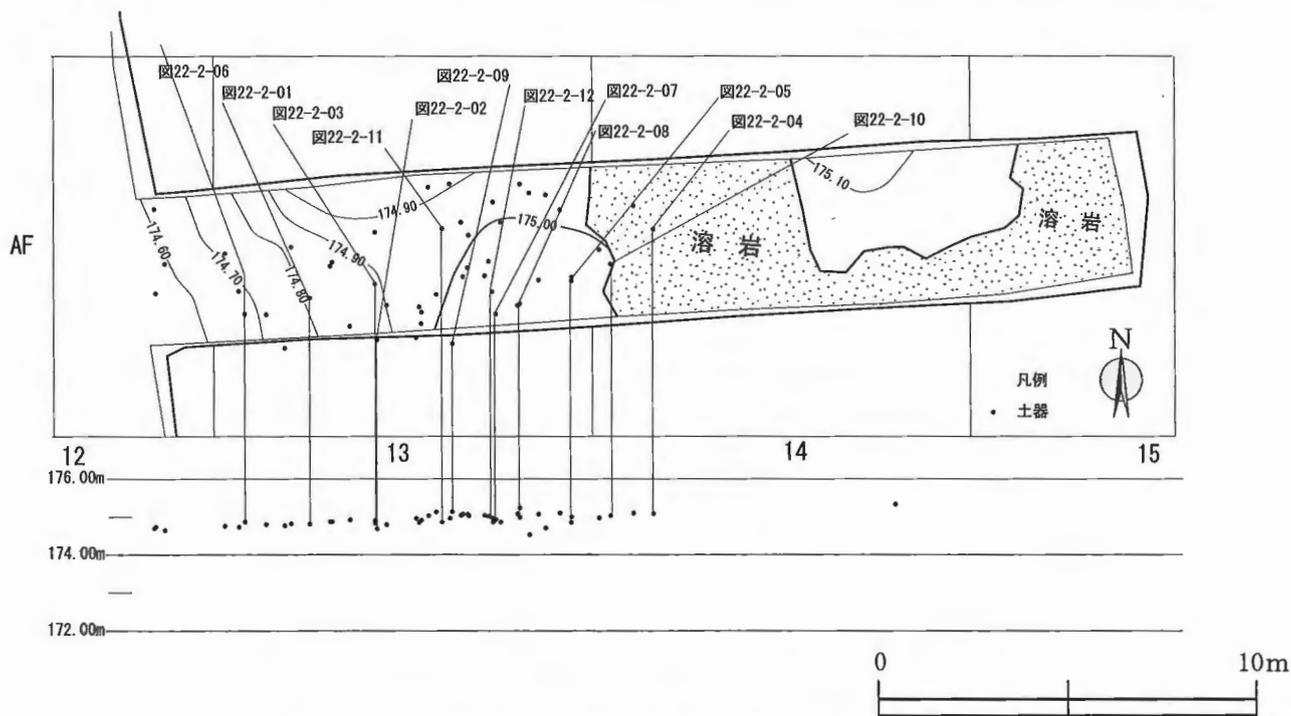


図22-1 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

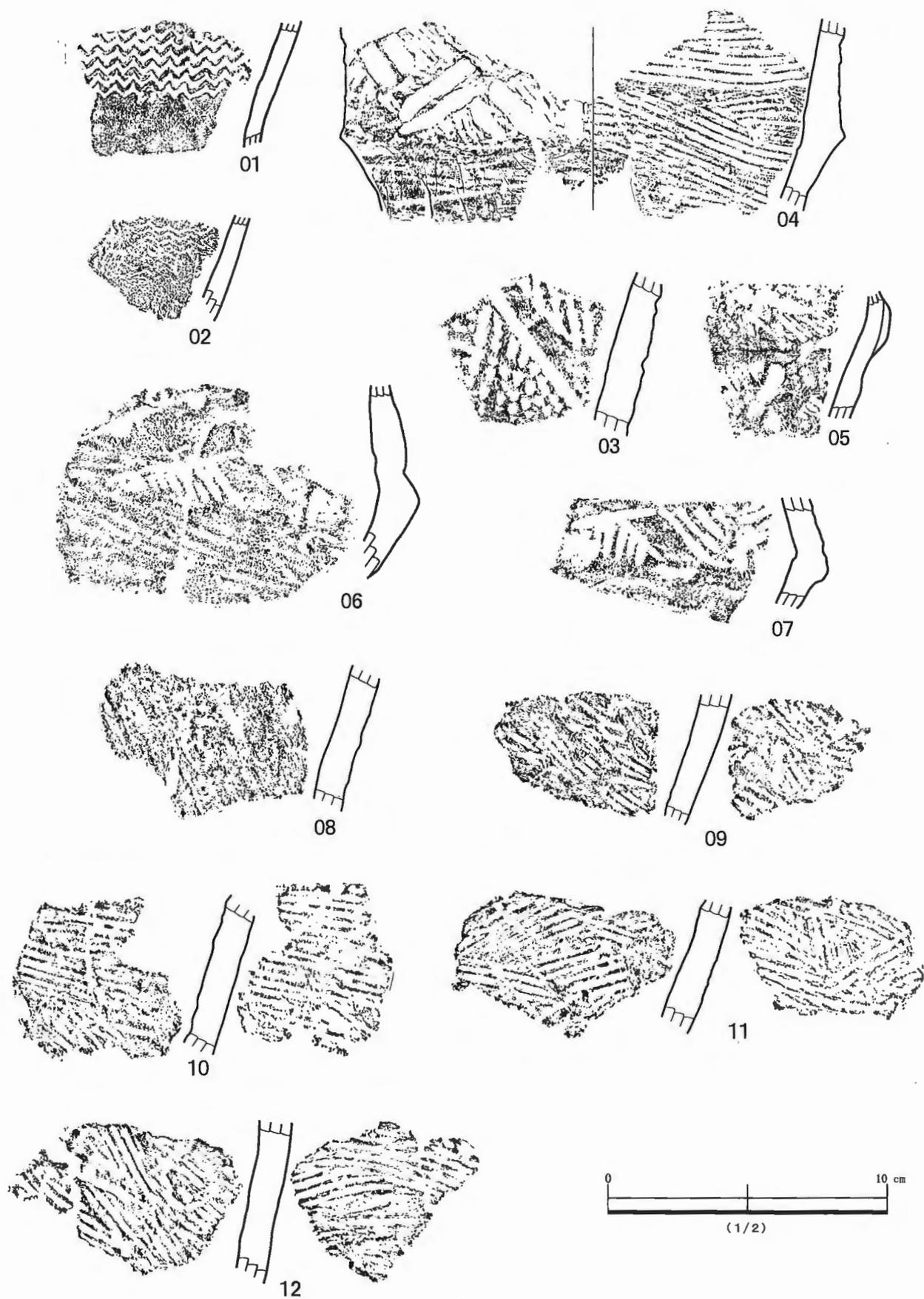


図 22-2 3-3A 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

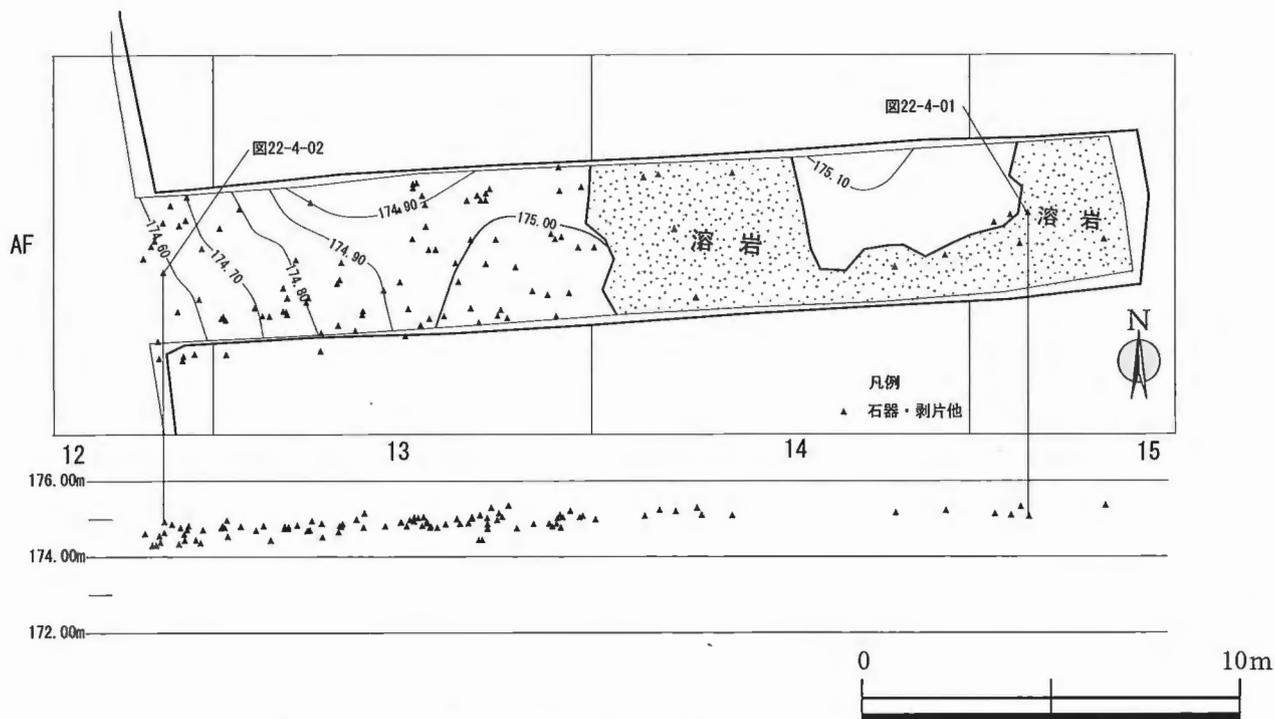


図 22-3 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図

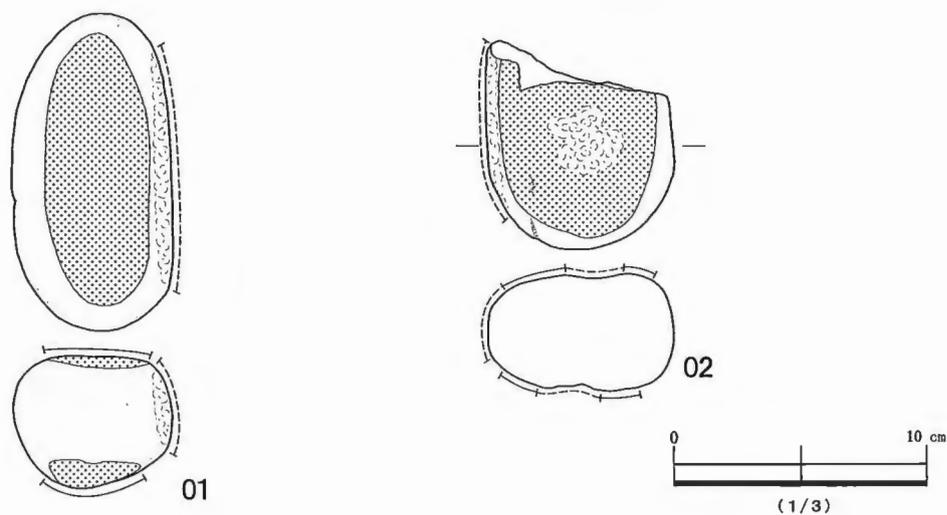


図 22-4 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

繊維が多く含まれ目立つ、器厚は 10 mm である。

図 22-2-09 (13281)・10 (11292)・11 (13214)・12 (13226) は内外面に条痕文調整される胴部片で接合しない同一個体である。11 では条痕文の方向を変えて幾何学文様や 09 では条痕文にミガキ状の調整が施される。色調は器面に光沢があり橙色、胎土は雲母・砂粒・繊維が含まれ、器厚は 10～12 mm である。

#### 石器

##### 敲・凹・磨石

図 22-4-01 (11357) は 6 層から出土した細礫岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態が丸棒状を呈し、表裏面を磨り面、側面を敲面としている。22-4-02 (11346) は 6 層から出土した粗粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態が楕円形を呈し、表裏面を磨・凹面、側面を敲面としている。

### 3-3C調査区

本調査区は3-1調査区から東へ約40mの標高178.5mに位置している。調査区の中央には埋没谷があり谷に向かって地形が傾斜している。その西側の急傾斜面を竪穴状遺構の壁として利用するように10号竪穴状遺構が所在する。

本調査区からは遺物が合計2701点、7層からは計1851点、そのうち土器は73点、石器・礫・剥片他が1778点、6層からは850点、そのうち土器は26点、石器・礫・剥片他が824点出土した。遺物のなかで土器の占める割合が7層では2.7%と極めて低い。また石器・礫・剥片の石材として黒曜石が圧倒的に多いことが特徴的である。

#### 縄文時代草創期

##### 10号竪穴状遺構 (SB3010)

図示した土器は隆線文土器、押圧縄文土器、無文土器の18点、石器は有舌尖頭器、石鏃、スクレイパー類、磨石・敲石類、石皿等の25点である。

#### 土器

##### 隆線文土器

図23-2-01 (19429) は隆線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は口唇部に沿って横位に幅約6mmの隆線文が貼り付けられ、隆線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は6~9mmである。図23-2-02 (18772) は隆線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部を細く丸めて仕上げている。外面は口唇部に沿って横位に幅約6mmの隆線文が貼り付けられ、隆線文上を爪状具によって上下交互に連続押圧による押し潰しと斜位にも幅約4mmの同様の隆線文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は5~8mmである。図23-2-03 (20130) は隆線文土器の胴部片で僅かに開いて立ち上がる。外面は口唇部に沿って横位に幅約6mmの隆線文が貼り付けられ、隆線文上を連続押圧による押し潰しが施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は8mmである。

図23-2-04 (23702) は微隆線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に丸めて仕上げ、口唇部に連続的に押圧されている。外面は口唇部に沿って横位に幅約5mmの3条の隆線文が貼り付けられ、隆線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。さらにその下位に4条の横位の微隆起線文が施文される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~7mmである。図23-2-05 (17514) は微隆線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に仕上げ、口唇部に連続的に押圧されている。外面は口唇部に沿って横位に幅約5mmの1条の隆線文が貼り付けられ、隆線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状、下位に7条の横位の微隆起線文、さらにその下位に縦位に2条1対の微隆起線が施文される。内面は指頭痕に丁寧なヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒・繊維を含み、器厚は4~6mmの薄手である。図23-2-06 (19453) は微隆線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に丸めて仕上げ、口唇部が押圧されている。外面は口唇部に沿って横位に幅約5mmの3条の隆線文が貼り付けられ、隆線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~7mmである。図23-2-07 (17128) は微隆線文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約5mmの3条の隆線文が貼り付けられ、隆線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。内面は指頭痕に丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~6mmである。図23-2-08 (20290) は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの8条の微隆起線文が平行、その下位に2条1対の縦位の微隆起線文が上下交互に施文される。内面はヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚

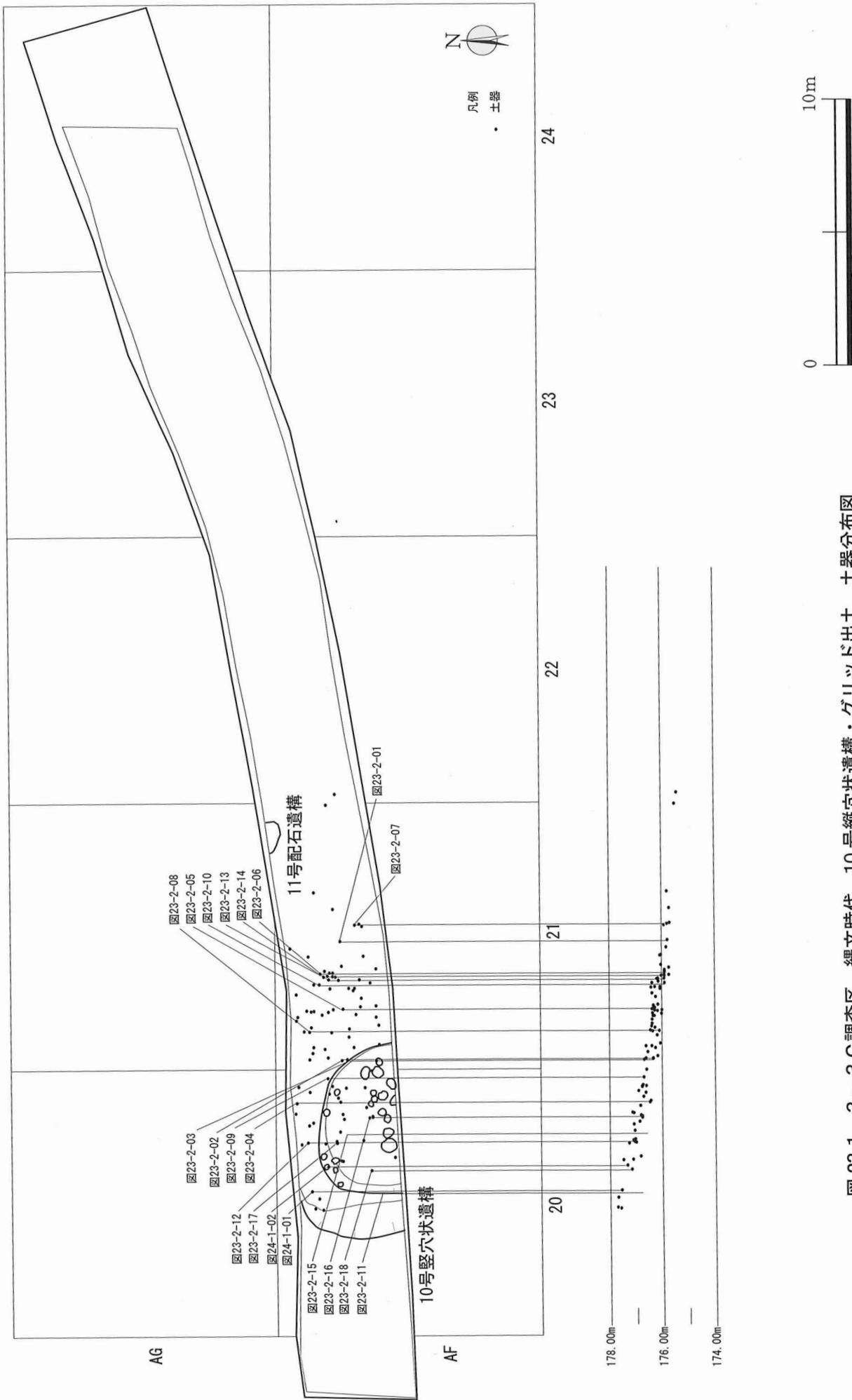


图 23-1 3-3 C 調査区 縄文時代 10号縦穴状遺構・グリッド出土 土器分布図

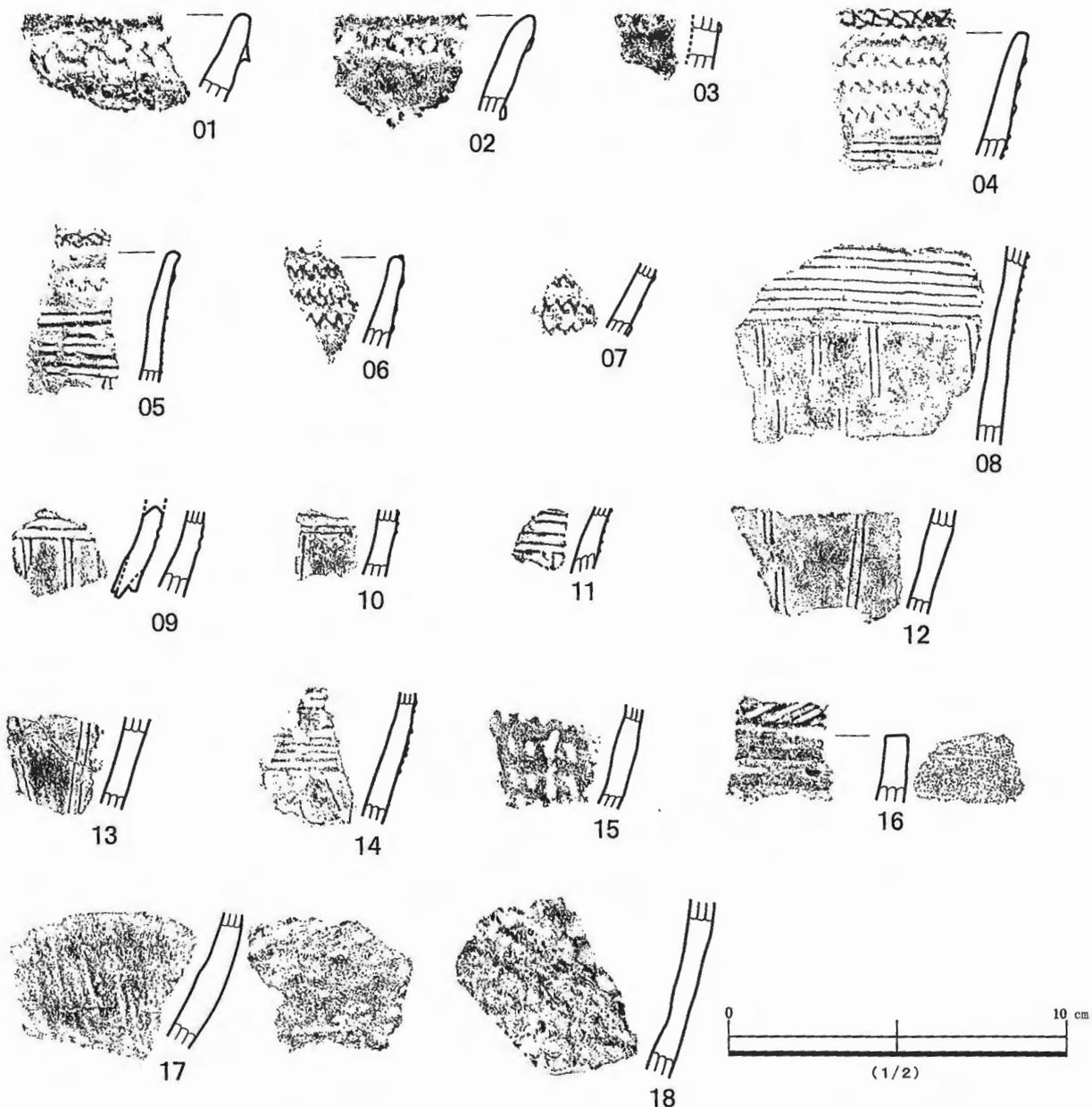


図 23-2 3-3C 調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図

は5~7mmである。図 23-2-09 (17933) は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの4条の微隆線文が平行、その下位に2条1対の縦位の微隆起線文が施文される。内面はヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~7mmである。割れ口に輪積痕の接合部が明瞭に残されている。図 23-2-10 (20823) は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの3条の微隆線文が平行、その下位に2条の縦位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は6mmである。図 23-2-11 (21504) は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの5条の微隆線文が平行、その下位に2条1対の縦位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~6mmである。図 23-2-12 (17468) は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は2条1対の縦位の微隆起線文が2単位施文される。内面はナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は6~7mmである。図 23-2-13 (19448・19449) は微隆線文土器の胴部片でやや開い

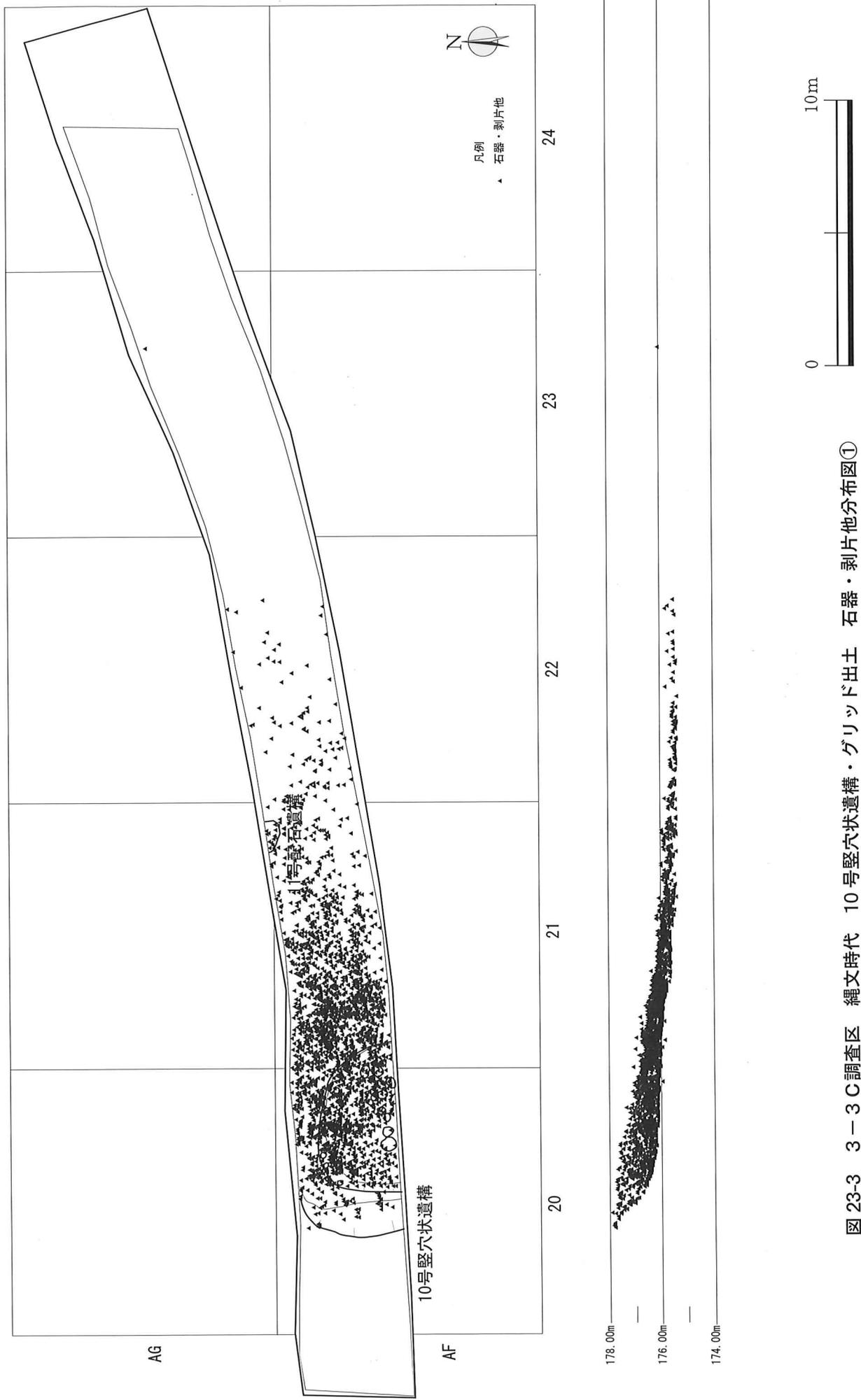


图 23-3 3-3C 調査区 縄文時代 10号竖穴状遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図①

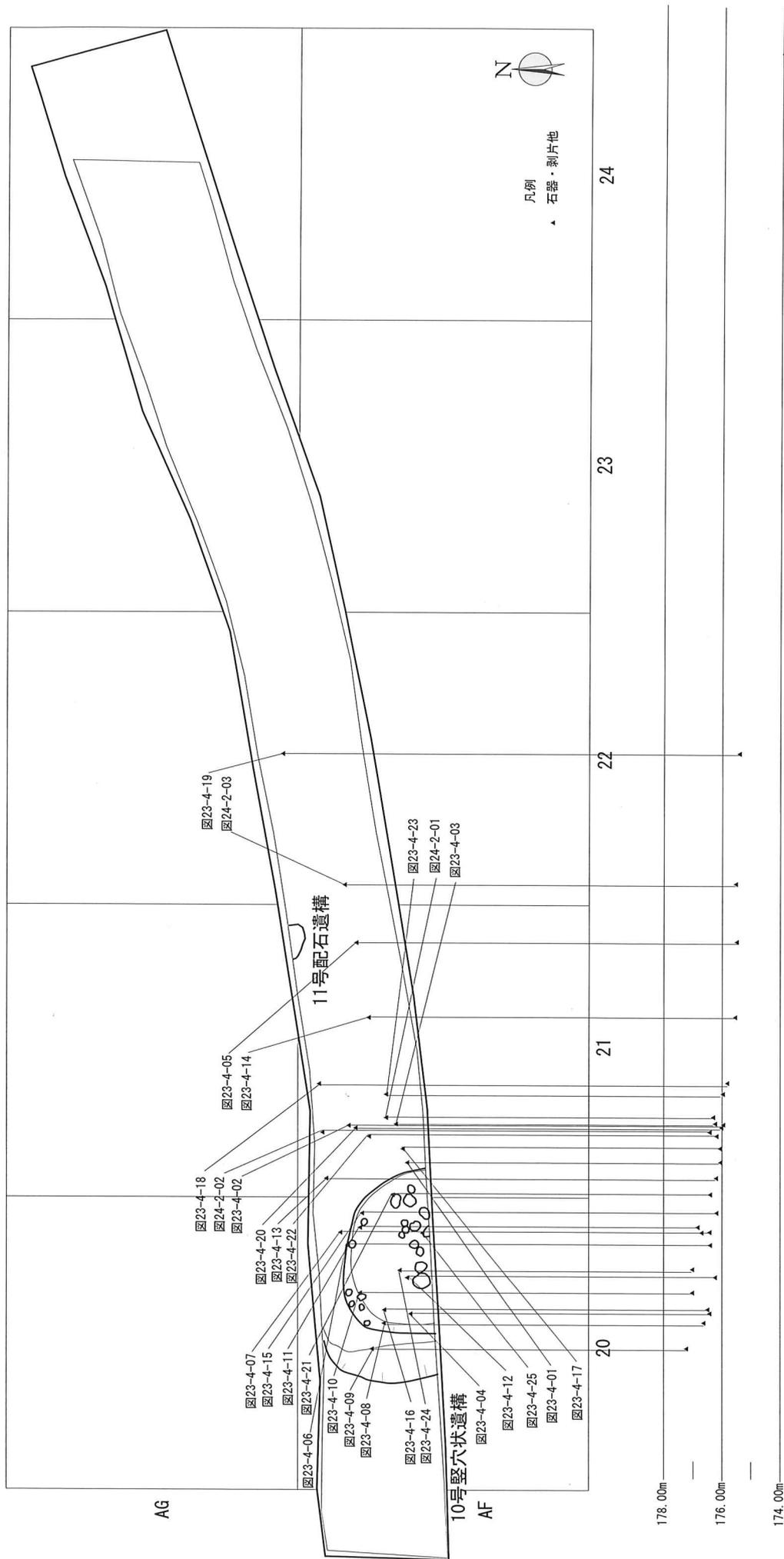


図 23-3 3-3 C調査区 縄文時代 10号竪穴状遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図②

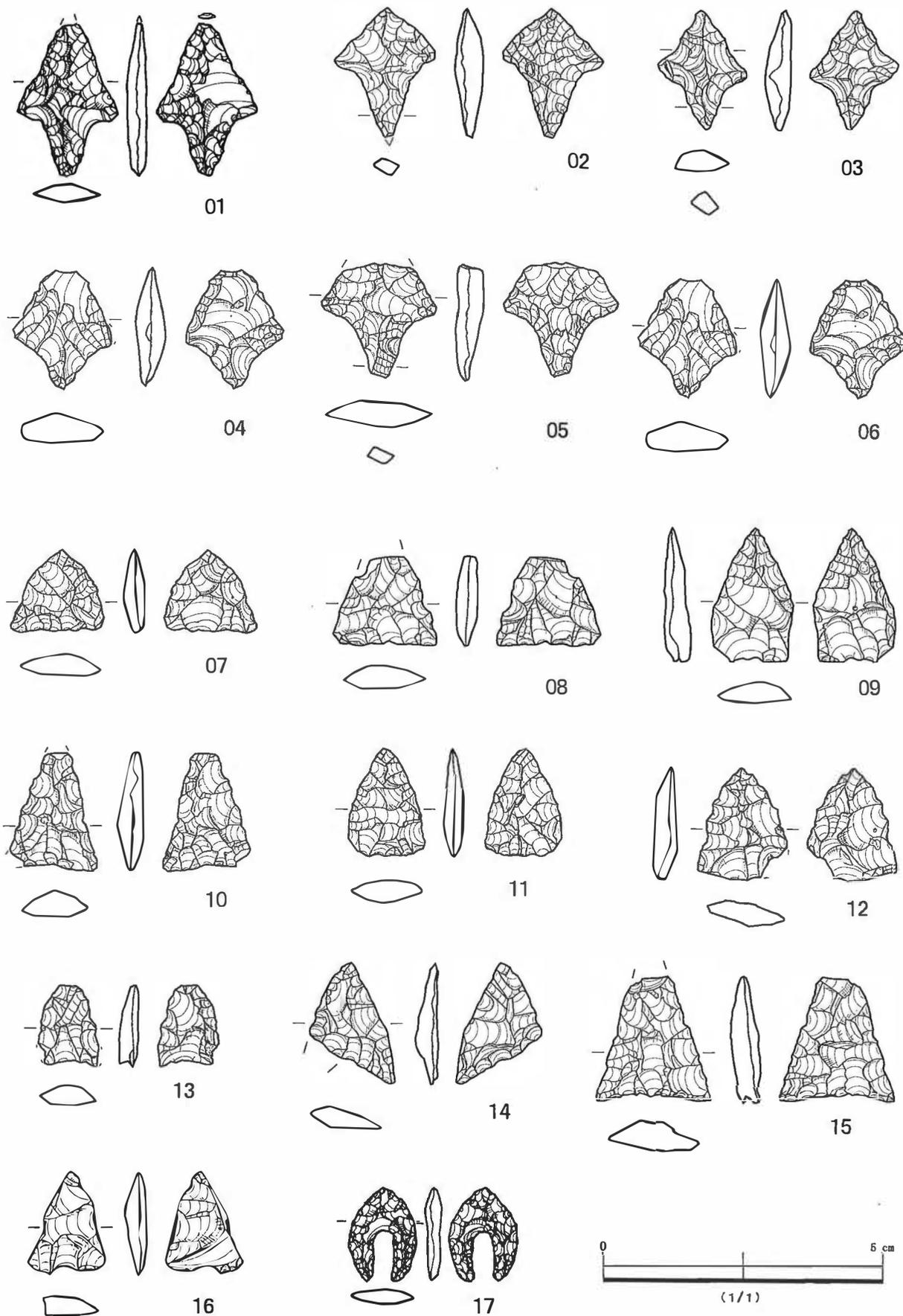


图 23-4 3-3 C 調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 石器実測図①

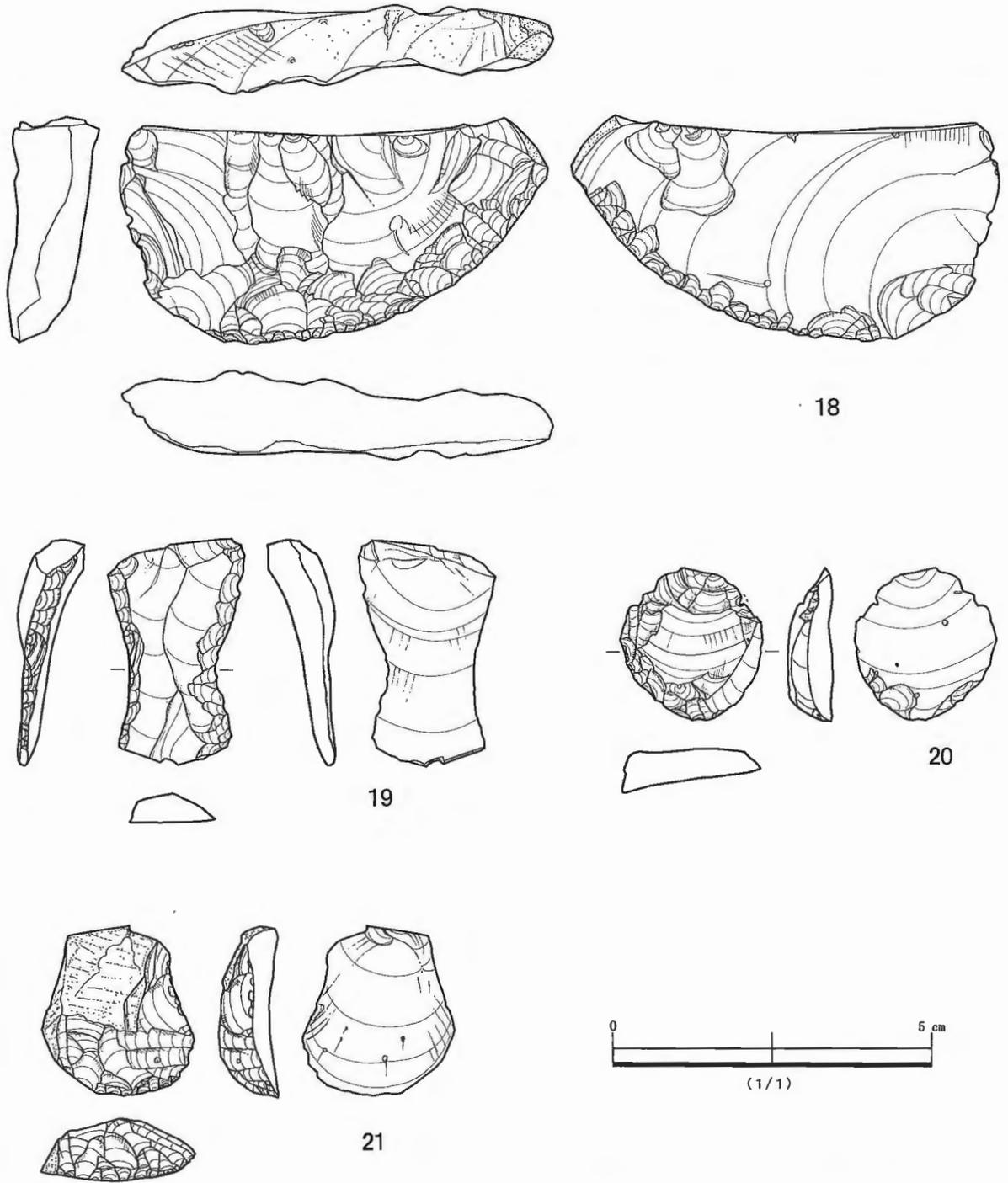


图 23-4 3-3C 調査区 縄文時代草創期 10号竖穴状遺構出土 石器実測図②

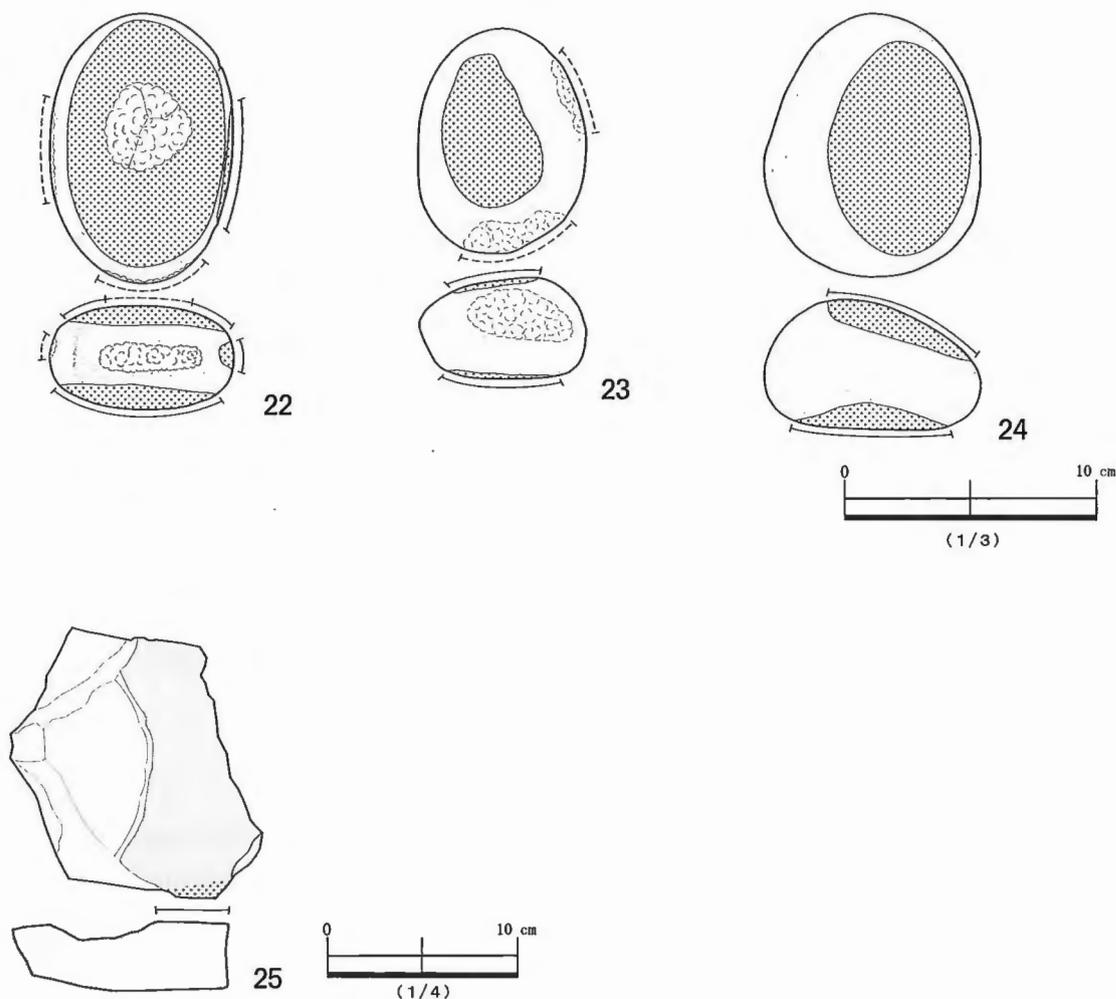


図 23-4 3-3C 調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 石器実測図③

て直線的に立ち上がる。外面は2条1対の縦位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒・金雲母を含み、器厚は5～6mmである。図 23-2-14 (19454) は微隆起線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mm強の10条の微隆起線文が平行、その下位に2条1対の斜位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒・金雲母を含み、器厚は6mmである。

#### 押圧縄文土器

図 23-2-15 (20086) は押圧縄文土器の胴部片で直線的にやや開いて立ち上がる。外面は横位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は6～7mmである。

#### 無文土器

図 23-2-16 (19340) は無文土器の口縁部片で僅かに開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に仕上げ、口唇部に棒状具でキザミ状に連続的に押圧されている。外面は無文で条痕状、内面も条痕状に調整が施される。胎土に金雲母・砂粒を少量含み、器厚は7mmの薄手である。図 23-2-17 (17580) は無文土器の胴部片で僅かに開き内湾気味に立ち上がる。外面は無文で条痕状、内面も条痕状調整に指頭痕・ヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は7～8mmの薄手である。図 23-2-18 (19285) は

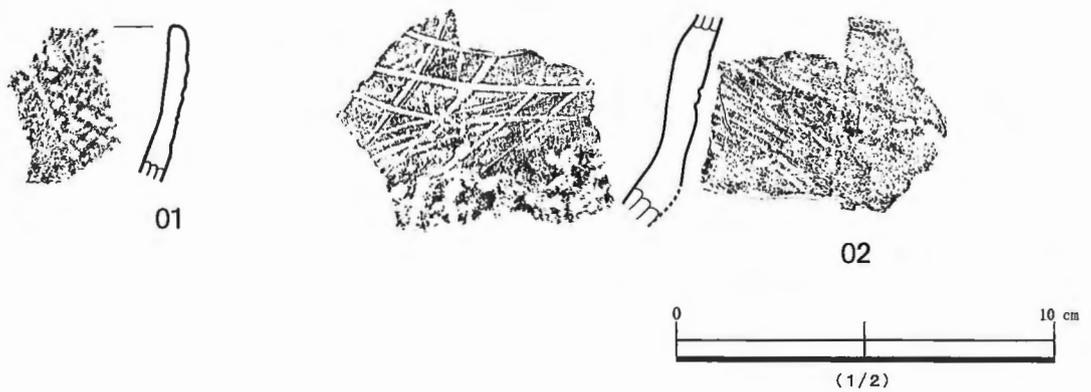


図 24-1 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

無文土器の胴部片で僅かに開き内湾気味に立ち上がる。外面は無文で擦痕状、内面は指頭痕・ヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含む他に繊維を含み、器厚は6～7mmである。

## 石器

### 有舌尖頭器

図 23-4-01 (20860) は黒曜石製の有舌尖頭器の先端部が僅かに欠損するほぼ完形品である。身は平面形態が左右対称の二等辺三角形で、身に比較して短い長さの小さな二等辺三角形の舌が凸基となる。裏面に素材面を一部に残すが、調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-02 (24739) は黒曜石製の有舌尖頭器の完形品である。身は平面形態が僅かに左右非対称の正三角形で、身に比較して長い二等辺三角形の舌が凸基となる。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-03 (17095) は黒曜石製の有舌尖頭器の完形品である。身は平面形態が左右対称の正三角形で、身に比較して同じ長さの二等辺三角形の舌が凸基となる。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-04 (21528) は黒曜石製の有舌尖頭器の未製品と考えられるものである。身は平面形態が本来左右対称の二等辺三角形であるものが尖頭部を失った形状となっている。身に比較してかなり短い二等辺三角形の舌が凸基となる。両面に素材面を残し、調整加工は押圧剥離による形態成形されたものであるが尖頭部周辺に調整加工が施されていない。図 23-4-05 (18002) は黒曜石製の有舌尖頭器の尖頭部が欠損するものである。身は平面形態が本来左右対称の正三角形と推定されるものである。身に比較してかなり短い二等辺三角形の舌が凸基となる。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。これらの有舌尖頭器は「花見山型」有舌尖頭器と呼ばれているもので縄文時代草創期に特徴的な石鏃である。有舌尖頭器としては最も新しい型とされ、隆線文土器に伴ってこれまでも出土していた。本調査区では隆線文土器の微隆起線文土器に伴って出土している点が明らかとなった。

### 石鏃

図 23-4-06 (20229) は黒曜石製の平面形態がほぼ正三角形の長さ 1.2 cm とかなり小形の三角鏃の完形品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-07 (20814) は黒曜石製の平面形態がほぼ正三角形の長さ 1.5 cm と小形の三角鏃の完形品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-08 (20046) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の先端部欠損品である。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-09 (24862) は黒曜石製の平面形態が左右非対象二等辺三角形の三角鏃の未製品と考えられるものである。両面調整加工

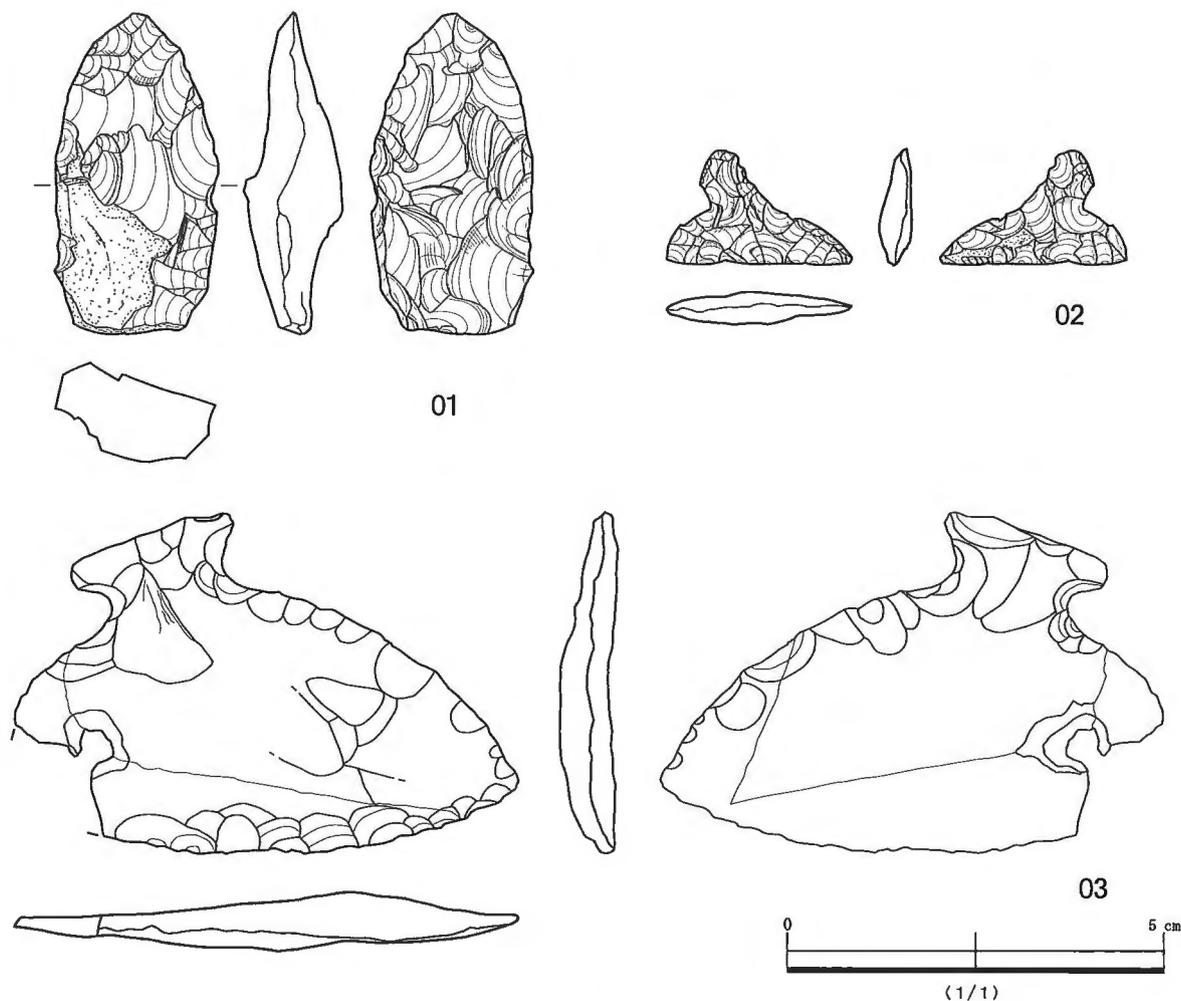


図 24-2 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

は押圧剥離による携帯成形されたものであるが左側縁や基部に細かな調整がされていない。図 23-4-10 (18559) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の先端部と左基部の一部が欠損品するものである。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-11 (17573) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の完形品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたもので、基部両端が丸く仕上げられる。図 23-4-12 (21149) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の基部右端が欠損品するものである。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-13 (19492) は黒曜石製の平面形態がやや不整形な二等辺三角形の三角鏃の基部左端部分が欠損するものである。両面調整加工は粗いもので未製品と考えられる。図 23-4-14 (20395) は黒曜石製の本来は平面形態が均整のとれた二等辺三角形のやや深い抉り凹基の左脚部欠損品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-15 (21073) は黒曜石製の平面形態が均整のとれた二等辺三角形の三角鏃の先端部欠損品である。基部は僅かに内湾気味となる。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-16 (24869) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃である。両面調整加工は粗く未製品の可能性があるものである。これらの三角鏃には未製品と考えられるものも一定量含まれていることから三角鏃は「三角形形態→脚部の部分的形成→形態整形」の製作過程を想定すると最終的に凹基三角鏃とする前段階の未製品であると予想される考えがある。

図 23-4-17 (20000) は黒曜石製の平面形態の脚部が円形となる小形円脚鏃の完形品である。両面調整加工は微細な押圧剥離による携帯成形されたものである。

## スクレイパー

図 23-4-18 (20356) は黒曜石製の削器である。横長剥片素材として側縁に押圧剥離で弧状の刃部を形成している。興味深い点は素材裏面の一部と背面を覆うように両面加工の平坦加工がなされている点から、おそらく両面加工体を作成する途上で放棄され、削器に作り替えられたと推定される。図 23-4-19 (24858) は黒曜石製の削器である。縦長剥片を素材として側縁に押圧剥離で内湾する弧状の刃部を形成している。

## 篋状石器

図 23-4-20 (19613)・21 (19364) は黒曜石製の篋状石器である。縦長剥片を素材として素材末端に押圧剥離で、刃先角がやや急角度の側縁に鋭い刃部を形成している。21 は直接打撃の矩形剥片素材の末端に押圧剥離で、刃先角がやや急角度の鋭い刃部を成形している。

## 敲・凹・磨石

図 23-4-22 (20293)・23 (19414) は敲・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形を呈し、22 は両面が磨り面と表面中央と端部に敲痕が残される。23 は両面が磨り面、側面と端部に敲痕が残される。図 23-4-24 (17037) はやや不整な楕円形磨石で、両面が磨り面である。

## 石皿

23-4-25 (18593) は板状の石皿として利用されたと推定される破損品で、表面を磨り面としている

## 縄文時代早期

### グリッド

### 土器

#### 押型文系土器

図 24-1-01 (17415) は押型文土器の口縁部片で内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は縦位の沈線文に格子押型文を施文する。内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に白色粒を多くを含み、器厚は 5～7mm である。

#### 沈線文系土器

図 24-1-02 (17040) は条痕文系土器の沈線文土器の胴部片で開いて立ち上がる。外面は粗い格子状の沈線文、内面は条痕文調整が施される。胎土に白色粒・繊維を含み、器厚は 8～11mm である。

### 石器

#### 尖頭器

図 24-2-01 (16599) は 6 層から出土したチャート製の両面加工石器で尖頭器の未製品と考えられるものである。断面形態は不整形で表面には自然面を残している。尖頭部から右側縁に押圧剥離による細かな調整が施される。

#### 石匙

図 24-2-02 (16577) は 6 層から出土した黒曜石製の横形の小形石匙である。平面形態は左右非対称な二等辺三角形に浅い抉りの入れた凹基石鏃に似ており、全体に丁寧な両面調整加工で成形され、刃部は直線的である。図 24-2-03 (14341) は 6 層から出土したホルンフェルス製の横形石匙である。全体に調整が不明瞭である。

### 3-3D・E調査区

本調査区は今回調査された調査区のなかで最も東側に位置する。3-3E調査区東端は急傾斜面となり、調査区東西で標高176.7～179.5mへと傾斜している。また調査区内の基盤層はほぼ溶岩流でホール状地形や平坦な地形を利用した遺構が検出された。また調査範囲の設定が東西方向約20mの幅の狭いトレンチ状を呈しており南北方向への面的広がりには不詳ではあるが、縄文時代草創期と推定される8・13号縦穴状遺構が2基東西方向に並列に検出された。内8号縦穴状遺構内から土器を伴わないで尖頭器が30点以上纏まって出土したことが特筆される調査区である。

本調査区からは遺物合計360点、土器12点、石器・礫・剥片他348点が出土した。

#### 8号縦穴状遺構 (SB3008)

##### 石器

##### 尖頭器

図25-2-01(23874)はガラス質安山岩製の尖頭器の完形品である。長さが6cmの中形、身部の厚さは0.9cmとやや薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部中央やや上部にあり、そこから先端部に向かって次第に細く、基部は尖基、断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に側縁には押圧剥離による微細な剥離調整が施される。図25-2-02(21557)は珪質頁岩製の尖頭器で先端部が欠損する。長さが残存部で7.5cm、推定で10cm未満の中形、身部の厚さは0.8cmの薄手、平面形態は左右対称の柳葉形で最大幅が身部中央より上部にあり、そこから基部に向かって次第に細くなり尖基、断面形態は凸レンズ状を呈する。両面調整加工に側縁には押圧剥離による微細な剥離調整が施される。図25-2-03(24055)は安山岩製の尖頭器のほぼ完形品である。長さが7.3cm前後の中形、身部の厚さは0.9cmとやや薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部下部にあり、そこから基部に向かって細く僅かに欠損、先端部は次第に細く鋭く尖る。断面形態は凸レンズ状を呈する。両面調整加工に側縁にはソフトハンマーの直接打撃、尖頭部には間接打撃に押圧剥離も用いられている。図25-2-04(23875)は安山岩製の尖頭器で先端部が欠損する。長さが現存で5.0cm、推定で10cm未満の中形、身部の厚さは0.7cmと薄手、平面形態は僅かに左右非対称の柳葉形で最大幅が身部中央にあると推定される。基部は円基、断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に左側縁は押圧剥離による粗い剥離調整が施される。基部には間接打撃による調整も使用されている。

図25-2-05(22061)は頁岩製の尖頭器で完形品である。長さが7.8cmの中形、身部の厚さは0.8cmと薄手、平面形態は左右対称の柳葉形で最大幅が身部上半にあり、基部に向かって次第に細くなり鋭い尖基、先端部も鋭く尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁はソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部には間接打撃による調整加工も使用されている。図25-2-06(22062)は砂岩製の尖頭器で完形品である。長さが6.1cmの中形、身部の厚さは0.9cmと薄手、平面形態は左右対称の木葉形で最大幅が身部下半にあり、基部に向かって細くなり尖基、先端部も尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁はソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部には間接打撃による調整加工も使用されている。図25-2-07(22024)は砂岩製の尖頭器で完形品である。長さが6.5cmの中形、身部の厚さは0.7cmと薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部中央にあり、基部に向かって直線的に細くなる尖基、先端部も丸みをもって尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁はソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部には間接打撃による調整加工も使用されている。図25-2-08(22112)は頁岩製の尖頭器で先頭部と基部が僅かに欠損するものである。残存長さが5.8cmの中形、身部の厚さは0.7cmと薄手、平面形態はほぼ左右対称の柳葉形で最大幅が身部下半にあり、基部に向かって細くなる。断面形

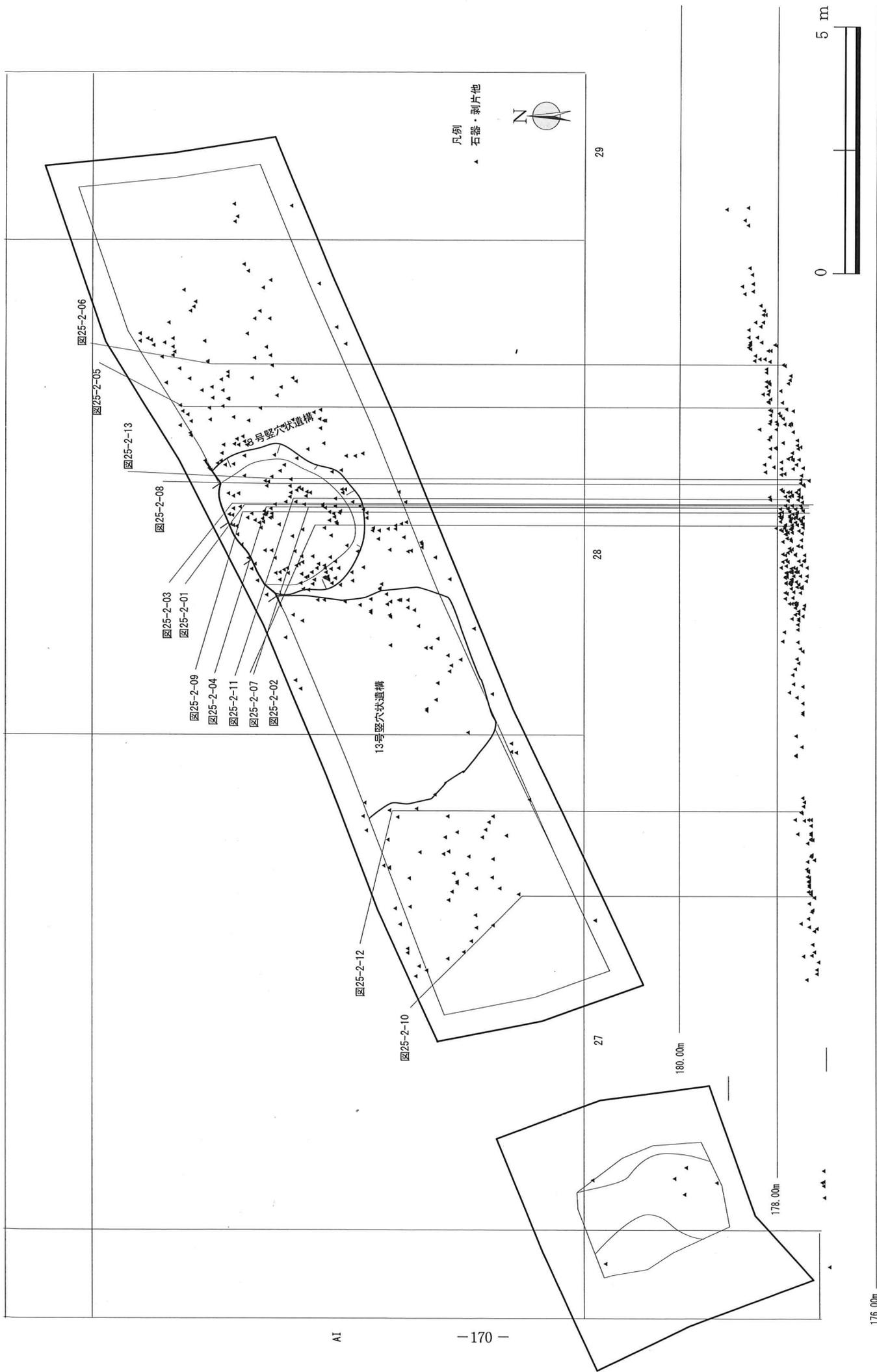


図 25-1 3-3D・E調査区 縄文時代 8号竪穴状遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図

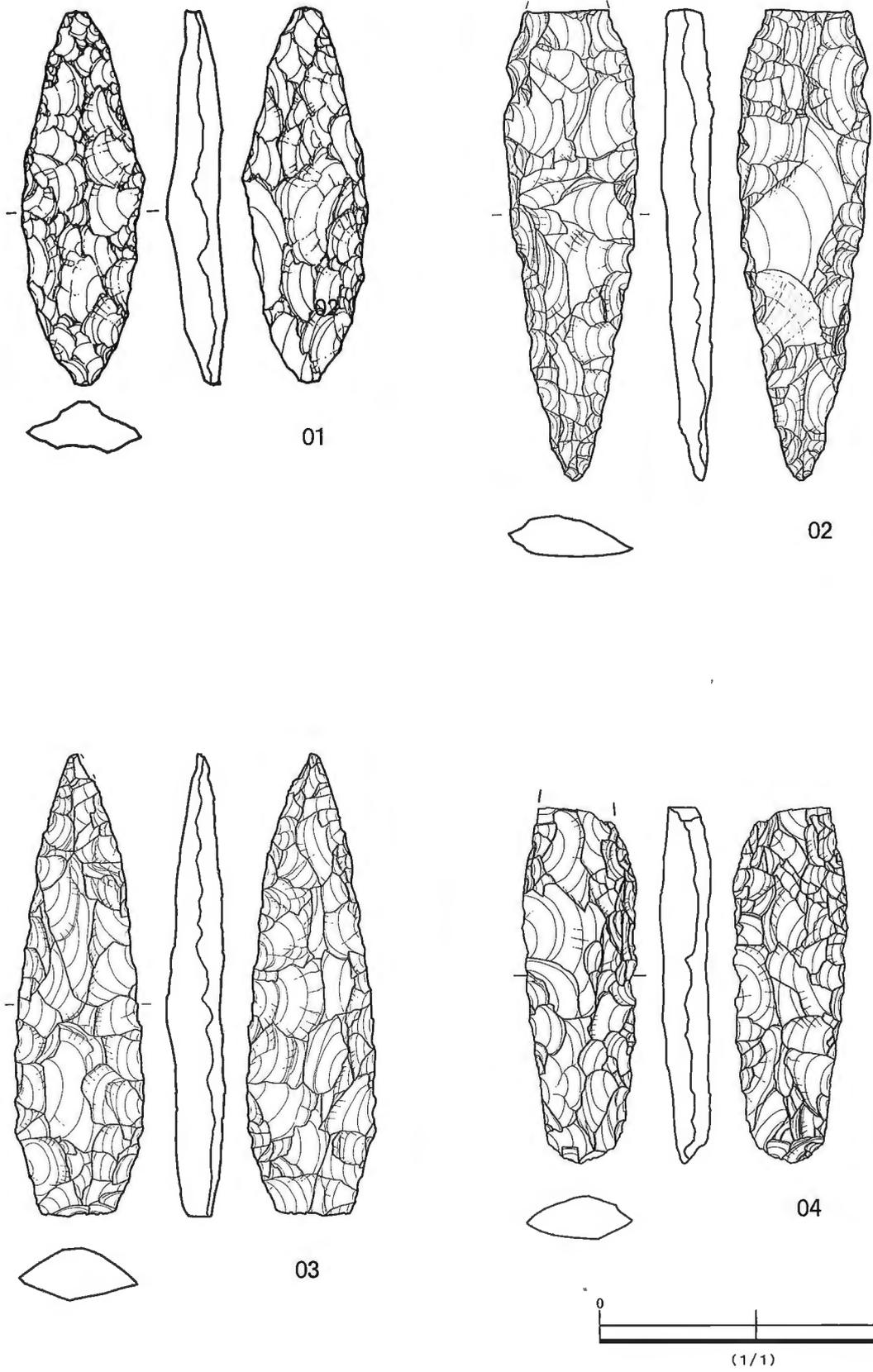


图 25-2 3-3 E 調査区 縄文時代草創期 8号竖穴状遺構出土 石器実測図①

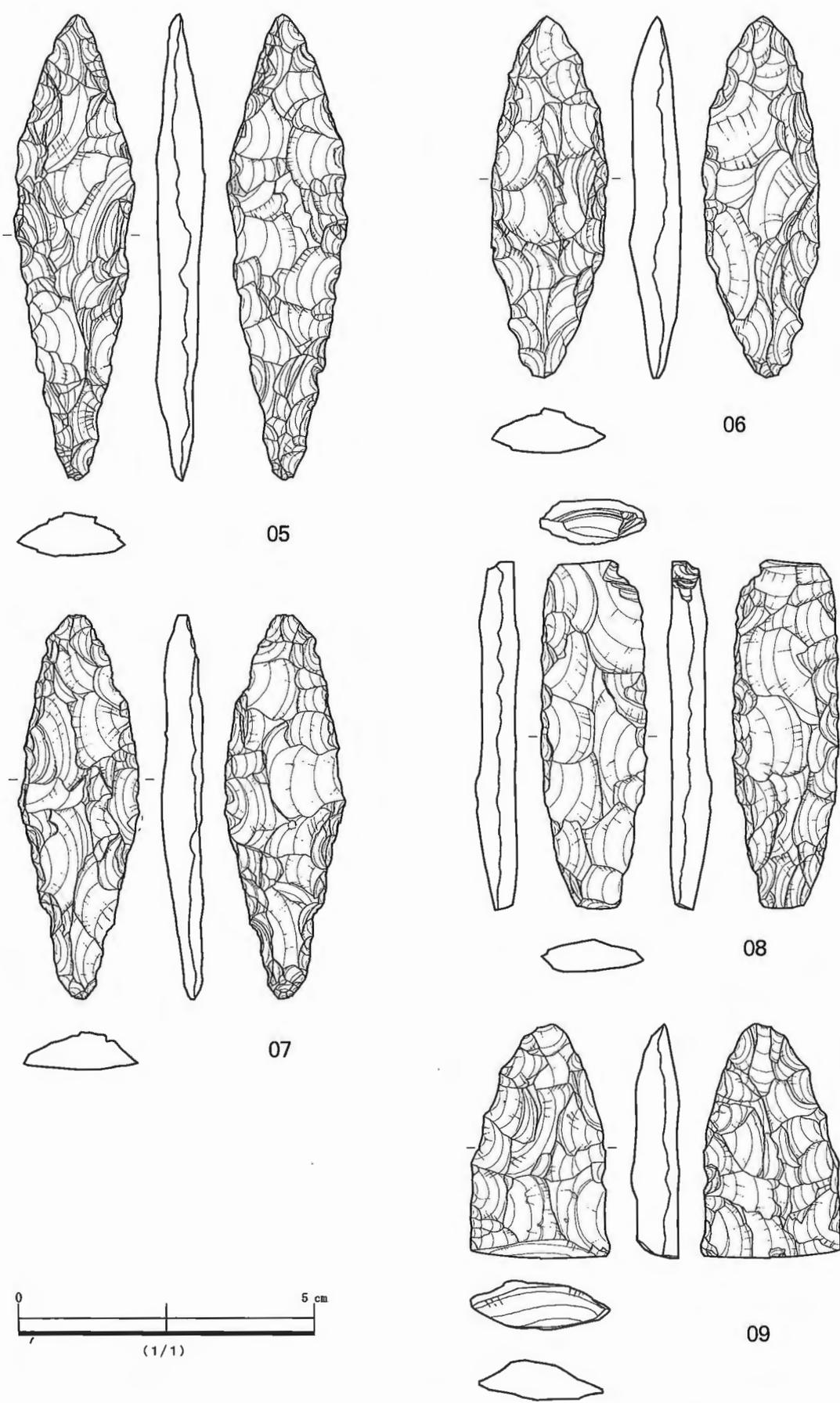


图 25-2 3-3 E 調査区 縄文時代草創期 8号竖穴状遺構出土 石器実測図②

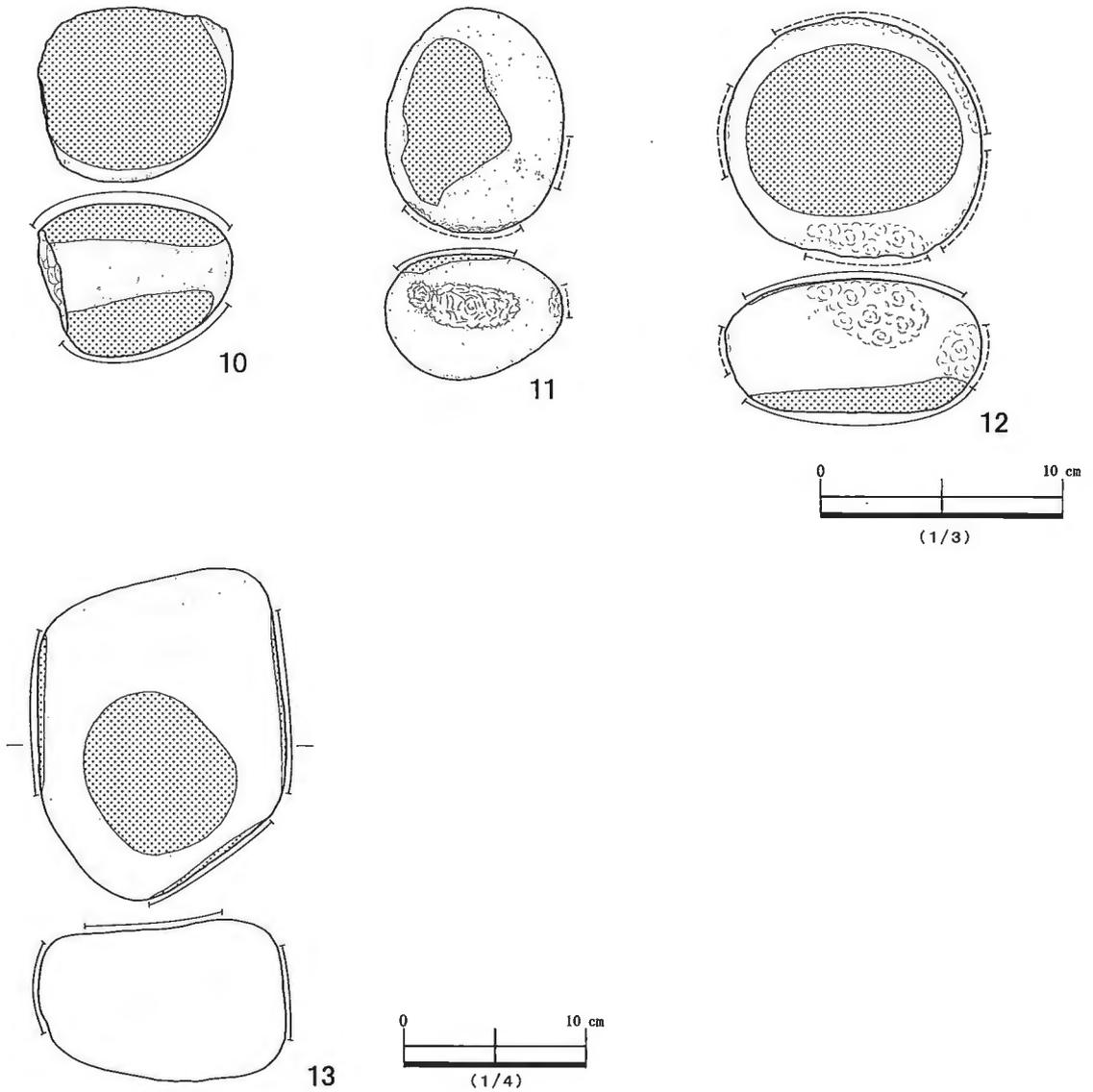


図 25-2 3-3 E 調査区 縄文時代草創期 8号竖穴状遺構出土 石器実測図③

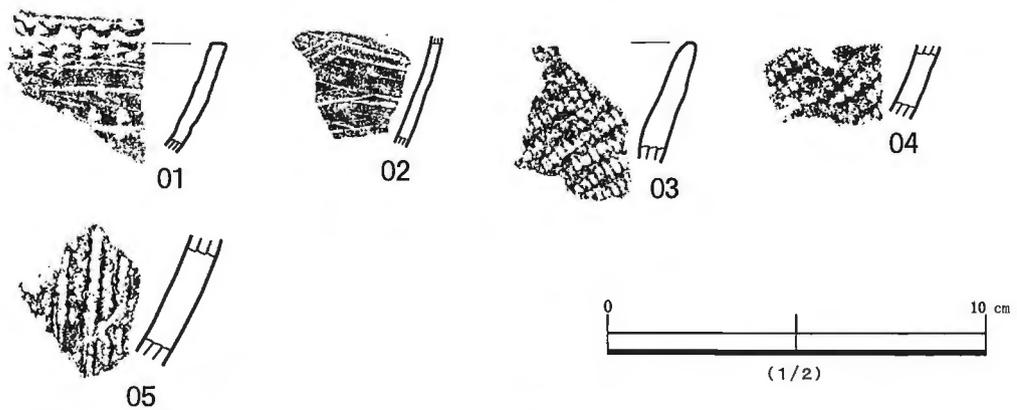
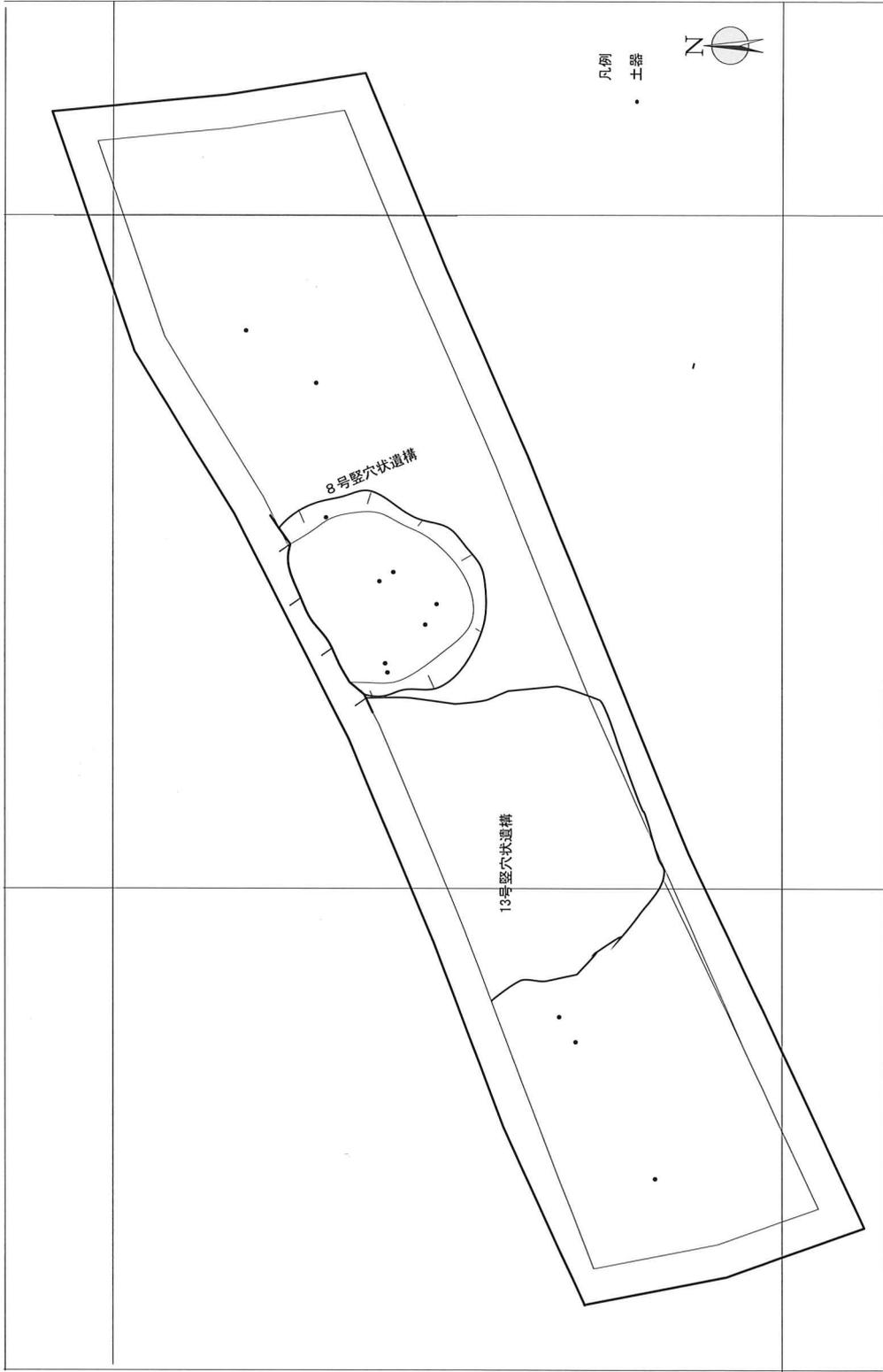
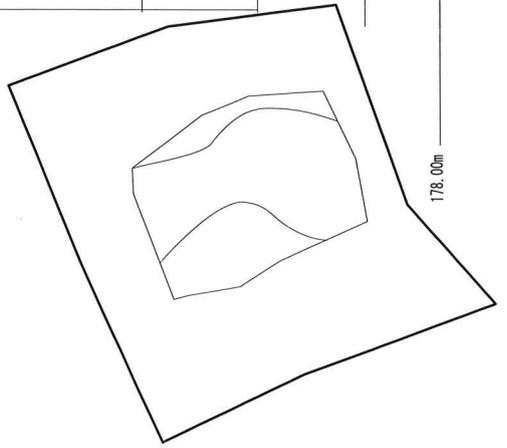


図 26-2 3-3 E 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図



A I



180.00m

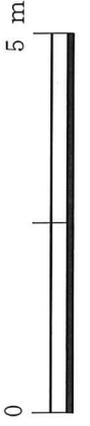


図 26-1 3-3 E 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁は押圧剥離による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部の残存部には間接打撃による調整加工も使用されている。図 25-2-09 (23893) は頁岩製の尖頭器で身部下半が欠損するものである。残存長が 3.9 cm、身部の厚さは 0.8 cm と薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形と推定され、先端部丸みをもって尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁は押圧剥離による微細な剥離調整が施される。先頭部には間接打撃による調整加工も使用されている。

## グリッド

### 土器

#### 縄文時代早期末葉～前期初頭

##### 薄手土器・木島式土器

図 26-2-01 (20718) は木島式土器の口縁部片で、僅かに内湾気味に立ち上がり口唇部は平坦で刺突状キザミが施される。外面は横位 3 条の連続刺突文間に沈線文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は淡黄色、胎土は細かい金雲母を含み、器厚は 4～5 mm と薄手である。図 26-2-02 (20718) は木島式土器の胴部片である。外面は横位の沈線文を施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は淡黄褐色、胎土は細かい金雲母に白色粒を含み、器厚は 3 mm と極めて薄手である。

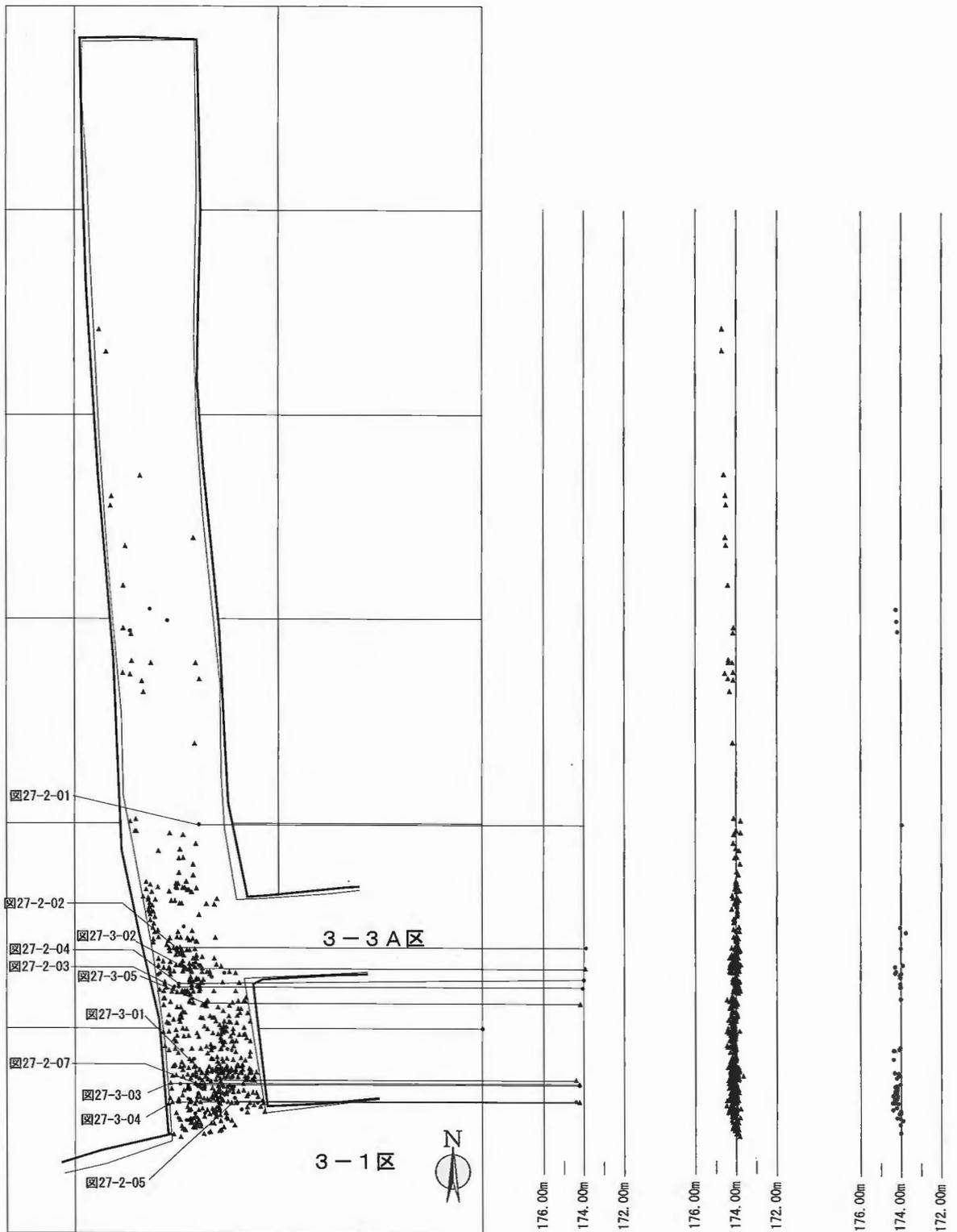
#### 縄文時代前期

##### 縄文施文土器

図 26-2-03 (20758) は斜縄文施文の口縁部片で、開いて立ち上がり口唇部は丸く仕上げている。外面は斜縄文が施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は 4～7 mm である。図 26-2-04 (20761) は斜縄文施文の胴部片である。外面は斜縄文が施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調は淡茶褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は 7 mm である。

##### 撚糸文施文土器

図 26-2-05 (20770) は撚糸文施文の胴部片で、開いて立ち上がる。外面は縦位撚糸文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は 8 mm である。



3-4区 7層 石器分布図



凡例

- 土器
- ▲ 石器・剥片他

図 27-1 3-4調査区 縄文時代 グリッド出土 遺物分布図

### 3-4 調査区

本調査区は今回調査された調査区の最も北側に位置する。南北方向に約 54 m、幅約 4 m の細長いトレンチ状の調査区である。標高は南～北に 174.4 ～ 174.8 m と変化する。本来は北に行くに従って標高が徐々にもっと高くなる緩斜面地形であったが、水田化によって削平されたため北側に行くに従って本来の縄文時代包含層が極めて薄い状況であった。

本調査区からは遺物が合計 590 点、その内 7 層からは計 511 点、土器が 44 点、石器・礫・剥片他が 467 点、6 層からは計 77 点、土器が 16 点、石器・礫・剥片他が 61 点であった。土器は縄文時代草創期の押圧縄文土器が出土した。

#### グリッド

#### 縄文時代草創期

#### 押圧縄文土器

図 27-2-01 (21493) は押圧縄文土器の口縁部片で、口唇部は平坦に仕上げキザミが施文される。外面

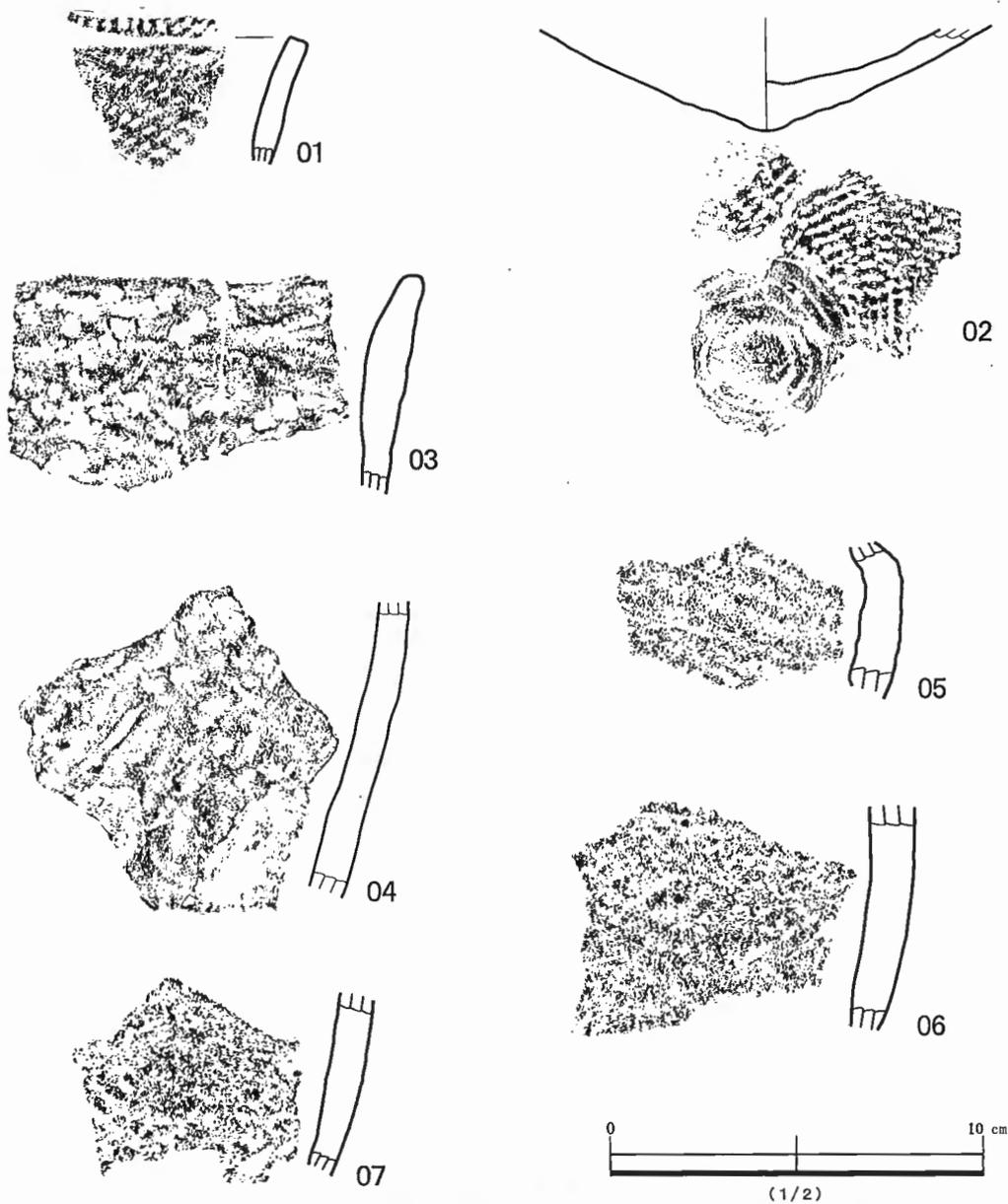


図 27-2 3-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

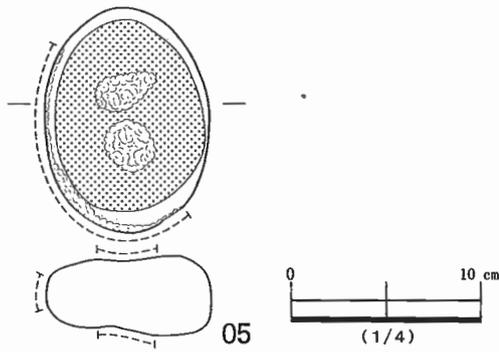
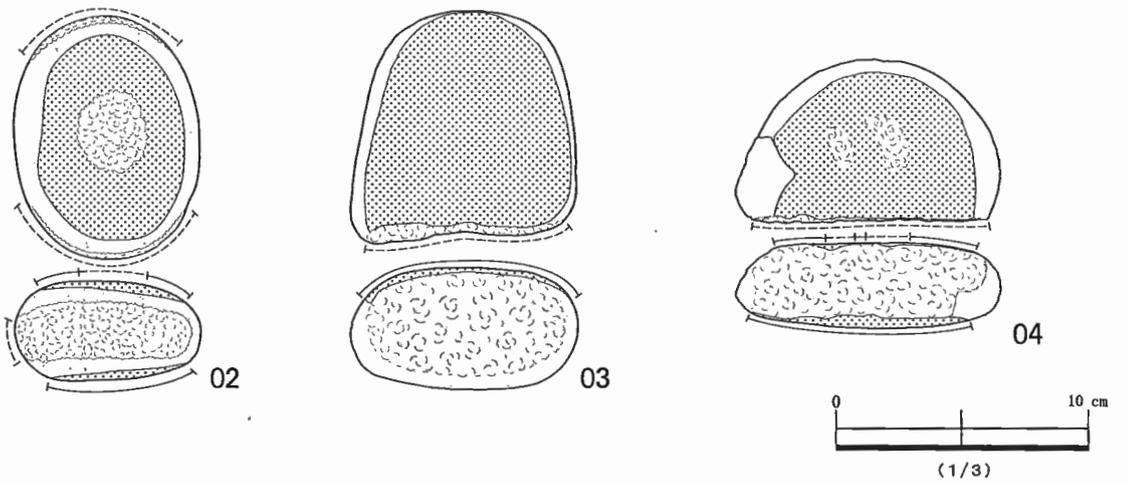
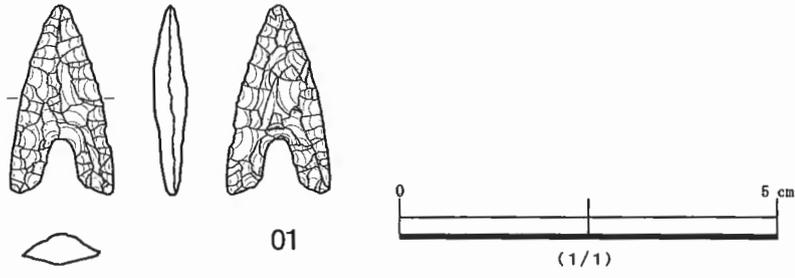


図 27-3 3-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

の施文原体は直線的な不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた絡条体で斜位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は黒褐色、胎土に粒の大きい砂粒や雲母・繊維を含み、器厚は5mmである。図27-2-02(16851)は押圧縄文土器の尖底部片で、大きく開いて内湾気味に立ち上がる。尖底部の外面には六角形の螺旋沈線文が施文される点に特徴がある。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた絡条体で多方向に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土に金雲母に繊維が目立つ、器厚は4～12mmである。

図27-2-03(16836)は押圧縄文土器の口縁部片で、僅かに外反気味にやや開いて立ち上がり、口唇部を平坦に仕上げている。外面の施文原体は非直線的な太くて不明瞭な縄Rを巻き付けた絡条体と推定され横～斜位に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は黒褐色、胎土に雲母に粒の大きな砂粒を含み、器厚は8～11mmである。図27-2-04(16465)は03(16836)と同一個体の胴部片である。押圧縄文の施文、色調・胎土等は他の押圧縄文土器に見られないものである。色調・胎土では爪形文土器に共通するものがあるが、本遺跡内では特徴的な押圧縄文土器である。

#### 縄文時代早期

##### 条痕文土器

図27-2-05(5933)は内外面に条痕文調整される胴部片で、段を有している。色調は淡茶褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維が目立ち、器厚は9～11mmである。図27-2-06(5943)・07(15312)は無文土器の胴部片で、僅かに内湾して立ち上がる同一個体である。内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は橙褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は9～12mmである。

##### 石器

##### 石鏃

図27-3-01(6441)は6層から出土した玉髄質の珪質頁岩製の石鏃で、平面形態が細長い均整のとれた二等辺三角形で基部はやや細く深く抉られている凹基である。微細な両面調整加工で、押圧剥離は細長い規則的な四角形の剥離面である。

##### 敲・凹・磨石

図27-3-02(17700)は7層から出土した粗粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形を呈している。両面に磨り面、表面中央と側面に敲痕がある。図27-3-03(6459)・04(6455)は6層から出土した粗粒砂岩・粗粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態が隅丸長方形や円形の礫を半割して割れ口面を光沢のある敲面としておりスタンプ形石器と同様の形態と機能を有している。図27-3-05(16823)は7層から出土した中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態が楕円形である。

## 小結

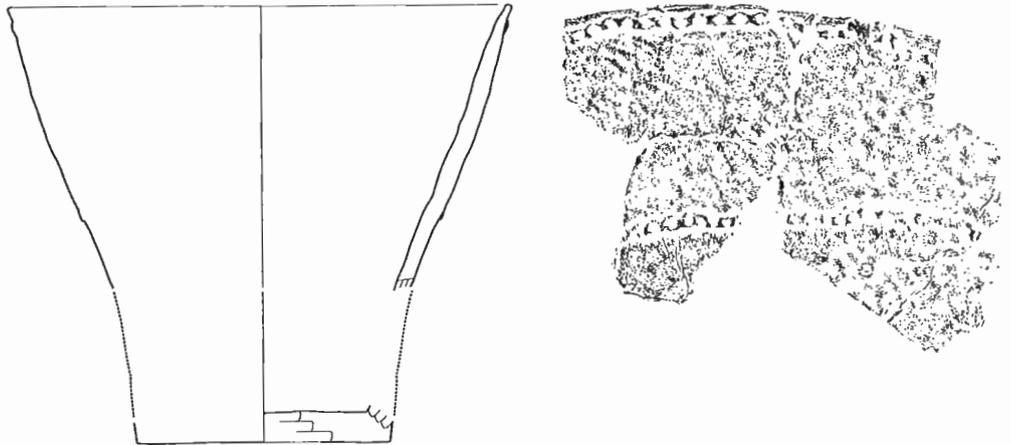
### 土器

ここでは縄文時代草創期の遺構から出土した土器を概観して小結とする。

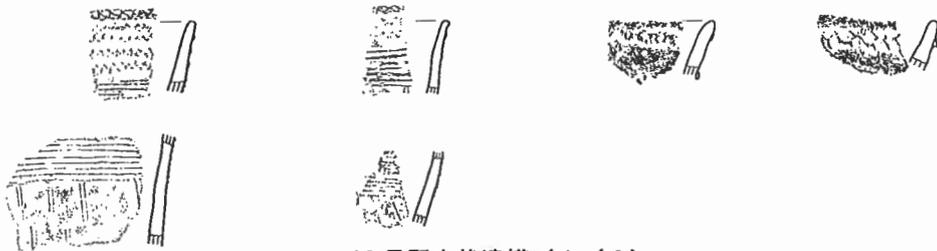
#### 隆線文土器

隆線文土器は3-1調査区においては客体の土器型式である。この土器型式を所属時期とする確実な遺構は52号土坑である。この遺構から出土したのは隆線文土器の太隆起線文土器型式に所属・平行すると分類される一括土器である。平底から外反しながら開いて立ち上がり、口縁部は平口縁とする。法量は推定口径22cm、推定器高23cmを測る深鉢形の器形を推定できるものである。外面には口唇直下に口縁部に平行する1条、胴部中位に1条の計2条の横位と僅かに斜位となる幅6mmの粘土紐による隆線文が貼り付けられ、その上をキザミが連続し施文される。この土器型式に見られる隆線文上の施文にはキザミ・刺突や押圧・押し潰し等が連続し施される。施文原体にはヘラ状具や爪形状具（竹管や人の爪を含む）が想定される。本遺跡内の文様が施文される土器のなかでは最も古い時期の土器型式と考えられる。年代はこの土器の内面に付着した食物残渣と推定された煤状炭化物のAMSによる炭素年代測定から従来の年代で11380年±50年、暦年校正BC11405-11200（西暦2000年から13405-13200）年前の数値が得られている。

3-3C調査区10号堅穴状遺構は、隆起線文土器の微隆起線文土器の口縁部他が主体的にまとまって出土し、この時期に所属する堅穴状遺構である。全体の器形を知ることができる底部が出土していないため不明である。器面は丁寧な調整・施文が施され光沢がある製作で、口唇部にはキザミが施文さ

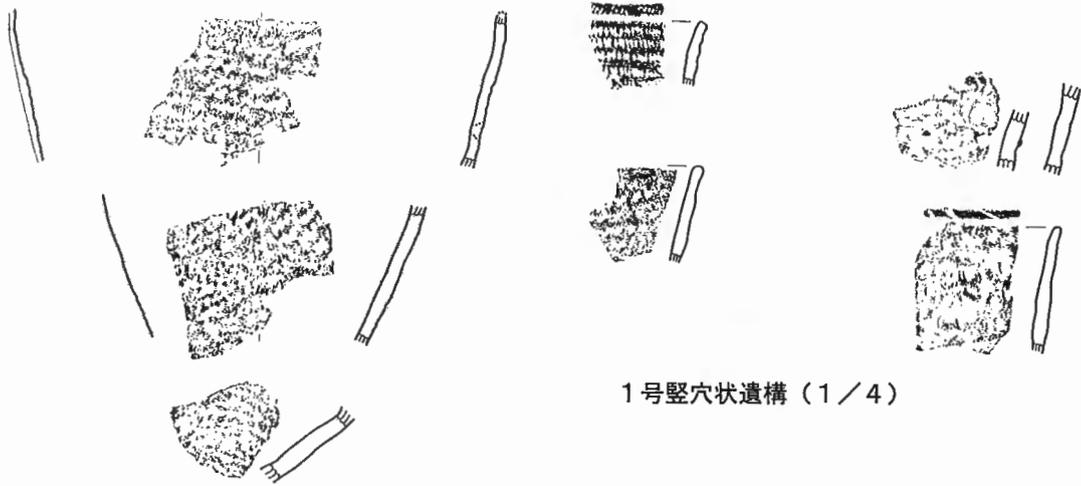


52号土坑（1/4）

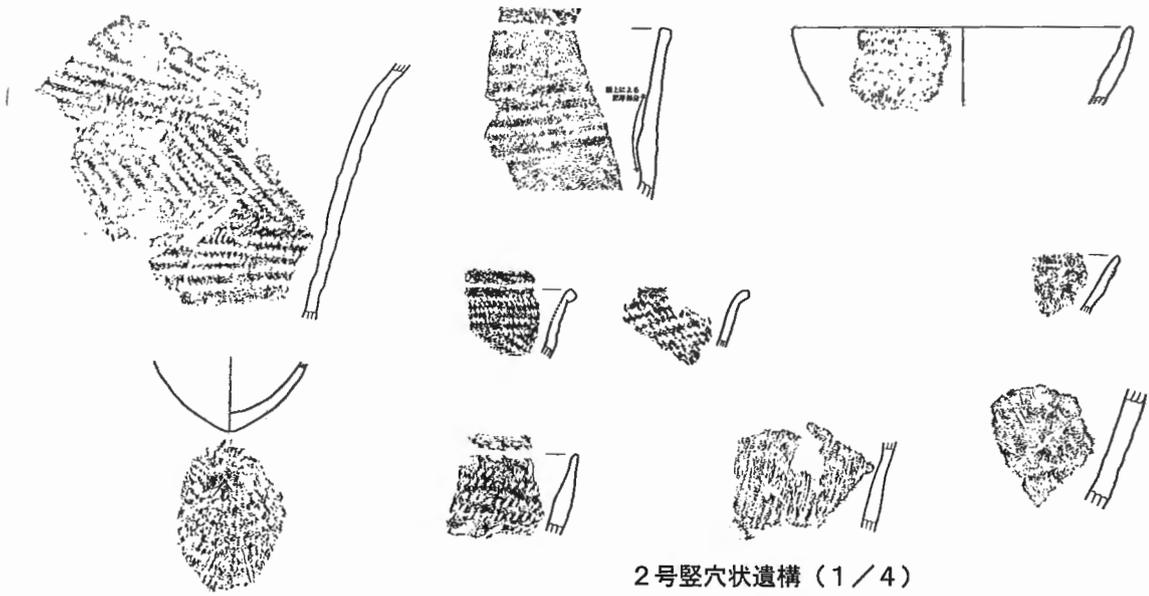


10号堅穴状遺構（1/4）

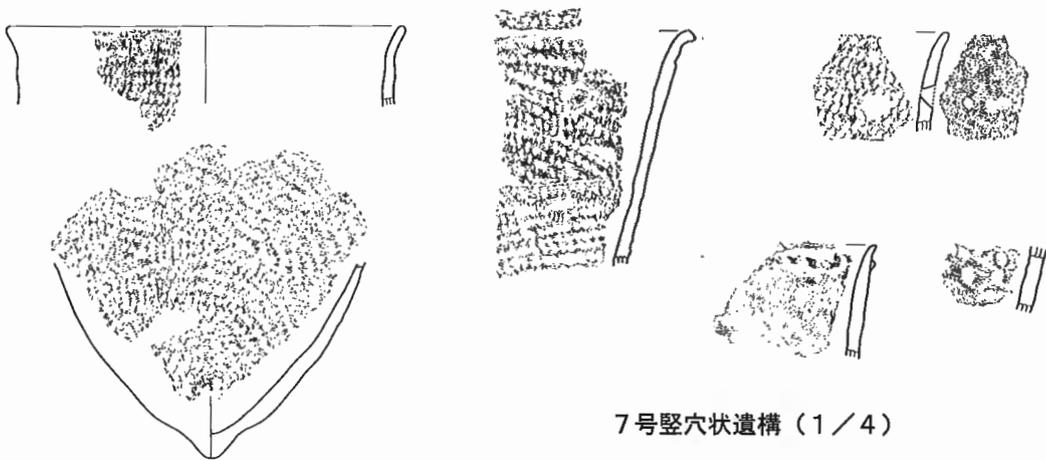
図 28-1 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 隆線文土器



1号竖穴状遺構 (1/4)



2号竖穴状遺構 (1/4)



7号竖穴状遺構 (1/4)

图 28-2 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 押圧縄文土器

れ、外面は上位に薄い粘土紐を貼り付けた隆線文上を押し潰して鋸歯状文様となる特徴的な施文が行われる。その下位には幅約1mmの微隆起線文が横・縦・斜位に複数単位施文される。この土器型式が示す文様・器面調整・色調・胎土は他の土器型式にない特徴的なもので、極めて単独的な様相を示している土器型式である。

隆線文土器のなかで太隆起線文土器と微隆起線文土器には施文方法だけでなく、器面からの観察される調整・色調・胎土等に明瞭な差が存在することは指摘したが、さらにこれら2種類の土器型式が遺構内から供伴して出土しないことから時間差があったことが推定される。これまで報告された太隆起線文土器→微隆起線文土器への土器編年観のなかで捉えることができると考える。

#### 押圧縄文土器

3-1調査区1・2・3・4・5・6・7・9・11・12・14号竪穴状遺構から主体的で最も多く出土した土器型式である。施文原体は直線的な棒状具と推定される芯に1段の縄を巻き付けた絡条体を回転せずに押圧して施文する絡条体圧痕文である。施文原体の縄にはRとLがあるがRが主体で、巻きは左巻きが主体、巻きの間隔は1cm当たり3巻きとするものが主体である。しかし出土状況からこの原体の相違が年代差を示していないと考えられる。

1号竪穴状遺構は出土状況から床面に厚さ約10cmの遺物が集中する層が見られ、その層から出土する押圧縄文とその上位の覆土から出土する押圧縄文の器面調整・色調・焼成・胎土には、以下の相違が観察される。床面集中層の押圧縄文土器は器面に微隆起線文土器に観察された同様の丁寧なミガキ状の光沢があり、やや明るい色調、焼成が極めて良好で硬質である。覆土上位から出土する押圧縄文土器は器面に光沢がなく、内面調整は指頭痕による顕著な凹凸、胎土は金雲母を多く含んでいるためか、出土したものは脆弱なものが多く観察され、器厚は薄いものである。1号竪穴状遺構北側に隣接して検出された7号竪穴状遺構は検出された竪穴状遺構の中で最大規模、遺物出土量も最大であるが、この主体の土器は押圧縄文土器である。胴部から直線的にやや開いて立ち上がり口唇部を強く外反させる土器、乳房状を呈する尖底土器等、後者の押圧縄文土器の特徴を示す土器である。前者の押圧縄文土器と混在して出土している。この7号竪穴状遺構の年代は覆土炭化物のAMS測定年代から従来の年代10910±60年、暦年校正BC11005-10865(西暦2000年から13005-12865)年前の数値が得られている。同様の分析を行った5号竪穴状遺構は同じく押圧縄文土器型式の竪穴状遺構であるが、従来の年代10850±40年、暦年校正BC10935-10865(西暦2000年から12935-12865)年前の7号竪穴状遺構の年代に近似する数値が得られていることから、押圧縄文土器型式の年代を大鹿窪遺跡においては、ほぼ得ることができたと考える。

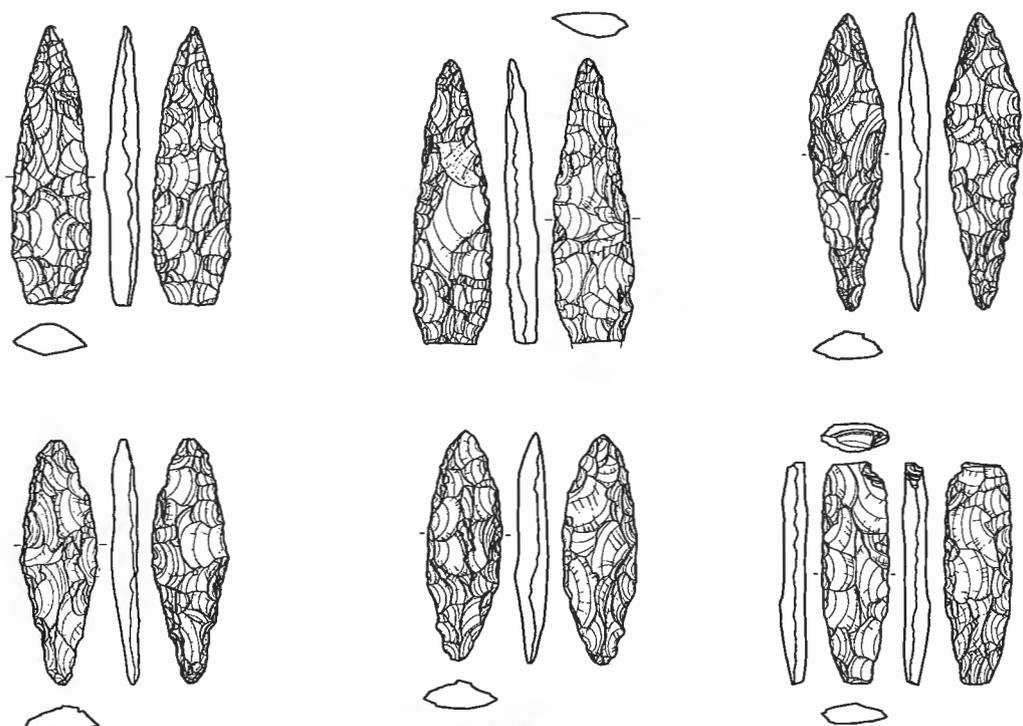
以上から隆線文土器の太隆起線文土器型式は測定年代から押圧縄文土器型式より470年古い型式であること、このことは太隆起線文土器が出土した52号土坑が押圧縄文土器を主体に出土する2・11号竪穴状遺構と重複しながら切られていることから、少なくとも52号土坑→2・11号竪穴状遺構の新旧関係からも測定年代の新旧関係を補完している。そのことは470年間に隆線文土器の太隆起線文土器→微隆起線文土器→押圧縄文土器と変化したことを大鹿窪遺跡は示している。従来の土器編年からはこの年代幅のなかでは5形式が想定され、この間を埋める土器型式として細隆起線文土器や爪形文土器が想定されるがいずれも客体で、主体となって出土する遺構が検出されなかった。さらに押圧縄文土器は型式学的に細分される可能性があることが指摘できた。この点の更なる検証は今後の課題として残された。

(小金澤)

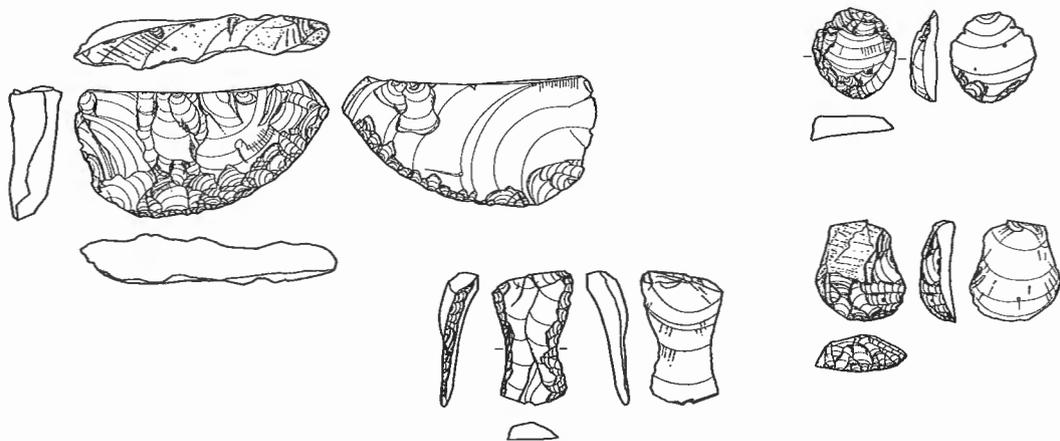
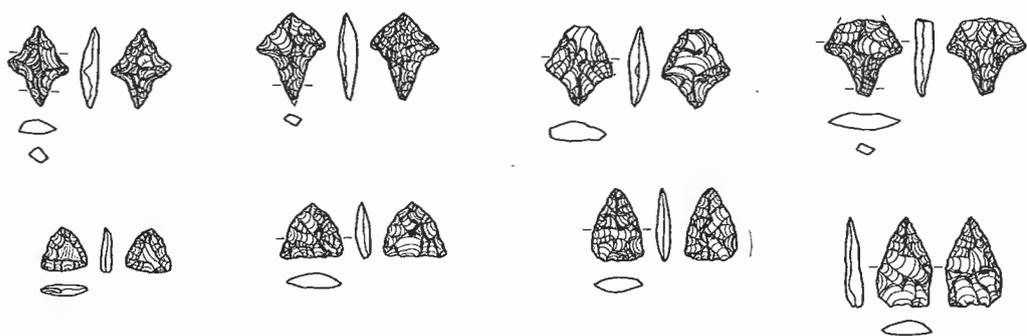
#### 石器

大鹿窪遺跡の石器群の最も大きな特徴は以下の2点に整理される。

1点目は器種分類であり、2点目は器種組成である。以下にその点を記述する。

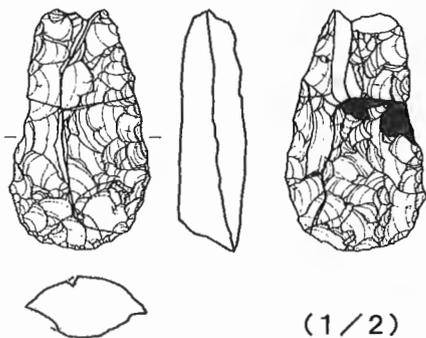
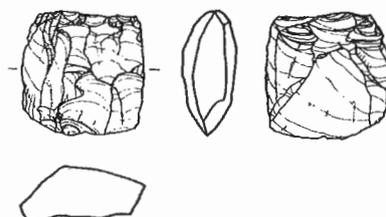
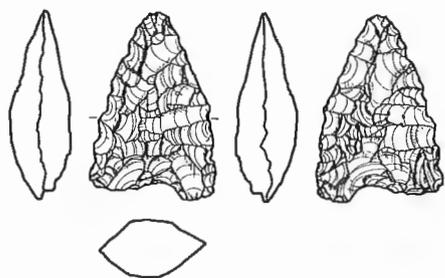


8号竖穴状遺構 (1/2)

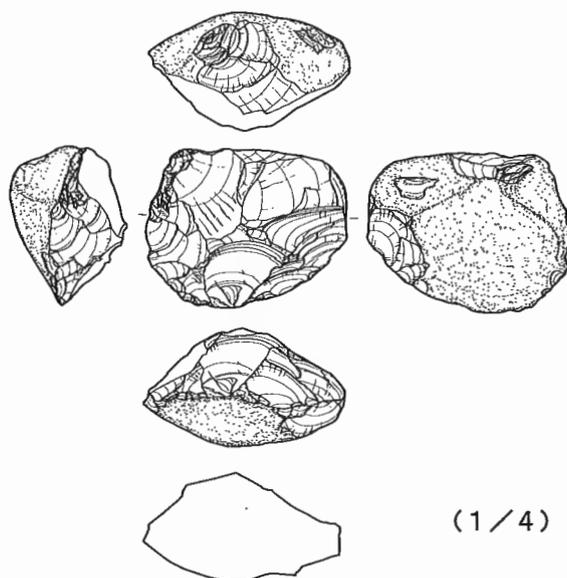


10号竖穴状遺構 (1/2)

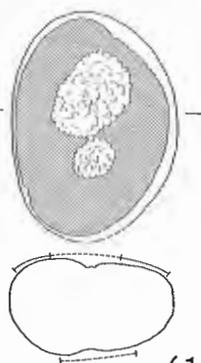
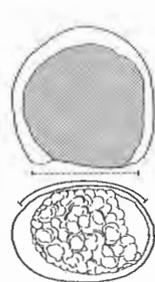
图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器①



(1/2)



(1/4)



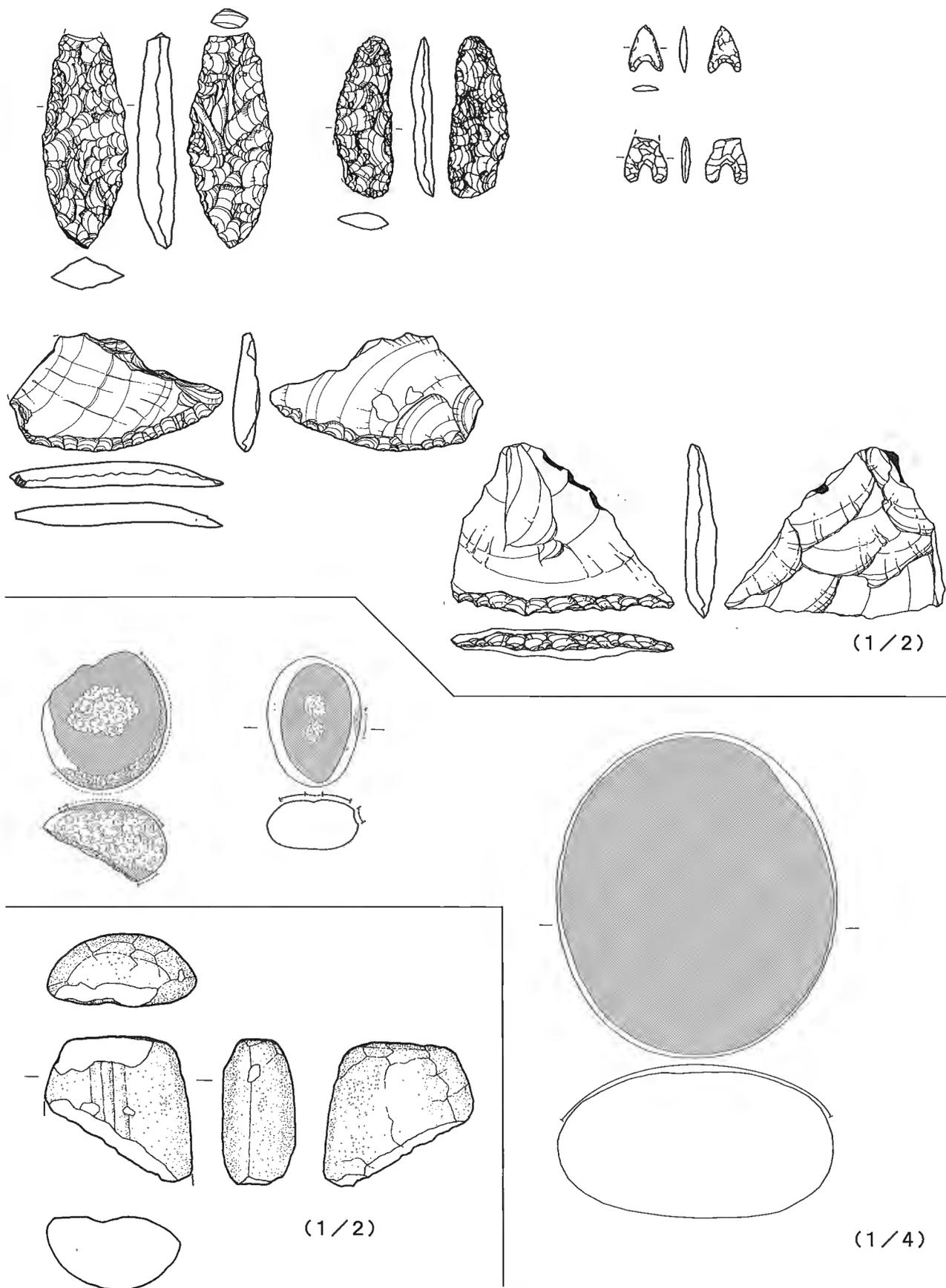
(1/4)



(1/8)

1号竖穴状遺構

图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器②



2号竖穴状遺構

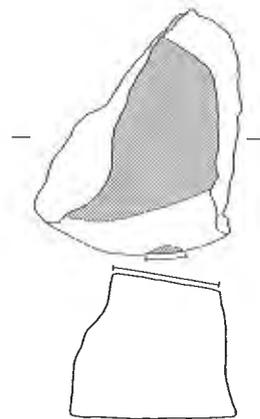
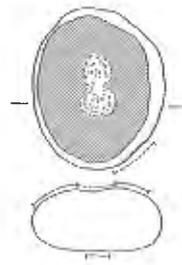
图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器③



(1/2)



(1/4)



(1/8)

7号竖穴状遺構

图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器④

## 1 器種分類

器種分類のなかで最も問題になるのは、搔器と篋状石器の区分である。両者は急角度の刃部をもつという点では区分が難しいが、石器を観察すると、搔器の刃部はハードハンマーの直接打撃による急角度剥離で形勢され、さらに分厚い剥片を素材にするという特徴がある。一方篋状石器は、その素材が両面加工体であり、刃部は押圧剥離もしくは間接打撃、ソフトハンマーの直接打撃で、器体と刃先の角度が60度前後となっている。部分的に刃先角が直角に近い小形の篋状石器もあるが、これは刃部再生の可能性を示すであろう。

次に、尖頭器と両面加工体の区分が問題である。尖頭器はソフトハンマーの直接打撃を基調とし、そのハンマーのコンタクトエリアは大きなものと小さなものの2種類がある。中形のホルンフェルス・頁岩製の尖頭器は、基部と尖頭部（刃部）の境に小さな抉りをいれ、基部が断面三角形、刃部が断面凸レンズ状になる。両面加工体はソフトハンマーの直接打撃のみで、コンタクトエリアのやや広いハンマーのみを使用しているようである。

最後に、有舌尖頭器と石鏃についてであるが、石鏃は押圧剥離で凹基鏃である。有舌尖頭器は所謂「花見山型」と呼称され、刃部（尖頭部）が幅広で短く基部の長いもの、尖頭部と基部が1対1となるものなどがある。有舌尖頭器は技術的には石鏃の押圧剥離と同じものであり、刃部（尖頭部）は石鏃、基部形態は尖頭器そのものである。以上の点からは、本遺跡の有舌尖頭器は、石鏃の技術を用いて、凹基鏃に尖頭器の基部を付けた石器で、尖頭器と石鏃の技法の部分の折衷させた石器といえる。この折衷石器は、技術と大きさが石鏃に寄っているため、石鏃文化が尖頭器文化を取り入れた石器といえるだろう。

## 2 器種組成

器種組成の中で大きな特徴は、礫核石器と剥片石器が混在している点にある。礫核石器は、敲石・石皿や片刃礫器、両刃礫核石器などがある。

一方両面加工体を基調とする剥片石器があり、前者と後者は、通常の縄文草創期遺跡で混在する例は稀少である。

よく知られていることだが、両面加工体石器群は、日本海側の東北日本に広く分布し、「北方系細石刃石器文化」などがすぐに想起される。

この点で、両面加工体の篋状石器・両面加工の尖頭器などは日本海側北方系石器文化の系譜としてみることが妥当であろう。また、大鹿窪遺跡のこれらの石器群は『八森遺跡』（山形県八幡町教育委員会2004）に近似している。

ところで、礫核石器と石鏃の組合せについては、鹿児島市の『掃除山遺跡』の例などが著名であり、南九州の縄文草創期文化と大鹿窪遺跡の関係が注目されてくるだろう。

以上のように、石器の器種組成からみると、南九州系の縄文草創期文化に、北方系の両面加工体石器文化が溶け込んでいるのが大鹿窪遺跡という見方ができる。母体はおそらく南九州系の文化であろうし、その特徴をしめすのが、石鏃と尖頭器の技法的折衷を実現した、小形の有舌尖頭器、とくに「花見山型」の有舌尖頭器の存在であろう。（角張淳一）

### 土器と石器

土器と石器の組成では3-3C調査区10号竪穴状遺構から微隆起線文土器と花見山型有舌尖頭器尖頭器・小形無基三角鏃が共伴する。この共伴・組成例は神奈川県大和市上野遺跡第1・2地点においては隆起線文土器に小形有舌尖頭器が共伴している。上野遺跡第1地点で復元された隆起線文土器の文様に見られる格子文は図23-2-14の微隆起線文土器に近似する。神奈川県横浜市花見山遺跡において隆起線文土器の隆起線文が鋸歯状に押し潰しされる型式や微隆起線文に小形有舌尖頭器・小形無基三角鏃が共伴している。奈良県山添叢桐山和田遺跡では隆起線文土器に小形無基三角鏃が共伴、さらに有溝砥石の矢柄

研磨器も共伴している。同じ北野ウチカタピロ遺跡では隆線文土器に小形無基三角鏃・矢柄研磨器も共伴している。前述したように隆線文土器型式の微隆起線文土器における共伴例が各地の遺跡で報告されている。

押圧縄文土器型式の石器では楕円形礫を利用した敲・磨石や敲・凹・磨石の複合石器や扁平な板状の石皿と凹基二等辺三角形石鏃の組成が最も典型的な3-1調査区竪穴状遺構の特徴である。敲・磨石や敲・凹・磨石の複合石器や石鏃は竪穴状遺構や包含層から多量出土した。出土量は縄文時代中期の遺跡から出土する量に同じかそれ以上に出土している点が特色として指摘でき、この時期、植物質を中心とした食生活や小動物の捕獲が想像される。その複合石器のなかに礫を半割して割口を敲き面として利用するものが出土している。こうした形状・機能の石器は縄文時代早期に共伴することが報告されているスタンプ形石器に近似するものとなっている。この石器の半割した割口の敲き面には光沢があり、平坦面であることから敲きの対象物が草・木・動物等の繊維質・軟質なものを敲いたと推定される。その他の剥片石器では微隆起線文土器に共伴した小形有舌尖頭器や小形向基三角鏃は押圧縄文土器には共伴しない。そのなかで黒曜石製のみの篋状石器と分類された、平面・断面形態が尖頭器に近似し、基部を搔器と同様な刃部調整加工するものが共伴する。静岡県東部の愛鷹山麓や箱根山西麓での出土例が報告される石器である。スクレーパーでは不定型な鋸歯縁削器や搔器・石錐が共伴している。

また2号竪穴状遺構では断面形態が半円形の矢柄研磨器が共伴した。この形態の矢柄研磨器は静岡県内では初例である

以上のように押圧縄文土器型式は矢柄研磨器や篋状石器・尖頭器・不定形石器以外は典型的な縄文時代中期に見られる石器組成であることが最大の特色である。(小金澤)

# 窪 B 遺 跡

# 1 遺物

## (1)調査区の遺物

縄文時代

遺物

本調査区は大鹿窪遺跡3-1調査区から南南西へ約290m程の水田に所在し、縄文時代遺構確認面で標高約161.5mに測る。調査区は東西に約21.5m、南北約4mの細長いグリッド状である。

縄文時代

遺物

本調査区からは合計450点の遺物が出土した。1号集石遺構からは378点、2号集石遺構からは26点、7層グリッドからは計1点、6層グリッドからは45点であった。出土遺物の内、土器は出土していない。1号集石遺構から石器・礫・剥片が出土したが礫が主体であった。石器は平面形態が楕円形の自然礫との判別が困難な磨石状のものであったが、明瞭な使用痕を示すものがなかった。しかし、これらの楕円形礫は自然堆積層には存在しないことからこの遺跡内に持ち込まれたものであるが、使用目的は不明である。

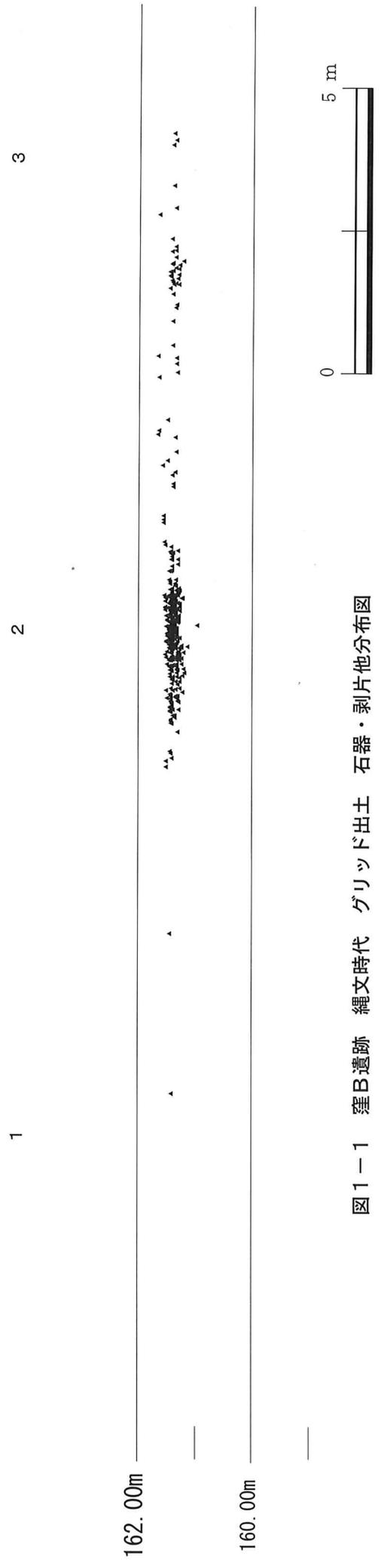
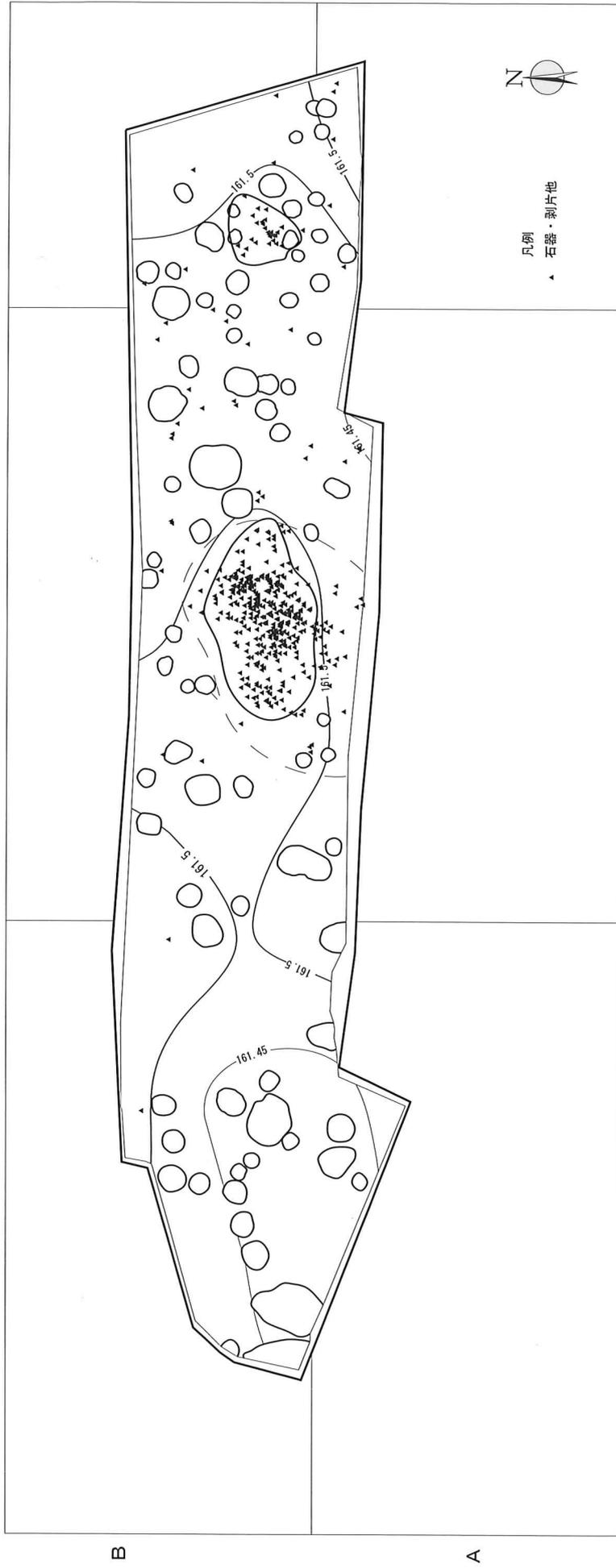


図1-1 窪B遺跡 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図

表

表1 調査区出土 土器観察表

2-4 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図4-4-01	547	2-4	SK34	覆土	青磁碗	胴部	(外)筋連弁文(内)外面ともに貫入丁寧な製作	精製	淡緑色	良	-	-	-	0.5~0.6	貿易陶磁器	-	-83785.952	5725.034	172.243

2-5 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図5-2-01	1369	2-5	-	5B	陸線文	胴部	(外)陸線文中6mm横位、陸線上を押圧(内)指頭痕に棒状具ナデ調整	砂粒多い	暗褐~暗茶褐色	良	-	-	-	0.7~0.8	器面荒れ	AC-010	-83770.609	5787.441	172.592
図5-2-02	16282	2-5	-	7	陸線文	胴部	(外)無文 斜位擦痕(内)棒状具による条痕文状ヨコナデ調整	砂粒多い	暗褐~暗茶褐色	良	-	-	-	1.0	硬質	AC-011	-83772.77	5791.402	172.815
図5-2-03	10457	2-5	-	7	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)丁寧なヨコナデ調整	金雲母・砂粒多い	暗褐色	良	-	-	-	0.7		AC-011	-83772.006	5793.955	173.102
図5-2-04	16272	2-5	-	7	押圧縄文	胴部	(外)斜~縦位(内)指頭痕にヨコナデ調整	雲母・砂粒	淡茶褐色	良	-	-	-	0.6~0.8		AC-011	-83771.391	5793.425	173.057
図5-2-05	1381	2-5	-	6B	無文	胴部	(外)擦痕状ヨコナデ、棒状具(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒の粒大きい、雲母・繊維	暗褐~黒褐色	良	-	-	-	0.7~0.8	硬質	AC-006	-83775.005	5748.841	173.247

3-1 調査区 遺構

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図6-2-01	16021	3-1	SB3001	陸線文	胴部	(外)短陸線文を豆粒文状に貼付け、ヨコナデ(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒多い、繊維?	茶~茶褐色	良	-	-	-	0.7~0.9	外面の器面はやや荒れ	-	-83759.122	5800.464	173.464
図6-2-02	14865	3-1	SB3001	爪形文	口縁部	(口)棒状具によるキザミ状押圧(外)「ハ」の字(内)指頭痕にヨコナデ	金雲母、砂粒、繊維	暗茶褐色	良	-	-	-	0.5~0.7	硬質	-	-83758.217	5800.029	173.465
図6-2-03	25164	3-1	SB3001	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧、原体は押圧縄文(外)横位に密(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒の粒大きい	暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.6	硬質 原体は1段の縄R右巻き	-	-83759.551	5800.046	172.986
図6-2-04	24289	3-1	SB3001	押圧縄文	口縁部	(外)横位に広く浅い(内)指頭痕にヨコナデ	雲母、砂粒	暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.6	口唇部は丸い、硬質 原体は1段の縄R左巻き	-	-83760.727	5801.137	173.367
図6-2-05	14867	3-1	SB3001	押圧縄文	胴部	(外)横・斜位に広い(内)指頭痕条痕が擦痕状横位	金雲母多い、繊維	暗褐色	良	-	-	-	0.6~0.8	硬質、割口が僅口縁 原体は1段の縄R左巻き	-	-83757.883	5800.521	173.516
図6-2-06	13088	3-1	SB3001	押圧縄文	胴部	(外)横・斜位に広い(内)指頭痕にナデ	雲母、砂粒	淡茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.6~0.7	硬質 原体は1段の縄R左巻き	-	-83760.294	5799.906	173.550
図6-2-07	21973	3-1	SB3001	押圧縄文	胴部	キザミ状(外)横・斜位に広い(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒	暗茶~黒褐色	良	(26)	-	-	0.5~0.6	硬質 原体は1段の縄R左巻き	-	-83759.505	5801.761	173.106
図6-2-08	15205	3-1	SB3001	押圧縄文	胴部	(外)縦・斜位に密(内)指頭痕	砂粒多く粒大きい、雲母、繊維	茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.8	15206・18290と接合原体は1段の縄L左巻き	-	-83758.111	5799.554	173.440
図6-2-09	21972	3-1	SB3001	押圧縄文	胴部	(外)斜位に羽状に施文(内)指頭痕にナデ	金雲母多い	淡茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.7~0.8	硬質 胴部推定径17cm 原体は1段の縄R左巻き	-	-83757.541	5798.674	173.097
図6-2-10	24543	3-1	SB3001	押圧縄文	胴部	(外)羽状に施文(内)丁寧なヨコナデ	金雲母多い、砂粒	淡茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.7~0.8	硬質 原体は1段の縄R左巻き	-	-83758.782	5800.315	173.030
図6-2-11	24544	3-1	SB3001	押圧縄文	尖底部付近	(外)多方向(内)指頭痕にナデ	金雲母多い、繊維	淡茶褐色	良	-	-	-	0.8~1.0	硬質 原体は1段の縄L左巻き	-	-83758.533	5798.164	173.015
図6-2-12	19071	3-1	SB3001	無文	胴部	(外)無文(内)指頭痕	金雲母多い、砂粒多い、繊維	淡茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.6~0.7	器面やや荒れ	-	-83758.200	5800.235	173.394

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図6-2-13	14622	3-1	SB3001	無文・沈線	胴部	(外)横位の棒状具による沈線(内)指頭痕にヨコナデ	雲母、砂粒	黒褐色～淡茶褐色	良	—	—	—	0.5～0.8	硬質、割口が脣口縁 器面光沢有り	—	-83760.170	5801.321	173.526
図7-2-01	22185	3-1	SB3002	隆線文	口縁部	(外)巾6mm斜位、隆線上を爪形状押圧(内)指頭痕にナデ	金雲母少ない	淡茶褐色	良	—	—	—	0.4～0.5	口唇部やや尖る、全体に扁平で薄い	—	-83765.539	5802.239	173.055
図7-2-02	15160	3-1	SB3002	隆線文	胴部	(外)巾3mmヘラ状具によるキザミ状押圧無文はヨコナデ(内)ヨコナデ	砂粒細かく多い	茶褐色	良	—	—	—	0.6～1.2	硬質	—	-83764.570	5799.166	173.262
図7-2-03	18158	3-1	SB3003	爪形文	胴部	(外)ハの字縦位指頭痕にヨコナデ(内)接合による肥厚指頭痕に痕状(横位)	金雲母多い、砂粒	黄褐色～淡茶褐色	良	—	—	—	0.4～0.7		—	-83763.387	5799.553	173.318
図7-2-04	21823	3-1	SB3002	押圧縄文・爪形文	胴部	(外)絡条体圧痕による爪形文(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒の粒大きい	淡茶～茶褐色	良	—	—	—	0.9～1.0	硬質 原体は1段の縄R左巻き	—	-83763.978	5802.350	173.193
図7-2-05	16082	3-1	SB3002	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧(外)横・斜位(内)指頭痕にヨコナデ 器面荒れ	金雲母多い	暗褐～黒褐色	良	—	—	—	0.4～0.5	口唇部肥厚 原体は1段の縄R右巻きと推定	—	-83764.510	5800.500	173.159
図7-2-06	21970	3-1	SB3002	押圧縄文	口縁部	(外)斜位(内)指頭痕にナデ	砂粒の粒大きい、金雲母少ない	淡茶～茶褐色	良	—	—	—	0.4～0.5	口唇部は丸く強く外反 原体は1段の縄R右巻き	—	-83764.018	5802.208	173.043
図7-2-07	21439	3-1	SB3002	押圧縄文	口縁～胴部	(外)斜・横位3施文帯(内)指頭痕強いヨコナデ	金雲母多い、砂粒の粒やや大きい、繊維	茶～茶褐色	良	—	—	—	0.5～0.8	口唇部にかけて外反 原体は1段の縄R左巻き	—	-83764.376	5798.270	173.189
図7-2-08	18146	3-1	SB3003	押圧縄文	口縁部	端部にキザミ状押圧(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ	金雲母多い、繊維	黄褐～暗褐色	良	—	—	—	0.5～0.6	口唇部 扁平に近い丸 やや大きく外反 原体は1段の縄R左巻き	—	-83765.776	5801.400	173.255
図7-2-09	21958	3-1	SB3002	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧(外)上位横位下位斜位 羽状ヨコナデ(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒の粒大きい、繊維	暗褐色～黒褐色(煤付着)	良	—	—	—	0.6～1.0	硬質、口唇部は扁平やや肥厚 接合痕 原体は1段の縄R左巻き	—	-83764.855	5801.062	173.056
図7-2-10	19018	3-1	SB3003	押圧縄文	口縁部	(外)横位(内)接合による肥厚指頭痕にヨコナデ 丁寧な仕上げ調整	金雲母多い、砂粒少ない	暗褐色	良	(18)	—	—	0.5～1.0	硬質、口唇部はやや尖る 推定口径18センチ 原体は1段の縄R左巻き	—	-83763.718	5798.618	173.253
図7-2-11	11206	3-1	SB3002	押圧縄文	口縁部	(外)横位(内)指頭痕に丁寧なヨコナデ	金雲母少ない、砂粒多い	淡黄褐～暗褐色	良	—	—	—	0.3～0.9	硬質、口唇部細く丸い 原体は1段の縄R左巻き	—	-83763.606	5800.522	173.553
図7-2-12	14000	3-1	SB3002	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ	金雲母、砂粒、繊維	暗茶褐～黒褐色	良	—	—	—	0.7～1.0	硬質 原体は不明瞭 縄左巻き	—	-83764.679	5802.673	173.404
図7-2-13	21831	3-1	SB3002	押圧縄文	胴部	(外)斜位浅い施文 擦痕状(内)指頭痕	砂粒多く粒やや大きい、繊維	暗茶褐～黒褐色	良	—	—	—	0.7～0.8	硬質 原体は1段の縄R左巻き	—	-83764.112	5802.207	173.282
図7-2-14	21818	3-1	SB3002	押圧縄文	胴部	(外)斜～横位(内)指頭痕	砂粒多く粒大きい、繊維	茶褐～黒褐色	良	—	—	—	0.7～1.0	硬質 原体は1段の縄R左巻き	—	-83763.251	5801.638	173.250
図7-2-15	16084	3-1	SB3002	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)浅い指頭痕にヨコナデ	金雲母少ない、砂粒少ない	淡茶褐～暗褐色	良	—	—	—	0.6～1.0	硬質 原体は1段の縄L左巻き	—	-83764.149	5800.712	173.090
図7-2-16	19265	3-1	SB3002	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)指頭痕 条痕状	金雲母多い、砂粒の粒大きい	淡茶褐～黒褐色	良	—	—	—	0.6～0.7	硬質 原体は1段の縄R左巻き	—	-83763.860	5800.792	173.248
図7-2-17	13642	3-1	SB3002	押圧縄文	尖底部	(外)多方向(内)丁寧なヨコナデ	金雲母微量、砂粒	淡茶～淡橙褐色	良	—	—	—	0.4～1.0	13643接合 原体は1段の縄R右巻き	—	-83763.406	5802.508	173.522
図7-2-18	22205	3-1	SB3002	無文・条痕	胴部	(外)縦位条痕文調整(内)指頭痕にヨコナデ	金雲母多い、砂粒	茶褐～暗褐色	良	—	—	—	0.6～0.7	硬質	—	-83764.966	5800.284	172.932
図7-2-19	21886	3-1	SB3002	無文・条痕	胴部	(外)無文、斜位の条痕状の擦痕(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒、赤色粒少ない	暗茶褐色	良	—	—	—	0.5～0.8	硬質	—	-83766.244	5800.349	172.982
図7-2-20	21971	3-1	SB3002	無文	胴部	(外)無文、指頭痕に丁寧なナデ(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒少ない	淡茶～茶褐色	良	—	—	—	0.8～1.0	硬質 推定胴部径16cm隆線文土器の無文部分と推定	—	-83762.957	5800.693	173.193

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図8-2-01	22279	3-1	SB3003	押圧縄文	口縁部	(外)縦・斜位 (内)指頭痕に横位 の条痕状	金雲母多い	黒褐色～ 暗茶褐色	良	(18)	—	—	0.4～ 0.6	口唇部は細く丸 い、硬質 推定口 径18cm 原体は 1段縄R左巻き	—	83768.493	5795.513	172.961
図8-2-02	25753	3-1	SB3003	押圧縄文	胴部	(外)縦・斜位(内) 指頭痕にナデ	金雲母多 い、砂粒	黒褐色～ 淡茶褐色	良	—	—	—	0.7	硬質 原体は不明瞭 左巻き	—	83767.232	5796.337	172.878
図8-2-03	25740	3-1	SB3003	押圧縄文	胴部	(外)横位(内) 不詳 器面荒れ	金雲母、白 色粒多い	淡橙褐色	良	—	—	—	0.4～ 0.5	接合痕有り 原体は1段縄 R左巻き	—	83767.365	5795.928	172.879
図8-2-04	22280	3-1	SB3003	押圧縄文	胴部	(外)横位(内) 指頭痕にナデ	金雲母、 砂粒多い	淡橙褐色	良	—	—	—	0.4～ 0.8	接合痕有り 原体は1段縄 R左巻き	—	83767.424	5795.999	172.984
図8-2-05	21998	3-1	SB3003	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指 頭痕にヨコナデ	金雲母多い	淡橙褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.6	硬質 接合部凹原体 は1段縄R左 巻き	—	83766.876	5797.241	173.169
図8-2-06	25709	3-1	SB3003	押圧縄文	胴部	(外)横位条痕(内) 指頭痕にコナデ	金雲母、 砂粒	淡茶褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.8	接合による肥 厚不明瞭な縄 右巻き	—	83766.585	5797.962	172.947
図8-2-07	25712	3-1	SB3003	無文	口縁部	(外)指頭痕に横ナデ 無文(内)指頭痕に ヨコナデ条線状	金雲母少 ない、砂 粒多い	黒褐色～ 暗茶褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.7	口唇部は丸い	—	83766.745	5797.719	172.876
図8-2-08	25714	3-1	SB3003	無文	口縁部	(外)無文横ナデ指 頭痕(内)指頭痕に ヨコナデ条線状	砂粒多い、 金雲母	茶褐色	良	—	—	—	0.7	口唇部緩やかな 丸、硬質	—	83766.761	5797.603	173.057
図8-2-09	17162	3-1	SB3003	無文	口縁部	(外)丁寧なナデ (内)指頭痕にヨコ ナデ	雲母・砂 粒・繊維	黒褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.7	硬質	—	83768.409	5795.298	173.061
図8-2-10	11084	3-1	SB3003	無文	胴部	(外)指頭痕に丁寧 なナデ(内)指頭 痕に丁寧なナデ	砂粒多い	淡橙褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.0	硬質 陸線文土器の 無文部と推定 される	—	83767.767	5796.513	173.269
図8-2-11	25736	3-1	SB3003	無文・ 沈線	胴部	(外)上位無文斜 位 浅い沈線(内) 指頭痕にヨコナデ	金雲母微 量、砂粒	淡茶～ 淡橙褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.8	硬質	—	83767.625	5795.204	173.151
図9-2-01	16207	3-1	SB3004	爪形文	胴部	(外)「ハ」の字と 推定(内)器面荒 れ 不詳	砂粒・繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	0.9		—	83769.397	5800.704	173.139
図9-2-02	16212	3-1	SB3004	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧 (外)横(内)指頭 痕にナデ	金雲母多 い、砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.5	原体は1段の 縄R左巻き	—	83770.394	5801.009	173.138
図9-2-03	18883	3-1	SB3004	押圧縄文	胴部	(外)縦～斜位、ヨ コナデ(内)指頭 痕にヨコナデ	金雲母多 い、砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.7	原体は不明瞭 な縄左巻き	—	83770.574	5800.803	173.056
図9-2-04	22832	3-1	SB3007	押圧縄文	胴部	(外)横位 接合部 ミガキによる光沢 (内)指頭痕にやや 丁寧なヨコナデ	金雲母多 い、砂粒	淡赤橙 褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.7	接合痕顕著、 原体は1段の 縄R左巻き	—	83770.187	5801.879	173.260
図9-2-05	21995	3-1	SB3004	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指 頭痕にヨコナデ	金雲母多い	淡橙褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.7	接合痕顕著、 原体は1段の 縄R左巻き	—	83769.364	5800.705	173.126
図9-2-06	18886	3-1	SB3004	無文・ 沈線	胴部 下半	(外)横位の沈線、 ヨコナデ(内)指 頭痕にヨコナデ	繊維、雲 母、砂粒	淡茶褐～ 黒褐色	良	—	—	—	0.4～ 0.7	硬質 推定胴部径 15cm	—	83769.111	5800.398	173.101
図9-2-07	16200	3-1	SB3004	無文・ 条痕	胴部 下半	(外)斜位の条痕 状、ヨコナデ(内) 指頭痕にやや丁寧 なヨコナデ	砂粒、白 色粒	淡橙褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.7	硬質	—	83771.726	5801.230	173.073
図9-2-08	13327	3-1	SB3004	無文	胴部	(外)ヨコナデ 縦 位擦痕(内)指頭 痕にヨコナデ	砂粒が多い	淡暗橙褐色	良	—	—	—	0.7～ 0.9	硬質	—	83768.976	5801.098	173.269
図9-2-09	11938	3-1	SB3004	不詳	胴部	(外)器面割がれ 不詳(内)指頭痕 にヨコナデ	粒の大き な砂粒、 金雲母、 赤色粒	淡橙褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.6	接合部に肥厚 と備口縁	—	83770.063	5800.569	173.406
図10-1-01	18049	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外)「ハ」の字を 縦位(内)器面荒 れ 不詳	粒の大き な砂粒、雲 母、繊維	淡褐色	量	—	—	—	—	16224と同一 固体裏面荒れ で厚み不詳	—	83771.866	5799.500	173.036
図10-1-02	16224	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外)「ハ」の字を 縦位(内)器面荒 れ 不詳	粒の大き な砂粒、雲 母、繊維	淡褐色	量	—	—	—	—	18049と同一 固体裏面荒れ で厚み不詳	—	83772.025	5799.633	173.079
図10-1-03	22489	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外)縦位に2条連 続施文(内)やや 丁寧なナデ	金雲母多 い、砂粒、 長石	茶褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.6		—	83771.946	5800.136	173.297
図10-1-04	17322	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外)縦位に1条連 続施文(内)指頭 痕にやや丁寧な ナデ	粒の大き な砂粒、 雲母	淡橙褐色	良	—	—	—	0.6～ 0.7	硬質	—	83771.357	5799.358	173.008

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図10-1-05	16228 21954	3-1	SB3005	押圧縄文	口縁部	(外)横位 爪形状 擦痕に光沢(内) 指頭痕に丁寧なナ デ調整	細かな砂 粒微量	暗褐色	良	—	—	—	0.6~ 1.0	硬質 口唇部 丸い微隆起線 文土器に似る 器面調整	—	-83772.685	5798.593	173.041
図10-1-06	15231	3-1	SB3005	押圧縄文	口縁部	(外)横位(内)指 頭痕にナデ調整	金雲母	茶褐~ 暗褐色	良	—	—	—	0.5	硬質 口唇部細 く丸い 原体は1段の 縄R右巻き	—	-83771.052	5799.949	173.092
図10-1-07	21276	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)縦~斜位で羽 状(内)指頭痕に ヨコナデ調整	金雲母多 い、砂粒 少ない	茶褐~ 暗褐色	良	—	—	—	0.5	推定胴部径19cm 原体は0段の 縄R左巻き	—	-83772.327	5800.234	172.941
図10-1-08	22805	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位(内) 指頭痕にナデ調整	細かな金 雲母多い、 繊維	淡暗褐色	良	—	—	—	0.4~ 0.5	硬質 原体は1段の 縄R左巻き	—	-83772.423	5799.878	172.927
図10-1-09	18077	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位で羽状 (内)指頭痕にやや 丁寧なナデ調整	金雲母多い	淡暗褐色	良	—	—	—	0.4~ 0.7	原体は1段の 縄R左巻き	—	-83771.276	5799.670	172.882
図10-1-10	24210	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位で羽状 (内)指頭痕にやや 丁寧なナデ調整	細かな金 雲母多い	暗褐~ 黒褐色	良	—	—	—	0.4~ 0.7	原体は1段の 縄R左巻き	—	-83772.713	5798.773	172.862
図10-1-11	18083	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位で羽状 (内)指頭痕にナデ 調整	金雲母、粒 の大きな砂 粒多い	橙色	良	—	—	—	0.7	原体は1段の 縄R左巻き	—	-83771.524	5800.086	172.922
図10-1-12	18993	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位(内) 指頭痕にナデ調整	雲母、砂 粒多い	淡橙褐色	良	—	—	—	0.5	原体は1段の 縄R左巻き	—	-83771.555	5799.385	173.040
図10-1-13	16242	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位(内) 指頭痕にナデ調整	金雲母多い	黒褐色	良	—	—	—	0.4~ 0.5	原体は不明瞭 な縄L巻き	—	-83772.474	5797.984	173.151
図10-1-14	15503	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位(内) 指頭痕にナデ調整	金雲母	淡茶~ 暗褐色	良	—	—	—	0.5~ 0.6	原体は不明瞭 な縄L巻き	—	-83771.812	5798.497	173.225
図10-1-15	13764	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)斜位で羽状 (内)指頭痕にやや 丁寧なナデ調整	金雲母多い	暗茶~ 暗褐色	良	—	—	—	0.5~ 0.7	原体は不明瞭 な縄右巻き	—	-83771.143	5798.664	173.155
図10-1-16	16227	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)横位(内) 指頭痕にヨコナデ 調整 接合部肥厚	金雲母多い	暗褐色	良	—	—	—	0.5~ 0.6	原体は0段の 縄L巻き	—	-83772.565	5798.695	173.047
図10-1-17	20001	3-1	SB3005	押圧縄文	胸部	(外)横位 無文部 分ナデ(内)接合 部肥厚 指頭痕に ナデ調整	金雲母多 い、砂粒	淡茶褐 色~ 暗茶褐色	良	—	—	—	0.5~ 0.8	原体は1段の 縄R左巻き	—	-83772.352	5800.701	173.056
図10-1-18	18075	3-1	SB3005	無文	口縁部	指頭痕にナデ調整	細かな白 色粒	暗褐色	良	—	—	—	0.4~ 0.6	硬質	—	-83771.500	5799.685	172.967
図10-1-19	13765	3-1	SB3005	無文・ 沈線	胸部	(外)横位の棒状具に よる沈線(内)指 頭痕にヨコナデ	粒の大き な砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.6~ 0.7	硬質	—	-83771.223	5798.768	173.143
図10-1-20	15506	3-1	SB3005	無文	胸部	(外)やや丁寧なナ デ(内)指頭痕に ヨコナデ調整	金雲母、 砂粒	黒褐~ 暗褐色	良	—	—	—	0.4~ 0.7	硬質	—	-83771.856	5798.519	173.130
図11-2-01	13960	3-1	SB3006	爪形文	胸部	(外)横位 連続 (内)ヨコナデ調整	砂粒	淡黄褐色	良	—	—	—	1.0		—	-83770.207	5807.695	173.287
図11-2-02	11567	3-1	SB3006	押圧縄文	口縁部	(外)横~斜位 (内)指頭痕にヨコ ナデ調整	金雲母多 い、繊維	黒褐色	良	—	—	—	0.6~ 0.7	原体は1段の 縄Rを左巻き	—	-83771.143	5807.474	173.570
図11-2-03	22914	3-1	SB3006	押圧縄文	口縁部	(口)ヘラ状具に いるキザミ(外) 横位(内)指頭痕 にヨコナデ調整	金雲母多い	黒褐色	良	—	—	—	0.3~ 0.7	原体不明瞭な 縄を右巻き	—	-83771.499	5806.562	173.410
図11-2-04	21952	3-1	SB3006	押圧縄文	胸部	(外)横~斜~横位 (内)指頭痕にヨ コナデ調整	金雲母多い	黒褐色	良	—	—	—	0.6~ 0.9	原体不明瞭な 縄を左巻き	—	-83770.339	5808.016	173.221
図11-2-05	13924	3-1	SB3006	押圧縄文	胸部	(外)横~斜位 (内)指頭痕にヨコ ナデ調整	金雲母多 い、長石	暗褐色	良	—	—	—	0.5	原体不明瞭な 縄を左巻き	—	-83769.774	5807.298	173.310
図11-2-06	22502	3-1	SB3006	押圧縄文	胸部	(外)斜位(内)丁 寧なヨコナデ調整	金雲母多い	茶褐~ 暗褐色	良	—	—	—	0.5	原体は1段の 縄Rを右巻き	—	-83770.310	5807.731	173.363
図11-2-07	22696	3-1	SB3006	押圧縄文	胸部	(外)斜位(内) 指頭痕にヨコナデ 調整	砂粒	茶褐色	良	—	—	—	0.5	接合部に凹凸 僅く口縁 原体 は1段の縄R を左巻き	—	-83770.178	5807.068	173.213
図11-2-08	11567	3-1	SB3006	無文	口縁部	(外)擦痕状(内) 指頭痕にヨコナデ	砂粒の粒 大きい、 雲母、長 石	淡茶~ 淡橙褐色	良	(26)	—	—	0.5~ 0.8	13341・13481 と接合	—	-83770.997	5807.347	173.457
図11-2-08	13481	3-1	SB3006	無文	尖底部	(外)ナデ(内) 指頭痕にヨコナデ 調整	砂粒、雲 母、長石、 繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	0.9~ 1.4	乳房状	—	-83770.923	5807.357	173.368
図12-2-01	21291	3-1	SB3007	陸線文	口縁部	(口)僅かに平坦化 (外)巾5mmでクラ ンク状 ヘラ状具に よる刻突(内)指 頭痕に強いナデ調整	砂粒多く 粒大きい、 雲母、赤 色粒	淡茶褐~ 黒褐色	良	—	—	—	0.6~ 0.8	硬質	—	-83765.628	5808.202	173.630

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図12-2-02	24329	3-1	SB3007	爪形文	胴部	(外)横位の列状ヨコナデ(内)斜位棒状具によるナデ調整	砂粒	淡茶～暗褐色	良	—	—	—	0.7～0.8	硬質	—	-83753.470	5808.094	173.665
図12-2-03	24019	3-1	SB3007	爪形文	胴部	(外)爪形文僅かに条痕状(内)条痕状、指頭痕	砂粒の粒大きい、赤色粒、繊維	茶褐～暗茶褐色	良	—	—	—	0.9～1.0	硬質	—	-83757.190	5806.916	173.581
図12-2-04	21368	3-1	SB3007	押圧縄文	口縁～胴部	(口)キザミ状押圧(外)横～斜位の3施文帯(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母多い、砂粒	茶褐～黒褐色	良	—	—	—	0.5～0.7	21988と接合接合部肥厚原体は1段の縄R右巻き	—	-83754.568	5807.876	173.571
図12-2-05	25407	3-1	SB3007	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母多い、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	0.5～0.6	内孔は外面から14×10～4×3mm原体は1段の縄R左巻き	—	-83755.065	5807.603	173.697
図12-2-06	24542	3-1	SB3007	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母多い			(21)	—	—	0.5～0.7	推定口径21.0cm原体は1段の縄R左巻き	—	-83755.455	5809.790	173.843
図12-2-07	20494	3-1	SB3007	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ状押圧(外)斜～横位(内)指頭痕にナデ調整	金雲母、砂粒	淡茶～暗褐色	良	—	—	—	0.5～0.7	原体は1段の縄R左巻き	—	-83754.964	5806.841	173.778
図12-2-08	25817	3-1	SB3007	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母多い、砂粒、繊維	淡茶褐色	良	—	—	—	0.6～0.8	硬質 原体は1段の縄R右巻き	—	-83753.259	5808.072	173.647
図12-2-09	21001	3-1	SB3007	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整 接合部肥厚と段	砂粒多く粒大きい、金雲母、繊維	茶褐～暗茶褐色	良	—	—	—	0.6～0.8	硬質 原体は1段の縄R左巻き	—	-83755.767	5808.104	173.692
図12-2-10	17647	3-1	SB3007	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整 ※面器に荒れ	砂粒の粒大きい、繊維	橙褐～淡橙褐色	良	—	—	—	0.5～0.7	17648と接合原体は1段の縄R左巻き	—	-83755.524	5806.151	173.807
図12-2-11	21352	3-1	SB3007	押圧縄文	胴部	(外)縦位 熱余文状(内)指頭痕にヨコナデ調整	砂粒の粒大きい、繊維	淡黄褐色	良	—	—	—	0.6～0.8	原体は不明瞭な縄右巻き	—	-83754.498	5807.380	173.660
図12-2-12	20990	3-1	SB3007	押圧縄文	尖底部付近	(外)横～斜位(内)指頭痕にナデ調整	砂粒の粒大きい、繊維	淡黄褐～淡茶褐色	良	—	—	—	1.0～1.3	硬質 原体は不明瞭なし 縄左巻き	—	-83755.491	5806.692	173.650
図12-2-13	24401	3-1	SB3007	押圧縄文	尖底部	(外)横～斜位(内)ナデ	金雲母多い	橙褐～暗褐色	良	—	—	—	0.5～0.8	原体は1段の縄R左巻き	—	-83756.386	5809.154	173.775
図12-2-14	22160	3-1	SB3007	無文・条痕	口縁部	(外)無文横～縦位 擦痕 or 条痕、指頭痕(内)横位条痕状 指頭痕	粒大きい砂粒、繊維	暗茶～暗褐色	良	(26)	—	—	1.0～1.2	硬質 推定口径26cm	—	-83754.084	5808.200	173.628
図12-2-15	22155	3-1	SB3007	無文	口縁部(丸)	(外)無文(爪形文の刺突不詳)丁寧なヨコナデ、ミガキ状(内)指頭痕にヨコナデ調整	砂粒少ない	暗褐～黒褐色	良	(13)	—	—	0.4～0.7	硬質 小形品 推定口径13cm	—	-83753.995	5807.091	173.598
図12-2-16	25099	3-1	SB3007	無文	口縁部	(外)ナデ調整(内)指頭痕にナデ調整	金雲母多い	暗褐色	良	—	—	—	0.3～0.5	硬質	—	-83754.317	5809.466	173.707
図12-2-17	21652	3-1	SB3007	無文	胴部	(外)横～斜位 擦痕状(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母、砂粒、繊維	淡茶～茶色	良	—	—	—	0.5～0.7	硬質 接合部に備口径と肥厚	—	-83756.012	5808.683	173.665
図12-2-18	25881	3-1	SB3007	無文	胴部	(外)斜～横位 擦痕と条痕状調整(内)横位 擦痕状ナデ調整	砂粒	淡茶～暗褐色	良	—	—	—	0.7～0.8	硬質	—	-83753.023	5808.662	173.673
図12-2-19	19731	3-1	SB3007	無文	胴部	(外)ヨコナデ 器面やや荒い(内)条痕状ナデ調整	砂粒多く粒やや大きい、繊維	赤茶褐色	良	—	—	—	0.9～1.0	硬質 陸線文土器の無文部と推定	—	-83756.780	5808.608	173.797
図12-2-20	21267	3-1	SB3007	無文	胴部	(外)縦位 擦痕(内)指頭痕にヨコナデ調整	砂粒、繊維	淡黄褐色	良	—	—	—	0.6～1.1	21268と接合	—	-83754.679	5808.116	173.610
図12-2-21	17614	3-1	SB3007	無文	尖底部付近	(外)ナデ(内)指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整	雲母・砂粒	淡黄褐色	良	—	—	—	0.6～0.7	硬質	—	-83755.815	5806.932	173.754
図13-2-01	21974	3-1	SB3009	押圧縄文	口縁部	(口)丸棒状によるキザミ(外)横～斜位指頭痕(内)指頭痕顯著ヨコナデ調整	粒の大きい砂粒、金雲母、繊維	茶褐～暗褐色	良	—	—	—	0.7～1.0	22232・22328と接合 原体は1段の縄Rを左巻き	—	-83760.280	5804.224	173.444
図13-2-02	22328	3-1	SB3009	押圧縄文	口縁部	(口)丸棒状によるキザミ(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整	砂粒多い、金雲母少ない、繊維	黒褐～暗褐色	良	—	—	—	0.4～0.8	原体は不明瞭な縄を右巻き	—	-83760.568	5804.090	173.403
図13-2-03	22233	3-1	SB3009	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)指頭痕顯著 ナデ調整	砂粒多い、金雲母少ない、繊維	茶褐～暗茶褐色	良	—	—	—	0.5～0.8	原体は1段の縄Rを左巻き	—	-83760.365	5804.165	173.397
図13-2-04	22234	3-1	SB3009	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕に丁寧なヨコナデ調整	金雲母	茶褐色	良	—	—	—	0.5	硬質 光沢 原体は1段の縄Rを左巻き	—	-83760.208	5804.101	173.432

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図13-2-05	19166	3-1	SB3009	押圧縄文	胴部	(外)押圧縄文斜~横位(内)指頭痕顕著ヨコナデ調整	金雲母	茶褐色	良	-	~	-	0.5	硬質 光沢 原体は1段の 縄Rを左巻き	-	83760.428	5804.316	173.491
図13-2-06	22231	3-1	SB3009	無文	口縁部	(外)押圧縄文斜~横位(内)指頭痕顕著ヨコナデ調整	砂粒微量	暗茶褐~ 黒褐色	やや 良	-	~	-	1.0~ 1.1	楕円孔 13×8mm	-	83760.558	5804.090	173.403
図14-2-01	25176	3-1	SB3011	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)ヨコナデ調整	金雲母、 砂粒	淡茶褐色	良	-	-	-	0.6	原体は1段の 縄R左巻き	-	83763.229	5799.534	172.823
図14-2-02	23398	3-1	SB3011	無文・ 条痕	口縁部 (丸)	(外)縦位に密な 条痕状調整(内) 指頭痕にヨコナデ	金雲母、 砂粒の粒 大きい	暗褐色	良	(18)	-	-	0.5~ 0.9	推定口径18.0cm	-	83764.676	5800.134	172.895
図15-2-01	13517	3-1	SB3012	押圧縄文	口縁部	(口)棒状具キザミ (外)斜位 羽状 (内)指頭痕にやや 丁寧なヨコナデ	金雲母多 く、長石、 繊維	淡茶褐色	良	-	-	-	0.4~ 0.6	硬質 原体は1段の 縄R左巻き	-	83767.106	5802.616	173.506
図15-2-02	24591	3-1	SB3012	押圧縄文	胴部	(口)横口縁(外) 横位(内)指頭痕 にヨコナデ	金雲母微量	淡茶色	良	-	-	-	0.4	横口縁部に炭 化物付着 原体は不明瞭 な縄左巻き	-	83767.683	5802.314	173.159
図15-2-03	24391	3-1	SB3012	無文・ 沈線	口縁部	(口)丸(外)斜位 の丸棒状具による沈 線文 指頭痕 光沢 (内)指頭痕にヨコ ナデ調整	金雲母	黒褐色	良	-	-	-	0.4~ 0.6	25597と同一 固体接合せず 硬質	-	83767.435	5802.746	173.236
図15-2-04	25597	3-1	SB3012	無文・ 沈線	口縁部	(口)丸(外)斜位 の丸棒状具による沈 線文 指頭痕 光沢 (内)指頭痕にヨコ ナデ調整	金雲母	黒褐色	良	-	-	-	0.4~ 0.6	24391と同一 固体接合せず 硬質	-	83766.594	5803.106	173.207
図15-2-05	24602	3-1	SB3012	無文	胴部	(外)ナデ(内) 指頭痕 炭化物付 着のため不詳	粒の大き な砂粒、 繊維	淡橙色	良	-	-	-	0.5~ 0.6		-	83767.596	5803.196	173.245
図16-2-01	11201	3-1	SB3014	押圧縄 文	胴部	(外)横~斜~横位 (内)指頭痕にヨコ ナデ	砂粒多い	暗茶褐~ 暗褐色	良	-	-	-	0.4~ 0.7	原体は1段の 縄R左巻き	-	83772.163	5801.727	173.518
図16-2-02	11022	3-1	SB3014	無文	胴部	(外)指頭痕に縦位 ナデ(内)指頭痕 に条痕状ヨコナデ	粒の大き な砂粒、 赤色粒、	暗茶褐色	良	-	-	-	0.7~ 1.0	隆線文土器の 無文部	-	83772.149	5801.665	173.498
図17-2-01	10610	3-1	SK51	押圧縄 文	胴部	(外)横位(内) 指頭痕にヨコナデ 調整	雲母、砂粒	淡茶~ 淡橙褐色	良	-	-	-	0.6~ 0.7	硬質 原体は不明瞭 な縄左巻き	-	83765.172	5804.051	173.550
図17-2-02	10628	3-1	SK51	押圧縄 文	尖底部 付近	(外)多方向 光沢 あり(内)指頭痕 にやや丁寧なナデ 調整	雲母、砂粒	黒~ 暗褐色	良	-	-	-	0.5~ 1.4	硬質 原体は1段の 縄R左巻き	-	83765.199	5802.815	173.511
図18-1-01	24976	3-1	SK52	隆線文	全体	(口)縦~丸い(外) 幅約6mmの横位2条 上位「クランク状」押 し潰し(内)斜位へラ 状具調整(底)平底	砂粒	淡橙~ 暗褐色	量	( )	-	( )	0.6~ 1.9	25692・25689・ 25690・25885・ 26164・26111・ 26136	-	83764.984	5803.235	173.090
図19-1-01	14062	3-1	SK53	押圧縄 文	口縁部	(外)横~斜位・3 施文帯(内)指頭 痕にヨコナデ調整	金雲母多い	暗橙褐~ 暗褐色	良	-	-	-	0.6~ 0.8	原体は不明瞭 な縄左巻き	-	83770.554	5799.375	173.072
図19-1-02	25324	3-1	SK53	押圧縄 文	胴部	(外)横~斜位(内) 指頭痕にやや丁寧な ヨコナデ調整	金雲母多い	暗褐色	良	-	-	-	0.5~ 0.7	硬質 原体は1段の 縄R左巻き	-	83770.702	5799.509	172.853
図19-1-03	13742	3-1	SK53	押圧縄 文	胴部	(外)斜~縦位(内) 指頭痕にやや丁寧な ヨコナデ調整	金雲母多い	橙褐色	良	-	-	-	0.4~ 0.6	原体は1段の 縄R左巻き	-	83770.608	5799.032	173.264
図19-1-04	12677	3-1	SK53	無文	胴部	(外)指頭痕にヨコ ナデ調整(内)指頭 痕にヨコナデ調整	金雲母多い	暗茶~ 暗褐色	良	-	-	-	0.6~ 0.7		-	83770.430	5799.698	173.298
図19-1-05	25605	3-1	SK53	無文・ 条痕	胴部	(外)斜位に沈線状 条痕(内)指頭痕 にヨコナデ調整	雲母、砂粒	淡茶~ 暗褐色	良	-	-	-	0.7~ 0.8	硬質	-	83770.405	5799.152	172.942

3-1 調査区 グリッド

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-2-01	グリッド	3-1	トレンチ一括	陸線文	口縁部	(外)横位に2条陸線上を押圧(内)指頭部に横位の条痕状ヨコナデ	雲母、石英、長石、白色粒	暗褐色	良	(21)	—	—	0.6~0.8	硬質層位一括	—	—	—	—
図20-2-02	7016	3-1	—	陸線文	口縁部	(外)横位に1条陸線上を押圧(内)指頭部にヨコナデ	雲母、石英、長石、白色粒	暗褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	9480 接合6層	AD-012	-83768.152	5800.47	173.476
図20-2-03	グリッド	3-1	トレンチ一括	陸線文	口縁部	(外)横位1条に縦位の陸線に押圧(内)指頭部にナデ	石英、白色粒、砂粒	暗褐色	良	—	—	—	0.5~0.6	層位一括	—	—	—	—
図20-2-04	7801	3-1	—	陸線文	胴部	(外)横位に1条の波状陸線上を押圧(内)指頭部にナデ	赤色・白色粒、砂粒	明茶褐色	良	—	—	—	1.0~1.1	7層	AD-012	-83764.208	5808.026	173.670
図20-2-05	11020	3-1	—	陸線文	胴部	(外)横位2条陸線上を押圧(内)指頭部にナデ	石英、砂粒	明褐色	良	—	—	—	0.6~0.9	7層	AC-012	-83772.648	5802.139	173.521
図20-2-06	11018	3-1	—	陸線文	胴部	(外)横位に2条の波状陸線上を押圧(内)指頭部にナデ		明褐色	良	—	—	—	0.7~0.9	7層	AC-012	-83772.270	5802.466	173.499
図20-2-07	5754	3-1	—	陸線文	胴部	(外)横位2条陸線上を押圧(内)指頭部にナデ	雲母、砂粒	赤褐色	良	—	—	—	0.7	7層	AC-013	-83771.893	5814.799	173.752
図20-2-08	7757	3-1	—	陸線文	胴部	(外)横位と斜位2条陸線上を押圧(内)指頭部にナデ	赤色・白色粒、砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	7層	AD-012	-83760.922	5808.045	173.829
図20-2-09	5785	3-1	—	陸線文	胴部	(外)陸線文を縦位(内)条痕文	金雲母・砂粒多い	褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	6層	AD-012	-83767.426	5805.545	173.952
図20-2-10	グリッド	3-1	トレンチ一括	爪形文	口縁部	(外)「ハ」の字爪形文を縦位に充填(内)指頭部にヨコナデ	金雲母多い、砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.3~0.6	層位は一括	—	—	—	—
図20-2-11	11588	3-1	—	爪形文	胴部	(外)「ハ」の字爪形文を縦位に充填(内)指頭部にヨコナデ	金雲母・砂粒多い	明赤褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	7層	AC-013	-83771.621	5811.046	173.654
図20-2-12	11412	3-1	—	爪形文	胴部	(外)指頭部に横ナデ無文(内)指頭部にヨコナデ	雲母少ない、砂粒	褐色	良	—	—	—	1.0~1.1	7層	AD-013	-83769.902	5811.007	173.606
図20-2-13	3693	3-1	—	押圧縄文	口縁部	(口)小さな波状(外)横位(内)指頭部にやや丁寧なヨコナデ、斜位擦痕	金雲母多い	黒褐色~暗褐色	良	(18)	—	—	0.6~0.9	3695 接合・6層 原体は1段の縄R左巻き	AD-011	-83760.018	5798.507	174.000
図20-2-14	15474	3-1	—	押圧縄文	口縁部	(口)小さな波状(外)横位(内)指頭部にやや丁寧なヨコナデ	金雲母多い	黒褐色~暗褐色	良	—	—	—	0.6~0.9	7層 原体は1段の縄R左巻き	AE-013	-83755.594	5810.857	174.231
図20-2-15	11151	3-1	—	押圧縄文	口縁部	(口)小さな波状(外)斜位(内)指頭部にやや丁寧なヨコナデ	雲母、粒の大きな砂粒、繊維	黒褐色~暗褐色	良	—	—	—	0.6~0.9	7層 原体は1段の縄R右巻き	AD-012	-83760.104	5803.827	173.740
図20-2-16	10075	3-1	—	押圧縄文	口縁部	(口)押圧縄文によるキザミに小さな波状(外)横位(内)指頭部にヨコナデ、縦位擦痕	金雲母多い	黒褐色~暗褐色	良	—	—	—	0.4~0.6	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-012	-83761.486	5805.744	173.716
図20-2-17	10839	3-1	—	押圧縄文	口縁部	(口)押圧縄文によるキザミに小さな波状(外)斜位に羽状(内)指頭部にナデ調整	金雲母多い	黒褐色~暗褐色	良	—	—	—	0.4~0.6	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-013	-83766.494	5810.282	173.671
図20-2-18	10170	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)顕著な指頭部にヨコナデ調整	雲母、粒の大きな砂粒、繊維	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.7~0.8	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-012	-83763.386	5804.484	173.655
図20-2-19	11598	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭部にヨコナデ調整	粒の大きな砂粒	暗褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	7層 原体は不明瞭な縄左巻き	AC-013	-83770.094	5812.764	173.649
図20-2-20	11080	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横~斜位(内)指頭部にヨコナデ調整	金雲母多い	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.7	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-011	-83768.619	5796.426	173.374
図20-2-21	14029	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭部にヨコナデ調整	雲母、粒の大きな砂粒、繊維	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	7層 原体は1段の縄R右巻き	AD-012	-83762.083	5806.601	173.602
図20-2-22	10139	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横~斜位(内)指頭部にナデ調整	雲母、粒の大きな砂粒、繊維	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.7~0.9	7層 原体は不明瞭な縄左巻き	AD-012	-83762.552	5804.354	173.642
図20-2-23	22493	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭部にナデ、擦痕	金雲母、粒の大きな砂粒、繊維	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.9	7層 原体は不明瞭な縄右巻き	AC-012	-83755.549	5821.703	174.307
図20-2-24	20929	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横~斜位(内)器面荒れ 指頭部	雲母、粒の大きな砂粒、繊維	淡暗茶褐色	良	—	—	—	0.8	7層 原体は1段の縄L左巻き	AE-014	-83772.489	5795.218	173.204

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-2-25	9672	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にナデ調整	砂粒多い	明茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	7層 原体は不明瞭な縄左巻き	AC-011	-83770.886	5803.951	173.467
図20-2-26	5849	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位の羽状(内)指頭痕にヨコナデ調整 割れ口は僅口縁	金雲母多い	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.4~0.9	7層 原体は1段の縄R左巻き	AC-013	-83772.192	5812.940	173.745
図20-2-27	12992	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位の羽状(内)指頭痕にヨコナデ調整 接合部は肥厚	金雲母多い	暗褐色~明茶褐色	良	—	—	—	0.4~0.7	7層 原体は1段の縄R左巻き	AC-013	-83771.782	5811.637	173.570
図20-2-28	20936	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横・斜位(内)指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整	金雲母多く、砂粒	淡茶~淡橙褐色	良	—	—	—	0.6~0.7	7層 原体は1段の縄R右巻き	AE-014	-83754.574	5825.553	174.256
図20-2-29	11024	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕に丁寧なナデ調整	金雲母多く、砂粒	淡茶~淡橙褐色	良	—	—	—	0.6~0.11	7層 原体は不明瞭な縄左巻き	AC-012	-83771.822	5801.421	173.445
図20-2-30	13329	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母多い	茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.6	7層 原体は1段の縄R右巻き	AD-012	-83768.678	5801.285	173.287
図20-2-31	8276	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整 接合部は肥厚割れ口は僅口縁	金雲母多い	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.9	7層 原体は1段の縄R左巻き	AE-011	-83759.948	5796.879	173.452
図20-2-32	13580	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にヨコナデ調整 接合部に肥厚と僅口縁	金雲母多い	茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.9	原体は不明瞭な縄左巻き	—	—	—	—
図20-2-33	9745	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位の羽状(内)指頭痕にヨコナデ調整 接合部に肥厚	金雲母多い	暗淡茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-013	-83766.227	5811.203	173.772
図20-2-34	10784	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母、砂粒、繊維	淡茶~淡暗褐色	良	—	—	—	0.5~0.8	7層 原体は不明瞭な縄左巻き	AC-012	-83770.355	5809.534	173.591
図20-2-35	10925	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横位(内)指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整 接合部の肥厚僅か	雲母、砂粒	明茶~暗茶褐色	良	—	—	—	0.4~0.5	7層 原体は1段の縄R右巻き	AC-012	-83770.352	5804.509	173.660
図20-2-36	15359	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位の羽状(内)指頭痕にヨコナデ調整	雲母、砂粒多い	明茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	7層 原体は1段の縄R左巻き	AE-012	-83756.149	5808.974	173.929
図20-2-37	19976	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)横~斜位の3施文帯で羽状(内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母、砂粒多い	淡茶褐色	良	—	—	—	0.4~0.7	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-013	-83767.401	5815.112	173.948
図20-2-38	10777	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位 器面荒れ(内)指頭痕にヨコナデ調整 接合部に肥厚	金雲母、砂粒	淡茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	7層 原体は不明瞭な縄左巻き	AC-012	-83770.127	5809.995	173.610
図20-2-39	26141	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位 器面荒れ(内)顕著な指頭痕にヨコナデ調整 接合部に肥厚と段	金雲母、砂粒多い	淡茶~淡暗褐色	良	—	—	—	0.3~0.6	7層 原体は1段の縄R左巻き	AE-012	-83756.921	5801.181	173.544
図20-2-40	11830	3-1	—	押圧縄文	胴部	(外)縦位 器面荒れ(内)顕著な指頭痕にナデ調整	金雲母、砂粒多い	暗茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.6	7層 原体は1段の縄L左巻き	AC-012	-83771.748	5804.645	173.619
図20-2-41	11007	3-1	—	押圧縄文	尖底部	(外)多方向(内)指頭痕にナデ調整	粒の大きな砂粒多い	淡茶~淡暗褐色	良	—	—	—	0.6~1.1	7層 原体は1段の縄R左巻き	AC-012	-83772.417	5803.685	173.621
図20-2-42	11516	3-1	—	押圧縄文	尖底部	(外)多方向(内)指頭痕にナデ調整 乳房状器形	粒の大きな砂粒多く、繊維	淡茶~淡暗褐色	良	—	—	—	0.6~1.2	7層 原体は1段の縄R左巻き	AD-013	-83764.578	5812.123	173.985
図20-2-43	9383	3-1	—	押圧縄文	尖底部	(外)多方向 器面荒れ(内)指頭痕にナデ調整 乳房状器形	金雲母、粒の大きな砂粒多量、繊維	淡茶~淡暗褐色	良	—	—	—	0.7~1.6	7層 原体は不明瞭な縄	AD-011	-83768.613	5799.318	173.519
図20-2-44	10838	3-1	—	無文	口縁部	(口)丸い(外・内)指頭痕にヨコナデ調整	金雲母、砂粒多い	黒褐色~暗茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	7層	AD-013	-83766.201	5810.170	173.674
図20-2-45	8757	3-1	—	無文	口縁部	(口)丸い(外・内)指頭痕にヨコナデ調整 擦痕	粒の大きな砂粒、繊維	黒褐色	良	—	—	—	0.6~0.7	7層	AC-013	-83771.035	5811.066	173.694
図20-2-46	8129	3-1	—	無文	胴部	(外・内)指頭痕にナデ調整 擦痕	粒の大きな砂粒	淡茶褐色	良	—	—	—	1.3	7層 陸線文土器の無文部と推定	AD-012	-83761.852	5800.649	173.590
図20-2-47	9676	3-1	—	無文	胴部	(外・内)指頭痕にやや丁寧なナデ調整	粒の大きな砂粒	茶褐色	良	—	—	—	1.3	7層 陸線文土器の無文部と推定	AC-011	-83772.403	5794.898	173.179
図20-2-48	9300	3-1	—	無文	胴部	(外・内)器面荒れ 指頭痕にやや丁寧なナデ調整	粒の大きな砂粒、繊維	淡茶褐色	良	—	—	—	0.9~1.1	7層 陸線文土器の無文部と推定	AD-012	-83769.533	5803.709	173.715

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-2-49	10000	3-1	—	無文	平底部	(外・内)指頭痕にナデ調整	粒の大きな砂粒、雲母	淡橙褐色	良	—	—	—	1.0~2.0	7層 陸線文土器と推定	AD-012	-83768.645	5809.881	173.653
図20-2-50	8640	3-1	—	無文	平底部	(外・内)器面荒れ ナデ調整	粒の大きな砂粒	淡橙褐色	良	—	—	—	1.3	7層 陸線文土器と推定	AD-012	-83767.071	5808.255	173.715
図20-2-51	8753	3-1	—	無文	底部付近	(外)指頭痕にナデ調整 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きな砂粒、雲母	淡橙褐色	良	—	—	( )	0.8~1.3	7層 小形で祭祀用か	AC-013	-83770.676	5810.584	173.713
図20-2-52	12434	3-1	—	無文・条痕	口縁部	(外)斜位 沈線状 (内)顕著な指頭痕にナデ調整	金雲母多い	黒褐色~暗茶褐色	良	(18)	—	—	0.4~0.8	硬質 推定口径18cm 押圧縄文土器3種に似る	AC-013	-83771.042	5812.358	173.615
図20-2-53	7643	3-1	—	無文・条痕	胴部	(外)斜位 ヘラ状具 (内)指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整	砂粒多い、雲母	暗褐色~淡橙褐色	良	—	—	—	1.0	7層	AC-013	-83771.887	5811.702	173.827
図20-2-54	11481	3-1	—	無文・条痕	胴部	(外)横位 ヘラ状具 (内)指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整	砂粒多い	暗褐色	良	—	—	—	—	7層	AD-012	-83765.935	5809.558	173.652
図20-2-55	9603	3-1	—	無文・条痕	胴部	(外)指頭痕にナデ調整 (内)指頭痕にヨコナデ、棒状・ヘラ状具による条痕調整	粒の大きな粒の大きな砂粒、雲母	淡茶褐色	良	—	—	—	1.0	17370・7820と同一固体 7層 陸線文土器に似る	AC-011	-83772.956	5797.033	173.358
図20-2-56	17370	3-1	—	無文・条痕	胴部	(外)指頭痕にナデ調整 (内)指頭痕にヨコナデ、棒状・ヘラ状具による条痕調整	粒の大きな粒の大きな砂粒、雲母	淡茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	9603・7820と同一固体 7層 陸線文土器に似る	AD-012	-83764.923	5808.640	173.664
図20-2-57	7820	3-1	—	無文・条痕	胴部	(外)指頭痕にナデ調整 (内)指頭痕にヨコナデ、棒状・ヘラ状具による条痕調整	粒の大きな粒の大きな砂粒、雲母	淡茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.8	9603・17370と同一固体 7層 陸線文土器に似る	AD-012	-83763.032	5805.856	173.685
図20-2-58	2067	3-1	—	押型文	胴部	(外)楕円押型文に無文帯 (内)指頭痕にナデ調整	細かな金雲母、砂粒	淡橙褐色	良	—	—	—	0.5~0.7	6層	AD-015	-83768.207	5834.034	175.048
図20-2-59	8574	3-1	—	捺糸文	口縁部	(口)丸棒状具による連続キザミ (外)斜位 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きな砂粒、金雲母、長石、繊維	茶褐色	良	—	—	—	0.7	層位7層 硬質 原体はL	AD-012	-83767.203	5809.540	173.819
図20-2-60	2585	3-1	—	捺糸文	口縁部	(口)丸棒状具による連続キザミ (外)斜位 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きな砂粒、金雲母、長石、繊維	茶褐色	良	—	—	—	0.7	層位6層 硬質 原体はL	AD-012	-83766.370	5809.333	174.289
図20-2-61	6779	3-1	—	捺糸文	胴部	(外)斜位 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きな砂粒、雲母、長石、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.7	層位6層 硬質 原体はL	AD-012	-83766.604	5809.264	173.944
図20-2-62	7923	3-1	—	捺糸文	胴部	(外)斜位 (内)指頭痕にナデ調整	粒の大きな砂粒、金雲母、長石	暗茶褐色	良	—	—	—	0.6~0.7	層位 7層	AD-012	-83766.048	5804.140	173.709
図20-2-63	13552	3-1	—	沈線文系	胴部	(外)横~斜位 沈線文 (内)擦痕調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	淡茶褐色	良	—	—	—	0.5~0.8	6層 硬質	AD-012	-83764.437	5800.503	173.419
図20-2-64	4892	3-1	—	沈線文系	胴部	(外)横~斜位 沈線文 (内)斜位ナデ調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	淡暗茶褐色	良	—	—	—	0.4~0.6	6層 硬質	AD-012	-83762.357	5800.723	173.848
図20-2-65	5981	3-1	—	沈線文系	胴部	(外)横~斜位 沈線文 (内)指頭痕にナデ調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	0.7	6層 硬質	AD-012	-83760.607	5801.775	173.854
図20-2-66	7406	3-1	—	沈線文系	口縁部	(外)綾杉状沈線文 (内)指頭痕にヨコナデ	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	淡暗黄褐色	良	—	—	—	0.6~0.7	6層 硬質	AD-013	-83766.489	5810.014	173.894
図20-2-67	13553	3-1	—	沈線文系	胴部	(外)沈線文に竹管状具による連続刺突文 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	0.7	6層 硬質	AD-012	-83764.472	5800.422	173.447
図20-2-68	7237	3-1	—	沈線文系	胴部	(外)綾杉状沈線文 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	0.7	6層 硬質	AC-011	-83771.156	5795.014	173.430
図20-2-69	6404	3-1	—	沈線文・条痕文系	口縁部	(外)幾何学沈線文に連続刺突文 (内)指頭痕にヨコナデ調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	0.7	6層 硬質	AA-013	-83790.818	5810.114	173.542
図20-2-70	1921	3-1	—	条痕文	口縁部	(口)連続キザミ (外)連続押引文の幾何学文様 (内)指頭痕にナデ	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色~淡赤褐色	良	—	—	—	0.9~1.2	6層・硬質	AE-013	-83755.426	5812.508	174.694

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-2-71	17797	3-1	—	条痕文	口縁部	(口)連続キザミ (外)連続押引文の 幾何学文様 (内) 指頭痕にナデ	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 淡赤褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.2	7層・硬質	AE-014	-83755.162	5826.462	174.930
図20-2-72	3699	3-1	—	条痕文	胴部	(外)沈線文と連続 押引文の充填 (内)条痕文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金雲母、 繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.2	6層・硬質 段あり	AE-011	-83758.312	5797.724	173.966
図20-2-73	4124	3-1	—	条痕文	胴部	(外)連続押引文に よる充填 (内)条 痕文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金雲母、 繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.2	6層・硬質 段あり	AD-012	-83760.200	5804.222	174.121
図20-2-74	5966	3-1	—	条痕文	胴部	(外)沈線文と連続 押引文による充填 (内)条痕文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金雲母、 繊維	淡赤褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.4	6層・硬質 段あり	AD-012	-83761.697	5803.327	173.943
図20-2-75	5997	3-1	—	条痕文	胴部	(外)連続押引文に よる充填 (内)指 頭痕にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金雲母、 繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.4	6層・硬質 段あり	AE-012	-83758.409	5805.389	174.105
図20-2-76	6264	3-1	—	条痕文	胴部	(外)横位の連続押 引文 (内)指頭痕 にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金雲母、 繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	0.8～ 1.2	6層・硬質 段あり	AD-012	-83764.219	5809.779	174.052
図20-2-77	2773	3-1	—	条痕文	口縁部	(口)連続キザミ (外)条痕文に沈線文 と円形刺突文 (内)や や丁寧なヨコナデ	砂粒、雲 母、繊維	暗褐～ 淡赤褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.9	6層・硬質	AE-012	-83755.672	5809.157	174.414
図20-2-78	5033	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に沈線 文と円形刺突文 (内)やや丁寧なヨ コナデ	砂粒、雲 母、繊維	暗褐～ 淡橙褐色	良	—	—	—	0.8～ 1.0	6層・硬質	AE-013	-83757.048	5811.270	174.424
図20-2-79	20945	3-1	—	条痕文	胴部	(外)沈線文と連続 押引文の幾何学文様 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 淡赤褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.3	7層・硬質 段あり	AC-015	-83770.253	5830.676	174.633
図20-2-80	17860	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に沈線 文と円形刺突文 (内)条痕文	砂粒、雲 母、繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.2	7層・硬質	AC-015	-83770.397	5830.190	174.816
図20-2-81	17830	3-1	—	条痕文	胴部	(外)沈線文と連続 押引文の幾何学文 様 (内)指頭痕に 条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	7層・硬質 段あり	AE-014	-83757.132	5821.628	174.604
図20-2-82	17843	3-1	—	条痕文	胴部	(外)連続押引文に よる充填 円孔 (内)条痕文にヨコ ナデ	粒の大きな 砂粒、 金雲母、 繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	1.2	7層・硬質 段あり	AE-014	-83759.075	5826.369	174.843
図20-2-83	13446	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に沈線文 と円形刺突文 (内)やや 丁寧なヨコナデ	砂粒、雲 母、繊維	淡橙褐色	良	—	—	—	1.2	7層・硬質	AD-011	-83765.266	5799.090	173.582
図20-2-84	3650	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に幾何 学沈線文 (内)条 痕文	砂粒、雲 母、繊維	淡黄～ 淡橙褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.2	6層	AD-011	-83761.313	5798.960	174.030
図20-2-85	2977	3-1	—	条痕文	胴部	(外)沈線文と連続 押引文 (内)指頭 痕に条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	6層・硬質 段あり	AE-012	-83756.957	5808.127	174.279
図20-2-86	4103	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に幾何学 沈線文 (内)条痕文	砂粒、雲 母、繊維	淡黄～ 淡橙褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.2	6層	AE-011	-83758.001	5798.908	173.849
図20-2-87	5946	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に幾何学 沈線文 (内)条痕文	砂粒、雲 母、繊維	淡黄～ 淡橙褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.0	6層	AE-011	-83757.383	5798.299	173.688
図20-2-88	2758	3-1	—	条痕文	胴部	内外面に条痕文調 整が行われる口縁 部片で段を有する	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	—	6層	AD-012	-83761.058	5809.536	174.302
図20-2-89	5038	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文に幾何学 沈線文 (内)条痕文	砂粒、雲 母、繊維	淡黄～ 淡橙褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.2	6層	AE-013	-83758.072	5810.073	174.331
図20-2-90	2775	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内) 指頭痕に条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	—	6層	AE-012	-83754.580	5808.805	174.431
図20-2-91	2781	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内) 指頭痕に条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	6層	AE-012	-83755.768	5807.365	174.270
図20-2-92	2154	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内) 指頭痕に条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	5層	AC-011	-83772.814	5798.820	173.607
図20-2-93	7600	3-1	—	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内) 指頭痕に条痕文	粒の大きな 砂粒、雲母、 繊維	暗褐～ 黒褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	6層	AD-012	-83768.383	5809.255	173.902

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-2-94	11255	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	7層	AE-012	-83752.997	5805.603	174.209
図20-2-95	3573	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AC-012	-83772.2	5805.635	173.851
図20-2-96	4927	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AD-011	-83761.371	5796.244	173.627
図20-2-97	3453	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AE-012	-83759.234	5802.016	173.985
図20-2-98	5567	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AD-012	-83764.748	5807.82	174.028
図20-2-99	5352	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AD-012	-83764.309	5801.547	173.82
図20-2-100	5270	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AE-012	-83757.848	5806.548	174.153
図20-2-101	4093	3-1	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)指頭痕に条痕文	粒の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐～黒褐色	良	-	-	-	0.9～1.4	6層	AE-011	-83758.854	5796.95	173.705
図20-2-102	5431	3-1	-	陸線文	口縁部	(外)縦位陸線文 (内)丁寧なナデ調整	粒の大きい砂粒、雲母、繊維	淡橙茶褐色	良	-	-	-	0.5～0.8	6層	AC-013	-83772.063	5819.205	174.389
図20-2-103	17796	3-1	-	竹管文 土器	口縁部	(外)連続爪形文・斜位平行沈線文 (内)丁寧なナデ調整	金雲母多い	暗褐色	良	-	-	-	0.4～0.6	7層	AE-014	-83755.422	5826.461	174.692
図20-2-104	17805	3-1	-	竹管文 土器	胴部	(外)連続爪形文・斜位平行沈線文 (内)丁寧なナデ調整	金雲母多い	暗褐色	良	-	-	-	0.7	7層	AE-014	-83755.999	5825.682	174.920
図20-2-105	9694	3-1	-	竹管文 土器	胴部	(外)連続爪形文・斜位平行沈線文 (内)丁寧なナデ調整	金雲母多い	暗褐色	良	-	-	-	0.6～0.7	7層	AE-014	-83755.202	5826.896	174.971
図20-2-106	9696	3-1	-	竹管文 土器	底部	(外)斜縄文 (内)丁寧なナデ調整	金雲母多い	暗褐色	良	-	-	-	0.7	6層	AE-014	-83754.709	5825.898	174.938

### 3-2A 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器厚 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図21-2-01	18926	3-2A	-	陸線文	口縁部	(外)横位2条陸線文にキザミ状押圧 (内)条痕状調整	雲母、砂粒	暗褐色	良	-	-	-	0.7～0.8	7層	AB-012	-83783.722	5807.204	173.302
図21-2-02	12474	3-2A	-	陸線文	口縁部	(外)横位2条陸線文にキザミ状押圧 (内)条痕状調整	雲母、砂粒	暗褐色	良	-	-	-	0.7～0.8	7層	AC-012	-83776.418	5809.111	173.601
図21-2-03	12051	3-2A	-	押圧縄文	口縁部	(外)横位押圧縄文 (内)指頭痕にヨコナデ	金雲母多い、砂粒	暗茶褐色	良	-	-	-	0.6～0.9	7層	AC-012	-83773.693	5808.768	173.626
図21-2-04	9024	3-2A	-	押圧縄文	胴部	(外)斜～横位押圧縄文 (内)指頭痕にヨコナデ	雲母、粒の大きな砂粒	暗茶褐色	良	-	-	-	0.6～0.8	7層	AC-012	-83777.302	5807.855	173.682
図21-2-05	19906	3-2A	-	押圧縄文	胴部	(外)斜～横位押圧縄文 (内)指頭痕にヨコナデ	金雲母多い、砂粒	茶褐色	良	-	-	-	0.8～1.0	7層	AB-013	-83785.294	5810.869	173.441
図21-2-06	9236	3-2A	-	押圧縄文	胴部	(外)横位押圧縄文 (内)指頭痕にヨコナデ	金雲母多い、砂粒	橙褐色	良	-	-	-	0.5～0.6	7層	AC-012	-83774.302	5808.132	173.714
図21-2-07	19993	3-2A	-	押圧縄文	胴部	(外)横位押圧縄文 (内)指頭痕にヨコナデ・条線状	雲母、砂粒、繊維	淡茶褐色	良	-	-	-	0.8～0.9	7層	AB-012	-83786.155	5807.36	173.259
図21-2-08	19982	3-2A	-	押圧縄文	尖底部	(外)多方向押圧縄文 (内)丁寧な指頭痕にナデ	金雲母多い	暗褐色	良	-	-	-	0.5～1.1	7層	AB-012	-83785.018	5807.332	173.249
図21-2-09	8892	3-2A	-	無文	口縁部	(外)無文 (内)指頭痕にヨコナデ	粒の大きな砂粒	淡暗褐色	良	-	-	-	0.7～1.1	7層	AC-012	-83774.496	5807.596	173.807
図21-2-10	5588	3-2A	-	条痕文	胴部	(外)無文 (内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	-	-	-	1.2	6層	AB-012	-83788.792	5809.357	173.677
図21-2-11	18416	3-2A	-	条痕文	胴部	(外)無文 (内)条痕文調整	雲母、粒の大きな砂粒、繊維	暗褐色	良	-	-	-	1.2	7層	AB-013	-83789.773	5811.68	173.516
図21-2-12	18416	3-2A	-	条痕文	胴部	(外)無文 (内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗橙褐色	良	-	-	-	1.2	7層	AB-013	-83789.773	5811.68	173.516
図21-2-13	19871	3-2A	-	条痕文	胴部	(外)条痕文 (内)条痕文調整	砂粒、繊維	淡橙褐色	良	-	-	-	1.2	7層	AB-012	-83783.974	5809.74	173.517
図21-2-14	19915	3-2A	-	条痕文	胴部	(外)無文 (内)条痕文調整	金雲母多い、砂粒、繊維	淡橙褐色	良	-	-	-	1.2～1.8	7層	AB-013	-83787.114	5811.045	173.385

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器厚 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図21-2-15	9113	3-2A	—	条痕文	胸部	(外)無文(内)指頭痕にヨコナデ	金雲母多い砂粒、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	0.6	7層	AC-012	-8379.583	5807.19	173.662
図21-2-16	2361	3-2A	—	条痕文	胸部	(外)無文(内)指頭痕にヨコナデ	雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	1.0	6層	AA-012	-83796.767	5809.181	173.456
図21-2-17	6407	3-2A	—	条痕文	胸部	(外)無文(内)指頭痕にヨコナデ	砂粒、繊維	茶褐色	良	—	—	—	0.7	6層	AA-013	-83790.556	5810.677	173.626
図21-2-18	18407	3-2A	—	絡条体圧痕文	口縁部	(外)縦位隆線文に斜位絡条体圧痕文(内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	1.1	7層 清水柳E類	AB-012	-83789.634	5809.095	173.443
図21-2-19	18415	3-2A	—	絡条体圧痕文	胸部	(外)縦位隆線文に斜位絡条体圧痕文(内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	1.2	7層 清水柳E類	AA-013	-83790.163	5811.931	173.583
図21-2-20	6041	3-2A	—	絡条体圧痕文	胸部	(外)縦位隆線文に斜位絡条体圧痕文(内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	1.2	7層 清水柳E類	AB-013	-83787.114	5810.457	173.604
図21-2-21	5472	3-2A	—	櫛描文	口縁部	(外)連続弧文の櫛描文(内)条痕文調整	雲母、粒大きい砂粒、繊維	暗茶褐色	良	—	—	—	1.3	6層 6061・18416と同一個体	AA-012	-83790.113	5809.272	173.62
図21-2-22	6061	3-2A	—	櫛描文	胸部	(外)縦位の櫛描文(内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	1.1	6層 5472・18416と同一個体	AB-013	-83788.942	5811.193	173.624
図21-2-23	18416	3-2A	—	櫛描文	胸部	(外)縦位の櫛描文(内)条痕文調整	雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	1.1	7層 5472・6061と同一個体	AB-013	-83789.773	5811.68	173.516

### 3-3A 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図22-2-01	11333	3-3A	—	押型文	胸部	(外)横位山形施文(内)丁寧なヨコナデ調整	金雲母・繊維	淡茶褐色	良	—	—	—	0.5	6層	AF-013	-83746.377	5812.57	174.809
図22-2-02	16380	3-3A	—	押型文	胸部	(外)横・縦位山形施文(内)ヨコナデ調整	雲母・砂粒	淡褐色	良	—	—	—	0.6	7層	AF-013	-83747.476	5814.338	174.684
図22-2-03	11327	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)斜位沈線文に連続刺突文充填(内)条痕文	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	0.8~1.3	6層	AF-013	-83746.008	5814.293	174.897
図22-2-04	13230	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)櫛がけ沈線文(内)条痕文調整	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	0.8~1.3	6層	AF-014	-83744.567	5821.623	175.077
図22-2-05	16400	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)櫛がけ沈線文(内)条痕文調整	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	0.8~1.3	7層	AF-013	-83745.929	5819.447	174.846
図22-2-06	11341	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)円形刺突文に斜位沈線文(内)条痕文	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	0.8~1.3	6層	AF-013	-83746.8	5810.847	174.871
図22-2-07	16401	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)斜位沈線文(内)条痕文	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	0.8~1.3	7層	AF-013	-83746.797	5817.474	174.931
図22-2-08	13227	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)(内)条痕文	雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	1.0	6層	AF-013	-83746.533	5818.093	174.986
図22-2-09	13281	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)(内)条痕文	雲母、砂粒、繊維	褐色	良	—	—	—	1.0~1.2	6層 09~12は同一個体	AF-013	-83747.576	5816.325	175.128
図22-2-10	11292	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)(内)条痕文	雲母、砂粒、繊維	褐色	良	—	—	—	1.0~1.2	6層	AF-014	-83745.492	5820.494	175.029
図22-2-11	13214	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)(内)条痕文	雲母、砂粒、繊維	褐色	良	—	—	—	1.0~1.2	6層	AF-013	-83744.562	5816.068	174.859
図22-2-12	13226	3-3A	—	条痕文	胸部	(外)(内)条痕文	雲母、砂粒、繊維	褐色	良	—	—	—	1.0~1.2	6層	AF-013	-83746.22	5817.366	174.971

### 3-3C 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図23-2-01	19429	3-3C	SB3010	隆線文	口縁部	(外)横位の鋸歯状隆線文に押圧(内)指頭痕にヨコナデ	粒の大きな砂粒	黒褐~暗褐色	良	—	—	—	0.6~0.9		AF-021	-83742.444	5894.814	175.794
図23-2-02	18772	3-3C	SB3010	隆線文	口縁部	(外)横~斜位の鋸歯状隆線文に押し潰し(内)指頭痕にヨコナデ	粒の大きな砂粒	黒褐~暗褐色	良	—	—	—	0.5~0.8		AF-021	-83742.67	5890.387	176.362
図23-2-03	20130	3-3C	SB3010	隆線文	口縁部	(外)横~斜位の隆線文に連続押し潰し(内)丁寧なナデ	粒の大きな砂粒	黒褐~暗褐色	良	—	—	—	0.8		AF-021	-83742.516	5890.455	176.255
図23-2-04	23702	3-3C	SB3010	隆線文	口縁部	(外)横位の隆線文に連続押し潰し横位の微隆起線文(内)丁寧なナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	—	—	—	0.5~0.7		AF-020	-83740.77	5888.745	176.498
図23-2-05	17514	3-3C	SB3010	隆線文	口縁部	(外)横位の隆線文に連続押し潰し横位の微隆起線文(内)指頭痕に丁寧なナデ	砂粒・繊維	黒褐~暗褐色	良	—	—	—	0.4~0.6		AF-021	-83742.54	5892.271	176.298

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図23-2-06	19453	3-3C	SB3010	陸線文	口縁部	(外)横~斜位の鋸歯状陸線文に押し潰し(内)丁寧なヨコナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.7		AF-021	-83741.99	5893.373	175.935
図23-2-07	17128	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)横位の陸線文に連続押し潰し横位の微隆起線文(内)丁寧なナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.6		AF-021	-83742.994	5895.422	175.814
図23-2-08	20290	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)横位と2条1単位縦位微隆起線文(内)ヨコナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.7		AF-021	-83741.264	5891.419	176.119
図23-2-09	17933	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)横位と2条1単位縦位微隆起線文(内)ヨコナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.7		AF-020	-83741.938	5889.674	176.712
図23-2-10	20823	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)横位と2条1単位縦位微隆起線文(内)ヨコナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	-	-	-	0.6		AF-021	-83741.646	5893.2	175.922
図23-2-11	21504	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)横位と2条1単位縦位微隆起線文(内)ヨコナデ	砂粒	茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.6		AF-020	-83744.039	5885.351	176.761
図23-2-12	17468	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)2条1単位縦位微隆起線文(内)ヨコナデ	砂粒	黒褐~暗褐色	良	-	-	-	0.6~0.7		AF-020	-83741.17	5887.281	177.091
図23-2-13	19448	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)2条1単位縦位微隆起線文(内)ヨコナデ	砂粒・金雲母	茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.5~0.6		AF-021	-83741.67	5893.605	175.924
図23-2-14	19454	3-3C	SB3010	陸線文	胴部	(外)横位と斜位微隆起線文(内)丁寧なヨコナデ	砂粒・金雲母	淡茶褐色	良	-	-	-	0.6		AF-021	-83741.793	5893.48	175.927
図23-2-15	20086	3-3C	SB3010	押圧縄文	胴部	(外)押圧縄文(内)指頭痕にナデ	金雲母・砂粒	茶褐~暗茶褐色	良	-	-	-	0.6~0.7		AF-020	-83742.702	5887.573	176.574
図23-2-16	19340	3-3C	SB3010	条痕文	口縁部	(外)横位沈線文(内)条痕文・ヨコナデ	金雲母・砂粒	茶褐~暗褐色	良	-	-	-	0.7~1.0		AF-020	-83743.518	5888.201	176.78
図23-2-17	17580	3-3C	SB3010	条痕文	胴部	(外)条痕文(内)条痕文	砂粒多い、金雲母少ない、繊維	茶褐~暗茶褐色	良	-	-	-	0.7~0.9	22233と接合 推定胴部径31cm	AF-020	-83742.274	5887.269	177.087
図23-2-18	19285	3-3C	SB3010	無文	胴部	(外)無文(内)指頭痕顯著ナデ	砂粒多い、金雲母少ない、繊維	茶褐~暗茶褐色	良	-	-	-	0.7~0.9	24974と接合	AF-020	-83743.577	5886.225	177.202
図24-2-01	17415	3-3C	-	山型文	口縁部	(外)縦位沈線文に格子押型文充填(内)ナデ	白色粒	暗茶褐色	良	-	-	-	0.5~0.7	7層	AF-020	-83741.324	5885.436	177.576
図24-2-02	17040	3-3C	-	条痕文・沈線文	胴部	(外)格子沈線文(内)条痕文	白色粒、繊維	橙褐色	良	-	-	-	0.8~1.1	6層	AF-020	-83741.946	5886.377	177.366

### 3-3E 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図26-2-01	20718	3-3E	-	木島式	口縁部	(外)横位の刺突文に沈線文(内)指頭痕にナデ	細かい金雲母	淡黄色	良	-	-	-	0.4~0.5	7層	AI-028	-83713.543	5962.814	177.86
図26-2-02	20718	3-3E	-	木島式	胴部	(外)横位の沈線文(内)指頭痕にナデ	細かい金雲母、白色粒	淡黄褐色	良	-	-	-	0.3	7層	AI-028	-83713.543	5962.814	177.86
図26-2-03	20758	3-3E	-	縄文	口縁部	(外)斜縄文(内)ヨコナデ	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	-	-	-	0.4~0.7	7層	AI-027	-83715.963	5957.81	177.400
図26-2-04	20761	3-3E	-	縄文	胴部	(外)斜縄文(内)ナデ	金雲母、砂粒、繊維	淡茶褐色	良	-	-	-	0.7	7層	AI-027	-83716.207	5957.439	177.406
図26-2-05	20770	3-3E	-	燃糸文	胴部	(外)縦位燃糸文(内)指頭痕にヨコナデ	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	-	-	-	0.8	7層	AI-027	-83717.389	5955.414	177.159

### 3-4 調査区

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図27-2-01	21493	3-4	—	押圧縄文	口縁部	(口)キザミ(外)斜位押圧縄文(内)指頭痕にナデ調整	雲母、粒に大きな砂粒、繊維	黒褐色	良	—	—	—	0.5	7層 不明瞭な原体左巻き付け	AF-012	-83740.040	5806.066	173.982
図27-2-02	16851	3-4	—	押圧縄文	尖底部	(外)多方向押圧縄文 突起部に六角形沈線が螺旋状(内)指頭痕にナデ調整	金雲母、砂粒、繊維	暗褐色	良	—	—	—	0.4~1.2	7層 1段縄R原体左巻き付け	AF-012	-83746.069	5805.005	174.040
図27-2-03	16836	3-4	—	押圧縄文	口縁部	(口)丸い(外)斜位に太い原体の押圧縄文(内)指頭痕にナデ調整	雲母、粒に大きな砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.8~1.1	7層 不明瞭な縄R原体	AF-012	-83747.989	5804.889	174.073
図27-2-04	16465	3-4	—	押圧縄文	胴部	(外)斜位に太い原体の押圧縄文(内)指頭痕にナデ調整	雲母、粒に大きな砂粒	黒褐色	良	—	—	—	0.8~1.0	7層	AF-012	-83747.847	5805.101	174.072
図27-2-05	5933	3-4	—	条痕文	胴部	(外)(内)条痕文	雲母、砂粒、繊維	淡茶褐色	良	—	—	—	0.9~1.1	6層	AE-012	-83753.644	5807.871	174.456
図27-2-06	5943	3-4	—	無文	胴部	(外)無文(内)指頭痕にナデ調整	雲母、砂粒、繊維	橙褐色	良	—	—	—	0.9~1.2	7層	AC-013	-83771.703	5814.091	173.761
図27-2-07	15312	3-4	—	無文	胴部	(外)無文(内)指頭痕にナデ調整	雲母、砂粒、繊維	橙褐色	良	—	—	—	0.9~1.2	7層	AE-012	-83752.795	5806.177	174.209

## 調査区出土 石器観察表

### 2-3 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図 3-2-01	546	2-3	1号柱穴列跡	—	敲・磨石	斑縞岩	(7.2)	(10.2)	5.1	599.0	1/2 残存・楕円形	—	-83815.053	5734.528	171.091

### 2-4 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図 4-2-01	1015	2-4	—	5B	打製石斧	頁岩	10.4	4.0	1.4	63.1	完形品・短冊形	AC-005	-83776.394	5731.491	172.331
図 4-2-02	1016	2-4	—	6A	敲・磨石	石英斑岩	10.6	9.4	6.6	880.0	完形品	AC-005	-83780.671	5731.432	172.063
図 4-2-03	2990	2-4	—	6B	磨石	中粒砂岩	8.8	6.1	5.0	254.0	1/2 残存・楕円形	AC-004	-83777.047	5723.029	171.665
図 4-2-04	1599	2-4	—	6A	石皿	?岩	9.5	7.2	3.0	215.0	1/5 残存・偏平	AC-004	-83774.819	5730.418	172.021

### 2-5 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図 5-4-01	1798	2-5	—	6A	石鏃	凝灰岩	(2.3)	2.0	0.5	1.9	ほぼ完形品・凹基	AC-011	-83771.625	5790.903	173.003
図 5-4-02	1737	2-5	—	6B	鋸歯縁削器	頁岩	8.2	3.9	1.2	46.0	加工痕・台形	AC-007	-83772.490	5752.190	173.315
図 5-4-03	1545	2-5	—	5B	凹石	細礫岩	8.6	6.5	4.3	338.0	4/5 残存・楕円形	AC-010	-83770.645	5784.415	171.843
図 5-4-04	1575	2-5	—	5B	敲・磨石	輝石安山岩	8.0	6.4	3.5	244.0	完形品・楕円形	AC-010	-83772.719	5784.580	171.937

### 3-1 調査区 遺構

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図 6-4-01	25364	3-1	SB3001	—	石鏃	ホルンフェルス	(1.9)	(1.2)	0.5	1.0	ほぼ完形・無基	—	-83757.852	5800.776	172.984
図 6-4-02	14856	3-1	SB3001	—	石鏃	黒曜石	(2.2)	1.6	0.5	1.1	ほぼ完形・凹基	—	-83757.269	5800.360	173.567
図 6-4-03	14857	3-1	SB3001	—	石鏃	チャート	2.6	1.6	0.3	0.1	完形・凹基	—	-83759.067	5800.965	173.503
図 6-4-04	15184	3-1	SB3001	—	石鏃	ホルンフェルス	(1.8)	1.6	0.3	1.0	先端部欠損・凹基	—	-83760.191	5799.117	173.391
図 6-4-05	16029	3-1	SB3001	—	石鏃	黒曜石	(2.1)	(1.2)	0.5	0.7	ほぼ完形・凹基	—	-83759.009	5800.187	173.389
図 6-4-06	16055	3-1	SB3001	—	石鏃	ホルンフェルス	(2.0)	(1.4)	0.3	0.7	ほぼ完形・凹基	—	-83757.118	5799.816	173.612
図 6-4-07	18252	3-1	SB3001	—	石鏃・石匙	黒曜石	(5.0)	3.4	1.6	20.0	完形・凹基	—	-83757.658	5800.208	173.337
図 6-4-08	25044	3-1	SB3001	—	石鏃	ガラス質黒色安山岩	(2.2)	(1.7)	0.5	1.4	右脚部欠損・凹基	—	-83759.332	5800.665	172.985
図 6-4-09	25554	3-1	SB3001	—	石鏃	チャート	1.9	1.1	0.5	0.9	完形・凹基	—	-83759.185	5800.974	172.982
図 6-4-10	25594	3-1	SB3001	—	石鏃	ホルンフェルス	(1.9)	1.2	0.4	0.7	ほぼ完形・凹基	—	-83759.945	5799.388	172.974
図 6-4-11	25580	3-1	SB3001	—	石鏃	流紋岩	(2.1)	1.3	0.4	1.4	ほぼ完形・凹基	—	-83758.469	5798.953	172.982
図 6-4-12	24462	3-1	SB3001	—	楔形石器	黒曜石	2.3	2.3	1.0	6.3	方形	—	-83758.303	5800.111	173.021
図 6-4-13	15189	3-1	SB3001	—	削器	頁岩	5.8	7.1	1.7	65.0	加工痕・台形	—	-83760.092	5799.503	173.354
図 6-4-14	21782	3-1	SB3001	—	鋸歯縁削器	頁岩	8.6	5.6	1.2	63.5	加工痕・台形	—	-83758.372	5800.697	173.410
図 6-4-15	25238	3-1	SB3001	—	鋸歯縁削器	頁岩	8.6	6.2	2.2	100.0	加工痕・台形	—	-83758.425	5800.696	172.968
図 6-4-16	25699	3-1	SB3001	—	鋸歯縁削器	頁岩	8.8	4.9	1.3	50.5	加工痕・三角形	—	-83757.211	5800.413	173.132
図 6-4-17	23607	3-1	SB3001	—	削器	頁岩	(2.6)	1.4	0.5	1.5	加工痕	—	-83759.736	5798.121	173.006
図 6-4-18	25049	3-1	SB3001	—	搔器	頁岩	3.4	2.5	0.7	3.7	加工痕・刃部円形	—	-83759.288	5800.980	173.002
図 6-4-19	21796	3-1	SB3001	—	籠状石器	黒曜石	(4.5)	2.4	1.2	14.0	完形品	—	-83760.090	5800.668	173.280
図 6-4-20	19043	3-1	SB3001	—	石核	頁岩	8.4	10.6	5.8	600.0		—	-83759.798	5799.731	173.237
図 6-4-21	21805	3-1	SB3001	—	片刃礫器	頁岩	8.2	7.7	4.5	300.0		—	-83758.196	5799.236	173.264
図 6-4-22	14602	3-1	SB3001	—	敲・磨石	細礫岩	8.0	7.8	4.0	351.0	(極小穴)	—	-83757.750	5799.367	173.586
図 6-4-23	19276	3-1	SB3001	—	敲・磨石	中粒砂岩	10.8	8.3	4.7	581.0	完形・楕円形	—	-83760.307	5801.453	172.990
図 6-4-24	19050	3-1	SB3001	—	敲・磨石	閃緑岩	9.8	5.9	4.4	392.0	完形品・楕円形	—	-83759.086	5798.654	173.228
図 6-4-25	14873	3-1	SB3001	—	敲・磨石	アブライト	(7.9)	7.6	5.0	414.0	2/3 残存・半割タイプ	—	-83758.406	5800.778	173.467
図 6-4-26	21783	3-1	SB3001	—	敲石・磨石	閃緑岩	(6.0)	7.8	4.0	219.0	1/2 残存・半割タイプ	—	-83758.626	5800.317	173.345
図 6-4-27	24903	3-1	SB3001	—	敲石・磨石	凝灰岩	(6.9)	9.3	8.5	820.0	3/4 残存・半割タイプ	—	-83759.120	5801.817	173.017
図 6-4-28	15220	3-1	SB3001	—	凹石・磨石	粗粒砂岩	12.2	8.8	4.9	734.0	完形品	—	-83760.254	5799.347	173.304
図 6-4-29	25767	3-1	SB3001	—	凹石・磨石	輝石安山岩	11.9	9.7	5.3	879.0	ほぼ完形	—	-83758.256	5801.897	173.202
図 6-4-30	15186	3-1	SB3001	—	凹石・磨石	粗粒砂岩	8.0	6.8	3.9	288.0	完形品	—	-83759.929	5798.948	173.358
図 6-4-31	21812	3-1	SB3001	—	磨石	閃緑岩	7.9	6.9	4.1	324.0	完形品・楕円形	—	-83759.705	5800.305	173.222
図 6-4-32	14870	3-1	SB3001	—	磨石	角閃石安山岩	7.8	6.0	4.4	283.0	完形品・楕円形	—	-83759.009	5800.829	173.494
図 6-4-33	21798	3-1	SB3001	—	磨石	閃緑岩	7.5	11.5	4.3	519.0	完形品・扁平の強い楕円形	—	-83758.473	5799.323	173.339
図 6-4-34	22250	3-1	SB3001	—	石皿	輝石安山岩	29.0	23.3	3.8	4800.0	不整形な長方形	—	-83758.737	5799.713	173.026
図 6-4-35	19051	3-1	SB3001	—	石皿	閃緑岩	24.2	21.4	8.3	6220.0	不整形・楕円形	—	-83759.136	5798.586	173.213
図 7-4-01	19266	3-1	SB3002	—	尖頭器	黒曜石	(7.4)	3.0	1.4	26.7	ほぼ完形品・木葉形	—	-83763.929	5799.465	173.091
図 7-4-02	22372	3-1	SB3002	—	尖頭器	黒曜石	(3.5)	2.1	1.1	7.0	基部破損品	—	-83765.279	5801.778	172.964

図版番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	層位	器 種	石 材	法 量				備 考	グリッド	X 座標	Y 座標	Z 座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図 7-4-04	21412	3-1	SB3002	—	石燧	ホルンフェルス	1.6	1.1	0.3	0.4	完形品・凹基	—	-83766.148	5798.586	173.097
図 7-4-05	21909	3-1	SB3002	—	石燧	ホルンフェルス	(1.6)	1.6	0.3	0.7	先端部破損品・凹基	—	-83765.056	5798.154	173.193
図 7-4-06	19262	3-1	SB3002	—	楔形石器	黒曜石	3.0	2.3	0.9	5.8		—	-83765.035	5801.023	173.106
図 7-4-07	19039	3-1	SB3002	—	楔形石器	黒曜石	2.5	2.4	0.9	5.8		—	-83765.429	5801.584	173.219
図 7-4-08	16080	3-1	SB3002	—	削器・石匙	頁岩	7.0	3.6	0.8	20.8	石匙形・刃部円形	—	-83765.037	5801.807	173.321
図 7-4-09	21416	3-1	SB3002	—	鋸歯縁削器	頁岩	4.2	7.6	0.9	28.4	石匙形・刃部円形	—	-83765.534	5798.972	173.049
図 7-4-10	22376	3-1	SB3002	—	鋸歯縁削器	頁岩	4.8	6.9	1.5	45.4	石匙形・刃部円形	—	-83764.651	5800.442	173.062
図 7-4-11	21908	3-1	SB3002	—	削器	ホルンフェルス	6.1	7.8	1.1	42.2	三角形・刃部直線形	—	-83765.190	5798.225	173.192
図 7-4-12	18156	3-1	SB3002	—	鋸歯縁削器	頁岩	4.2	5.8	1.2	23.6	加工痕	—	-83763.484	5799.654	173.333
図 7-4-13	22219	3-1	SB3002	—	鋸歯縁削器	頁岩	5.9	6.4	1.5	66.5	加工痕	—	-83765.333	5799.741	172.900
図 7-4-14	22186	3-1	SB3002	—	片刃石核石器	頁岩	7.0	11.6	3.5	391.0	使用痕	—	-83765.261	5801.756	172.999
図 7-4-15	19037	3-1	SB3002	—	鋸歯縁石器	頁岩	6.1	9.4	2.7	163.4		—	-83763.475	5801.157	173.124
図 7-4-16	21893	3-1	SB3002	—	両刃石核石器	頁岩	7.3	7.8	2.9	166.0		—	-83766.420	5800.183	172.978
図 7-4-17	11220	3-1	SB3002	—	敲・磨石	中粒砂岩	10.8	9.2	3.3	522.0	完形品・隅丸方形	—	-83763.187	5798.936	173.463
図 7-4-18	21392	3-1	SB3002	—	敲石	アブライト	8.1	(10.3)	6.7	781.0	1/2 残存・楕円形	—	-83764.382	5800.199	172.991
図 7-4-19	22464	3-1	SB3002	—	敲石・磨石	アブライト	9.9	8.9	(4.4)	447.0	1/2 残存・半割タイプ	—	-83763.858	5799.397	173.070
図 7-4-20	10641	3-1	SB3002	—	磨石	流紋岩	9.3	6.6	3.6	304.0	完形品・楕円形	—	-83763.537	5802.565	173.521
図 7-4-21	22377	3-1	SB3002	—	凹石・敲石・磨石	閃緑岩	10.9	(9.0)	5.3	669.0	2/3 残存・楕円形	—	-83765.754	5800.073	173.030
図 7-4-22	22222	3-1	SB3002	—	石皿	アブライト	23.3	20.0	9.4	6940.0	完形・楕円形	—	-83765.195	5800.741	172.878
図 7-4-23	15318	3-1	SB3002	—	矢柄研磨器	砂岩	(5.1)	5.0	2.6	65.5	破片	—	-83765.016	5802.221	173.346
図 8-4-01	24155	3-1	SB3003	—	石燧	ホルンフェルス	2.0	1.4	0.3	0.8	完形品・凹基	—	-83767.962	5797.524	172.980
図 8-4-02	25752	3-1	SB3003	—	石燧	ホルンフェルス	2.5	1.8	0.4	1.5	完形品・凹基	—	-83767.486	5795.836	172.945
図 8-4-03	23629	3-1	SB3003	—	石燧	ホルンフェルス	1.7	0.9	0.3	0.5	完形品・凹基	—	-83766.910	5797.150	173.162
図 8-4-04	22295	3-1	SB3003	—	籠状石器	黒曜石	6.2	3.4	1.3	29.0	完形品	—	-83768.448	5796.659	173.000
図 8-4-05	13427	3-1	SB3003	—	磨・敲石	輝石安山岩	9.0	6.5	3.7	335.0	完形品・楕円形	—	-83763.627	5798.381	173.553
図 8-4-06	13425	3-1	SB3003	—	磨・敲石	縞礫岩	7.4	8.4	4.4	316.0	完形品	—	-83763.420	5798.195	173.568
図 8-4-07	12225	3-1	SB3003	—	石皿	斑礫岩	24.4	20.0	7.2	5880.0	完形品	—	-83767.749	5795.927	173.079
図 8-4-08	22294	3-1	SB3003	—	石皿	輝石安山岩	15.1	11.4	5.2	1250.0	1/4 残存	—	-83768.178	5797.492	172.993
図 9-4-01	10530	3-1	SB3004	—	尖頭器	黒曜石	4.0	2.5	0.9	7.0	先端部残存	—	-83770.262	5800.632	173.568
図 9-4-02	25609	3-1	SB3004	—	石燧	ホルンフェルス	(2.5)	(1.7)	0.4	0.9	ほぼ完形・凹基	—	-83771.094	5800.867	172.985
図 9-4-03	22831	3-1	SB3004	—	両極石器	頁岩	2.9	3.3	1.0	12.8	台形	—	-83770.646	5801.753	173.264
図 9-4-04	18884	3-1	SB3004	—	搔器	頁岩	9.1	5.7	2.7	161.0	石匙状	—	-83770.599	5800.943	173.055
図 9-4-05	22243	3-1	SB3004	—	石核・礫器	頁岩	6.5	7.4	6.0	305.0		—	-83769.886	5800.859	172.994
図 9-4-06	22241	3-1	SB3004	—	石核・礫器	頁岩	6.4	8.4	3.5	293.0		—	-83769.923	5800.635	173.009
図 9-4-07	11755	3-1	SB3004	—	敲・磨石	中粒砂岩	7.2	6.3	4.1	231.0	完形品・楕円形	—	-83769.387	5801.182	173.512
図 9-4-08	25899	3-1	SB3004	—	敲・磨石	閃緑岩	(11.5)	(8.3)	6.5	738.0	2/3 残存・楕円形・半割スタンブ	—	-83771.239	5801.627	173.056
図 9-4-09	18875	3-1	SB3004	—	敲・磨石	閃緑岩	(9.3)	(8.7)	5.2	433.0	2/3 残存・楕円形・煤付着	—	-83769.913	5800.688	173.091
図 9-4-10	24495	3-1	SB3004	—	敲・磨石	輝石安山岩	(7.0)	(6.3)	4.2	290.0	2/3 残存・楕円形・煤付着	—	-83770.893	5800.942	173.029
図 9-4-11	25991	3-1	SB3004	—	敲・磨石	細粒斑礫岩	4.9	(7.2)	4.0	212.0	1/2 残存・半割	—	-83769.830	5799.441	173.024
図 9-4-12	18874	3-1	SB3004	—	凹・敲・磨石	中粒砂岩	11.3	9.0	3.9	535.0	ほぼ完形・楕円形	—	-83770.011	5800.824	173.085
図 9-4-13	18880	3-1	SB3004	—	凹・敲・磨石	輝石安山岩	11.9	9.0	4.0	614.0	楕円形・楕円形	—	-83770.197	5800.604	173.007
図 9-4-14	22520	3-1	SB3004	—	凹・敲・磨石	中粒砂岩	9.0	6.6	3.4	285.0	完形品・楕円形	—	-83771.198	5800.877	173.377
図 9-4-15	13701	3-1	SB3004	—	凹・敲・磨石	中粒砂岩	7.0	8.9	3.8	350.0	1/2 残存・半割スタンブ	—	-83770.216	5800.800	173.355
図 9-4-16	25985	3-1	SB3004	—	凹・敲・磨石	中粒砂岩	8.9	6.6	(2.7)	245.0	1/2 残存・楕円形	—	-83770.755	5800.389	172.978
図 9-4-17	22548	3-1	SB3004	—	磨石	縞礫岩	9.7	7.4	5.7	515.0	完形品・楕円形	—	-83770.454	5801.517	173.375
図 9-4-18	25900	3-1	SB3004	—	石皿	輝石安山岩	29.4	23.6	5.5	6220.0	完形品・不整楕円形	—	-83770.993	5801.586	173.015
図 10-2-01	10516	3-1	SB3005	—	尖頭器	黒曜石	1.7	1.4	0.6	1.2	基部残存・尖基	—	-83771.587	5800.180	173.423
図 10-2-02	22897	3-1	SB3005	—	石燧	凝灰岩	1.6	1.4	0.4	0.7	完形品・凹基	—	-83771.566	5800.311	172.883
図 10-2-03	22710	3-1	SB3005	—	石燧	黒曜石	1.8	1.2	0.3	0.5	完形品・凹基	—	-83771.339	5800.499	173.109
図 10-2-04	22006	3-1	SB3005	—	削器	頁岩	6.2	4.6	1.8	56.5	加工痕	—	-83772.565	5798.873	172.847
図 10-2-05	16221	3-1	SB3005	—	鋸歯縁削器	頁岩	3.4	6.0	0.9	15.4	加工痕	—	-83771.566	5799.637	173.068
図 10-2-06	11787	3-1	SB3005	—	削器	黒曜石	8.7	2.7	1.15	15.8	加工痕	—	-83771.591	5799.451	173.438
図 10-2-07	18997	3-1	SB3005	—	敲・磨石	斑礫岩	9.2	8.9	5.4	641.0	完形品	—	-83771.789	5799.501	173.043
図 10-2-08	22748	3-1	SB3005	—	敲・磨石	輝石安山岩	(6.9)	7.4	3.9	303.0	2/3 残存・半割スタンブ	—	-83772.043	5799.915	172.971
図 10-2-09	22906	3-1	SB3005	—	敲・磨石	細粒砂岩	6.0	7.2	3.8	202.0	1/2 残存	—	-83772.477	5798.155	172.856
図 10-2-10	18989	3-1	SB3005	—	敲・磨石	細粒斑礫岩	(12.0)	(6.9)	4.6	481.0	2/3 残存・半割スタンブ	—	-83772.381	5798.624	172.819
図 10-2-11	22900	3-1	SB3005	—	台・石皿	輝石安山岩	14.2	12.1	8.3	1851.0	台形	—	-83772.480	5799.637	172.927
図 10-2-12	15101	3-1	SB3005	—	石皿	斑礫岩	29.2	27.7	7.3	8620.0	完形品・不整楕円形	—	-83771.854	5798.347	173.274
図 11-4-01	12404	3-1	SB3006	—	尖頭器	黒曜石	7.2	2.1	1.2	17.6	完形品・柳葉形	—	-83769.348	5807.873	173.512
図 11-4-02	17176	3-1	SB3006	—	尖頭器	黒曜石	6.4	1.7	0.9	8.6	完形品・柳葉形	—	-83770.728	5808.752	173.376
図 11-4-03	13947	3-1	SB3006	—	石燧	ホルンフェルス	(1.9)	(1.2)	0.4	0.7	ほぼ完形・凹基	—	-83769.909	5808.261	173.245
図 11-4-05	22443	3-1	SB3006	—	石燧	ホルンフェルス	(3.0)	(1.5)	0.4	1.5	ほぼ完形・凹基	—	-83769.619	5807.487	173.463
図 11-4-07	22537	3-1	SB3006	—	鋸歯縁削器	頁岩	4.9	5.0	1.0	29.0	石匙状	—	-83769.485	5807.551	173.334

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)					
図11-4-09	13995	3-1	SB3006	—	鋸齒縁削器	頁岩	3.9	4.1	1.1	15.2	加工痕	—	-83770.788	5808.530	173.491
図11-4-10	13935	3-1	SB3006	—	篋状石器	黒曜石	4.5	2.8	1.1	10.8	完形品	—	-83769.636	5807.692	173.320
図11-4-11	12122	3-1	SB3006	—	篋状石器	黒曜石	4.4	2.9	1.3	16.4	ほぼ完形	—	-83769.874	5807.523	173.482
図11-4-12	11682	3-1	SB3006	—	敲・凹・磨石	細粒斑礫岩	8.3	6.3	3.7	233.0	完形品・楕円形	—	-83769.913	5807.351	173.485
図11-4-13	22360	3-1	SB3006	—	磨石	角閃石安山岩	7.6	5.8	3.6	230.0	完形品・楕円形	—	-83770.727	5807.560	173.150
図11-4-14	22455	3-1	SB3006	—	磨石	閃緑岩	12.2	10.1	4.7	914.0	完形品・楕円形	—	-83770.861	5808.389	173.225
図11-4-15	22418	3-1	SB3006	—	磨石	閃緑岩	8.4	6.7	3.4	284.0	完形品・楕円形	—	-83769.581	5806.367	173.188
図11-4-16	17180	3-1	SB3006	—	磨石	輝石安山岩	10.1	6.6	3.6	369.0	完形品・楕円形	—	-83769.934	5807.501	173.297
図11-4-17	22236	3-1	SB3006	—	石皿	角閃石安山岩	25.7	22.7	9.5	9350.0	完形品・楕円形	—	-83770.075	5808.095	173.236
図11-4-18	22542	3-1	SB3006	—	台・石皿	閃緑岩	16.4	8.0	7.6	1671.0	1/3 残存・楕円形	—	-83770.392	5808.060	173.317
図12-4-01	21767	3-1	SB3007	—	尖頭器	黒曜石	(3.0)	2.6	1.2	7.2	—	—	-83754.616	5808.014	173.585
図12-4-02	25802	3-1	SB3007	—	尖頭器	黒曜石	(2.4)	1.7	1.0	2.5	—	—	-83752.826	5807.516	173.574
図12-4-03	21691	3-1	SB3007	—	尖頭器・半月形石器	黒曜石	(4.2)	2.85	0.73	7.7	1/2 残存	—	-83754.367	5806.707	173.563
図12-4-04	21753	3-1	SB3007	—	石鏃	黒曜石	(1.55)	1.36	0.39	0.6	両脚部先端部欠損	—	-83754.309	5807.709	173.549
図12-4-05	23576	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	1.8	1.4	0.35	0.9	—	—	-83753.695	5807.921	173.737
図12-4-06	23071	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	(1.6)	(1.2)	0.3	0.6	—	—	-83754.779	5807.925	173.422
図12-4-07	21359	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	1.44	1.1	0.33	0.5	—	—	-83754.027	5806.852	173.634
図12-4-08	23205	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	1.5	1.1	0.3	0.6	—	—	-83754.280	5807.791	173.427
図12-4-09	24302	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	1.92	1.32	0.32	0.8	—	—	-83755.650	5809.642	173.767
図12-4-10	24523	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	1.8	1.22	0.44	0.8	—	—	-83754.110	5808.517	173.460
図12-4-11	24624	3-1	SB3007	—	石鏃	頁岩	2.09	1.67	0.55	1.4	—	—	-83755.943	5809.210	173.499
図12-4-12	17646	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	(2.46)	1.58	0.43	0.2	—	—	-83755.761	5806.323	173.766
図12-4-13	24022	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	2.24	1.46	0.49	1.2	—	—	-83757.105	5806.618	173.620
図12-4-14	21741	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	2.24	1.4	0.4	1.1	—	—	-83754.527	5806.446	173.555
図12-4-15	17655	3-1	SB3007	—	石鏃	珪質頁岩	3.27	1.53	0.43	1.6	—	—	-83754.416	5808.498	173.983
図12-4-16	22872	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	1.8	0.9	0.4	0.7	—	—	-83755.722	5807.934	173.429
図12-4-17	23128	3-1	SB3007	—	搔器	黒曜石	2.3	1.9	0.8	2.8	—	—	-83755.183	5806.038	173.455
図12-4-18	19668	3-1	SB3007	—	搔器	頁岩	5.3	7.0	1.2	30.0	—	—	-83755.560	5806.399	173.783
図12-4-19	21700	3-1	SB3007	—	削器	黒曜石	3.3	2.5	0.8	6.7	—	—	-83754.323	5806.208	173.593
図12-4-20	16418	3-1	SB3007	—	石鏃	黒曜石	2.7	1.6	1.0	3.4	—	—	-83753.355	5807.161	173.972
図12-4-21	21722	3-1	SB3007	—	石鏃	ホルンフェルス	6.5	8.9	0.7	36.0	—	—	-83753.564	5806.740	173.761
図12-4-22	25876	3-1	SB3007	—	篋状石器・搔器	黒曜石	2.83	2.32	0.98	6.4	完形品	—	-83753.472	5808.724	173.501
図12-4-23	25745	3-1	SB3007	—	削器・搔器	黒曜石	2.1	1.5	0.6	1.9	完形品	—	-83753.218	5808.344	173.639
図12-4-24	23830	3-1	SB3007	—	篋状石器	黒曜石	3.0	2.1	0.7	4.0	完形品	—	-83754.162	5806.241	173.361
図12-4-25	14740	3-1	SB3007	—	篋状石器・搔器	黒曜石	4.7	3.0	1.3	19.2	先端部欠損	—	-83757.337	5806.637	173.874
図12-4-26	21709	3-1	SB3007	—	敲石	中粒砂岩	7.6	6.6	4.2	248.0	完形品	—	-83753.714	5806.762	173.624
図12-4-27	22594	3-1	SB3007	—	磨石	玢岩	9.75	7.5	3.9	457.0	完形品	—	-83753.753	5807.723	173.625
図12-4-28	23827	3-1	SB3007	—	敲石?	細粒砂岩	7.3	6.1	4.1	215.0	完形品	—	-83754.558	5808.743	173.519
図12-4-29	21265	3-1	SB3007	—	磨石	細粒斑礫岩	6.6	7.3	3.7	258.0	2/3 残存	—	-83754.678	5808.358	173.767
図12-4-30	21754	3-1	SB3007	—	凹・磨石	閃緑岩	8.5	7.0	3.4	291.0	完形品	—	-83754.561	5807.822	173.525
図12-4-31	21216	3-1	SB3007	—	凹・磨石	砂岩	7.8	7.95	3.6	219.0	1/2 残存	—	-83755.570	5808.220	173.680
図12-4-32	21926	3-1	SB3007	—	磨石	斑礫岩	7.8	6.3	3.5	260.0	完形品	—	-83755.284	5808.327	173.563
図12-4-33	21262	3-1	SB3007	—	磨石	斑礫岩	4.9	13.1	4.9	427.0	1/5 残存	—	-83754.890	5808.107	173.662
図12-4-34	20569	3-1	SB3007	—	磨石	アプライト	(6.6)	10.8	4.2	368.0	1/2 残存	—	-83753.842	5807.527	173.924
図12-4-35	22656	3-1	SB3007	—	磨石	輝石安山岩	(6.0)	7.95	3.6	232.0	1/2 残存	—	-83756.298	5808.071	173.464
図12-4-36	22170	3-1	SB3007	—	石皿	閃緑岩	16.8	13.6	10.0	1804.0	1/5 残存・楕円形・煤付着	—	-83753.841	5807.106	173.595
図13-4-01	14171	3-1	SB3009	—	尖頭器	黒曜石	3.1	2.4	0.8	4.0	先端部欠損品	—	-83760.593	5804.636	173.669
図13-4-02	10092	3-1	SB3009	—	敲・磨石	中粒砂岩	6.2	11.4	4.3	378.0	No.10096 と接合	—	-83761.089	5804.629	173.697
図13-4-03	22329	3-1	SB3009	—	磨石	中粒砂岩	9.8	6.4	2.4	212.0	—	—	-83760.647	5804.197	173.410
図13-4-04	14301	3-1	SB3009	—	石皿	粗粒砂岩	19.1	15.2	5.0	2140.0	—	—	-83760.772	5804.583	173.603
図13-4-05	20002	3-1	SB3009	—	石皿	輝石安山岩	20.4	18.2	7.2	3615.0	—	—	-83760.644	5804.354	173.458
図13-4-06	—	3-1	SB3009	—	台・石皿	玄武岩	24.5	18.2	11.0	6180.0	—	—	—	—	—
図14-4-01	23636	3-1	SB3011	—	石鏃	黒曜石	(1.2)	1.6	0.5	0.9	先端部欠損品	—	-83763.731	5800.95	172.818
図14-4-02	25617	3-1	SB3011	—	石鏃	ホルンフェルス	(2.6)	(1.2)	0.5	1.0	ほぼ完形品	—	-83764.003	5800.552	172.859
図14-4-03	24204	3-1	SB3011	—	石鏃	ホルンフェルス	(1.0)	1.5	0.4	0.6	先端部欠損品	—	-83763.427	5799.218	172.855
図14-4-04	24584	3-1	SB3011	—	搔器	頁岩	4.8	2.2	0.9	11.2	—	—	-83762.945	5800.316	172.862
図14-4-05	24585	3-1	SB3011	—	搔器	頁岩	(4.7)	5.0	1.3	28.4	不整形	—	-83763.034	5799.972	172.843
図14-4-06	23378	3-1	SB3011	—	両面加工石器	黒曜石	(2.6)	(2.3)	0.7	5.0	摘みと推定される	—	-83764.283	5800.652	172.852
図14-4-07	24471	3-1	SB3011	—	両極石器	黒曜石	2.5	2.4	1.1	5.5	—	—	-83762.992	5800.562	172.840
図14-4-08	24474	3-1	SB3011	—	両極石器	黒曜石	2.5	2.4	0.8	5.3	不整形	—	-83762.989	5800.571	172.833
図14-4-09	23792	3-1	SB3011	—	石核	頁岩	(9.9)	5.6	3.4	220.0	—	—	-83763.256	5799.199	172.857
図14-4-10	25898	3-1	SB3011	—	片刃礫器	頁岩	(7.3)	(6.4)	4.5	300.0	—	—	-83763.105	5800.855	172.841
図14-4-11	24291	3-1	SB3011	201	台石 or 石皿	玄武岩	23.4	14.0	10.3	4700.0	完形品・長方形	—	-83763.140	5799.995	172.823
図15-4-01	24592	3-1	SB3012	—	石鏃	珪質頁岩	(2.7)	1.8	0.4	1.6	先端部欠損品・凹基	—	-83767.766	5802.174	173.171
図15-4-02	12854	3-1	SB3012	—	敲・凹・磨石	粗粒砂岩	9.7	8.2	4.8	502.0	完形品・楕円形	—	-83767.511	5802.591	173.405
図19-2-01	14087	3-1	SK53	—	石鏃	チャート	(2.4)	1.7	0.3	1.2	先端部欠損品・凹基	—	-83770.342	5798.713	173.079

3-1 調査区 グリッド

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長	最大幅	最大厚	重量					
図20-4-01	14190	3-1	—	7B	尖頭器	黒曜石	7.3	2.4	1.3	16.4	ほぼ完形品・柳葉形	AE-012	-83759.813	5806.688	173.761
図20-4-02	21197	3-1	—	7C	尖頭器	黒曜石	4.2	2.9	1.0	10.6	1/3 残存・身部下 半欠損	AD-011	-83761.382	5798.779	173.327
図20-4-03	11881	3-1	—	7B	尖頭器	黒曜石	(4.0)	3.0	0.9	10.8	1/3 残存・身部下 半欠損	AC-013	-83770.693	5812.142	173.611
図20-4-04	9702	3-1	—	7	石鏃	黒曜石	(2.0)	(1.7)	0.4	0.9	ほぼ完形品・凹基・楕形	AE-014	-83756.716	5824.667	174.951
図20-4-05	6133	3-1	—	7	両極石器	黒曜石	2.8	2.4	1.0	7.0	台形	AD-013	-83760.574	5811.697	174.205
図20-4-06	9426	3-1	—	7B	石匙	黒曜石	6.4	3.4	1.4	26.6	楕型	AD-012	-83767.642	5800.468	173.510
図20-4-07	16982	3-1	—	7	石匙	流紋岩	2.3	3.2	0.7	2.9	完形品・横型	AE-014	-83754.048	5827.424	174.882
図20-4-08	7685	3-1	—	7A	鋸歯縁削器	頁岩	5.7	3.7	1.0	16.2		AE-012	-83759.295	5807.175	173.891
図20-4-09	8520	3-1	—	7B	尖頭器	黒曜石	(3.2)	3.6	1.4	14.7	半円形	AD-013	-83768.176	5810.928	173.770
図20-4-10	12298	3-1	—	7B	鋸歯縁削器	珪質頁岩	(3.9)	4.5	0.9	17.8	半円形	AD-013	-83767.833	5810.197	173.541
図20-4-11	12984	3-1	—	7B	掻器	黒曜石	5.1	4.2	1.0	22.0	隅丸五角形	AD-013	-83768.292	5811.572	173.526
図20-4-12	8670	3-1	—	7B	篋状石器・掻器	黒曜石	2.6	2.7	1.4	10.7	五角形	AD-012	-83765.548	5808.363	173.681
図20-4-13	9604	3-1	—	7B	掻器	黒曜石	3.7	3.4	1.5	21.0	円形	AC-011	-83772.965	5796.396	173.234
図20-4-14	8750	3-1	—	7B	掻器	黒曜石	4.3	3.1	1.4	18.7	楕円形	AC-013	-83770.301	5810.174	173.730
図20-4-15	18848	3-1	—	7A	掻器	黒曜石	2.2	2.3	1.1	5.9	不整形円形	AD-012	-83766.597	5805.766	173.765
図20-4-16	16992	3-1	—	7	削器	黒曜石	2.8	2.7	0.7	6.0	加工痕・不整形台形	AE-014	-83757.505	5824.485	174.769
図20-4-17	7277	3-1	—	7	石鏃	チャート	2.9	2.6	0.9	5.8	完形	AD-011	-83769.309	5798.131	173.545
図20-4-18	10983	3-1	—	7B	篋状石器・掻器	黒曜石	6.1	2.6	1.3	18.6	完形品・尖頭器状	AC-012	-83771.662	5804.602	173.638
図20-4-19	7872	3-1	—	7B	篋状石器・掻器	黒曜石	(2.5)	2.2	1.0	7.7	台形・リダクション	AD-012	-83764.818	5806.048	173.700
図20-4-20	12421	3-1	—	7B	篋状石器・掻器	黒曜石	(4.8)	3.6	1.5	30.2	リダクション	AC-013	-83770.142	5810.939	173.641
図20-4-21	17857	3-1	—	7A	打製石斧	砂岩	8.1	4.2	1.7	78.0	完形品・短冊形	AD-015	-83767.226	5833.255	174.943
図20-4-22	8916	3-1	—	7	両面加工石器 未製品	ホルンフェルス	10.7	6.1	2.2	122.0	完形品・楕形	AD-012	-83768.504	5802.463	173.666
図20-4-23	10904	3-1	—	7B	敲・磨石	閃緑岩	9.6	6.6	3.5	360.0	完形品・楕円形	AC-012	-83770.343	5805.907	173.612
図20-4-24	8535	3-1	—	7A	凹・磨石	中粒砂岩	9.8	8.7	3.9	452.0	完形品・楕円形	AD-013	-83766.412	5810.964	173.824
図20-4-25	12008	3-1	—	7A	敲・凹・磨石	閃緑岩	6.9	9.3	5.0	488.0	1/2 残存 半割ス タンブ	AD-013	-83768.802	5818.035	174.271
図20-4-26	13061	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	中粒砂岩	12.6	11.1	4.5	866.0	完形品・楕円形	AD-011	-83761.371	5796.354	173.386
図20-4-27	13484	3-1	—	7B	凹・磨石	中粒砂岩	11.0	6.5	4.4	404.0	完形品・楕円形	AD-011	-83761.039	5795.710	173.402
図20-4-28	7874	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	中粒砂岩	9.3	7.5	2.8	268.0	完形品・楕円形	AD-012	-83764.913	5805.796	173.706
図20-4-29	8351	3-1	—	7B	敲・凹石	輝石安山岩	11.8	6.9	3.1	374.0	完形品・扁平強い 楕円形	AE-011	-83758.773	5795.581	173.443
図20-4-30	13885	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	中粒砂岩	9.3	5.8	3.5	249.0	完形品・楕円形	AE-012	-83757.263	5802.875	173.740
図20-4-31	10641	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	流紋岩	9.3	6.6	3.6	304.0	完形品・楕円形	AD-012	-83763.537	5802.565	173.521
図20-4-32	10695	3-1	—	7A	磨石	アブライト	7.7	7.0	4.1	319.0	完形品・円形	AC-012	-83770.994	5807.763	173.561
図20-4-33	13068	3-1	—	7B	敲石	角閃石安山岩	7.5	6.3	2.8	195.0	完形品・楕円形	AD-011	-83761.628	5796.759	173.472
図20-4-34	9896	3-1	—	7B	磨石	角閃石安山岩	9.9	7.8	4.3	497.0	完形品・楕円形	AD-013	-83768.915	5811.357	173.640
図20-4-35	10020	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	角閃石安山岩	8.1	5.6	4.8	286.0	完形品・楕円形	AD-012	-83767.240	5806.119	173.746
図20-4-36	12233	3-1	—	7B	磨石	閃緑岩	9.8	7.9	5.9	666.0	完形品・楕円形	AD-012	-83767.430	5801.444	173.517
図20-4-37	9439	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	角閃石安山岩	10.4	7.2	5.5	582.0	完形品・楕円形・ 隅丸三角形	AD-012	-83766.657	5800.145	173.588
図20-4-38	14184	3-1	—	7B	敲・凹・磨石	細粒砂岩	7.5	5.1	3.5	172.0	完形品・楕円形	AD-012	-83761.208	5808.120	173.706
図20-4-39	8042	3-1	—	7	敲・凹・磨石	中粒砂岩	9.5	6.6	4.6	440.0	完形品・楕円形	AE-012	-83756.936	5804.032	173.970
図20-4-40	14585	3-1	—	7B	矢柄研磨器	砂岩	(6.6)	5.4	2.6	101.0	破損品3点・半円形	AE-011	-83757.450	5798.568	173.411
図20-4-41	6257	3-1	—	6B	石鏃	黒曜石	(1.9)	(1.7)	0.3	0.7	ほぼ完形品・無基・ 三角鏃	AD-012	-83764.430	5807.529	173.912
図20-4-42	3439	3-1	—	6A	石鏃・石匙	黒曜石	(4.3)	(2.7)	0.7	5.8	左脚部破損品	AE-012	-83759.512	5800.079	173.884
図20-4-43	5184	3-1	—	6B	石鏃	凝灰岩	2.0	1.5	0.5	1.0	完形品・凹基	AC-013	-83770.631	5810.810	174.041
図20-4-44	5105	3-1	—	6B	石鏃	凝灰岩	(2.1)	1.7	0.4	1.1	ほぼ完形品・凹基	AC-013	-83770.103	5811.563	174.105
図20-4-45	7351	3-1	—	6B	石鏃	黒曜石	2.0	1.9	0.6	0.5	完形品・凹基	AD-013	-83768.750	5814.246	173.977
図20-4-46	6305	3-1	—	6B	石鏃	ホルンフェルス	1.3	1.3	0.4	0.4	完形品・凹基	AD-013	-83769.210	5812.481	174.109
図20-4-47	6311	3-1	—	6B	石鏃	ホルンフェルス	1.9	1.8	0.5	1.5	完形品・凹基	AD-013	-83769.318	5810.020	173.943
図20-4-48	4799	3-1	—	6B	石鏃	ホルンフェルス	1.6	1.1	0.3	0.6	完形品・凹基	AD-012	-83768.253	5800.856	173.702
図20-4-49	4220	3-1	—	6B	石鏃	ホルンフェルス	1.7	1.4	0.3	0.3	完形品・凹基	AD-012	-83768.488	5803.914	173.904
図20-4-50	4023	3-1	—	6B	石鏃	チャート	2.3	1.8	0.3	0.9	完形品・凹基	AD-012	-83764.953	5800.554	173.743
図20-4-51	2477	3-1	—	6A	石鏃	ホルンフェルス	3.1	1.4	0.4	0.9	完形品・凹基	AE-012	-83759.447	5808.359	174.378
図20-4-52	7494	3-1	—	6B	両極石器	黒曜石	3.8	3.2	1.6	22.6	長方形	AC-013	-83770.797	5811.485	173.858
図20-4-53	4051	3-1	—	6B	両極石器	凝灰岩	3.3	2.6	0.8	7.4		AD-011	-83761.639	5799.290	173.725
図20-4-54	7058	3-1	—	6B	鋸歯縁削器	凝灰岩	3.3	5.3	1.1	12.4	石匙状	AD-011	-83767.171	5797.316	173.629
図20-4-55	7081	3-1	—	6B	鋸歯縁削器	頁岩	8.4	3.1	1.2	35.8	両側縁調整加工	AD-012	-83768.906	5803.247	173.826
図20-4-56	7575	3-1	—	6B	円形掻器	黒曜石	2.9	2.8	1.3	14.8	円形	AD-012	-83767.529	5807.847	173.795
図20-4-57	6751	3-1	—	6B	円形掻器	チャート	3.8	3.2	1.4	17.8	円形	AD-013	-83765.852	5811.069	173.925
図20-4-58	2603	3-1	—	6A	両極石器・掻器	黒曜石	4.4	2.8	1.2	13.5	完形品・半月形	AE-012	-83757.703	5808.499	174.293
図20-4-59	5209	3-1	—	6B	打製石斧	頁岩	6.1	3.5	1.6	40.2	短冊形・柄の痕跡と 推定される痕有り	AC-012	-83771.571	5803.537	173.742
図20-4-60	2010	3-1	—	6A	打製石斧	頁岩	(10.5)	4.0	1.3	70.8	短冊形	AE-015	-83756.296	5832.919	175.218
図20-4-61	6773	3-1	—	6B	磨石	細粒斑岩	14.4	4.2	3.6	310.0	完形品・丸棒状	AD-013	-83765.040	5810.732	173.907

### 3-2 A 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図21-4-01	12092	3-2A	—	7B	尖頭器	黒曜石	(4.9)	2.5	1.4	14.0	1/2 残存・木葉形・尖基	AC-012	-83774.584	5806.976	173.588
図21-4-02	18904	3-2A	—	7	尖頭器	黒曜石	(1.9)	1.9	0.9	2.7	基部残存・平基	AB-012	-83781.817	5808.147	173.505
図21-4-03	9204	3-2A	—	7A	石鏃	ホルンフェルス	1.8	1.2	0.4	0.8	完形品・凹基	AC-012	-83774.665	5807.789	173.784
図21-4-04	9014	3-2A	—	7A	石鏃	ホルンフェルス	2.5	1.7	0.4	1.2	完形品・凹基	AC-012	-83777.555	5809.024	173.728
図21-4-05	8197	3-2A	—	7	篋状石器・掻器	珪質頁岩	4.0	3.4	1.2	18.8	完形品・不整形	AC-012	-83772.401	5806.835	173.804
図21-4-06	8855	3-2A	—	7A	篋状石器・掻器	黒曜石	5.55	2.75	1.1	15.7	完形品・尖頭器状	AC-013	-83773.650	5810.697	173.841
図21-4-07	18343	3-2A	—	7	磨・敲石	細礫岩	9.0	9.0	3.9	455.0	完形品・円形	AB-013	-83781.299	5811.187	173.601
図21-4-08	8935	3-2A	—	7A	凹・磨石	中粒砂岩	(5.7)	5.7	3.9	134.0	1/2 残存・円形	AC-012	-83776.187	5807.421	173.796
図21-4-09	18918	3-3A	—	7	凹・磨・敲石	閃緑岩	7.2	6.3	3.0	210.0	完形品・楕円形	AB-013	-83782.198	5811.111	173.625
図21-4-10	12050	3-2A	—	7B	凹・磨・敲石	細粒斑礫岩	10.2	9.0	4.7	541.0	完形品・楕円形	AC-012	-83773.341	5808.241	173.604
図21-4-11	18371	3-2A	—	7	磨石・石皿	粗粒砂岩	(12.9)	10.2	4.2	677.0	完形品・楕円形	AB-012	-83784.430	5807.306	173.497
図21-4-12	2876	3-2A	—	6A	尖頭器・石匙	黒曜石	3.5	2.3	1.0	7.8	基部残存・尖基	AB-013	-83781.590	5810.031	174.054
図21-4-13	3725	3-2A	—	6A	石鏃	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.5	完形品・鏃形鏃	AC-013	-83778.609	5811.098	174.307
図21-4-14	3803	3-2A	—	6A	石匙	頁岩	4.4	6.7	1.0	28.0	完形品	AC-012	-83772.420	5807.210	173.934
図21-4-15	5585	3-2A	—	6B	掻器	黒曜石	4.0	3.8	1.4	26.8	完形品・不整形	AB-012	-83786.912	5809.286	173.684
図21-4-16	6090	3-2A	—	6B	敲・凹・磨石	中粒砂岩	11.4	9.5	4.5	648.0	完形品・楕円形	AB-013	-83787.520	5810.165	173.592
図21-4-17	4149	3-2A	—	6A	敲・凹・磨石	細粒砂岩	(7.5)	(7.2)	3.6	268.0	1/2 残存・半割スタンプ	AC-013	-83774.131	5810.715	174.030
図21-4-18	3617	3-2A	—	6B	凹・磨石	中粒砂岩	10.2	6.6	4.2	471.0	完形品・楕円形	AC-012	-83775.602	5806.760	173.885
図21-4-19	6053	3-2A	—	6B	敲・磨石	アブライト	10.7	8.1	6.0	770.0	完形品・楕円形	AB-013	-83788.590	5810.315	173.520

### 3-3 A 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図22-4-01	11357	3-3A	—	6B	敲・磨石	細礫岩	12.6	6.3	5.4	668.0	完形品・扁平楕円形	AF-015	-83744.134	5831.516	175.101
図22-4-02	11346	3-3A	—	6A	敲・凹・磨石	粗粒砂岩	8.3	7.5	4.8	424.5	1/2 残存・楕円形	AF-012	-83745.742	5808.687	174.917

### 3-3 C 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	層位	器種	石材	法量				備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
図23-4-01	20860	3-3C	SB3010	—	有舌尖頭器	黒曜石	2.65	1.8	0.4	1.1	ほぼ完形品・花見山型	—	-83743.781	5891.227	176.082
図23-4-02	24739	3-3C	SB3010	—	有舌尖頭器	黒曜石	2.3	1.8	0.5	1.0	完形品・花見山型	—	-83741.786	5892.492	175.979
図23-4-03	17095	3-3C	SB3010	—	有舌尖頭器	黒曜石	2.1	1.6	0.4	0.9	完形品・花見山型	—	-83743.372	5892.542	176.263
図23-4-04	21528	3-3C	SB3010	—	有舌尖頭器	黒曜石	2.1	1.8	0.5	1.4	完形品・花見山型	—	-83743.907	5886.068	176.462
図23-4-05	18002	3-3C	SB3010	—	有舌尖頭器	黒曜石	2.0	2.0	0.5	1.4	先端部欠損品・花見山型	—	-83742.030	5898.740	175.512
図23-4-06	20229	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.2	1.2	0.25	0.4	完形品	—	-83741.741	5888.405	176.440
図23-4-07	20814	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.5	1.7	0.3	0.7	完形品・無基・小型三角鏃	—	-83741.506	5888.841	176.469
図23-4-08	20046	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.5	1.8	0.35	1.0	完形品・無基・三角鏃	—	-83742.988	5885.734	176.656
図23-4-09	24862	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	2.4	1.5	0.4	1.2	先端部欠損品・無基・三角鏃	—	-83742.578	5884.856	177.239
図23-4-10	18559	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	2.1	1.6	0.4	1.0	ほぼ完形品・無基・三角鏃	—	-83742.153	5886.779	177.044
図23-4-11	17573	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.9	1.5	0.3	0.7	完形品・無基・三角鏃	—	-83742.159	5889.005	176.861
図23-4-12	21149	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	2.0	1.5	0.4	1.1	右基部欠損品・無基・三角鏃	—	-83743.779	5887.305	176.253
図23-4-13	19492	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.4	1.0	0.3	0.5	無基・三角鏃	—	-83740.990	5890.683	176.247
図23-4-14	20395	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	2.2	1.4	0.4	0.6	左基部欠損品・凹基	—	-83742.463	5896.184	175.575
図23-4-15	21073	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	2.2	2.0	0.5	1.4	先端部欠損品・無基・三角鏃	—	-83742.238	5889.498	176.227
図23-4-16	24869	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.8	1.3	0.4	0.6	無基・三角鏃	—	-83743.001	5886.200	176.515
図23-4-17	20000	3-3C	SB3010	—	石鏃	黒曜石	1.6	1.2	0.3	0.4	完形品・凹基・円鏃	—	-83743.628	5891.693	176.096
図23-4-18	20356	3-3C	SB3010	—	削器	黒曜石	3.4	6.7	1.3	27.0	半楕円形	—	-83740.743	5893.927	175.846
図23-4-19	24858	3-3C	SB3010	—	削器	黒曜石	3.5	2.1	0.8	5.0	挿入	—	-83739.478	5905.188	175.443
図23-4-20	19613	3-3C	SB3010	—	篋状石器	黒曜石	2.6	2.3	0.9	5.0	帆立貝形状	—	-83742.012	5892.393	176.032
図23-4-21	19364	3-3C	SB3010	—	篋状石器	黒曜石	2.4	2.2	0.7	3.0	円形	—	-83743.280	5890.126	176.445
図23-4-22	20293	3-3C	SB3010	—	磨石	粗流砂岩	10.8	7.4	4.1	457.0	叩き痕 側面偏平完形	—	-83742.488	5892.114	176.229
図23-4-23	19414	3-3C	SB3010	—	磨石	細礫岩	9.0	6.7	4.1	334.0	磨面偏平 完形	—	-83743.049	5893.564	176.007
図23-4-24	17037	3-3C	SB3010	—	磨石	細粒斑礫岩	10.5	8.7	5.2	700.0	偏平磨面 完形	—	-83743.511	5887.568	177.043
図23-4-25	18593	3-3C	SB3010	—	石皿	中粒砂岩	13.2	11.6	3.6	411.0	磨面偏平	—	-83744.297	5888.818	176.729
図24-4-01	16599	3-3C	—	6B	尖頭器	チャート	4.2	2.1	1.2	8.0	未製品	AF-021	-83743.030	5892.763	176.342
図24-4-02	16577	3-3C	—	6B	石匙	黒曜石	1.6	2.3	0.4	1.0	完形品・横型	AF-021	-83740.864	5892.257	176.462
図24-4-03	14341	3-3C	—	6B	石匙	ホルンフェルス	4.4	6.2	0.7	18.0	完形品・横型・粗製	AF-022	-83741.611	5900.716	175.569

### 3-3 D・E 調査区

図版番号	遺物 番号	出 土 調査区	出土 遺構	層位	器 種	石 材	法 量				備 考	グリッド	X 座標	Y 座標	Z 座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)					
図 25-4-01	23874	3-3E	SB3008	—	尖頭器	ガラス質黒色 安山岩	5.95	2.0	0.9	9.4	完形品	AI-028	-83713.031	5964.699	177.392
図 25-4-02	21557	3-3E	SB3008	—	尖頭器	珪質頁岩	7.5	2.1	0.8	13.0	先端部欠損	AI-028	-83714.934	5964.292	177.627
図 25-4-03	24055	3-3E	SB3008	—	尖頭器	安山岩	7.3	2.0	0.9	14.3	ほぼ完形	AI-028	-83712.765	5964.703	177.31
図 25-4-04	23875	3-3E	SB3008	—	尖頭器	安山岩	5.0	1.8	0.7	9.9	先端部欠損	AI-028	-83713.48	5964.634	177.318
図 25-4-05	22061	3-3E	SB3008	—	尖頭器	頁岩	7.8	2.0	0.8	11.4	完形品	AI-028	-83711.773	5966.642	177.842
図 25-4-06	22062	3-3E	SB3008	—	尖頭器	砂岩	6.1	2.0	0.9	10.4	完形品	AI-028	-83712.335	5967.517	177.885
図 25-4-07	22024	3-3E	SB3008	—	尖頭器	砂岩	6.5	2.1	0.7	8.5	完形品	AI-028	-83714.306	5964.64	177.541
図 25-4-08	22112	3-3E	SB3008	—	尖頭器	頁岩	5.8	1.8	0.7	8.8	先端部欠損	AI-028	-83713.508	5965.113	177.493
図 25-4-09	23893	3-3E	SB3008	—	尖頭器	頁岩	(3.9)	2.3	0.8	8.5	1/2 残存(先端部)	AI-028	-83713.26	5964.529	177.36
図 25-4-10	22081	3-3E	SB3008	—	敲・磨石	アブライト	8.1	7.3	6.4	478.0	1/2 残存・半割	AI-027	-83718.665	5956.782	177.267
図 25-4-11	21565	3-3E	SB3008	—	敲・磨石	輝石安山岩	9.4	7.4	5.3	464.0	完形品・楕円形	AI-028	-83714.008	5964.796	177.793
図 25-4-12	22073	3-3E	SB3008	—	敲・磨石	石英斑岩	10.7	10.2	5.4	803.0	完形品・楕円形	AI-027	-83716.038	5958.478	177.512
図 25-4-13	22113	3-3E	SB3008	—	台・石皿	輝石安山岩	19.6	16.2	9.7	3940.0	五角形	AI-028	-83713.632	5965.201	177.373

### 3-4 調査区

図版番号	遺物 番号	出 土 調査区	出土 遺構	層位	器 種	石 材	法 量				備 考	グリッド	X 座標	Y 座標	Z 座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)					
図 26-4-01	6441	3-4	—	6B	石鏃	珪質頁岩	2.5	1.9	0.4	1.0	完形品・凹基	AE-012	-83752.590	5806.692	174.415
図 26-4-02	17700	3-4	—	7	敲・磨石	粗粒砂岩	9.7	7.4	4.0	369.0	完形品・楕円形	AF-012	-83747.100	5805.496	173.935
図 26-4-03	6459	3-4	—	6B	敲・磨石	粗粒砂岩	(9.0)	9.0	5.0	642.0	1/2 残存・半割ス タンプ	AE-012	-83752.670	5804.718	174.238
図 26-4-04	6455	3-4	—	6B	敲・磨石	粗粒砂岩	(6.4)	10.7	3.2	327.0	1/2 残存・半割ス タンプ	AE-012	-83753.605	5804.784	174.216
図 26-4-05	16823	3-4	—	7B	敲・凹・磨石	中粒砂岩	8.9	6.6	3.3	225.0	完形品・楕円形	AF-012	-83748.824	5806.382	174.215

## 参考・引用文献

### 論文

- 秋元真澄 1987 「芝川町小塚遺跡出土の縄文時代草創期の土器」『加藤学園考古学研究所報』14 所収
- 安達厚三 1995 「石皿」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 阿部芳郎 2001 「縄文土器の誕生」『NHKスペシャル 日本人はるかな旅 マンモスハンター、シベリアからの旅立ち』第1巻所収
- 池谷信之 1995 「駿豆地方縄文時代草創期の居住地について」日本考古学協会第61回総会研究発表要旨
- 池谷信之 1996a 「愛鷹山麓の縄文時代草創期の遺物」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996b 「愛鷹山麓旧石器時代主要文献一覧」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996c 「愛鷹山麓旧石器時代調査遺跡一覧」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996d 「愛鷹山麓旧石器時代調査遺跡分布図」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996e 「追加図版」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 2003 「本州島中部の様相 東海地方の隆帯文土器と列島南岸」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 大竹憲昭 2003 「移行期の石器群の変遷」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 大塚正典 1987 『考古学ライブラリー 49 配石遺構』ニュー・サイエンス社
- 岡村道夫 1995 「ピエス・エスキュー、楔形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 岡本東三 2003 「多岐亡羊の縄紋文化起源論」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 小田静雄 1995 「スタンプ形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 小野田正樹 1995 「半月形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 小金澤保雄 2002 「遺跡速報 静岡県芝川町 窪A遺跡の調査」『考古学ジャーナル』所収
- 小林謙一 1999 「花見山遺跡の縄文草創期土器に触れて」『横浜市歴史博物館紀要』第三号所収
- 小林泰男 1995 「組成論」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 五味一郎 1995 「石匙」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 坂本彰・望月芳 1999 「花見山式土器の出土状況補遺」『横浜市歴史博物館紀要』第三号所収
- 白石浩之 2003 「縄文文化のはじまり」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集所収
- 鈴木次郎 1995 「打製石斧」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 鈴木正博 2003 「草創期「古文様帯」の分析視点」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集所収
- 鈴木道之助 1995 「石鏃」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 砂田佳弘 1995 「石槍」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 関野哲夫 1990 「第Ⅳ篇所見 第Ⅰ章先土器時代 第Ⅱ章縄文時代第1節先土器時代終末～縄文時代草創期前半に遺物について」『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その2』沼津市文化財発掘調査報告書48所収
- 田中英司 2003 「デボの視点」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 谷口康浩 2001 「縄文時代遺跡の年代」『季刊考古学 特集 年代と産地の考古学』第77集所収
- 前嶋秀張・森島富士夫 2003 「ホルンフェルスの入手先を明らかにする」『静岡県考古学

研究』No.35 所収

光石鳴巳 2003 「本州島西半部の様相 東海西部・近畿地方」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第 83 集 所収

宮下健司 1995 「有溝砥石」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第 2 版) 所収

矢島國男・前山清明 1995 「石錐」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第 2 版) 所収

## 書籍

愛知県 『愛知県史』

朝日新聞編 2000 『考古学クロニクル 2000』

池谷信之 2005 『シリーズ「遺跡を学ぶ」014 黒潮を渡った黒曜石 見高段間遺跡』新泉社

稲田孝司 2001 『先史日本を復原する 1 遊動する旧石器人』岩波書店

大塚達朗 2000 『縄文土器研究の新展開』同成社

大塚初重・戸沢充則・佐原真 1979 『日本考古学を学ぶ(2) 原始・古代の生産と生活』(新版) 有斐閣  
選書

可児通宏 2005 『考古学研究調査ハンドブック② 縄文土器の技法』同成社

加藤晋平・小林達雄・藤本強編 1995 『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第 2 版) 雄山閣  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1999 『出土品図録』

坂本彰 2005 『鶴見川流域の考古学 最古の縄文土器やなぞの中世城館にいどむ』百水社

佐々木高明 1991 『日本の歴史① 日本史誕生』集英社

佐原真 2005 『佐原真の仕事 道具の考古学』(金関恕・春成秀爾編) 岩波書店

静岡県 『静岡県史 資料編 考古一』

静岡県 『静岡県史 資料編 考古一』

静岡県 『静岡県史 通史編 一』

静岡県考古学会シンポジウム実行委員会 1996 『静岡県考古学会シンポジウムⅩ 「愛鷹・箱根山麓の  
旧石器時代編年」収録集』

鈴木公雄 2002 『歴史文化ライブラリー 140 銭の考古学』吉川弘文館

泉福寺洞穴研究編刊行会 2002 『泉福寺洞穴研究編』

谷口康浩 2005 『感情集落と縄文社会構造』学生社

堤隆 2004a 『シリーズ「遺跡を学ぶ」009 氷河期を生き抜いた狩人 矢出川遺跡』新泉社

堤隆 2004b 『黒曜石 3 万年の旅』NHK ブックス 1015

長門町立黒曜石体験ミュージアム編 2004 『シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 01 黒曜石の原産地を探る  
鷹山遺跡群』新泉社

長野県 1988 『長野県史 考古資料編 全一卷(4) 遺構・遺物』

奈良県立橿原考古学研究所所属博物館 2001 『縄文文化の起源を探る はじめての土器を手にしたひと  
びと』特別展図録第 56 冊

林謙作 2004 『縄文時代史Ⅱ』雄山閣

文化庁編 2000 『2000 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2001 『2001 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2002 『2002 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2003 『2003 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2004 『2004 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

山梨県史 1999 『山梨県史 資料編2 原始・古代2』

雄山閣 2001 『季刊考古学 特集 年代と産地の考古学』第77集

雄山閣 2003 『季刊考古学 特集 縄文文化の起源を探る』第83集

横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 1996 『縄文時代  
草創期 資集』NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 2001 『NHKスペシャル  
日本人はるかな旅 マンモスハンター、シベリアからの旅立ち』第1巻

## 報告書

大仁町教育委員会・加藤学園考古学研究所 1986 『仲道A遺跡』大仁町埋蔵文化財調査報告9

函南町教育委員会 1989 『柳沢B遺跡』『函南スプリングゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』

芝川町教育委員会・1972 『駿河小塚』

中伊豆町教育委員会 1996 『甲之背遺跡』

沼津市教育委員会 1989 『中見代I遺跡(a・b区)発掘調査報告書』沼津市文化財発掘調査報告書45

沼津市教育委員会 1989 『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その1』沼津市文化財発掘調査報告書47

沼津市教育委員会 1990 『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その2』沼津市文化財発掘調査報告書48

沼津市教育委員会 1992 『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書II』沼津市文化財発掘調査報告書53

沼津市教育委員会 1999 『西洞遺跡(b区-1)発掘調査報告書』沼津市文化財発掘調査報告書69

沼津市教育委員会 2001 『葛原沢第IV遺跡(a・b区)発掘調査報告書』沼津市文化財発掘調査報告書77

富士川町教育委員会 1981 『木島』

三島市教育委員会 1992 『三島市スプリングCCゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書II』

大和市教育委員会 1990 『長堀北遺跡 資料編』大和市文化財調査報告書第39集

大和市教育委員会 1991 『長堀北遺跡 本文編』大和市文化財調査報告書第39集

報告書抄録

ふりがな	おおしかくぼいせき・くぼびーいせき		
書名	大鹿窪遺跡・窪B遺跡		
副書名	県営中山間地域総合整備事業柚野の里ほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（遺物編）		
シリーズ名		シリーズ番号	
編著者名	小金澤保雄		
編集機関	静岡県富士郡芝川町教育委員会		
所在地	静岡県富士郡芝川町長貫 1211-1	TEL (0544) 65-0402	
発行年月日	西暦 2006年3月17日		

所収遺跡名	所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村 遺跡番号	北緯 東経		m <sup>2</sup>	
おおしかくぼいせき・くぼびーいせき	しばかわちょうおおしかくぼ	22316	35° 14' 10" 138° 33' 51"	2001年10月27日 ↙ 2002年3月22日	3846	ほ場整備事業
大鹿窪遺跡・窪B遺跡	静岡県富士郡芝川町大鹿窪					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大鹿窪遺跡	集落跡	縄文時代草創期 縄文時代早前期 中世	竪穴状遺構 土坑 配石遺構 集石遺構	縄文土器 石器 銭貨	縄文時代草創期の集落跡が検出された

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
窪B遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代以降	土坑 集石遺構 掘立柱建物跡	石器	

## 大鹿窪遺跡 窪 B 遺跡

— 県営中山間地域総合整備事業柚野の里ほ場整備に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書—  
(遺物編)

2006年3月17日 発行

芝川町教育委員会  
静岡県富士郡芝川町長貫 1211-1  
TEL 0544-65-0402

印刷：株式会社きうちいんさつ

写

真



01

写真 1-1 2-3 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器



01



02



03



04

写真 2-1 2-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器



01

写真 2-2 2-4 調査区 中世 34号土坑出土 陶磁器

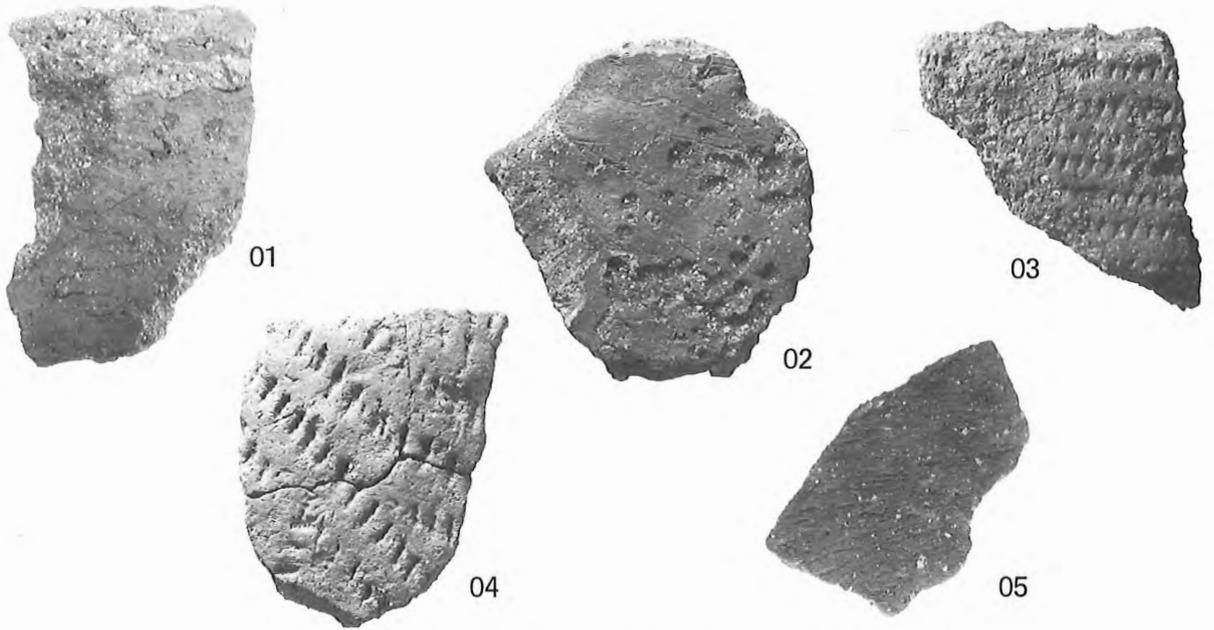


写真 3-1 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

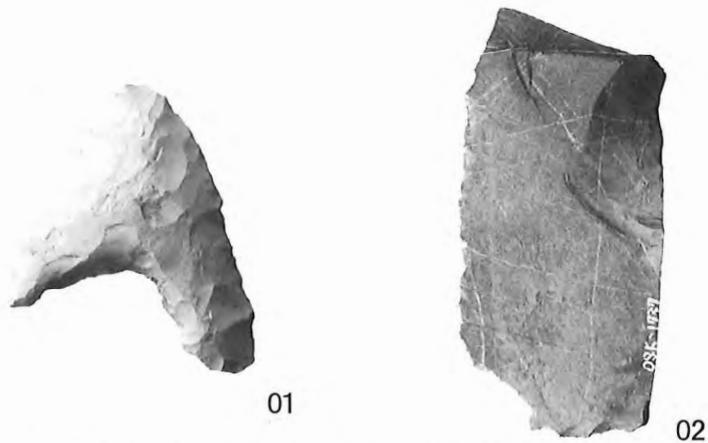


写真 3-2 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

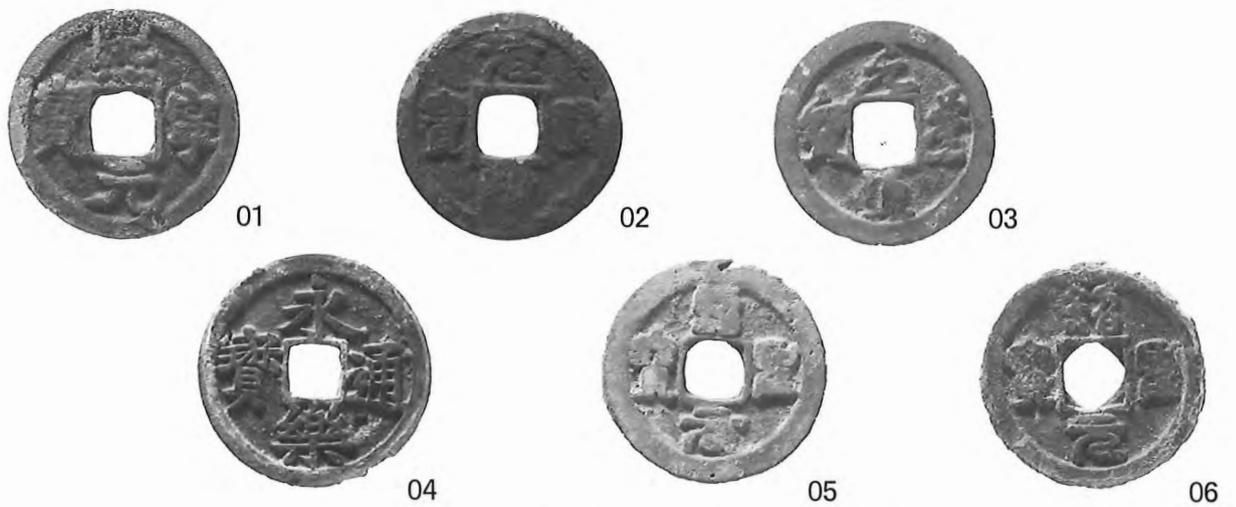


写真 3-3 2-5 調査区 中世 土墳墓出土 銭貨

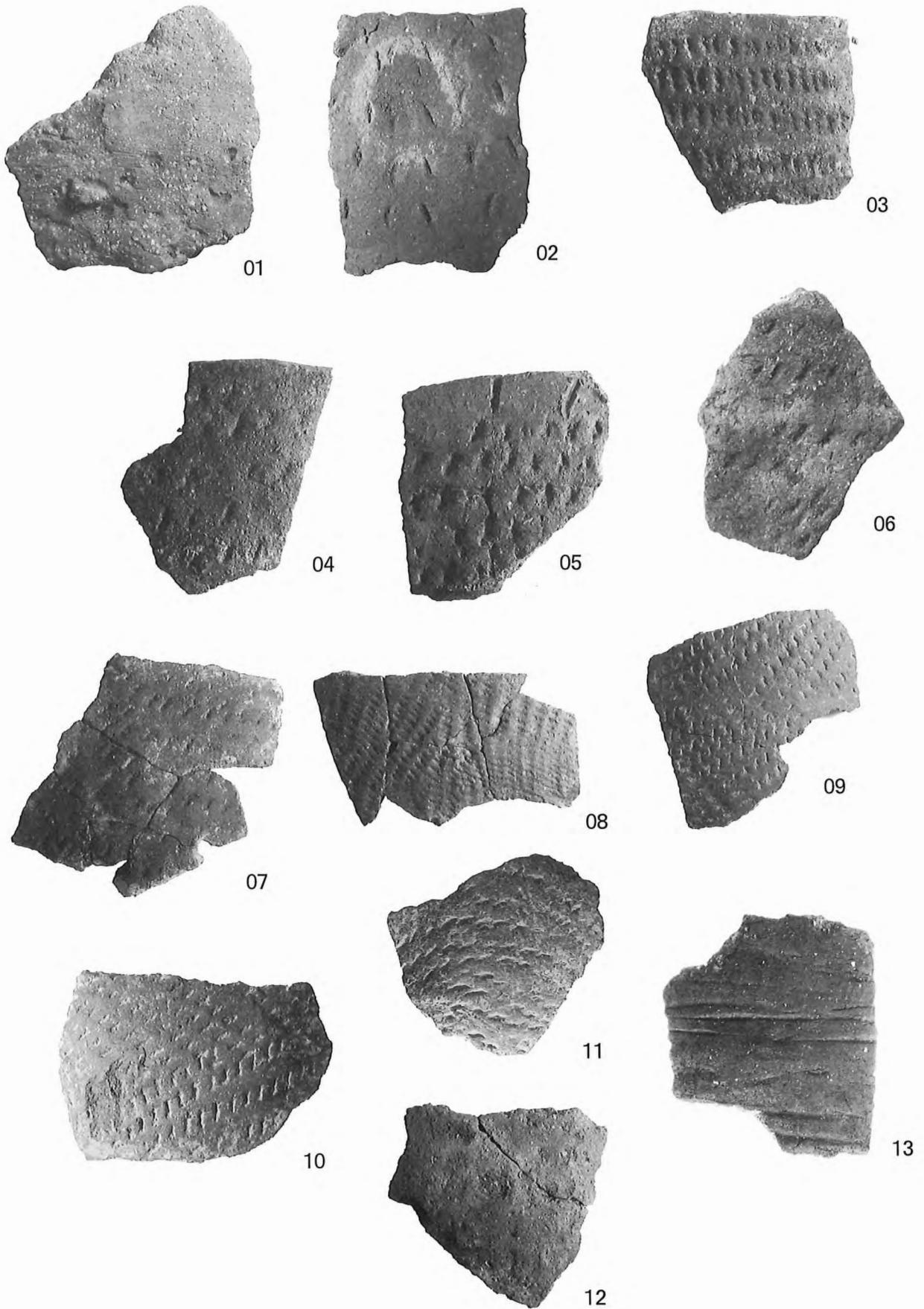


写真 4-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 土器

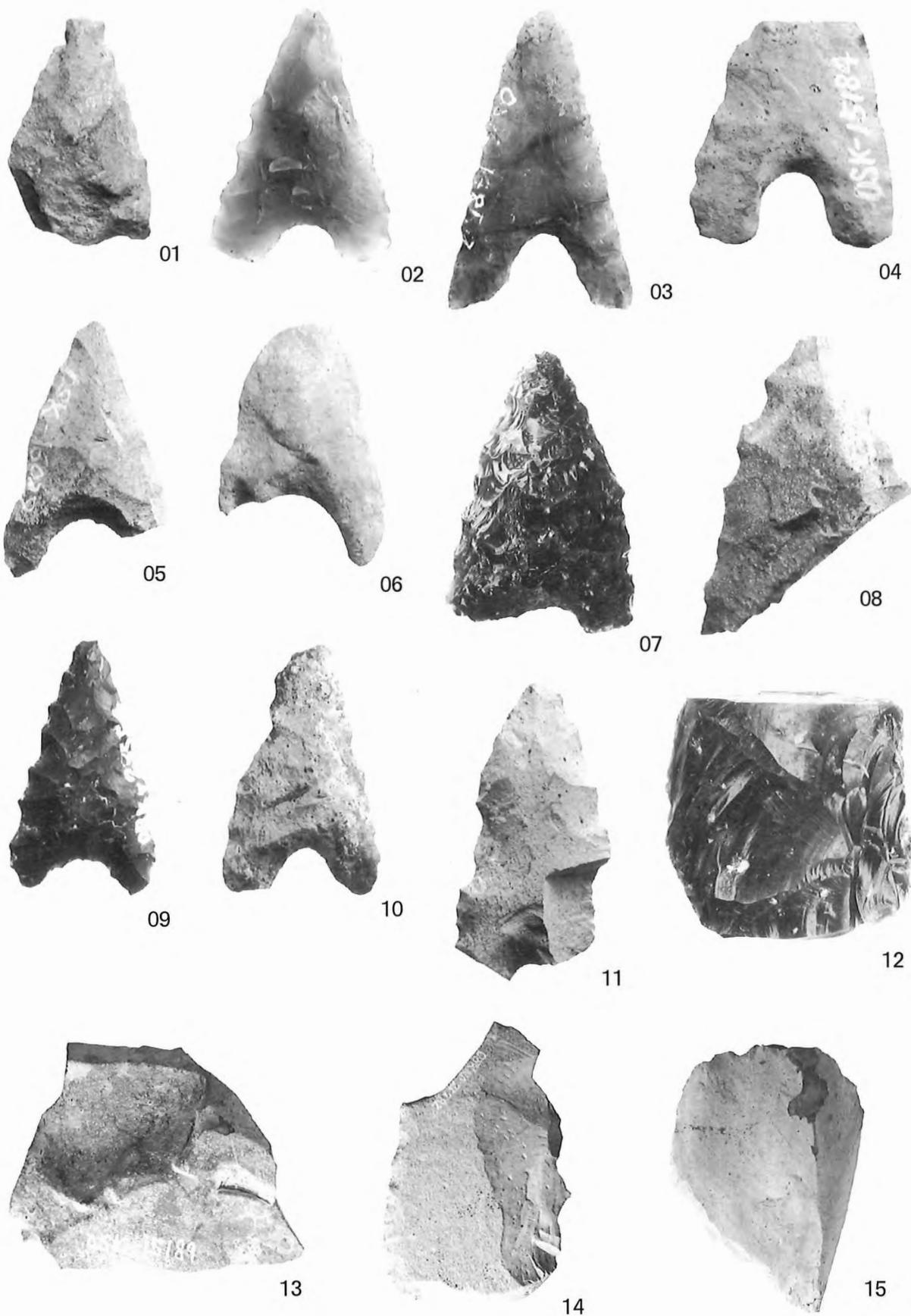


写真 4-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器①

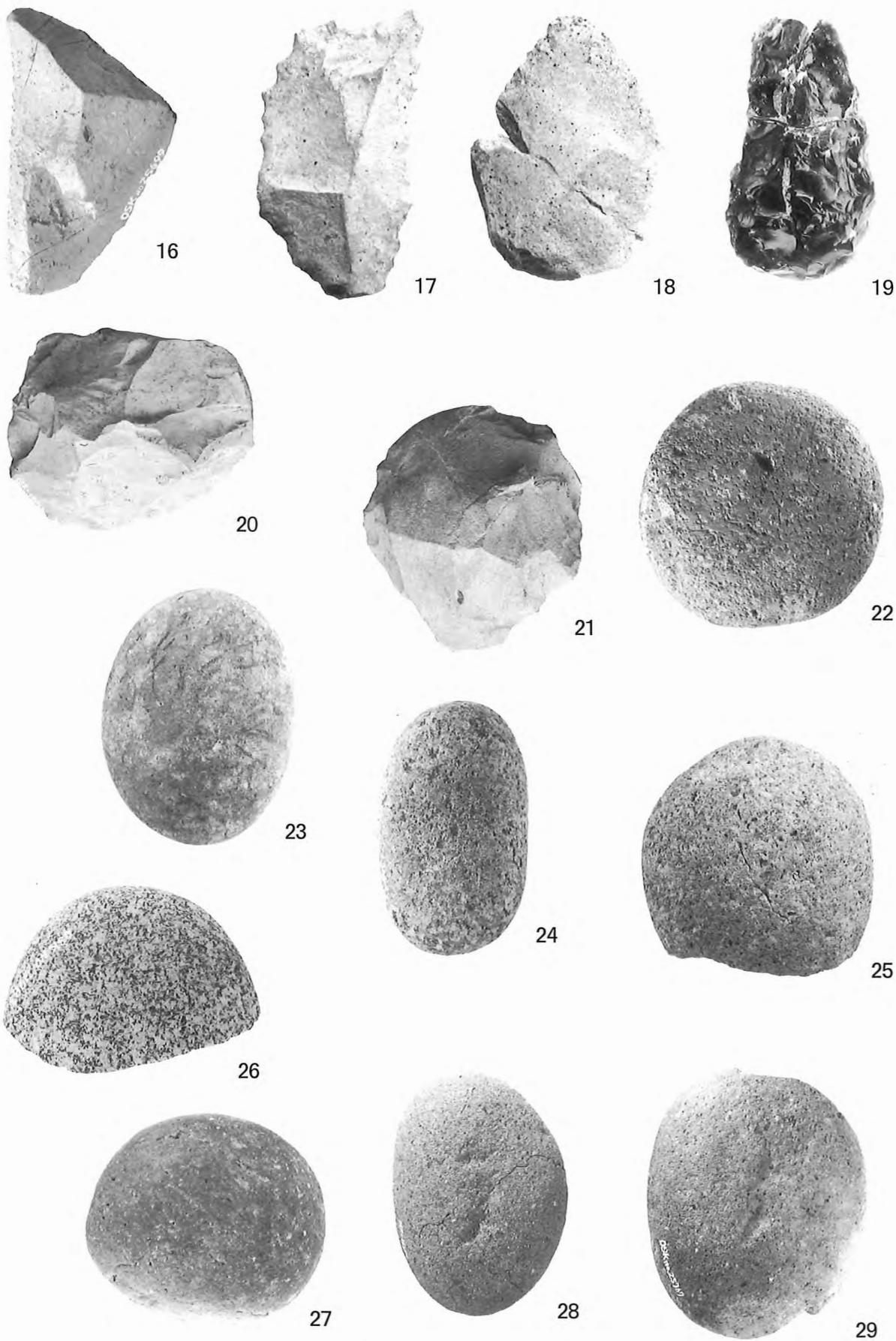


写真 4-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器②

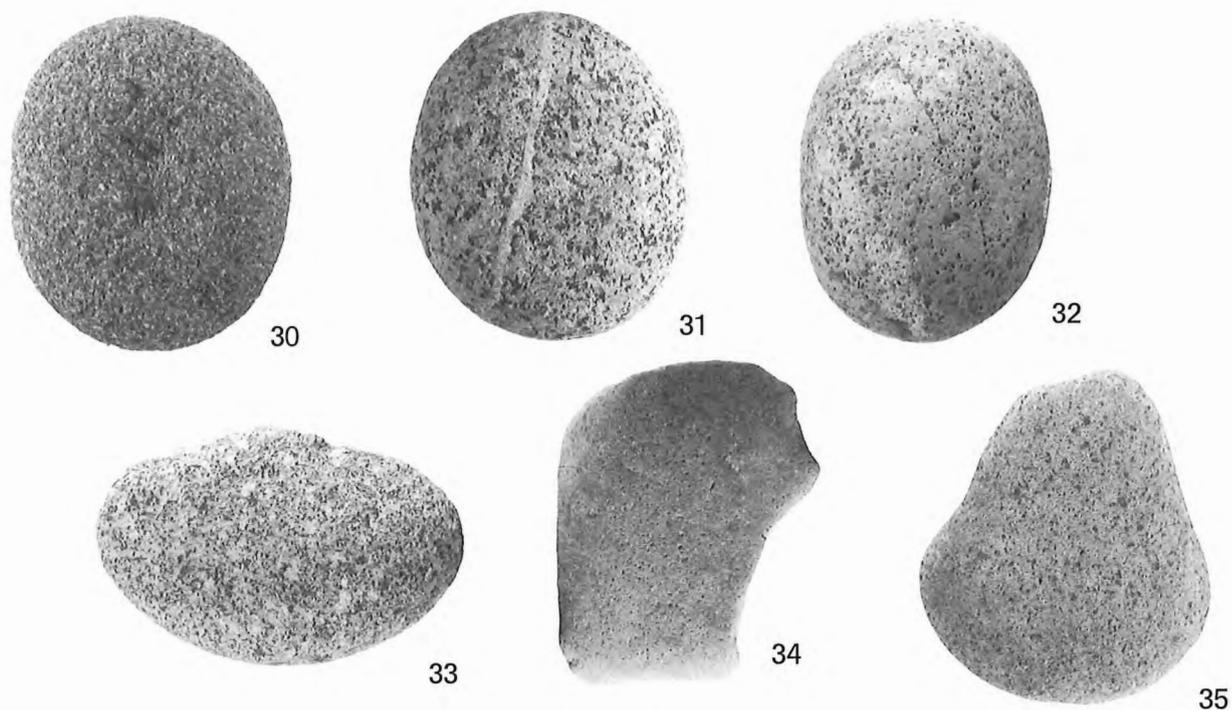


写真 4-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器③

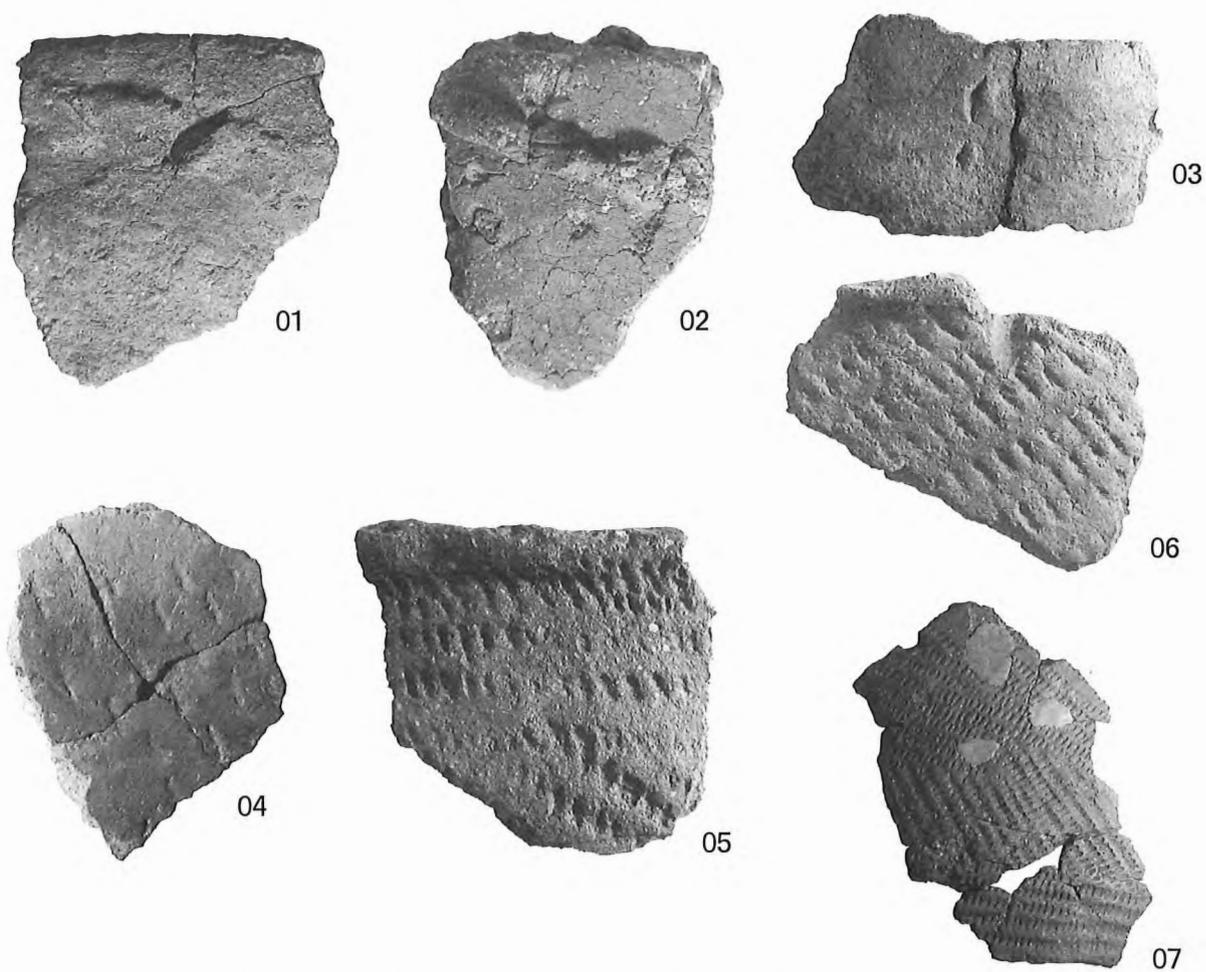


写真 5-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 土器①

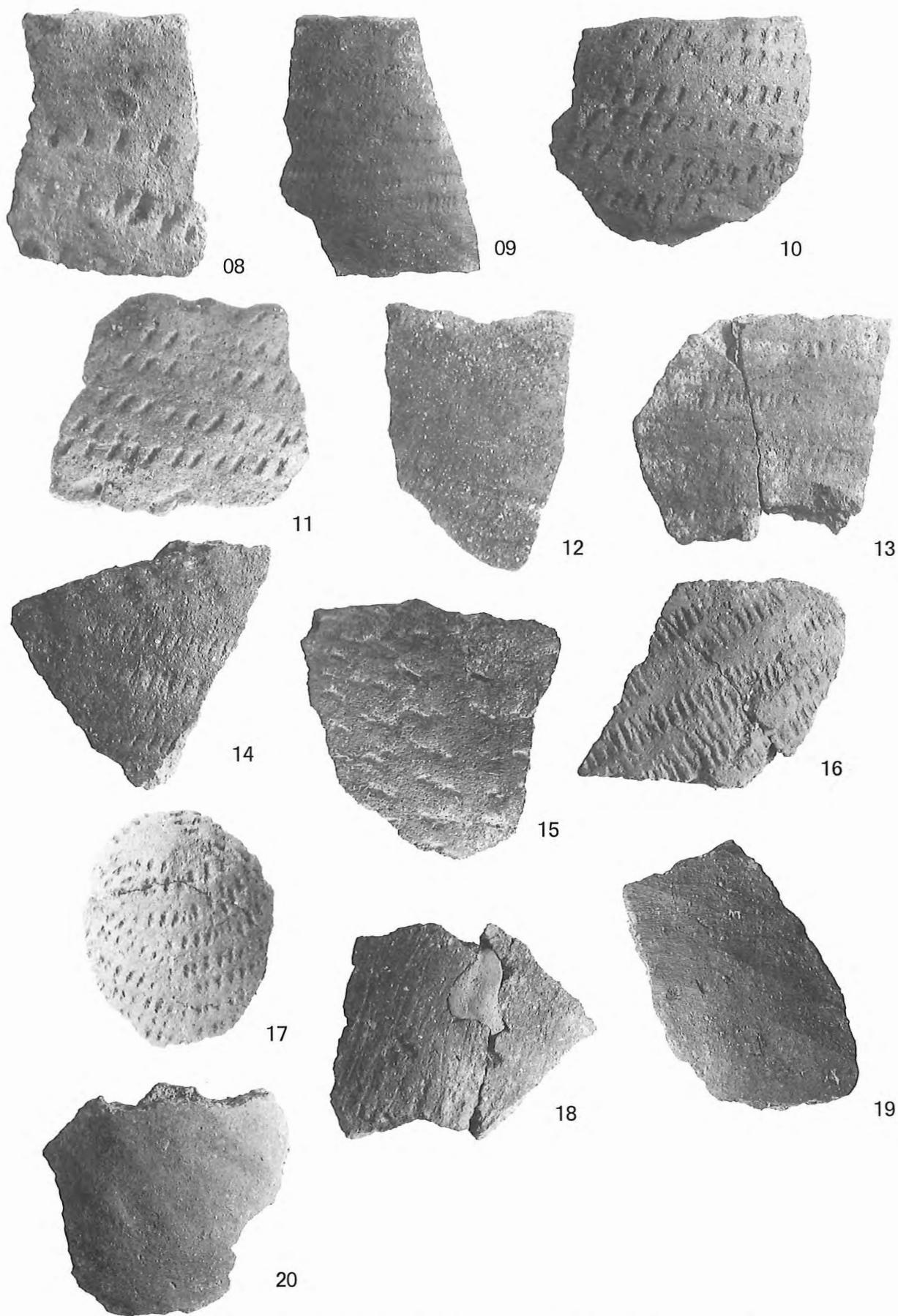


写真 5-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器②

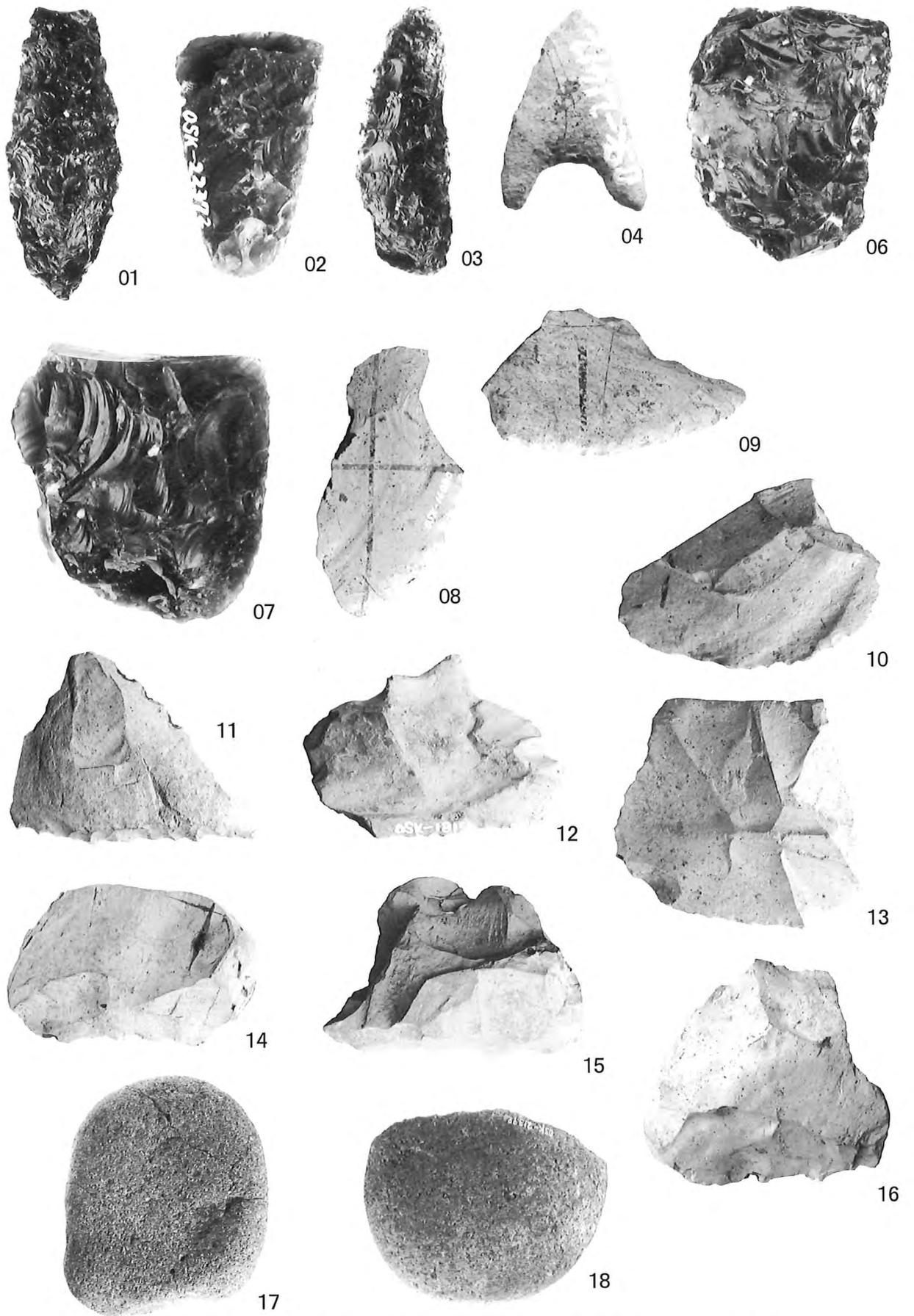
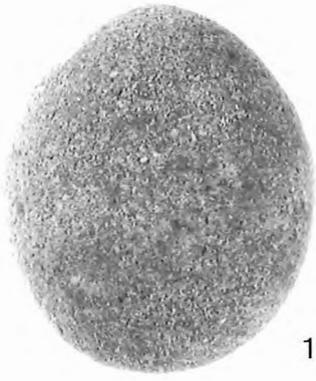


写真 5-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器①



19



20



21

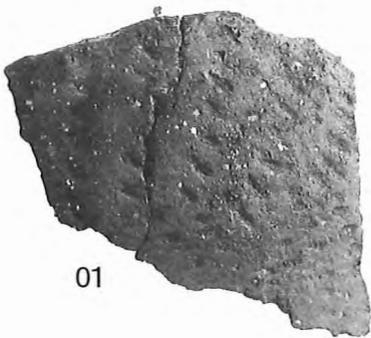


22



23

写真 5-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器②



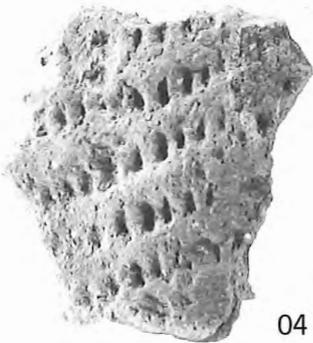
01



02



03



04



05



06

写真 6-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竖穴状遺構出土 土器①

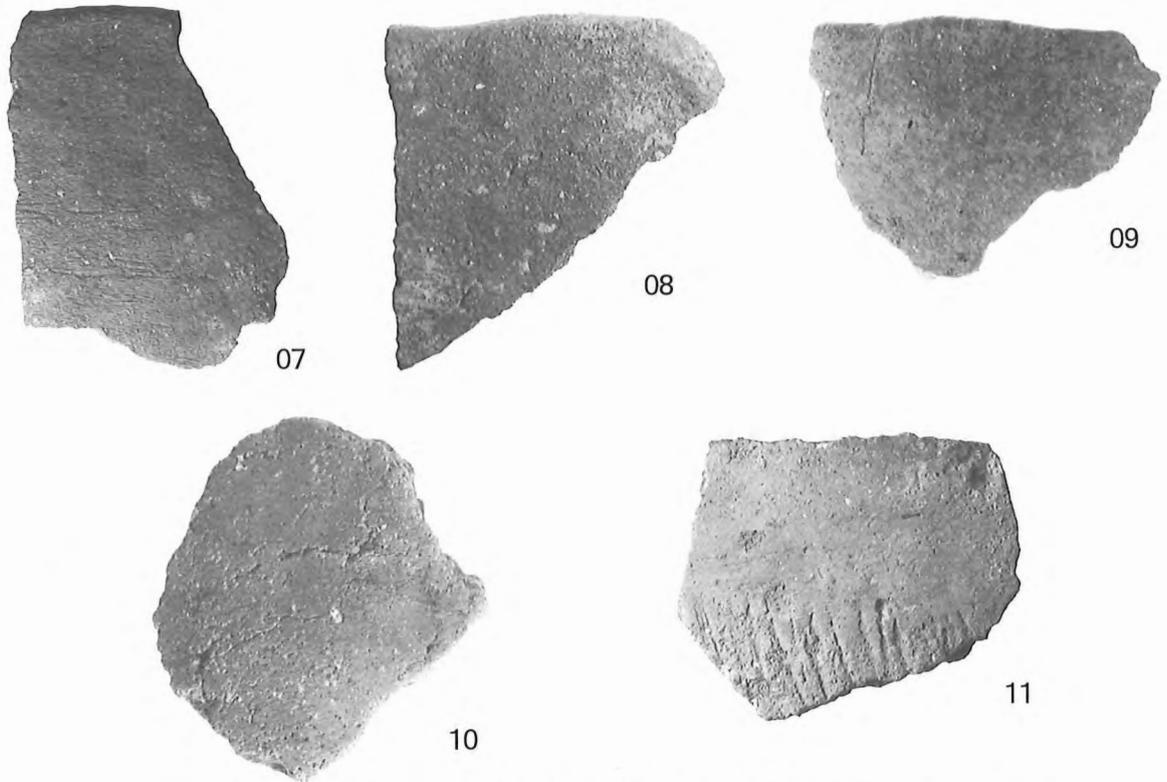


写真 6-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器②

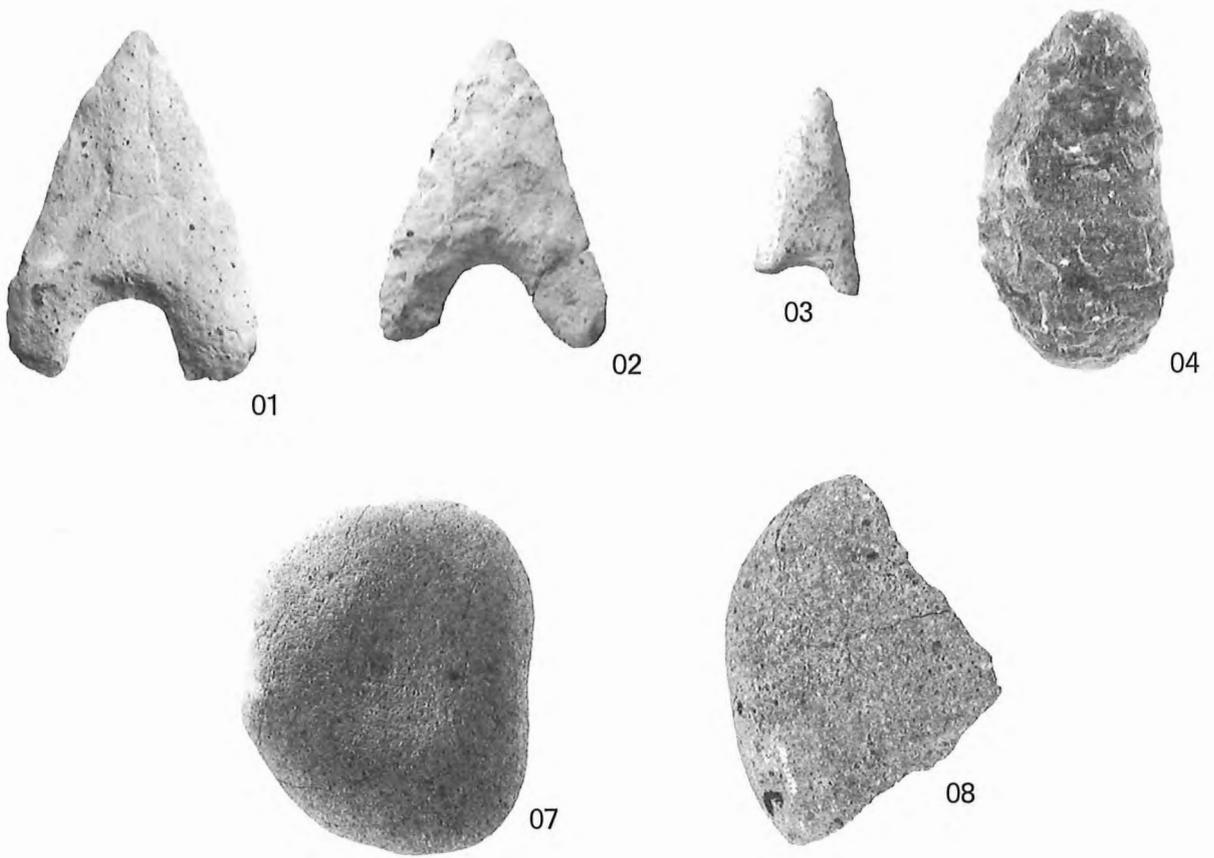


写真 6-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器

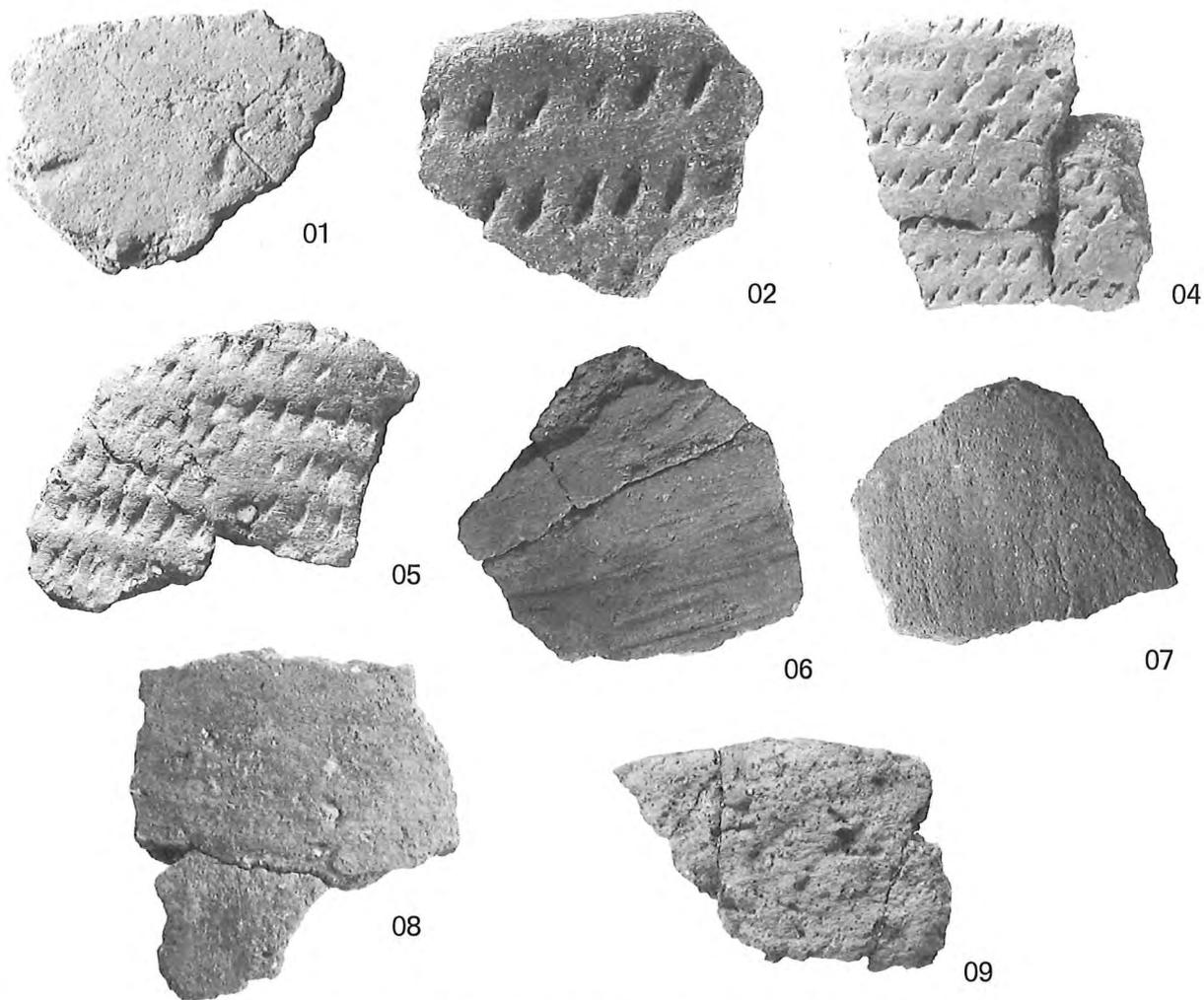


写真 7-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 土器

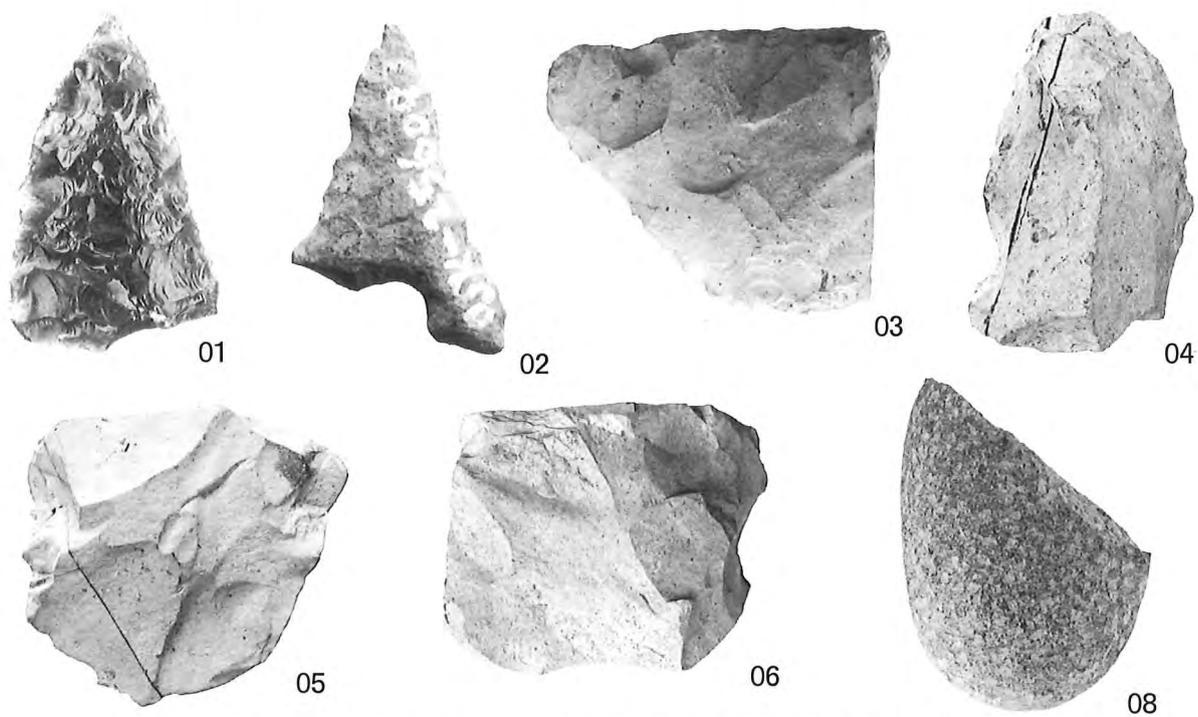


写真 7-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 石器①

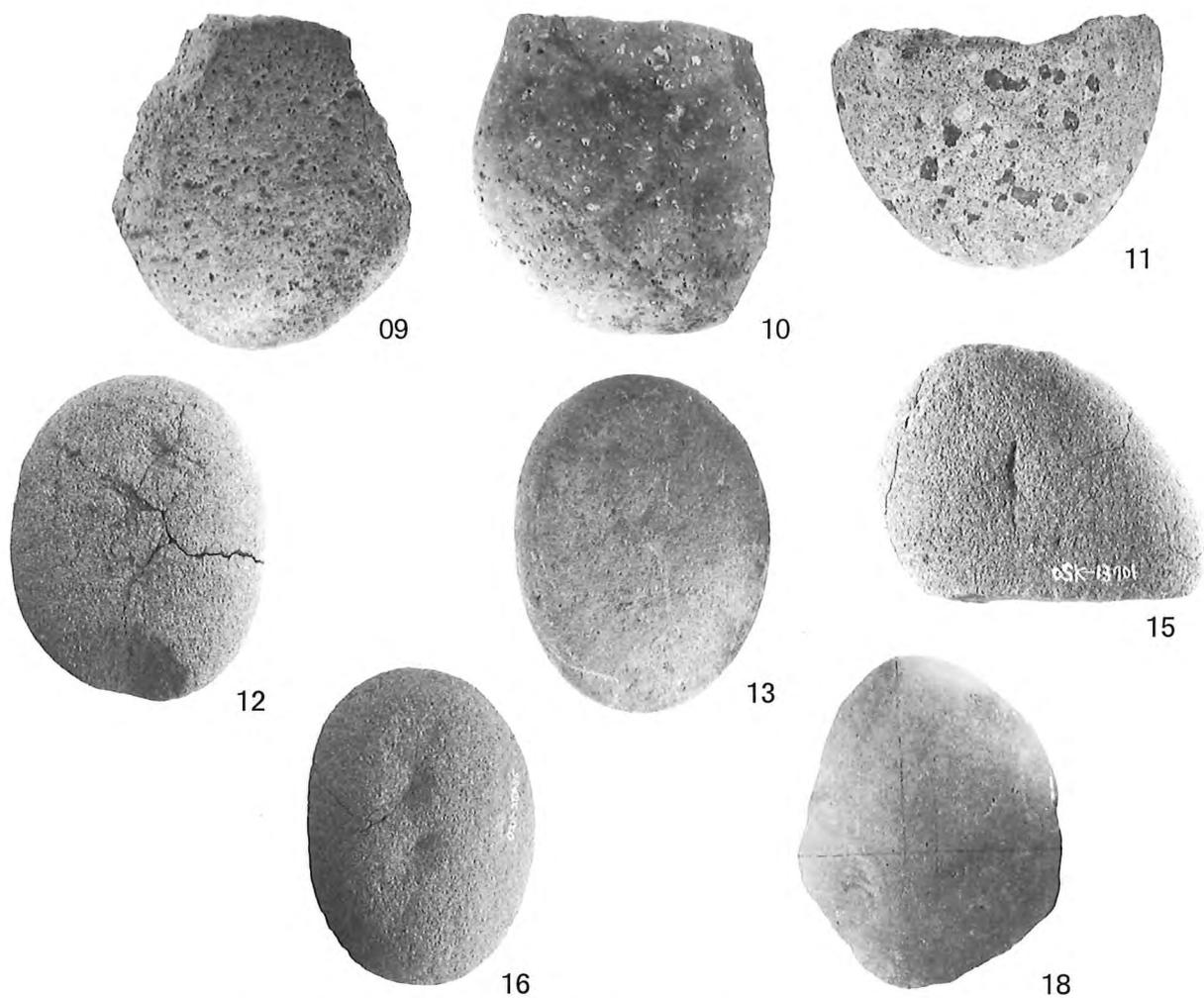


写真 7-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器②

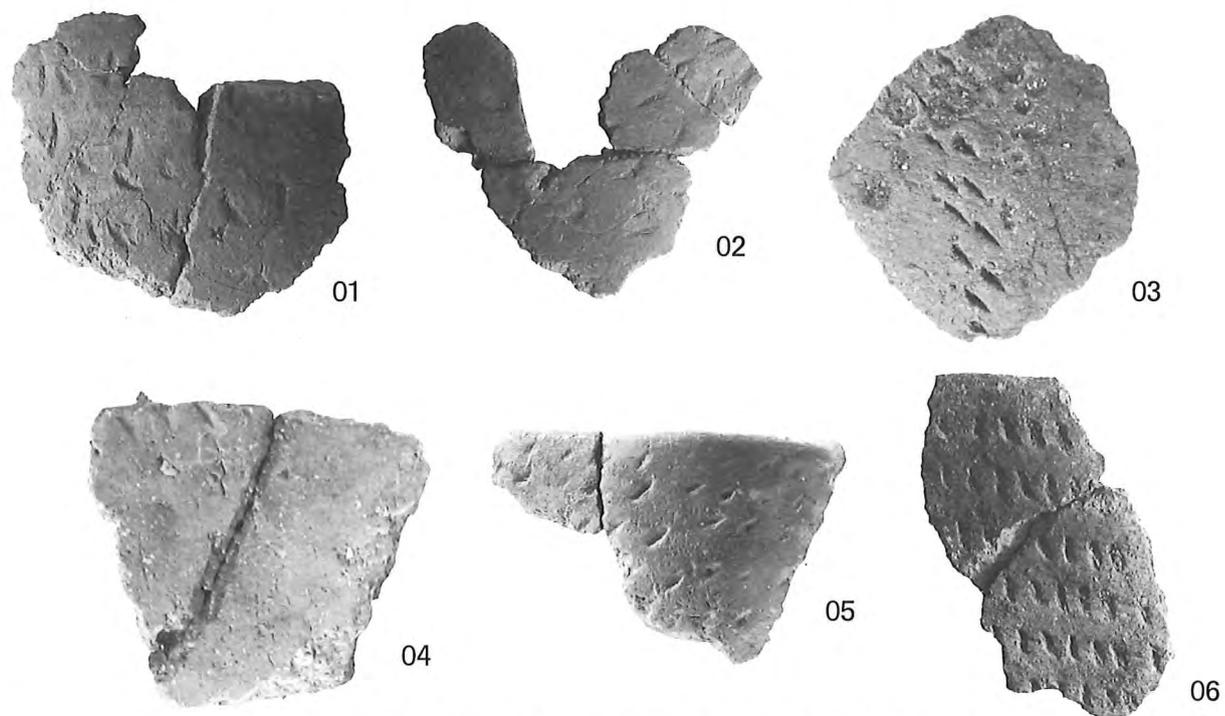


写真 8-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 土器①

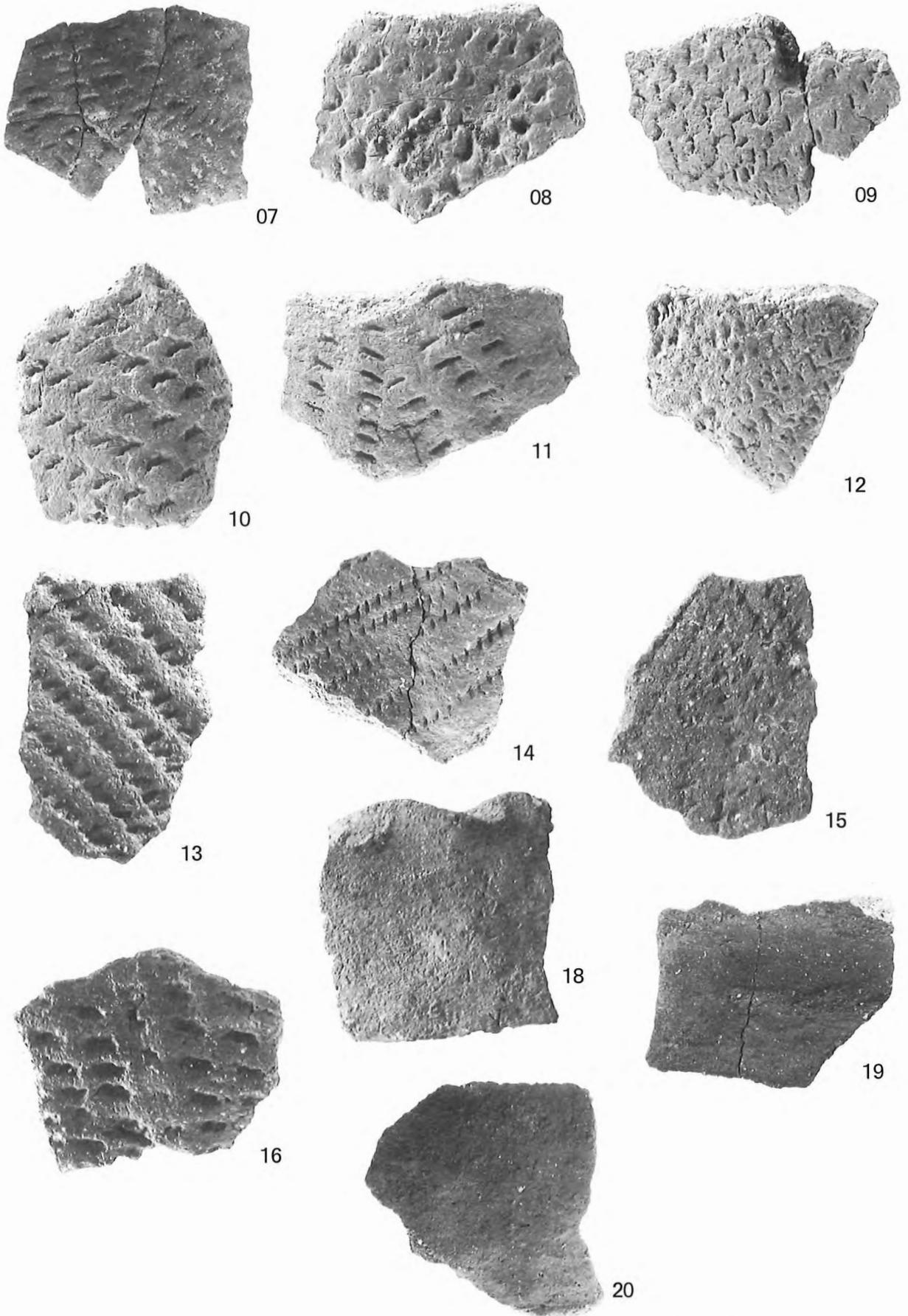


写真 8-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 土器②

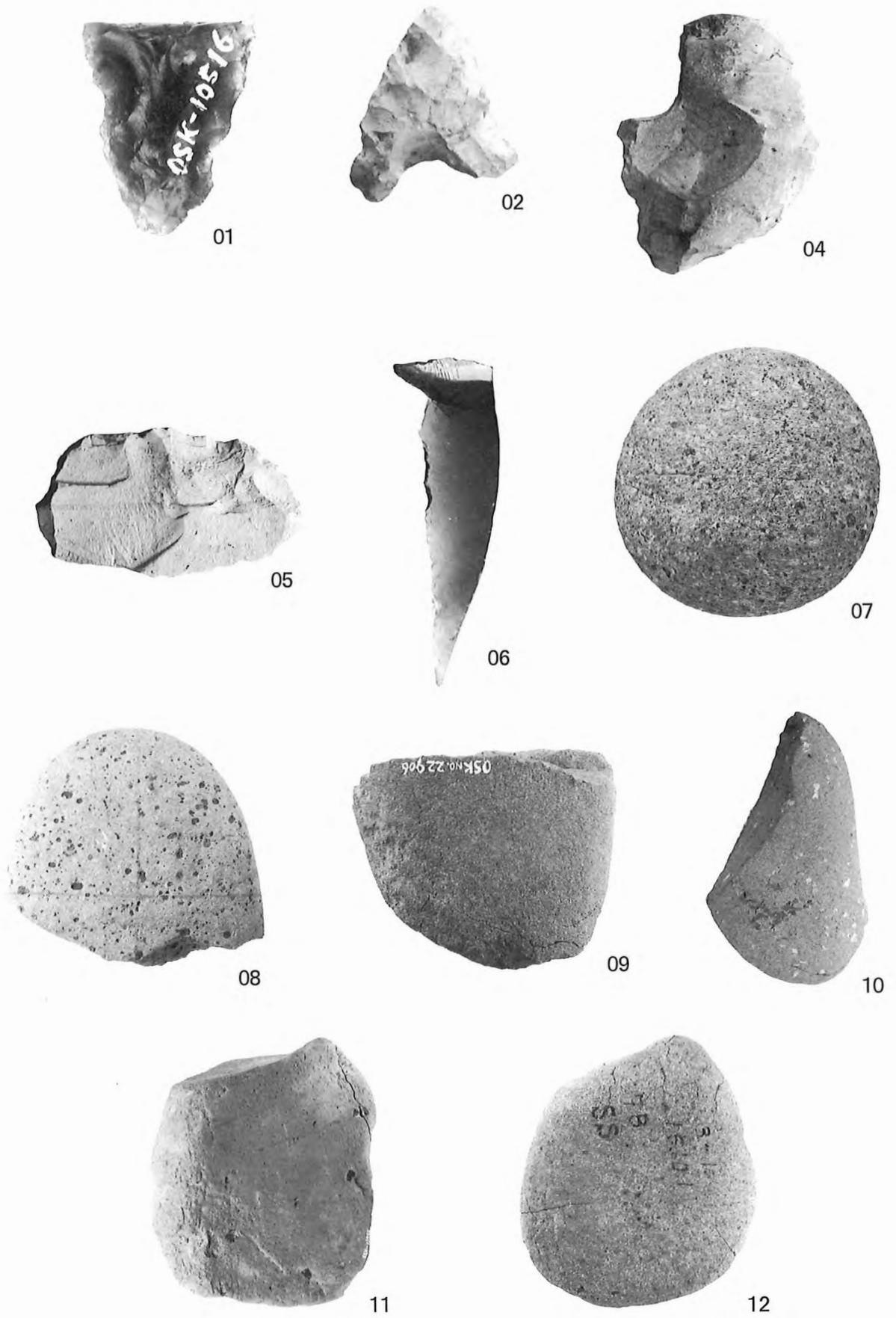


写真 8-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竖穴状遺構出土 石器

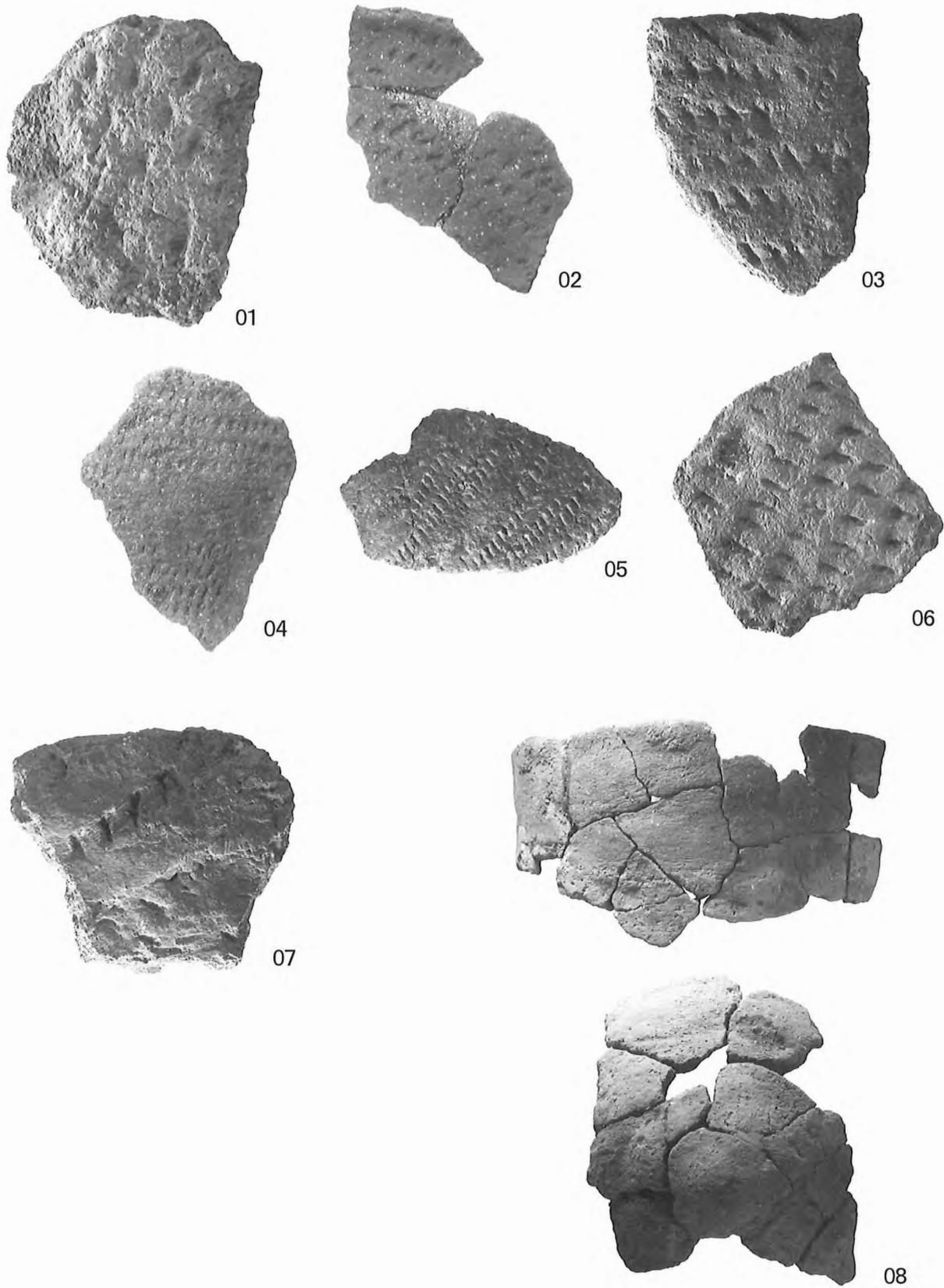


写真 9-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器

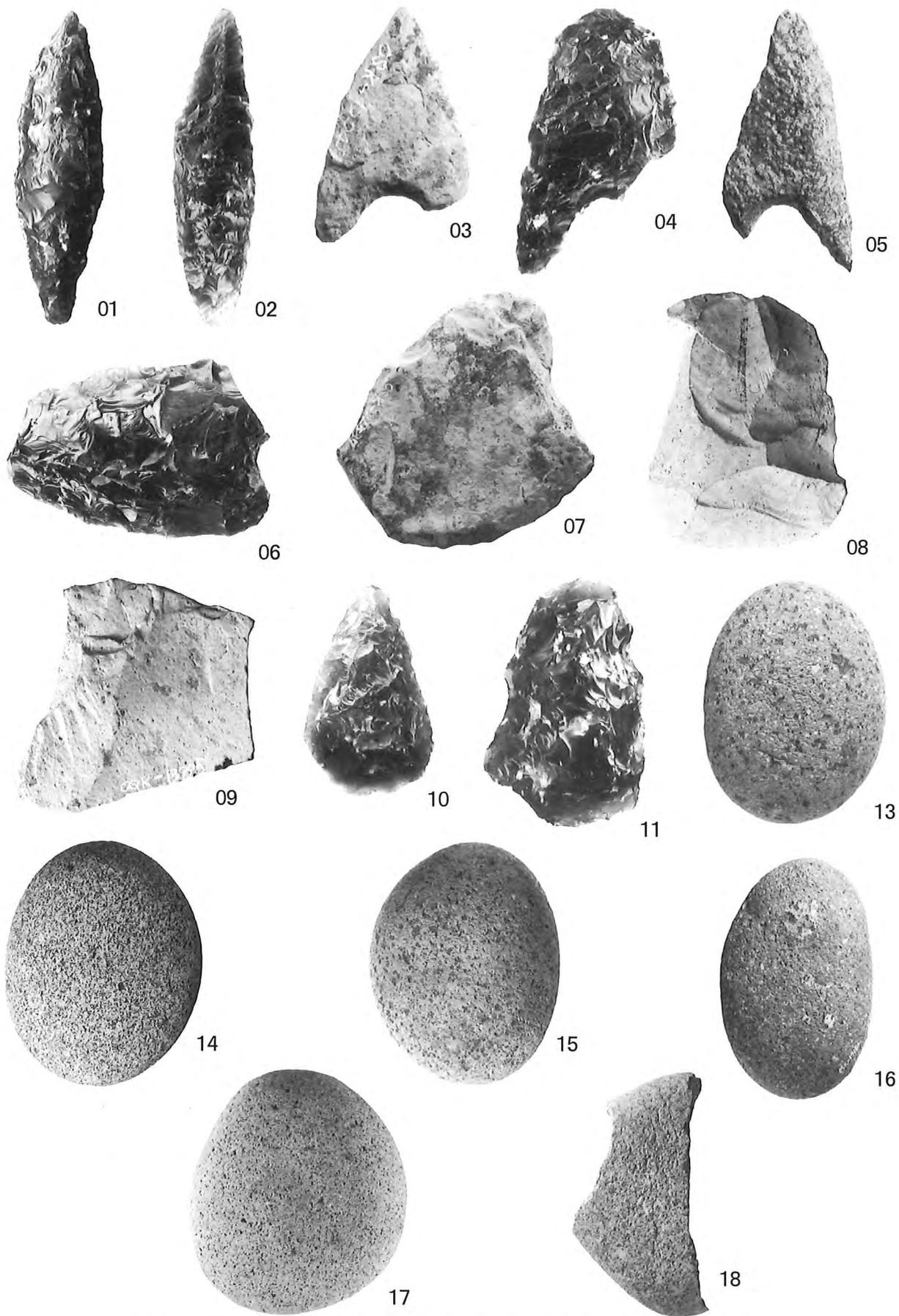


写真 9-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竖穴状遺構出土 石器

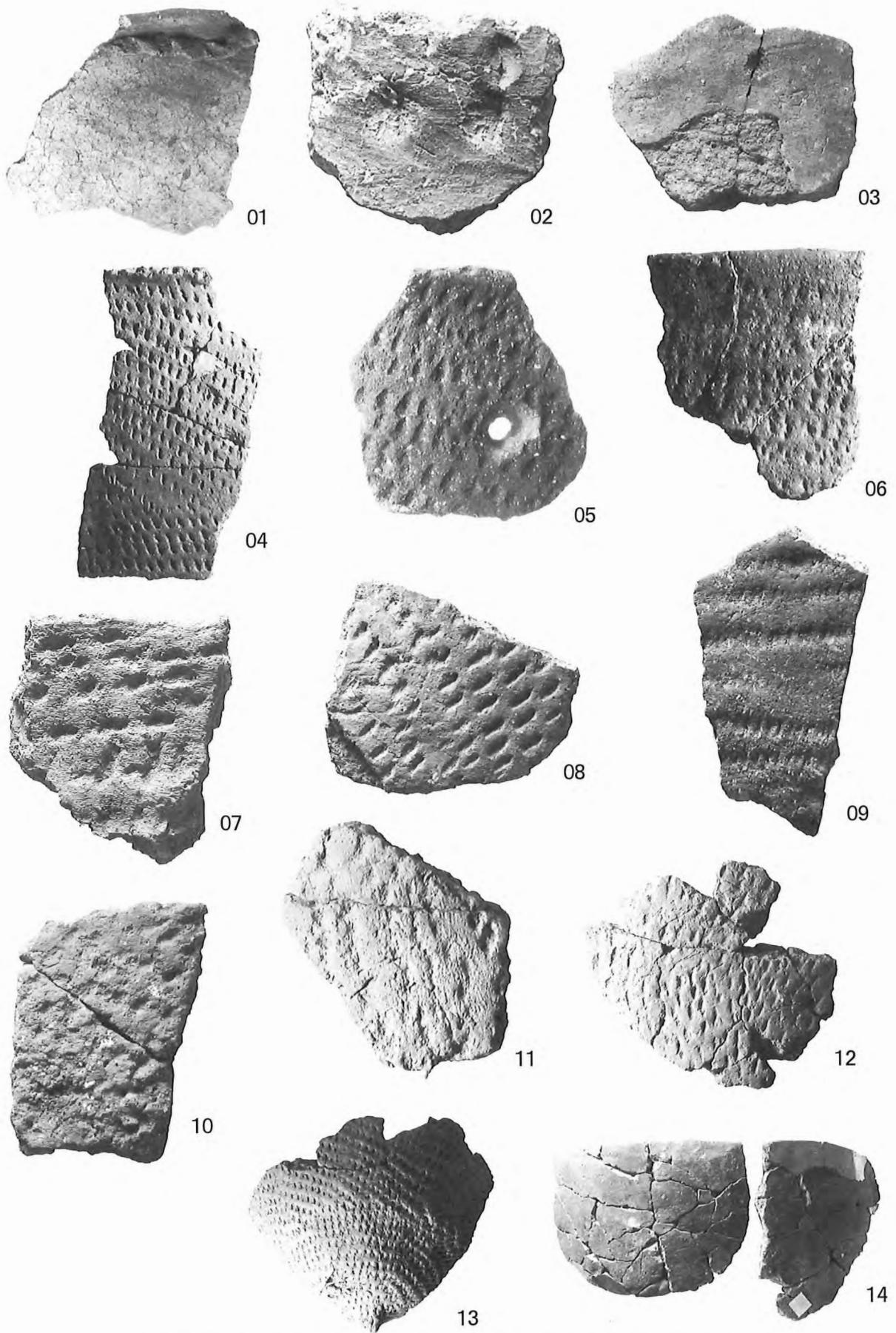


写真 10-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器①

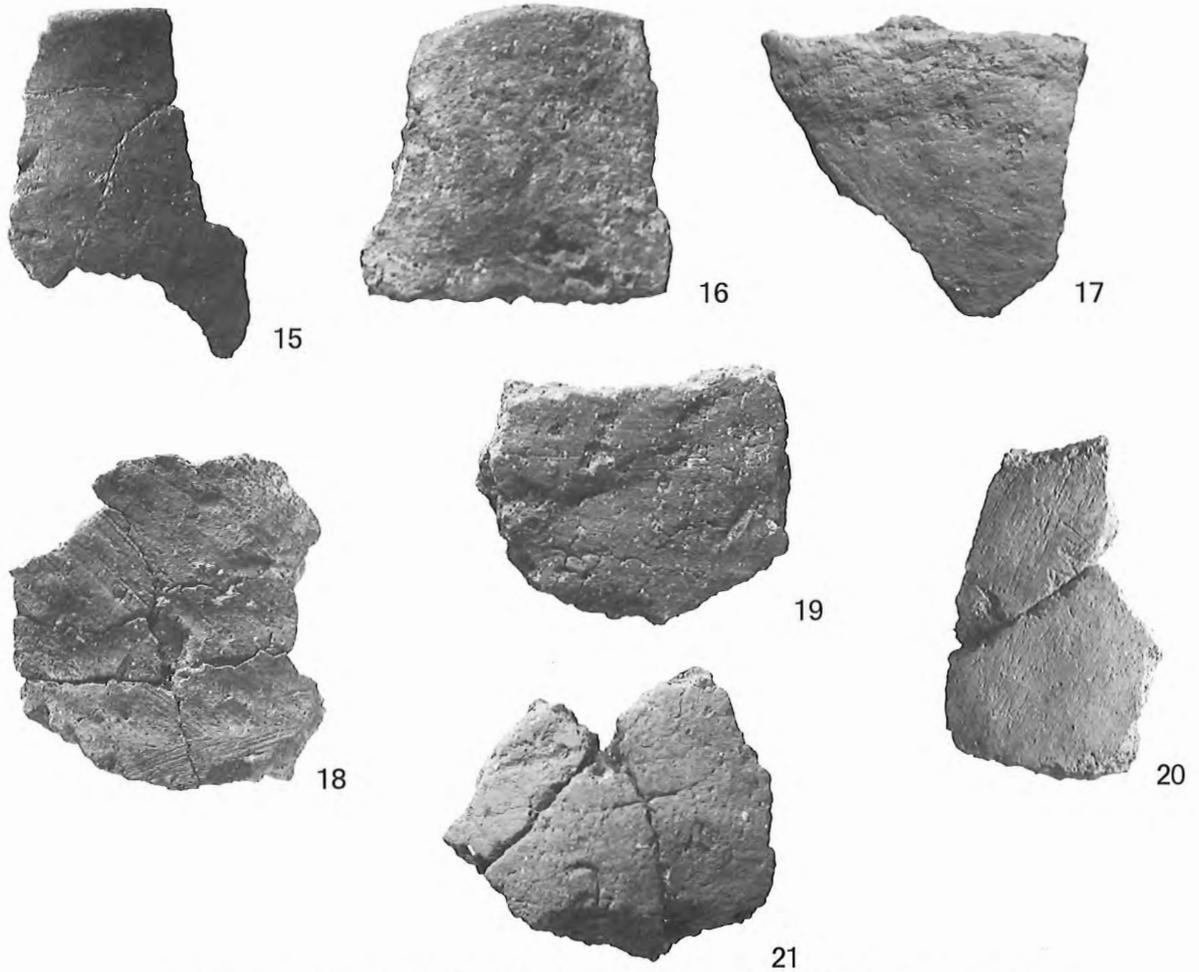


写真 10-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器②

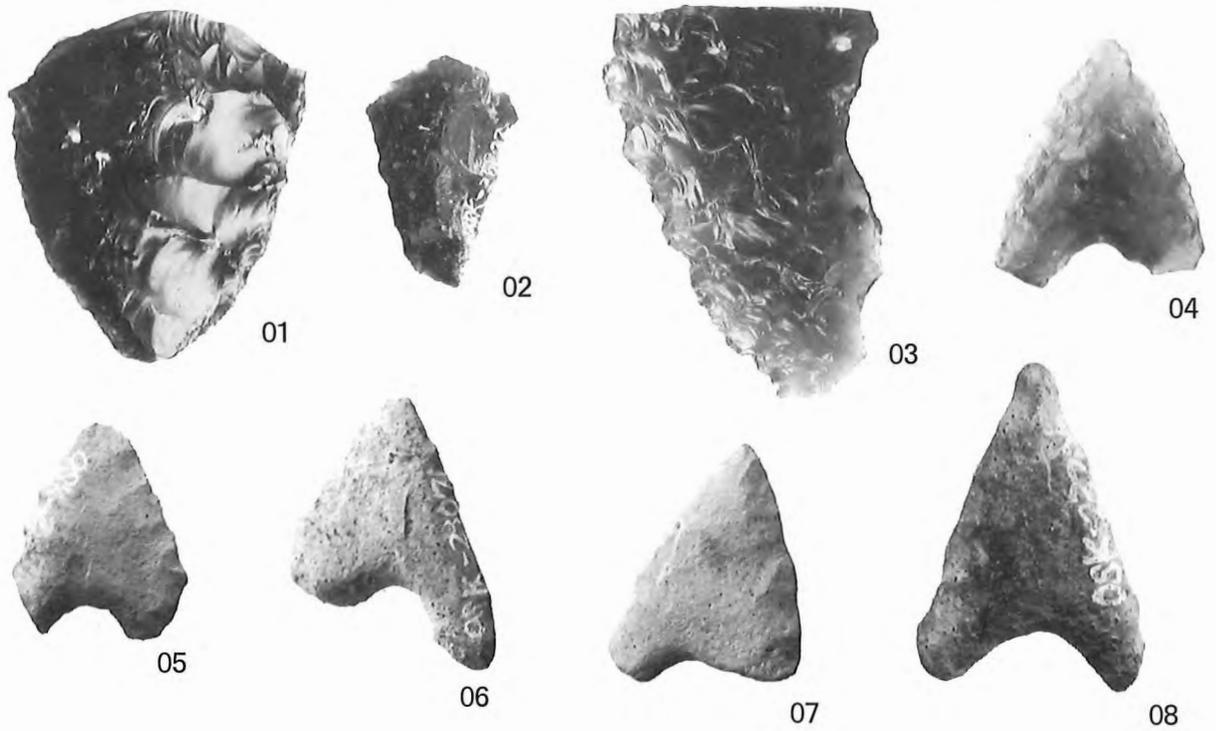


写真 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 石器①



09



10



11



12



13



14



15



16



17



19



20



21



22



23



24



25

写真 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 石器②

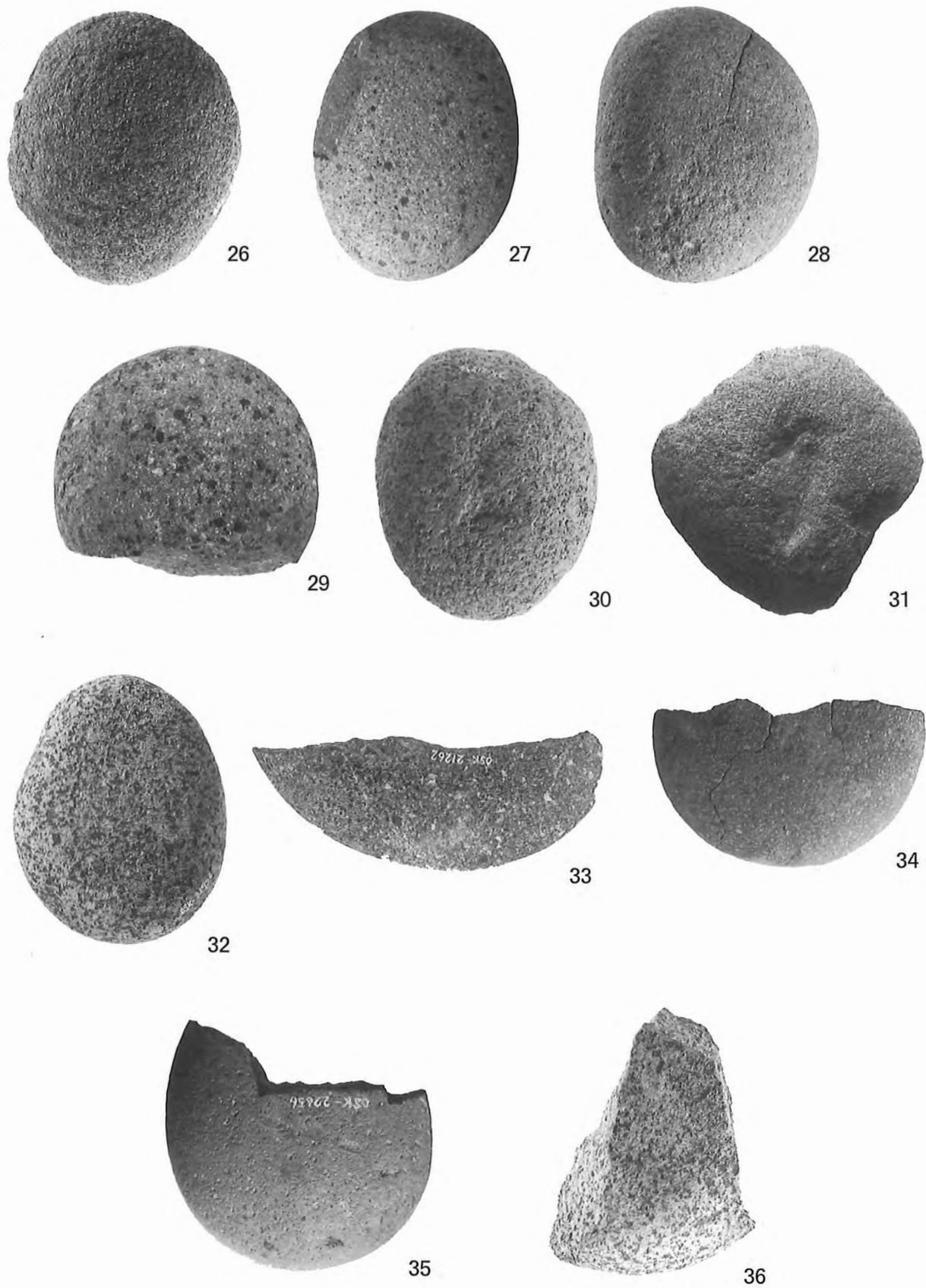


写真 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 石器③

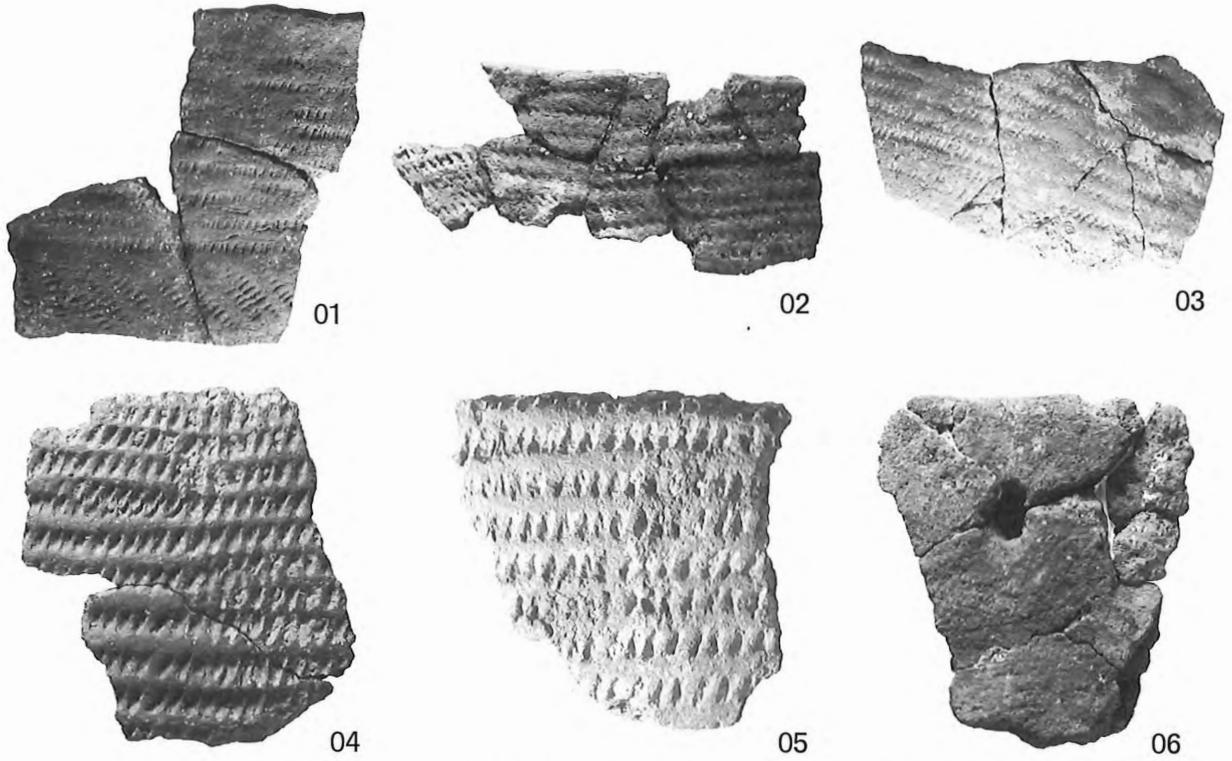


写真 11-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竖穴状遺構出土 土器

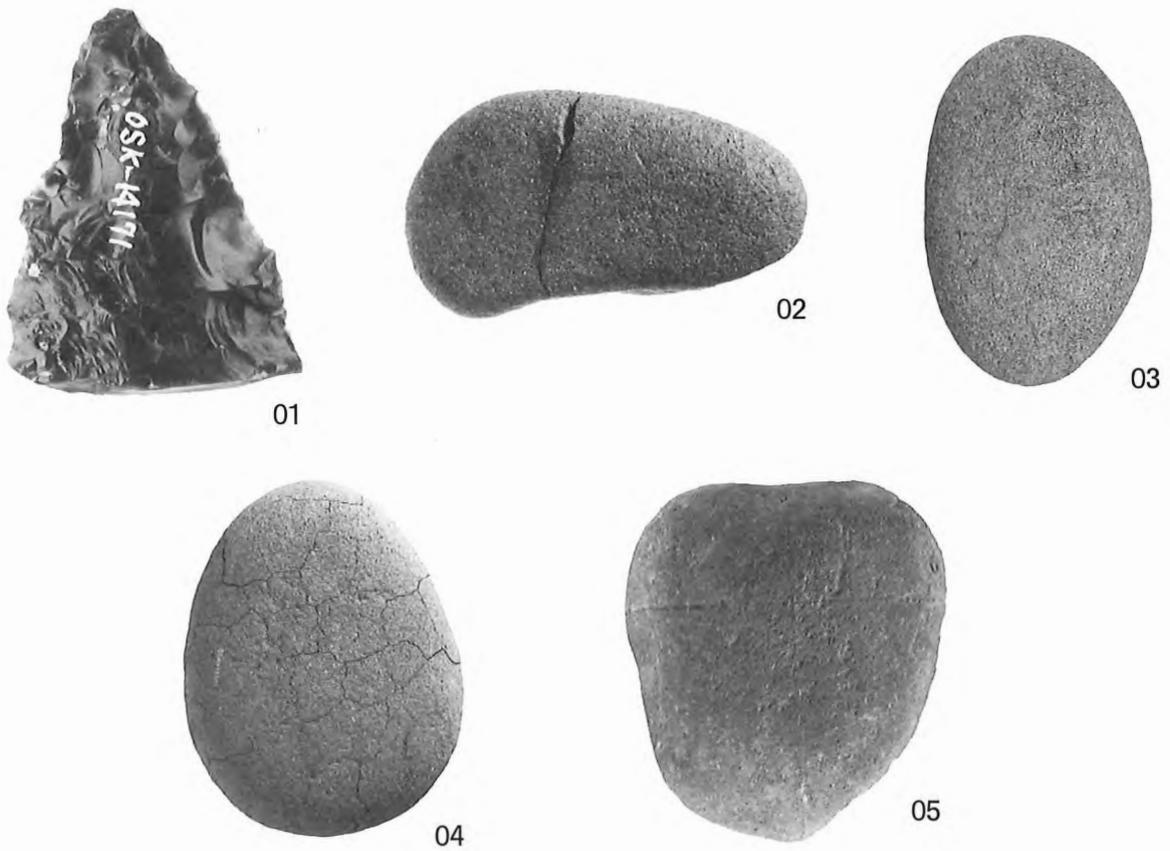


写真 11-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竖穴状遺構出土 石器



写真 12-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竪穴状遺構出土 土器

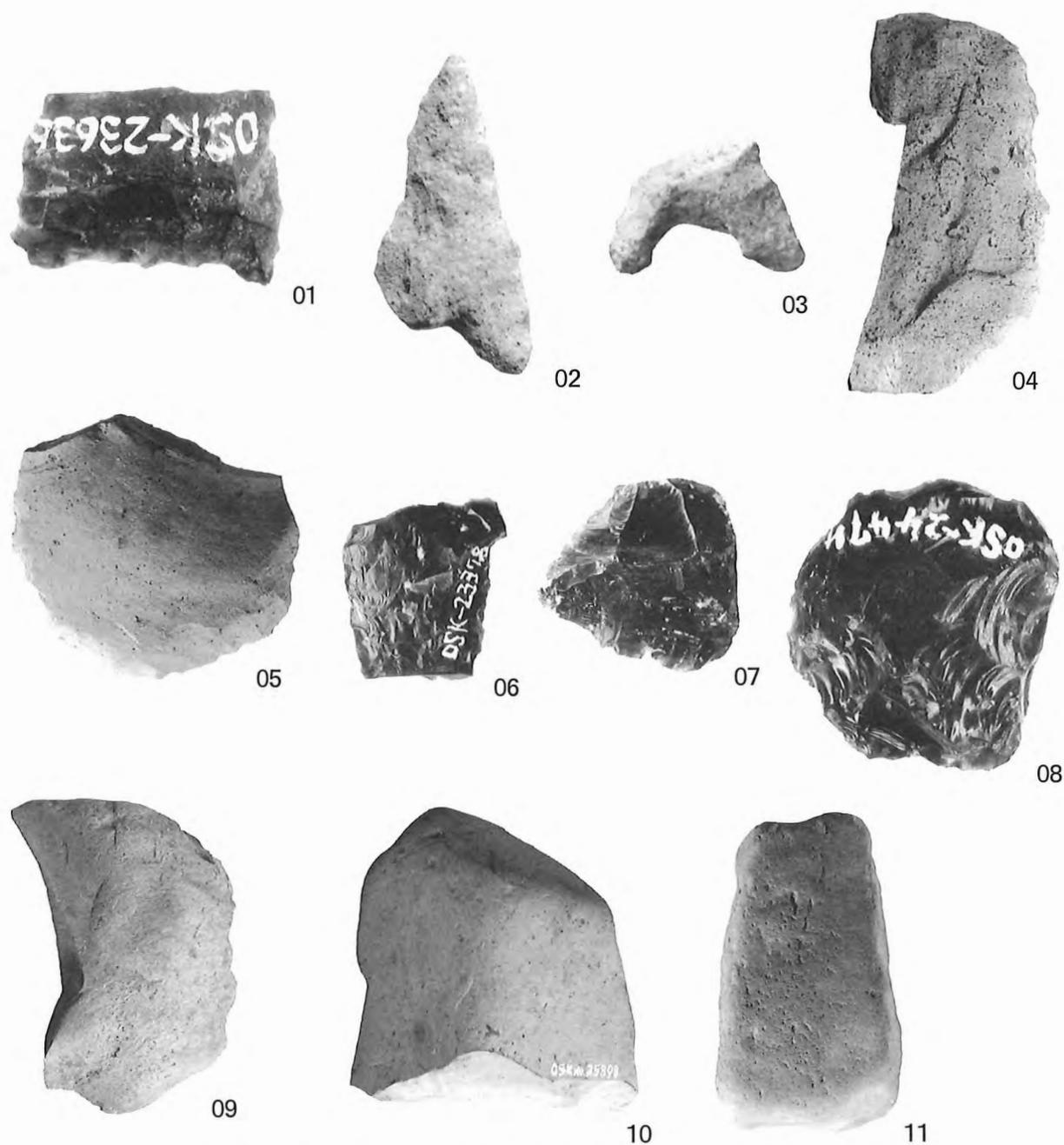


写真 12-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竪穴状遺構出土 石器

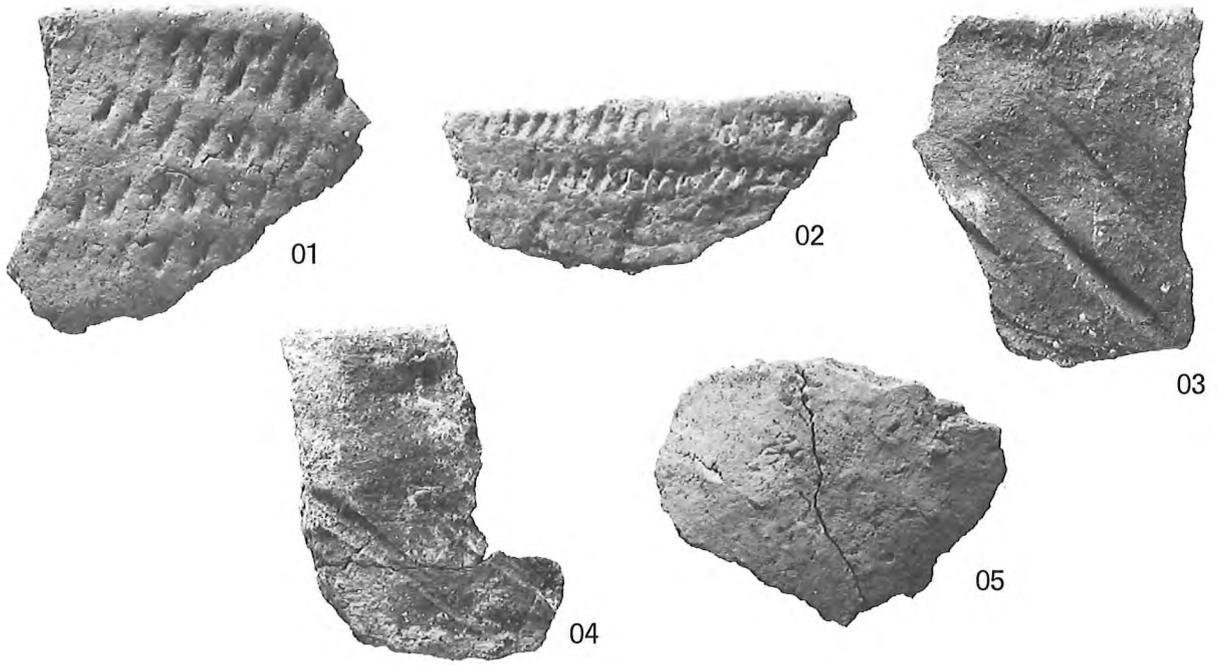


写真 13-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 土器

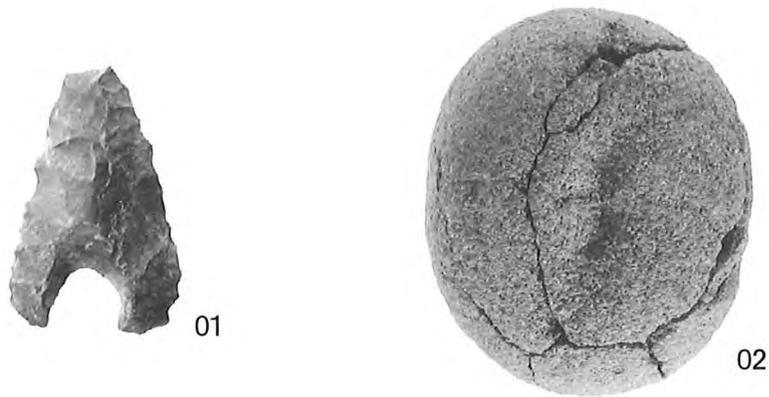


写真 13-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 石器

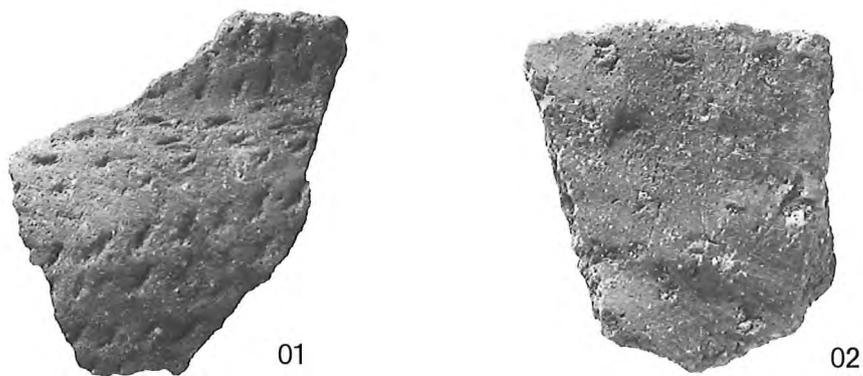


写真 14-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 14号竖穴状遺構出土 土器

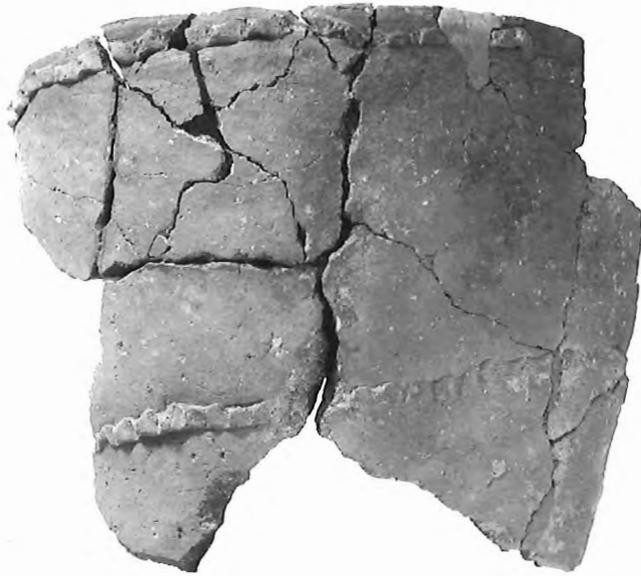


01



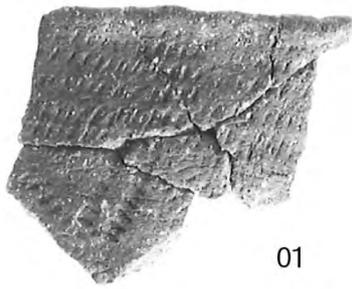
02

写真 15-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 51号土坑出土 土器

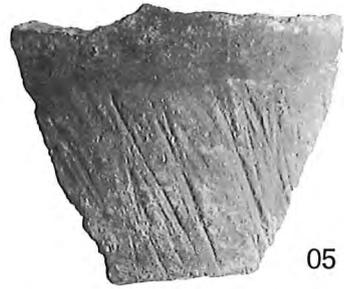


01

写真 16-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 52号土坑出土 土器



01



05

写真 17-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 土器



01

写真 17-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 石器



01



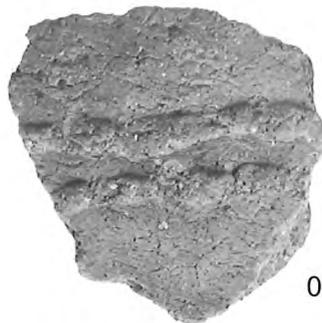
02



03



04



05



06

写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器①

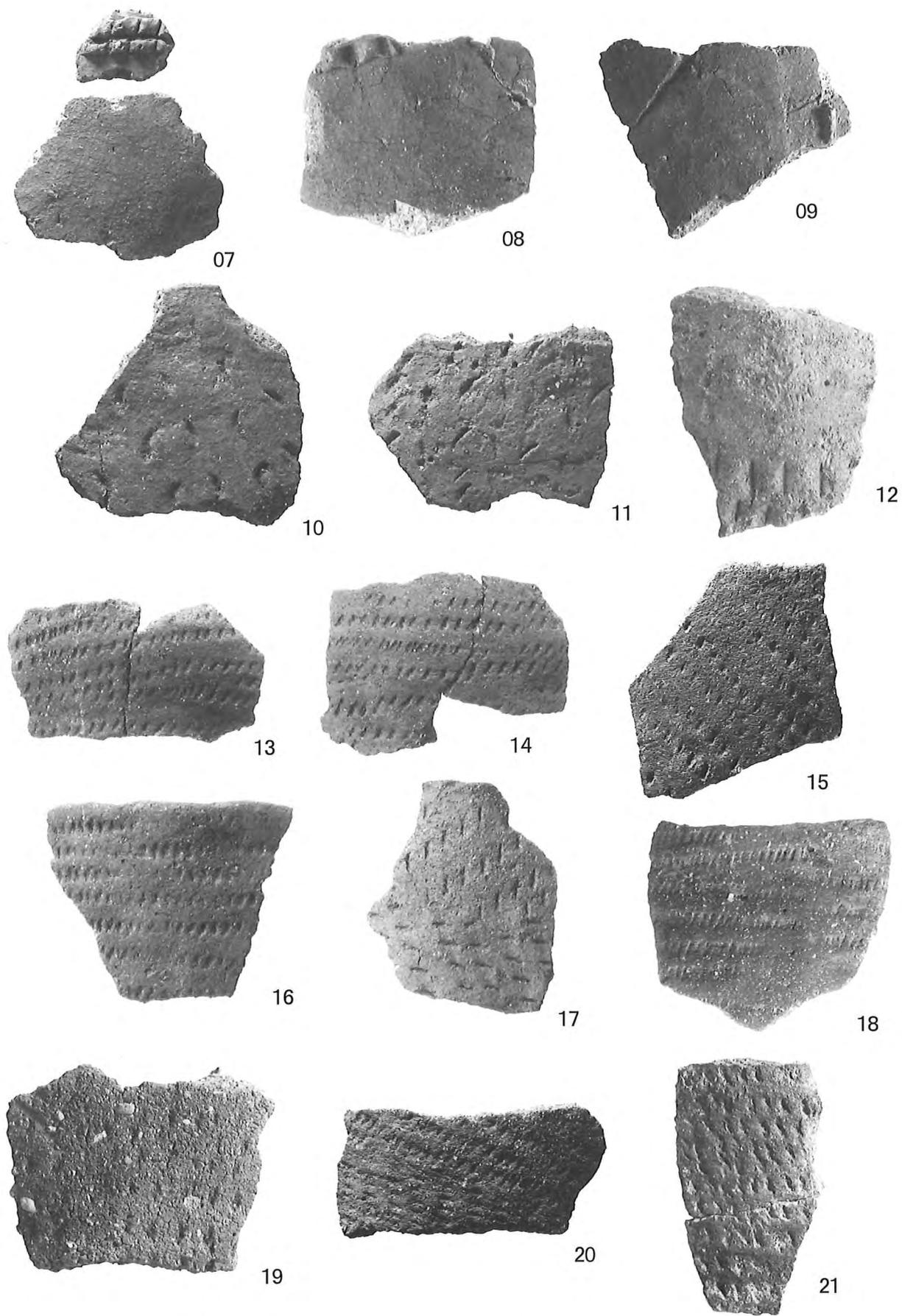


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器②

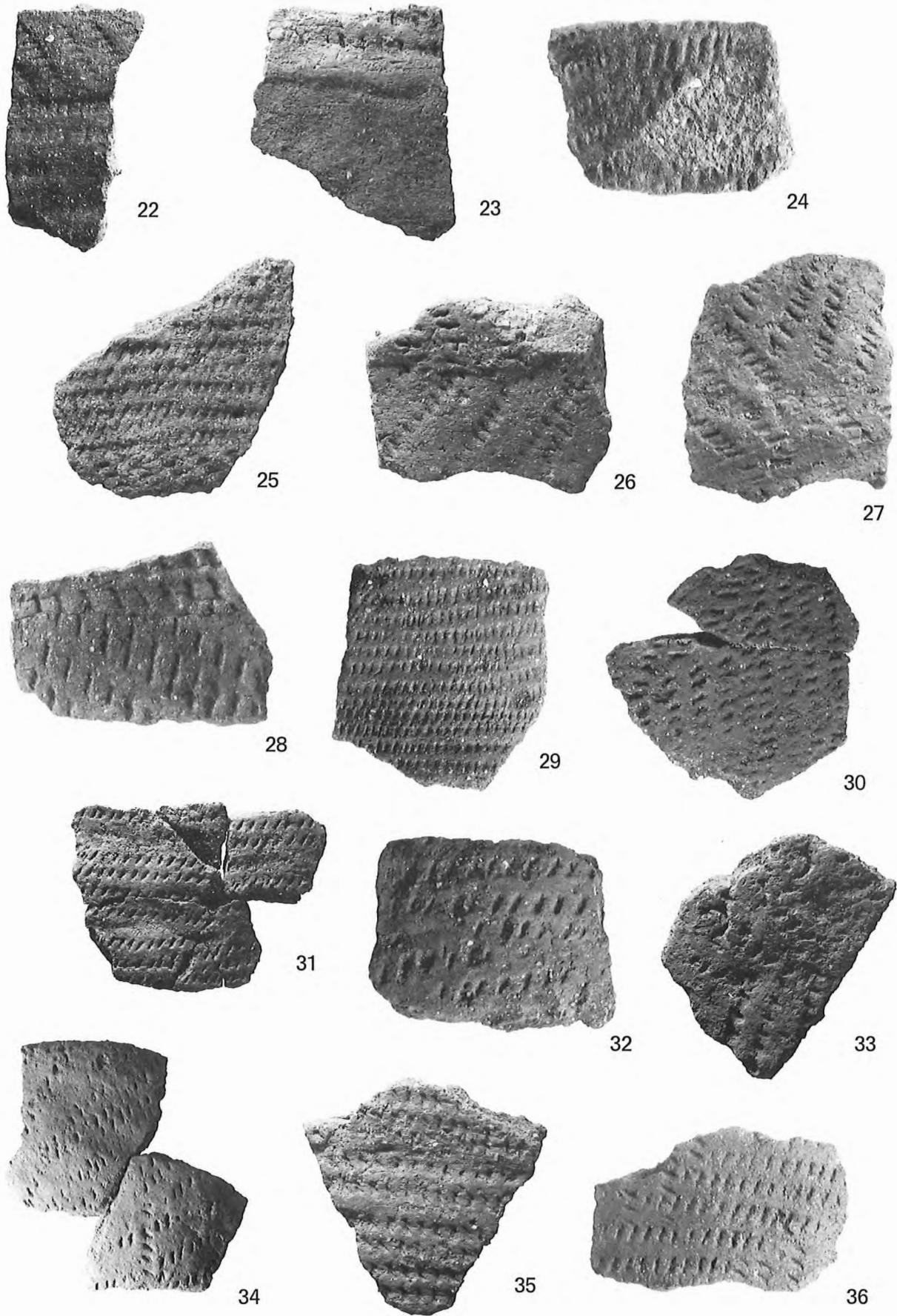


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器③

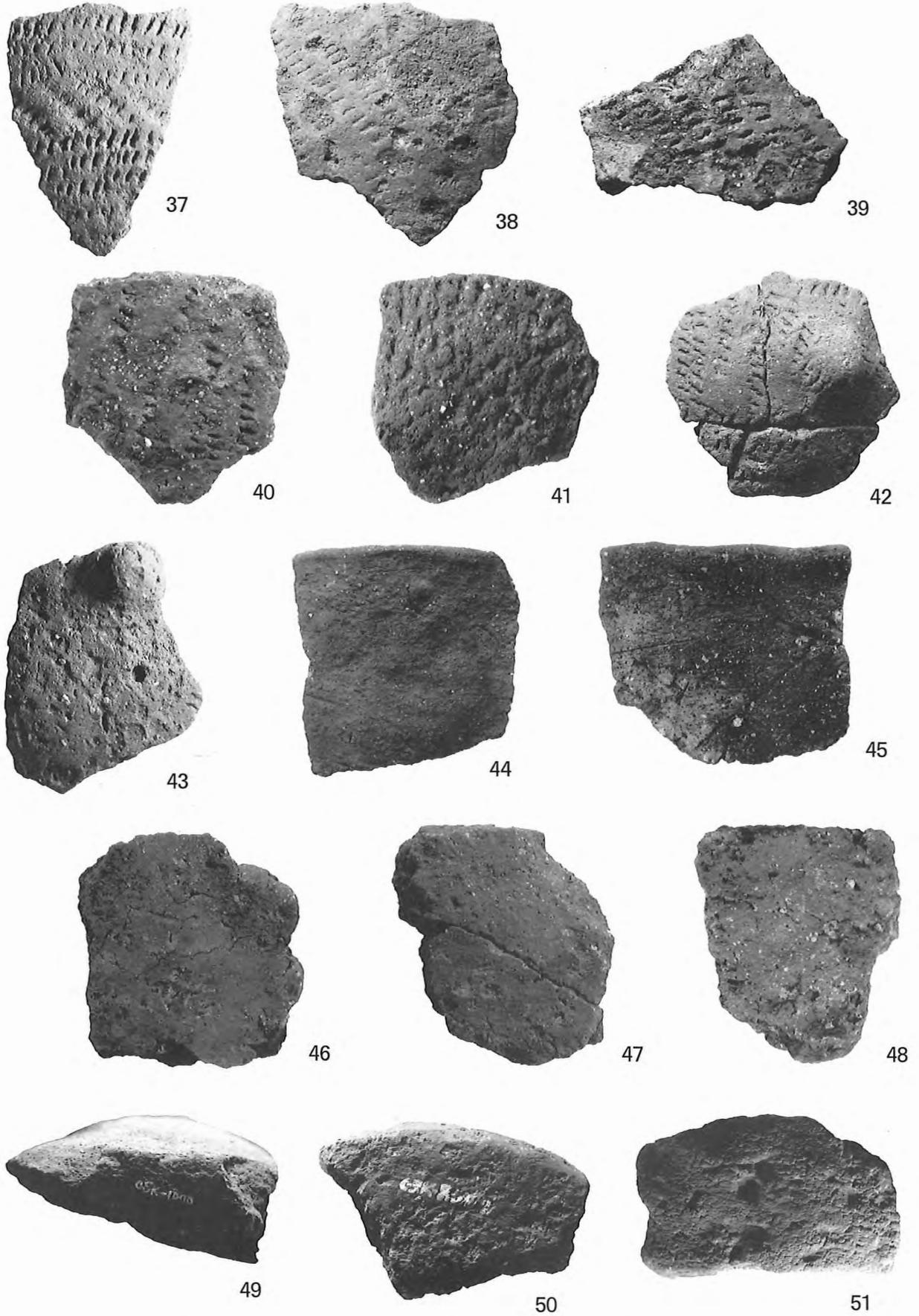


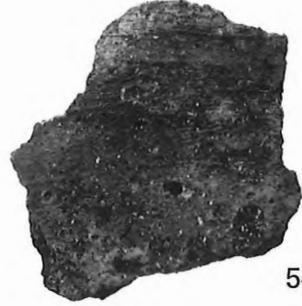
写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器④



52



53



54



55



56



57



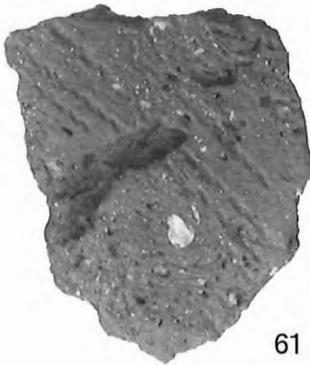
58



59



60



61



62



63

写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑤

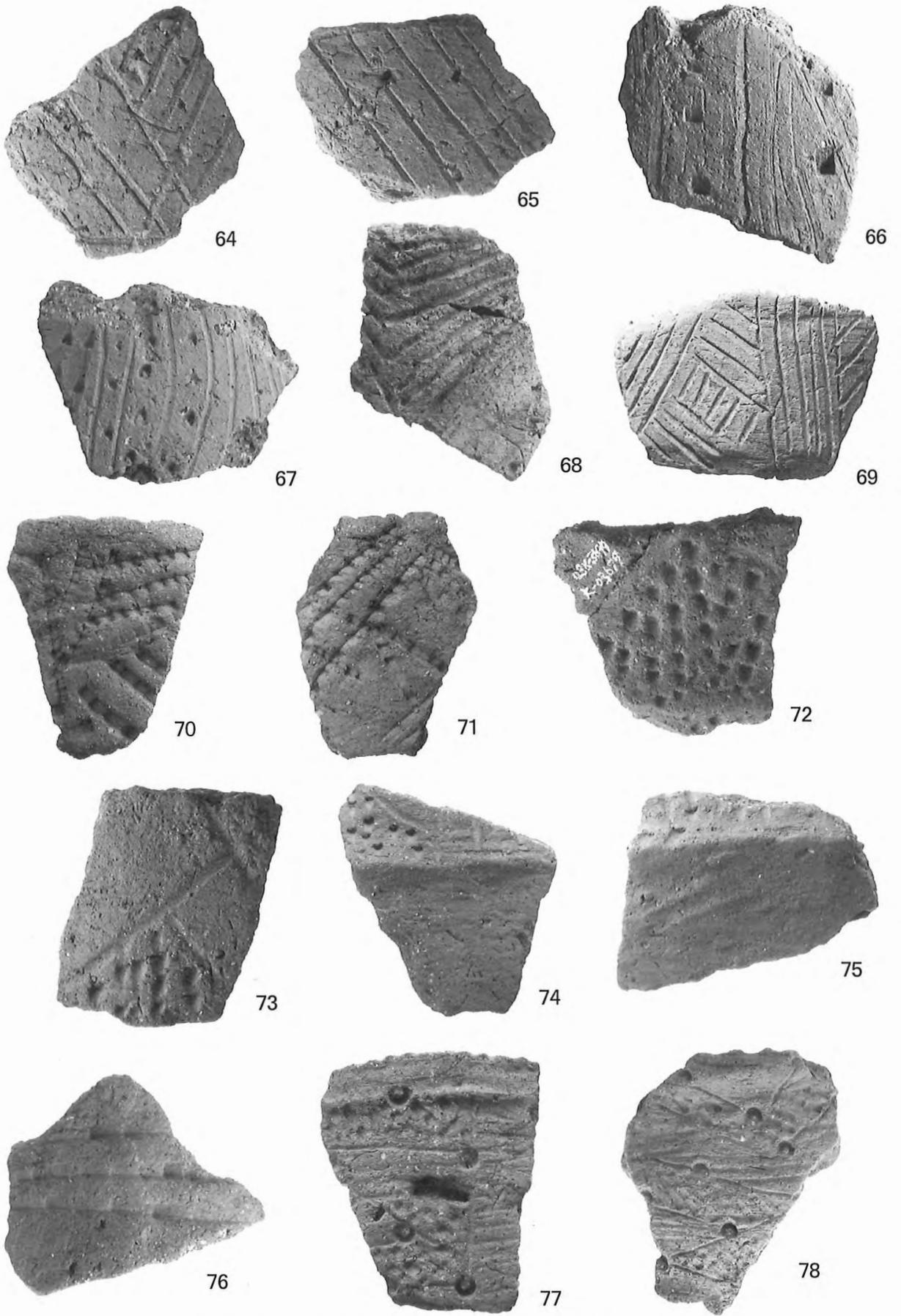


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑥

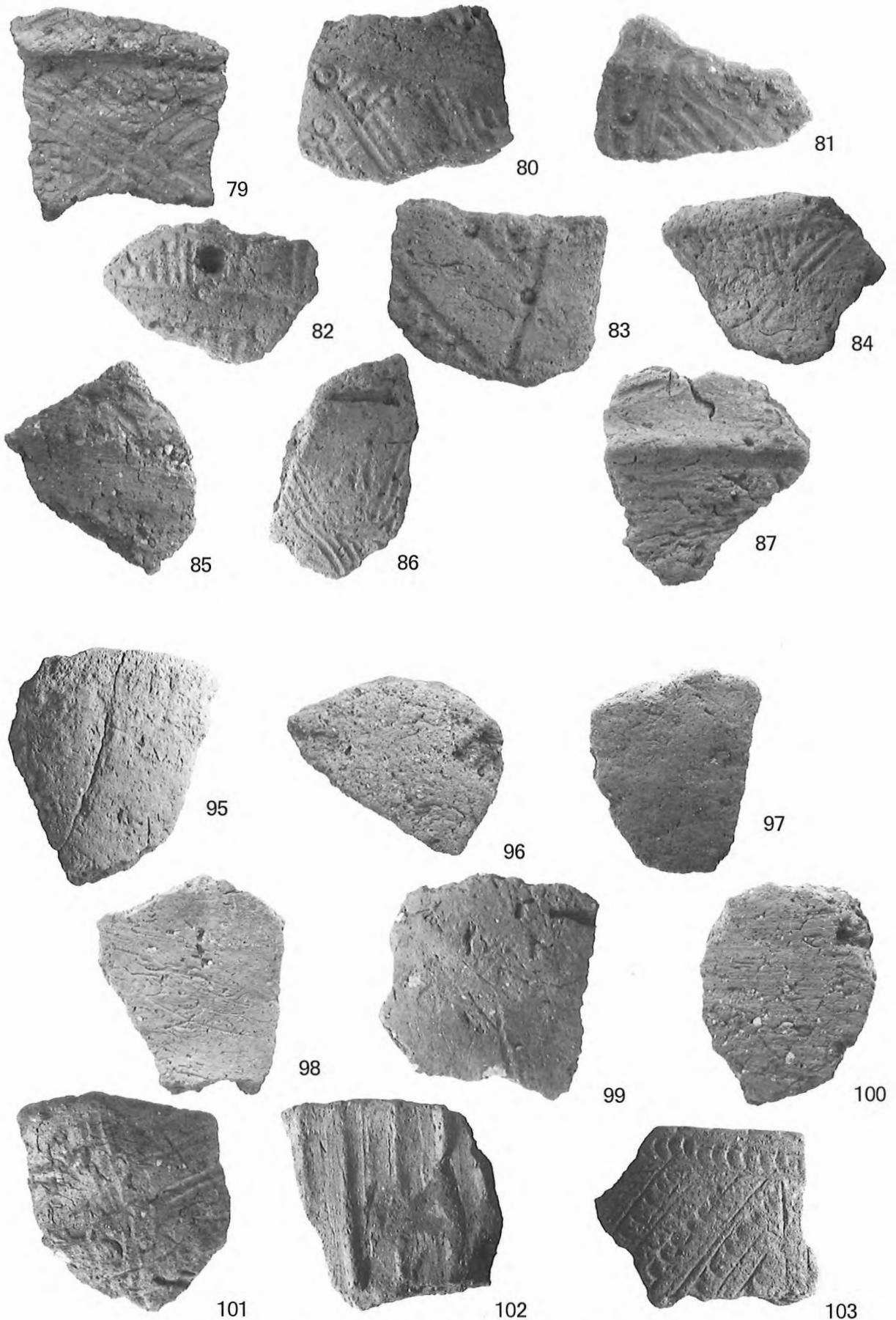


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑦



104



106

写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑧



01



02



03



04



05



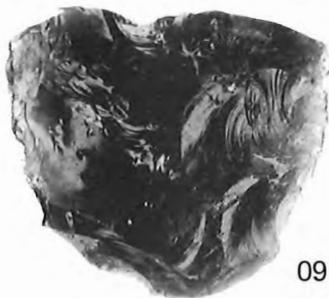
06



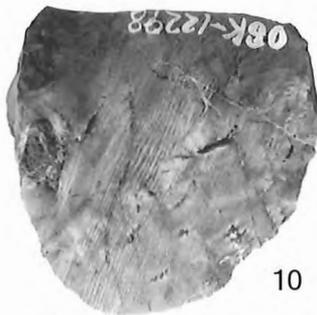
07



08



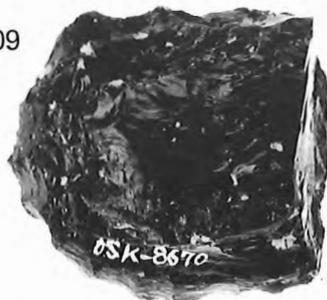
09



10



11



12



13

写真 18-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器①

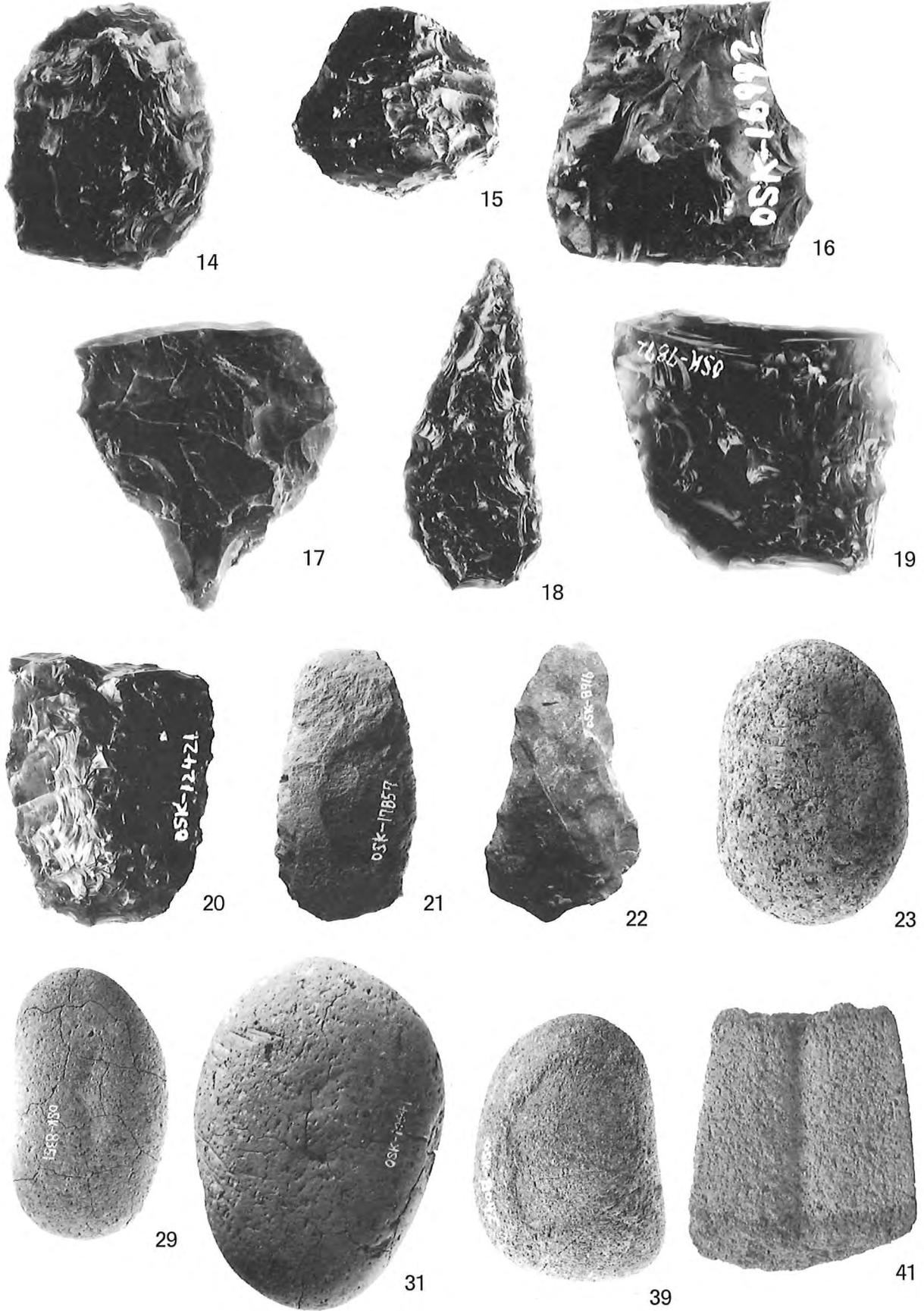


写真 18-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器②

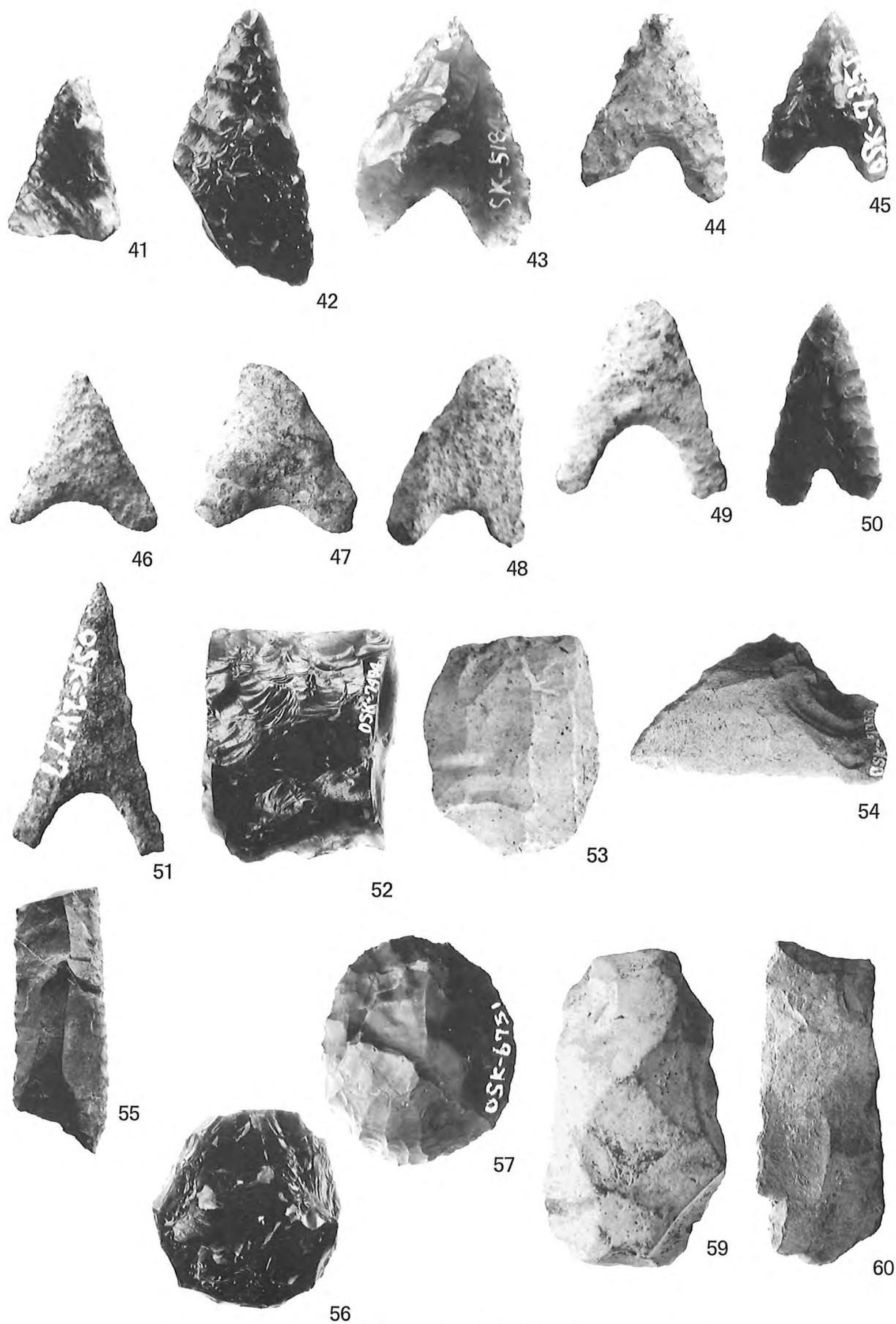


写真 18-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器③

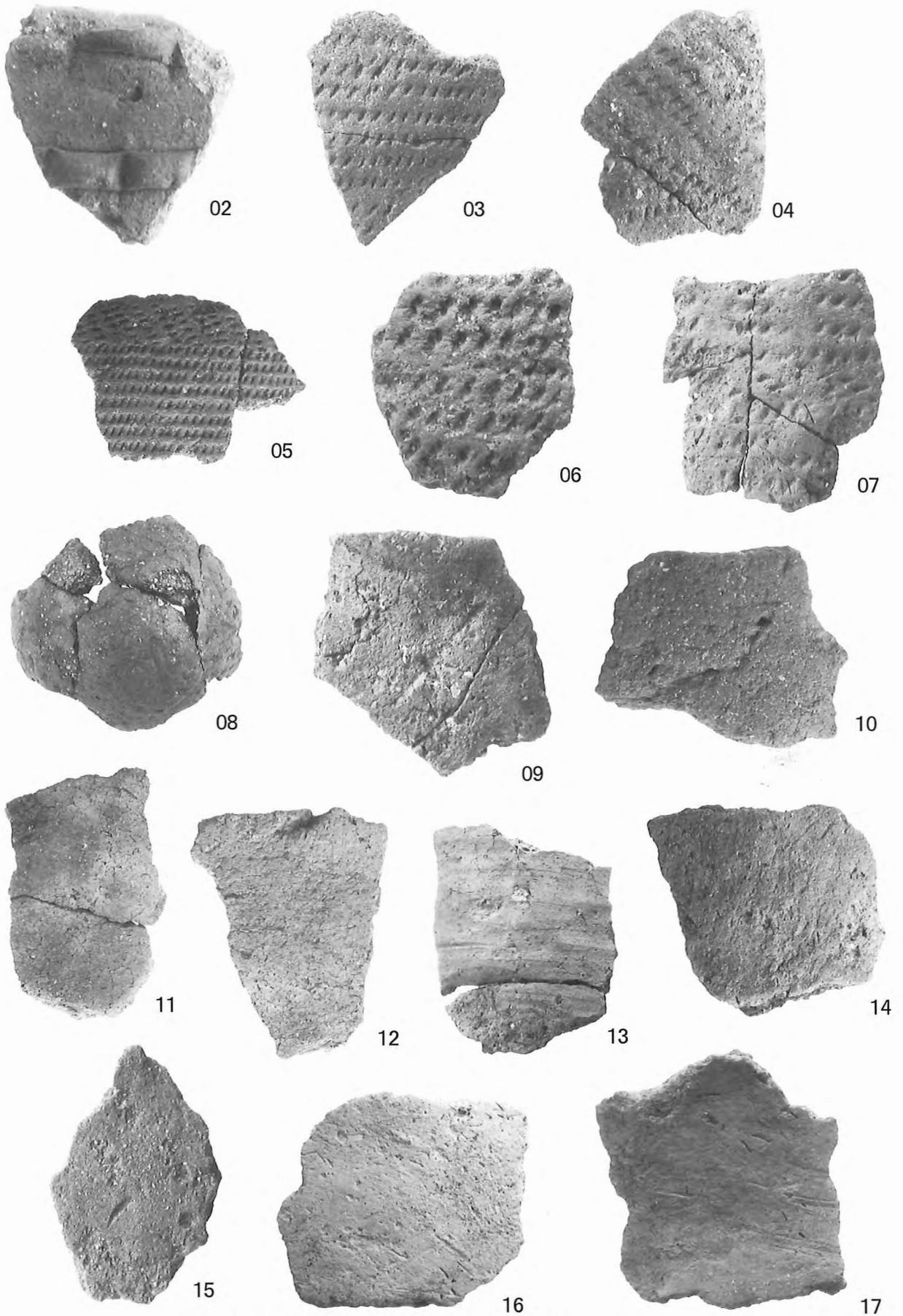


写真 19-1 3-2A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器①

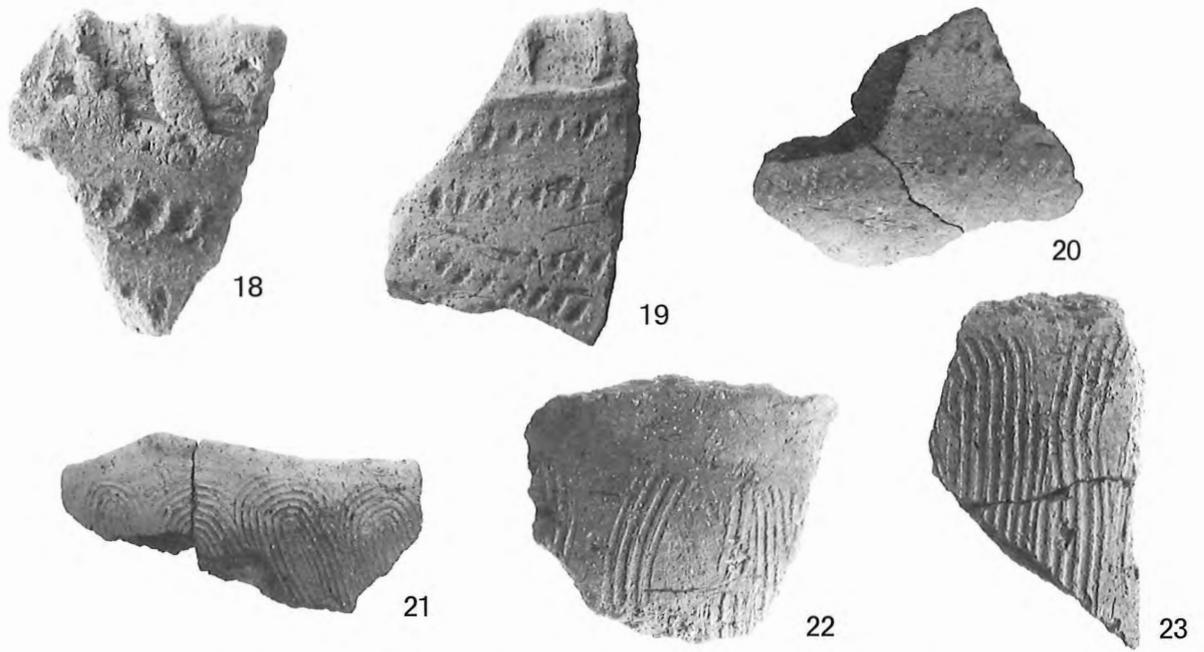


写真 19-1 3-2 A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器②

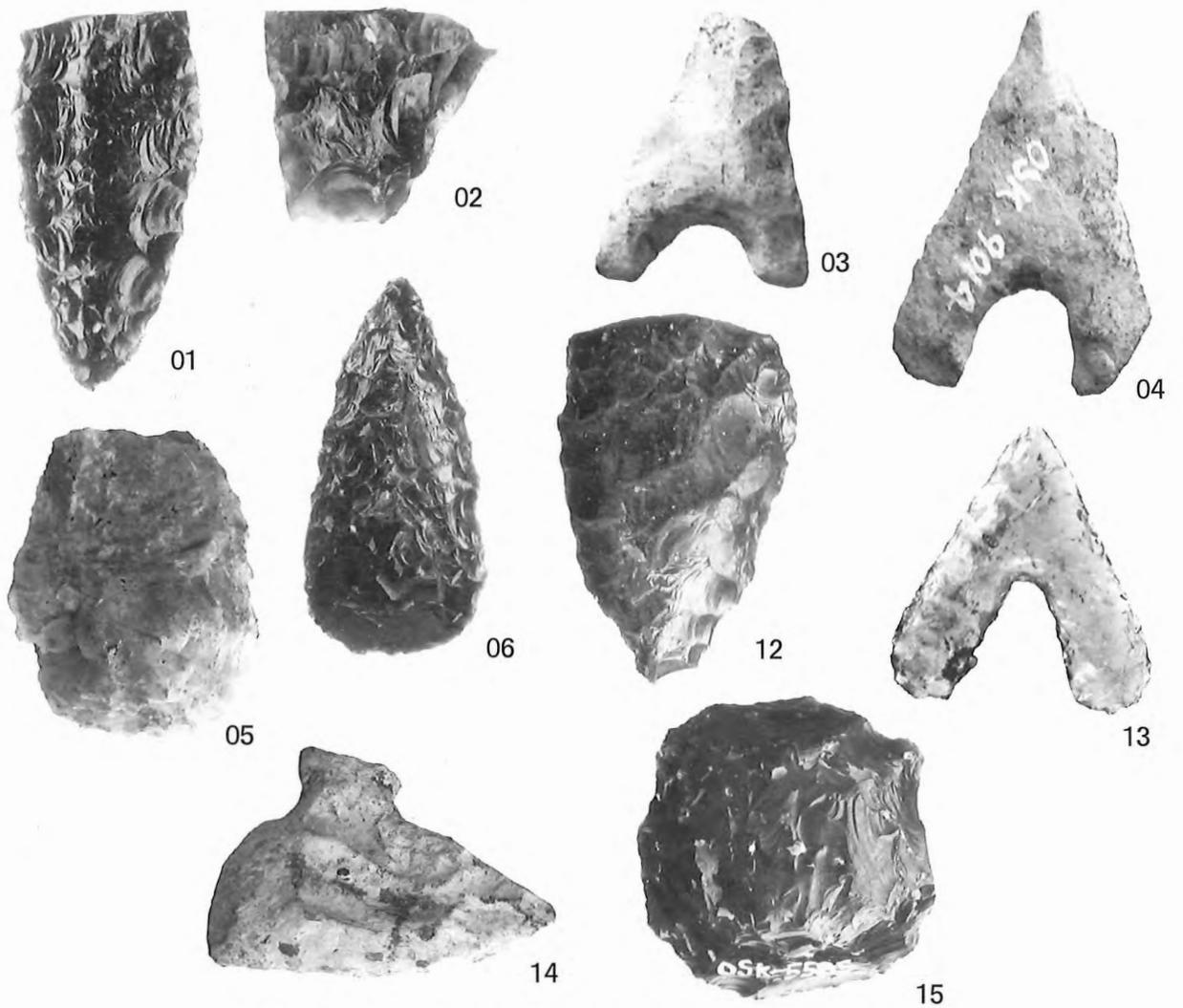


写真 19-2 3-2 A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

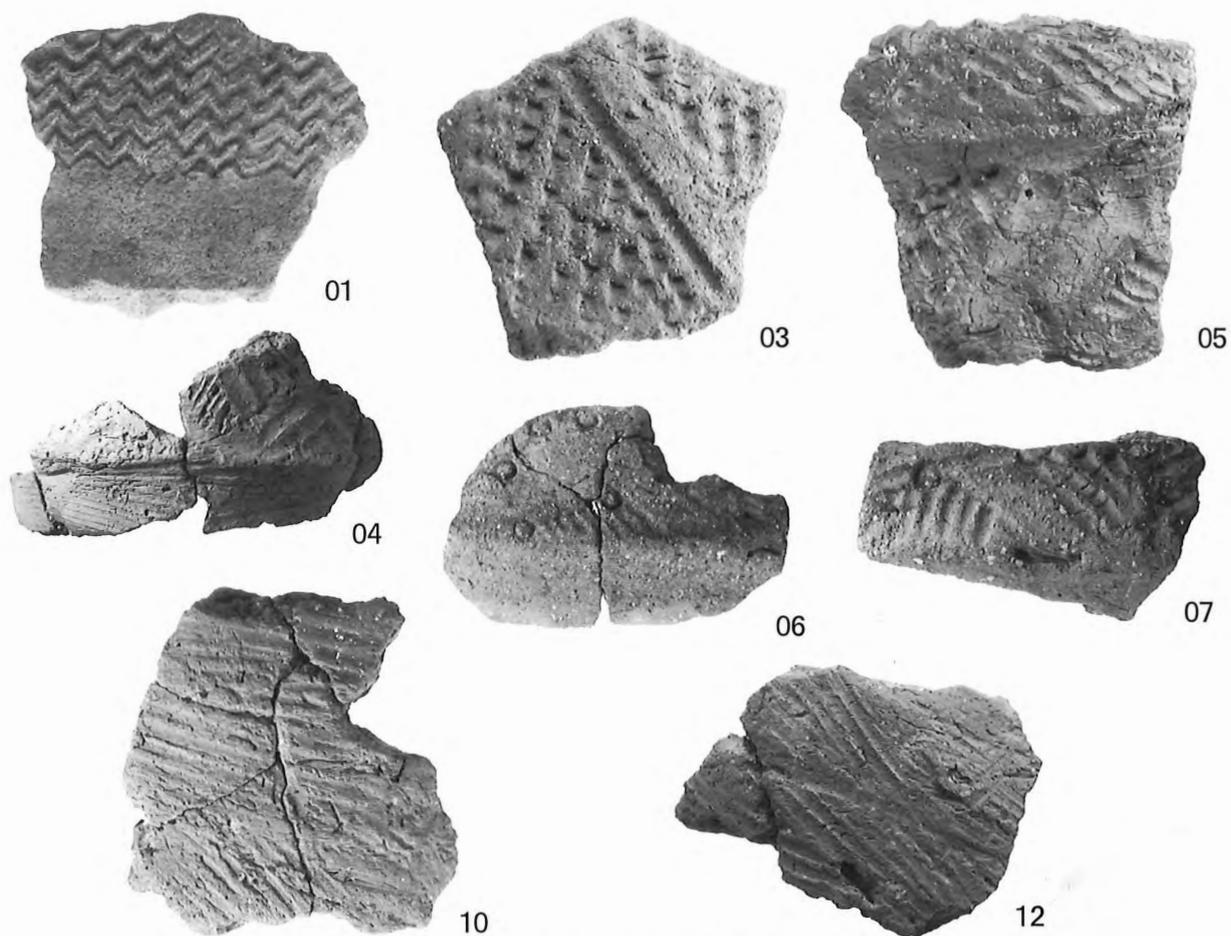


写真 20-1 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

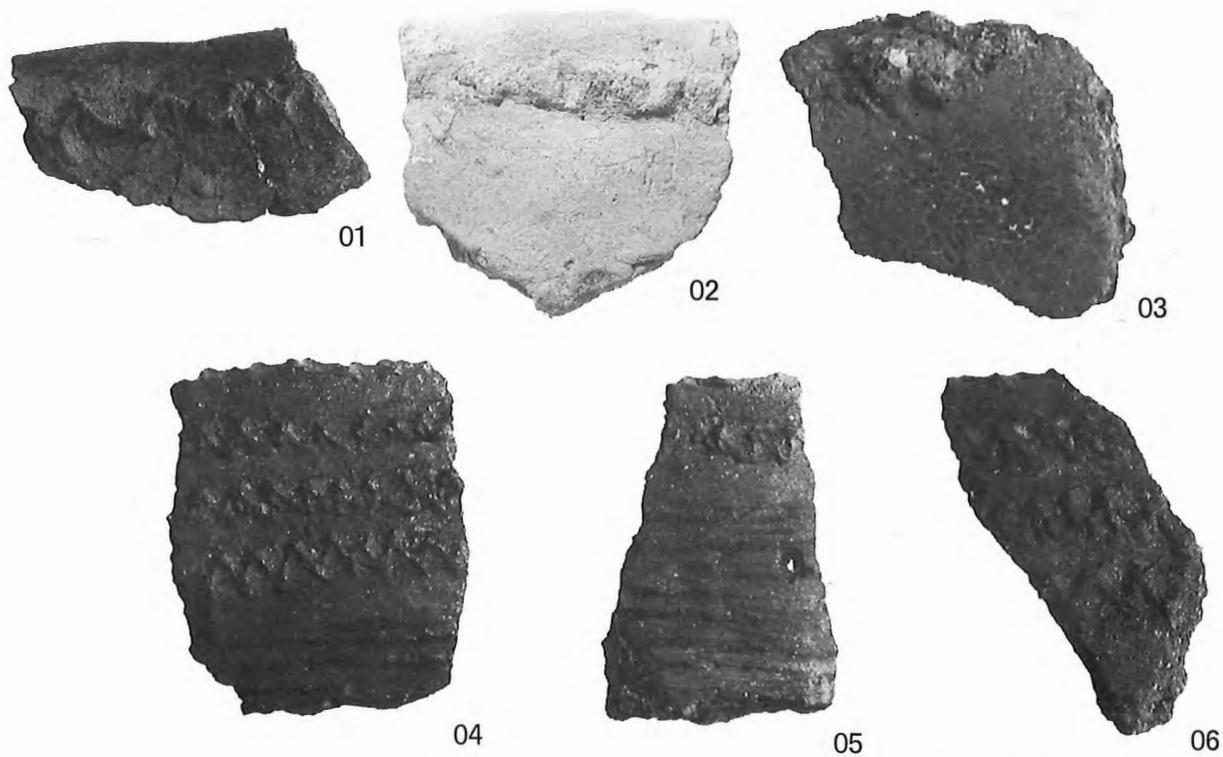


写真 21-1 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 土器①

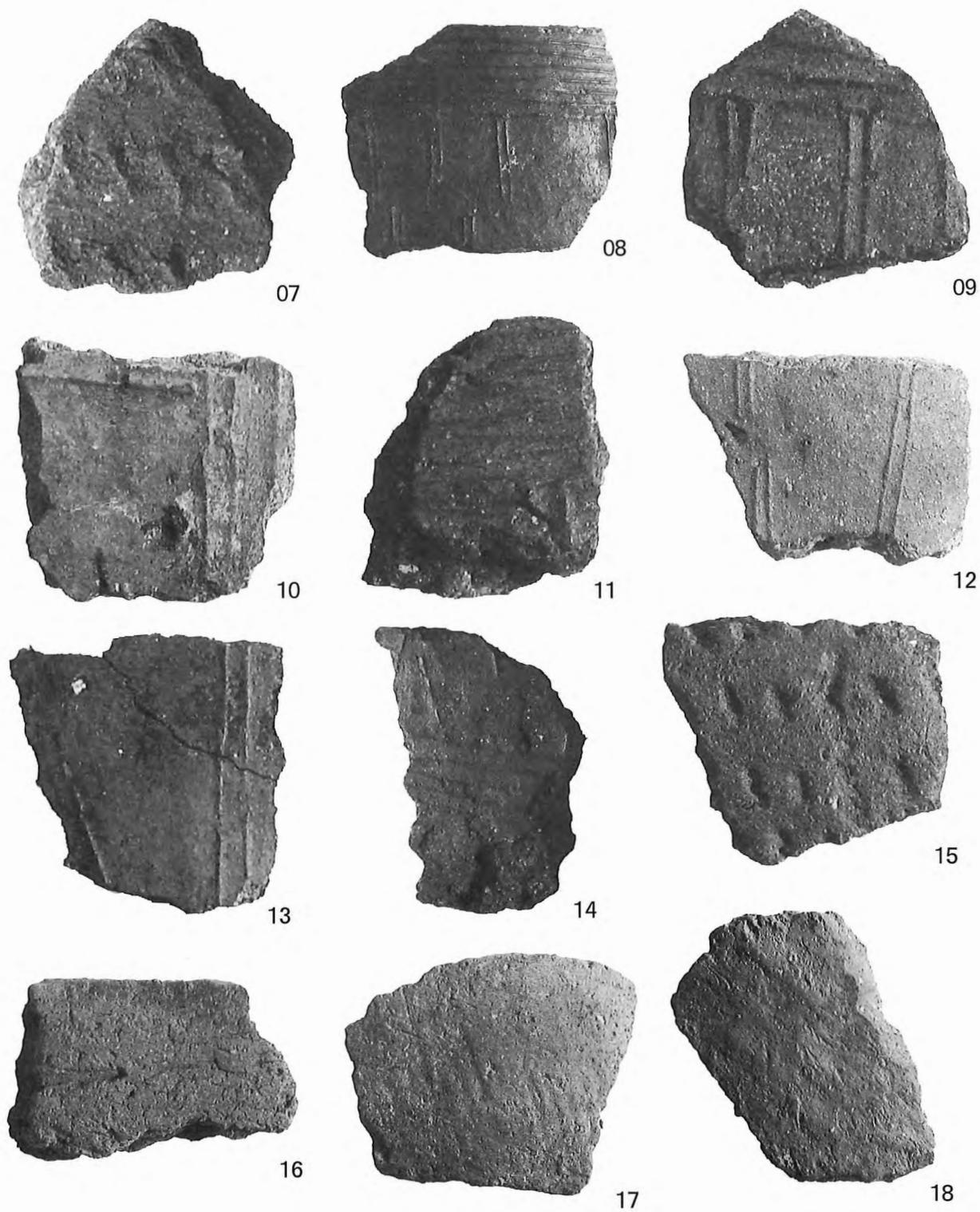


写真 21-1 3-3 C調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 土器②

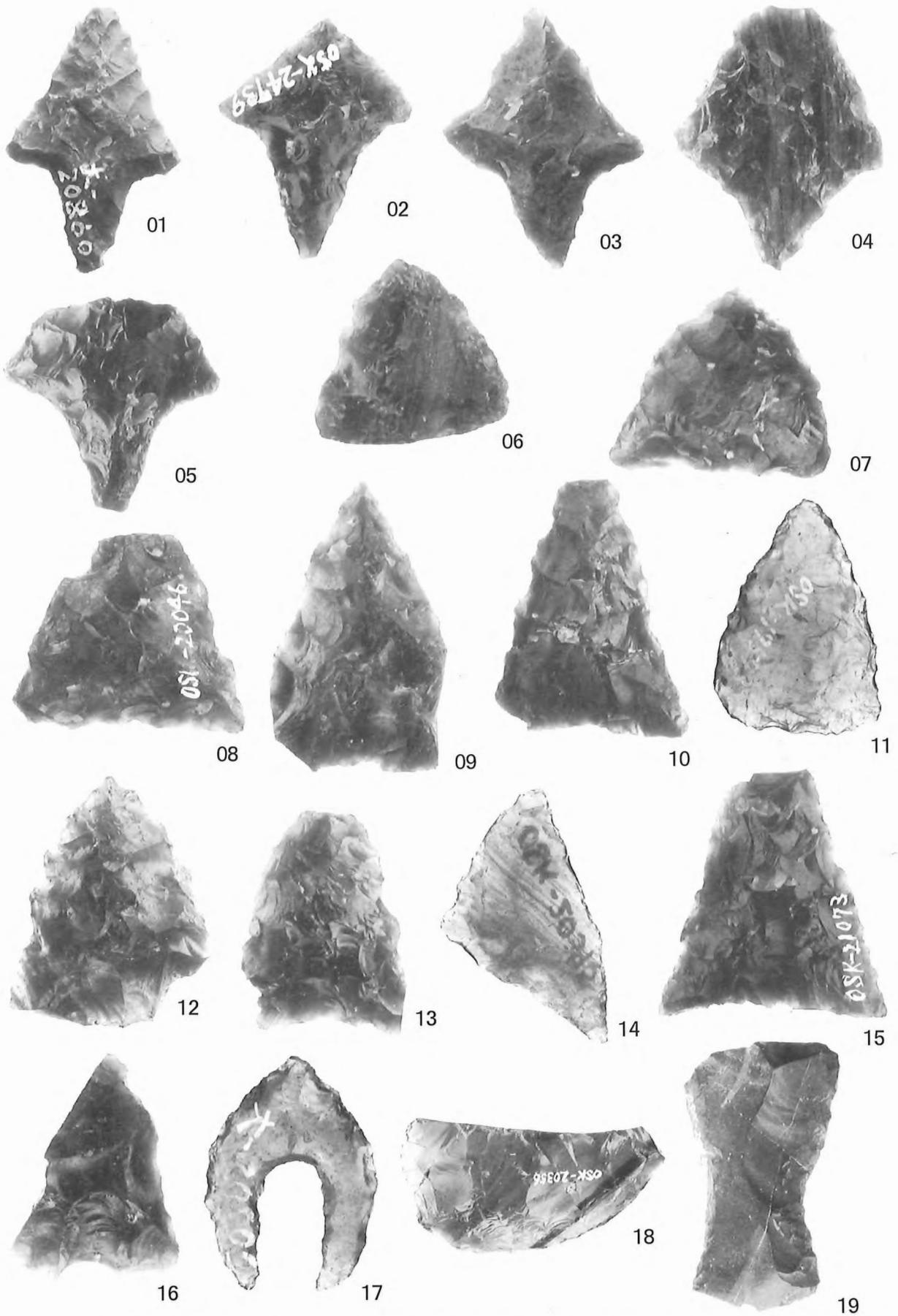


写真 21-2 3-3C 調査区 縄文時代草創期 10号 竪穴状遺構出土 石器①

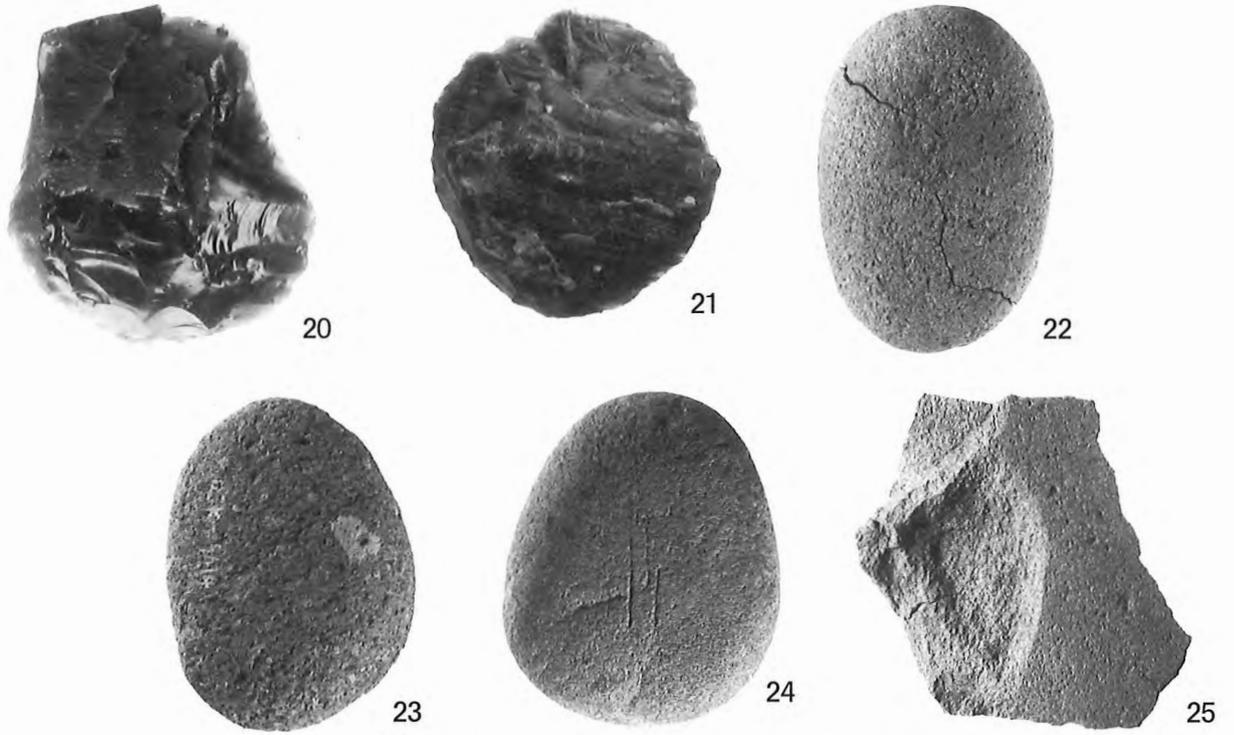


写真 21-2 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号竖穴状遺構出土 石器②

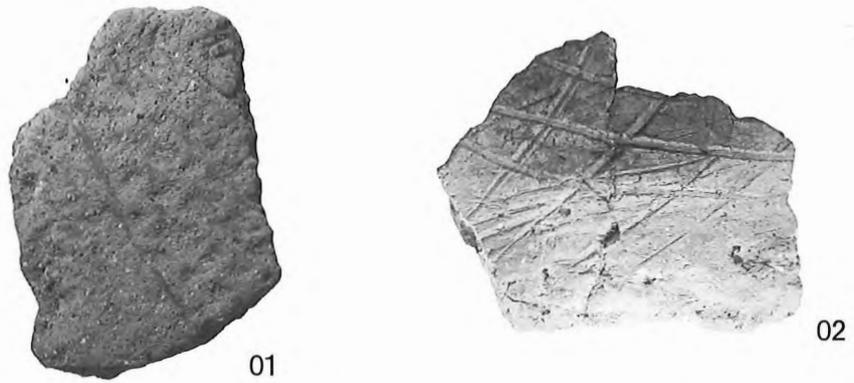


写真 22-1 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

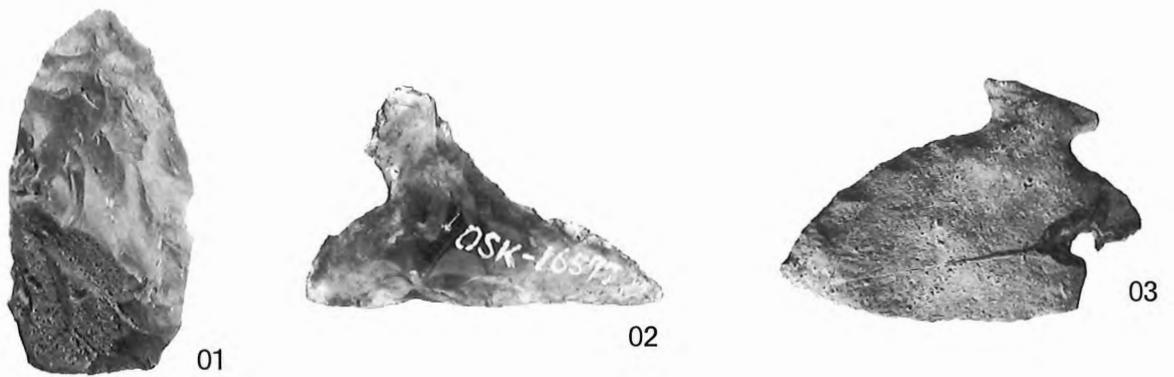


写真 22-2 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

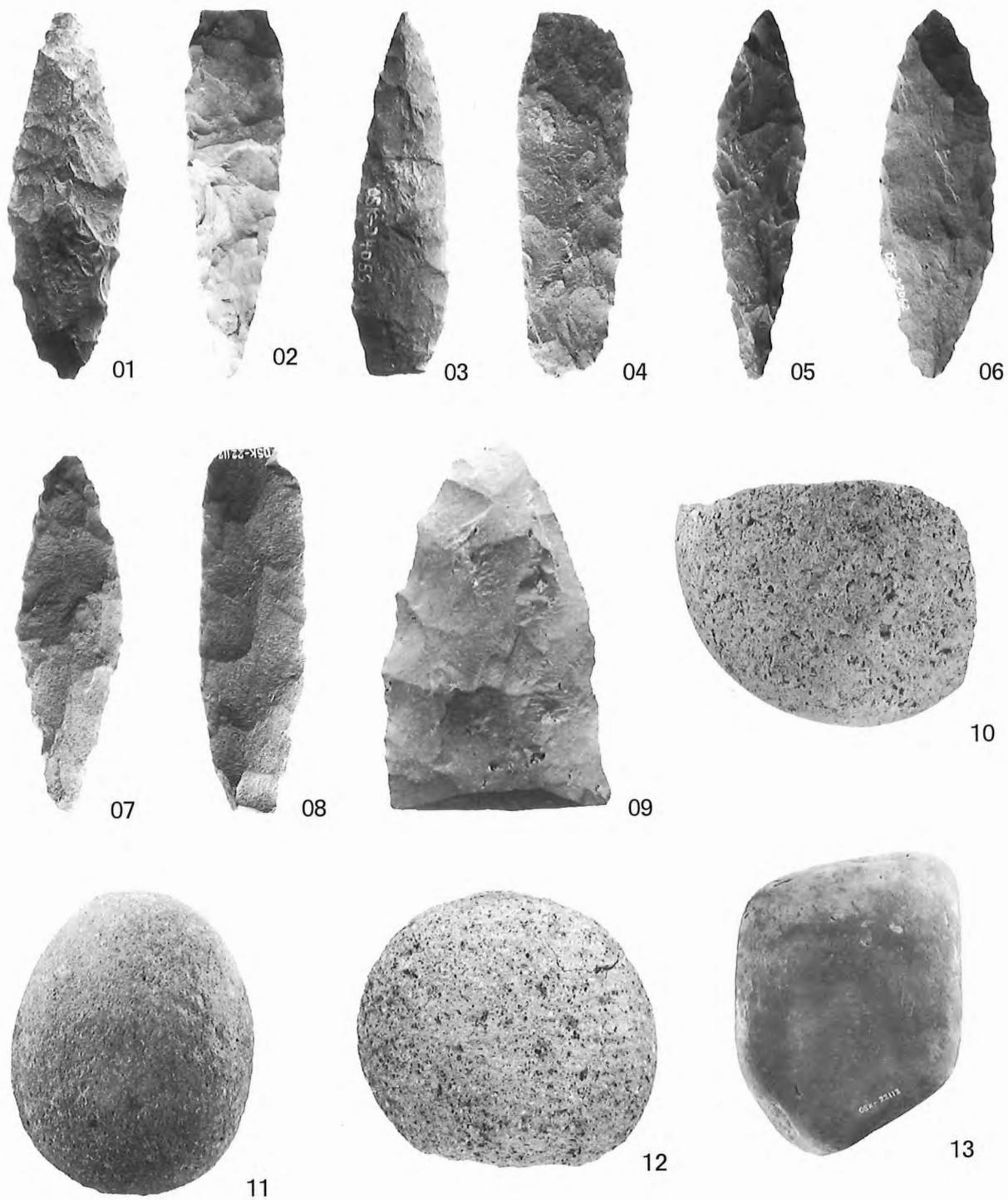


写真 23-1 3-3E調査区 縄文時代草創期 8号竪穴状遺構出土 石器

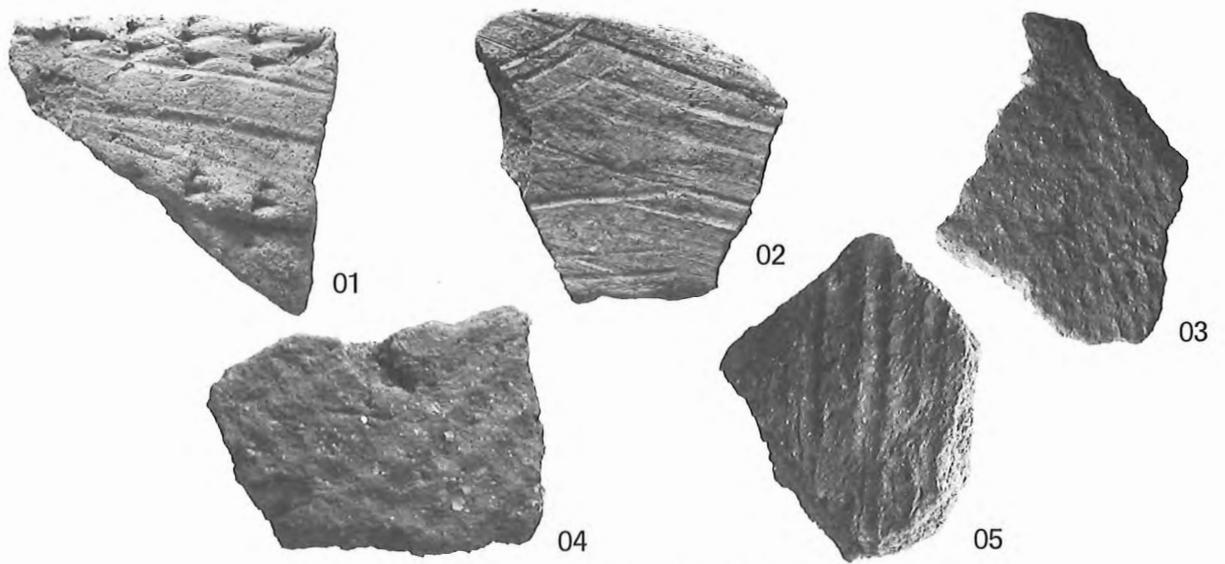


写真 24-1 3-3E調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

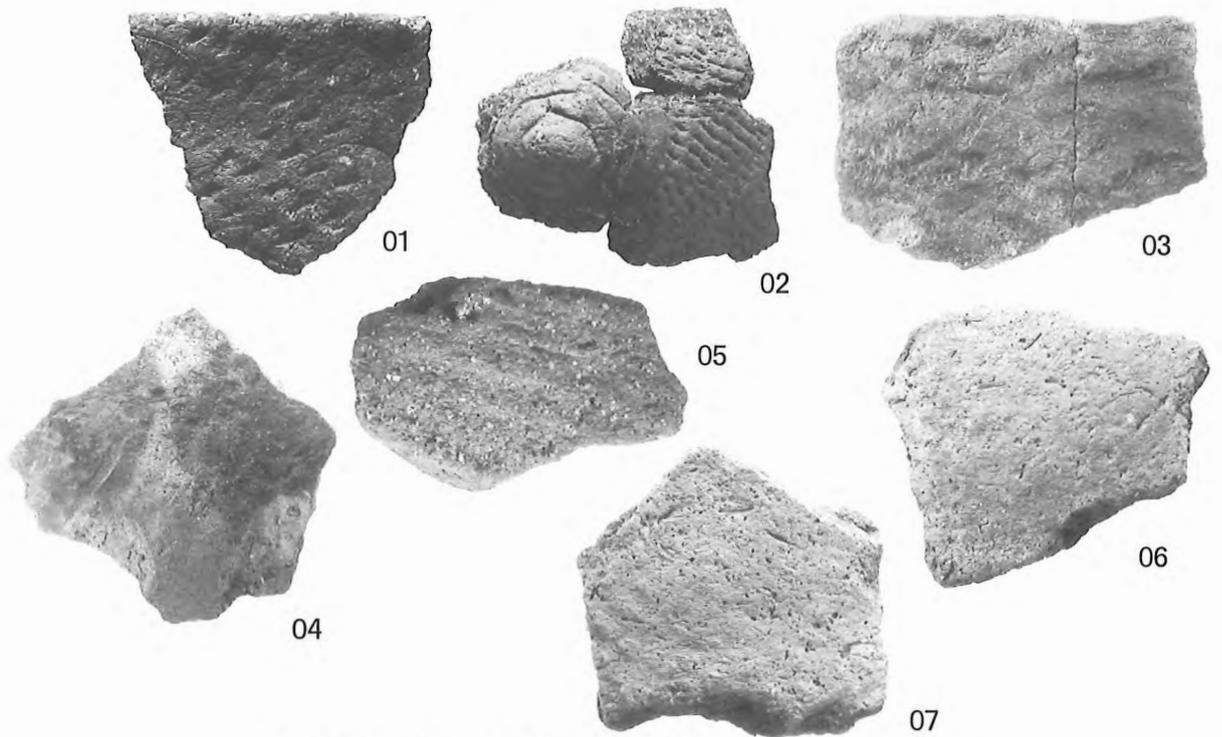


写真 25-1 3-4調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

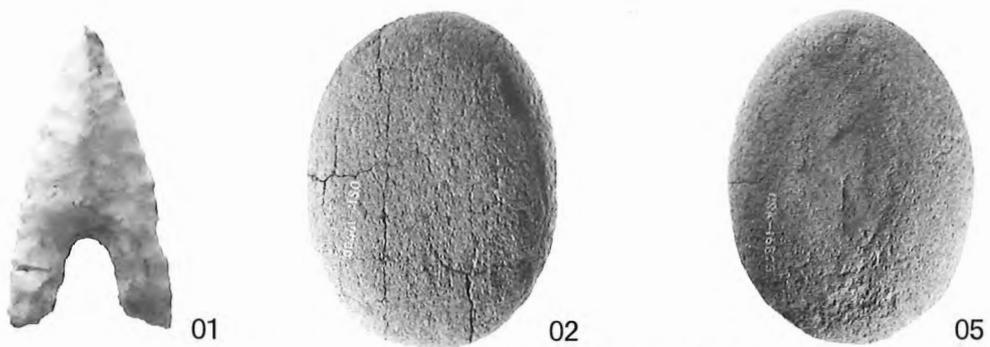


写真 25-2 3-4調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

附

編

## 大鹿窪遺跡出土黒曜石の原産地推定

池谷信之

### 1. はじめに

静岡東部は後期旧石器時代から縄文時代を通して黒曜石が石材の主要な位置を占めている。周辺地域の縄文時草創期は非黒曜石が石材の主体となることが多く、大鹿窪遺跡出土石器の原産地推定は、当該期の貴重なデータを提供することになる。

分析資料の選定についての調査担当者との打ち合わせでは、黒曜石出土状況の良好な住居址の全点と草創期の石器全点について原産地推定を行うという方針が確認されが、整理作業期間が限定されていたこと、また石器の実測が委託に出されていたこともあり、必ずしもその方針は徹底されていない。

調査担当者から提供された資料は、SB3001 から抽出された黒曜石製石器（石片）19点、SB3010 から抽出された黒曜石製石器（主として石片）142点、石器製品57点である。SB3001は葛原沢(鬘)式段階（池谷2003）、SB3010は葛原沢(袴)式（隆帯文段階）に後続する隆線文段階に比定される。また石器製品については、遺構・包含層出土のものが含まれているが、推定結果の表中にその帰属を示した。

### 2. 分析方法

#### a. 産地推定法

黒曜石の産地推定には幾つかの化学的方法が実用化されている。中でも蛍光X線分析法は、試料を破壊せずに、比較的短時間に、しかも低いコストで分析が行えるという利点を持っている。その原理と方法については望月明彦や筆者による紹介が複数あるので（望月1998）、ここでは重複を避けるが、筆者と望月の提唱する「全点分析」は、試料の破壊を伴ったり、コストがより高くなる他の分析法では事実上不可能であり、蛍光X線分析法の利点を活かした分析の方向性といえることができる。

分析に用いた装置はセイコー電子工業社（現 SII ナノテクノロジー社）製エネルギー分散蛍光X線装置 SEA-2110 である。この分析装置は2003年に筆者が個人的に購入したものであるが、望月研究室のものと同型であり、望月の指導と協力を得て実際の分析作業も行われている。したがって測定条件やその後の測定値の統計処理についてもまったく方法がとられている。

測定条件を次に示す。

電 圧：50kV

電 流：2 - 36  $\mu$  A

照 射 径：10mm

測定時間：産地試料 500sec

遺跡出土試料 300sec

雰 囲 気：真空

計測しれた元素は以下の11元素である。

アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)

一般の蛍光X線分析法ではファンダメンタル・パラメータ法 (FP法) と呼ばれる計算法で算出された重量%を用いる場合がある。しかしFP法は試料（出土黒曜石）の形状や厚さによる影響を受けやすく、強度比を用いた時よりもグラフ上での分散が大きくなる傾向がある。また産地の違いを最もよく示すのはルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の4つの元

素であるが、これらは他の元素に比べれば微量で、F P法が求めた重量%の数値にほとんど差の出ない場合がある。こうした理由から、ここでは分析装置が計数した強度をそのまま用いる。

得られた元素の強度を用いて以下の2つの方法によって産地を決定している。

#### ①判別図法（図による産地推定）

測定の結果得られる各元素の蛍光X線強度から次のような産地推定のための4つの指標を計算する。

指標1  $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$

指標2  $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$

指標3  $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$

指標4  $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

指標1・2と指標3・4をそれぞれX軸とY軸とした2つの判別図を作成し、原産地黒曜石の散布域と遺跡出土黒曜石の照合によって産地を決定する。

#### ②判別分析（多変量解析による産地推定）

判別図法による産地推定結果を検証するために、多変量解析の一手法である判別分析を行っている。判別図法による産地の推定は、縦軸と横軸の2次元で行われるが、数学的には3次元以上でも原産地黒曜石からの距離を計算することが可能である。判別分析では遺跡出土の試料1点ごとに、各原産地との距離（マハラノビス距離と呼ばれる）を計算し、試料との距離がもっとも小さい産地がその試料の産地であると推定される。またそれぞれの産地とのマハラノビス距離から、試料が各原産地に属する確率も計算され、その数値が1に近いほど推定結果の信頼性は高くなる。

推定結果の表では紙数の関係から推定候補の第2位までのマハラノビス距離と確率を示している。判別図法で原産地黒曜石の散布域内にあり、かつ確率が0.9以上であることを条件に最終的な推定産地を決定している。この条件を満たさない場合には、試料の洗浄をやり直したり、部位を変えて再測定を行う。それでもこの条件満たない場合は「測定不可」として扱った。

#### b. 原産地黒曜石の測定

推定の基準試料となる原産地黒曜石については、以下の産地の原石を測定している。

高原山エリア：桜沢

和田（WD）エリア：芙蓉ライト・丁子御領・鷹山・小深沢・東餅屋土屋橋・土屋橋北（3地点）  
土屋橋東（2地点）・土屋橋西・土屋橋南・鷲ヶ峰・ウツギ沢・古峠

和田（WO）エリア：ブドウ沢・牧ヶ沢下・牧ヶ沢上・高松沢・本沢下

諏訪エリア：星ヶ台・星ヶ塔・水月霊園

蓼科エリア：麦草峠・麦草峠東・渋ノ湯・冷山・双子池

箱根エリア：芦ノ湯・畑宿・黒岩橋・甘酒橋・鍛冶屋・上多賀

天城エリア：柏峠

神津島エリア：恩馳島・長浜・沢尻・砂糠崎

これらの原石については、芙蓉ライト・双子池の一部の試料を除き、すべて筆者の手によって採取されたものである。試料の借用にとまらぬ原石の混在を防ぐ目的もあるが、特に和田峠周辺では原石の散布域と遺跡が重複することがあり、人為的に持ちこまれた石器や原石を「原産地黒曜石」としてサンプリングする可能性をはらんでいる。信頼できる原産地データをえるためには、原産地の産状と原石の外観に注意しながら慎重に採取する必要がある。

また関東・中部以外の原石は測定していない。しかし同じ機器・測定法を用いているため、原石群の位置は望月による判別図とほぼ相似の関係にプロットされている。したがって筆者の判別図の原産地群から外れる（原産地不明な）遺跡出土資料に遭遇した場合でも、望月の判別図を参照することで原産地

を推測することは可能である。

### 3. 分析結果

SB3001・SB3010・石器製品のそれぞれについて、「判別図」「推定結果」「集計表」を示した。葛原沢Ⅱ式段階（押圧縄文）のSB3001では、分析できた18点中16点が神津島恩馳産という結果であり、葛原沢遺跡第1号住居址出土石器の分析で得られた結果（望月・池谷2001）と協調的なあり方が確認された。葛原沢遺跡の分析では葛原沢Ⅰ式段階（隆帯文段階）に諏訪星ヶ台産黒曜石が増加する傾向が認められたが、葛原沢Ⅰ式に後続する本遺跡のSB3010（隆線文段階）では天城柏峠産黒曜石が86%を占めていた。

愛鷹・箱根山麓周辺では細石器段階に神津島恩馳産が主体となり（池谷・望月1998）、その傾向は縄文時代中期末まで継続するが、SB3010の分析結果は草創期において一時的に他の産地が増加する可能性を示している。

### 参考文献

池谷信之・望月明彦 1998 「愛鷹山麓における石材組成の変遷」静岡県考古学研究 30

望月明彦 1998 「黒曜石の原産地を推定する 蛍光X線分析法」

『文化財を探る科学の眼2 石器・土器・装飾品を探る』国土社

望月明彦・池谷信之 2001 「葛原沢第Ⅳ遺跡出土草創期石器の黒曜石原産地推定」

『葛原沢第Ⅳ遺跡（a・b区）発掘調査報告書1』沼津市文化財調査報告 77

池谷信之 2003 「本州島中部の様相－東海地方の隆帯文土器と列島南岸－」季刊考古学 83号 雄山閣

大鹿窪 SB3001 推定結果集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	1	5.6
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	1	5.6
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	16	88.9
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			18	100

不可	1	
総計	19	

大鹿窪 SB3001 推定結果

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SB3001・001	14858	KZOB	KZOB	KZOB	8.88	1.00	KZSN	20.06	0.00
SB3001・002	14860	SWHD	SWHD	SWHD	0.69	1.00	WDTN	76.50	0.00
SB3001・003	16009	不可	不可	KZOB	3.75	1.00	KZSN	25.77	0.00
SB3001・004	16017	KZOB	KZOB	KZOB	24.31	1.00	WOMS	36.19	0.00
SB3001・005	16028	KZOB	KZOB	KZOB	6.58	1.00	KZSN	32.64	0.00
SB3001・006	16040	KZOB	KZOB	KZOB	0.54	1.00	KZSN	21.92	0.00
SB3001・007	17902	KZOB	KZOB	KZOB	2.02	1.00	KZSN	26.92	0.00
SB3001・008	19057	KZOB	KZOB	KZOB	6.64	1.00	KZSN	25.85	0.00
SB3001・009	20024	KZOB	KZOB	KZOB	9.51	1.00	KZSN	24.83	0.00
SB3001・010	20031	KZOB	KZOB	KZOB	0.18	1.00	KZSN	25.27	0.00
SB3001・011	20034	KZOB	KZOB	KZOB	2.74	1.00	KZSN	19.37	0.00
SB3001・012	20284	AGKT	AGKT	AGKT	4.86	1.00	HNKT	57.49	0.00
SB3001・013	23595	KZOB	KZOB	KZOB	9.61	1.00	KZSN	29.10	0.00
SB3001・014	24557	KZOB	KZOB	KZOB	0.32	1.00	KZSN	22.39	0.00
SB3001・015	25074	KZOB	KZOB	KZOB	9.79	1.00	KZSN	29.98	0.00
SB3001・016	25157	KZOB	KZOB	KZOB	1.77	1.00	KZSN	28.10	0.00
SB3001・017	25449	KZOB	KZOB	KZOB	2.61	1.00	KZSN	23.35	0.00
SB3001・018	25490	KZOB	KZOB	KZOB	1.00	1.00	KZSN	21.11	0.00
SB3001・020	25801	KZOB	KZOB	KZOB	4.89	1.00	KZSN	15.60	0.00



大鹿窪 SB3010 推定結果集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	1	0.9
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	5	4.3
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	100	86.2
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	10	8.6
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			116	100

不可	26	
総計	142	

大鹿窪 SB3010 推定結果

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SB3010・1001	14327	AGKT	AGKT	AGKT	3.09	1.00	HNKT	72.86	0.00
SB3010・1002	14331	WDTY	WDTY	WDTY	3.86	1.00	WDBB	20.82	0.00
SB3010・1003	14334	AGKT	AGKT	AGKT	3.71	1.00	HNKT	64.65	0.00
SB3010・1004	14337	AGKT	AGKT	AGKT	4.31	1.00	HNKT	65.07	0.00
SB3010・1005	14344	AGKT	AGKT	AGKT	2.88	1.00	HNKT	72.13	0.00
SB3010・1007	14352	AGKT	AGKT	AGKT	23.61	1.00	HNKT	94.02	0.00
SB3010・1008	14353	AGKT	AGKT	AGKT	9.15	1.00	HNKT	97.12	0.00
SB3010・1009	14379	AGKT	AGKT	AGKT	3.50	1.00	HNKT	62.90	0.00
SB3010・1010	14381	SWHD	SWHD	SWHD	3.75	1.00	WDTN	65.62	0.00
SB3010・1011	14382	不可	不可	AGKT	21.65	1.00	HNKT	113.04	0.00
SB3010・1012	14384	AGKT	AGKT	AGKT	4.02	1.00	HNKT	71.23	0.00
SB3010・1013	14387	AGKT	AGKT	AGKT	6.72	1.00	HNKT	72.21	0.00
SB3010・1015	14391	不可	不可	AGKT	16.21	1.00	HNKT	102.05	0.00
SB3010・1016	14392	AGKT	AGKT	AGKT	5.91	1.00	HNKT	54.06	0.00
SB3010・1017	15731	AGKT	AGKT	AGKT	5.08	1.00	HNKT	68.08	0.00
SB3010・1019	15776	AGKT	AGKT	AGKT	9.73	1.00	HNKT	96.43	0.00
SB3010・1020	15777	不可	不可	AGKT	11.99	1.00	HNKT	94.15	0.00
SB3010・1021	15788	不可	不可	AGKT	23.06	1.00	HNKT	90.80	0.00
SB3010・1022	15789	SWHD	SWHD	SWHD	2.11	1.00	WDTN	70.58	0.00
SB3010・1023	15795	AGKT	AGKT	AGKT	1.67	1.00	HNKT	62.37	0.00
SB3010・1024	15826	AGKT	AGKT	AGKT	7.09	1.00	HNKT	64.34	0.00
SB3010・1025	15831	AGKT	AGKT	AGKT	5.01	1.00	HNKT	79.35	0.00
SB3010・1026	15833	AGKT	AGKT	AGKT	7.81	1.00	HNKT	91.75	0.00
SB3010・1027	16735	不可	不可	AGKT	15.99	1.00	HNKT	83.28	0.00
SB3010・1028	16762	AGKT	AGKT	AGKT	2.20	1.00	HNKT	59.07	0.00
SB3010・1029	16765	AGKT	AGKT	AGKT	4.52	1.00	HNKT	55.08	0.00
SB3010・1030	16790	不可	不可	AGKT	40.61	1.00	HNKT	120.10	0.00
SB3010・1031	16792	不可	不可	AGKT	24.74	1.00	HNKT	117.47	0.00
SB3010・1032	17137	不可	不可	AGKT	16.08	1.00	HNKT	89.47	0.00
SB3010・1033	18605	AGKT	AGKT	AGKT	10.77	1.00	HNKT	102.42	0.00
SB3010・1034	18631	AGKT	AGKT	AGKT	10.43	1.00	HNKT	87.64	0.00
SB3010・1035	18723	AGKT	AGKT	AGKT	7.76	1.00	HNKT	58.31	0.00
SB3010・1036	18735	SWHD	SWHD	SWHD	5.16	1.00	WDTN	41.05	0.00
SB3010・1037	18736	AGKT	AGKT	AGKT	16.69	1.00	HNKT	89.81	0.00
SB3010・1038	18768	AGKT	AGKT	AGKT	17.16	1.00	HNKT	57.29	0.00
SB3010・1040	18777	AGKT	AGKT	AGKT	9.17	1.00	HNKT	75.97	0.00
SB3010・1041	19349	KZOB	KZOB	KZOB	7.56	1.00	KZSN	38.03	0.00
SB3010・1042	19350	AGKT	AGKT	AGKT	2.68	1.00	HNKT	69.63	0.00
SB3010・1043	19351	不可	不可	AGKT	19.53	1.00	HNKT	93.14	0.00
SB3010・1044	19352	AGKT	AGKT	AGKT	5.41	1.00	HNKT	74.25	0.00
SB3010・1045	19353	不可	不可	AGKT	20.60	1.00	HNKT	104.74	0.00
SB3010・1046	19355	KZOB	KZOB	KZOB	2.86	1.00	KZSN	20.87	0.00
SB3010・1047	19357	AGKT	AGKT	AGKT	6.75	1.00	HNKT	77.79	0.00
SB3010・1048	19358	AGKT	AGKT	AGKT	4.44	1.00	HNKT	65.47	0.00
SB3010・1049	19366	不可	不可	AGKT	6.48	1.00	HNKT	76.76	0.00
SB3010・1050	19367	不可	不可	AGKT	10.44	1.00	HNKT	74.52	0.00
SB3010・1051	19368	KZOB	KZOB	KZOB	9.56	1.00	KZSN	45.24	0.00
SB3010・1052	19370	AGKT	AGKT	AGKT	3.39	1.00	HNKT	67.41	0.00
SB3010・1054	19496	AGKT	AGKT	AGKT	6.68	1.00	HNKT	75.92	0.00
SB3010・1056	19498	AGKT	AGKT	AGKT	4.70	1.00	HNKT	71.66	0.00
SB3010・1057	19502	不可	不可	AGKT	18.34	1.00	HNKT	92.79	0.00
SB3010・1058	19503	AGKT	AGKT	AGKT	1.65	1.00	HNKT	69.15	0.00
SB3010・1059	19506	AGKT	AGKT	AGKT	9.55	1.00	HNKT	80.26	0.00
SB3010・1060	19509	不可	不可	KZOB	8.82	1.00	KZSN	27.93	0.00
SB3010・1061	19510	AGKT	AGKT	AGKT	4.54	1.00	HNKT	72.00	0.00
SB3010・1062	19524	AGKT	AGKT	AGKT	4.38	1.00	HNKT	65.69	0.00
SB3010・1063	19526	AGKT	AGKT	AGKT	6.15	1.00	HNKT	67.27	0.00

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SB3010・1064	19527	不可	不可	AGKT	22.60	1.00	HNKT	107.09	0.00
SB3010・1065	19528.1	KZOB	KZOB	KZOB	7.19	1.00	KZSN	34.85	0.00
SB3010・1066		AGKT	AGKT	AGKT	3.35	1.00	HNKT	42.77	0.00
SB3010・1067	19531	AGKT	AGKT	AGKT	12.17	1.00	HNKT	72.79	0.00
SB3010・1068	19534	AGKT	AGKT	AGKT	5.87	1.00	HNKT	74.87	0.00
SB3010・1069	19535	AGKT	AGKT	AGKT	2.11	1.00	HNKT	51.35	0.00
SB3010・1070	19536	AGKT	AGKT	AGKT	2.73	1.00	HNKT	67.96	0.00
SB3010・1071	19541	AGKT	AGKT	AGKT	1.87	1.00	HNKT	62.62	0.00
SB3010・1072	19546	AGKT	AGKT	AGKT	1.11	1.00	HNKT	61.19	0.00
SB3010・1073	19547	不可	不可	AGKT	28.60	1.00	HNKT	91.06	0.00
SB3010・1074	19553	不可	不可	AGKT	8.75	1.00	HNKT	82.47	0.00
SB3010・1075	19582	AGKT	AGKT	AGKT	1.47	1.00	HNKT	57.31	0.00
SB3010・1076	19627	AGKT	AGKT	AGKT	6.93	1.00	HNKT	78.53	0.00
SB3010・1077	20124	AGKT	AGKT	AGKT	2.39	1.00	HNKT	70.38	0.00
SB3010・1078	20125	AGKT	AGKT	AGKT	4.59	1.00	HNKT	63.10	0.00
SB3010・1079	20126	AGKT	AGKT	AGKT	3.32	1.00	HNKT	71.29	0.00
SB3010・1080	20127	AGKT	AGKT	AGKT	5.00	1.00	HNKT	53.40	0.00
SB3010・1081	20128	AGKT	AGKT	AGKT	1.82	1.00	HNKT	59.02	0.00
SB3010・1082	20129.1	AGKT	AGKT	AGKT	2.62	1.00	HNKT	67.63	0.00
SB3010・1083	20135	不可	不可	AGKT	31.34	1.00	HNKT	124.88	0.00
SB3010・1084	20138	AGKT	AGKT	AGKT	2.77	1.00	HNKT	66.23	0.00
SB3010・1085	20141	AGKT	AGKT	AGKT	5.80	1.00	HNKT	78.22	0.00
SB3010・1086	20146	KZOB	KZOB	KZOB	7.74	1.00	KZSN	28.25	0.00
SB3010・1087	20148	AGKT	AGKT	AGKT	8.52	1.00	HNKT	82.13	0.00
SB3010・1088	20149	AGKT	AGKT	AGKT	6.82	1.00	HNKT	91.44	0.00
SB3010・1089	20150	AGKT	AGKT	AGKT	7.83	1.00	HNKT	82.19	0.00
SB3010・1090	20156	AGKT	AGKT	AGKT	5.14	1.00	HNKT	72.45	0.00
SB3010・1091	20159	AGKT	AGKT	AGKT	5.17	1.00	HNKT	63.30	0.00
SB3010・1092	20161	AGKT	AGKT	AGKT	2.85	1.00	HNKT	49.61	0.00
SB3010・1093	20162	AGKT	AGKT	AGKT	13.82	1.00	HNKT	91.32	0.00
SB3010・1094	20166	不可	不可	KZOB	1.69	1.00	KZSN	25.14	0.00
SB3010・1095	20167	AGKT	AGKT	AGKT	9.35	1.00	HNKT	91.91	0.00
SB3010・1096	20168	不可	不可	AGKT	12.19	1.00	HNKT	94.35	0.00
SB3010・1097	20169	AGKT	AGKT	AGKT	2.94	1.00	HNKT	53.76	0.00
SB3010・1098	20236	AGKT	AGKT	AGKT	6.51	1.00	HNKT	77.89	0.00
SB3010・1099	20239	AGKT	AGKT	AGKT	11.35	1.00	HNKT	82.78	0.00
SB3010・1100	20242	AGKT	AGKT	AGKT	9.91	1.00	HNKT	88.68	0.00
SB3010・1101	20246	AGKT	AGKT	AGKT	17.07	1.00	HNKT	86.74	0.00
SB3010・1102	20258	KZOB	KZOB	KZOB	5.71	1.00	KZSN	25.94	0.00
SB3010・1103	20259	AGKT	AGKT	AGKT	5.32	1.00	HNKT	72.38	0.00
SB3010・1104	20266	AGKT	AGKT	AGKT	4.10	1.00	HNKT	63.61	0.00
SB3010・1105	20268	AGKT	AGKT	AGKT	5.25	1.00	HNKT	64.71	0.00
SB3010・1106	20276	AGKT	AGKT	AGKT	7.20	1.00	HNKT	87.18	0.00
SB3010・1107	20278	AGKT	AGKT	AGKT	10.62	1.00	HNKT	75.81	0.00
SB3010・1108	20285	AGKT	AGKT	AGKT	2.67	1.00	HNKT	70.14	0.00
SB3010・1109	20806	AGKT	AGKT	AGKT	5.44	1.00	HNKT	83.97	0.00
SB3010・1110	20812	AGKT	AGKT	AGKT	1.87	1.00	HNKT	62.00	0.00
SB3010・1111	21042	AGKT	AGKT	AGKT	4.72	1.00	HNKT	69.31	0.00
SB3010・1112	21049	AGKT	AGKT	AGKT	3.80	1.00	HNKT	66.10	0.00
SB3010・1113	21059	AGKT	AGKT	AGKT	8.93	1.00	HNKT	80.79	0.00
SB3010・1114	21061	AGKT	AGKT	AGKT	1.20	1.00	HNKT	48.79	0.00
SB3010・1115	21062	AGKT	AGKT	AGKT	3.49	1.00	HNKT	78.69	0.00
SB3010・1116	21063	AGKT	AGKT	AGKT	4.22	1.00	HNKT	75.34	0.00
SB3010・1117	21066	SWHD	SWHD	SWHD	5.49	1.00	WDTN	49.12	0.00
SB3010・1118	21067	AGKT	AGKT	AGKT	7.28	1.00	HNKT	62.64	0.00
SB3010・1119	21069	不可	不可	AGKT	34.62	1.00	HNKT	122.93	0.00
SB3010・1120	21070	KZOB	KZOB	KZOB	4.48	1.00	KZSN	34.39	0.00
SB3010・1121	21074	不可	不可	AGKT	26.94	1.00	HNKT	104.73	0.00
SB3010・1122	21076	AGKT	AGKT	AGKT	12.54	1.00	HNKT	60.98	0.00
SB3010・1123	21078	AGKT	AGKT	AGKT	10.96	1.00	HNKT	74.25	0.00

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SB3010・1124	21079	AGKT	AGKT	AGKT	13.48	1.00	HNKT	57.39	0.00
SB3010・1125	21081	AGKT	AGKT	AGKT	9.12	1.00	HNKT	71.91	0.00
SB3010・1126	21089	AGKT	AGKT	AGKT	6.10	1.00	HNKT	57.44	0.00
SB3010・1127	21102	AGKT	AGKT	AGKT	0.75	1.00	HNKT	54.43	0.00
SB3010・1128	21104	AGKT	AGKT	AGKT	10.28	1.00	HNKT	72.10	0.00
SB3010・1129	21106	AGKT	AGKT	AGKT	7.69	1.00	HNKT	78.80	0.00
SB3010・1130	21107	AGKT	AGKT	AGKT	3.46	1.00	HNKT	60.49	0.00
SB3010・1131	21110	SWHD	SWHD	SWHD	18.22	1.00	WDTN	66.69	0.00
SB3010・1132	21111	AGKT	AGKT	AGKT	4.92	1.00	HNKT	77.04	0.00
SB3010・1133	21117	AGKT	AGKT	AGKT	3.45	1.00	HNKT	63.34	0.00
SB3010・1134	21119	AGKT	AGKT	AGKT	3.23	1.00	HNKT	71.42	0.00
SB3010・1135	21123	AGKT	AGKT	AGKT	5.15	1.00	HNKT	79.43	0.00
SB3010・1136	21124	KZOB	KZOB	KZOB	1.18	1.00	KZSN	21.15	0.00
SB3010・1137	21125	AGKT	AGKT	AGKT	2.14	1.00	HNKT	56.36	0.00
SB3010・1138	21126	AGKT	AGKT	AGKT	10.82	1.00	HNKT	76.23	0.00
SB3010・1139	21127	不可	不可	AGKT	29.13	1.00	HNKT	113.25	0.00
SB3010・1140	21131	AGKT	AGKT	AGKT	4.50	1.00	HNKT	53.45	0.00
SB3010・1141	21133	不可	不可	AGKT	18.34	1.00	HNKT	107.25	0.00
SB3010・1142	21134	AGKT	AGKT	AGKT	4.66	1.00	HNKT	77.11	0.00
SB3010・1143	21137	KZOB	KZOB	KZOB	5.38	0.99	KZSN	12.26	0.01
SB3010・1144	21155	AGKT	AGKT	AGKT	4.31	1.00	HNKT	59.86	0.00
SB3010・1145	23711	KZOB	KZOB	KZOB	5.20	1.00	KZSN	41.77	0.00
SB3010・1146	23712	不可	不可	AGKT	39.37	1.00	HNKT	111.48	0.00
SB3010・1147	23713	AGKT	AGKT	AGKT	6.33	1.00	HNKT	68.38	0.00
SB3010・1148	24839	不可	不可	AGKT	5.34	1.00	HNKT	62.47	0.00



大鹿窪遺跡石器集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	鷹山	WDTY	1	2.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	7	13.7
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	16	31.4
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	27	52.9
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			51	100

不可	6	
総計	57	

大鹿窪遺跡石器推定結果

分析番号	遺物番号	遺構/調査区	層位	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
大鹿窪石器2001	24462	SB3001	301	KZOB	KZOB	KZOB	4.34	1.00	KZSN	29.24	0.00
大鹿窪石器2002	21796	SB3001	201	KZOB	KZOB	KZOB	9.61	1.00	KZSN	54.37	0.00
大鹿窪石器2003	19266	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	10.95	1.00	KZSN	49.29	0.00
大鹿窪石器2004	17606	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	10.13	1.00	KZSN	42.24	0.00
大鹿窪石器2005	19262	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	4.49	1.00	KZSN	34.14	0.00
大鹿窪石器2006	21821	SB3002	201	SWHD	SWHD	SWHD	4.66	1.00	WDTN	74.19	0.00
大鹿窪石器2007	10630	SB3002	7B	KZOB	KZOB	KZOB	0.66	1.00	KZSN	27.54	0.00
大鹿窪石器2008	19039	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	5.23	1.00	KZSN	34.14	0.00
大鹿窪石器2009	18095	SB3004	201	KZOB	KZOB	KZOB	5.30	1.00	KZSN	28.95	0.00
大鹿窪石器2010	13313	SB3004	7B	KZOB	KZOB	KZOB	1.33	1.00	KZSN	33.04	0.00
大鹿窪石器2011	12679	SB3005	7B	WDTY	WDTY	WDTY	2.66	1.00	WDHY	15.59	0.00
大鹿窪石器2012	11787	SB3005	7A	SWHD	SWHD	SWHD	4.93	1.00	WDTN	71.87	0.00
大鹿窪石器2013	17175	SB3006	201	KZOB	KZOB	KZOB	0.73	1.00	KZSN	31.35	0.00
大鹿窪石器2014	17176	SB3006	201	不可	不可	KZOB	4.02	1.00	KZSN	30.97	0.00
大鹿窪石器2015	22336	SB3007	201	KZOB	KZOB	KZOB	2.40	1.00	KZSN	19.44	0.00
大鹿窪石器2016	25705	SB3007	201	KZOB	KZOB	KZOB	13.95	1.00	KZSN	26.79	0.00
大鹿窪石器2017	20000	SB3010	7	SWHD	SWHD	SWHD	3.61	1.00	WDTN	46.73	0.00
大鹿窪石器2018	20860	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	7.24	1.00	HNKT	67.54	0.00
大鹿窪石器2019	17969	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	4.17	1.00	HNKT	67.41	0.00
大鹿窪石器2020	20779	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	6.04	1.00	KZSN	23.95	0.00
大鹿窪石器2021	20791	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.11	1.00	HNKT	74.94	0.00
大鹿窪石器2022	18729	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	4.63	1.00	HNKT	77.06	0.00
大鹿窪石器2023	18570	SB3010	7	SWHD	SWHD	SWHD	3.94	1.00	WDTN	53.21	0.00
大鹿窪石器2024	18745	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	15.20	1.00	KZSN	51.09	0.00
大鹿窪石器2025	23704	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	7.15	1.00	HNKT	78.28	0.00
大鹿窪石器2026	18042	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	4.03	1.00	KZSN	43.02	0.00
大鹿窪石器2027	19489	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.76	1.00	HNKT	55.39	0.00
大鹿窪石器2028	18680	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	6.86	1.00	HNKT	67.92	0.00
大鹿窪石器2029	23868	SB3010	7B	AGKT	AGKT	AGKT	6.06	1.00	HNKT	82.02	0.00
大鹿窪石器2030	17936	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.36	1.00	HNKT	79.11	0.00
大鹿窪石器2031	19537	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	7.29	1.00	KZSN	39.31	0.00
大鹿窪石器2032	18627	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	2.85	1.00	HNKT	70.09	0.00
大鹿窪石器2033	20195	SB3010	7	不可	不可	AGKT	8.20	1.00	HNKT	82.63	0.00
大鹿窪石器2034	20187	SB3010	7	不可	不可	AGKT	15.90	1.00	HNKT	96.38	0.00
大鹿窪石器2035	17435	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	0.92	1.00	KZSN	34.14	0.00
大鹿窪石器2036	18630	SB3010	7	不可	不可	AGKT	25.45	1.00	HNKT	109.20	0.00
大鹿窪石器2037	17413	SB3010	7	SWHD	SWHD	SWHD	5.07	1.00	WDTN	83.58	0.00
大鹿窪石器2038	17977	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.60	1.00	HNKT	74.13	0.00
大鹿窪石器2039	23730	SB3011	301	KZOB	KZOB	KZOB	2.05	1.00	KZSN	23.65	0.00
大鹿窪石器2040	14188	SK51(SK26)	7B	不可	不可	KZOB	13.92	1.00	KZSN	24.55	0.00
大鹿窪石器2041	26165	SY3011	201	KZOB	KZOB	KZOB	1.58	1.00	KZSN	29.07	0.00
大鹿窪石器2042	2256	3-1	5B	SWHD	SWHD	SWHD	3.35	1.00	WDTN	60.41	0.00
大鹿窪石器2043	14190	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	2.23	1.00	KZSN	27.18	0.00
大鹿窪石器2044	10573	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	1.49	1.00	KZSN	21.02	0.00
大鹿窪石器2045	8650	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	6.99	1.00	KZSN	28.59	0.00
大鹿窪石器2046	8750	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	1.75	1.00	KZSN	30.63	0.00
大鹿窪石器2047	10983	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	10.91	1.00	KZSN	42.84	0.00
大鹿窪石器2048	9841	3-1	7B	SWHD	SWHD	SWHD	3.94	1.00	WDTN	59.21	0.00
大鹿窪石器2049	8855	3-2A	7A	KZOB	KZOB	KZOB	5.50	1.00	KZSN	17.62	0.00
大鹿窪石器2050	16542	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	2.06	1.00	HNKT	47.88	0.00
大鹿窪石器2051	15553	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	0.63	1.00	HNKT	56.27	0.00
大鹿窪石器2052	14356	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	9.21	1.00	HNKT	86.57	0.00
大鹿窪石器2053	16603	3-3C	6B	KZOB	KZOB	KZOB	1.19	1.00	KZSN	23.08	0.00
大鹿窪石器2054	16680	3-3C	6B	不可	不可	AGKT	14.39	1.00	HNKT	109.96	0.00
大鹿窪石器2055	16572	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	2.05	1.00	HNKT	66.69	0.00
大鹿窪石器2056	15638	3-3C	6B	KZOB	KZOB	KZOB	10.52	1.00	KZSN	32.83	0.00
大鹿窪石器2057	16597	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	3.93	1.00	HNKT	77.39	0.00



(附編2)

# 大鹿窪遺跡出土土器の産地について

## —胎土の重鉍物組成と元素組成から見た—

沼津工業高等学校 増島 淳

### 1 目的

土器胎土は、粘土と砂粒から成る。これらはともに岩石の風化物なので、胎土に含まれている造岩鉱物の組成や、胎土の元素組成を知れば、母岩が推定できる。その分析結果をもとに遺跡周辺の地質を比較すれば、産地が推定できる。

また、生産窯がわかり産地がはっきりしている瓦や須恵器などの土製品や、産地推定作業により、産地が確定した土器を比較試料として検討すれば、産地が推定できる。

上記の手法を用い、本遺跡から出土した縄文時代草創期の土器45点を対象に、胎土に含まれている砂粒鉱物の重鉍物組成と胎土全体の元素組成を調べ、それらの特徴を他の土器試料等と比較し、産地を推定する。

### 2 方法

#### (1) 重鉍物組成の観察について

試料土器10～20gを乳鉢で粉碎し、10%塩酸を加え約10分間煮沸し、胎土中の土壌粒子の分散と造岩鉱物のクリーニングを行う。この操作を2回繰り返した後、乾燥させ、篩い分けして105～250 $\mu$ mの砂粒子を抽出し、カナダバルサムとキシレンの混液で加熱封入し、検鏡試料とする。この間、粉碎時の土器の硬さ、砂粒子抽出時の濁りの色、乾燥後の砂粒の色なども観察記載する。

検鏡は100倍の鉍物顕微鏡で重鉍物を中心に観察し、重鉍物200粒の鑑定を目安とする。黒雲母(bi)は作業中に流出あるいは塩酸によって変質するので、作業中に肉眼でその有無を確認するにとどめカウントしない。

#### (2) 蛍光X線分析について

分析装置は、国立沼津工業高等専門学校、望月研究室所有の「セイコー電子工業製卓上型蛍光X線分析装置SEA2001」を用いた。

試料は#400のアランダムで表面あるいは断面を削り、新鮮な面に対し、真空の試料室でロジウム管球をターゲットとし、管電圧50KV、管電流2～3 $\mu$ A、照射直径10mmで、240秒間一次X線を照射し、二次(蛍光)X線はSi(Li)半導体検出器で検出した。

定量した元素は、Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Zn(亜鉛)、As(ヒ素)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)の13種類である。各試料の元素組成の特徴を識別するための数値は、測定した元素の蛍光X線強度の合計値で、個々の元素の強度を割り求めた「各元素の強度比」を用いた。

### 3 結果

#### (1) 重鉍物組成による分類

試料土器片の多くに黒雲母が認められる。観察に費やす時間を短縮するために、黒雲母が認められる土器の一部は、蛍光X線分析結果を参考にして、観察を省略することにした。45点中30点を分析した(表1)。

試料の重鉱物組成の特徴は、斜方輝石 (opx)・単斜輝石 (cpx)・角閃石 (ho・普通角閃石と酸化角閃石) の量比を用いた三角ダイヤグラムで表すことができる (図1)。黒雲母を含み角閃石に圧倒的に富むもの (I類)、黒雲母を含み両輝石に富むもの (II類)、黒雲母を含まず斜方輝石に富むもの (III類)、黒雲母を含まず単斜輝石に富むもの (IV類) の4類に大別できる。さらに元素組成の違いから8類に細分される。

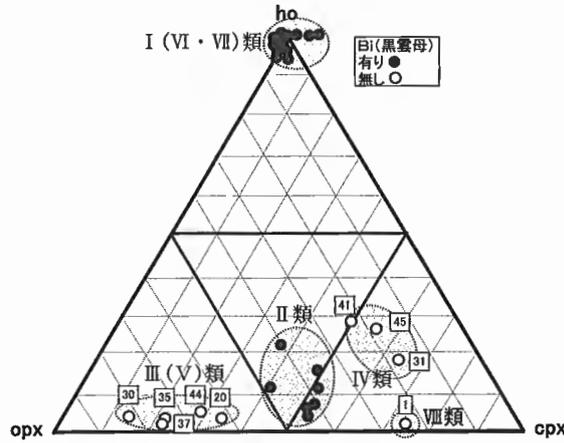


図1 大鹿窪遺跡出土土器の分類

(2) 蛍光X線分析による分類

45点全点を分析した(表2)。測定した13元素のうち、ZnとAsを除いた11元素で主成分分析を行い、重鉱物組成観察の結果を加味し分類を行った(図2)。

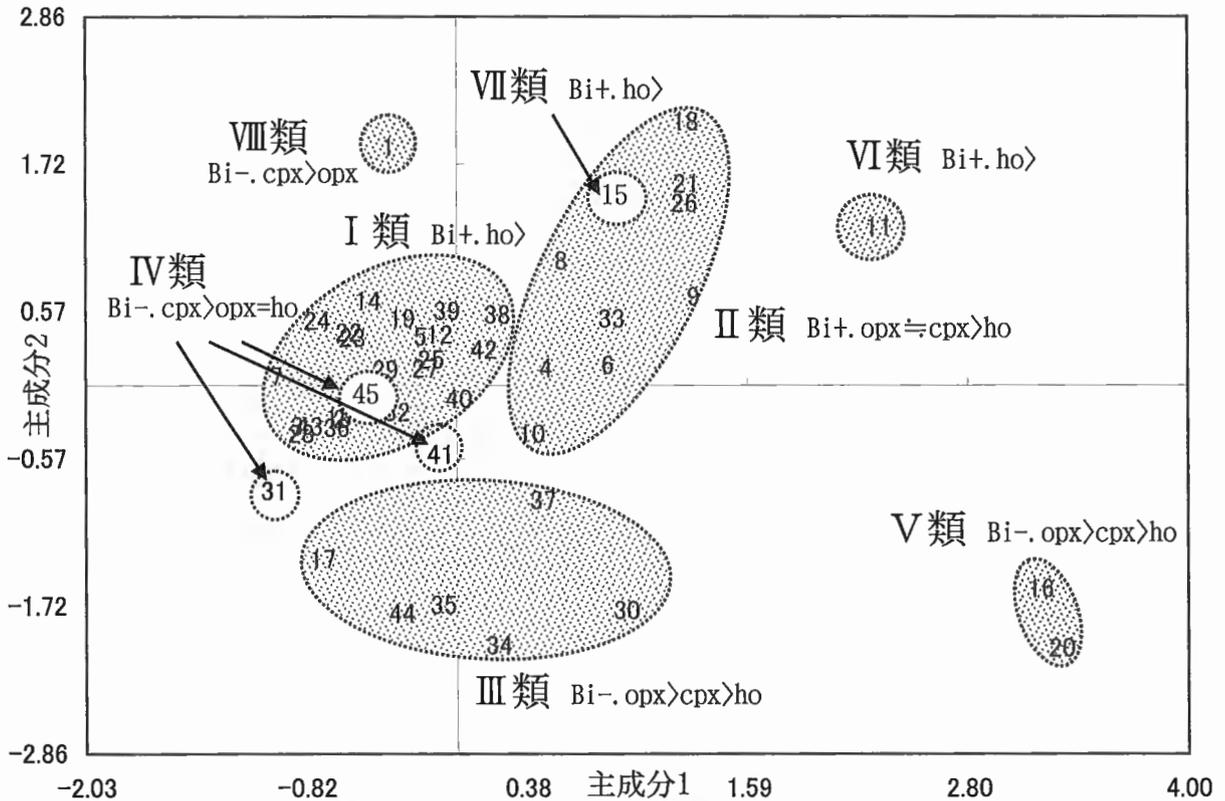


図2 元素組成による分類と重鉱物組成の関係

I類とIV類、及びII類とVII類は元素組成は近似しているが重鉱物組成が異なる。これは粘土の種類は似ているが、混入した砂の種類が異なることを示している。I類とVI・VII類、及びIII類とV類の場合は、逆の関係である。

### (3) 肉眼観察による分類

各土器片の表面や内部を子細に肉眼観察すると、多くの特徴が認められる。沼津市教育委員会勤務の池谷信之氏の協力を得て、考古学的な特徴も含め観察した(表1・図3)。

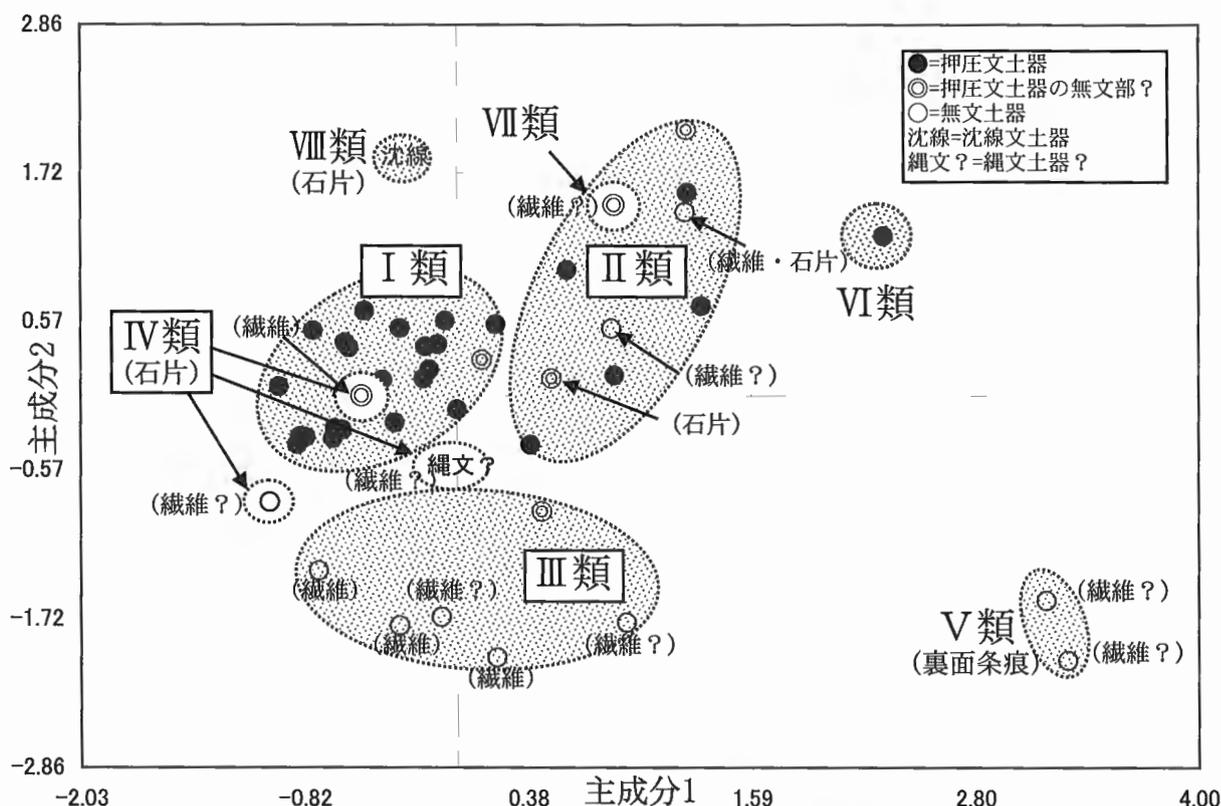


図3 元素組成による分類と肉眼観察の関係

#### a) 土器形式

42点が葛原沢Ⅱ式である。No34は葛原沢Ⅰ式の可能性を持ち、No41,45は不明である。

#### b) 文様など

27点は表面に絡条体圧痕文(以下、押圧文と略す)を持つ。16点は無文だが、うち6点は押圧文の無文部の可能性がある(無文部?で示した)。No1は沈線文、No41は縄文を持つようであり、No16,20には裏面に条痕が認められ、No19の裏面には指頭圧痕が認められた。

#### c) 黒雲母の有無

33点で黒雲母を確認した。黒雲母は角閃石と共に、花崗岩や花崗閃緑岩(以下合わせて、花崗岩類と呼ぶ)に起源する造岩鉱物である。

黒雲母を含む土器はⅠ(VI・VII)・Ⅱ類である。Ⅰ類土器は軽鉱物を多量に含み(花崗岩類の特徴である)、重鉱物組成では角閃石に圧倒的に富んでいることから、黒雲母を他地域から搬入し意図的に混入したのではなく、花崗岩類の風化砂だけが堆積している河川の河原で土器作製時に、補強材として砂粒を混入する際、付近に堆積している黒雲母を集め混入したものだろう。

Ⅱ類土器も黒雲母を含むが量が少ない(Ⅰ類はbi++,Ⅱ類はbi+,表1参照)。角閃石も少量であり軽鉱物量もそれほど多くない(砂粒が黒ゴマ色)。これは、花崗岩類の風化砂の量が相対的に少ない、河川の中・下流域で土器が作製されたためだろう。

#### d) 繊維混入の有無

土器片が小さく確認困難な個体が多いが、5点には確実に繊維が入り、8点には混入されているようである(図表に?で示す)。繊維入りの土器はⅢ・Ⅳ・Ⅴ類に集中している。

e) 石片の有無

重鉍物組成観察のために土器片から砂粒鉍物を抽出する際、鉍物粒以外に石片が残る場合がある。6点(Ⅱ類2点・Ⅳ類3点・Ⅶ類1点)で認められた。すべて無文土器である。

各類の特徴を以下にまとめる。

Ⅰ類：黒雲母を含み、角閃石に圧倒的に富み、1点を除き押圧文を持つことで共通している。

Ⅱ類：黒雲母を含み、両輝石に富み角閃石がこれに次ぎ、押圧文を持つものが多い。

Ⅲ類：黒雲母を含まず、斜方輝石に富み、無文で繊維を含んでいる。

Ⅳ類：黒雲母を含まず、単斜輝石に富み角閃石と斜方輝石がこれに次ぎ、無文で繊維を含み、石片を含む点で共通している。Ⅰ類と元素組成は似ているが、重鉍物組成や肉眼観察結果が異なる。

Ⅴ類：黒雲母を含まず、斜方輝石に富み、無文で繊維を含み、裏面に条痕を持つ点で共通している。Ⅲ類とは元素組成が異なる。

Ⅵ・Ⅶ類：鉍物組成、肉眼観察結果ではⅠ類と同じ特徴を示すが、元素組成が異なる。

Ⅷ類：重鉍物組成、肉眼観察結果ではⅣ類と似た特徴を持つが、角閃石をほとんど含まず、元素組成もやや異なる。沈線文を持つ点で他と異なる。

これら(1)~(3)の関係をまとめ、クラスターで表したのが図4である。

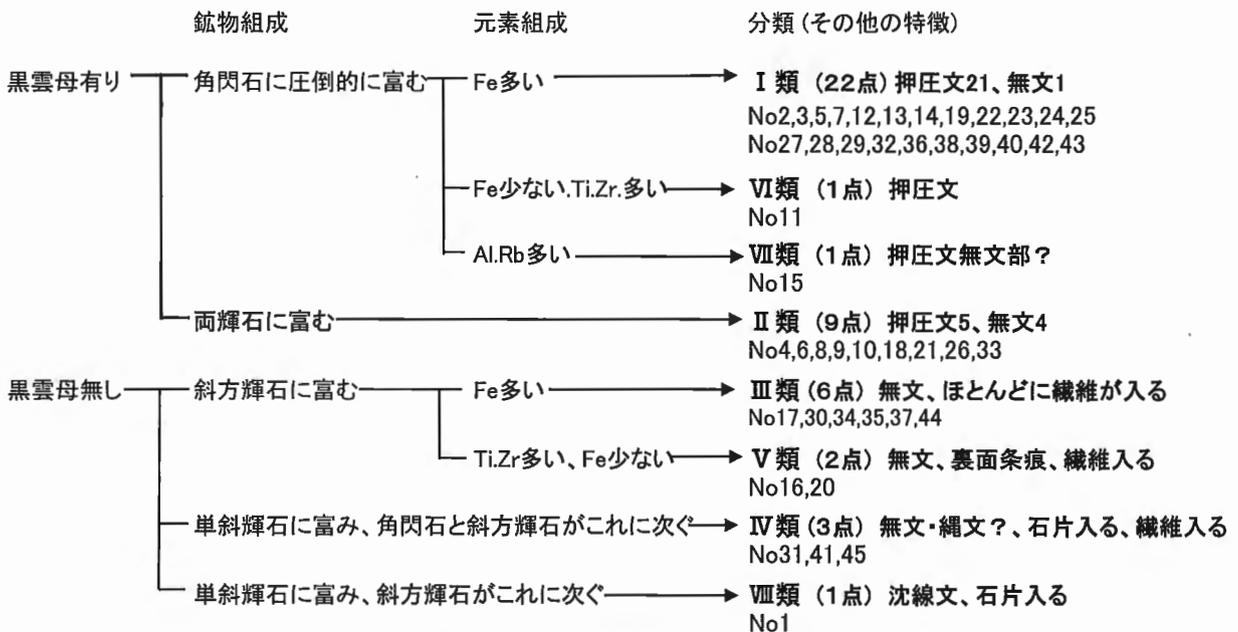


図4 各類の特徴と関係一覧

4 産地推定

本遺跡出土土器すべてが「本州内で作られた」という前提のもとに産地推定を行う。

(1) 大まかな産地推定

本州を東西に分断するフォッサマグナを境にして、堆積物中の元素組成が異なる(文献1)。これを利用して試料土器の産地がフォッサマグナの東なのか、西なのかを推定する。比較試料は産地が確定している瓦・土師器・須恵器等、827点を用いた(表3)。結果は図5(横軸はケイ素の強度比を10倍し、鉄の強度比で割った値。縦軸はジルコニウムの強度比を100倍した値。目盛りは対数で表してある)に示しておいた、45点の本遺跡出土土器は、すべてがフォッサマグナ以東の領域に入る。フォッサマグナより東の地域で作られたとしてよいだろう。図中にⅡ・Ⅴ類の位置を示したが、各類ごとにおよそまとまり分布している。

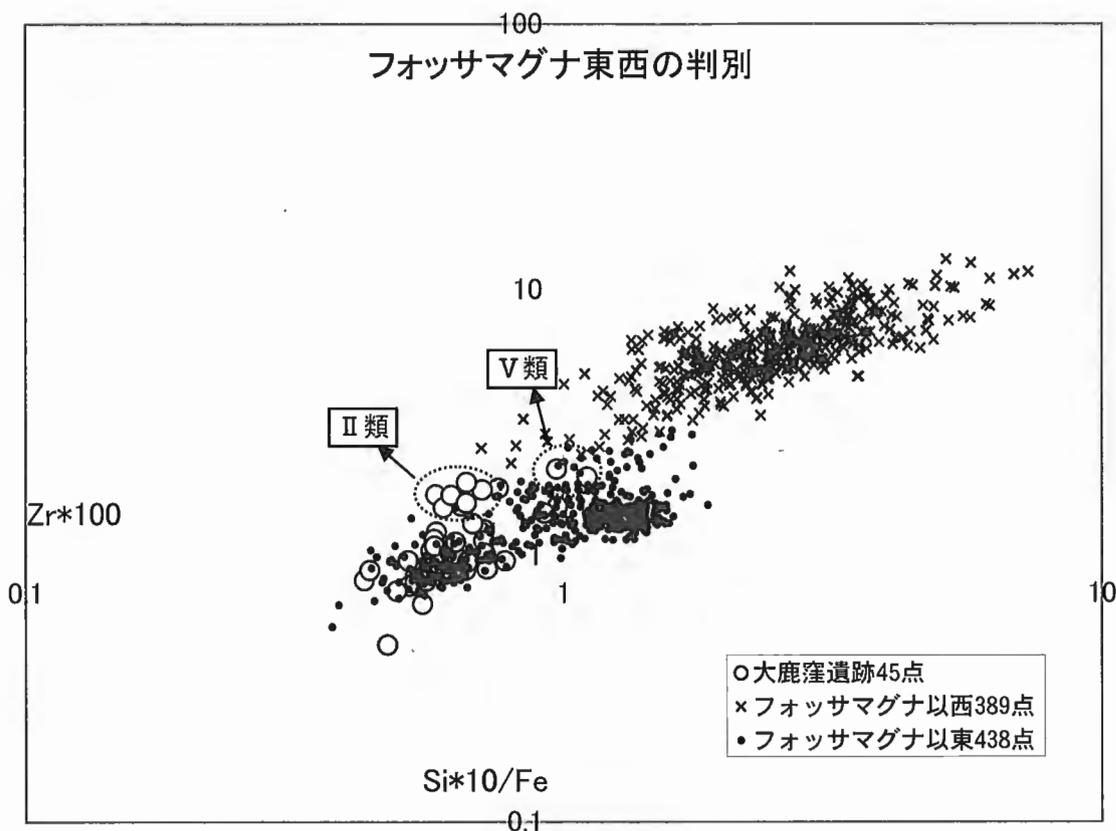


図5 大鹿窪遺跡土器、フォッサマグナ東西の判別

## (2) 限定した産地推定

以下に、各種比較試料の元素組成データを用いた主成分分析結果と重鉱物組成観察結果を使い、具体的な産地の推定を行う。

### 1) 周辺地域の遺跡から出土した土器との比較

33点の土器には黒雲母が認められる。しかし本遺跡を含めた富士山周辺や伊豆半島には黒雲母を含む岩体は存在しない（文献2, 3, 4, 5, 6, 7）。

本遺跡は新富士火山の古期溶岩流上に立地し（玄武岩からなり、主な造岩重鉱物はカンラン石や単斜輝石である）、遺跡近くの芝川にも黒雲母は存在しない。

フォッサマグナ以东の遺跡近辺で、黒雲母を含む岩体は甲府盆地周辺と丹沢山地に存在する（文献8, 9, 10, 図6）。これらの岩体の風化物が堆積する河川は、富士川流域・酒匂川流域・相模川流域・多摩川流域などである。

遺跡の地理的な位置からして、黒雲母の入った土器の産地は富士川流域、あるいは酒匂川流域にある可能性が高い。

黒雲母を含まない12点の土器は、玄武岩に一般的なカンラン石もほとんど含まないので、母岩は安山岩系と思われる。安山岩の風化堆積物は、遺跡近辺を含む県東部各地に広く分布している。

以上のような地域による地質の違いを配慮しながら、筆者が今までに行った産地推定結果で「出土地と産地が一致する」と結論された土器等を産地推定の比較試料とした。

比較試料は、八ヶ岳山麓と甲府盆地南側5遺跡（縄文中期・勝坂～曾利式）、酒匂川流域と近辺の2遺跡（勝坂式）、富士市（在地性の強い古代瓦）、沼津市（在地性の強い弥生式土器）、函南町（在地性の強い駿東型土器）出土の土器等である（表3、図6）。これらの試料は全点蛍光X線分析を行った。

県東部地域出土の縄文土器を比較試料としなかったのは、筆者のこれまでの産地推定結果で、その大

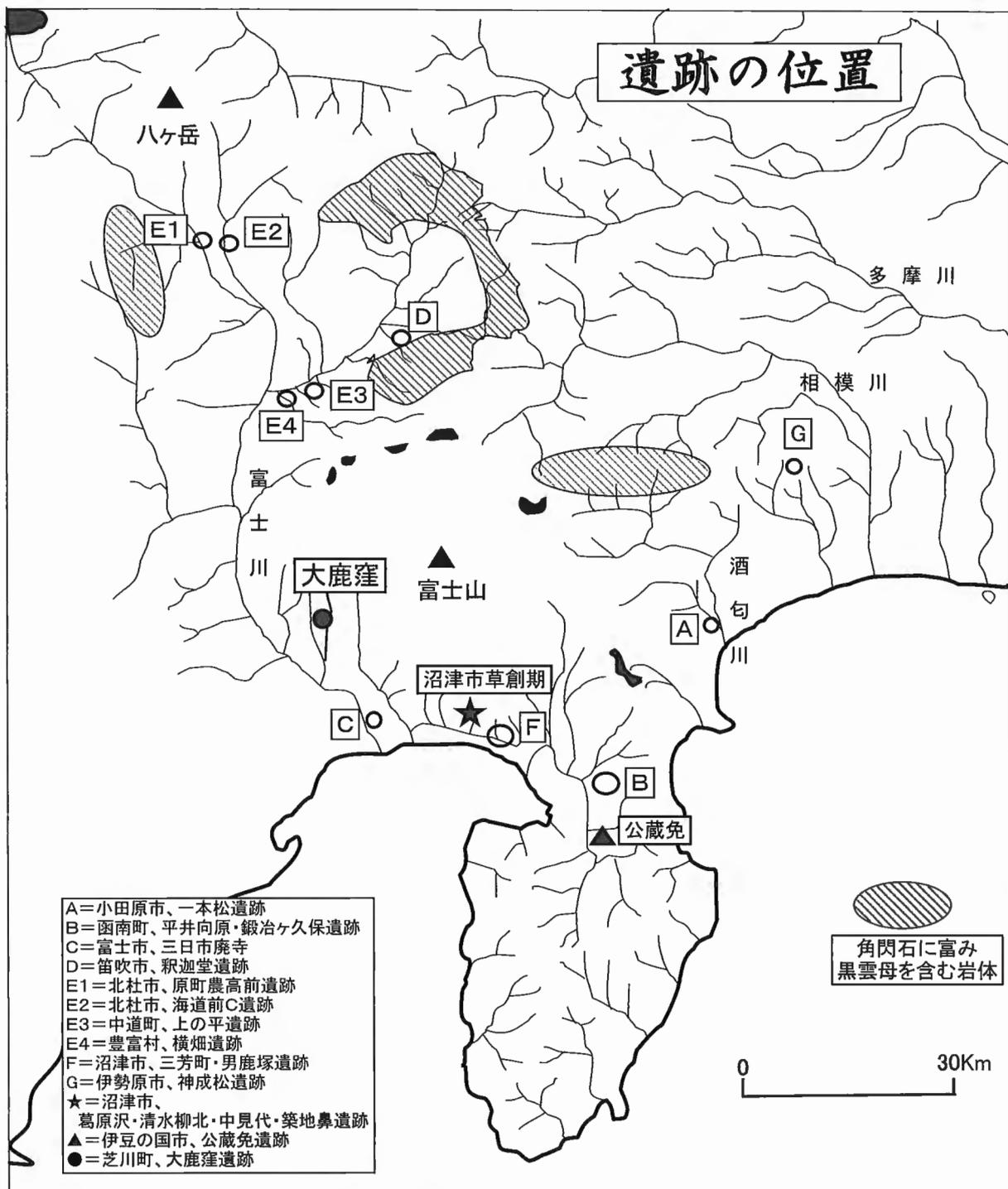


図6 各遺跡の位置と花崗岩類の分布

部分が甲府盆地周辺や神奈川県内産と判断されているからである（文献 11,12,13,14）。

比較試料の一部は重鉍物組成も調べた（図7）。小田原市一本松遺跡の土器は両輝石に富むものと角閃石に圧倒的に富むものに大別できる。両輝石に富む土器には箱根山系の砂粒が、角閃石に圧倒的に富む土器には酒匂川系の砂粒が混入されているのだろう（文献 12）。

伊勢原市神成松遺跡の場合も、砂粒の起源は未確認だが一本松遺跡と同様な傾向が認められる。

笛吹市釈迦堂遺跡の土器は角閃石に圧倒的に富んでいる。同遺跡が花崗岩類の分布域に接しているの  
で、遺跡近辺を流れる笛吹川流域の砂粒が混入しているのだろう（文献 12）。

本遺跡土器と比較試料の元素組成をもちいて主成分分析を行った（図8）。図中に一本松遺跡の領域

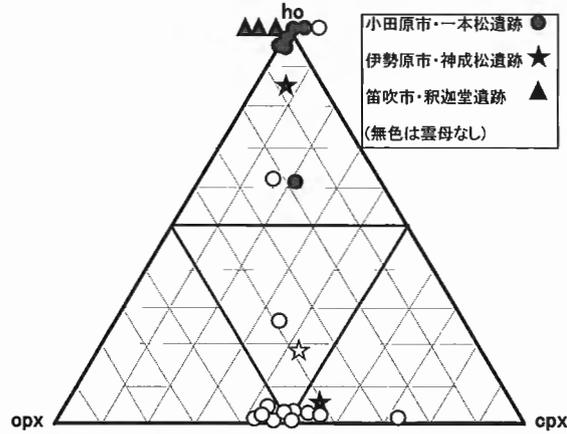


図7 比較試料（勝坂式土器）の特徴

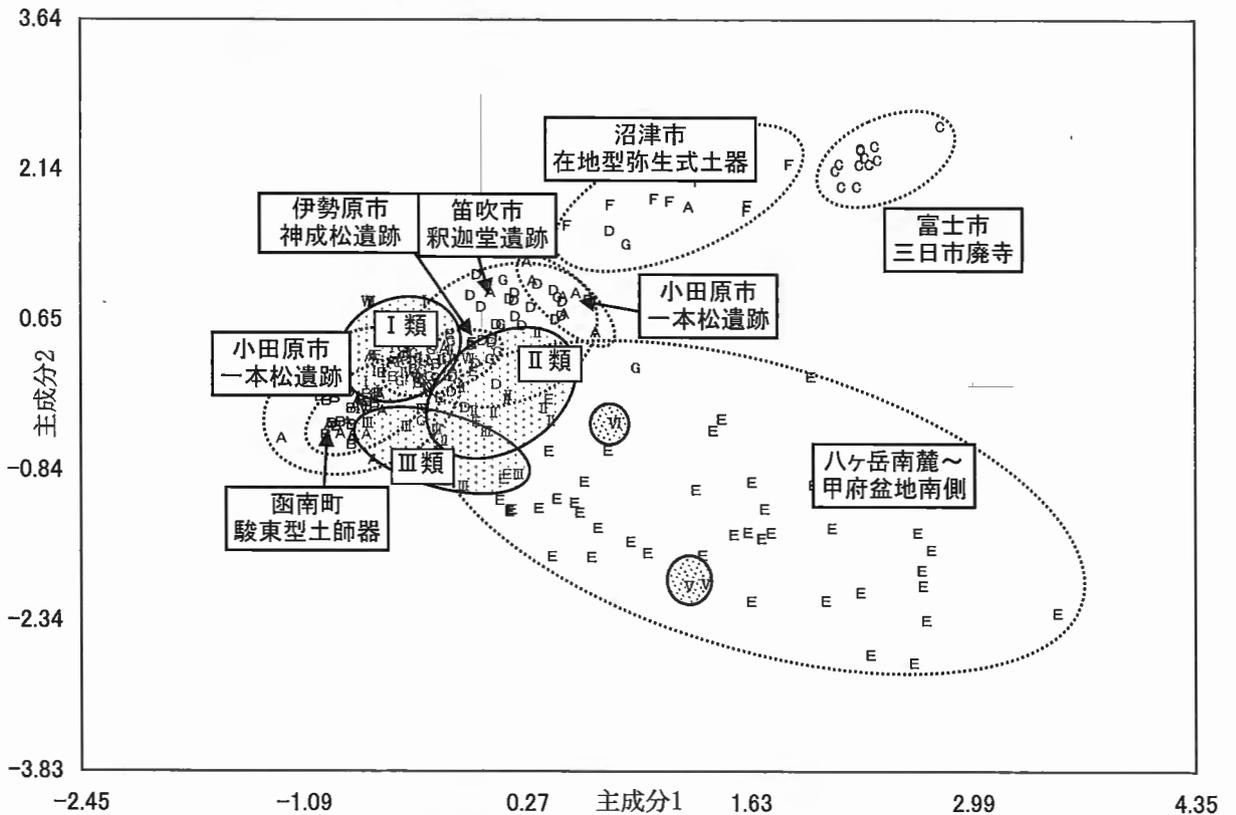


図8 比較試料との関係

を示すリングが二つあるが、駿東型土師器と重複しているリングが重鉱物組成で両輝石に富む土器グループであり、釈迦堂遺跡と重複しているのが角閃石に圧倒的に富む土器グループである。

本遺跡土器は富士市や沼津市から出土した在地性の強い土器の領域には入らない。I類土器は釈迦堂遺跡・一本松遺跡・神成松遺跡及び函南町出土の駿東型土師器の領域と重複している。II・III類土器はI類よりもやや八ヶ岳山麓と甲府盆地南側の領域側に位置している。V・VI類土器は八ヶ岳山麓と甲府盆地南側の領域側に入る。

参考資料として筆者が以前分析した、八ヶ岳山麓と甲府盆地周辺の7遺跡（表3）から出土した曾利II～V式土器の重鉱物組成を図9に示しておいた。釈迦堂遺跡のような花崗岩類の分布地域に接する遺跡は入っていない。

八ヶ岳山麓遺跡の土器は両輝石に富み、八ヶ岳火山を造る安山岩の風化堆積砂が混入されているものと思われる。甲府盆地周辺の土器は3成分に富んだ土器が多く、笛吹川と釜無川が合流した富士川の堆

積砂が混入されているのだろう。八ヶ岳山麓土器の一部が甲府盆地周辺土器の中に紛れているが、甲府盆地周辺からの搬入が考えられる。

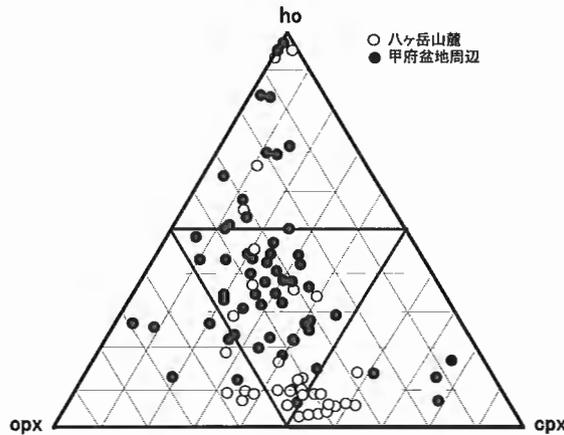


図9 八ヶ岳山麓と甲府盆地周辺の曾利式土器の特徴

図1に示した本遺跡土器の重鉱物組成と比較すると、甲府盆地周辺遺跡の土器とは図中での主たる分布領域が異なっている。八ヶ岳山麓遺跡の土器は両輝石に富み、本遺跡のⅡ類に近似している。しかし、Ⅱ類土器は黒雲母を含むが、八ヶ岳山麓遺跡の土器は含まない。これら7遺跡の試料は、本遺跡土器の重鉱物組成の特徴とはあまり一致しない。

つまり、本遺跡土器の大部分が甲府盆地周辺産であるとするのは、重鉱物組成から見て困難である。なお、7遺跡の試料の元素組成は、図が煩雑になるので掲載しないが、図8の八ヶ岳山麓と甲府盆地南側5遺跡の領域と重なる。

## 2) 県東部出土の縄文草創期土器を加えた考察

伊豆の国市の多賀火山西麓に立地する公蔵免遺跡（多縄文段階）40点、沼津市の愛鷹南麓に立地する、葛原沢遺跡（押圧文と隆帯文）14点、及び清水柳北遺跡10点・中見代遺跡3点・築地鼻遺跡6点（押圧文と無文）計73点の縄文草創期土器を比較試料とした。

提供試料の制約から、公蔵免遺跡土器のうち20点は重鉱物組成のみを観察し（文献15）、20点は元素組成のみを調べた。葛原沢遺跡土器は全点両方の観察を行い（文献16）、清水柳北遺跡・中見代遺跡・築地鼻遺跡土器は全点元素組成を分析したが、重鉱物組成を観察したのは一部である。

図10、図11に重鉱物組成の観察結果を示しておいた。注目されるのは、どの遺跡の場合も重鉱物組成がワンパターンではないこと。つまり土器の産地が複数あることだろう。

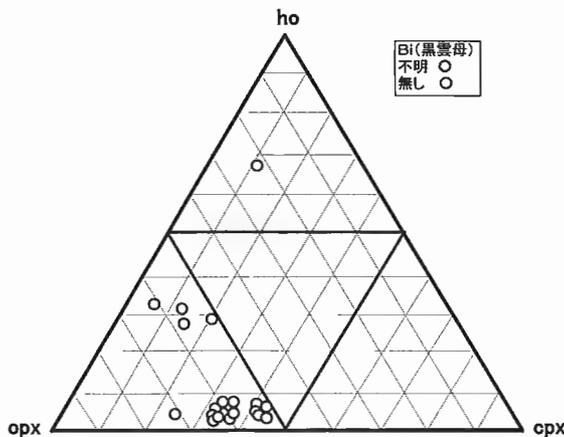


図10 公蔵免遺跡出土土器の特徴

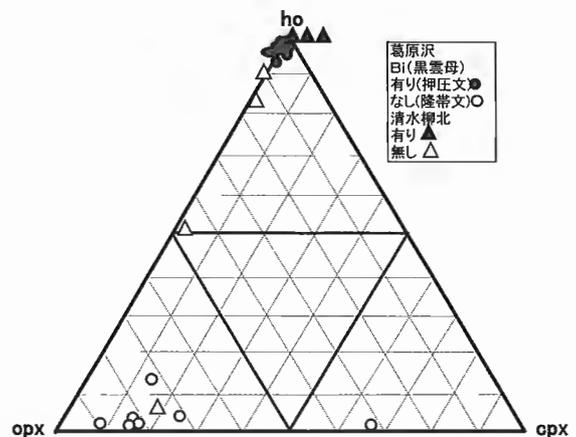


図11 葛原沢・清水柳北遺跡出土土器の特徴

フォッサマグナ東西の判別では、全試料がフォッサマグナ以東の領域におよそ収まっている（図12）。

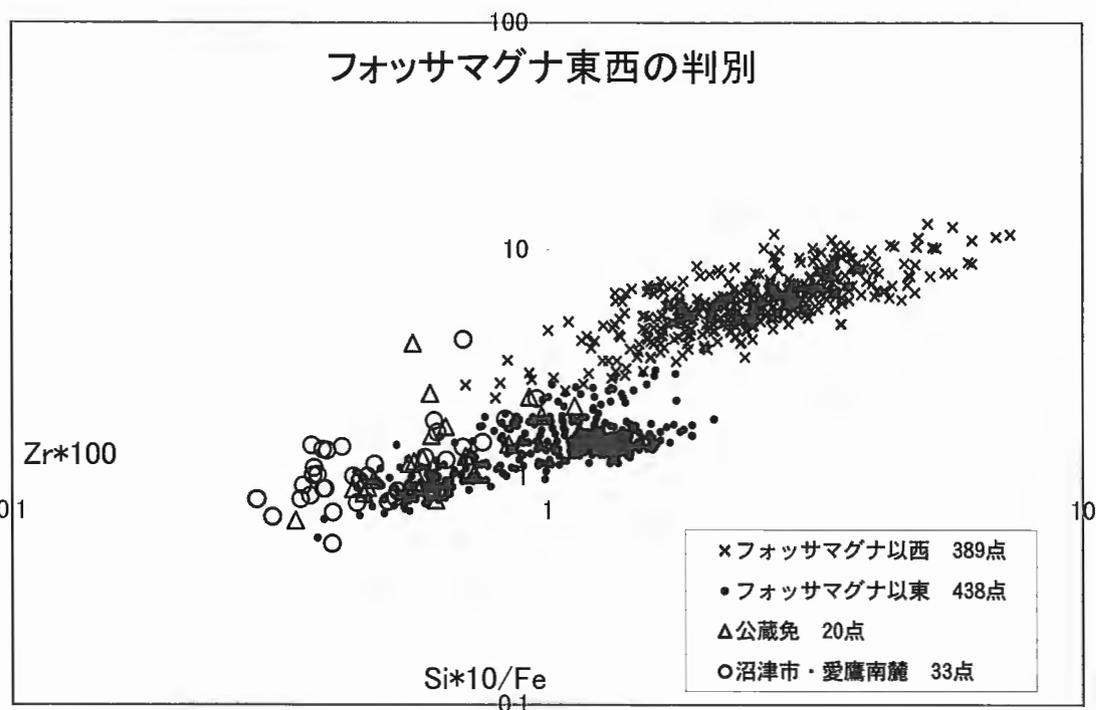


図12 縄文時代草創期土器、フォッサマグナ東西の判別

図13は、1) で用いた比較試料の領域図に、蛍光X線分析した縄文草創期土器全試料、および公蔵免遺跡近辺に堆積する、土器胎土に成りうる古い堆積物（文献17）と、愛鷹南麓二カ所の発掘現場で得た休場層を加え、主成分分析を行ったものである。図14は、主要部分の拡大図である。

図13、14をもとにして、以下に各土器の産地について考察を行う（表4）。

#### I類土器（押圧文21点、無文1点）

I類土器および他遺跡出土の黒雲母を含む土器は、一本松遺跡の領域に入っている。大仁神社付近のローム層と大仁高校グラウンド地下に堆積しているシルト層（崖4のマーク）はI類土器の集団内に埋没している。

一本松遺跡土器の胎土は、箱根火山系の堆積物を胎土に使用した函南町出土の駿東型土器（文献18）と重複することや、大仁神社付近に堆積している箱根火山起源のローム層や大仁高校グラウンド地下のシルト層（湯河原火山や多賀火山を含む箱根火山系の堆積物）とも重複することから、一本松遺跡近辺にある箱根火山起源の古い堆積物が粘土として使用され、砂粒の起源も箱根火山系の安山岩の風化砂だろう。

I類土器は元素組成において一本松遺跡土器と同様な特徴を持つことから箱根火山系の粘土を使い、酒匂川流域に堆積している黒雲母を含む花崗岩類の風化砂を補強剤にして、黒雲母を装飾のために追加し作製されたと考えるのが適当だろう。その産地は、22点の元素組成、重鉍物組成がよくまとまっている事から、同一地点の可能性もある。

#### II類土器（押圧文5点、無文4点）

重鉍物組成は八ヶ岳火山や箱根火山を造る安山岩系の特徴を示しているが、黒雲母を含むことから、富士川下流域あるいは酒匂川下流域（ともに角閃石や黒雲母の含有量が少ない）に産地があるものと思われる。元素組成と鉍物組成の特徴だけでは判別は困難である。

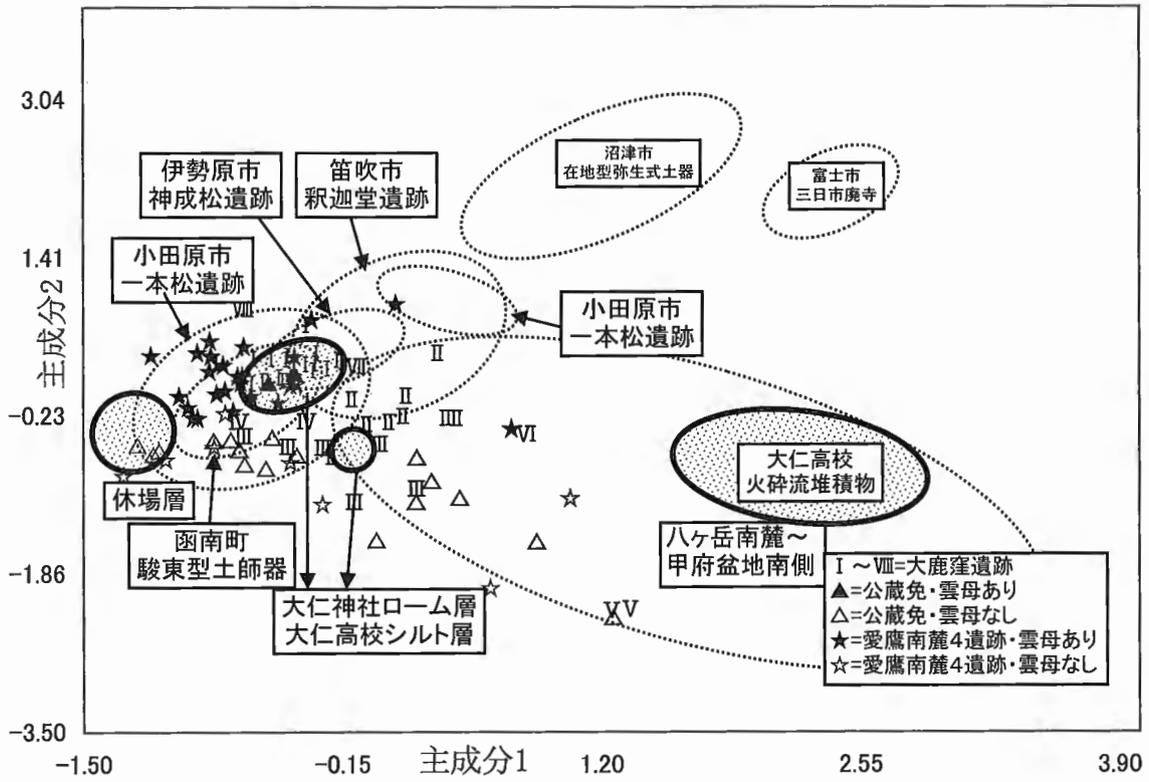


図 13 縄文時代草創期土器との比較

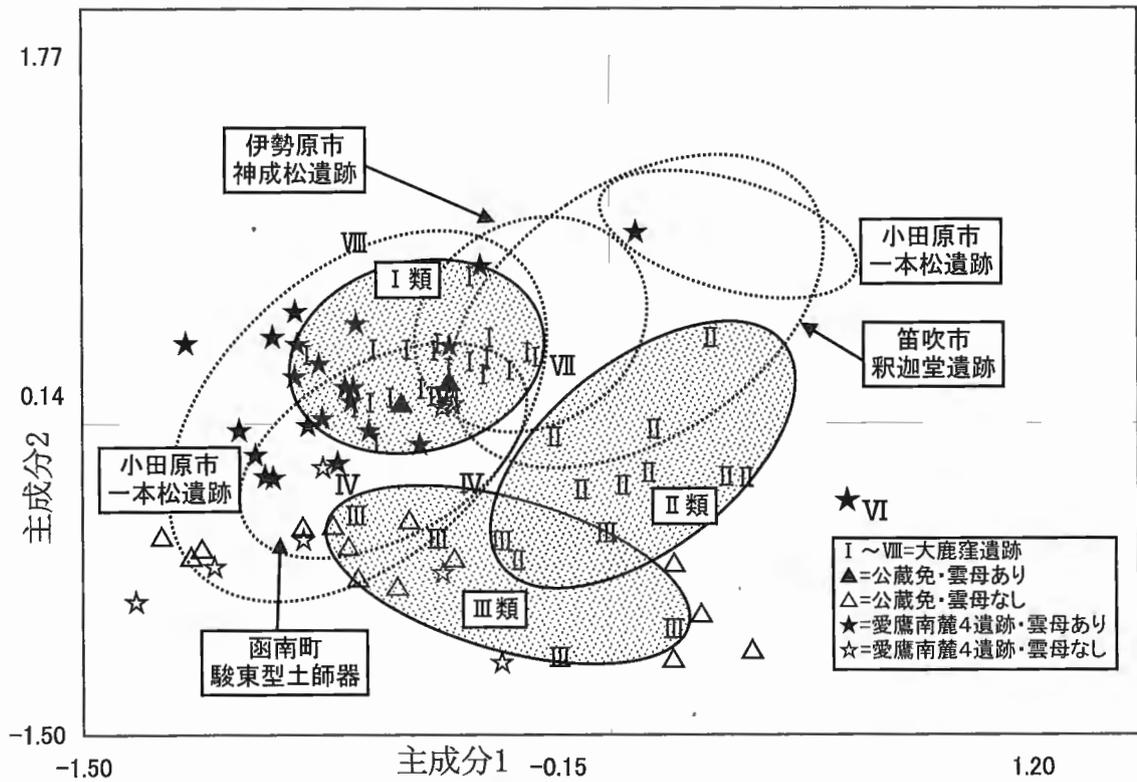


図 14 図 13 の主要部分拡大図

しかし、同じ押圧文を持つⅠ類土器の存在や、本遺跡から出土した黒曜石の多くが神津島産（神津島で採取された黒曜石は、黒潮の流路の関係で東伊豆～南関東へ上陸した。文献 20）や、箱根山系の柏峠産であり、信州系はまれであることも考え合わせると、Ⅰ類土器同様に酒匂川下流域に産地がある可能性が高い。

### Ⅲ類土器（無文、ほとんどが繊維入り 6 点）

重鉱物組成において斜方輝石に富むのが特徴である。同様な鉱物組成を持つ土器は公蔵免遺跡や葛原沢遺跡にも認められる。しかし甲府盆地周辺遺跡には認められない。元素組成では一本松遺跡の領域と一部が重複しており、公蔵免遺跡の無文土器とも重複している。箱根火山系の粘土に、同起源の砂粒を混入して作製された可能性が高い。

しかし、本遺跡の立地する芝川流域の重鉱物組成も斜方輝石や単斜輝石に富んでおり（文献 12,19）、遺跡の近辺に産地がある可能性を残す。今後の現地調査が必要である。

### Ⅳ類土器（無文、繊維入り 3 点）

元素組成はⅠ・Ⅲ類土器と類似しているが、重鉱物組成は富士川下流域の特徴を示している。元素組成の特徴を重視して産地を求めると、砂粒に石片が目立ち、装飾の黒雲母の混入が認められないことから、箱根火山系の粘土に、酒匂川流域で支流からの土砂の供給が卓越した地点に堆積している川砂を無作為に混入して作製された可能性もある。

### Ⅴ類土器（無文、繊維入り 2 点）

重鉱物組成の特徴はⅠ類土器と同一だが、元素組成が異なる。しかし、他の類型と比べるとⅢ類土器が一番近い。また箱根火山系に産地を持つと思われる公蔵免遺跡の無文土器の重鉱物組成の特徴や図 13 上での分布範囲は、Ⅲ・Ⅴ類土器の範囲と一致する。Ⅲ・Ⅴ類土器ともに繊維入りの土器で製法が似ているなど類似点が多い。

これらよりⅢ類土器とは胎土の採取地は異なるが、箱根火山系の粘土に、同起源の砂粒を混入して作製された可能性が高い。芝川流域の可能性も残る。

### Ⅵ類土器（押圧文 1 点）

重鉱物組成でⅠ類土器と同じ特徴を示し、元素組成でⅡ類土器に近似した特徴を示している。Ⅰ・Ⅱ類土器がともに押圧文であることを考えると、酒匂川流域でⅡ類土器と同様な粘土を使い、Ⅰ類土器と同様な砂粒を混入して作製されたものだろう。

### Ⅶ類土器（無文 1 点）

黒雲母を含み、重鉱物組成でⅠ類土器と同じ特徴を示すが、元素組成はⅡ類土器の領域に入る。土器表面に押圧文がない。たぶんⅠ類押圧文土器の無文部で、粘土の採取地がⅠ類土器とやや異なっているのだろう。酒匂川流域で作製された可能性が高い。

### Ⅷ類土器（沈線文 1 点）

重鉱物組成は単斜輝石に富みⅣ類土器に似るが、角閃石をほとんど含まない。沈線文を持ち他と異なる。元素組成も他と異なる、産地は不明である。

## 5 まとめ

今回分析した45点の土器について、わがったことをまとめる。

- a 土器の産地は、すべてフォッサマグナより東側にある。
- b 土器の産地は大まかに4地域、細分すると8地域ある。
- c 土器の産地は、2系統に大別できる。

一つは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ類土器 33 点で、押圧文土器（27 点）と、その無文部（6 点）と考えられる

グループで、すべてに黒雲母が混入されている。これらの産地は、本遺跡から出土した黒曜石の大部分が神津島産や伊豆の柏峠産であることを考慮すると、遺跡から直線距離で 50 km 以上離れた酒匂川流域の複数箇所で作られ、本遺跡に搬入された可能性が高い。なお、Ⅱ類土器は富士川下流域で作られた可能性もある。

他の一つは、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類の 11 点で、黒雲母を含まない無文土器のグループで、元素組成や重鉍物組成が公蔵免遺跡の無文土器とよく似ていることから、箱根火山東麓を含む酒匂川流域で作られた可能性が高い。しかし、富士川下流域を含む本遺跡の比較的近辺の複数箇所で作製された可能性も若干残っている。

最後に、比較試料とした縄文草創期土器の産地について、若干の考察を行う。

黒雲母を含む土器についてみると、図 13 において公蔵免遺跡の 2 点の土器はⅠ類土器の中に埋没していることから、産地はⅠ類土器と同一と考えられる。愛鷹南麓 4 遺跡から出土した土器もⅠ類土器と混在していることから、Ⅰ類土器と産地が近いと考えるのが適当だろう。つまり、これらの土器は箱根火山系の堆積物を粘土に用い、酒匂川流域に堆積している花崗岩類の砂粒を混入して作製された可能性が高い。

黒雲母を含まない土器は、元素組成において公蔵免遺跡、愛鷹南麓 4 遺跡及び、Ⅲ・Ⅴ類が図 13 において混在しており、重鉍物組成もよく似ていることから、大部分が箱根火山系の堆積物を粘土に用いて、箱根火山系の砂粒を混入して作製されたと考えるのが適当だろう。

## 6 おわりに

縄文草創期土器の胎土分析は、出土数も少なくあまり行っておらず、同時期の比較試料が少なく、現段階では産地推定は簡単ではない。

今回の報告では、元素組成の分析は主成分分析を中心にまとめたが、実際にはその他の多変量解析や、各種の判別分析も行っている。しかし、それらの結果は主成分分析結果と同様であったので省略した。

今後さらに調査を続け、試料数を増やし、より精度の高い結果を出すようにしたい。

なお、本報告をまとめるに当たり、沼津工業高等専門学校の望月明彦教授や、沼津市教育委員会の池谷信之氏をはじめ、山梨県、神奈川県、静岡県内の各教育委員会に所属される、多くの専門職員の方々には、貴重なご助言や、試料を提供していただいた。ここに感謝の意を表し終わりとします。

## 文 献

- 1 三辻 利一 (1983) : 古代土器の産地推定法 考古学ライブラリー 14 ニューサイエンス社
- 2 沢村孝之助 (1955) : 五万分の一地質図「修善寺」地質調査所
- 3 (1955) : 七万五千分の一地質図「沼津」地質調査所
- 4 倉沢 一 (1972) : 伊豆半島の火山・火山岩 伊豆半島 東海大学出版会
- 5 第四紀火山カタログ委員会 (1999) : 日本の第四紀火山カタログ Ver.1.0 日本火山学会
- 6 火山岩の産状編集委員会 (2000) : 日本の新生代火山岩の分布と産状 Ver.1.0 地質調査所
- 7 町田 洋 新井房夫 (2003) : 新編火山灰アトラス 東京大学出版会
- 8 山梨県地質図編纂委員会 (1970) : 山梨県地質図 内外書院
- 9 神奈川県立博物館 (1997) : 南の海から来た丹沢 有隣新書
- 10 藤岡換太郎・他 (2004) : 伊豆・小笠原弧の衝突 有隣新書
- 11 増島 淳 (1974) : 県東部地方の縄文中期土器の作製地に関して  
『静岡県考古学会連絡誌・Vol.12』静岡県考古学会

- 12 (1990) : 静岡県東部地域における縄文土器の作製地について  
『沼津市博物館紀要 14』 p21 ~ 48 沼津市
- 13 (1994) : 曾利V式(連八紋)土器の胎土分析—静岡県東部地域及び山梨県出土土器を  
中心とした—『沼津市博物館紀要 18』 p21 ~ 46 沼津市
- 14 (1998) : 天間沢遺跡出土土器の産地について  
『静岡の考古学』植松章八還暦記念論文集 p19 ~ 36  
静岡県の考古学編集委員会
- 15 (1986) : 鉾物組成から見た仲道A遺跡出土土器について  
『仲道A遺跡』 p298 ~ 303 大仁町
- 16 (2001) : 葛原沢第IV遺跡出土草創期土器の胎土分析—産地の推定—  
『沼津市文化財調査報告書 第77集』 p306 ~ 317 沼津市教育委員会
- 17 (2005) : 大仁高校グラウンド周辺の地史—二十数万年前も大仁高校は海底だった—  
『研究紀要・城山論叢』第3号 P103 ~ 134 静岡県立大仁高等学校
- 18 (1995) : 壱町田C遺跡出土土器の胎土分析『大場川遺跡群』 P158 ~ 185 三島市
- 19 (1975) : 千居出土土器の母材『千居』 p245 ~ 259  
千居遺跡をつくる岩石『千居』 p260 ~ 262 加藤学園考古学研究所
- 20 池谷 信之 (2005) : 黒潮を渡った黒曜石 見高段間遺跡 新泉社

表1 肉眼観察結果と重鉱物組成

No	遺跡名	型式	文様	堅さ	濁りの色	砂の色	特徴	その他	分類	bi	ol	opx	cpx	cho	oho	zi	ep	op	合計
1	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	沈線文	ややもろい	黒褐色	少ない・灰黒	石片のこる		Ⅷ	-		51	150	2				11	214
2	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	白ゴマ	軽鉱物多い		I	++		3	4	182				25	214
3	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	もろい	暗褐色	黒石片残る			II	+		80	76	42	1			49	248
4	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋部?	並	極暗褐色	白ゴマ	軽鉱物多い		I	++		6	1	126				73	206
5	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	黒ゴマ			II	+		89	75	20	1			42	227
6	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	桃ゴマ	軽鉱物多い		I	+		4	156					79	239
7	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	黒ゴマ			II	+		61	84	24				43	212
8	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						II	+									
9	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	もろい	暗褐色	黒ゴマ			II	+		64	81	10				55	210
10	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	桃ゴマ	軽鉱物多い		VI	++	2	4		183				49	238
11	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
12	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	ややもろい	暗褐色	桃ゴマ	軽鉱物多い		I	+				155				70	225
13	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	+									
14	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	非常にもろい	極暗褐色	桃黒ゴマ	軽鉱物多い	織維入る?	VII	++	1			136				71	209
15	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋部?					裏面条痕・織維入る?	V	-									
16	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋					織維入る	III	-									
17	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋						III	+			122	12	1			86	321
18	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋部?	ややもろい	極暗褐色	黒ゴマ			II	+									
19	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文					裏面指頭圧痕	I	++									
20	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋	並	極暗褐色	黒		裏面条痕・織維入る?	V	-		103	59	4	1			55	222
21	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	灰黒			II	+		77	106	21	1			9	214
22	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
23	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	桃ゴマ	軽鉱物多い		I	++				170			1	41	212
24	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	白ゴマ	軽鉱物多い		I	++		2		195			1	6	204
25	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	もろい	暗褐色	桃ゴマ	軽鉱物多い		I	++		5		184				14	203
26	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	黒ゴマ	石片のこる	織維入る	II	++		67	80	47	2			19	216
27	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
28	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	白ゴマ	軽鉱物多い		I	++		2		201				2	205
29	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
30	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	もろい	極暗褐色	黒ゴマ		織維入る?	III	-		142	25	7				51	225
31	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋	ややもろい	黒褐色	黒ゴマ	石片のこる	織維入る?	IV	-	1	24	87	25			5	90	232
32	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
33	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋	並	極暗褐色	黒ゴマ		織維入る?	II	+		76	91	4	2			41	214
34	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式?	無紋					織維入る	III	-									
35	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋	並	極暗褐色	黒ゴマ	織維入る?	表面擦痕・裏面条痕	III	-		75	22	3				135	235
36	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	+									
37	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋部?	ややもろい	極暗褐色	少ない・灰色			III	-		187	54	4				24	269
38	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	ややもろい	暗褐色	白ゴマ	軽鉱物多い		I	++		2	2	208				4	216
39	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
40	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文						I	++									
41	大鹿窪	不明	網文?	ややもろい	暗褐色	灰色	石片のこる	織維入る?	IV	-		31	74	43		1	10	90	249
42	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋部?	もろい	極暗褐色	桃色	軽鉱物多い		I	++				155		2		100	257
43	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	絡糸体圧痕文	並	極暗褐色	桃ゴマ	軽鉱物多い		I	++		1	1	184				15	203
44	大鹿窪	葛原沢Ⅱ式	無紋	並	極暗褐色	白黒ゴマ	軽鉱物やや多い	織維入る	III	-		97	43	7				152	299
45	大鹿窪	不明	無紋部?	もろい	暗褐色		石片多く残る	織維入る	IV	-		22	65	32			13	79	211

※無紋部?は押圧土器の無紋部 ※bi(黒雲母)、ol(カンラン石)、opx(斜方輝石)、cpx(単斜輝石)、cho(普通角閃石)、oho(酸化角閃石)、zi(ジルコン)、ep(緑簾石)、op(不透明鉱物)

表2 各試料の蛍光X線強度

遺跡名	遺物番号	遺構番号	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Zn	As	Rb	Sr	Y	Zr		
1	大鹿窪	14864	SB3001	9.0692	33.9655	5.6896	18.7073	15.3114	14.4518	598.0634	5.3158	0.2108	1.7425	3.9648	0.9097	7.4864	714.8882
2	大鹿窪	14862	SB3001	9.8707	37.7478	4.4491	12.2515	18.2695	4.9726	710.1307	0.6759	0.2811	2.4842	3.2904	1.5690	6.8889	812.8814
3	大鹿窪	18232	SB3001	9.4984	33.0510	3.5856	10.3665	15.6059	5.8592	619.7147	2.4674	0.3545	1.5987	2.5205	0.8411	5.5107	710.9642
4	大鹿窪	16042	SB3001	12.5363	38.4514	4.2480	8.8346	19.9230	6.5000	608.8531	2.9943	0.5401	2.7317	4.2137	0.8928	11.4918	722.2108
5	大鹿窪	16076	SB3001	11.0532	42.5345	6.5604	14.8305	17.3756	5.3803	632.1902	1.2664	0.0563	1.5509	3.2497	0.9180	7.2717	744.2376
6	大鹿窪	19041	SB3001	12.3723	36.5059	3.7397	10.1489	18.4824	5.3545	565.1123	2.1246	0.5662	2.5541	5.1401	1.3881	10.3759	673.8650
7	大鹿窪	19042	SB3001	9.5425	33.1741	3.0826	13.8191	15.8254	5.7376	642.2737	1.8413	0.0000	1.8187	3.4219	0.4633	5.6721	736.6722
8	大鹿窪	19056	SB3001	11.5826	34.9832	4.2235	10.0790	19.2773	9.1562	603.3078	1.4116	0.3397	3.0245	6.6544	0.9220	12.1586	717.1204
9	大鹿窪	19072	SB3001	11.7948	39.6336	4.0428	11.9578	18.5809	4.9767	523.7756	1.9975	0.3765	2.6660	6.6544	1.0281	11.4368	637.8542
10	大鹿窪	19224	SB3001	13.3385	35.3395	3.1785	6.3463	19.6808	8.4935	589.8581	2.4165	0.3053	1.8376	3.9466	0.9340	10.5586	696.2318
11	大鹿窪	20006	SB3001	11.9564	37.4333	5.2657	13.1147	18.5953	6.0950	384.4472	1.1522	0.4982	1.5904	3.3091	1.0163	7.5261	491.9949
12	大鹿窪	21380	SB3001	9.9954	40.0515	7.0188	14.1400	18.5412	4.1641	634.0392	0.5239	0.2999	1.8578	3.3188	1.1269	8.3673	743.4448
13	大鹿窪	21786	SB3001	10.6179	34.7374	4.2640	12.6265	17.0374	6.5741	655.5945	2.5698	0.5252	1.8366	2.4683	1.2116	5.9743	754.8376
14	大鹿窪	25756	SB3001	10.3760	34.0578	4.7645	13.7993	17.0796	8.6737	622.0741	1.5050	0.0000	2.0004	4.2092	1.0049	4.7703	724.3147
15	大鹿窪	25697	SB3001	13.2975	38.4007	2.4794	11.6315	13.1436	11.9805	492.8128	1.3936	0.3402	3.2804	4.8005	0.7483	5.7467	599.8497
16	大鹿窪	18293	SB3001	12.8497	37.8525	1.1270	8.1743	26.4227	1.3890	390.1896	0.3236	0.3225	1.6983	3.2435	1.3855	10.4814	495.4596
17	大鹿窪	16014	SB3001	10.6546	38.0869	1.6559	7.1217	15.9691	5.8191	643.1254	0.8314	0.0030	0.7545	2.8587	0.8423	7.4118	735.1343
18	大鹿窪	18300	SB3001	12.0749	35.2487	4.2104	20.1580	19.1449	8.5417	569.1126	0.8761	0.3134	2.0527	11.3465	1.1945	11.7514	696.0258
19	大鹿窪	23386	SB3002	10.7575	34.0732	4.8634	12.7882	16.7030	5.4782	616.4189	1.0779	0.2321	2.5116	4.0318	0.8978	6.4920	716.3256
20	大鹿窪	23384	SB3002	13.9991	41.7665	1.5341	6.5575	23.1343	1.0072	377.4698	0.5634	0.4847	1.1821	3.0292	1.4450	9.5020	481.6749
21	大鹿窪	22918	SB3002	12.0734	37.4663	6.0761	14.2356	18.3210	3.5039	529.9888	0.9849	0.3977	2.3311	8.1183	0.5405	11.4182	645.5988
22	大鹿窪	22917	SB3002	10.7153	26.9213	5.3427	16.9889	17.2059	4.6948	632.3507	0.3591	0.3005	1.5852	3.5235	1.3864	5.8784	727.2527
23	大鹿窪	15168	SB3002	9.5153	39.1814	5.1014	15.2062	17.2900	3.2276	655.3224	1.0969	0.2388	2.5560	3.2076	0.5771	6.6045	759.1252
24	大鹿窪	15169	SB3002	11.1576	34.0874	4.1810	17.5835	18.2956	13.0519	696.3377	0.3065	0.0901	1.1942	3.7332	0.2765	5.9526	807.2477
25	大鹿窪	21400	SB3002	10.6037	39.4725	5.4929	12.7730	19.2634	7.4221	658.2839	0.7298	0.1618	2.8450	2.3635	1.5410	7.6356	768.3882
26	大鹿窪	21410	SB3002	11.6840	36.3822	7.0545	7.4291	17.0831	7.3939	549.6825	2.2720	0.3486	3.5837	5.8246	1.3876	12.4978	662.6236
27	大鹿窪	21877	SB3002	11.6108	36.4364	4.2537	9.1343	18.0768	8.6273	641.4610	2.2667	0.0943	2.6772	3.4496	1.0355	7.3291	748.4527
28	大鹿窪	17586	SB3002	9.7668	31.0888	3.3468	11.9234	16.2510	6.0383	660.4657	1.3386	0.0833	1.8103	3.6856	1.7528	3.4759	751.0273
29	大鹿窪	19022	SB3003	10.7802	42.8667	4.4029	16.6102	16.8081	6.3782	650.2381	0.5418	0.9120	1.1001	4.1027	0.8498	6.7412	762.3320
30	大鹿窪	17609	SB3003	11.2267	44.1987	2.5763	5.3664	16.4848	1.7824	479.7509	1.5487	0.2094	0.5666	2.8732	0.9513	8.3258	575.8612
31	大鹿窪	15253	SB3004	9.4278	29.3442	3.2528	11.3087	18.6941	3.9800	672.9699	0.5050	0.2149	0.6116	3.8669	1.0499	6.7226	761.9684
32	大鹿窪	15247	SB3004	10.1506	39.1909	4.3470	11.2740	17.6987	6.5010	674.2653	3.4013	0.3130	1.9915	3.2551	1.2642	9.6147	783.2673
33	大鹿窪	16199	SB3004	11.5680	37.0131	3.6941	13.1510	19.0374	6.0126	559.8126	2.1977	0.2689	1.9304	6.4553	1.1204	10.6223	672.8838
34	大鹿窪	16211	SB3004	12.3798	38.5973	1.7971	4.8479	17.6010	2.0416	541.3399	0.4682	0.2807	0.7123	2.1841	0.9336	7.9048	631.0883
35	大鹿窪	18887	SB3004	10.6918	42.5422	2.1546	7.0454	17.9609	3.0395	597.1459	1.8313	0.0000	0.9457	2.0066	1.2127	7.9078	694.4843
36	大鹿窪	23625	SB3004	9.6964	32.6502	2.7248	9.5147	16.2622	6.7661	586.6055	3.8963	0.0000	1.6784	2.5028	0.6856	5.4597	678.4327
37	大鹿窪	24215	SB3005	11.7674	37.1141	1.6030	9.8836	14.9349	2.4602	519.4606	2.2035	0.2485	1.3745	4.6509	1.2356	6.2713	613.2081
38	大鹿窪	24217	SB3005	11.0676	40.9845	5.0470	10.7717	14.3519	12.2692	567.6933	2.6220	0.0934	1.9072	2.8679	1.7116	6.0504	677.4276
39	大鹿窪	22903	SB3005	10.0908	33.6654	3.1085	13.7509	15.3446	10.0900	584.7674	5.0064	0.2538	2.1524	3.7077	1.3126	7.9740	691.2245
40	大鹿窪	22957	SB3005	11.5916	35.9022	3.9150	11.4372	15.7126	8.0075	622.8495	2.2697	0.4716	1.9844	3.5406	1.9047	7.9164	727.5030
41	大鹿窪	21469	SB3005	12.2875	40.7740	2.5615	9.5983	17.4345	6.8706	612.9281	5.0277	0.2332	1.8655	3.1022	0.8933	6.8428	720.4192
42	大鹿窪	21955	SB3005	8.8598	37.9393	2.9026	16.4444	14.1924	5.1453	558.1520	3.1372	0.1584	1.7191	3.8419	1.2794	8.7573	662.5291
43	大鹿窪	21956	SB3005	9.7393	34.7273	3.6018	14.3950	17.0155	4.9766	674.8287	2.5571	0.2439	1.6694	2.2710	1.0384	7.4294	774.4934
44	大鹿窪	16226	SB3005	11.2618	39.5446	1.6342	6.6678	17.1164	4.6876	626.0735	0.6465	0.3529	0.5864	2.6385	1.4259	8.1058	720.7419
45	大鹿窪	16235	SB3005	9.4673	34.9225	2.8396	15.5341	16.0997	4.4427	624.6587	4.7502	0.1290	1.6991	4.4558	1.0527	6.2567	726.3081

表3 比較試料一覧

遺跡名・等	所在地	種類	時期	数	備考	遺跡名・等	所在地	種類	時期	数	備考
公蔵 免	伊豆の国市	縄文式土器	縄文草創期	40	○20	京・仁和寺	京都府	かわらけ	鎌倉	10	※
葛原	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	14		京・内裏	京都府	かわらけ	鎌倉	5	※
清水	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	10		京・瓦窯	京都府	かわらけ	鎌倉	5	※
中見	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	3		京・左京八	京都府	かわらけ	鎌倉	10	※
築地	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	6		願成就院	伊豆の国市	瓦	奈良・平安	41	※
神成	神奈川県	縄文式土器	勝坂Ⅱ～Ⅲ式	29		御所ノ内	伊豆の国市	瓦	奈良・平安	29	※
一本	神奈川県	縄文式土器	勝坂Ⅰ式	34		伊豆国分寺	三島市	瓦	奈良・平安	100	※
釈迦	山梨県	縄文式土器	勝坂Ⅰ式	30		伊豆国分尼寺	三島市	瓦	奈良・平安	45	※
海道前	山梨県	縄文式土器	勝坂～曾利	10		三日月院寺	富士市	瓦	奈良・平安	12	※
原町農高	山梨県	縄文式土器	勝坂～曾利	15		竹林寺院寺	島田市	瓦	奈良・平安	23	※
上の	山梨県	縄文式土器	勝坂～曾利	15		遠江国分寺	磐田市	瓦	奈良・平安	31	※
横畑	山梨県	縄文式土器	勝坂～曾利	12		遠江国分尼寺	磐田市	瓦	奈良・平安	6	※
金尾	山梨県	縄文式土器	曾利Ⅴ式	12	○	大宝院院寺	磐田市	瓦	奈良・平安	20	※
柳坪	山梨県	縄文式土器	曾利Ⅴ式	13	○	花坂古窯	伊豆の国市	瓦(瓦窯)	奈良・平安	40	※
上の	山梨県	縄文式土器	曾利Ⅴ式	14	○	道下瓦窯	三島市	瓦(瓦窯)	奈良・平安	17	※
上の	山梨県	縄文式土器	曾利Ⅴ式	13	○	鎌田・鎌影	磐田市	瓦(瓦窯)	奈良・平安	6	※
頭	山梨県	縄文式土器	曾利Ⅴ式	13	○	篠場瓦窯	磐田市	瓦(瓦窯)	奈良・平安	24	※
上石	山梨県	縄文式土器	曾利Ⅱ～Ⅲ式	20	○	湖西古窯群	湖西市	瓦(瓦窯)	奈良・平安	9	※
井戸	長野県	縄文式土器	曾利Ⅴ式	7	○	下総国分寺	千葉県	瓦	奈良・平安	10	※
三芳	沼津市	弥生式土器	弥生後期(在地性)	6		相模国分寺	神奈川県	瓦	奈良・平安	34	※
雄鹿	沼津市	弥生式土器	弥生後期(在地性)	5		相模国分尼寺	神奈川県	瓦	奈良・平安	5	※
助	焼津市	須恵器	8～9世紀	46	※	甲斐国分寺	山梨県	瓦	奈良・平安	10	※
掛川	掛川市	須恵器		13	※	三河国分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	20	※
湖西古窯群	湖西市	須恵器	6～8世紀	28	※	三河国分尼寺	愛知県	瓦	奈良・平安	15	※
猿投	愛知県	須恵器	8～9世紀	26	※	三河国府	愛知県	瓦	奈良・平安	23	※
陶	大阪府	須恵器	5～8世紀	11	※	尾張国分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	30	※
平井向原	函南町	土師器	9世紀	17	※	尾張東畑院寺	愛知県	瓦	奈良・平安	30	※
平井向原	函南町	土師器	駿東型D	9		第二東名休場層	沼津市	ローム層	約1万4千年前	6	
鍛冶ヶ久保	函南町	土師器	9世紀	23	※	大仁神社西切り通し	伊豆の国市	パミス・ローム	約12万年前	2	
鍛冶ヶ久保	函南町	土師器	駿東型D	10		大仁高校グラウンド崖	伊豆の国市	火砕流堆積物	約20万年以上前	3	
菅町田	三島市	土師器	8～10世紀	67	※	大仁高校グラウンド地下	伊豆の国市	シルト	約20万年以上前	2	
										合計試料数	1194

※印はフオッサマグナの東西の判別に用いた試料。 ○印は重鋳物組成のみ観察した試料。

表4 各類型土器の産地推定結果

分類	個体数	文 様	黒雲母	おおまかな産地推定	推定産地
I類	22	押圧文 21 無 文 1	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域
II類	9	押圧文 5 無 文 4	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域？ (富士川下流域？)
III類	6	無 文	-	フォッサマグナ以東	酒匂川流域・箱根 (芝川流域？)
IV類	3	無 文	-	フォッサマグナ以東	酒匂川流域？ (富士川下流域？)
v類	2	無 文	-	フォッサマグナ以東	酒匂川流域・箱根 (芝川流域？)
VI類	1	押圧文	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域
VII類	1	無 文	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域
VIII類	1	沈線文	-	フォッサマグナ以東	不 明

# 静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物の<sup>14</sup>C年代測定

国立歴史民俗博物館研究部

考古研究系助手

小林 謙一

静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物の<sup>14</sup>C年代測定を試みた。試料は、大鹿窪遺跡発掘調査現地において、小林が遺構やセクションから2点採集した炭化材である。

SSK-01は、3号焼土跡燃焼面上に遺存していた小粒の炭化材である。この遺構からは、縄文時代早期条痕文土器を中心に出土している。

SSK-02は、5号竪穴状遺構土上層に遺存していた小粒の炭化材である。この遺構からは、縄文時代草創期押圧縄文土器が出土している。

## 1 炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。(1)の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林、(2)(3)は、地球科学研究所を通してベータアナリティック社へ委託した。

(1)前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（2～3回）し、さらにアルカリ溶液（1N-NaOH）でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は3～4回行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理（1N-HCl 12時間）を行い、アルカリ分を除いた後、純水により洗浄した（4回）。

(2)二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

(3)グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

## 2 測定結果と暦年較正

AMSによる<sup>14</sup>C測定は、2002年度に地球科学研究所を通してベータアナリティック社（機関番号Beta）へ委託した。

年代データの<sup>14</sup>CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した14C年代（モデル年代）であることを示す。<sup>14</sup>C年代を算出する際の半減期は、5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比により、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比に対する同位体効果を調べ補正する。<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比は、標準体（古生物 belemnite 化石の炭酸カルシウムの<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比）に対する千分率偏差  $\delta^{13}\text{C}$ （パーミル、‰）で示され、この値を-25‰に規格化して得られる<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比によって補正する。補正した<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、<sup>14</sup>C年代値（モデル年代）が得られる。

測定値を較正曲線 IntCal04（<sup>14</sup>C年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004年版）（Reimer et al 2004）と比較することによって暦年代（実年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、国立歴史民俗博物館で作成したプログラム RHCAL（OxCal Program に準じた方法）を用いている。統計誤差は2

標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BC で示す。() 内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。

表1 測定結果と暦年較正年代

試料番号	測定機関番号	炭素年代 $\delta^{13}\text{C}\text{‰}$	$^{14}\text{C}$ BP (補正值)	暦年較正 cal BC	(%) は確率密度
SSK-01	Beta-167429	-25.7	7580 ± 40	6495-6385	95.6%
SSK-02	Beta-167428	-27.2	10850 ± 40	10935-10865	91.8%

### 3 年代的考察

暦年較正年代についてみると、縄文早期条痕文土器の時期に比定される SSK-1 は、紀元前 6495 ~ 6385cal BC に含まれる可能性が95%、縄文草創期押圧縄文の時期に比定される SSK-2 は、紀元前 10935 ~ 10865cal BC に含まれる可能性が92%の確率密度分布である。これらの年代は、小林らのこれまでの測定からみると、それぞれの時代に整合的な結果ととらえられる (小林・西本 2003)。

窪 B 遺跡では、我々が測定した以外に以下の2点の年代測定が行われている (小金澤 2003)。参考までに、本稿での暦年較正と同様の方法で算出した結果を提示しておく。

Beta-167672 52号土坑出土隆線文土器付着物 11390 ± 5014C BP、 $\delta^{13}\text{C}$ -24.1‰、  
較正年代 (2 $\sigma$ ) 11405-11200calBC (95.4%)

Beta-170267 7号竪穴状遺構出土炭化材 (縄文草創期押圧文期) 10910 ± 6014C BP、  
 $\delta^{13}\text{C}$ -26.7‰、較正年代 (2 $\sigma$ ) 11005-10865calBC (95.7%)

この年代測定については、平成14年度科学研究費補助金「基盤研究(A・1)(一般)縄文弥生時代の高精度年代体系の構築」(代表今村峯雄 課題番号13308009)、暦年較正の算出や分析については国立歴史民俗博物館平成17年度基盤研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」(研究代表 今村峯雄) および平成17年度科学研究費補助金「基盤研究(C) AMS炭素14年代測定を利用した東日本縄紋時代前半期の実年代の研究」(研究代表 小林謙一 課題番号17520529)の成果を用いている。

本稿を草するにあたり、暦年較正については今村峯雄氏のご教示を得た。感謝します。

#### 〈参考文献〉

今村 峯雄 2004『課題番号13308009 基盤研究(A・1)(一般)縄文弥生時代の高精度年代体系の構築』  
(代表今村峯雄)

小金澤保雄 2003『大鹿窪遺跡 窪 B 遺跡 (遺構編)』芝川町教育委員会

小林謙一・西本豊弘 2003「年代がわかると歴史観が変わる・2」『歴史を探る サイエンス』  
国立歴史民俗博物館

Reimer, Paula J.; Baillie, Mike G.L.; Bard, Edouard; Bayliss, Alex; Beck, J Warren; Bertrand, Chanda J.H.; Blackwell, Paul G.; Buck, Caitlin E.; Burr, George S.; Cutler, Kirsten B.; Damon, Paul E.; Edwards, R Lawrence; Fairbanks, Richard G.; Friedrich, Michael; Guilderson, Thomas P.; Hogg, Alan G.; Hughen, Konrad A.; Kromer, Bernd; McCormac, Gerry; Manning, Sturt; Ramsey, Christopher Bronk; Reimer, Ron W.; Remmele, Sabine; Southon, John R.; Stuiver, Minze; Talamo, Sahra; Taylor, F.W.; van der Plicht, Johannes; Weyhenmeyer, Constanze E. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).